



Workspace Environment Management サービス

Machine translated content

Disclaimer

このコンテンツの正式なバージョンは英語で提供されています。Cloud Software Group ドキュメントのコンテンツの一部は、お客様の利便性のみを目的として機械翻訳されています。Cloud Software Group は機械翻訳されたコンテンツを管理していないため、誤り、不正確な情報、不適切な用語が含まれる場合があります。英語の原文から他言語への翻訳について、精度、信頼性、適合性、正確性、またはお使用の Cloud Software Group 製品またはサービスと機械翻訳されたコンテンツとの整合性に関する保証、該当するライセンス契約書またはサービス利用規約、あるいは Cloud Software Group とのその他すべての契約に基づき提供される保証、および製品またはサービスのドキュメントとの一致に関する保証は、明示的か黙示的かを問わず、かかるドキュメントの機械翻訳された範囲には適用されないものとします。機械翻訳されたコンテンツの使用に起因する損害または問題について、Cloud Software Group は責任を負わないものとします。

Contents

Workspace Environment Management サービス	7
新機能	10
廃止	57
サードパーティ製品についての通知	58
既知の問題	58
以前のリリースで発生した既知の問題	59
システム要件	82
制限	85
はじめに：展開の計画と構築	86
エージェントのインストール	88
エージェントを登録する	102
Azure 仮想デスクトップ用 Citrix Optimization Pack	110
Azure 仮想デスクトップ向け Citrix Optimization Pack を購読する	113
Azure 仮想デスクトップには適用されない機能	115
アップグレード	116
移行	118
管理 (従来のコンソール)	123
リボン	128
アクション	133
操作グループ	133
グループポリシー設定	145
アプリケーション	151
プリンター	160

ネットワークドライブ	161
仮想ドライブ	162
レジストリエントリ	163
環境変数	166
ポート	167
INI ファイル	168
外部タスク	169
ファイル システム操作	173
ユーザー DSN	174
ファイルの関連付け	175
フィルター	180
Assignments	182
システム最適化	184
CPU 管理	184
メモリ管理	189
I/O 管理	192
高速ログオフ	193
Citrix Optimizer	193
マルチセッションの最適化	196
ポリシーとプロファイル	197
環境設定	197
Microsoft USV の設定	199
Citrix Profile Management 設定	201
セキュリティ	211

Active Directory オブジェクト	230
トランスフォーマー設定	233
詳細設定	238
管理	248
監視	254
管理 (Web コンソール)	256
ホームページ	257
構成セット	259
操作	264
割り当て	311
トリガー	321
システム最適化	327
Citrix Profile Management 設定	341
スクリプト化されたタスク設定	357
アプリパッケージ配信	360
詳細設定	363
ディレクトリオブジェクト	377
監視	381
管理	382
識見	393
レポート	396
スクリプト化されたタスク	401
ファイル	405
登録	405

登録エージェント	406
招待	408
ドメインに参加していないマシンを管理する	413
基本導入エージェントの管理	414
ファイルのアップロード	419
REST API	421
割り当てられたアプリケーションを 1 か所に集約	421
スクリプト化されたタスクを使用してログオン時間を分析する	425
スクリプト化されたタスクを使用して Windows 更新プログラムを自動的に適用する	434
WEM API と Windows PowerShell を使用して構成セットを自動的にバックアップする	438
ファイルタイプの関連付けを構成する	443
WEM GPO を使用して FSLogix プロファイルコンテナを構成する	446
スクリプトと外部タスクを使用して MSIX アプリ接続を設定する	454
Profile Management ヘルスチェックを構成する	462
Profile Management で使用する SMB 共有を構成する	466
スクリプト化されたタスクの起動トリガーとシャットダウンのトリガーを設定	470
WEM を使用して DaaS でプロビジョニングされたドメインに参加していないマシンを管理	475
プロセス階層制御を使用して Citrix Workspace 環境を保護する	479
スクリプト化されたタスクを使用して VDA 登録とセッション起動の問題のトラブルシューティング	486
Windows イベントをトリガーとして使用して、 VDA 登録の問題を検出する	491
エージェントイベントログ	495
CMD および UI モードのエージェント	502
エージェント側の更新操作	504
顧客データ管理	505

共通の [コントロールパネル] アプレット	507
動的トークン	509
#UserName	513
#UserProfile	513
#FullName	513
#UserInitials	513
#UserAppData	513
#UserPersonal	513
#UserDocuments	513
#UserDesktop	514
#UserFavorites	514
#UserTemplates	514
#UserStartMenu	514
#UserStartMenuPrograms	514
#UserLocalAppData	514
#UserMusic	514
#UserPictures	514
#UserVideos	514
#UserDownloads	514
#UserLinks	514
#UserContacts	514
#UserSearches	514
#commonprograms	514
#ComputerName	514

#ClientName	514
#ClientIPAddress	515
#IpAddress	515
#ADSite	515
#DefaultRegValue	515
#UserLDAPPath	515
#VUEMAgentFolder	515
#RDSSessionID	515
#RDSSessionName	515
#ClientRemoteOS	515
#ClientOSInfos	515
環境設定のレジストリ値	519
フィルター条件	542
ログパーサー	557
ポート情報	558
WEM ヘルスチェックツール	560
WEM ツールハブ	561
XML プリンターリストの構成	579
用語集	584

Workspace Environment Management サービス

December 6, 2023

注:

- Workspace Environment Management サービスは、米国ベース、EU ベース、およびアジア太平洋南部に拠点を置くインスタンスで、世界中で利用できます。より多くのリージョンで Workspace Environment Management サービスインスタンスを有効にするよう取り組んでいます。
- Workspace Environment Management サービスは、Citrix Cloud から分離され分離されたクラウドである Citrix Cloud Japan でも利用できます。日本のお客様は、Citrix が管理する専用環境でサービスを利用できます。詳しくは、「[Citrix Cloud Japan](#)」を参照してください。
- Workspace Environment Management Service の顧客データのストレージ、保持、および制御の詳細については、「[顧客データ管理](#)」を参照してください。

はじめに

Workspace Environment Management サービスは、インテリジェントなリソース管理と Profile Management テクノロジーを使用して、以下のデプロイメントで可能な限り最高のパフォーマンス、デスクトップログオン、およびアプリケーション応答時間を実現します:

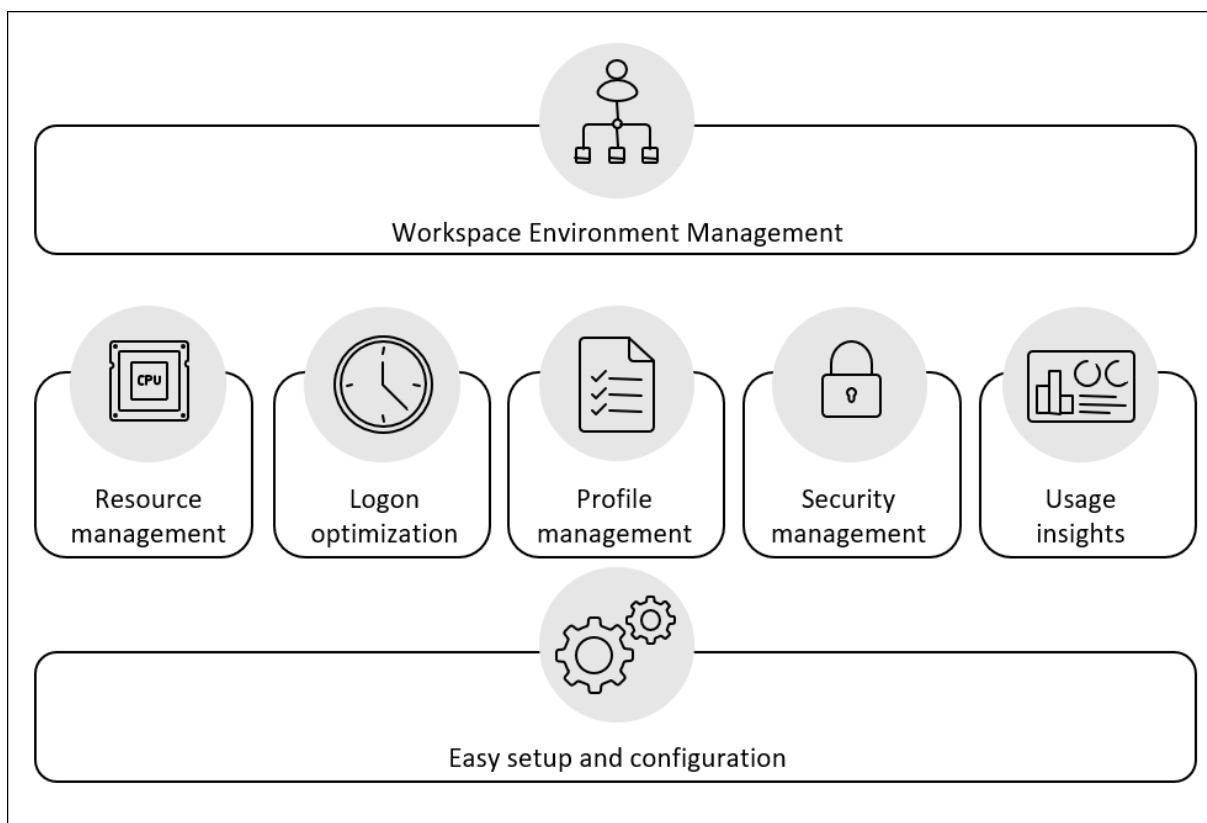
- [Citrix DaaS](#) (以前の Citrix Virtual Apps and Desktops サービス) および [Citrix Virtual Apps and Desktops](#)
- [Azure Virtual Desktops](#)

軽量でスケーラブルなユーザー環境管理ソリューションであり、IT 管理を簡素化し、デスクトップを最適化して最高のユーザーエクスペリエンスを実現します。

重要:

Azure Virtual Desktop を Workspace Environment Management サービスで管理するには、Citrix Optimization Pack を購入する必要があります。

以下は、Workspace Environment Management サービスのハイライトです。

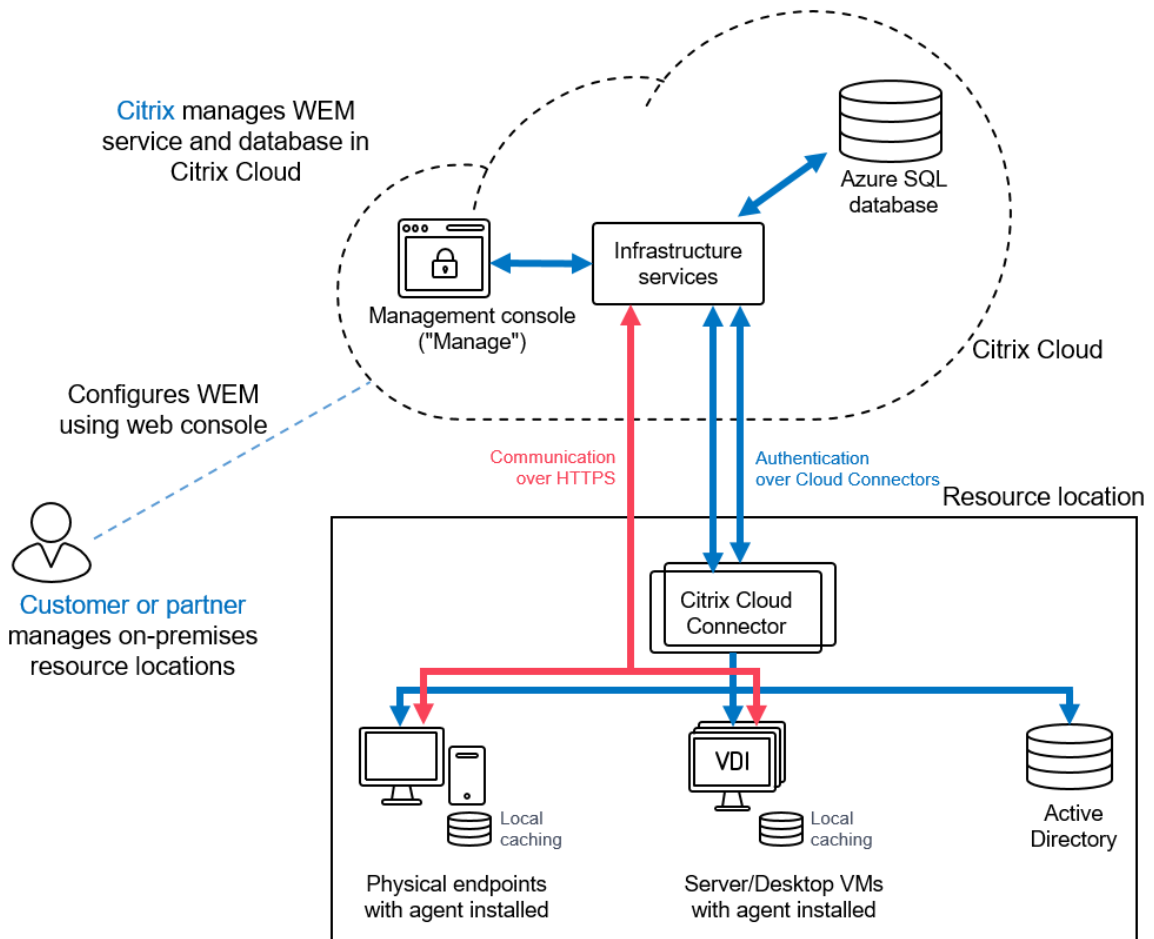


- ユーザーワークスペース管理
 - アプリケーション、プリンタ、ネットワークドライブ、外部タスクなどを管理
 - 割り当てをフィルタする
- ユーザーリソース管理
 - アプリケーションの動作をリアルタイムで監視および分析
 - ユーザー環境で RAM、CPU、I/O をインテリジェントに調整
 - 重点的に取り組んでいるアプリケーションが必要とするリソース量を維持
 - ユーザーエクスペリエンスを損なわずにバックグラウンドプロセスを調整する
 - アプリケーションの応答性が向上
- ユーザープロファイル管理
 - Citrix Profile Management を使用して、セッションとエンドポイントにまたがるユーザープロファイルを管理する
- ログオンパフォーマンスの最適化
 - 不要なプロセスをログオンプロセスから遅延させ、ログオン時間を短縮
 - ユーザーがログオンした後に、ログオン関連の構成をバックグラウンドで適用する
- セットアップと設定が簡単

- オンプレミスバージョンの Workspace Environment Management で必要とされるセットアップタスクのほとんどを排除

製品の技術概要

Workspace Environment Management (WEM) サービスには、次のアーキテクチャがあります。



以下のコンポーネントは、Citrix Cloud でホストされ、サービスの一部として Citrix によって管理されます。

- インフラストラクチャサービス。インフラストラクチャサービスは、マルチセッション OS にインストールされます。さまざまなバックエンドコンポーネント (SQL Server および Active Directory) をフロントエンドコンポーネント (管理コンソールおよびエージェント) と同期します。Citrix Cloud で十分なインフラストラクチャサービスを提供することを保証します。
- 管理コンソール。サービスの [管理] タブにある管理コンソールを使用して、Web ブラウザを使用してユーザー環境を管理します。管理コンソールは、Citrix Cloud ベースの Citrix Virtual Apps サーバーでホストされます。サーバーは、管理コンソールへの HTML5 接続用の Citrix Workspace アプリを提供します。

- **Azure SQL** データベース。Workspace Environment Management サービス設定は、Microsoft Azure SQL データベースサービスに格納され、エラスティックプールにデプロイされます。このコンポーネントは、Citrix によって管理されます。

次のコンポーネントは、顧客/パートナーによって各リソースの場所にインストールおよび管理されます。

- エージェント。Workspace Environment Management サービスエージェントは、Workspace Environment Management インフラストラクチャサービスに接続し、管理コンソールで構成した設定を適用します。すべての通信は、Citrix Cloud メッセージングサービスを使用して HTTPS 経由で行われます。エージェントを Virtual Delivery Agent (VDA) に展開できます。これにより、シングルセッション環境またはマルチセッション環境を管理できます。また、物理的な Windows エンドポイントにエージェントを展開することもできます。

すべてのエージェントはローカルキャッシュを使用しているため、ネットワーク接続が中断された場合でもエージェントは最新の設定を引き続き使用できます。

注:

Transformer 機能は、マルチセッションオペレーティングシステムではサポートされていません。

- **Microsoft Active Directory Server**。Workspace Environment Management サービスでは、Active Directory にアクセスしてユーザーに設定をプッシュする必要があります。インフラストラクチャサービスは、Citrix Cloud アイデンティティサービスを使用して Active Directory と通信します。
- **Cloud Connector**。Citrix Cloud Connector は、リソースの場所のマシンが Citrix Cloud と通信できるようにするために必要です。使用しているすべてのリソースの場所にある少なくとも 1 台のマシンに Citrix Cloud Connector をインストールします。継続的な可用性を確保するために、各リソースの場所に複数の Cloud Connector をインストールします。高可用性を確保するために、各リソースの場所に少なくとも 2 つの Cloud Connector を推奨します。ある Cloud Connector を一定期間使用できない場合、他の Cloud Connector がその接続を維持できます。

開始

Workspace Environment Management 展開をセットアップするには、「[配置の構築](#)」を参照してください。

Agent をインストールするには、「[インストールと構成](#)」を参照してください。

新機能

May 28, 2024

Citrix の目的は、Workspace Environment Management (WEM) サービスのお客様が利用可能になったときに、新しい機能と製品の更新を提供することです。新しいリリースはより多くの価値を提供するため、更新を遅らせる理由はありません。更新は約 4 週間ごとにサービスリリースに公開されます。

このプロセスは、わかりやすいものになっています。更新は最初に Citrix 社内サイトに適用され、その後徐々にお客様の環境に適用されます。段階的に更新することによって、製品の品質を確保しながら、最大限の可用性を実現しています。

一般に、ドキュメントへの更新は、すべてのお客様が新機能や製品の更新にアクセスできるようになる前に提供されます。

クラウドの規模とサービスの可用性に関する WEM サービスのサービスレベル目標の詳細については、「[サービスレベルの目標](#)」を参照してください。サービスの中断および定期メンテナンスを監視するには、[Service Health Dashboard](#)を参照してください。

2024 年 5 月

外部タスク用の **Windows** イベントベーストリガー

- 外部タスク用の Windows イベントベーストリガーで、外部タスク (セッションレベルのタスク) をトリガーに関連付けることができるようになりました。Windows イベントが定義された条件を満たすと、トリガーがアクティブになります。このトリガーは、Windows イベントに基づいて、セッションレベルのタスクを自動的に管理するのに役立つ関連する外部タスクの実行を開始します。詳細については、「[注意事項](#)」を参照してください。
- 必要なエージェントの最小バージョン:2404.1.0.1

WEM エージェント基本展開モード

- WEM エージェントの基本的なデプロイモードが導入され、インフラストラクチャサービスに接続しなくても、システム最適化やログオン時間分析などの基本的なエージェント機能が提供されます。WEM には、デプロイメント全体にブローカー、データベース、コンソールなどのバックエンドコンポーネントをデプロイする必要があるユーザー環境管理用の強力な機能があります。基本的な機能だけを使いたい人もいるかもしれません。たとえば、以前は、最適化機能のみを使用する場合は、すべてのバックエンドコンポーネントをデプロイする必要がありました。この機能により、WEM を軽量にデプロイできるようになりました。このデプロイ方法を使用すると、WEM の基本機能を簡単に利用できます。WEM ヘルスチェックツールは、これらのタイプのエージェントのチェックを実行し、エージェントをオンプレミスまたはサービスエージェントとして再構成する機能を提供します。これで、エージェントのヘルスチェックツールを基本デプロイモードで起動してチェックを実行できるようになりました。インフラストラクチャサービスまたはクラウドコネクタに関する必要な情報を提供することで、エージェントタイプをオンプレミスまたはサービスエージェントに切り替えることもできます。詳細については、「[エージェントのインストール](#)」、「[基本展開エージェントの管理](#)」、および「[Windows ログオン分析](#)」を参照してください。

- 必要なエージェントの最小バージョン:2404.1.0.1

Profile Management

フォルダーリダイレクト設定: この機能では、ローカルフォルダーのパスを新しい場所にリダイレクトするためのルールセットを設定できます。各ルールセットは、アクセスするユーザーに基づいてフォルダーをリダイレクトする場所を指定します。

構成セットのフォルダーリダイレクトを構成するには、構成セットを見つけ、「プロファイル」>「**Profile Management** 設定」>「フォルダーリダイレクト」に移動して、ルールセットを追加します。詳しくは、「[Citrix Profile Management の設定](#)」を参照してください。

解決された問題

- ユーザーログオン中に、次の Windows イベントログ **CVAD** セッション起動イベントに関するユーザー情報の取得に失敗しましたおよび **AD** クエリタイムアウト例外を伴う WEM ユーザーログオンサービスによってさらに遅延が発生します。[WEM-35792]
- 一部のアプリケーションには 32 ビット版しかありません。Windows 2010 OS VDI は、呼び出し元が 32 ビットアプリケーションの場合、デフォルトでパス `system32` を `syswow64` にリダイレクトします。昇格エンジンが `OptionalFeatures.exe` などのファイルにアクセスしようとしても、ファイルが見つかりません。デフォルトのリダイレクト動作を無効にすると、アプリケーションが昇格します。[WEM-35650]

2024 年 3 月

構成セットの自動バックアップ制限の強化

WEM は構成セットの自動バックアップを提供します。自動バックアップの制限が強化され、最も古い既存のファイルを上書きする前に、構成セットごとに最大 25 個のバックアップファイルを保存できるようになりました。この機能強化により、特に大規模で複雑な環境での運用作業が軽減されます。詳細については、「[自動バックアップの管理](#)」を参照してください。

Windows 11 の [スタート] メニューのレイアウトをカスタマイズする

- ユーザーレベルの割り当てをサポートするために、Windows **11** のスタートメニュー構成に **WEM** アクション **JSON** ファイルを適用できるようになりました。WEM Tool Hub の **Windows 11** 用の新しいツール [スタートメニューコンフィギュレーター] を使用すると、[スタート] メニューの [固定表示] セクションに追加したいアプリケーションを選択し、必要に応じてレイアウトを調整できるようになりました。レイアウトをカスタマイズしたら、JSON ファイルページに新しい JSON オブジェクトを追加するときに、設定データをコ

コピーして Web コンソールに貼り付けます。詳細については、「[Windows 11 の \[スタート\] メニューのレイアウトのカスタマイズ](#)」を参照してください。

- 必要なエージェントの最小バージョン:2403.1.0.1

ユーザーストア作成ツール

このツールは、ユーザーストアの作成に役立つように WEM ツールハブに導入されています。ユーザーストアは、Citrix ユーザープロファイルを格納するための一元的なネットワーク場所です。このツールは、ファイル共有を作成し、仕様に従って適切な権限を設定することで、ユーザーストアをセットアップするのに役立ちます。このツールは設定プロセスを簡素化し、エラーを減らします。ユーザーストアは、現在のマシン (ツールを実行している) に作成するか、別のマシンに作成するかを選択できます。詳細については、「[ユーザーストア作成ツール](#)」を参照してください。

解決された問題

- WEM Web コンソールでは、プリンター、ネットワークドライブ、またはユーザー DSN の作成または複製が非常に遅くなります。[WEM-32997]
- WEM データベースを連続してアップグレードすると、「指定されたキーが辞書に存在しませんでした」というエラーが表示されます。[WEM-34849]
- Profile Management が正しく構成されている場合でも、「**Profile Management** 状態」列に疑問符が表示されることがあります。この問題は、WEM エージェントが使用する `UpmConfigCheck.ps1` スクリプトが期待どおりに機能しない場合に発生します。この問題は、Profile Management 2203 LTSR がインストールされているマシンに影響します。[WEM-34822, CVADHELP-24723]

2024 年 2 月

課題グループ (Technical Preview)

この機能により、個々のアクションをグループ化し、その割り当てを 1 か所で管理できます。課題はグループレベルではなくアクションごとに作成されます。グループにアクションを追加したり、アサインターゲットを選択したり、アサイングループを作成、編集、削除したりできるようになりました。フィルターやオプションなどの割り当ての詳細は、個々のアイテムレベルで管理されます。詳細については、「[課題グループ](#)」を参照してください。

Web コンソールのヘルスチェックの強化

Workspace Environment Management により、Profile Management のステータスをより明確かつ詳細に把握できるようになりました:

- 無効:Profile Management が見つからないか、有効になっていないことを示します。
- エラー:Profile Management の設定に問題があることを示します。
- 警告:Profile Management の状態が最適ではないことを示します。
- 注意:Profile Management が許容できる状態であることを識別します。
- 良好:ID Profile Management は正常な状態です。

詳しくは、「[統計情報](#)」の「**Profile Management** の状態」列の説明を参照してください。

Windows ログオンの分析機能が強化されました

- この機能強化により、ユーザープロファイルと **CitrixProfile Management** のデータ分析がより詳細に行えるようになりました。**HDX** 接続のサブメトリックを有効にすると、グループポリシーオブジェクトのサブメトリックが導入されました。詳細については、「[Windows ログオン分析](#)」を参照してください。
- 必要なエージェントの最小バージョン:2401.1.0.1

WEM ヘルスチェックツール

これで、WEM スタンドアロンツールを開いて WEM コンポーネントのステータスを確認し、トラブルシューティングを行うことができます。このツールは、WEM エージェントまたはインフラストラクチャサーバーで実行でき、選択された（チェック）さまざまな項目の結果をそれぞれ提供します。チェックが完了すると、レポートがユーザーのマシンに保存されます。デバッグモードをオンにして、指定した場所にログファイルを取得できます。また、一部の構成上の問題を自動的に修正することもできます。詳細については、「[WEM ヘルスチェックツール](#)」を参照してください。

解決された問題

- WEM エージェントが Windows Server 2022 で実行されている場合、特定のプロセスに適用するメモリ使用量の制限が正常に機能しない場合があります。[WEM-28773]

2024 年 1 月

ユーザーデータソース名

Web コンソールを使用して、ユーザーデータソース名 (DSN) を追加してユーザーに割り当てることができるようになりました。詳細については、「[ユーザー DSN](#)」を参照してください。

ポート

Web コンソールを使用して、ポートマッピングを追加してユーザーに割り当てることができるようになりました。詳細については、「[ポート](#)」を参照してください。

INI ファイル

Web コンソールを使用して、INI ファイル操作を追加してユーザーに割り当てることができるようになりました。詳細については、[INI ファイル](#)を参照してください。

エージェントオンデマンドタスク履歴

この機能強化により、過去 24 時間に開始されたタスクの進行状況と結果を確認できます。タスクをトリガーすると、各ターゲットエージェントのタスクステータスを確認できます。最近のタスクの履歴とそのステータスを表示することもできます。レポート付きのタスクでは、[レポート] タブからそれらのレポートに直接アクセスできます。詳細については、「[エージェント](#)」を参照してください。

レポート管理用のフィルター条件機能の強化

この機能強化により、結果サマリー条件を選択したときに各値をセミコロンで区切ることで複数の値をフィルタリングして追加できるようになりました。これにより、システムを監視および最適化できる柔軟なレポート管理方法が提供されます。

Profile Management

Workspace Environment Management は、2311 までの Profile Management のすべてのサポート対象バージョンをサポートするようになりました。次の機能が Web コンソールで利用できるようになりました。

- ユーザーストアの選択方法。複数のユーザーストアが利用可能な場合のユーザーストアの選択方法を指定します。次のオプションがあります。
 - 構成の順序。Profile Management では、最も古い設定済みストアを選択できます。
 - アクセスパフォーマンス。Profile Management では、アクセスパフォーマンスが最も高いストアを選択できます。

この機能は、「プロファイル」 > 「**Profile Management** 設定」 > 「詳細設定」 > 「ユーザーストアの複製」の各構成セットで使用できます。詳しくは、「[Citrix Profile Management の設定](#)」を参照してください。

- このサイズ以上のファイル (**MB**) の重複除外を行います。プロファイルコンテナから重複排除するファイルの最小サイズを指定します。デフォルトサイズは 256 MB です。

この機能は、「プロファイル」 > 「**Profile Management** 設定」 > 「ファイル重複排除」 > 「ファイル重複排除を有効にする」の各構成セットで使用できます。詳しくは、「[Citrix Profile Management の設定](#)」を参照してください。

- ログオン中にプロファイルコンテナが使用できない場合は、ユーザーをログオフします。ユーザーログオン中にプロファイルコンテナが使用できない場合に、ユーザーを強制的にログオフするかどうかを指定します。

この機能は、[プロファイル] > [**Profile Management** 設定] > [プロファイルコンテナ] > [プロファイルコンテナを有効にする]の各構成セットで使用できます。詳しくは、「[Citrix Profile Management の設定](#)」を参照してください。

- プロファイルコンテナにアクセスするユーザーとグループを設定します。プロファイルコンテナに対する **Read** & **Execute** 権限を持つ AD ドメインのユーザーとグループを指定します。デフォルトでは、プロファイルコンテナにアクセスできるのはその所有者のみです。

この機能は、「プロファイル」 > 「**Profile Management** 設定」 > 「プロファイルコンテナ」の各構成セットで使用できます。詳しくは、「[Citrix Profile Management の設定](#)」を参照してください。

- 必要なエージェントの最小バージョン:2311.1.0.1

解決された問題

- エージェント自動アップグレード機能を使用すると、x32 プラットフォームでのアップグレードが失敗します。[WEM-32783]
- 他の AD オブジェクトがドメイン内のエージェントと同じ名前を持つ場合、エージェントに割り当てられたマシンレベルの GPO が失敗することがあります。[WEM-32315、CVADHELP-23868]

2023 年 11 月

エージェントの自動アップグレード

エージェントの自動アップグレード機能が次のように強化されました:

- 一元管理された SMB 共有パッケージ保管場所から目的のエージェントパッケージを選択し、構成セット内のすべてのエージェントマシンの自動アップグレードをスケジュールできます。
- これで、WEM が構成セット内のすべてのエージェントマシンにアップグレードを自動的にロールアウトする期間と曜日を指定できるようになりました。
- WEM にアップグレードを自動的にロールアウトさせたい構成セットで、エージェントマシンのデバイス名と IP を指定できるようになりました。詳細については、「[アプリパッケージ配信](#)」を参照してください。
- 必要なエージェントの最小バージョン:2310.1.0.1

メモリ使用量制限機能の拡張制限

- この機能が強化され、メモリ使用量制限機能の最大値に設定されていた制限が、64 ビット OS の 4 GB から 32 GB に拡張されました。この機能強化により、お客様のシステム環境の実際の状況に基づいた柔軟性が向上します。
- 必要なエージェントの最小バージョン:2310.1.0.1

Windows ログオン分析

このツールは、ログオン期間データを収集し、最新のログオン期間データに関するレポートを生成します。各ログオンレポートはさらに分類され、潜在的な問題やボトルネックを特定できます。詳細については、「[Windows ログオン分析](#)」を参照してください。

アプリケーションセキュリティログレポート

- 管理者は、構成セットごとにアプリケーションセキュリティログの収集を有効にすることで、Web コンソールでアプリケーションセキュリティログを確認し、対応するレポートを取得できるようになりました。管理者は、各レポートの詳細内のサブタイプ別にログを表示できます。詳細については、「[レポート](#)」の「アプリケーションセキュリティログ」、「[監視設定](#)」の「セキュリティログ」を参照してください。
- 必要なエージェントの最小バージョン:2310.1.0.1

解決された問題

このリリースでは問題は確認されていません。

2023 年 10 月

レジストリエントリ

Web コンソールを使用して、レジストリエントリを割り当て可能なアクションとして追加できるようになりました。これにより、ユーザー環境でレジストリ値を作成、設定、または削除できます。この機能が強化され、ユーザーエクスペリエンスが向上しました。さらに、レジストリエントリにタグを追加し、複数のレジストリエントリを同時に割り当てることができるようになりました。詳細については、「[レジストリエントリ](#)」を参照してください。

レポート内の拡張データの強化

エージェントレポートには、**CSV (フォーマット)** と **JSON (フォーマット)** の 2 つの新しいエクスポートオプションが導入されました。これらのオプションにより、レポート内の拡張データが読みやすくなります。詳しくは、「[レポートのエクスポート](#)」を参照してください。

Web コンソールでの **Profile Management** 設定の分類

この機能により、Profile Management 設定のビューを再編成できます。ファイルベース、コンテナベース、アプリケーションアクセス制御の 3 つの組み込みタグはフィルターのように機能するため、選択したタグで使用できる設定に集中できます。最後に選択したタグは、管理者の設定として保持されます。詳しくは、「[Profile Management 設定](#)」を参照してください。

最適化と使用状況に関する洞察の強化

この機能では、アプリケーション名を指定することで、除外するアプリケーションのリストを設定できます。プリファレンスの設定を使用して、除外されたアプリケーションを追加、編集、削除できます。詳しくは、「[除外アプリケーション](#)」を参照してください。

Web コンソールでのファイルタイプアソシエーション (FTA) 設定のサポート

この機能により、管理者は FTA を作成、管理し、ユーザーに割り当てることができます。管理者は、**WEM Tool Hub** のファイルタイプ関連付けアシスタントツールを使用して **、Web コンソールで FTA を設定するために必要な情報を簡単に取得することもできます。詳細については、「[ファイルタイプの関連付け](#)」を参照してください。

エージェント設定の強化

- 新しい設定 [エージェントがキャッシュされたドメイン検索結果を使用できるようにする] がエージェント設定に追加されました。有効にすると、エージェントはドメインクエリ結果のキャッシュを使用してパフォーマンスと耐障害性を向上させます。エージェントがドメインにアクセスできない場合は、WEM グループポリシーを更新することもできます。詳細については、「[エージェント設定](#)」を参照してください。
- 必要な最小エージェントバージョン:2309.2.0.1

Web コンソールのヘルスチェックレポート機能の強化

この機能により、WEM による Profile Management 設定のユーザーエクスペリエンスが向上します。エージェントヘルスチェック結果ページの **Profile Management** 設定へのリンクをたどると、結果にエラー/警告が表示され、対応する設定が **Web** コンソールの **Profile Management** 設定ページで強調表示されます。その後、フッターに表示された結果に従って設定を変更できます。詳しくは、「[レポート](#)」を参照してください。

WEM ツールハブの新バージョン

WEM ツールハブの新しいバージョンが利用可能になりました: 2309.2.0.1 このバージョンには、パフォーマンスの強化、AAD/NDJ オブジェクトセレクターサポートのサポート、バグ修正が含まれています。詳細については、「[WEM ツールハブ](#)」を参照してください。

解決された問題

- 顧客がアプリケーション設定をファイルにエクスポートし、ファイルを ASCII エンコーディングで保存し、変更したファイルを再度 WEM にインポートすると、アプリケーションが消えることがありました。
[WEM-31180]
- マシンの再起動後、**WEM** エージェントは [詳細設定] > [** ファイル共有] で設定した以前の SMB 共有を失う可能性があります。 **[WEM-30209]

2023 年 9 月

Citrix Optimizer での Windows 11 と Windows Server 2022 のサポート

- Citrix Optimizer に Windows 11 バージョン 21H2 (ビルド 2009) と Windows Server 2022 21H2 (ビルド 2009) のサポートを追加しました。WEM サービスを使用して、Windows 11 2009 および Windows Server 2022 2009 マシンのテンプレートベースのシステム最適化を実行できるようになりました。さらに、最新のスタンドアロン Citrix Optimizer で導入された変更を反映するために、既存のテンプレートをすべて更新しました。
Citrix Optimizer の使用について詳しくは、「[Citrix Optimizer](#)」を参照してください。
- 必要な最小エージェントバージョン:2309.1.0.1

手動バックアップ制限の強化

手動エクスポートの上限をアカウントあたり 10 から 25 に引き上げました。詳細については、「[構成セットのバックアップ](#)」を参照してください。

最適化と使用状況に関する洞察のアプリケーション制限の強化

最適化インサイトアプリケーションと使用状況インサイトアプリケーションの制限を 10 から 20 に拡張しました。詳細については、「[インサイト](#)」を参照してください。

レジストリエントリ (**Technical Preview**)

Web コンソールを使用して、レジストリエントリを割り当て可能なアクションとして追加できるようになりました。これにより、ユーザー環境でレジストリ値を作成、設定、または削除できます。この機能が強化され、ユーザーエクスペリエンスが向上しました。さらに、レジストリエントリにタグを追加し、複数のレジストリエントリを同時に割り当てることができるようになりました。詳細については、「[レジストリエントリ](#)」を参照してください。

AAD/NDJ オブジェクトセレクトーツール

- 現在サポートされている AD ユーザー/グループ、およびドメインに参加しているマシンに加えて、アプリアクセスルールを AAD ユーザー/グループと NDJ マシンに割り当てることができるようになりました。Web コンソールで **AAD/NDJ** オブジェクトセレクトーツールを使用できるようになりました。このツールでは、オブジェクトデータを取得してルールジェネレータに貼り付けることができます。詳細については、「[AAD ユーザー/グループと NDJ マシンへのアプリアクセスルールの割り当て](#)」を参照してください。
- 必要な最小エージェントバージョン:2309.1.0.1

Web コンソールでのファイルシステム操作

管理者は、Web コンソールを使用してファイルシステム操作を作成および管理し、ユーザーに割り当てることができます。詳細については、「[ファイルシステムの操作](#)」を参照してください。

ユーザーレベルの Profile Management 設定

この機能により、Profile Management の設定をユーザーレベルで構成して、カスタマイズと正確な制御を行うことができます。この機能を使用して、特定の Profile Management 設定を個々のユーザーまたはユーザーグループに適用し、必要に応じてプロファイルのエクスペリエンスを調整します。詳しくは、「[ユーザーレベルの Profile Management 設定](#)」を参照してください。

エージェントレポートによる レポートのサポート

- 管理者は、構成セットごとにセキュリティログ収集を有効にすることで、Web コンソールで権限昇格ログを確認し、対応するレポートを取得できるようになりました。管理者は、各レポートの詳細内のサブタイプ別にログを表示できます。詳細については、[モニタリング設定の「セキュリティログ」](#)の説明を参照してください。
- 必要な最小エージェントバージョン:2309.1.0.1

Profile Management

- Workspace Environment Management は、2308 までの Profile Management のすべてのサポート対象バージョンをサポートするようになりました。Web コンソールでは以下の機能が使用できるようになりました。
 - プロファイルコンテナの **VHD** 自動拡張を有効にします。有効にすると、プロファイルコンテナの使用率が 90% に達すると、自動的に 10 GB ずつ拡張され、最大容量は 80 GB になります。必要に応じて、自動拡張トリガーしきい値 (**%**)、自動拡張インクリメント (GB)、自動拡張制限 (GB)、自動拡張制限 (GB)** のオプションを使用してデフォルトの自動拡張設定を調整できます**。

この機能は、[プロファイル] > [Profile Management 設定] > [プロファイルコンテナ] の各構成セットで使用できます。詳しくは、「[Citrix Profile Management の設定](#)」を参照してください。

- **VHD** コンテナのデフォルト容量。各 VHD コンテナのデフォルトのストレージ容量 (GB 単位) を指定します。

この機能は、[プロファイル] > [Profile Management 設定] > [詳細設定] の各構成セットで使用できます。詳しくは、「[Citrix Profile Management の設定](#)」を参照してください。

- プロファイルコンテナへの排他アクセスを有効にします。有効にすると、プロファイルコンテナは一度に 1 つのアクセスしか許可しません。

この機能は、[プロファイル] > [Profile Management 設定] > [詳細設定] の各構成セットで使用できます。詳しくは、「[Citrix Profile Management の設定](#)」を参照してください。

- **OneDrive** コンテナへの排他アクセスを有効にします。有効にすると、OneDrive コンテナは一度に 1 つのアクセスしか許可しません。

この機能は、[プロファイル] > [Profile Management 設定] > [詳細設定] の各構成セットで使用できます。詳しくは、「[Citrix Profile Management の設定](#)」を参照してください。

- **UWP** アプリローミングを有効にします。有効にすると、UWP (ユニバーサル Windows プラットフォーム) アプリはユーザーと一緒にローミングします。その結果、ユーザーは異なるコンピューターから同じ UWP アプリにアクセスできます。

この機能は、[プロファイル] > [Profile Management 設定] > [詳細設定] の各構成セットで使用できます。詳しくは、「[Citrix Profile Management の設定](#)」を参照してください。

- 必要なエージェントの最小バージョン:2307.1.0.1

タスク設定の構成

新しいオプション [タスク設定の構成] が [スクリプトタスク] ページに導入されました。これにより、[スクリプトタスク設定] ページで特定のフィルタータスクウィザードに移動できます。詳細については、「[タスク設定オプションの設定](#)」を参照してください。

WEM ツールハブの新バージョン

WEM ツールハブの新しいバージョンが利用可能になりました: 2309.1.0.1 このバージョンには、パフォーマンスの強化、AAD/NDJ オブジェクトセレクターサポートのサポート、バグ修正が含まれています。詳細については、「[WEM ツールハブ](#)」を参照してください。

解決された問題

- Profile Management が正しく構成されていても、「Profile Management 状態」列にエラーが表示されることがあります。この問題は、WEM UpmConfigCheck.ps1 エージェントが使用するスクリプトが期待どおりに機能しないために発生します。この問題は、Profile Management 設定の [ログファイルへのパス] が有効で、その中に%SystemRoot%があるパスが含まれているマシンに影響します。[WEM-29519]
- WEM エージェントは、次の更新（15 分ごと）を待つのではなく、ポリシー設定が更新されるたびに SMB 接続を更新するようになりました。[WEM-29142、CVADHELP-21957]

2023 年 7 月

ユーザーレベルの Profile Management 設定 (Technical Preview)

- この機能により、Profile Management の設定をユーザーレベルで構成して、カスタマイズと正確な制御を行うことができます。この機能を使用して、特定の Profile Management 設定を個々のユーザーまたはユーザーグループに適用し、必要に応じてプロファイルのエクスペリエンスを調整します。詳しくは、「[ユーザーレベルの Profile Management 設定](#)」を参照してください。
- この機能を有効にするには、ホームに移動し、右上隅にある **Preview** 機能アイコンをクリックして、ユーザーレベルの **ProfileManagement** 設定を有効にします。[Preview 機能を参照してください](#)。

WEM エージェントイベントロギングの強化

トラブルシューティング機能の向上を目的として、WEM エージェントのイベントログを強化しました。機能強化には以下が含まれます。

- 包括的なイベントログ: 包括的なイベントログを提供しており、エージェントのアクティビティの全体像を把握できます。
- 固有のイベント ID: 各イベントログに個別の ID が割り当てられるようになったため、特定のイベントを簡単にフィルタリングして識別できます。

詳細については、「[エージェントイベントログ](#)」を参照してください。

WEM トランスフォーマーの Microsoft Edge ブラウザーサポート

- WEM トランスフォーマーは Microsoft Edge ブラウザーの最新バージョンをサポートするようになりました。
- 必要なエージェントの最小バージョン:2307.1.0.1

JSON オブジェクト割り当て

- JSON オブジェクトを追加して割り当てて JSON ファイルを作成または変更できるようになりました。この機能を使用すると、JSON 構成ファイル (Microsoft Teams など) を使用してアプリケーションにパーソナライズされた設定を適用できます。この機能は Web コンソールでのみ使用できます。詳細については、「[アクション](#)」を参照してください。
- 必要な最小エージェントバージョン:2306.1.0.1

すばやくアクセスできるようにローカルアプリケーションを追加

- この機能により、ローカルアプリケーションを WEM Tool Hub に追加してすばやくアクセスできます。追加されたアプリケーションは個人データとみなされ、Profile Management 環境内でマシンを切り替えても保持されます。複数のアプリケーションを一度に追加および削除できます。詳細については、「[すばやくアクセスするためのローカルアプリケーションの追加](#)」を参照してください。

WEM ツールハブの新バージョン

WEM ツールハブの新しいバージョンが利用可能になりました: 2307.1.0.1 このバージョンには、パフォーマンスの向上とバグ修正が含まれています。詳細については、「[WEM ツールハブ](#)」を参照してください。

解決された問題

- 構成セットに含まれるテンプレートベースの GPO が多すぎる (たとえば、10,000 個) 場合、構成セットを復元しようとするとうまく失敗することがあります。[WEM-28447]

June 2023

CPU スパイク保護の強化

- このリリースでは、CPU スパイク保護機能が強化され、よりきめ細かな制御が可能になりました。機能強化には、次の変更があります。
 - より簡単に構成できるように、直感的なロジックで CPU スパイク保護オプションを再編成しました。
 - CPU スパイク保護をカスタマイズする際、非整数値を使用して CPU 使用量制限を設定できるようになりました。
 - 新しい [単一の **CPU** コアを基準にして制限を設定] オプションが利用可能になりました。これにより、1 つの CPU コアを基準として CPU 使用量の制限を設定できます。

詳しくは、「[CPU スパイク保護](#)」を参照してください。

- 必要な最小エージェントバージョン:2306.1.0.1

環境変数

- Web コンソールを使用して、環境変数を割り当て可能なアクションとして追加できるようになりました。割り当てられると、これらの環境変数はユーザー環境で作成または設定されます。この機能が強化され、ユーザーエクスペリエンスが向上しました。詳細については、「[環境変数](#)」を参照してください。
- 必要な最小エージェントバージョン:2306.1.0.1

グループポリシー設定の動的トークンサポート

グループポリシー設定で動的トークンを使用できるようになりました。この機能により、さまざまな環境でより適応性の高いポリシー構成が可能になり、手動構成が減り、ポリシー管理が簡素化されます。詳しくは、「[グループポリシー設定の動的トークンサポート](#)」を参照してください。

グループポリシー設定処理結果

このリリースでは、アクション処理結果レポート機能が導入されました。この機能により、ユーザーに割り当てられたすべてのアクションの結果を、4時間ごとに更新される統合レポートで表示できるようになりました。レポートには、アクションの名前、割り当てられたユーザー、使用されたフィルター、処理結果などの情報が含まれます。この機能はすべてのアクションを対象としていますが、現在はグループポリシー設定の処理結果のみをサポートしています。この機能を使用するには、まずグループポリシー設定の結果収集を有効にします。詳しくは、「[\[レポートとモニタリングの設定\]\(/ja-jp/workspace-environment-management/service/manage/configuration-sets/advanced-settings.html#monitoring-preferences\)](#)」を参照してください。

JSON オブジェクト割り当て (Technical Preview)

- JSON オブジェクトを追加して割り当てて JSON ファイルを作成または変更できるようになりました。この機能を使用すると、JSON 構成ファイル (Microsoft Teams など) を使用してアプリケーションにパーソナライズされた設定を適用できます。この機能は Web コンソールでのみ使用できます。詳細については、「[アクション](#)」を参照してください。
- この機能を有効にするには、ホームに移動し、右上隅にある Preview 機能アイコンをクリックして、JSON オブジェクト割り当てを有効にします。[Preview 機能を参照してください](#)。
- 必要な最小エージェントバージョン:2306.1.0.1

2023 年 5 月

Profile Management バックアップとクイックセットアップ

- これで、Profile Management の設定をバックアップおよび復元できます。詳細については、「[バックアップと復元](#)」を参照してください。さらに、クイックセットアップ機能が利用可能になり、新しいテンプレート

から始める場合でも、バックアップから復元する場合でも、**Profile Management** をすばやく設定できます。詳細については、「[クイックセットアップ](#)」を参照してください。

- 必要なエージェントの最小バージョン:2304.2.0.1

ネットワークドライブ

- Web コンソールを使用して、ネットワークドライブを割り当て可能なアクションとして追加できるようになりました。割り当てられると、それらのネットワークドライブはユーザーのデスクトップで使用できます。この機能が強化され、ユーザーエクスペリエンスが向上しました。詳細については、「[アクション](#)」を参照してください。
- 必要なエージェントの最小バージョン:2304.2.0.1

仮想ドライブ

- Web コンソールを使用して、仮想ドライブを割り当て可能なアクションとして追加できるようになりました。割り当てられると、それらの仮想ドライブはユーザーのデスクトップで使用できます。この機能が強化され、ユーザーエクスペリエンスが向上しました。詳細については、「[アクション](#)」を参照してください。
- 必要なエージェントの最小バージョン:2304.2.0.1

Web コンソールで詳細設定が改善されました

詳細設定は Web コンソールに移行され、各構成セットの **[詳細設定]** で使用できます。ユーザーエクスペリエンスを向上させるために設定を再編成しました。詳細については、「[詳細設定](#)」を参照してください。


スタートページを設定する

Web コンソールにサインインするたびにそのページが表示されるように、次のいずれかのページをスタートページとして設定できるようになりました。

- エージェント
- レポート
- ユーザー統計
- 使用状況に関する洞察
- 最適化インサイト
- プロファイルコンテナの洞察

開始ページが設定されていない場合は、代わりにホームページが表示されます。スタートページを設定したら、コン



ソールの左側のナビゲーションにある稲妻アイコン () をクリックするとすぐにアクセスできます。

WEM ツールハブの新バージョン

WEM ツールハブの新しいバージョン、2304.2.0.1 が利用可能になりました。このバージョンには、パフォーマンスの向上とバグ修正が含まれています。詳細については、「[WEM ツールハブ](#)」を参照してください。

解決された問題

- Profile Management が正しく構成されていても、「Profile Management 状態」列にエラーが表示されることがあります。この問題は、WEM `UpmConfigCheck.ps1` エージェントが使用するスクリプトが期待どおりに機能しないために発生します。この問題は、システムボリュームが 1 つしかないマシンに影響しません。[WEM-27498]

2023 年 4 月

アプリのアクセス制御

- Web コンソールを使用して、ファイル、フォルダー、レジストリなどのアイテムへのユーザーアクセスを制御するルールを追加できるようになりました。一般的な使用例は、マシンにインストールされたアプリへのユーザーアクセスを制御するルールを適用することです。つまり、アプリを関連ユーザーに見えないようにするかどうかです。この機能により、アプリケーションとイメージの管理が簡単になります。たとえば、この機能を使用すると、同一のマシンをさまざまな部門に配布しながら、さまざまなアプリケーションのニーズを満たすことができるため、イメージの数を減らすことができます。詳しくは、「[アプリアクセス制御](#)」を参照してください。
- 必要な最小エージェントバージョン:2304.1.0.1

プリンター

- Web コンソールを使用して、ユーザーに割り当てるプリンターを追加できるようになりました。割り当てられると、それらのプリンターはユーザーのデスクトップで使用できます。この機能が強化され、ユーザーエクスペリエンスが向上しました。詳細については、「[アクション](#)」を参照してください。
- 必要な最小エージェントバージョン:2304.1.0.1

WEM ツールハブ (Technical Preview)

WEM ツールハブで次の 2 つのツールを使用できるようになりました。

- プリンタアシスタント。これを使用して印刷サーバーからプリンターのリストを取得し、管理コンソールに割り当て可能なアクションとして追加できるようにします。

- アプリアクセス制御用のルールジェネレーター。これを使用して、ファイル、フォルダー、レジストリなどのアイテムへのユーザーアクセスを制御するルールを作成します。ルールは Citrix Profile Management を通じて実装されます。一般的な使用例は、マシンにインストールされたアプリへのユーザーアクセスを制御するルールを適用することです。つまり、アプリを関連ユーザーに見えないようにするかどうかです。

詳細については、「[WEM ツールハブ](#)」を参照してください。

Profile Management

- Workspace Environment Management は、2303 までの Profile Management のすべてのサポート対象バージョンをサポートするようになりました。次の機能がレガシーコンソールと Web コンソールの両方で使用できるようになりました。
 - セッションのロックと切断時にアクティブライトバックを有効にします。有効にすると、セッションがロックまたは切断されたときにのみ、プロファイルファイルとフォルダーが書き戻されます。このオプションと [アクティブライトバックレジストリを有効にする] オプションの両方を有効にすると、セッションがロックまたは切断されたときにのみ、レジストリエントリが書き戻されます。
 - * Web コンソールでは、この機能は [プロファイル] > **[Profile Management 設定]** > [基本設定] で設定されている各構成で使用できます。詳しくは、「[Citrix Profile Management 設定](#)」を参照してください。
 - * レガシーコンソールでは、この機能は [ポリシーとプロファイル] > **[Citrix Profile Management 設定]** > **[Citrix Profile Management のメイン設定]** で利用できます。詳しくは、「[Citrix Profile Management 設定](#)」を参照してください。
 - アプリアクセス制御を有効にします。有効にすると、Profile Management は、指定した規則に基づいて、アイテム（ファイル、フォルダー、レジストリなど）へのユーザーアクセスを制御します。
 - * Web コンソールでは、この機能は [プロファイル] > **[Profile Management 設定]** > [アプリアクセス制御] で設定した各設定で使用できます。詳しくは、「[Citrix Profile Management 設定](#)」を参照してください。
 - * レガシーコンソールでは、この機能は [ポリシーとプロファイル] > **[Citrix Profile Management 設定]** > [アプリケーションアクセス制御] で使用できます。詳しくは、「[Citrix Profile Management 設定](#)」を参照してください。
 - **VHD** ディスク圧縮を有効にします。有効にすると、特定の条件が満たされた場合、ユーザーログオフ時に VHD ディスクが自動的に圧縮されます。このオプションを使用すると、プロファイルコンテナ、OneDrive コンテナおよびミラーフォルダコンテナが消費するストレージスペースを節約できます。
 - * Web コンソールでは、この機能は [プロファイル] > **[Profile Management 設定]** > [プロファイルコンテナ] で設定されている各設定で使用できます。詳しくは、「[Citrix Profile Management 設定](#)」を参照してください。
 - * レガシーコンソールでは、この機能はポリシーとプロファイル > **Citrix Profile Management 設定** > プロファイルコンテナ設定で使用できます。詳しくは、「[Citrix Profile Management 設定](#)」を参照してください。

- 空き容量比率を設定して **VHD** ディスク圧縮をトリガーし、ログオフ回数を設定して **VHD** ディスク圧縮をトリガーし、VHD ディスク圧縮のデフラグを無効にします ******。「****VHD** ディスク圧縮を有効にする」が有効になっている場合は、次の 3 つのポリシーを使用してデフォルトの VHD 圧縮設定と動作を調整します。

- * Web コンソールでは、この機能は [プロファイル] > [**Profile Management** 設定] > [詳細設定] で設定されている各構成で使用できます。詳しくは、「[Citrix Profile Management 設定](#)」を参照してください。

- * レガシーコンソールでは、この機能はポリシーとプロファイル > **Citrix Profile Management** 設定 > 詳細設定で使用できます。詳しくは、「[Citrix Profile Management 設定](#)」を参照してください。

- 必要な最小エージェントバージョン:2304.1.0.1

2023 年 2 月

アプリケーション

- Web コンソールを使用して、ユーザーに割り当てるアプリケーションを追加できるようになりました。これらのアプリケーションを割り当てると、構成に応じて、デスクトップ、スタートメニュー、またはタスクバーにショートカットが作成されます。この機能が強化され、ユーザーエクスペリエンスが向上しました。詳細については、「[アクション](#)」を参照してください。
- 必要な最小エージェントバージョン:2302.1.0.1

WEM ツールハブ (Technical Preview)

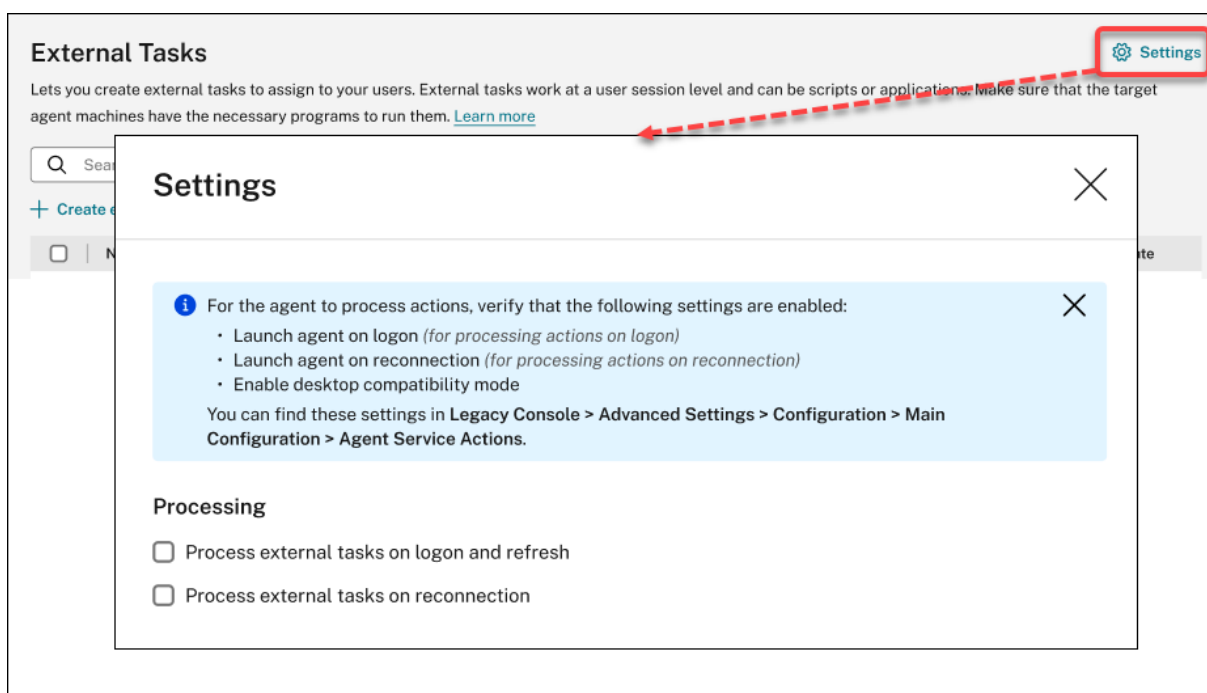
WEM 管理者はツールセット **WEM** ツールハブを利用できるようになりました。管理者の設定操作を簡素化することを目的としたツール群が含まれています。ダウンロードするには、[**Citrix Cloud**] > [**WEM サービス**] > [ユーティリティ] に移動します。詳細については、「[WEM ツールハブ](#)」を参照してください。

外部タスクに新しい設定が追加されました

Web コンソールで外部タスクを使用する場合、関連設定を **Legacy Console > Advanced Settings** に移動しなくても、エージェントが外部タスクを処理するタイミングを直接設定できるようになりました。新しく追加された設定は次のとおりです。

- ログオン時と更新時に外部タスクを処理
- 再接続時に外部タスクを処理

この拡張機能では、エージェントが外部タスクを確実に処理する方法に関する詳細情報も提供されます。外部タスクの詳細については、「[アクション](#)」を参照してください。



解決された問題

- **Studio** のポリシーである **Citrix Cloud Connector** を使用して **Workspace Environment Management** 用の Cloud Connector を構成すると、ポリシーが期待どおりに機能しません。[WEM-25697]
- レガシーコンソールでは、**State** 列の見出しをクリックしてソートしても、項目が期待どおりにソートされません。[WEM-25978、WEMHELP-274]
- 従来のコンソールでは、Web コンソールを使用して作成されたリソースを構成セットに含まれていなくても、バックアップウィザードを使用してグループポリシー設定をバックアップすると、[バックアップアクション] ボタンは使用できません。[WEM-26240]
- 権限昇格機能が期待どおりに機能しない可能性があります。この問題は、Citrix WEM ソフトウェアの署名に使用された証明書の有効期限が切れているために発生します。回避策として、`HKEY_LOCAL_MACHINE\SYSTEM\CurrentControlSet\Control\Norskale\Agent Host` で DWORD レジストリ値を作成し、値を 1 に設定して、証明書の有効性チェックをバイパスしてください。[WEM-26420、WEMHELP-284]

2023 年 1 月

エージェントの自動アップグレードの強化

- エージェントの自動アップグレード機能はウェブコンソールに移行され、各構成セットの [詳細設定] > [エージェント設定] で使用できます。この機能により、ユーザーエクスペリエンスが向上し、機能が追加されまし

た。エージェントの自動アップグレードをスケジュールできるだけでなく、エージェントのアップグレードを永続マシンに適用するか、非永続マシンに適用するかを柔軟に制御できるようになりました。詳細については、「[詳細設定](#)」を参照してください。

- 必要な最小エージェントバージョン:2301.1.0.1

ドメインに参加していないエージェントを目的の構成セットに自動的にバインドする

- バインドされていないドメインに参加していないエージェントのバインドルールを設定できるようになりました。これらのルールは、一致するエージェントをどの構成セットにバインドするかを決定します。この機能により、ドメインに参加していないエージェントを WEM に追加して管理するプロセスが簡単になります。詳細については、「[ディレクトリオブジェクト](#)」を参照してください。
- 必要な最小エージェントバージョン:2301.1.0.1

組織単位への **GPO** 割り当てのサポート

- Web コンソールを使用して、GPO を組織単位に割り当てることができるようになりました。これにより、WEM で使用するために Active Directory 構造を変更する必要がなくなります。詳細については、「[割り当てターゲットの追加](#)」を参照してください。
- 必要な最小エージェントバージョン:2301.1.0.1

解決された問題

- オフラインモードで実行している場合、エージェントは **[詳細設定] > [ファイル共有]** で構成した **SMB** 共有に接続できません。この問題はエージェントの機能には影響しません。[WEM-25318]

2022 年 11 月

外部タスク

- Web コンソールを使用して、外部タスクを作成してユーザーに割り当てることができるようになりました。外部タスクはスクリプトでもアプリケーションでもかまいません。ユーザー環境を正確かつ効果的に管理するために、外部タスクをいつ実行するかを指定します。また、Web コンソールには外部タスク用の追加機能があり、スケジュールされたトリガーを外部タスクに関連付けて、いつ実行するかをスケジュールできます。詳細については、「[外部タスク](#)」を参照してください。
- 必要な最小エージェントバージョン:2211.1.0.1

エージェントは必要な場合にのみ構成データをダウンロードする

- 以前は、WEM エージェントは、構成の変更の有無にかかわらず、定期的に WEM サービスに接続して構成データをダウンロードしていました。エージェントは、構成が変更されていないかを定期的にサービスに確認するようになりました。
 - 「はい」の場合、エージェントは構成データをダウンロードします。
 - 「いいえ」の場合、構成データはダウンロードされません。

この機能強化により、特に多数のエージェントを含む大規模な導入環境では、帯域幅の消費量が大幅に削減されます。

- 必要な最小エージェントバージョン:2211.1.0.1

解決された問題

- 以前のバックアップから設定を復元すると、ユーザーストア関連の認証情報で問題が発生します。
 - 従来のコンソールでは、認証情報に加えられた変更を保存することはできません。
 - Web コンソールで、復元された認証情報が **[詳細設定]** > **[ファイル共有]** に表示されません。[WEM-23466]
- Mozilla Firefox ブラウザでは、組み込みのスクリプトタスク Cloud Health Check がカスタムスクリプトタスクの上に表示されません。[WEM-24166]
- 次の両方の条件が満たされると、アプリケーションセキュリティルールは機能しません。
 - 発行元タイプの例外ルールです。
 - ファイルバージョンに「An above」または「An Below」が選択されています。[WEM-24327, CVADHELP-21205]
- レジストリファイルにレジストリ値のないレジストリキーが含まれている場合、Workspace Environment Management にインポートするためのファイルのスキャンは停止します。すでにスキャンされたレジストリキーがリストに表示されます。[WEM-24767]

フィルターの強化

- この機能により、AND 演算子と **OR** 演算子を使用してフィルターを作成できます。演算子を使用して、2 つ以上の条件を組み合わせると 1 つの複合条件にすることができます。この機能により、課題やスクリプトタスクで使用するフィルターをより柔軟に構築できます。詳細については、「[フィルター](#)」を参照してください。
- 必要な最小エージェントバージョン:2210.2.0.1

2022 年 10 月

その他のトリガータイプも可能

- トリガーの作成時に、次の組み込みトリガータイプを使用できるようになりました。
 - マシンがシャットダウンしました。マシンがシャットダウンしたときにトリガーをアクティブにします。
 - マシンの起動。マシンの起動時にトリガーをアクティブにします。
- これらのタイプのトリガーを作成して、タスクをそれらに関連付けることができます。有効にすると、トリガーはユーザー環境でそれらのタスクを開始します。さらに 2 つのトリガータイプにより、スクリプトタスクを実行するタイミングをより柔軟に制御できます。詳細については、「[トリガー](#)」を参照してください。
- 必要な最小エージェントバージョン:2210.1.0.1

タスク結果をトリガーとして使用するためのサポート

- トリガーの作成時に、次のトリガータイプを使用できるようになりました。
 - **Cloud Health Check** の結果。Cloud Health Check が指定されたヘルスステータスを返したときにトリガーをアクティブにします。
 - **Profile Management** ヘルスチェック結果。Profile Management のヘルスチェックが指定されたヘルスステータスを返すときにトリガーをアクティブにします。
 - カスタムスクリプト形式のタスク結果。スクリプト化されたタスクが指定された結果を返すときにトリガーをアクティブにします。

これらのタイプのトリガーを作成して、タスクをそれらに関連付けることができます。有効にすると、トリガーはユーザー環境でそれらのタスクを開始します。これらのトリガータイプにより、タスク実行結果に基づいてユーザー環境を自動的に管理できます。詳細については、「[トリガー](#)」を参照してください。

- 必要な最小エージェントバージョン:2210.1.0.1

Profile Management

- Workspace Environment Management は、2209 までの Profile Management のすべてのサポート対象バージョンをサポートするようになりました。以下の機能がレガシーコンソールと Web コンソールの両方で利用できるようになりました。
 - ファイル重複排除。有効にすると、Profile Management はユーザーストアから重複ファイルを削除し、それらのコピーを 1 つの場所に保存します。これにより、ファイルの重複を避けることでユーザーストアへの負荷が軽減され、ストレージコストが削減されます。
 - * Web コンソールでは、この機能は [プロファイル] > **[Profile Management 設定]** > [ファイル重複排除] の各構成セットで使用できます。詳しくは、「[Citrix Profile Management 設定](#)」を参照してください。

- ★ 従来のコンソールでは、[ポリシーとプロファイル] > [Citrix Profile Management 設定] > [ファイル重複排除] でこの機能を使用できます。詳しくは、「[Citrix Profile Management 設定](#)」を参照してください。

- 必要な最小エージェントバージョン:2210.1.0.1

エージェントの登録状況を表示する

Web コンソールの [監視] > [管理] > [エージェント] に [登録] タブが表示されるようになりました。このタブでは、WEM 展開内のエージェントの登録ステータスを表示できます。この情報を使用して、エージェント登録の問題をトラブルシューティングできます。詳細については、「[管理](#)」を参照してください。

アサインターゲットのクローニングのサポート

割り当てターゲット (ユーザーとグループ) をある構成セットから別の構成セットに複製できるようになりました。最初から追加する必要はありません。詳細については、「[課題ターゲット](#)」を参照してください。

解決された問題

- Web コンソールで、[監視] > [管理] > [ユーザー統計] でフィルターの [最終ログオン] を使用して結果を絞り込むと、フィルターが期待どおりに機能しない場合があります。この問題は、終了日を未指定のままにすると発生します。回避策として、フィルタを使用するときに終了日を指定します。[WEM-23705]
- [レガシーコンソール] > [ポリシーとプロファイル] > [Citrix Profile Management 設定] には、ストリームプロファイルとクロスプラットフォームプロファイルを使用するユーザーグループを追加するオプションはありません。[WEM-23874、CVADHELP-20951、WEMHELP-256]

2022 年 9 月

インストールとアップグレード: **Workspace Environment Management** エージェント

Workspace Environment Management エージェントは、VDA インストールの追加コンポーネントとして含まれなくなりました。インストールするには、[スタンドアロンの WEM エージェントインストーラー](#)または [CitrixVirtual Apps and Desktops 製品 ISO の全製品インストーラー](#)を使用します。

2022 年 8 月

Windows イベントをトリガーとして使用

- トリガーを作成すると、新しいトリガータイプ **Windows** イベントが使用可能になりました。Windows イベントベースのトリガーを作成できます。その後、タスクを関連付けることができます。Windows イベント

が定義された条件を満たすと、トリガがアクティブ化され、関連するタスクが開始されます。このトリガータイプでは、Windows イベントに基づいてユーザー環境を自動的に管理できます。詳細については、「[トリガー](#)」を参照してください。

- 必要な最小エージェントバージョン:2208.1.0.1

エージェント側のファイルダウンロードにはファイル共有を使用する

- 以前は、エージェント側でのファイルのダウンロードは常に Citrix Cloud を介して行われていました。エージェント側でのファイルのダウンロードをファイル共有を通じて実行できるようになりました。これにより、他の重要な操作に必要なネットワークリソースが削減されます。この機能により、ネットワーク上のトラフィックが減少し、エージェントマシンにファイルをダウンロードする時間が短縮されます。詳細については、「[ファイル共有](#)」を参照してください。
- 必要な最小エージェントバージョン:2208.1.0.1

スクリプト化されたタスクのタイムアウトを設定する

- スクリプト化されたタスクを設定するときに、[\[タイムアウト値を設定する\]](#) オプションが使用できるようになりました。このオプションでは、タスクを強制終了するまでの時間 (分単位) を指定できます。タイムアウトを指定しない場合、タスクは実行され続け、他のタスクが実行されなくなる可能性があります。詳細については、「[スクリプト化されたタスク設定](#)」を参照してください。
- 必要な最小エージェントバージョン:2207.2.0.1

エージェントを登録するようにユーザーを招待する

- これで、Web コンソールで新しいノード **Enrollment** が使用可能になりました。ノードには次の 2 つのページがあります。
 - 登録エージェント。登録されているすべてのエージェントを一覧表示します。必要に応じて管理できます。
 - 招待。登録招待状をユーザーに送信できます。各招待状には、招待コードと登録を完了するために必要な手順が含まれています。

詳細については、「[登録](#)」を参照してください。

- 必要な最小エージェントバージョン:2207.2.0.1

スクリプト化されたタスクをコンテキスト化する

- スクリプト化されたタスクを設定するときに、[\[一般\]](#) で [\[フィルタ\]](#) オプションを使用できるようになりました。このオプションでは、フィルタを使用してタスクをコンテキスト化できます。その結果、WEM エージェ

ントは、選択したフィルタのすべての条件が満たされた場合にのみタスクを実行します。詳細については、「[スクリプトタスクを設定する](#)」を参照してください。

- 必要な最小エージェントバージョン:2207.2.0.1

解決された問題

10 MB を超えるスクリプトタスクを追加すると、タスクが正常に追加されても次のエラーメッセージが表示されます:
`Failed to add the scripted task`。ビューを更新すると、タスクが表示されます。[WEM-21241]

2022 年 7 月

ドメインに参加していないエージェントや登録済みのエージェントの管理タスクの実行をサポート

- ドメインに参加していないエージェントや登録済みのエージェントに対して、他のエージェントの場合と同様に、管理コンソールから管理タスク（キャッシュの更新、設定のリセット、エージェント情報の取得など）を実行できるようになりました。技術的には、この機能は別の実装です。ターゲットエージェントには、これらのタスクの実行がすぐには通知されません。通知は、ターゲットエージェントまたは同じサブネット上の他のエージェントが Citrix Cloud に接続して設定を更新するときに送信されます。そのため、タスクがエージェント側で実行されるまでに遅延が生じる可能性があります。同じサブネット上に存在するエージェントが多いほど、遅延は短くなります。
- この機能は、レガシーコンソールと Web コンソールの両方で利用できます。
 - Web コンソールで、[監視] > [管理] > [エージェント] に移動します。詳細については、「[管理](#)」を参照してください。
 - 従来のコンソールで、[管理] > [エージェント] に移動します。詳細については、「[管理](#)」を参照してください。
- 必要な最小エージェントバージョン:2207.1.0.1

グループポリシー管理用テンプレートを使用して **Windows GPO** を構成する

- Web コンソールでは、各構成セットの [アクション] > [グループポリシー設定] で、[テンプレートベース] タブを使用できるようになりました。このタブでは、グループポリシー管理用テンプレートを使用して Windows GPO を構成できます。GPO は、マシンレベルとユーザーレベルで構成できます。その後、レジストリベースの GPO の場合と同様に、ユーザーに割り当てて展開します。詳細については、「[グループポリシー設定](#)」を参照してください。
- 必要な最小エージェントバージョン:2207.1.0.1

スクリプト化されたタスク設定で利用できる新機能

- スクリプト化されたタスクを設定すると、次の新機能が利用可能になりました。
 - ファイルパス。ファイルパスをパラメータとして `System.IO.FileInfo` クラスに渡すことができるパラメータ型。
 - ランタイムエラーが発生しても出力を収集します。タスクの実行中にエラーが発生した場合でも、出力ファイルの内容とコンソール出力を収集するかどうかを制御するオプション。

詳細については、「[スクリプト化されたタスク設定](#)」を参照してください。

- 必要な最小エージェントバージョン:2207.1.0.1

解決された問題

- アプリケーションセキュリティルール (AppLocker ルール) を組み込みの管理者に割り当てると、ログオンしているユーザーが Administrators グループに属していても、そのルールがエージェントマシンで有効にならない場合があります。[WEM-21133、WEMHELP-229]
- 管理コンソールで Profile Management の正常性ステータスを表示すると、Profile Management が正しく構成されていてもエラーが表示されることがあります。この問題は、エージェントが実行されているローカルシステムアカウントにユーザーストアへのアクセス権限がない場合に発生します。[WEM-21247、CVADHELP-19963]
- Web コンソールで、`REG_QWORD`および`REG_QWORD_LITTLE_ENDIAN`の種類のレジストリ操作を追加または編集しようとする失敗することがあります。この問題は、9007199254740991を超える10進数値、または1FFFFFFFFFFFFFFFを超える16進数値を入力すると発生します。回避策として、代わりにレガシーコンソールを使用してください。

Web コンソールを使用して、値が制限を超える2種類のレジストリ操作を編集すると、「無効な値または形式」というエラーメッセージが表示されます。メッセージは却下できます。[WEM-22217]

Web コンソールから GPO を展開する

- Web コンソールで、グループポリシー設定を管理できるようになりました。管理は、Windows グループポリシーオブジェクト (GPO) を構成する形式をとります。設定を追加またはインポートしたら、ユーザーに割り当てて展開します。詳細については、「[グループポリシー設定](#)」を参照してください。
- 必要な最小エージェントバージョン:2206.2.0.1

Profile Management

- Workspace Environment Management では、2206 までのすべてのバージョンの Profile Management がサポートされるようになりました。次の新しいオプションが、レガシーコンソールと Web コンソールの両

方で利用できるようになりました。

- 保留エリアのプロファイルストリーミングを有効にします。有効にすると、保留領域のファイルは、要求された場合にのみローカルプロファイルにフェッチされます。これにより、同時セッションシナリオでの最適なログオンエクスペリエンスが保証されます。
 - * Web コンソールでは、[プロファイル] > [**Profile Management** 設定] > [ストリーム配信ユーザープロファイル] の各設定で、このオプションを使用できます。詳しくは、「[Citrix Profile Management 設定](#)」を参照してください。
 - * 従来のコンソールでは、[ポリシーとプロファイル] > [**Citrix Profile Management** 設定] > [ストリーム配信ユーザープロファイル] でこのオプションを使用できます。詳しくは、「[Citrix Profile Management 設定](#)」を参照してください。
- 同時セッションのサポートを有効にします。同時セッションでネイティブの Outlook 検索エクスペリエンスを提供します。有効にすると、各同時セッションで個別の Outlook OST ファイルが使用されます。Outlook OST ファイルを格納する VHDX ディスクの最大数を指定できます。

ログオン時にユーザーグループポリシーの非同期処理を有効にします。有効にすると、Profile Management は、次回のユーザーログオンの処理モード（同期または非同期処理モード）を決定するために Windows が使用するレジストリ値をユーザーとともにローミングします。これにより、ユーザーがログオンするたびに実際の処理モードが適用されます。

OneDrive コンテナを有効にします。有効にすると、Profile Management は VHDX ディスクにフォルダーを保存することにより、ユーザーと共に OneDrive フォルダーをローミングします。ディスクはログオン時に接続され、ログオフ時には切り離されます。

- * Web コンソールでは、[プロファイル] > [**Profile Management** 設定] > [詳細設定] の各設定で3つのオプションを使用できます。詳しくは、「[Citrix Profile Management 設定](#)」を参照してください。
 - * 従来のコンソールでは、[ポリシーとプロファイル] > [**Citrix Profile Management** 設定] > [詳細設定] で3つのオプションを使用できます。詳しくは、「[Citrix Profile Management 設定](#)」を参照してください。
- 必要な最小エージェントバージョン:2206.2.0.1

アプリケーションランチャー

- アプリケーション起動ツールである **AppLauncherUtil.exe** が、エージェントのインストールフォルダで使用できるようになりました。このツールは、管理コンソールを通じてユーザーに割り当てたすべてのアプリケーションを集約します。このツールを使用すると、ユーザーは割り当てられたすべてのアプリケーションを1か所で起動できます。詳細については、「[アプリケーションランチャー](#)」を参照してください。
- 必要な最小エージェントバージョン:2206.2.0.1

解決された問題

- VUEMRSV.exe を使用して、現在のユーザーのアクショングループを通じて適用されたアクションの結果を表示すると、[適用されたアクション] タブにアクションの誤ったソースが表示されることがあります。例:2つのアクショングループ(Group1とGroup 2)がユーザーに割り当てられ、Group1にApplication1が含まれています。[適用されたアクション] タブには、Group2にApplication1が含まれていなくてもGroup2からApplication1と表示される場合があります。デフォルトでは、VUEMRSV.exe はエージェントインストールフォルダ%ProgramFiles%\ Citrix\ Workspace Environment Management エージェント\ VUEMRSV.exe にあります。)[WEM-20002]

2022 年 5 月

Citrix Cloud Connector を構成せずにエージェントを登録する

- 以前は、WEM エージェントが管理できるように Cloud Connector を構成する必要がありました。Cloud Connector は、次の 2 つの方法で構成できます。
 - エージェントのインストール時に Cloud Connector を設定します。詳細については、「[エージェントをインストールする](#)」を参照してください。
 - **CVAD** から **Citrix Cloud Connector** を検出するサービスポリシーを構成します。そのため、エージェントは関連する Citrix DaaS (以前の Citrix Virtual Apps and Desktops サービス) 展開から Cloud Connector 情報を検出し、対応する Cloud Connector マシンに接続します。詳細については、「[グループポリシーを構成する \(オプション\)](#)」を参照してください。

このリリース以降、Citrix Cloud Connector を構成しなくても WEM エージェントを登録できます。登録は、ドメインに参加しているマシンとドメインに参加していないマシンの両方に適用されます。詳細については、「[エージェントを登録する](#)」を参照してください。

- 必要なエージェントの最小バージョン:2205.1.0.1

スクリプト化されたタスク更新

- スクリプト化されたタスクでは、次の機能が利用可能になりました。
 - アップロードする複数のファイルを **1** つの **zip** ファイルにまとめることをサポートします。スクリプトタスクを追加するときに、複数のファイルを 1 つの zip ファイルにまとめてアップロードできるようになりました。この機能は、複数のスクリプトファイルで構成されるスクリプトタスクを実行する場合に便利です。zip ファイルをアップロードしたら、タスクの開始時に実行するファイルを示すエントリポイントを指定します。詳細については、「[スクリプト化されたタスク](#)」を参照してください。

- スクリプト化されたタスクレポートには、正規表現の一致のみを含めます。スクリプトタスクを設定するときに、[レポートに正規表現の一致のみを含める]という新しいオプションが[出力]で使用できるようになりました。このオプションは、出力コンテンツ全体をレポートに含めるか、正規表現に一致するコンテンツのみを含めるかを制御します。このオプションを有効にすると、Citrix Cloud に送信されるデータ量が減少します。詳細については、「[スクリプト化されたタスク](#)」を参照してください。
 - タグを使用してスクリプト化されたタスクを識別する機能。タグを使用して、スクリプト化されたタスクを識別できるようになりました。また、タグはフィルターとして機能し、重要な条件に応じてタスクの表示を再配置できます。詳細については、「[スクリプト化されたタスク](#)」を参照してください。
 - スクリプト化されたタスクで利用できるスケジュールオプションが増えました。スクリプト化されたタスクを実行するタイミングを制御する追加オプションが追加されました。時間単位の繰り返しパターンに加えて、毎日、毎週、毎月の繰り返しパターンを設定できるようになりました。また、スクリプト化されたタスクを実行する日時を指定して、より正確に制御することもできます。2205.1.0.1 より前のエージェントについては、この機能を使用する際の考慮事項に注意してください。詳細については、「[スクリプトタスクを設定する](#)」を参照してください。
- 必要なエージェントの最小バージョン:2205.1.0.1

Profile Management ヘルスチェックの機能強化

- このリリースには、Profile Management のヘルスチェック機能が次のように強化されています。
 - 監視 > 管理 > エージェントの [** 詳細] メニューで、次の操作を行います **。
 - * わかりやすくするために、**Profile Management** 構成チェックの更新の名前を「**Profile Management** ヘルスチェックの実行」に変更しました。
 - * **Profile Management** のヘルスチェックレポートを表示するオプションが追加されました。このオプションを使用すると、ターゲットエージェントマシンに関連する Profile Management の正常性レポートにすばやくアクセスできます。
- 詳細については、「[管理](#)」を参照してください。
- 設定セットの [詳細設定] > [監視設定] で、次の手順を実行します
 - * **Profile Management** のヘルスチェックセクションを追加しました。このセクションでは、Profile Management のヘルスチェックレポートでカバーする項目を指定できます。詳細については、「[詳細設定](#)」を参照してください。
- 必要なエージェントの最小バージョン:2205.1.0.1

新しいエージェントバージョン

WEM サービスエージェントの新しいバージョンが利用可能になりました: 2205.1.0.1。

解決された問題

- Microsoft AppLocker コンソールからエクスポートされた AppLocker ルールを WEM にインポートする場合、ハッシュタイプのルールはインポートできません。[WEM-20436]
- [レガシーコンソール] > [割り当て] > [モデリングウィザード] を使用すると、ネストされたグループ内のユーザーに対して実行されたアクションを表示できない場合があります。この問題は、アクションまたはアクショングループが割り当てられている最上位グループにユーザーがいない場合に発生します。例：最上位のグループは GroupA、GroupB はそのメンバーで、UserA は GroupB に所属しています。アクションまたはアクショングループを GroupA に割り当てた場合、モデリングウィザードを使用して UserA の結果のアクションを表示することはできません。[WEM-20842, WEMHELP-225]

レジストリファイルからグループポリシー設定をインポートする機能

[レジストリファイルからグループポリシー設定をインポートする] オプションが、[レガシーコンソール] > [アクション] > [グループポリシー設定] で使用できるようになりました。このオプションを使用すると、Windows レジストリエディターを使用してエクスポートしたレジストリ値を、管理および割り当て用の GPO に変換できます。レジストリエントリで使用できる [レジストリファイルのインポート] オプションに慣れている場合は、次の機能を使用できます：

- HKEY_LOCAL_MACHINE と HKEY_CURRENT_USER の両方でレジストリ値をインポートできます。
- REG_BINARY と REG_MULTI_SZ 型のレジストリ値をインポートできます。
- .reg ファイルで定義したレジストリキーと値に関連する削除操作の変換をサポートします。

詳細については、「[グループポリシー設定](#)」を参照してください。

Web コンソールでフィルターが利用可能になりました

Web コンソールで、新しいページ [フィルター] が各構成セットの [割り当て] 内で使用できるようになりました。そのページを使用して、ユーザーにアクションを割り当てるタイミングを制御するフィルターを追加できます。詳細については、「[フィルター](#)」を参照してください。

新しいエージェントバージョン

WEM サービスエージェントの新しいバージョンが利用可能になりました: 2204.2.0.1。

解決された問題

- 自己昇格または権限昇格が無効になっていると、WEM エージェントは、ユーザーの環境に問題がなくても Windows イベントログに次のエラーを書き込む可能性があります: `System.ArgumentException`

: Cannot delete a subkey tree because the subkey does not exist.
[WEM-20441]

2022 年 4 月

[監視] > [管理] の [その他] メニューの更新

- このリリースでは、[**Web** コンソール] > [監視] > [管理] の [その他] メニューの既存のオプションが、エージェント、プロファイル、および電源管理のグループに分類されています。このアップデートにより、必要なものが簡単に見つかります。オプションを使用するワークフローは変わりません。
- [その他] メニューのその他の更新内容は次のとおりです。
 - ** ウェイクアップエージェントの名前をウェイクに変更し **、電源管理グループに移動する
 - 次の 4 つの電源管理オプションを追加します。
 - * シャットダウン。エージェントをシャットダウンできます。
 - * 再起動。エージェントを再起動できます。
 - * スリープ。エージェントをスリープモードにすることができます。
 - * 休止状態。エージェントを休止モードにすることができます。

詳細については、「[管理](#)」を参照してください。

- 必要なエージェントの最小バージョン:2204.1.0.1

スクリプト化されたタスクのクローン作成のサポート

既存のスクリプトタスクを複製して新しいタスクのテンプレートとして使用できるようになりました。同様のタスクを最初から作成する必要はありません。詳細については、「[スクリプト化されたタスク](#)」を参照してください。

解決された問題

- 自己昇格ルールを別の構成セットに復元しようとする、失敗することがあります。[WEM-18602]

Citrix Optimization Pack を使用して **Azure** 仮想デスクトップを管理する

Azure 仮想デスクトップ向け Citrix Optimization Pack は、Azure 仮想デスクトップワークロードを最適化するための新しい Citrix 製品です。WEM サービスは、この Citrix Optimization Pack に含まれる主要なサービスです。このパックでは、WEM サービスを使用して、ネイティブの Azure 仮想デスクトップ環境を管理、最適化、および保護できます。詳しくは、「[Azure 仮想デスクトップ向け Citrix Optimization Pack](#)」を参照してください。

2022 年 3 月

Profile Management が Web コンソールで利用可能になりました

Web コンソールで、Citrix Profile Management を使用して、複数のセッションおよびデスクトップにわたるユーザープロファイルを管理できるようになりました。詳しくは、「[Profile Management 設定](#)」を参照してください。

スクリプト化されたタスクにパラメーターを渡す機能

- Web コンソールを使用して、実行時にスクリプトタスクにパラメーター変数として入力を提供できるようになりました。これにより、基になるコードを変更することなく、スクリプトタスクの動作を制御できます。また、WEM では、特定のタイプのオブジェクト (文字列、整数、スイッチなど) のみを受け入れるパラメーターと、パラメーターの名前を使用する名前付きパラメーター (パラメーターの名前を使用) など、使用するパラメーターを柔軟に設定できます。詳細については、「[スクリプト化されたタスク設定](#)」を参照してください。
- 必要なエージェントの最小バージョン:2203.2.0.1

エージェントをオンデマンドでアップグレードするオプション

- WEM エージェントをコンソールからオンデマンドでアップグレードできるようになりました。このオプションは、レガシーコンソールと Web コンソールの両方で使用できます。この機能を使用するには、次の手順を実行します。
 - レガシーコンソールで、[管理] > [エージェント] に移動し、エージェントを右クリックして、[エージェントを最新バージョンにアップグレード] を選択します。詳細については、「[管理](#)」を参照してください。
 - Web コンソールで、[モニタリング] > [管理] > [エージェント] に移動し、1 つ以上のエージェントを選択して [詳細] をクリックし、[エージェントを最新バージョンにアップグレード] を選択します。詳細については、「[管理](#)」を参照してください。
- 必要なエージェントの最小バージョン:2203.2.0.1

Web コンソールの更新

このリリースでは、Web コンソールに次のページが導入されました。

- ホーム。WEM 展開の概要と、WEM を迅速に理解して使用を開始するために必要な情報を提供します。このインタフェースは、次の 4 つの部分で構成されます。
 - 概要。WEM 展開の概要を説明します。
 - クイックアクセス。WEM が提供する主要機能のサブセットにすばやくアクセスできます。
 - ハイライト。WEM が提供する主な機能を示します。

- **Preview** 機能。現在 Preview 段階の機能を表示します。Preview 機能は、ご自身で有効または無効にできません。

詳しくは、[ホームページ](#)を参照してください。

- ディレクトリオブジェクト。WEM で管理するマシン、グループ、OUなどを追加できます。これで、次の操作が可能になります。
 - WEM で管理するマシン、グループ、組織単位 (OU)などを追加します。
 - どの構成セットにもバインドされていないエージェントに設定を適用します。そのため、バインドされていないエージェントの動作を制御できます。

詳細については、「[ディレクトリオブジェクト](#)」を参照してください。

- 割り当てターゲット。ユーザーとグループ (ターゲット) を追加して、アクションとセキュリティルールを割り当てることができます。詳細については、「[割り当て](#)」を参照してください。

The screenshot displays the WEM console interface. At the top, there are tabs for 'Overview', 'Manage', and 'Utilities', along with a 'Documentation' link. A search bar is located below the tabs. The main content area is divided into several sections:

- Overview:** Contains two summary cards. The 'Agents' card shows 'Total agents: 4' and 'Recently connected: 3'. The 'VDA health status (last 7 days)' card shows 'Normal: 0' and 'Unusual: 0'.
- Quick access:** A grid of six cards providing shortcuts to various management tasks, such as 'Optimize resource utilization', 'Optimize profile management', 'Assign group policies', 'Gain insights', 'Configure scripted tasks', and 'Enforce enterprise security'.
- Highlights:** A section featuring an illustration of a person in a boat and several links to detailed guides for 'CPU management', 'Scripted tasks', 'Privilege elevation', and 'External tasks'.

サービスインスタンスのお客様自身による移行のサポート

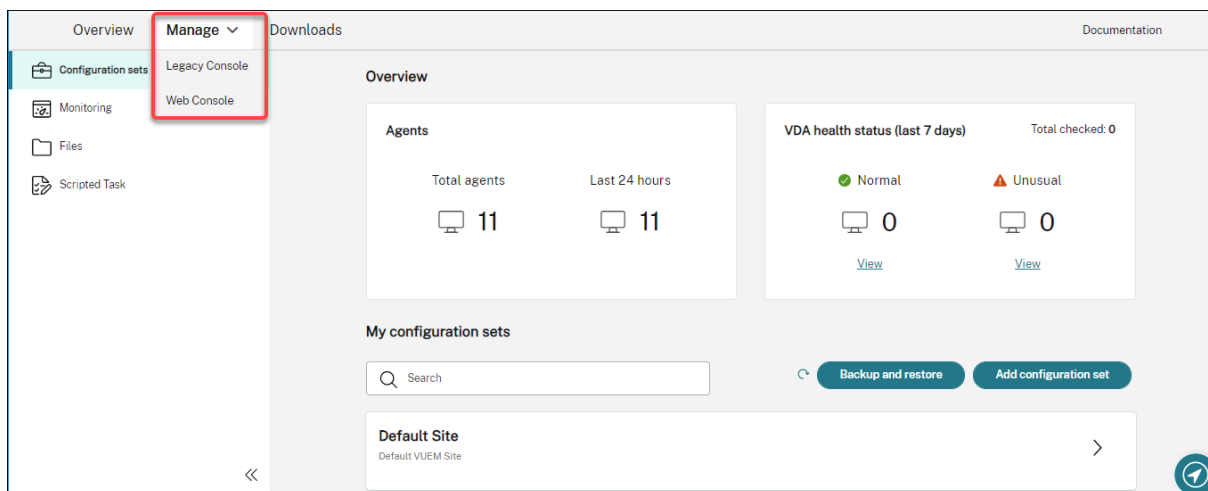
WEM サービスインスタンスが現在のリージョンに存在しない場合、Citrix テクニカルサポートに連絡しなくても、インスタンスを現在のリージョンに移行できます。Citrix Cloud にサインインし、**[Workspace Environment Management]** > [ユーティリティ] に移動し、[移行の開始] を選択します。移行が正常に完了すると、通知が届きます。通知が届くまでに最長で 2 日かかる場合があります。最高のパフォーマンスを得るには、インスタンスを現在のリージョンに移行することをお勧めします。

2022 年 1 月

Web コンソールが **Preview** として利用可能になりました

新しい Web ベースの Workspace Environment Management (WEM) コンソールが利用可能になりました。現在、すべての機能をレガシーコンソールから Web コンソールに移行中です。Web コンソールは通常、従来のコンソールよりも速く応答します。[**Manage**] タブから Web コンソールとレガシーコンソールを簡単に切り替えて、設定または展開管理タスクを実行できます。[管理] の横にある下矢印をクリックして、以下のいずれかのオプションを選択します：

- 従来のコンソール。従来のコンソールに移動します。
- **Web** コンソール。新しい Web ベースのコンソールに移動します。



次の機能は Web コンソールでのみ使用できます。

- スクリプト化されたタスクを実行する。スクリプト化されたタスクを追加して、独自の環境管理ニーズに合わせてカスタマイズできます。その後、該当する構成セットで構成することで、WEM でこれらのタスクを自動化できます。詳細については、「[スクリプト化されたタスク](#)」を参照してください。
- 構成セットのバックアップを自動的に保存します。構成セットの自動バックアップを管理できます。詳細については、「[構成セット](#)」を参照してください。

- プロファイルコンテナ内の大容量ファイルをスキャンします。コンテナの使用量が指定したしきい値を超えたときに、WEM エージェントがプロファイルコンテナ上の大きなファイルのスキャンを実行できるようにすることができます。詳細については、「[詳細設定](#)」を参照してください。
- 子プロセスが **CPU** 優先度を継承しないようにします。CPU スパイク保護を適用すると、CPU スパイク保護をトリガーするプロセスの CPU 優先度がより低いレベルに調整されます。そのプロセスの子プロセスは、下げられた CPU 優先度を自動的に継承します。[構成セット] > [システム最適化] > [CPU 管理] > [CPU スパイク保護を有効にする] タイルに、[子プロセスが **CPU** 優先度を継承しないようにする] オプションを追加しました。このオプションでは、CPU 優先度を継承しない子プロセスのプロセスを指定できます。詳細については、「[システム最適化](#)」を参照してください。
- **Web** コンソールの言語ローカリゼーションサポート。Web コンソールは、英語以外の言語での使用に適しています。Web コンソールは、コンソール自体が管理者の優先言語にローカライズされていない場合でも、英語以外の文字とキーボード入力をサポートします。サポートされる言語は、フランス語、ドイツ語、スペイン語、日本語です。

バインドされていないエージェントに設定を適用する

- どの構成セットにもバインドされていないエージェントに設定を適用できるようになりました。この機能により、バインドされていないエージェントの動作を制御できます。詳細については、「[Active Directory オブジェクト](#)」を参照してください。
- 必要なエージェントの最小バージョン:2201.2.0.1

Citrix Virtual Apps and Desktops Standard for Azure 展開でのドメインに参加していないマシンの管理のサポート

- WEM サービスを使用して、Citrix Virtual Apps and Desktops Standard for Azure 展開で、ドメインに参加していないマシンを管理できるようになりました。このサポートにより、ドメインに参加していないマシンの場合と同様に、ドメインに参加していないマシンにポリシーと設定を割り当てることができます。詳しくは、「[ドメインに参加していないマシンの管理](#)」を参照してください。
- 必要なエージェントの最小バージョン:2201.2.0.1

Azure AD ユーザーとグループの列挙のサポート

WEM サービスでは、Azure Active Directory (AD) ユーザーとグループの列挙がサポートされるようになりました。Citrix Cloud アカウントを Azure AD に接続したら、WEM で管理する Azure AD ユーザーとグループを追加できます。Citrix Cloud アカウントを Azure AD に接続する方法については、「[Azure Active Directory を Citrix Cloud に接続する](#)」を参照してください。

外部タスク

- このリリースには、外部タスク機能の拡張が含まれています。この機能では、外部タスクを実行するタイミングを制御するための3つの追加オプションが提供されるようになりました。
 - 切断。エージェントが実行されているマシンからユーザーが切断したときに、外部タスクを実行するかどうかを制御します。
 - **[ロック]**。エージェントが実行されているマシンをユーザーがロックしたときに、外部タスクを実行するかどうかを制御します。
 - ロック解除。エージェントが実行されているマシンをユーザーがロック解除したときに、外部タスクを実行するかどうかを制御します。

詳細については、「[外部タスク](#)」を参照してください。

- 必要なエージェントの最小バージョン:2201.1.0.1

Profile Management

- Workspace Environment Management では、2112 までのすべてのバージョンの Profile Management がサポートされるようになりました。また、[管理コンソール] > [ポリシーとプロファイル] > [**Citrix Profile Management 設定**] インターフェイスで、次の新しいオプションが使用できるようになりました。
 - プロファイルコンテナの **[ファイルの除外]** を有効にします。プロファイルコンテナ設定 (**Profile Container Settings**) タブで使用可能で、リストされたファイルをプロファイルコンテナから除外するかどうかを制御します。
 - プロファイルコンテナの **ファイルインクルージョン** を有効にします。プロファイルコンテナ設定 (**Profile Container Settings**) タブで使用可能で、親フォルダが除外されたときに、リストされたファイルをプロファイルコンテナに保持するかどうかを制御します。
 - **VHDX** ファイルのストレージパスをカスタマイズします。[詳細設定] タブでは、異なるポリシーの VHDX ファイルを、指定したストレージパスの異なるフォルダに保存するかどうかを制御します。

このリリースでは、Profile Management のワイルドカードもサポートされています。ファイルまたはフォルダを指定するときに、ワイルドカードを使用できるようになりました。詳しくは、「[Citrix Profile Management の設定](#)」を参照してください。

- 必要なエージェントの最小バージョン:2110.2.0.1

Azure Active Directory (AD) グループメンバーシップに基づく WEM サービスへの管理アクセス

Azure AD グループメンバーシップに基づいて WEM サービスへの管理アクセスを管理できるようになりました。Azure AD グループ内のユーザー（管理者）は、Citrix Cloud に直接オンボーディングして WEM サービスにアクセスできます。Citrix Cloud に手動で追加する必要はありません。この機能を使用する一般的なワークフローは次のとおりです。

1. Citrix Cloud アカウントを Azure AD に接続します。
2. Azure AD から Citrix Cloud に該当するグループを追加します。

その後、ユーザーは Azure AD の資格情報を使用して Citrix Cloud にサインインできます。詳しくは、「[Azure Active Directory を Citrix Cloud に接続する](#)」を参照してください。

解決された問題

- [管理コンソール] > [ポリシーとプロファイル] > [Microsoft USV 設定] > [フォルダーリダイレクト] タブで、[AppData のリダイレクト (ローミング)] と [ローカルリダイレクトされたフォルダーの削除] の両方を有効にすると、WEM エージェントは次の設定を適用できません。
 - 連絡先のリダイレクト
 - ダウンロードのリダイレクト
 - リダイレクトリンク
 - リダイレクト検索 [WEM-15016、CVADHELP-18196]
- 2103 以降にアップグレードすると、ユーザーの環境で問題が発生しない場合でも、WEM エージェントが 5 分おきに Windows イベントログにエラーを書き込むことがあります。[WEM-15466、CVADHELP-18352]
- VUEMRSV.exe を使用して、現在のユーザーの除外されたアクションまたは除外されたアクショングループに関する結果を表示すると、[除外されたアクション] タブにアクショングループが表示されません。デフォルトでは、VUEMRSV.exe はエージェントインストールフォルダ%ProgramFiles%\ Citrix\ Workspace Environment Management エージェント\ VUEMRSV.exe にあります。)[WEM-17075]

2021 年 11 月

インスタンス移行に関するメッセージ

別のリージョンのサービスを使用している場合、管理コンソールにサインインするとメッセージが表示されるようになりました。このメッセージは、サービスインスタンスを現在のリージョンに移行するよう促します。最適なパフォーマンスを得るには、そうすることをお勧めします。必要に応じて、Citrix テクニカルサポートに連絡してください。

統計をエクスポートするオプション

移行ツールに [統計のエクスポート] オプションが追加されました。エージェントとユーザの統計をエクスポートするかどうかを制御するには、オプションを使用します。詳しくは、「[移行](#)」を参照してください。

解決された問題

- [適用] をクリックして環境設定を保存すると、管理コンソールが予期せず終了することがあります。この問題は、[環境設定] > [スタート] メニュー > [壁紙の設定] の [** スタイル] 設定が空のままになっているために発生します (以前に [** スタイル] を [塗りつぶし] または [フィット] に設定していた場合は、管理コンソールをバージョン 2109 にアップグレードした後に設定が空になりました)。回避策:[スタイル] の設定を空白のままにしないでください。[WEM-16351、WEMHELP-159]

2021 年 10 月

ユーザーが特定のアプリケーションを自己昇格できるようにする

- このリリースでは、権限昇格機能の自己昇格が導入されました。自己昇格を使用すると、事前に正確な実行可能ファイルを提供しなくても、特定のユーザーの権限昇格を自動化できます。これらのユーザーは、該当するファイルを右クリックして、コンテキストメニューで [管理者権限で実行する] を選択するだけで、任意のファイルの自己昇格を要求できます。その後、昇格の理由を尋ねるプロンプトが表示されます。理由は監査目的です。条件が満たされると、昇格が適用され、ファイルは管理者権限で正常に実行されます。さらに、自己昇格機能により、ニーズに最適なソリューションを柔軟に選択できます。ユーザーに自己昇格を許可するファイルの許可リストを作成したり、ユーザーが自己昇格できないようにするファイルの禁止リストを作成できます。詳細については、「[自己昇格](#)」を参照してください。
- 必要な最小エージェントバージョン:2109.2.0.1

Citrix DaaS カタログを構成セットにバインドする

Citrix DaaS (以前の Citrix Virtual Apps and Desktops サービス) のフル構成管理インターフェイスを使用して、カタログを WEM 構成セットにバインドできるようになりました。これにより、WEM サービスを使用して、Citrix DaaS の展開に基づいてユーザーエクスペリエンスを最適化できます。既存のカタログ設定を再利用することで、可能な限り最高のワークスペースエクスペリエンスをユーザーにすばやく提供できます。詳しくは、「[マシンカタログの作成](#)」および「[マシンカタログの管理](#)」を参照してください。

Workspace Environment Management が Citrix Cloud Japan で利用可能になりました

Workspace Environment Management サービスは、Citrix Cloud から分離され分離されたクラウドである Citrix Cloud Japan で利用可能になりました。日本のお客様は、Citrix が管理する専用環境でサービスを利用できます。このサービスには、Citrix Cloud Connector バージョン 6.29.0.58841以降が必要です。詳しくは、「[Citrix Cloud Japan](#)」を参照してください。

Windows 11 のサポート

サポートには、最低限のエージェントバージョン 2109.2.0.1 が必要です。

解決された問題

- WEM エージェントは、大量のメモリ使用量を消費する可能性があります。場合によっては、メモリ消費量がセッションあたり 3 GB に増加することがあります。[WEM-14682、WEMHELP-133]

2021 年 9 月

子プロセスへの特権昇格の適用をより詳細に制御

- 以前は、ルールで [子プロセスに適用] 設定を使用すると、実行可能ファイルが開始したすべての子プロセスにルールを適用していました。このリリースでは、3 つの追加オプションが提供され、子プロセスへの特権昇格の適用をより細かく制御できます。
 - 同じフォルダ内の実行可能ファイルにのみ適用する
 - 署名付き実行可能ファイルにのみ適用
 - 同じパブリッシャの実行可能ファイルにのみ適用する

詳細については、「[権限の昇格](#)」を参照してください。

- 必要な最小エージェントバージョン:2109.2.0.1

Windows Server 2022 のサポート

サポートには、最低限のエージェントバージョン 2109.2.0.1 が必要です。

解決された問題

- WEM PowerShell SDK モジュールを使用して WEM 構成セットをエクスポートまたはインポートする場合、アプリケーションセキュリティ (AppLocker) ルールなどの特定の設定は含まれません。[WEM-12811、CVADHELP-18383]
- 32 ビットの実行可能ファイルに特権の昇格を適用すると、64 ビットの Windows オペレーティングシステムを実行しているコンピュータで、実行可能ファイルの特権を正常に昇格させることができます。ただし、実行可能規則で [子プロセスに適用] 設定が選択されているかどうかにかかわらず、その子プロセスはその特権を自動的に継承します。[WEM-13592]
- WEM を使用して特定のアプリケーションをタスクバーに固定すると、正常に固定されないことがあります。この問題は、Windows マルチセッション OS マシンで発生します。[WEM-14812]

- パスにスラッシュ (/) が含まれている場合、WEM はレジストリキーの展開に失敗します。この問題は、WEM がスラッシュをセパレーターとして誤って処理するために発生します。[WEM-15561、WEMHELP-146]

2021 年 8 月

アジア太平洋南部を拠点とするインスタンスの有効化

WEM サービスはグローバルに利用できます。当初は、米国ベースのインスタンスと EU ベースのインスタンスのみでした。さらに、アジア太平洋南ベースのインスタンスが提供されるようになりました。

2021 年 7 月

新しいエージェントバージョンに関する通知

このリリースでは、[ユーティリティ] タブで使用できる電子メール通知機能が更新されました。以前は、WEM サービスの今後のアップグレードに関する通知を受け取るかどうかを決定できました。このリリース以降、WEM サービスへのアップグレードに関する通知は受信されません。Workspace Environment Management サービスエージェントの新しいバージョンが利用可能になったことをお知らせするかどうかは、ユーザーが決定できます。

解決された問題

- 英語以外のバージョンの Microsoft Windows オペレーティングシステムでは、ユーザーの環境で問題が発生しない場合でも、ログオン中に WEM エージェントが Windows イベントログにエラーを書き込みます。[WEM-12603、CVADHELP-17381]
- WEM エージェントは、アイドルプロセスのメモリ使用量の最適化機能が有効になるたびに、Windows イベントログにエラーを書き込みます。また、この機能が動作しなかった場合、エージェントは Windows イベントログにエラーを書き込むことがあります。[WEM-12934]
- [ADAttribute:objectSid] 動的トークンを使用してobjectsid属性を抽出すると、WEM エージェントは対応する AD オブジェクトの属性を抽出できません。[WEM-13746]
- 管理コンソールを使用してデスクトップの壁紙を設定すると、WEM エージェントは壁紙の塗りつぶし、フィット、またはタイル表示に失敗します。[WEM-14408]

2021 年 6 月

権限昇格のパラメータマッチング

- このリリースでは、権限昇格機能のパラメータマッチングが導入されています。パラメータマッチングでは、指定したパラメータに一致する実行可能ファイルに権限昇格を制限することで、より詳細な制御が可能になり

ます。パラメータは一致基準として機能します。基準をさらに拡張するには、正規表現を使用できます。詳細については、「[権限の昇格](#)」を参照してください。

- 最低限必要なエージェントバージョン:2106.2.0.1

Windows インストーラーファイルの権限昇格のサポート

- このリリース以降、**.msi** および **.msp** Windows インストーラーファイルに権限昇格を適用できます。この機能を使用して、管理者以外のユーザーの権限を、一部の Windows インストーラーファイルに必要な管理者レベルに引き上げます。その結果、これらのユーザーは、管理者グループのメンバーであるかのようにこれらのファイルを実行できます。詳細については、「[権限の昇格](#)」を参照してください。
- 必要な最小エージェントバージョン:2105.1.0.1

Profile Management

- Workspace Environment Management では、2106 までのすべてのバージョンの Profile Management がサポートされるようになりました。管理コンソール > ポリシーとプロファイル > **Citrix Profile Management** 設定のユーザーインターフェイスが変更されました。
 - ユーザーストアを複製します。ユーザーストアへのパスを設定オプションで指定されたパスに加えて、ログオンおよびログオフのたびに複数のパスにユーザーストアをレプリケートできる新しいオプション。セッション中に変更されたユーザーストアのファイルおよびフォルダーと同期するには、アクティブライトバックを有効にします。このオプションを有効にすると、システム I/O が増加し、ログオフが延長される可能性があります。この機能は現在、完全なコンテナソリューションをサポートしていません。
 - フォルダのミラーリングを高速化します。フォルダのミラーリングを高速化する新しいオプション。このオプションを有効にすると、Profile Management はミラーフォルダを VHDX ベースの仮想ディスクに保存できます。その結果、Profile Management はログオン時に仮想ディスクをアタッチし、ログオフ時に仮想ディスクをデタッチします。これにより、ユーザーストアとローカルプロファイルの間でフォルダをコピーする必要がなくなります。
 - ユーザーストア認証情報。ユーザーストアにアクセスするときに Profile Management に現在のユーザーを偽装させるかどうかを制御できる新しいタブ。Profile Management で現在のユーザーを偽装できるようにするには、設定を無効にします。Profile Management が現在のユーザーを偽装しないようにするには、設定を有効にします。その結果、Profile Management は指定されたユーザーストアの資格情報を使用して、ユーザーに代わってユーザーストアにアクセスします。

詳しくは、「[Citrix Profile Management の設定](#)」を参照してください。

- 最低限必要なエージェントバージョン:2106.2.0.1

解決された問題

- フィルタに基づいてプリンタをユーザーに割り当てて、その割り当てがフィルタ条件を満たす場合、WEM エージェントはプリンタをユーザーに割り当てます。ただし、割り当てがフィルタ条件を満たさない場合でも、エージェントはユーザーが次回ログオンしたときにプリンタをユーザーに割り当てます。[WEM-11680、CVADHELP-16818]
- Windows PowerShell スクリプト実行ポリシーが [エージェントホストマシンで署名されたスクリプトのみを許可する] に設定されている場合、WEM は Profile Management のヘルスチェックを実行できません。ポリシーが [ローカルスクリプトとリモート署名済みスクリプトを許可] または [** すべてのスクリプトを許可 **] に設定されている場合、WEM は Profile Management のヘルスチェックを実行できますが、Windows イベントログにエラー情報を書き込みます。[WEM-11917]
- アクショングループを介してユーザーまたはユーザーグループにアクションを割り当てると、管理コンソールで [無効] に設定されていても、アクションは引き続き有効になります。[WEM-12757、CVADHELP-17406]
- WEM エージェントは VUEMRSV.exe (**Workspace Environment Management** 結果アクションビューア) をインストールします。これは、管理者が定義した WEM 構成をユーザーが表示できるようにするユーティリティです。ただし、ユーティリティの [エージェントの設定] タブでは、管理コンソールで構成された [キャッシュを使用してアクション処理を加速する] オプションに関連付けられている設定が表示されません。[WEM-12847]

2021 年 5 月

ユーザープロセスを外部タスクのトリガーとして構成する

- このリリースには、外部タスク機能の拡張が含まれています。この機能では、外部タスクを実行するタイミングを制御するための 2 つの追加オプションが追加されました。
 - プロセスの開始時に実行します。指定したプロセスの開始時に外部タスクを実行するかどうかを制御します。
 - プロセスが終了したときに実行します。指定したプロセスの終了時に外部タスクを実行するかどうかを制御します。

2 つのオプションを使用して、特定のプロセスが実行されている場合にのみリソースを提供し、プロセスの終了時にそれらのリソースを取り消す外部タスクを定義できます。プロセスを外部タスクのトリガーとして使用すると、ログオン時またはログオフ時に外部タスクを処理する場合に比べて、ユーザー環境をより正確に管理できます。詳細については、「[外部タスク](#)」を参照してください。

- 最低限必要なエージェントバージョン:2104.1.0.1

プロセス階層制御の機能強化

- このリリースでは、プロセス階層制御機能が強化され、全体的なパフォーマンスと安定性が向上します。機能強化には、次の変更があります。
 - **AppInfoViewer** ツールが更新され、** プロセス階層制御の有効化とプロセス階層制御の無効化の**2つのオプションが追加されました。プロセス階層制御機能を機能させるには、まず各エージェントマシンでツールを使用してこの機能を有効にする必要があります。このツールを使用して機能を有効または無効にするたびに、マシンの再起動が必要です。
 - 特定のシナリオでは、エージェントのアップグレードまたはアンインストール後にエージェントマシンを再起動する必要があります。詳細については、[考慮事項を参照してください](#)。
- 必要な最小エージェントバージョン:2105.1.0.1

解決された問題

- ファイルシステム操作のアクションを割り当てて、後でそのアクションを更新すると、以前にユーザー環境にコピーされたファイルまたはフォルダーが削除される可能性があります。この問題は、WEM エージェントは、アクションを更新した後、以前に行われた割り当てを元に戻すために発生します。[WEM-11924、CVADHELP-16916]
- [詳細設定] > [構成] > [メイン構成] タブで [エージェントタイプ] が [CMD] に設定されている場合、[監視] > [日次レポート] > [日次ログインレポート] タブに、現在の構成に接続されているすべてのユーザーのログオン時間の概要が表示されないことがある設定。[WEM-12226]

2021年4月

プロセス階層制御

- このリリースでは、プロセス階層制御機能が導入されました。この機能を使用すると、特定の子プロセスを親プロセスから起動できるかどうかを制御できます。ルールを作成するには、親プロセスを定義し、その子プロセスの許可リストまたは禁止リストを指定します。次に、ユーザー単位またはユーザーグループごとにルールを割り当てます。次の規則タイプを使用できます。
 - パス。実行ファイルのパスに従って、実行ファイルにルールを適用します。
 - 発行元。発行元情報に従ってルールを適用します。
 - ハッシュ。指定された同じ実行可能ファイルにルールを適用します。
- 詳細については、[プロセス階層制御を参照してください](#)。
- 必要なエージェントの最小バージョン:2103.2.0.1

アプリケーション・セキュリティ・ルールを上書きまたはマージする

今回のリリースでは、[管理コンソール] > [セキュリティ] > [アプリケーションセキュリティ] タブに、[上書き] と [結合] の 2 つの設定が追加されました。この設定により、エージェントがアプリケーションセキュリティルールを処理する方法を指定できます。

- 既存のルールを上書きする場合は、[上書き] を選択します。選択すると、最後に処理されたルールは、以前に処理されたルールを上書きします。この設定は、シングルセッションマシンにのみ適用することをお勧めします。
- ルールを既存のルールとマージする場合は、[マージ] を選択します。競合が発生すると、最後に処理されたルールは、以前に処理されたルールを上書きします。

詳細については、「[アプリケーションセキュリティ](#)」を参照してください。

解決された問題

- アプリケーションの処理時に WEM エージェントが応答しなくなり、正常に処理できないことがあります。[WEM-11435、CVADHELP-16706]
- 公開アプリケーションセッションを起動または切断するときに、ログオンが遅い、セッションの切断が遅いなどのパフォーマンスの問題が発生することがあります。この問題は、WEM エージェント 2005 以降で発生します。[WEM-11693]

2021 年 3 月

CVAD サービスから **Citrix Cloud Connector** を検出する

このリリースでは、「**CVAD** サービスからの **Citrix Cloud Connector** のディスカバー」というポリシー設定が導入されました。エージェントの Cloud Connector をまだ構成していない場合は、この設定を使用して、エージェントが関連する Citrix Virtual Apps and Desktops (CVAD) サービスの展開から Cloud Connector 情報を検出するかどうかを制御します。その後、エージェントは対応する Cloud Connector マシンに自動的に接続します。詳細については、「[ステップ 2: グループポリシーを構成する \(オプション\)](#)」を参照してください。

Windows 10 2009 テンプレートのサポート

Citrix Optimizer で導入された Windows 10 2009 (20H2) テンプレートのサポートを追加しました。WEM サービスを使用して、Windows 10 2009 マシンのテンプレートベースのシステム最適化を実行できるようになりました。さらに、最新のスタンドアロン Citrix Optimizer で導入された変更を反映するために、既存のテンプレートをすべて更新しました。Citrix Optimizer の使用について詳しくは、「[Citrix Optimizer](#)」を参照してください。

新しいホームページ

このリリースでは、WEM 管理コンソールのホームページが、WEM サービスの開始に必要な情報を提供するクイックスタートページに置き換えられます。画面の指示に従って、WEM 配置の設定を開始します。クイックスタートページを再度開くには、コンソールの右上隅にある [クイックスタート] (リボンで使用可能) をクリックします。詳細については、「[Workspace Environment Management サービスの開始](#)」を参照してください。

Profile Management

Workspace Environment Management サービスは、2103 までのすべてのバージョンの Profile Management をサポートするようになりました。また、[管理コンソール] > [ポリシーとプロファイル] > [**Citrix Profile Management** 設定] インターフェイスで、次の新しいオプションが使用できるようになりました。

- プロファイルコンテナのローカルキャッシュを有効にする
 - [プロファイルコンテナの設定] タブで使用できます。
 - 有効にすると、各ローカルプロファイルは、プロファイルコンテナのローカルキャッシュとして機能します。
- プロファイルコンテナへのマルチセッションライトバックを有効にする
 - [詳細設定] タブで使用できます。
 - **Citrix Profile Management** プロファイルコンテナのマルチセッションライトバックサポートに対応するため、以前のリリースの **FSLogix** プロファイルコンテナのマルチセッションライトバックの有効化を置き換えます。
- フォルダーのプロファイルストリーミングを有効にする
 - [ストリーム配信ユーザープロファイル] タブで使用できます。
 - 有効にすると、フォルダがアクセスされたときにのみフェッチされます。

詳しくは、「[Citrix Profile Management の設定](#)」を参照してください。

解決された問題

- ログレベルの変更をすぐに有効にするには、WEM エージェントが特定のレジストリキーに非常に頻繁にアクセスし、パフォーマンスが低下することがあります。[WEM-11217]
- アクショングループが複数のユーザーまたはユーザーグループに割り当てられている場合、ユーザーまたはユーザーグループから割り当てを解除すると、その割り当てが期待どおりに機能しないことがあります。たとえば、アクショングループを 2 つのユーザーグループ (グループ **A** とグループ **B**) に割り当てます。グループ **A** からアクショングループの割り当てを解除すると、アクショングループはグループ ****A** ではなくグループ **B** から割り当て解除されます。 **[WEM-11459、WEMHELP-75]

- 環境変数 ([アクション] > [環境変数]) を構成すると、`$Split(string,[splitter],index)$` 動的トークンを使用しようとするとうまく失敗することがあります。この問題は、動的トークンが複数行の文字列をサポートしていないために発生します。[WEM-11915]

2021 年 1 月

Microsoft Sync Framework 2.1 の廃止

Microsoft Sync Framework 2.1 は 2021 年 1 月 12 日に終了しました。WEM は、そのフレームワークに基づくレガシー同期サービスを削除し、代わりにオープンソースの同期フレームワークである新しい同期フレームワーク `dotmim.Sync` を使用しています。この変更はあなたにどのような影響を与えますか？

- WEM エージェントバージョン 1911 以降を使用している場合、この変更にはユーザーによる操作は必要ありません。
- 1911 より前のバージョンの WEM エージェントを使用している場合は、エージェントを 1911 にアップグレードします。

Citrix Virtual Apps and Desktops 製品ソフトウェアとの WEM エージェントの統合

WEM エージェントは Citrix Virtual Apps and Desktops 製品ソフトウェアと統合されているため、Virtual Delivery Agent (VDA) のインストール時に WEM エージェントを含めることができます。この統合は、Citrix Virtual Apps and Desktops 2012 製品ソフトウェア以降にも反映されます。詳しくは、「[Install Capture](#)」を参照してください。

グループポリシー設定の条件ベースの割り当てのサポート

- このリリースでは、フィルタを使用して割り当てをコンテキスト化することで、グループポリシー設定を条件付きにすることができます。フィルタは、ルールと複数の条件で構成されます。WEM エージェントは、ルール内のすべての条件が実行時にユーザー環境で満たされた場合에만、割り当てられたグループポリシー設定を適用します。そうしないと、エージェントはフィルタを適用するときにこれらの設定をスキップします。詳細については、「[グループポリシー設定のコンテキスト化](#)」を参照してください。
- 必要なエージェントの最小バージョン:2101.1.0.1

権限昇格

- このリリースでは、特権昇格機能が導入されました。この機能を使用すると、管理者以外のユーザーの権限を、一部の実行可能ファイルに必要な管理者レベルまで昇格できます。その結果、これらのユーザーは、管理者グループのメンバーであるかのように、これらの実行可能ファイルを起動できます。

この機能を使用すると、特定の実行可能ファイルのルールベースの特権の昇格を実装できます。次の規則タイプを使用できます。

- パス。実行ファイルのパスに従って、実行ファイルにルールを適用します。
- 発行元。発行元情報に従ってルールを適用します。
- ハッシュ。指定された同じ実行可能ファイルにルールを適用します。

オペレーティングシステムの種類に応じて、ルールの動作を構成できます。また、ルールが特定の時刻に有効になるか、特定の時間範囲内で有効にするかを設定することもできます。ルールは、ユーザー単位またはユーザーグループ単位で割り当てます。詳細については、「[権限の昇格](#)」を参照してください。

- 必要なエージェントの最小バージョン:2010.2.0.1

解決された問題

- 特権昇格機能が正常に動作しない可能性があります。この問題は、WEM エージェントのバージョン **2010.2.0.1**、**2011.1.0.1**、および ****2101.1.0.1**** で発生します。この問題は、Citrix WEM ソフトウェアの署名に使用された証明書の有効期限が切れているために発生します。この問題を回避するには、関連する WEM エージェントをアンインストールし、最新の WEM エージェントをインストールして、エージェントホストを再起動します。[WEM-11918]
- WEM エージェントがログオン中にアプリケーション処理を実行している間、Windows では [ショートカットの問題] ダイアログボックスが表示され、正常に動作しなくなったショートカットを削除するようにエンドユーザーに要求されることがあります。この問題は、ショートカットが参照するアイテムが変更または移動されたときに発生します。[WEM-10257、CVADHELP-15968]
- アプリケーションセキュリティ機能を使用すると、[ルールの編集] または [** ルールの追加 **] ウィンドウの [割り当て] セクションの [** 割り当て済み **] 列に、ユーザーまたはユーザーグループの横に緑のチェックマークが表示されます。緑色のチェックマークアイコンは、ルールがそのユーザーまたはユーザー・グループに割り当てられていることを示すとは限りません。ルールが割り当てられるのは、青色の背景を持つユーザーまたはユーザー・グループのみです。[WEM-10047]

以前のリリースの新機能

以前のリリースの新機能については、「[新着履歴](#)」を参照してください。

廃止

May 19, 2021

この資料では、Workspace Environment Management (WEM) サービスの機能を段階的に廃止して、タイムリーにビジネス上の決定を下すことができます。シトリックスではお客様の使用状況とフィードバックをチェックして、各機能を撤廃するかどうかを判断しています。お知らせする内容は以降のリリースで変わることがあり、廃止される機能がすべて含まれるわけではありません。

製品ライフサイクルサポートの詳細については、[製品ライフサイクルサポートポリシー](#) 記事を参照してください。

廃止と削除

次の表に、非推奨または削除された WEM サービスの機能を示します。

廃止されたアイテムはすぐには削除されません。引き続きサポートされますが、今後のリリースでは削除される予定です。

削除された項目は、WEM サービスで削除されるか、サポートされなくなりました。

項目	発表されたバージョン	削除されたバージョン	代替手段
Microsoft Sync Framework 2.1 に基づくレガシーエージェントキャッシュ同期サービスのサポート。	2020年9月	2021年1月	1911 より前の WEM エージェントバージョンを使用する場合は、エージェントを 1911 以降にアップグレードします。

サードパーティ製品についての通知

August 12, 2020

Workspace Environment Management には、次のドキュメントで定義されている条件に基づいてライセンス供与されたサードパーティ製ソフトウェアが含まれる場合があります。

[Workspace Environment Management サードパーティ通知](#)

既知の問題

May 28, 2024

- 特定のタイプの **UPM** ヘルスチェックでは、ユーザーはタスク履歴ページから [レポート] ページにアクセスできません。[WEM-36422]

以前のバージョンの WEM サービスに関する既知の問題については、「[以前のリリースの既知の問題](#)」を参照してください。

以前のリリースで発生した既知の問題

May 28, 2024

Workspace Environment Management サービス 2403.1.0.1

- スタートメニューのショートカットを作成したり、アプリケーションを [スタート] メニューに固定したりすると、ショートカットは指定されたパスに作成されるのではなく、スタートメニューのルートフォルダに生成されます。この問題は Windows Server 2022/2019 でのみ発生し、Windows Server 2016 では発生しません。[WEM-32923, CVADHELP-24045]

Workspace Environment Management サービス 2401.1.0.1

- スタートメニューのショートカットを作成したり、アプリケーションを [スタート] メニューに固定したりすると、ショートカットは指定されたパスに作成されるのではなく、スタートメニューのルートフォルダに生成されます。この問題は Windows Server 2022/2019 でのみ発生し、Windows Server 2016 では発生しません。[WEM-32923, CVADHELP-24045]

Workspace Environment Management サービス 2311.1.0.1

このリリースでは問題は確認されていません。

Workspace Environment Management サービス 2310.1.0.1

このリリースでは問題は確認されていません。

Workspace Environment Management サービス 2309.2.0.1

このリリースでは問題は確認されていません。

Workspace Environment Management サービス 2309.1.0.1

- SaaS アプリケーションなど、「Citrix Workspace (StoreFront) リソース」タイプの特定のアプリケーションは、エージェントマシンで起動できない場合があります。[WEM-26968]
- WEM エージェントが Windows Server 2022 で実行されている場合、特定のプロセスに適用するメモリ使用量の制限が正常に機能しない場合があります。[WEM-28773]

Workspace Environment Management サービス 2307.1.0.1

- SaaS アプリケーションなど、「Citrix Workspace (StoreFront) リソース」タイプの特定のアプリケーションは、エージェントマシンで起動できない場合があります。[WEM-26968]
- WEM エージェントが Windows Server 2022 で実行されている場合、特定のプロセスに適用するメモリ使用量の制限が正常に機能しない場合があります。[WEM-28773]
- WEM エージェントが起動時にポリシー設定の取得に失敗すると、(SMB 共有設定によって構成された) 対象の SMB 接続にすぐにはアクセスできません。このシナリオでは、15 分ごとに行われる次の接続更新を待つ必要があります。[WEM-29142]

Workspace Environment Management サービス 2306.1.0.1

- SaaS アプリケーションなど、「Citrix Workspace (StoreFront) リソース」タイプの特定のアプリケーションは、エージェントマシンで起動できない場合があります。[WEM-26968]
- Windows イベントログに次のエラーが断続的に表示されることがあります：
`HostDirectoryServicesController.IsCurrentDomainReachable()` :
`Checking domain status timed out.` WEM がドメインに到達可能かどうかの確認に失敗するたびに、エラーは Windows イベントログに書き込まれます。WEM がポリシーを処理するときにチェックが必要です。この問題は WEM エージェントの機能には影響しません。[WEM-27435, CVADHELP-22396]
- 構成セットに含まれるテンプレートベースの GPO が多すぎる (10,000 個など) 場合、構成セットを復元しようとするとうまく失敗することがあります。[WEM-28447]
- WEM エージェントが Windows Server 2022 で実行されている場合、特定のプロセスに適用するメモリ使用量の制限が正常に機能しない場合があります。[WEM-28773]

Workspace Environment Management サービス 2304.2.0.1

- SaaS アプリケーションなど、「Citrix Workspace (StoreFront) リソース」タイプの特定のアプリケーションは、エージェントマシンで起動できない場合があります。[WEM-26968]

Workspace Environment Management サービス 2304.1.0.1

- SaaS アプリケーションなど、「Citrix Workspace (StoreFront) リソース」タイプの特定のアプリケーションは、エージェントマシンで起動できない場合があります。[WEM-26968]

Workspace Environment Management サービス 2302.1.0.1

- SaaS アプリケーションなど、「Citrix Workspace (StoreFront) リソース」タイプの特定のアプリケーションは、エージェントマシンで起動できない場合があります。[WEM-26968]

Workspace Environment Management サービス 2301.1.0.1

- レガシーコンソールでは、**State** 列ヘッダーをクリックしてソートしても、項目が期待どおりにソートされません。[WEM-25978、WEMHELP-274]
- 従来のコンソールでは、バックアップウィザードを使用してグループポリシー設定をバックアップする場合、[バックアップアクション] ボタンは使用できません。この問題は、Web コンソールを使用して作成されたリソースが設定セットに含まれていない場合でも発生します。[WEM-26240]

Workspace Environment Management サービス 2211.1.0.1

- オフラインモードで実行している場合、エージェントは [詳細設定] > [ファイル共有] で構成した **SMB** 共有に接続できません。この問題はエージェントの機能には影響しません。[WEM-25318]

Workspace Environment Management サービス 2210.2.0.1

- 以前のバックアップから設定を復元すると、ユーザーストア関連の認証情報で問題が発生します。
 - 従来のコンソールでは、認証情報に加えられた変更を保存することはできません。
 - Web コンソールで、復元された認証情報が [詳細設定] > [ファイル共有] に表示されません。[WEM-23466]
- Mozilla Firefox ブラウザでは、組み込みのスクリプトタスク Cloud Health Check がカスタムスクリプトタスクの上に表示されません。[WEM-24166]
- 次の両方の条件が満たされると、アプリケーションセキュリティルールは機能しません。
 - 発行元タイプの例外ルールです。
 - ファイルバージョンに「An above」または「An Below」が選択されています。[WEM-24327、CVADHELP-21205]

Workspace Environment Management サービス 2210.1.0.1

- 以前のバックアップから設定を復元すると、ユーザーストア関連の認証情報で問題が発生します。
 - 従来のコンソールでは、認証情報に加えられた変更を保存することはできません。
 - Web コンソールで、復元された認証情報が [詳細設定] > [ファイル共有] に表示されません。[WEM-23466]
- Mozilla Firefox ブラウザでは、組み込みのスクリプトタスク Cloud Health Check がカスタムスクリプトタスクの上に表示されません。[WEM-24166]

Workspace Environment Management サービス 2208.1.0.1

- Web コンソールで、[監視] > [管理] > [ユーザー統計] でフィルターの [最終ログオン] を使用して結果を絞り込むと、フィルターが期待どおりに機能しない場合があります。この問題は、終了日を未指定のままにすると発生します。回避策として、フィルタを使用するときに終了日を指定します。[WEM-23705]

Workspace Environment Management サービス 2207.2.0.1

このリリースでは問題は確認されていません。

Workspace Environment Management サービス 2207.1.0.1

このリリースでは問題は確認されていません。

Workspace Environment Management サービス 2206.2.0.1

- Web コンソールで、REG_QWORDおよびREG_QWORD_LITTLE_ENDIANの種類のレジストリ操作を追加または編集しようとするとう失敗することがあります。この問題は、9007199254740991を超える 10 進数値、または1FFFFFFFFFFFFFFFを超える 16 進数値を入力すると発生します。回避策として、代わりにレガシーコンソールを使用してください。

Web コンソールを使用して、値が制限を超える 2 種類のレジストリ操作を編集すると、「無効な値または形式」というエラーメッセージが表示されます。メッセージは却下できます。[WEM-22217]

Workspace Environment Management サービス 2205.1.0.1

- VUEMRSV.exe を使用して、現在のユーザーのアクショングループを通じて適用されたアクションの結果を表示すると、[適用されたアクション] タブにアクションの誤ったソースが表示されることがあります。例:2 つ

のアクショングループ (**Group1**と**Group 2**) がユーザーに割り当てられ、**Group1**に**Application1**が含まれています。【適用されたアクション】タブには、**Group2**に**Application1**が含まれていなくても**Group2**から**Application1**と表示される場合があります。デフォルトでは、VUEMRSV.exe はエージェントインストールフォルダ%ProgramFiles%\ Citrix\ Workspace Environment Management エージェント\ VUEMRSV.exe にあります。)[WEM-20002]

Workspace Environment Management サービス 2204.2.0.1

- VUEMRSV.exe を使用して、現在のユーザーのアクショングループを通じて適用されたアクションの結果を表示すると、【適用されたアクション】タブにアクションの誤ったソースが表示されることがあります。例:2つのアクショングループ (**Group1**と**Group 2**) がユーザーに割り当てられ、**Group1**に**Application1**が含まれています。【適用されたアクション】タブには、**Group2**に**Application1**が含まれていなくても**Group2**から**Application1**と表示される場合があります。デフォルトでは、VUEMRSV.exe はエージェントインストールフォルダ%ProgramFiles%\ Citrix\ Workspace Environment Management エージェント\ VUEMRSV.exe にあります。)[WEM-20002]
- Microsoft AppLocker コンソールからエクスポートされた AppLocker ルールを WEM にインポートする場合、ハッシュタイプのルールはインポートできません。[WEM-20436]
- [レガシーコンソール] > [割り当て] > [モデリングウィザード] を使用すると、ネストされたグループ内のユーザーに対して実行されたアクションを表示できない場合があります。この問題は、アクションまたはアクショングループが割り当てられている最上位グループにユーザーがいない場合に発生します。例: 最上位のグループは**GroupA**、**GroupB**はそのメンバーで、**UserA**は**GroupB**に所属しています。アクションまたはアクショングループを**GroupA**に割り当てた場合、モデリングウィザードを使用して**UserA**の結果のアクションを表示することはできません。[WEM-20842, WEMHELP-225]

Workspace Environment Management サービス 2204.1.0.1

- Microsoft AppLocker コンソールからエクスポートされた AppLocker ルールを WEM にインポートする場合、ハッシュタイプのルールはインポートできません。[WEM-20436]
- 自己昇格または権限昇格が無効になっていると、WEM エージェントは、ユーザーの環境に問題がなくても Windows イベントログに次のエラーを書き込む可能性があります: **System.ArgumentException : Cannot delete a subkey tree because the subkey does not exist.** [WEM-20441]

Workspace Environment Management サービス 2203.2.0.1

- 自己昇格ルールを別の構成セットに復元しようとする、失敗することがあります。[WEM-18602]

Workspace Environment Management サービス 2201.2.0.1

- Windows 10 および Windows 11 マシンでは、管理コンソールで構成した環境設定などの特定の設定が機能しないことがあります。[WEM-14193]
- 自己昇格ルールを別の構成セットに復元しようとする、失敗することがあります。[WEM-18602]

Workspace Environment Management サービス 2201.1.0.1

- Windows 10 および Windows 11 マシンでは、管理コンソールで構成した環境設定などの特定の設定が機能しないことがあります。[WEM-14193]

Workspace Environment Management サービス 2110.2.0.1

- Windows 10 および Windows 11 マシンでは、管理コンソールで構成した環境設定などの特定の設定が機能しないことがあります。[WEM-14193]
- [管理コンソール] > [ポリシーとプロファイル] > [Microsoft USV 設定] > [フォルダーリダイレクト] タブで、[AppData のリダイレクト (ローミング)] と [ローカルリダイレクトされたフォルダーの削除] の両方を有効にすると、WEM エージェントは次の設定を適用できません。
 - 連絡先のリダイレクト
 - ダウンロードのリダイレクト
 - リダイレクトリンク
 - リダイレクト検索 [WEM-15016、CVADHELP-18196]
- 2103 以降にアップグレードすると、ユーザーの環境で問題が発生しない場合でも、WEM エージェントが 5 分おきに Windows イベントログにエラーを書き込むことがあります。[WEM-15466、CVADHELP-18352]

Workspace Environment Management サービス 2110.1.0.1

- Windows 10 および Windows 11 マシンでは、管理コンソールで構成した環境設定などの特定の設定が機能しないことがあります。[WEM-14193]
- Windows Update がエージェントホストに KB5005033 をインストールした後、割り当てられたプリンタは機能しません。この問題は、更新プログラムによって Windows プリントスプーラサービスの自動起動が妨げられるために発生します。回避策として、サービスを手動で開始します。[WEM-15028]
- Windows Server 2022 にアップグレードした後、WEM インフラストラクチャサービスが応答しないことがあります。回避策として、インフラストラクチャサービスを再インストールし、WEM データベースに接続するように設定します。[WEM-15353]

- 2103 以降にアップグレードすると、ユーザーの環境で問題が発生しない場合でも、WEM エージェントが 5 分おきに Windows イベントログにエラーを書き込むことがあります。[WEM-15466、CVADHELP-18352]
- [適用] をクリックして環境設定を保存すると、管理コンソールが予期せず終了することがあります。この問題は、[環境設定] > [スタート] メニュー > [壁紙の設定] の [** スタイル] 設定が空のままになっているために発生します (以前に [** スタイル] を [塗りつぶし] または [フィット] に設定していた場合は、管理コンソールをバージョン 2109 にアップグレードした後に設定が空になりました)。回避策:[スタイル] の設定を空白のままにしないでください。[WEM-16351、WEMHELP-159]

Workspace Environment Management サービス 2109.2.0.1

- Windows 10 および Windows 11 マシンでは、管理コンソールで構成した環境設定などの特定の設定が機能しないことがあります。[WEM-14193]
- Windows Update がエージェントホストに KB5005033 をインストールした後、割り当てられたプリンタは機能しません。この問題は、更新プログラムによって Windows プリントスプーラサービスの自動起動が妨げられるために発生します。回避策として、サービスを手動で開始します。[WEM-15028]
- Windows Server 2022 にアップグレードした後、WEM インフラストラクチャサービスが応答しないことがあります。回避策として、インフラストラクチャサービスを再インストールし、WEM データベースに接続するように設定します。[WEM-15353]
- [適用] をクリックして環境設定を保存すると、管理コンソールが予期せず終了することがあります。この問題は、[環境設定] > [スタート] メニュー > [壁紙の設定] の [** スタイル] 設定が空のままになっているために発生します (以前に [** スタイル] を [塗りつぶし] または [フィット] に設定していた場合は、管理コンソールをバージョン 2109 にアップグレードした後に設定が空になりました)。回避策:[スタイル] の設定を空白のままにしないでください。[WEM-16351、WEMHELP-159]

Workspace Environment Management サービス 2107.2.0.1

- 32 ビットの実行可能ファイルに特権の昇格を適用すると、64 ビットの Windows オペレーティングシステムを実行しているコンピュータで、実行可能ファイルの特権を正常に昇格させることができます。ただし、実行可能規則で [子プロセスに適用] 設定が選択されているかどうかにかかわらず、その子プロセスはその特権を自動的に継承します。[WEM-13592]
- Windows 10 マシンでは、管理コンソールで構成した環境およびその他の特定の設定が機能しない場合があります。[WEM-14193]

Workspace Environment Management サービス 2107.1.0.1

- [ADAttribute:objectSid] 動的トークンを使用してobjectsid属性を抽出すると、WEM エージェントは対応する AD オブジェクトの属性を抽出できません。[WEM-13746]

- Windows 10 マシンでは、管理コンソールで構成した環境およびその他の特定の設定が機能しない場合があります。[WEM-14193]

Workspace Environment Management サービス 2106.2.0.1

- Windows 10 マシンでは、管理コンソールで構成した環境およびその他の特定の設定が機能しない場合があります。[WEM-14193]

Workspace Environment Management サービス 2105.1.0.1

- フィルタに基づいてプリンタをユーザーに割り当てて、その割り当てがフィルタ条件を満たす場合、WEM エージェントはプリンタをユーザーに割り当てます。ただし、エージェントは、ユーザーの次回ログオン時に、その時点で割り当てがフィルター条件を満たしていない場合でも、プリンターをユーザーに割り当てます。[WEM-11680、CVADHELP-16818]
- アクショングループを介してユーザーまたはユーザーグループにアクションを割り当てると、管理コンソールで [無効] に設定されていても、アクションは引き続き有効になります。[WEM-12757、CVADHELP-17406]
- Windows 10 マシンでは、管理コンソールで構成した環境およびその他の特定の設定が機能しない場合があります。[WEM-14193]

Workspace Environment Management サービス 2104.1.0.1

- フィルタに基づいてプリンタをユーザーに割り当てて、その割り当てがフィルタ条件を満たす場合、WEM エージェントはプリンタをユーザーに割り当てます。ただし、エージェントは、ユーザーの次回ログオン時に、その時点で割り当てがフィルター条件を満たしていない場合でも、プリンターをユーザーに割り当てます。[WEM-11680、CVADHELP-16818]
- ファイルシステム操作のアクションを割り当てて、後でそのアクションを更新すると、以前にユーザー環境にコピーされたファイルまたはフォルダーが削除される可能性があります。この問題は、WEM エージェントは、アクションを更新した後、以前に行われた割り当てを元に戻すために発生します。[WEM-11924、CVADHELP-16916]
- [詳細設定] > [構成] > [メイン構成] タブで [エージェントタイプ] が [CMD] に設定されている場合、[監視] > [日次レポート] > [日次ログインレポート] タブに、現在の構成に接続されているすべてのユーザーのログオン時間の概要が表示されないことがある設定。[WEM-12226]
- Windows 10 マシンでは、管理コンソールで構成した環境およびその他の特定の設定が機能しない場合があります。[WEM-14193]

Workspace Environment Management サービス 2103.2.0.1

- 公開アプリケーションセッションを起動または切断するときに、ログオンが遅い、セッションの切断が遅いなどのパフォーマンスの問題が発生することがあります。この問題は、WEM エージェント 2005 以降で発生します。[WEM-11693]
- Windows 10 マシンでは、管理コンソールで構成した環境およびその他の特定の設定が機能しない場合があります。[WEM-14193]

Workspace Environment Management サービス 2101.2.0.1

- ログインレベルの変更をすぐに有効にするために、WEM エージェントは特定のレジストリキーに頻繁にアクセスして、パフォーマンスに影響を与える可能性があります。[WEM-11217]
- アクショングループが複数のユーザーまたはユーザーグループに割り当てられている場合、ユーザーまたはユーザーグループから割り当てを解除すると、その割り当てが期待どおりに機能しないことがあります。たとえば、アクショングループを 2 つのユーザーグループ (グループ **A** とグループ **B**) に割り当てます。グループ **A** からアクショングループの割り当てを解除すると、アクショングループはグループ ****A** ではなくグループ **B** から割り当て解除されます。 **[WEM-11459、WEMHELP-75]
- Windows 10 マシンでは、管理コンソールで構成した環境およびその他の特定の設定が機能しない場合があります。[WEM-14193]

Workspace Environment Management サービス 2101.1.0.1

- アプリケーションセキュリティ機能を使用すると、[ルールの編集] または [** ルールの追加 **] ウィンドウの [割り当て] セクションの [** 割り当て済み **] 列に、ユーザーまたはユーザーグループの横に緑のチェックマークが表示されます。緑色のチェックマークアイコンは、ルールがそのユーザーまたはユーザー・グループに割り当てられていることを示すとは限りません。ルールが割り当てられるのは、青色の背景を持つユーザーまたはユーザー・グループのみです。[WEM-10047]
- 特権昇格機能が正常に動作しない可能性があります。この問題は、WEM エージェントのバージョン **2101.2.0.1**、**2101.1.0.1**、および ****2101.1.0.1**** で発生します。この問題は、Citrix WEM ソフトウェアの署名に使用された証明書の有効期限が切れているために発生します。この問題を回避するには、関連する WEM エージェントをアンインストールし、最新の WEM エージェントをインストールして、エージェントホストを再起動します。[WEM-11918]
- Windows 10 マシンでは、管理コンソールで構成した環境およびその他の特定の設定が機能しない場合があります。[WEM-14193]

Workspace Environment Management サービス 2011.1.0.1

- アプリケーションセキュリティ機能を使用すると、[ルールの編集] または [** ルールの追加 **] ウィンドウの [割り当て] セクションの [** 割り当て済み **] 列に、ユーザーまたはユーザーグループの横に緑のチェックマークが表示されます。緑色のチェックマークアイコンは、ルールがそのユーザーまたはユーザー・グループに割り当てられていることを示すとは限りません。ルールが割り当てられているのは、バックグラウンドで青色のハイライトがあるユーザーまたはユーザー・グループのみです。[WEM-10047]
- 特権昇格機能が正常に動作しない可能性があります。この問題は、WEM エージェントのバージョン **2010.2.0.1** および 2011.1.0.1 ** で発生します。この問題は、Citrix WEM ソフトウェアの署名に使用された証明書の有効期限が切れているために発生します。この問題を回避するには、関連する WEM エージェントをアンインストールし、最新の WEM エージェントをインストールして、エージェントホストを再起動します。[WEM-11918]
- Windows 10 マシンでは、管理コンソールで構成した環境およびその他の特定の設定が機能しない場合があります。[WEM-14193]

Workspace Environment Management サービス 2010.2.0.1

- WEM エージェントをバージョン 1912 にアップグレードした後、**Citrix WEM** エージェントホストサービスのメモリ消費が 2G を超えることがあります。デバッグモードが有効な場合、**Citrix WEM** エージェントホストサービスの **Debug.log** ファイルに次のメッセージが何度も表示されることがわかります。
 - **DB** ライターのキューに履歴エントリを追加する
 - プロセスのプロセス制限スレッドを初期化中 [WEM-9432、CVADHELP-15147]
- WEM エージェントをバージョン 2005 にアップグレードすると、**Citrix WEM** エージェントホストサービスが **CPU** リソース全体の 10% ~30% を消費し、ユーザーエクスペリエンスに影響を与えることがあります。[WEM-9902、WEMHELP-47]
- アプリケーションセキュリティ機能を使用すると、[ルールの編集] または [** ルールの追加 **] ウィンドウの [割り当て] セクションの [** 割り当て済み **] 列に、ユーザーまたはユーザーグループの横に緑のチェックマークが表示されます。緑色のチェックマークアイコンは、ルールがそのユーザーまたはユーザー・グループに割り当てられていることを示すとは限りません。ルールが割り当てられているのは、バックグラウンドで青色のハイライトがあるユーザーまたはユーザー・グループのみです。[WEM-10047]
- [レジストリファイルからインポート] ウィンドウでレジストリファイルを選択すると、[管理] タブに黒い画面が表示されます。**Esc** キーを押してウィンドウを終了し、[はい] をクリックします。[WEM-10103]
- 特権昇格機能が正常に動作しない可能性があります。この問題は、WEM エージェントバージョン 2010.2.0.1 で発生します。この問題は、Citrix WEM ソフトウェアの署名に使用された証明書の有効期限が切れているために発生します。この問題を回避するには、関連する WEM エージェントをアンインストールし、最新の WEM エージェントをインストールして、エージェントホストを再起動します。[WEM-11918]

- Windows 10 マシンでは、管理コンソールで構成した環境およびその他の特定の設定が機能しない場合があります。[WEM-14193]

Workspace Environment Management サービス 2010.1.0.1

- WEM エージェントをバージョン 1912 にアップグレードした後、**Citrix WEM** エージェントホストサービスのメモリ消費が 2G を超えることがあります。デバッグモードが有効な場合、**Citrix WEM** エージェントホストサービスの **Debug.log** ファイルに次のメッセージが何度も表示されることがわかります。
 - **DB** ライターのキューに履歴エントリを追加する
 - プロセスのプロセス制限スレッドを初期化中 [WEM-9432、CVADHELP-15147]
- WEM エージェントをバージョン 2005 にアップグレードすると、**Citrix WEM** エージェントホストサービスが **CPU** リソース全体の 10% ~30% を消費し、ユーザーエクスペリエンスに影響を与えることがあります。[WEM-9902、WEMHELP-47]
- アプリケーションセキュリティ機能を使用すると、[ルールの編集] または [** ルールの追加 **] ウィンドウの [割り当て] セクションの [** 割り当て済み **] 列に、ユーザーまたはユーザーグループの横に緑のチェックマークが表示されます。緑色のチェックマークアイコンは、ルールがそのユーザーまたはユーザー・グループに割り当てられていることを示すとは限りません。ルールが割り当てられているのは、バックグラウンドで青色のハイライトがあるユーザーまたはユーザー・グループのみです。[WEM-10047]
- Windows 10 マシンでは、管理コンソールで構成した環境およびその他の特定の設定が機能しない場合があります。[WEM-14193]

Workspace Environment Management サービス 2009.1.0.1

- WEM エージェントをバージョン 1912 にアップグレードした後、**Citrix WEM** エージェントホストサービスのメモリ消費が 2G を超えることがあります。デバッグモードが有効な場合、**Citrix WEM** エージェントホストサービスの **Debug.log** ファイルに次のメッセージが何度も表示されることがわかります。
 - **DB** ライターのキューに履歴エントリを追加する
 - プロセスのプロセス制限スレッドを初期化中 [WEM-9432、CVADHELP-15147]
- WEM エージェントをバージョン 2005 にアップグレードすると、**Citrix WEM** エージェントホストサービスが **CPU** リソース全体の 10% ~30% を消費し、ユーザーエクスペリエンスに影響を与えることがあります。[WEM-9902、WEMHELP-47]
- WEM 管理コンソールに、次回アプリケーションを編集するときに、インストールされたアプリケーションの作業ディレクトリに加えた変更が表示されないことがあります。[WEM-10007、CVADHELP-15695]
- 非永続的な環境では、管理コンソールを使用して行った変更がエージェントホストで有効にならなくなる場合があります。この問題は、ベースイメージ内のエージェントキャッシュファイルがキャッシュ同期の問題を引

き起こす可能性があるために発生します。回避策として、ユーザーはまずエージェントホストのキャッシュを削除し、次にキャッシュを手動で更新してキャッシュをインフラストラクチャサービスと同期させる必要があります。

推奨されるベストプラクティスは、エージェントキャッシュに永続的な場所を使用することです。エージェントキャッシュが非永続的な場所に存在する場合は、ベースイメージをシールする前に次の手順を実行します。

1. **Citrix WEM** エージェントホストサービスを停止します。
 2. エージェントローカルデータベースファイル (**LocalAgentCache.db** と **LocalAgentDatabase.db**) を削除します。 [WEM-10082]
- 次のオプションは相互に排他的ではありません。ただし、管理コンソールでは、同時に設定することはできません。
 - エクスプローラで指定したドライブを非表示にし、エクスプローラから指定したドライブを制限する
** ([** ポリシーとプロファイル] > [環境設定] > [Windows エクスプローラ] タブ) [WEM-10172、WEMHELP-52]
 - Windows 10 マシンでは、管理コンソールで構成した環境およびその他の特定の設定が機能しない場合があります。 [WEM-14193]

Workspace Environment Management サービス 2008.1.0.1

- Windows 10 マシンでは、管理コンソールで構成した環境およびその他の特定の設定が機能しない場合があります。 [WEM-14193]

Workspace Environment Management サービス 2007.2.0.1

- デフォルトのパッケージルールを編集する場合、「ルールを編集」 (**Edit Rule**) ウィンドウの「パブリッシャ」 (**Publisher**) タブで有効な値を入力するよう求められます。このとき、「**OK**」ボタンはグレー表示されます。ただし、後で [発行元] タブで有効な値を指定しても、 [**OK**] ボタンはグレー表示されます。 [WEM-9498]
- Windows 10 マシンでは、管理コンソールで構成した環境およびその他の特定の設定が機能しない場合があります。 [WEM-14193]

Workspace Environment Management サービス 2007.1.0.1

- グループポリシー設定を WEM にインポートすると、管理者だけが管理コンソールを使用している場合でも、次のメッセージが表示されることがあります。
 - 構成変更の更新: 管理者が構成関連の変更を行いました。 [OK] をクリックして、現在の管理コンソールでの変更を反映します。 [WEM-9234]

- Windows 10 マシンでは、管理コンソールで構成した環境およびその他の特定の設定が機能しない場合があります。[WEM-14193]

Workspace Environment Management サービス 2006.2.0.1

- Windows 10 マシンでは、管理コンソールで構成した環境およびその他の特定の設定が機能しない場合があります。[WEM-14193]

Workspace Environment Management サービス 2006.1.0.1

- Windows 10 マシンでは、管理コンソールで構成した環境およびその他の特定の設定が機能しない場合があります。[WEM-14193]

Workspace Environment Management サービス 2005.1.0.1

- トランスフォーマー (キオスク) モードで、[ウィンドウモードを有効にする] が有効な場合、WEM エージェントが予期せず終了することがあります。[WEM-8119]
- Windows 10 マシンでは、管理コンソールで構成した環境およびその他の特定の設定が機能しない場合があります。[WEM-14193]

Workspace Environment Management サービス 2004.1.0.1

- エージェント UI の [マイアプリケーション] アイコンリストからアプリケーションを起動しようとする、失敗することがあります。この問題は、StoreFront の URL を使用して作成されたアプリケーションショートカットで発生します。[WEM-7578、CVADHELP-14171]
- エージェントが Citrix Cloud の WEM サービスとの同期に失敗することがあります。この問題は、エージェントとサービスとの通信方法を定義するために HTTPS プロキシを構成するときに発生します。[WEM-7579、CVADHELP-14168]
- Windows 10 マシンでは、管理コンソールで構成した環境およびその他の特定の設定が機能しない場合があります。[WEM-14193]

Workspace Environment Management サービス 2002.1.0.1

- エージェントホストで、アプリケーションのショートカットとして公開アプリケーションを起動しようとする、失敗することがあります。この問題は、StoreFront の URL を使用して作成されたアプリケーションショートカットで発生します。[WEM-7348、CVADHELP-14061]
- Windows 10 マシンでは、管理コンソールで構成した環境およびその他の特定の設定が機能しない場合があります。[WEM-14193]

Workspace Environment Management サービス 2001.1.0.1

- WEM サービス管理コンソールの [**Active Directory** オブジェクト] タブに表示されるエージェントホストマシン名は、マシン名の変更を反映して自動的に更新されません。[マシン] リストにマシンの新しい名前を表示するには、[マシン] リストからマシンを手動で削除してから、マシンを再度追加する必要があります。[WEM-1549]
- レジストリエントリは、アクショングループを使用してユーザーまたはユーザーグループに割り当てると、有効にならないことがあります。ただし、直接割り当てると有効になります。この問題は、次のいずれかの場所で作成されるレジストリエントリを割り当てると発生します。
 - %ComputerName%\HKEY_CURRENT_USER\SOFTWARE\Policies
 - %ComputerName%\HKEY_CURRENT_USER\SOFTWARE\Microsoft\Windows\CurrentVersion\Policies[WEM-5253]
- Workspace エージェントの更新は、完了までに時間がかかる場合があります。この問題は、現在のユーザーが多くのユーザーグループに属していて、エージェントが処理するアクショングループまたは多数のアクションがある場合に発生します。[WEM-6582]
- Windows 10 マシンでは、管理コンソールで構成した環境およびその他の特定の設定が機能しない場合があります。[WEM-14193]

Workspace Environment Management サービス 1911.1.0.1

- WEM サービス管理コンソールの [**Active Directory** オブジェクト] タブに表示されるエージェントホストマシン名は、マシン名の変更を反映して自動的に更新されません。[マシン] リストにマシンの新しい名前を表示するには、[マシン] リストからマシンを手動で削除してから、マシンを再度追加する必要があります。[WEM-1549]
- レジストリエントリは、アクショングループを使用してユーザーまたはユーザーグループに割り当てると、有効にならないことがあります。ただし、直接割り当てると有効になります。この問題は、次のいずれかの場所で作成されるレジストリエントリを割り当てると発生します。
 - %ComputerName%\HKEY_CURRENT_USER\SOFTWARE\Policies
 - %ComputerName%\HKEY_CURRENT_USER\SOFTWARE\Microsoft\Windows\CurrentVersion\Policies[WEM-5253]
- Windows 10 マシンでは、管理コンソールで構成した環境およびその他の特定の設定が機能しない場合があります。[WEM-14193]

Workspace Environment Management サービス 1910.1.0.1

- WEM サービス管理コンソールの [**Active Directory** オブジェクト] タブに表示されるエージェントホストマシン名は、マシン名の変更を反映して自動的に更新されません。[マシン] リストにマシンの新しい名前を

表示するには、[マシン] リストからマシンを手動で削除してから、マシンを再度追加する必要があります。
[WEM-1549]

- 復元する AD オブジェクトの種類として [マシン] を選択し、[次へ] をクリックした後、復元ウィザードの Active Directory (AD) オブジェクトの読み込みに時間がかかることがあります。この問題は、多くの OU (たとえば、4,000) がある場合に発生します。[WEM-5169]
- レジストリエントリは、アクショングループを使用してユーザーまたはユーザーグループに割り当てると、有効にならないことがあります。ただし、直接割り当てると有効になります。この問題は、次のいずれかの場所で作成されるレジストリエントリを割り当てると発生します。
 - %ComputerName%\HKEY_CURRENT_USER\SOFTWARE\Policies
 - %ComputerName%\HKEY_CURRENT_USER\SOFTWARE\Microsoft\Windows\CurrentVersion\Policies[WEM-5253]
- [管理コンソール] > [詳細設定] > [構成] > [[エージェントオプション] タブの [オンライン時でもキャッシュを使用する] オプションが機能しないことがあります。[WEM-6118]
- Windows 10 マシンでは、管理コンソールで構成した環境およびその他の特定の設定が機能しない場合があります。[WEM-14193]

Workspace Environment Management サービス 1908.2.0.1

- WEM サービス管理コンソールの [Active Directory オブジェクト] タブに表示されるエージェントホストマシン名は、マシン名の変更を反映して自動的に更新されません。[マシン] リストにマシンの新しい名前を表示するには、[マシン] リストからマシンを手動で削除してから、マシンを再度追加する必要があります。
[WEM-1549]
- オンプレミスの WEM データベースを WEM サービスに移行した後、コンピューターに最新バージョンがインストールされている場合でも、WEM サービスエージェントを再インストールする必要があります。これは、WEM サービスエージェントを再インストールしない限り、エージェントキャッシュが WEM サービスデータベースと同期できないために必要です。[WEM-2396]
- トランスフォーマー (キオスク) モードで、ログオフ画面リダイレクトが有効になっていると、ログオフ後にログオンページへのリダイレクトに失敗することがあります。[WEM-3133]
- 復元する AD オブジェクトの種類として [マシン] を選択し、[次へ] をクリックした後、復元ウィザードの Active Directory (AD) オブジェクトの読み込みに時間がかかることがあります。この問題は、多くの OU (たとえば、4,000) がある場合に発生します。[WEM-5169]
- レジストリエントリは、アクショングループを使用してユーザーまたはユーザーグループに割り当てると、有効にならないことがあります。ただし、直接割り当てると有効になります。この問題は、次のいずれかの場所で作成されるレジストリエントリを割り当てると発生します。
 - %ComputerName%\HKEY_CURRENT_USER\SOFTWARE\Policies

- %ComputerName%\HKEY_CURRENT_USER\SOFTWARE\Microsoft\Windows\CurrentVersion\Policies [WEM-5253]
- Windows 10 マシンでは、管理コンソールで構成した環境およびその他の特定の設定が機能しない場合があります。 [WEM-14193]

Workspace Environment Management サービス 1908.1.0.1

- WEM サービス管理コンソールの [**Active Directory** オブジェクト] タブに表示されるエージェントホストマシン名は、マシン名の変更を反映して自動的に更新されません。 [マシン] リストにマシンの新しい名前を表示するには、 [マシン] リストからマシンを手動で削除してから、マシンを再度追加する必要があります。 [WEM-1549]
- 管理コンソールの [**Active Directory** オブジェクト] タブで、 [オブジェクトの追加] と [名前の確認] を使用してオブジェクトを検索および追加すると、一度に 1 つのオブジェクトのみを追加できます。別のオブジェクトを追加するには、 [コンピューターまたはグループの選択] ダイアログボックスを閉じてから再度開く必要があります。(オンプレミスバージョンの [Workspace Environment Management] では、毎回ダイアログボックスを閉じることなく複数のオブジェクトを識別して追加できます)。 [WEM-1620]
- オンプレミスの WEM データベースを WEM サービスに移行した後、コンピューターに最新バージョンがインストールされている場合でも、WEM サービスエージェントを再インストールする必要があります。これは、WEM サービスエージェントを再インストールしない限り、エージェントキャッシュが WEM サービスデータベースと同期できないために必要です。 [WEM-2396]
- トランスフォーマー (キオスク) モードで、ログオフ画面リダイレクトが有効になっていると、ログオフ後にログオンページへのリダイレクトに失敗することがあります。 [WEM-3133]
- 復元する AD オブジェクトの種類として [マシン] を選択し、 [次へ] をクリックした後、復元ウィザードの Active Directory (AD) オブジェクトの読み込みに時間がかかることがあります。この問題は、多くの OU (たとえば、4,000) がある場合に発生します。 [WEM-5169]
- レジストリエントリは、アクショングループを使用してユーザーまたはユーザーグループに割り当てると、有効にならないことがあります。ただし、直接割り当てると有効になります。この問題は、次のいずれかの場所で作成されるレジストリエントリを割り当てると発生します。
 - %ComputerName%\HKEY_CURRENT_USER\SOFTWARE\Policies
 - %ComputerName%\HKEY_CURRENT_USER\SOFTWARE\Microsoft\Windows\CurrentVersion\Policies [WEM-5253]
- Windows 10 マシンでは、管理コンソールで構成した環境およびその他の特定の設定が機能しない場合があります。 [WEM-14193]

Workspace Environment Management サービス 1907.2.0.1

- WEM サービス管理コンソールの [**Active Directory** オブジェクト] タブに表示されるエージェントホストマシン名は、マシン名の変更を反映して自動的に更新されません。[マシン] リストにマシンの新しい名前を表示するには、[マシン] リストからマシンを手動で削除してから、マシンを再度追加する必要があります。[WEM-1549]
- 管理コンソールの [**Active Directory** オブジェクト] タブで、[オブジェクトの追加] と [名前の確認] を使用してオブジェクトを検索および追加すると、一度に 1 つのオブジェクトのみを追加できます。別のオブジェクトを追加するには、[コンピューターまたはグループの選択] ダイアログボックスを閉じてから再度開く必要があります。(オンプレミスバージョンの [Workspace Environment Management] では、毎回ダイアログボックスを閉じることなく複数のオブジェクトを識別して追加できます)。[WEM-1620]
- オンプレミスの WEM データベースを WEM サービスに移行した後、コンピューターに最新バージョンがインストールされている場合でも、WEM サービスエージェントを再インストールする必要があります。これは、WEM サービスエージェントを再インストールしない限り、エージェントキャッシュが WEM サービスデータベースと同期できないために必要です。[WEM-2396]
- トランスフォーマー (キオスク) モードで、ログオフ画面リダイレクトが有効になっていると、ログオフ後にログオンページへのリダイレクトに失敗することがあります。[WEM-3133]
- Windows 10 マシンでは、管理コンソールで構成した環境およびその他の特定の設定が機能しない場合があります。[WEM-14193]

Workspace Environment Management サービス 1907.1.0.1

- Windows Server 2012 R2 にインストールされた Adobe Reader のインスタンスは、Workspace Environment Management が PDF ファイルを他の PDF リーダーアプリケーションに関連付けることを防止します。ユーザーは、PDF を開くたびに PDF リーダーアプリケーションを選択するように強制されます。[WEM-33]
- WEM サービス管理コンソールの [**Active Directory** オブジェクト] タブに表示されるエージェントホストマシン名は、マシン名の変更を反映して自動的に更新されません。[マシン] リストにマシンの新しい名前を表示するには、[マシン] リストからマシンを手動で削除してから、マシンを再度追加する必要があります。[WEM-1549]
- 管理コンソールの [**Active Directory** オブジェクト] タブで、[オブジェクトの追加] と [名前の確認] を使用してオブジェクトを検索および追加すると、一度に 1 つのオブジェクトのみを追加できます。別のオブジェクトを追加するには、[コンピューターまたはグループの選択] ダイアログボックスを閉じてから再度開く必要があります。(オンプレミスバージョンの [Workspace Environment Management] では、毎回ダイアログボックスを閉じることなく複数のオブジェクトを識別して追加できます)。[WEM-1620]
- オンプレミスの WEM データベースを WEM サービスに移行した後、コンピューターに最新バージョンがインストールされている場合でも、WEM サービスエージェントを再インストールする必要があります。これは、

WEM サービスエージェントを再インストールしない限り、エージェントキャッシュが WEM サービスデータベースと同期できないために必要です。[WEM-2396]

- トランスフォーマー (キオスク) モードで、ログオフ画面リダイレクトが有効になっていると、ログオフ後にログオンページへのリダイレクトに失敗することがあります。[WEM-3133]
- Windows 10 マシンでは、管理コンソールで構成した環境およびその他の特定の設定が機能しない場合があります。[WEM-14193]

Workspace Environment Management サービス 1906

- Windows Server 2012 R2 にインストールされた Adobe Reader のインスタンスは、Workspace Environment Management が PDF ファイルを他の PDF リーダーアプリケーションに関連付けることを防止します。ユーザーは、PDF を開くたびに PDF リーダーアプリケーションを選択するように強制されます。[WEM-33]
- WEM サービス管理コンソールの [**Active Directory** オブジェクト] タブに表示されるエージェントホストマシン名は、マシン名の変更を反映して自動的に更新されません。[マシン] リストにマシンの新しい名前を表示するには、[マシン] リストからマシンを手動で削除してから、マシンを再度追加する必要があります。[WEM-1549]
- 管理コンソールの [**Active Directory** オブジェクト] タブで、[オブジェクトの追加] と [名前の確認] を使用してオブジェクトを検索および追加すると、一度に 1 つのオブジェクトのみを追加できます。別のオブジェクトを追加するには、[コンピューターまたはグループの選択] ダイアログボックスを閉じてから再度開く必要があります。(オンプレミスバージョンの [Workspace Environment Management] では、毎回ダイアログボックスを閉じることなく複数のオブジェクトを識別して追加できます)。[WEM-1620]
- オンプレミスの WEM データベースを WEM サービスに移行した後、コンピューターに最新バージョンがインストールされている場合でも、WEM サービスエージェントを再インストールする必要があります。これは、WEM サービスエージェントを再インストールしない限り、エージェントキャッシュが WEM サービスデータベースと同期できないために必要です。[WEM-2396]
- トランスフォーマー (キオスク) モードで、ログオフ画面リダイレクトが有効になっていると、ログオフ後にログオンページへのリダイレクトに失敗することがあります。[WEM-3133]
- Windows 10 マシンでは、管理コンソールで構成した環境およびその他の特定の設定が機能しない場合があります。[WEM-14193]

Workspace Environment Management サービス 1904

- Windows Server 2012 R2 にインストールされた Adobe Reader のインスタンスは、Workspace Environment Management が PDF ファイルを他の PDF リーダーアプリケーションに関連付けることを防止します。ユーザーは、PDF を開くたびに PDF リーダーアプリケーションを選択するように強制されます。[WEM-33]

- WEM サービス管理コンソールの [**Active Directory** オブジェクト] タブに表示されるエージェントホストマシン名は、マシン名の変更を反映して自動的に更新されません。[マシン] リストにマシンの新しい名前を表示するには、[マシン] リストからマシンを手動で削除してから、マシンを再度追加する必要があります。[WEM-1549]
- 管理コンソールの [**Active Directory** オブジェクト] タブで、[オブジェクトの追加] と [名前の確認] を使用してオブジェクトを検索および追加すると、一度に 1 つのオブジェクトのみを追加できます。別のオブジェクトを追加するには、[コンピューターまたはグループの選択] ダイアログボックスを閉じてから再度開く必要があります。(オンプレミスバージョンの [Workspace Environment Management] では、毎回ダイアログボックスを閉じることなく複数のオブジェクトを識別して追加できます)。[WEM-1620]
- オンプレミスの WEM データベースを WEM サービスに移行した後、コンピューターに最新バージョンがインストールされている場合でも、WEM サービスエージェントを再インストールする必要があります。これは、WEM サービスエージェントを再インストールしない限り、エージェントキャッシュが WEM サービスデータベースと同期できないために必要です。[WEM-2396]
- トランスフォーマー (キオスク) モードで、ログオフ画面リダイレクトが有効になっていると、ログオフ後にログオンページへのリダイレクトに失敗することがあります。[WEM-3133]
- Windows 10 マシンでは、管理コンソールで構成した環境およびその他の特定の設定が機能しない場合があります。[WEM-14193]

Workspace Environment Management サービス 1812.1.0.1

- Windows Server 2012 R2 にインストールされた Adobe Reader のインスタンスは、Workspace Environment Management が PDF ファイルを他の PDF リーダーアプリケーションに関連付けることを防止します。ユーザーは、PDF を開くたびに PDF リーダーアプリケーションを選択するように強制されます。[WEM-33]
- WEM サービス管理コンソールの [**Active Directory** オブジェクト] タブに表示されるエージェントホストマシン名は、マシン名の変更を反映して自動的に更新されません。[マシン] リストにマシンの新しい名前を表示するには、[マシン] リストからマシンを手動で削除してから、マシンを再度追加する必要があります。[WEM-1549]
- 管理コンソールの [**Active Directory** オブジェクト] タブで、[オブジェクトの追加] と [名前の確認] を使用してオブジェクトを検索および追加すると、一度に 1 つのオブジェクトのみを追加できます。別のオブジェクトを追加するには、[コンピューターまたはグループの選択] ダイアログボックスを閉じてから再度開く必要があります。(オンプレミスバージョンの [Workspace Environment Management] では、毎回ダイアログボックスを閉じることなく複数のオブジェクトを識別して追加できます)。[WEM-1620]
- オンプレミスの WEM データベースを WEM サービスに移行した後、コンピューターに最新バージョンがインストールされている場合でも、WEM サービスエージェントを再インストールする必要があります。これは、WEM サービスエージェントを再インストールしない限り、エージェントキャッシュが WEM サービスデータベースと同期できないために必要です。[WEM-2396]

- トランスフォーマー (キオスク) モードで、ログオフ画面リダイレクトが有効になっていると、ログオフ後にログオンページへのリダイレクトに失敗することがあります。[WEM-3133]
- 管理コンソール > 監視 > ユーザートレンド > デバイスタイプ] タブで [フィルタの適用] または [レポートの更新] をクリックすると、レポートを表示できない場合があります。代わりに、[管理コンソール] > [アクション] > [アプリケーション] > [アプリケーションリスト] タブに戻ります。[WEM-3254]
- Windows 10 バージョン 1809 および Windows Server 2019 では、Workspace Environment Management はアプリケーションをタスクバーに固定できません。[WEM-3257]
- WEM を最新バージョンにアップグレードした後、以前のバージョンのエージェントをまだ使用している場合、エージェントはオフラインモードで正常に動作しません。この問題は、最新のリリースでエージェントローカルキャッシュファイルのスコープの変更のために発生します。回避策として、古いエージェントローカルキャッシュファイルを削除し、WEM エージェントホストサービス (Norskale エージェントホストサービス) を再起動します。[WEM-3281]
- 管理コンソールの [セキュリティ] タブで、ファイルハッシュ条件を使用して、拡張子が.exe または.dll のファイルに対して AppLocker ルールを作成した場合、ルールは機能しません。この問題は WEM は、そのファイルのハッシュコードを正しく計算するために発生します。[WEM-3580]
- 管理コンソールの [セキュリティ] タブで、発行者の条件を使用してファイルの AppLocker ルールを作成した場合、ルールは機能しません。この問題は WEM がファイル名を正しく解決するために発生します。[WEM-3582]
- 管理コンソールで [**OU** の追加] をクリックすると、WEM の [組織単位] ウィンドウに何も表示されないことがあります。この問題は、フォレスト (現在または信頼されている) に多数の OU が含まれている場合に発生します。回避策として、[キャンセル] をクリックし、[**OU** の追加] を複数回クリックする必要がある場合があります。[WEM-3818、UCOHELP-1211]
- 英語版以外の Windows オペレーティングシステムを使用する Windows サーバーでは、アプリケーションセキュリティ機能は機能しません。この問題は、WEM が英語以外の言語環境で Application Identity サービスを開始できないために発生します。[WEM-3957、LD1185]
- Windows 10 マシンでは、管理コンソールで構成した環境およびその他の特定の設定が機能しない場合があります。[WEM-14193]

Workspace Environment Management サービス 1812.0.0.1

- Windows Server 2012 R2 にインストールされた Adobe Reader のインスタンスは、Workspace Environment Management が PDF ファイルを他の PDF リーダーアプリケーションに関連付けることを防止します。ユーザーは、PDF を開くたびに PDF リーダーアプリケーションを選択するように強制されます。[WEM-33]
- WEM サービス管理コンソールの [**Active Directory** オブジェクト] タブに表示されるエージェントホストマシン名は、マシン名の変更を反映して自動的に更新されません。[マシン] リストにマシンの新しい名前を

表示するには、[マシン] リストからマシンを手動で削除してから、マシンを再度追加する必要があります。
[WEM-1549]

- 管理コンソールの [**Active Directory** オブジェクト] タブで、[オブジェクトの追加] と [名前の確認] を使用してオブジェクトを検索および追加すると、一度に 1 つのオブジェクトのみを追加できます。別のオブジェクトを追加するには、[コンピューターまたはグループの選択] ダイアログボックスを閉じてから再度開く必要があります。(オンプレミスバージョンの [Workspace Environment Management] では、毎回ダイアログボックスを閉じることなく複数のオブジェクトを識別して追加できます)。[WEM-1620]
- オンプレミスの WEM データベースを WEM サービスに移行した後、コンピューターに最新バージョンがインストールされている場合でも、WEM サービスエージェントを再インストールする必要があります。これは、WEM サービスエージェントを再インストールしない限り、エージェントキャッシュが WEM サービスデータベースと同期できないために必要です。[WEM-2396]
- トランスフォーマー (キオスク) モードで、ログオフ画面リダイレクトが有効になっていると、ログオフ後にログオンページへのリダイレクトに失敗することがあります。[WEM-3133]
- 管理コンソール > 監視 > ユーザートレンド > デバイスタイプ] タブで [フィルタの適用] または [レポートの更新] をクリックすると、レポートを表示できない場合があります。代わりに、[管理コンソール] > [アクション] > [アプリケーション] > [アプリケーションリスト] タブに戻ります。[WEM-3254]
- Windows 10 バージョン 1809 および Windows Server 2019 では、Workspace Environment Management はアプリケーションをタスクバーに固定できません。[WEM-3257]
- WEM を最新バージョンにアップグレードした後、以前のバージョンのエージェントをまだ使用している場合、エージェントはオフラインモードで正常に動作しません。この問題は、最新のリリースでエージェントローカルキャッシュファイルのスコープの変更のために発生します。回避策として、古いエージェントローカルキャッシュファイルを削除し、WEM エージェントホストサービス (Norskale エージェントホストサービス) を再起動します。[WEM-3281]
- 管理コンソールの [セキュリティ] タブで、ファイルハッシュ条件を使用して、拡張子が .exe または .dll のファイルに対して AppLocker ルールを作成した場合、ルールは機能しません。この問題は WEM は、そのファイルのハッシュコードを正しく計算するために発生します。[WEM-3580]
- 管理コンソールの [セキュリティ] タブで、発行者の条件を使用してファイルの AppLocker ルールを作成した場合、ルールは機能しません。この問題は WEM がファイル名を正しく解決するために発生します。[WEM-3582]
- [フィルタとドライブ文字の割り当て] ウィンドウで、そのネットワークドライブのドライブ文字として # を選択すると、ネットワークドライブをユーザーにマッピングしようとすると失敗します。この問題は、WEM が現在「#」を使用してネットワークドライブにランダムな文字を割り当てることをサポートしていないために発生します。[WEM-3752, LD1014]
- WEM データベースを WEM サービスに移行しようとすると失敗することがあります。この問題は、オンプレミスの WEM データベースの VuemTaskshiStory テーブルのエントリに特殊文字が含まれている場合に発生

します。回避策として、オンプレミスの WEM データベースからこれらのエントリを削除し、移行プロセスを再起動します。[WEM-3817、UCOHELP-1567]

- 管理コンソールで [**OU** の追加] をクリックすると、WEM の [組織単位] ウィンドウに何も表示されないことがあります。この問題は、フォレスト (現在または信頼されている) に多数の OU が含まれている場合に発生します。回避策として、[キャンセル] をクリックし、[**OU** の追加] を複数回クリックする必要がある場合があります。[WEM-3818、UCOHELP-1211]
- 英語版以外の Windows オペレーティングシステムを使用する Windows サーバーでは、アプリケーションセキュリティ機能は機能しません。この問題は、WEM が英語以外の言語環境で Application Identity サービスを開始できないために発生します。[WEM-3957、LD1185]
- Windows 10 マシンでは、管理コンソールで構成した環境およびその他の特定の設定が機能しない場合があります。[WEM-14193]

Workspace Environment Management サービス 1811

Workspace Environment Management サービスには、次の問題があります。

- Windows Server 2012 R2 にインストールされた Adobe Reader のインスタンスは、Workspace Environment Management が PDF ファイルを他の PDF リーダーアプリケーションに関連付けることを防止します。ユーザーは、PDF を開くたびに PDF リーダーアプリケーションを選択するように強制されます。[WEM-33]
- Internet Explorer 11 (IE11) または Microsoft Edge を使用して Workspace Environment Management サービス管理コンソールを開き、[開発者ツール] ウィンドウ (F12) を開くと、[開発者ツール] ウィンドウをもう一度閉じて、管理コンソールはフルサイズに再描画されません。この場合は、ブラウザウィンドウを更新して、管理コンソールを正しく再描画します。[WEM-1377]
- WEM サービス管理コンソールの [**Active Directory** オブジェクト] タブに表示されるエージェントホストマシン名は、マシン名の変更を反映して自動的に更新されません。[マシン] リストにマシンの新しい名前を表示するには、[マシン] リストからマシンを手動で削除してから、マシンを再度追加する必要があります。[WEM-1549]
- 管理コンソールの [**Active Directory** オブジェクト] タブで、[オブジェクトの追加] と [名前の確認] を使用してオブジェクトを検索および追加すると、一度に 1 つのオブジェクトのみを追加できます。別のオブジェクトを追加するには、[コンピューターまたはグループの選択] ダイアログボックスを閉じてから再度開く必要があります。(オンプレミスバージョンの [Workspace Environment Management] では、毎回ダイアログボックスを閉じることなく複数のオブジェクトを識別して追加できます)。[WEM-1620]
- オンプレミスの WEM データベースを WEM サービスに移行した後、コンピューターに最新バージョンがインストールされている場合でも、WEM サービスエージェントを再インストールする必要があります。これは、WEM サービスエージェントを再インストールしない限り、エージェントキャッシュが WEM サービスデータベースと同期できないために必要です。[WEM-2396]

- **Workspace Environment Management** サービスの [管理] タブから管理コンソールにアクセスしようとすると失敗します。回避策として、ブラウザウィンドウを更新して、もう一度試してください。[WEM-2401]
- Windows 7 サービスパック 1、Windows 2008 R2 サービスパック 1、または Windows Server 2008 サービスパック 2 で UpmConfigCheck スクリプトを実行しようとすると失敗します。これらのオペレーティングシステムでスクリプトを実行するには、Windows Management Framework 3.0 を手動でインストールする必要があります。Windows Management Framework 3.0 をインストールしても UPMConfigCheck が機能しない場合は、WEM エージェントホストサービス (Norskale エージェントホストサービス) を再起動します。[WEM-2717]
- Windows 10 マシンでは、管理コンソールで構成した環境およびその他の特定の設定が機能しない場合があります。[WEM-14193]

Workspace Environment Management サービス 1807

Workspace Environment Management サービスには、次の問題があります。

- Windows Server 2012 R2 では、Adobe Acrobat Reader がインストールされている場合、Workspace Environment Management が PDF ファイルを他の PDF リーダーアプリケーションに関連付けることができなくなります。ユーザーは、PDF を開くたびに PDF リーダーアプリケーションを選択するように強制されます。[WEM-33]
- [セキュリティ] タブで [DLL ルールを処理] オプションをオフにすると、WEM データベースの実際の数に関係なく、「DLL Rules」コレクションの横に報告されるルールカウントがゼロに設定されます。[WEM-425]
- Windows サーバー OS マシンで複数のセッションサポートが有効になっている場合、以前にログオンしたユーザーのアプリケーション・セキュリティ・ルールは、最近ログオンしたユーザーのルールに置き換えられます。たとえば、ルールが user1 に割り当てられ、user2 に割り当てられていない場合、user2 がログオンすると、そのルールはローカルの AppLocker ルールから削除されます。したがって、user1 にもルールを適用することはできません。[WEM-1070]
- Internet Explorer 11 (IE11) または Microsoft Edge を使用して Workspace Environment Management サービス管理コンソールを開き、[開発者ツール] ウィンドウ (F12) を開くと、[開発者ツール] ウィンドウをもう一度閉じて、管理コンソールはフルサイズに再描画されません。この場合は、ブラウザウィンドウを更新して、管理コンソールを正しく再描画します。[WEM-1377]
- WEM サービス管理コンソールの [Active Directory オブジェクト] タブに表示されるエージェントホストマシン名は、マシン名の変更を反映して自動的に更新されません。[マシン] リストにマシンの新しい名前を表示するには、[マシン] リストからマシンを手動で削除してから、マシンを再度追加する必要があります。[WEM-1549]
- Workspace Environment Management (WEM) のオンプレミス版では、Active Directory セキュリティグループを WEM エージェントのコンテナとして使用できます。ただし、WEM サービスでは、Active Directory セキュリティグループをエージェントコンテナとして使用することはできません。オンプレミス

のインフラストラクチャサービスでは、直接および間接の OU をエージェントコンテナとして使用することもできます。ただし、WEM サービスは間接的な OU をサポートしていません。たとえば、WEM エージェント Agent1 が OU2 に属し、OU2 が OU1 に属するとします (OU1>OU2>AGENT1)。オンプレミスのインフラストラクチャサービスは、AGENT1 を OU1 と OU2 の両方のメンバーとして認識しますが、WEM サービスは AGENT1 を OU2 のメンバーとして認識します。[WEM-1619]

- 管理コンソールの [Active Directory オブジェクト] タブで、[オブジェクトの追加] と [名前の確認] を使用してオブジェクトを検索および追加すると、一度に 1 つのオブジェクトのみを追加できます。別のオブジェクトを追加するには、[コンピューターまたはグループの選択] ダイアログボックスを閉じてから再度開く必要があります。(オンプレミスバージョンの [Workspace Environment Management] では、毎回ダイアログボックスを閉じることなく複数のオブジェクトを識別して追加できます)。[WEM-1620]
- Windows 10 マシンでは、管理コンソールで構成した環境およびその他の特定の設定が機能しない場合があります。[WEM-14193]

システム要件

April 10, 2024

ソフトウェアの前提条件

Citrix Cloud Connector。このコンポーネントは、Workspace Environment Management サービスエージェントをインストールする前に、使用しているすべてのリソースの場所に少なくとも 1 台のマシンにインストールする必要があります。[Cloud Connector のインストールを参照してください](#)。

.NET Framework 4.7.1 以降。このコンポーネントは、Workspace Environment Management サービスエージェントに必要です。まだインストールされていない場合は、エージェントのインストール中に自動的にインストールされます。

Microsoft Visual C++。このコンポーネントは、Workspace Environment Management サービスエージェントに必要です。Microsoft Visual C++ 2015–2019 再配布可能パッケージがまだインストールされていない場合は、エージェントのインストール時に自動的にインストールされます。

Microsoft Edge WebView2 ランタイムバージョン **98** 以降。このコンポーネントは、Workspace Environment Management サービスエージェントに必要です。まだインストールされていない場合は、エージェントのインストール中に自動的にインストールされます。

注:

- このコンポーネントが必要なのはバージョン 2209 以降だけです。
- バージョン 2203 以降、Microsoft Edge WebView2 ランタイムインストーラーはエージェントインス

トローラーにパッケージ化されています。

- Microsoft Edge WebView2 ランタイムをダウンロードしてインストールするには、インターネットにアクセスできる必要があります。

Microsoft Active Directory. Workspace Environment Management サービスでは、構成された設定をユーザーにプッシュするには、Active Directory への読み取りアクセス権が必要です。

Citrix DaaS (以前の **Citrix Virtual Apps and Desktops** サービス) または **Citrix Virtual Apps and Desktops**。サポート対象の **Citrix Virtual Apps** または **デスクトップのバージョンが必要です**。

Windows 向け **Citrix Workspace** アプリ。Workspace Environment Management サービス管理コンソールで構成された Citrix StoreFront ストアリソースに接続するには、Windows 向け Citrix Workspace アプリをエージェントホストマシンにインストールする必要があります。サポートされるバージョンは、以下のとおりです。

- Citrix Receiver for Windows versions: 4.4 LTSR CU5, 4.7, 4.9, 4.9 LTSR CU1, and 4.10
- Windows 向け Citrix Workspace アプリ 1808 以降

Transformer のキオスク対応のマシンでは、シングルサインオンを有効にして Windows 向け Citrix Workspace アプリをインストールし、パススルー認証用に構成する必要があります。詳しくは、「[Citrix Workspace アプリ](#)」を参照してください。

オペレーティングシステムの前提条件

注:

Workspace Environment Management エージェントは、製造元がサポートするオペレーティングシステムのバージョンでのみサポートされます。オペレーティングシステムの製造元からの延長サポートの購入が必要な場合があります。

エージェント。Workspace Environment Management エージェントは、次のオペレーティングシステムでサポートされています。

- Windows 11、32 ビットおよび 64 ビット
- Windows 10 バージョン 1607 以降、32 ビットと 64 ビット
- Windows Server 2022 標準エディションとデータセンターエディション
- Windows Server 2019 Standard および Datacenter エディション *
- Windows Server 2016 Standard および Datacenter エディション *

* Transformer 機能は、マルチセッションオペレーティングシステムではサポートされていません。

注:

マルチセッションオペレーティングシステムで実行されている Workspace Environment Management サービスエージェントは、Microsoft の動的フェアシェアスケジューリング (DFSS) が有効になっているときに

正しく動作できません。DFSS を無効にする方法については、[CTX127135](#)を参照してください。

ハードウェアの前提条件

エージェント:RAM の平均消費量は 10 MB ですが、安全を確保するために 20 MB を提供することを推奨します。40 MB の空きディスク容量 (インストール時に 100 MB)。

接続の前提条件

WEM サービスエージェントが動作するには、ファイアウォールとプロキシサーバーを構成して、アウトバウンド接続を許可する必要があります。詳細については、「[インターネット接続の要件](#)」を参照してください。

エンタープライズネットワークでは、WEM サービスが WEM サービスエージェントと通信するために Cloud Connector も必要です。したがって、WEM サービスエージェントポートが正しく構成されていることを確認するには、ファイアウォールの設定を確認してください。詳細については、「[ポート情報](#)」を参照してください。

サービスの依存関係

Netlogon。エージェントサービス (「Citrix WEM エージェントホストサービス」) がネットログオン依存関係リストに追加され、ログオンする前にエージェントサービスが実行されていることを確認します。

ウイルス対策の除外

Workspace Environment Management サービスエージェントは、次の既定のフォルダーにインストールされません。

- C:\Program Files (x86)\Citrix\Workspace Environment Management Agent (64-bit OS)
- C:\Program Files\Citrix\ Workspace Environment Management エージェント (32 ビット OS 上)

Workspace Environment Management エージェントの「Citrix」インストールフォルダー全体でオンアクセス検索を無効にする必要があります。これが不可能な場合は、次のプロセスをオンアクセススキャンから除外する必要があります。

- AgentCacheUtility.exe
- AgentGroupPolicyUtility.exe
- AppInfoViewer.exe
- Agent Log Parser.exe
- AppsMgmtUtil.exe
- Citrix.Wem.Agent.EnrollmentUtility.exe
- Citrix.Wem.Agent.Service.exe
- Citrix.Wem.Agent.LogonService.exe

- PrnsMgmtUtil.exe
- VUEMAppCmd.exe
- VUEMAppCmdDbg.exe
- VUEMAppHide.exe
- VUEMCmdAgent.exe
- VUEMMaintMsg.exe
- VUEMRSAV.exe
- VUEMUIAgent.exe

制限

April 8, 2021

Workspace Environment Management (WEM) サービスは、大規模なエンタープライズ展開向けに設計されています。サーバー側では、WEM サービスは、フロントエンドコンポーネントとバックエンドコンポーネント間の通信フローを監視し、転送中のデータに基づいて動的にスケールアップまたはスケールダウンします。

WEM サービスのサイジングとスケーラビリティを評価する場合は、次の制限を考慮してください。この資料の値は、単一の WEM サービスインスタンスの制限を示します。

使用制限

次の表に、使用制限を示します。

リソース	制限
同時完全管理接続	5
すべての Citrix Cloud Connector エンドユーザー接続	10,000 人のエンドユーザー (マシン仕様:4 vCPU、8 GB RAM、80 GB の使用可能なディスク容量)
WEM エージェント接続	100,000

重要:

高可用性を確保するために、各リソースの場所に少なくとも 2 つの Cloud Connector を推奨します。WEM エージェントは、Cloud Connector 間で自動的に負荷を分散します。Citrix Cloud Connector が WEM サービス専用でない場合は、追加の Cloud Connector を展開することを検討してください。クラウドコネクタの詳細については、「」を参照してください [Citrix Cloud Connector](#)。

はじめに：展開の計画と構築

November 10, 2022

Workspace Environment Management (WEM) サービスの展開で使用されるコンポーネントについてよくわからない場合は、「[Workspace Environment Management サービス](#)」を参照してください。

オンプレミスの WEM 展開から移行する場合は、「[クラウドへの移行](#)」を参照してください。

この記事の使い方

WEM 展開をセットアップするには、以下にまとめたタスクを完了します。各タスクの詳細へのリンクがあります。

展開を始める前にプロセスの全体像を確認することで、行う操作を把握できます。また、この記事は、その他の役立つ情報ソースへのリンクも掲載しています。

計画と準備

Citrix Tech Zone のドキュメント記事を参照して、目標の設定、ユースケースとビジネス目標の定義、および構成に関する考慮事項の理解に役立ててください。

- WEM によって展開の全体的なエクスペリエンスが向上し、セキュリティが強化される方法については、「[技術概要:Workspace Environment Management](#)」を参照してください。
- このクラウドベースのサービスのアーキテクチャとデプロイに関する考慮事項については、「[リファレンスアーキテクチャ:Workspace Environment Management](#)」を参照してください。
- WEM がリソース使用率、ログオン時間、RAM 使用量を最適化する方法については、「[Tech Insight: Workspace Environment Management](#)」を参照してください。そこのビデオを見てください。

サインアップ

Citrix アカウントにサインアップし、WEM サービストライアルをリクエストします。オンボードの手順は次のとおりです：

1. Citrix アカウントにサインアップし、WEM サービストライアルをリクエストします。
2. 統合の要件について Citrix 担当者と相談する。
3. Citrix Cloud ポータルで設定を完了する。

Citrix アカウントを新規登録してトライアルをリクエストするには、Citrix の営業担当者にお問い合わせください。続行する準備ができたなら、<https://onboarding.cloud.com>にアクセスしてください。

ログオン後、[WEM サービス] タイルで [試用版のリクエスト] をクリックします。テキストが [トライアルがリクエストされました] に変わります。トライアルが利用可能になると、メールが届きます。

注:

トライアルの待機中に、「次の手順」に記載されている情報を確認できます。Citrix は WEM サービスソリューションをホストして提供しますが、アプリケーションとデスクトップを配信するマシンに加えて、アプリケーションとユーザーを配信するマシンを管理します。この待ち時間を利用して、Active Directory など、社内サービス用のインフラストラクチャを設定することをお勧めします。

使用するセットアップ方法を決定する

WEM が管理する各マシンには、WEM エージェントがインストールされている必要があります。WEM エージェントは WEM サービスに接続し、管理コンソールで構成した設定を適用します。エージェントをインストールする前に、展開のニーズに合った設定方法を決定してください。

エージェントを WEM サービスに接続するには、次の 3 つの設定方法があります。

- **Cloud Connector**。マシンがドメインに参加している場合は、この方法を使用します。この方法では、リソースの場所を設定し、それぞれに少なくとも 1 つの Citrix Cloud Connector をインストールする必要があります。
 - 高可用性を実現するには、各リソースの場所に 2 つの Cloud Connector をインストールすることをお勧めします。
 - リソースの場所には、インフラストラクチャサービス (Active Directory や Cloud Connector など) と、アプリやデスクトップをユーザーに配信するマシンが含まれます。

[リソースの場所と CloudConnector のインストールを参照してください。](#)

Cloud Connector のインストールに関するビデオ:



- ドメイン非参加。Citrix [DaaS 展開](#)でドメインに参加していないマシンを管理する場合は、この方法を使用します。この方法では、エージェントをインストールするときに [構成をスキップ] を選択する必要があります。
- 入学。この方法を使用して、Cloud [Connector](#) を構成せずに [WEM エージェント](#) を登録します。この方法は、エージェントをインストールするときに [構成をスキップ] を選択する必要があり、物理マシンと永続仮想マシンのみにも適用されます。

以下は、どの方法を使用するかを決定するのに役立つ一般的なガイダンスを提供します。

- **Citrix DaaS** によって管理されるマシン用。Virtual Delivery Agent (VDA) の場合と同じ方法で、Cloud Connector またはドメインに参加していない方法を使用して、エージェントを Citrix Cloud に接続します。
- **Citrix DaaS** によって管理されていないマシン用。Cloud Connector または登録方法を使用します。

エージェントをインストールする

WEM が管理する各マシンには、WEM エージェントがインストールされている必要があります。[エージェントをインストールするを参照してください](#)。

デプロイメントを管理する

WEM 展開をセットアップする上記のタスクを完了したら、WEM 管理コンソールを起動します。次の 2 つのコンソールを使用できます。

- [従来のコンソール](#)
- [Web コンソール](#)

現在、レガシーコンソールから Web コンソールに機能を移行中です。Web コンソールはレガシーコンソールよりも応答が速く、より多くの機能を提供します。Web コンソールでのみ使用できる機能については、「[新機能](#)」を参照してください。

追加情報

- [単一の WEM サービスインスタンスの制限](#)
- [REST API](#)

エージェントのインストール

May 28, 2024

この記事ではまず、Workspace Environment Management (WEM) エージェントについて説明します。この記事の残りの部分では、エージェントインストールウィザードの手順について説明します。エージェントに関する追加情報が提供されます。

はじめに

WEM が管理する各マシンには、WEM エージェントがインストールされている必要があります。WEM エージェントは WEM サービスに接続し、管理コンソールで構成した設定を適用します。すべての通信は、Citrix Cloud メッセージングサービスを使用して HTTPS 経由で行われます。すべてのエージェントはローカルキャッシュを使用するため、ネットワーク接続が中断された場合でも既存の設定を引き続き使用できます。

WEM では、ドメインに参加しているマシンとドメインに参加していないマシンの両方の管理がサポートされています。

- ドメインに参加しているマシンの場合は、エージェントホストマシンが、設定済みの Cloud Connector と同じ Active Directory ドメインに属していることを確認してください。また、各リソースの場所にあるエージェントホストマシンが正しく結合されていることを確認します。
- ドメインに参加していないマシンにエージェントをインストールするプロセスは、ドメインに参加しているマシンと似ています。ただし、すべての要件を満たしていることを確認し、プロセス全体を通して正しいオプションを選択してください。詳しくは、「[ドメインに参加していないマシンの管理](#)」を参照してください。

エージェントを WEM サービスに接続するには、次の 3 つの方法があります。

- Cloud Connector
- ドメイン非参加
- 登録

方法の詳細については、「[使用するセットアップ方法を決定する](#)」を参照してください。

エージェントをインストールする

注:

Citrix Workspace で公開されているリソースに管理コンソールからアプリケーションショートカットとしてアクセスするには、Windows 用 Citrix Workspace アプリがエージェントマシンにインストールされていることを確認します。詳しくは、「[システム要件](#)」を参照してください。

次の順序で WEM エージェントをインストールします。

ステップ 1: エージェントをダウンロードする

WEM サービスの [ユーティリティ] タブから WEM エージェントパッケージ (*Citrix-Workspace-Environment-Management-Agent-Setup.zip*) をダウンロードし、各エージェントホストにコピーを保存します。

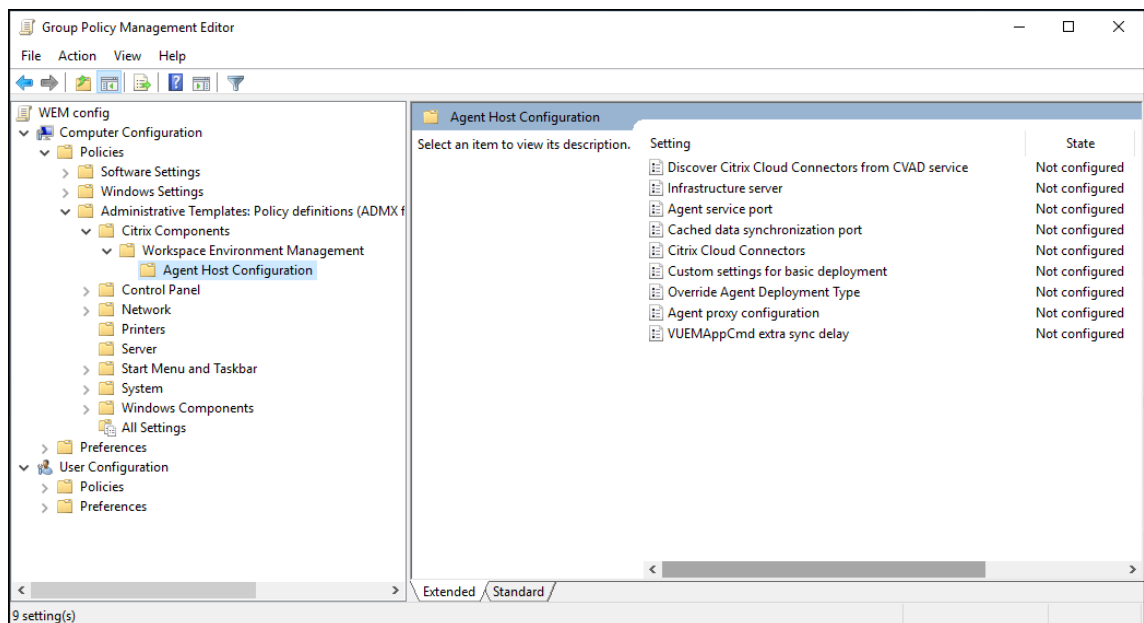
手順 2: グループポリシーを構成する (オプション)

重要:

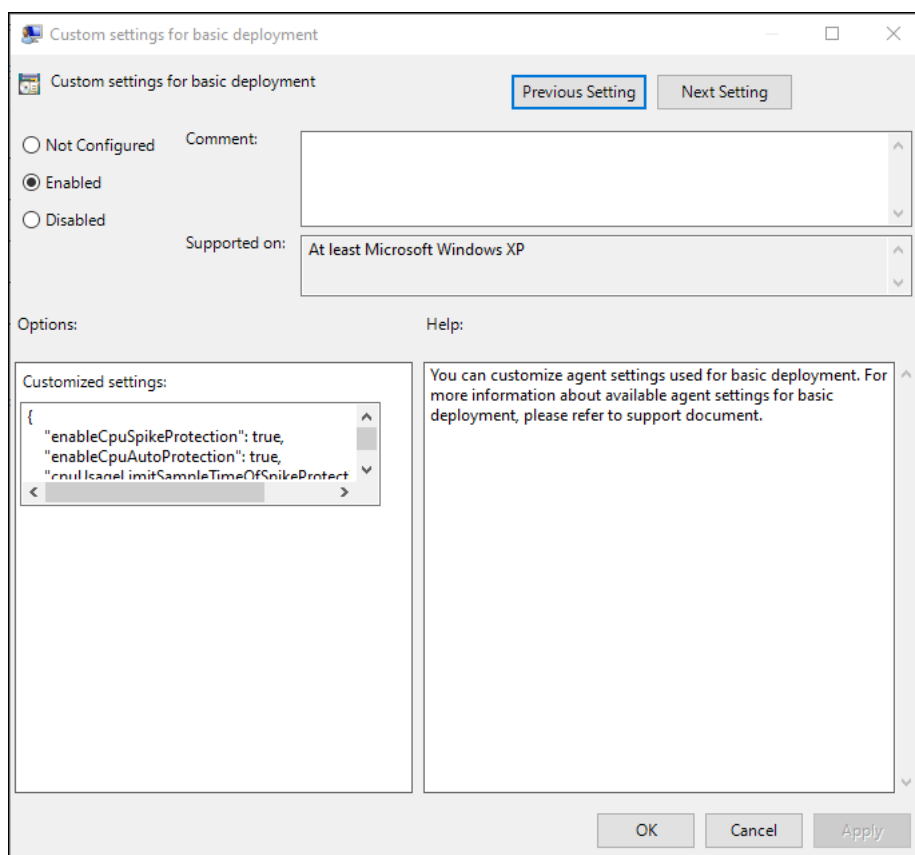
非ドメイン参加または登録方法を使用する場合は、この手順をスキップしてください。

オプションで、グループポリシーの設定を選択できます。WEM エージェントパッケージで提供されるエージェントグループポリシー管理用テンプレートは、エージェントホスト構成ポリシーを追加します。

1. WEM インストールパッケージに付属する **Agent Group Policies** フォルダを WEM ドメインコントローラにコピーします。
2. .admx ファイルを追加します。
 - a) [エージェントグループポリシー] > [ADMX] フォルダに移動します。
 - b) 2つのファイル (CitrixWorkspace Environment Management エージェントホスト構成.admx と CitrixBase.admx**) をコピーします。
 - c) <C:\Windows>\PolicyDefinitionsフォルダに移動して、ファイルを貼り付けます。
3. .adml ファイルを追加します。
 - a) [エージェントグループポリシー] > [ADMX] > [en-US] フォルダに移動します。
 - b) 2つのファイル (CitrixWorkspace Environment Management エージェントホスト構成.adml と CitrixBase.adml**) をコピーします。
 - c) <C:\Windows>\PolicyDefinitions\en-USフォルダに移動して、ファイルを貼り付けます。
4. [グループポリシー管理エディタ] ウィンドウで、[コンピュータの構成] > [ポリシー] > [管理用テンプレート] > [Citrix コンポーネント] > [Workspace Environment Management] > [エージェントホスト構成] の順に選択し、次の設定を構成します。



基本展開のカスタム設定。デプロイに使用されるカスタマイズされたエージェント設定。基本展開に使用できないエージェント設定の詳細については、「[基本展開エージェントの管理](#)」を参照してください。



エージェントの展開の種類を上書きします。WEM エージェントの展開の種類を上書きします。クラウドサービス、オンプレミス、または基本デプロイを選択できます。

エージェントプロキシ構成。WEM エージェントは、Citrix Cloud の WEM サービスに接続するためにインターネット接続に依存します。エージェントとサービスの間の通信は、次の目的を果たします。

- WEM サービスへの統計とステータスのアップロード
- エージェントキャッシュと WEM サービスデータベースとの同期を維持する
- エージェント設定と、エージェントの構成セットに固有の WEM 設定の取得

オプションで、エージェントとサービスとの通信方法を定義するために、HTTPS プロキシを構成することもできます。これを行うには、エージェントプロキシ構成ポリシーをダブルクリックし、プロキシサーバーのアドレスを次の形式で入力します: `http://<FQDN or IP address>:<port number>`。例: `http://10.108.125.51:8080`

注:

WEM サービスは、認証を必要とするプロキシサーバーをサポートしていません。

エージェントサービスポート。WEM サービスには必要ありません。状態「未構成」のままにします。

キャッシュされたデータ同期ポート。WEM サービスには必要ありません。状態「未構成」のままにします。

Citrix Cloud Connector。少なくとも 1 つの Citrix Cloud Connector を構成します。エージェントホストマシンは、構成済みの Cloud Connector マシンと同じ AD ドメインに存在する必要があります。

CVAD サービスから **Citrix Cloud Connector** を検出します。エージェントに Cloud Connector をまだ構成していない場合、エージェントが関連する Citrix DaaS (以前の Citrix Virtual Apps and Desktops サービス) 展開から Cloud Connector 情報を検出するかどうかを制御できます。その後、エージェントは対応する Cloud Connector マシンに接続します。

注:

- この設定は、WEM エージェントが Citrix DaaS 展開で実行されているシナリオ向けに設計されていません。
- エージェントのインストール中にクラウドコネクタが構成されている場合、または Citrix Cloud Connectors のポリシー設定が有効になっている場合、このポリシー設定は機能しません。

インフラストラクチャサーバー。WEM サービスには必要ありません。状態「未構成」のままにします。

VuemAppCmd 余分な同期遅延です。公開リソースが開始されるまでにエージェントアプリケーションランチャー (VUEAppCmd.exe) が待機する時間をミリ秒単位で指定します。これにより、必要なエージェントの作業が最初に完了します。推奨値は 100 ~ 200 です。デフォルト値は 0 です。

手順 3: エージェントをインストールする

重要:

.NET Framework はエージェントのインストール中に自動的にインストールできますが、エージェントをインストールする前に手動でインストールすることをお勧めします。そうしないと、エージェントのインストールを続行するにはマシンを再起動する必要があり、完了までに時間がかかることがあります。

エージェントセットアッププログラム *Citrix Workspace Environment Management* エージェントは、エージェントのダウンロードで提供されます。エージェントを対話的にインストールするか、コマンドラインを使用してインストールするかを選択できます。デフォルトでは、エージェントはオペレーティング・システム (OS) に応じて、次のいずれかのフォルダにインストールされます。

- C:\Program Files (x86)\Citrix\Workspace Environment Management Agent (64-bit OS)
- C:\Program Files\Citrix\Workspace Environment Management Agent (32-bit OS)

エージェントを対話形式でインストールするには、次の手順を実行します。

1. マシンで **Citrix Workspace Environment Management Agent.exe** を実行します。
2. [使用許諾契約条件に同意します] を選択し、[インストール] をクリックします。
3. 「ようこそ」 ページで、「次へ」 をクリックします。

注:

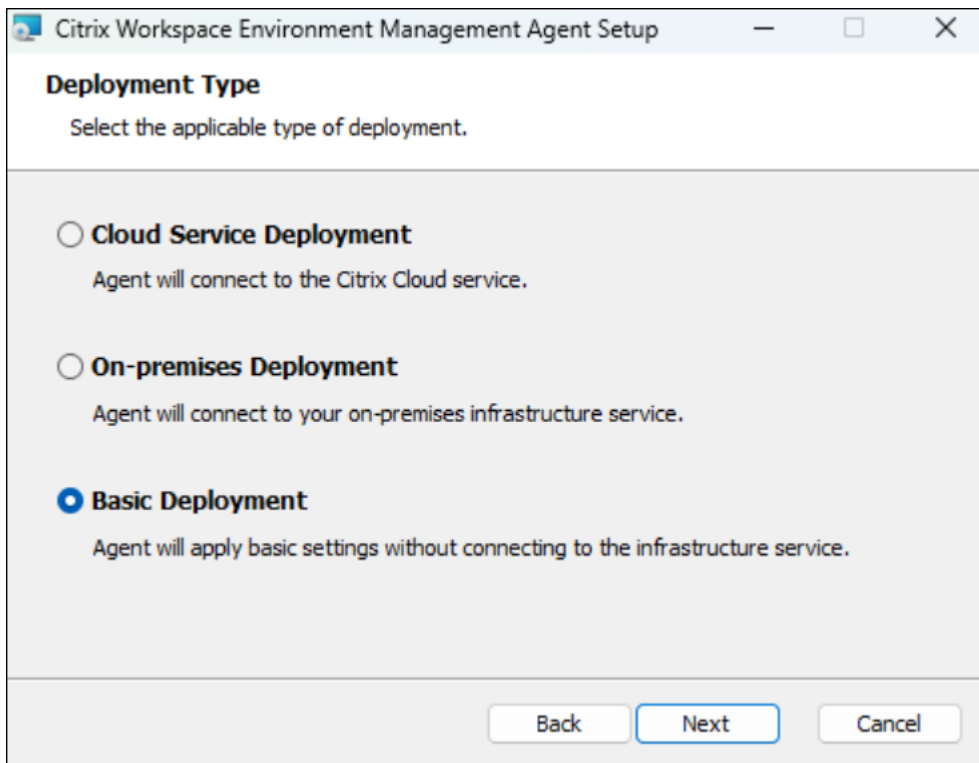
[よろこ] ページが表示されるまでに時間がかかる場合があります。これは、必要なソフトウェアが不足しており、バックグラウンドでインストールされている場合に発生します。

4. 「宛先フォルダ」 ページで、「次へ」 をクリックします。

- デフォルトでは、宛先フォルダフィールドにはデフォルトのフォルダパスが自動的に入力されます。エージェントを別のフォルダーにインストールする場合は、**[変更]** をクリックしてフォルダーに移動し、**[次へ]** をクリックします。
- WEM エージェントがすでにインストールされている場合は、インストール先フォルダフィールドに既存のインストールフォルダパスが自動的に入力されます。

5. 「展開の種類」 ページで、適切な展開タイプを選択し、「次へ」 をクリックします。この場合は、**[クラウドサービスの展開]** を選択します。

6. 基本展開の種類を選択することもできます。基本展開の種類を選択すると、エージェントはインフラストラクチャサービスに接続せずにデフォルトの最適化設定を有効にします。



7. **[クラウドサービスの構成]** ページで、エージェントが接続する Citrix Cloud Connectors を指定し、**[次へ]** をクリックします。

- 構成をスキップ。このオプションは次の場合に選択します。
 - グループポリシーを使用して設定が既に構成されています。

- エージェントマシンはドメインに参加していないマシンです。[ドメインに参加していないマシンの管理を参照してください。](#)
 - Cloud Connector を構成せずにエージェントを登録したい。[エージェントを登録するを参照してください。](#)
- **Citrix Cloud Connector** を構成します。Cloud Connector の FQDN または IP アドレスのカンマ区切りリストを入力して、エージェントが接続する Citrix Cloud Connector を構成します。

注:

- 1 - 各 Citrix Cloud Connector FQDN または IP アドレスを入力します。FQDN または IP アドレスは、必ずコンマ (,) で区切ってください。

- 複数の Cloud Connector が設定されているシナリオでは、WEM エージェントはリストから到達可能な Cloud Connector をランダムに選択します。この設計は、すべての Cloud Connector にトラフィックを分散することを意図しています。

The screenshot shows a Windows dialog box titled "Citrix Workspace Environment Management Agent Set...". The main heading is "Infrastructure Service Configuration" with a sub-instruction: "Specify the infrastructure service to which the agent connects." There are two radio button options: "Skip Configuration" (unselected) and "Configure the Infrastructure Service" (selected). Below the selected option, there is a text input field for "Type the FQDN or IP address of the infrastructure service:" containing "10.158.216.14". Below that are two more input fields: "Agent service port (default 8286):" with "8286" and "Cached data synchronization port (default 8288):" with "8288". At the bottom are "Back", "Next", and "Cancel" buttons.

8. [詳細設定] ページで、エージェントの詳細設定を構成し、[次へ] をクリックします。

- 代替キャッシュの場所 (オプション)。エージェントキャッシュの代替場所を指定できます。[参照] をクリックして、該当するフォルダに移動します。または、レジストリを使用してこれを行うこともできます。そのためには、まず Citrix WEM エージェントホストサービスを停止し、次のレジストリキーを変更します。

HKEY_LOCAL_MACHINE\SYSTEM\currentControlSet\コントロール\Norskale\エージェント
ホスト

名前:AgentCache 代替ロケーション

種類: REG_SZ

値: 空

既定では、この値は空です。既定のフォルダは<WEM agent installation folder path>\Local Databases Setです。必要に応じて、別のフォルダパスを指定してください。変更を有効にするには、Citrix WEM エージェントホストサービスを再起動します。変更が反映されると、**LocalAgentCache.db**と**LocalAgentDatabase.db**のファイルがフォルダーに表示されます。

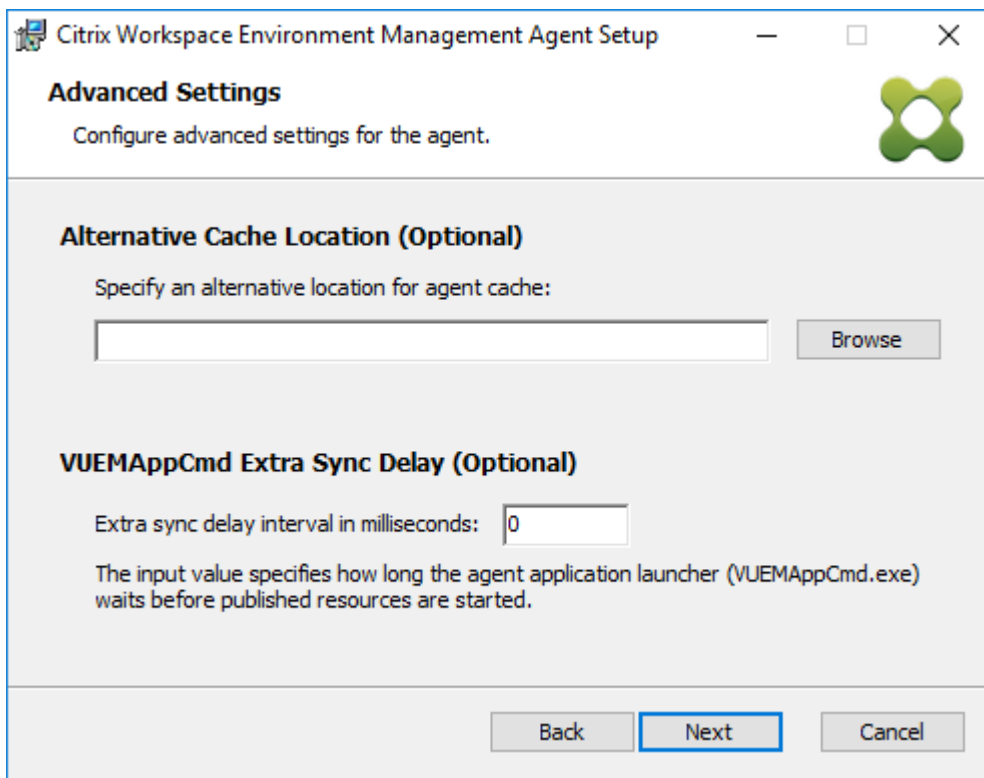
注意

レジストリエディターの使用を誤ると、深刻な問題が発生する可能性があり、オペレーティングシステムの再インストールが必要になる場合もあります。レジストリエディターの誤用による障害に対して、Citrix では一切責任を負いません。レジストリエディターは、お客様の責任と判断の範囲でご使用ください。また、レジストリファイルのバックアップを作成してから、レジストリを編集してください。

- **VUEMAppCmd** による同期遅延の追加（オプション）。エージェントアプリケーションランチャー (VUEMAppCmd.exe) が公開リソースを開始する前に待機する時間を指定できます。これにより、必要なエージェントの作業が最初に完了します。デフォルト値は 0 です。

注:

追加の同期遅延間隔に入力する値は、0 以上の整数である必要があります。



9. [インストールの準備完了] ページで、[インストール] をクリックします。

10. [完了] をクリックして、インストールウィザードを終了します。

または、コマンドラインを使用して WEM エージェントのサイレントインストールを選択することもできます。これを行うには、次のコマンドラインを使用します。

- `Citrix Workspace Environment Management Agent.exe /quiet Cloud=1`

ヒント:

- WEM サービス展開で実行されているエージェントの場合は、`Cloud=1`と入力します。オンプレミスの WEM 展開で実行されているエージェントの場合は、`Cloud=0`と入力します。
- ログファイルを参照して、エージェントのインストールのトラブルシューティングを行うこともできます。既定では、インストール中に発生したすべてのアクションを記録するログファイルは「%TEMP%」で作成されます。`/log log.txt`コマンドを使用して、ログファイルを保存する特定の場所を指定できます。

コマンドラインオプションを使用して、カスタム引数を指定することもできます。これにより、インストールプロセス中にエージェントとシステム設定をカスタマイズできます。詳細については、「[知っておきましょう](#)」を参照してください。

インストール後、エージェントは次のサービスとして実行されます。*Citrix WEM* エージェントホストサービスおよび *Citrix**WEM* エージェントユーザーログオンサービス。エージェントはアカウント *localSystem* として実行され

ます。このアカウントの変更はサポートされていません。エージェントサービスには「ローカルシステムとしてログイン」権限が必要です。

手順 **4**: コンピューターを再起動してインストールを完了します

エージェントをアンインストールする

1. エージェントがインストールされているマシンで、システムのコントロールパネルを開きます。
2. [プログラムと機能] をクリックします。
3. [**Citrix Workspace Environment Management**] を選択し、メニューの [アンインストール] をクリックします。

VDA のインストール時にエージェントを追加コンポーネントとしてインストールする場合は、VDA インストーラーで利用可能な WEM インストーラー (MSI) を使用してエージェントをアンインストールします。WEM インストーラ `citrix_wem_agent_core.msi` は <VDA installer path>\x64\Virtual Desktop Components にあります。VDA の追加コンポーネントとしてインストールされたエージェントをアンインストールするには、次の手順に従います。

1. `citrix_wem_agent_core.msi` フォルダ内で右クリックします。
2. [アンインストール] を選択します。

注:

エージェントをアンインストールしたら、VDA インストーラーまたは WEM インストーラーを使用してインストールできます。Citrix Virtual Apps and Desktops 2209 以降、WEM エージェントは VDA インストールに追加コンポーネントとして含まれなくなりました。インストールするには、Citrix Virtual Apps and Desktops 製品 ISO の全製品インストーラーを使用します。詳しくは、「[コアコンポーネントのインストール](#)」を参照してください。

次のステップ

既存のオンプレミスの WEM データベースを WEM サービスに移行する場合は、「[クラウドへの移行](#)」を参照してください。

WEM サービスを直接開始するには、管理コンソールを起動し、必要に応じて設定を構成します。次の 2 つのコンソールを使用できます。

- [従来のコンソール](#)
- [Web コンソール](#)

現在、レガシーコンソールから Web コンソールに機能を移行中です。Web コンソールはレガシーコンソールよりも応答が速く、より多くの機能を提供します。Web コンソールでのみ使用できる機能については、「[新機能](#)」を参照してください。

前提条件と推奨事項

WEM エージェントが正常に動作するようにするには、次の前提条件と推奨事項に注意してください。

前提条件

次の要件が満たされていることを確認します。

- Windows サービスシステムイベント通知サービスは、起動時に自動的に開始されるように構成されています。
- **WEM** エージェントサービス **Citrix WEM** エージェントホストサービスと **CitrixWEM** ユーザーログオンサービスは、起動時に自動的に開始するように構成されています。
- エージェントキャッシュは、可能な限り、永続的な場所に常駐します。非永続キャッシュの場所を使用すると、潜在的なキャッシュ同期の問題、過剰なネットワークデータ使用量、パフォーマンスの問題が発生する可能性があります。

推奨事項

エージェントを正常に展開するには、このセクションの推奨事項に従ってください。

- たとえば、ログオンスクリプトや起動スクリプトを使用して、**Citrix WEM** エージェントホストサービスを手動で操作しないでください。**Citrix WEM** エージェントホストサービスの停止や再起動などの操作により、Netlogon サービスの動作が停止し、他のアプリケーションで問題が発生する可能性があります。
- UI モードまたは CMD モードのエージェントを起動するには、ログオンスクリプトを使用しないでください。そうしないと、一部の機能が動作しない可能性があります。

エージェントの起動動作

- **Citrix WEM** エージェントホストサービスは、サービスの開始後に、グループポリシーを使用して構成された Cloud Connector 設定を自動的にリロードします。
- **Citrix WEM** エージェントユーザーログオンサービスは、最初のログオン時にエージェントホストサービスが開始されない場合、**Citrix WEM** エージェントホストサービスを自動的に開始します。この動作により、ユーザー構成が適切に処理されます。
- **Citrix WEM Agent Host Service** は、起動時に次のローカルデータベースファイルを自動的にチェックします。`LocalAgentCache.db`および`LocalAgentDatabase.db`。仮想マシンがプロビジョニングされ、ローカルデータベースファイルがベースイメージからのものである場合、データベースファイルは自動的にパーズされます。

- **Citrix WEM** エージェントホストサービスが起動すると、エージェントのローカルキャッシュが最近更新されたことが自動的に検証されます。キャッシュが構成された 3 つ以上のキャッシュ同期時間間隔で更新されていない場合、キャッシュはただちに同期されます。たとえば、デフォルトのエージェントキャッシュの同期間隔が 30 分であるとし、キャッシュが過去 60 分間に更新されなかった場合は、**Citrix WEM** エージェントホストサービスの開始直後に同期されます。
- インストール中、WEM エージェントインストーラは、Windows サービスシステムイベント通知サービスを自動的に開始するように構成します。
- WEM エージェントインストーラは、WEM エージェントのアップグレードが完了した後、Netlogon サービスを自動的に開始します。

エージェント・キャッシュ・ユーティリティ・オプション

Citrix WEM エージェントホストサービスは、更新とキャッシュ同期の設定を自動的に処理します。エージェントキャッシュユーティリティは、設定をすぐに更新してキャッシュを同期する必要があるシナリオでのみ使用します。

コマンドラインを使用して、エージェントインストールフォルダで *AgentCacheUtility.exe* を実行します。実行可能ファイルは、次のコマンドライン引数を受け入れます。

- `-help`: 許可される引数のリストを表示します。
- `-RefreshCache` または `-r`: キャッシュビルドまたは更新をトリガーします。
- `-RefreshSettings` または `-S`: エージェントホストの設定を更新します。
- `-Reinitialize` または `-I`: `-RefreshCache` オプションと一緒に使用すると、エージェントキャッシュを再初期化します。

コマンドラインの使用方法の詳細については、次の例を参照してください。

- エージェントホスト設定のリフレッシュ:
 - `AgentCacheUtility.exe -RefreshSettings`
- エージェントホスト設定とエージェントキャッシュを同時に更新する:
 - `AgentCacheUtility.exe -RefreshSettings -RefreshCache`
- エージェントキャッシュを再初期化します。
 - `AgentCacheUtility.exe -RefreshCache -Reinitialize`

ヒント

エージェント実行可能ファイルは、以下に説明するカスタム引数を受け入れます。

エージェントの設定

WEM エージェントの設定については、以下を参照してください。

- **AgentLocation**。エージェントのインストール場所を指定できます。有効なフォルダパスを指定します。
- **CloudConnectorList**。各 Citrix Cloud Connector の FQDN または IP アドレスを指定できます。FQDN または IP アドレスは、必ずコンマ (,) で区切ってください。
- **VUEMAppCmdDelay**。エージェントアプリケーションランチャー (VUEMAppCmd.exe) が Citrix Virtual Apps and Desktops の公開リソースを起動するまで待機する時間を指定できます。デフォルト値は 0 (ミリ秒) です。追加の同期遅延間隔に入力する値は、0 以上の整数である必要があります。
- **AgentCacheLocation**。エージェントキャッシュの代替場所を指定できます。構成されている場合、エージェントローカルキャッシュファイルは、エージェントインストールフォルダーではなく、指定された場所に保存されます。

次のことに注意してください：

- コマンドラインで設定が構成されている場合、WEM エージェントインストーラは、構成された設定を使用します。
- コマンドラインで設定が構成されておらず、以前に構成された設定がある場合、インストーラーは以前に構成された設定を使用します。
- コマンドラインで設定が構成されておらず、以前に構成された設定がない場合、インストーラーはデフォルト設定を使用します。

システム設定

エージェントホストマシンに関連するシステム設定については、以下を参照してください。

- **GpNetworkStartTimeoutPolicyValue**。インストール中に作成された GpNetworkStartTimeoutPolicyValue レジストリキーの値を秒単位で構成できます。この引数は、ログオン時のポリシー処理中に、グループポリシーがネットワーク可用性通知を待機する時間を指定します。引数は、1 (最小) から 600 (最大) の範囲の任意の整数を受け入れます。デフォルトでは、この値は 120 です。
- **syncForegroundPolicy**。エージェントのインストール時に SyncForegroundPolicy レジストリ値を構成できます。このポリシー設定は、グループポリシー処理が同期かどうかを決定します。受け入れられる値：0、1 値が設定されていない場合、または値を 0 に設定すると、Citrix WEM エージェントユーザーログオンサービスはログオンを遅延せず、ユーザーのグループポリシー設定はバックグラウンドで処理されます。値を 1 に設定すると、ユーザーのグループポリシー設定の処理が完了するまで、Citrix WEM Agent ユーザーログオンサービスはログオンを遅らせます。デフォルトでは、値はインストール中に変更されません。

重要:

グループポリシー設定がバックグラウンドで処理される場合、すべてのポリシー設定が処理される前に Windows シェル (Windows エクスプローラ) が起動することがあります。そのため、一部の設定は、ユーザーが初めてログオンしたときに有効にならない場合があります。ユーザーが初めてログオンしたときにすべてのポリシー設定を処理する場合は、値を 1 に設定します。

- **WaitForNetwork**。インストール時に作成された **WaitForNetwork** レジストリキーの値を秒単位で構成できます。この引数は、ネットワークが完全に初期化されて利用可能になるまで、エージェントホストが待機する時間を指定します。引数は、0 (最小) から 300 (最大) の範囲の任意の整数を受け入れます。デフォルトでは、この値は 30 です。

上記の 3 つのキーはすべて、インストール時に **HKEY_LOCAL_MACHINE\ SOFTWARE\ Microsoft\ Windows NT\ CurrentVersion\ Winlogon** の下に作成されます。これらのキーは、ログオン前にユーザー環境がインフラストラクチャサーバーアドレス GPO を受信するようにします。Active Directory またはドメインコントローラサーバーの応答が遅いネットワーク環境では、ログオン画面が表示される前に処理時間が長くなることがあります。影響を与えるためには、**gpNetworkStartTimeOutPolicyValue** キーの値を最低 **30** に設定することをお勧めします。

- **ServicesPipeTimeout**。ServiceSpineTimeout レジストリキーの値を設定できます。キーは、インストール中に **HKEY_LOCAL_MACHINE\ SYSTEM\ CurrentControlSet\ Control\ Control** の下に作成されます。このレジストリキーは、サービスコントロールマネージャーが WEM エージェントサービスの状態に関するレポートを許可する前に遅延を追加します。この遅延により、ネットワークが初期化される前にエージェントサービスを起動しないようにすることで、エージェントが失敗するのを防ぎます。この引数は、ミリ秒単位の任意の値を受け入れます。指定しない場合、デフォルト値の 60000 (60 秒) が使用されます。

注:

上記の設定がコマンドラインを使用して構成されていない場合、インストール中に WEM エージェントインストーラによって処理されません。

例

次のコマンドライン形式を使用して設定を構成することもできます。

- `"Citrix Workspace Environment Management Agent.exe"<key=value>`

例:

- エージェントのインストール場所と Citrix Cloud Connector の指定
 - `"Citrix Workspace Environment Management Agent.exe"/quiet AgentLocation="L:\WEM Agent"Cloud=1 CloudConnectorList=cc1.qa.local,cc2.qa.local`

- 「ユーザーログオンネットワーク待機時間」を 60 秒に設定する
 - "Citrix Workspace Environment Management Agent.exe"WaitForNetwork=60

エージェントを登録する

November 10, 2022

はじめに

Citrix Cloud Connector を構成しなくても、Workspace Environment Management (WEM) エージェントを登録できます。その前に、次の点を考慮してください。

- 登録は、ドメインに参加しているマシンとドメインに参加していないマシンの両方に適用されますが、物理マシンと永続的な VM にも適用されます。
- Citrix DaaS で管理されている仮想マシンの場合は、Cloud Connector またはドメインに参加していない方法を使用して、VDA の場合と同じ方法でエージェントを Citrix Cloud に接続することをお勧めします。[使用するセットアップ方法を決定するを参照してください](#)。
- 永続的な VM が正しく登録されるようにするには、次の手順を実行します。
 - イメージを作成する前に VM を一般化して、マシン固有の情報を削除します。Sysprep を使用して VM を一般化する方法については、Microsoft の製品マニュアルを参照してください: <https://docs.microsoft.com/en-us/windows-hardware/manufacture/desktop/sysprep--generalize--a-windows-installation?view=windows-11>。

この機能を使用するには、**エージェントをインストールするときに** [構成をスキップ] を選択し、[CVAD から **Citrix Cloud Connector** を検出する] サービスポリシーを有効にしないことが必要です。

エージェントを登録する

WEM エージェントの登録方法を柔軟に決定できます。次の 2 つの方法があります。

- 招待状で登録する。これには Web コンソールが必要です。ユーザーは、登録プロセスに参加するよう招待されます。
- ベアラートークンまたは API セキュアクライアントで登録します。これにはコンソールが必要なく、ユーザーが登録プロセスに参加する必要もありません。

招待状で登録する

ユーザーデバイスをリモートで安全に管理するには、ユーザーデバイスを WEM に登録します。

招待状で登録する一般的なワークフローは次のとおりです。

1. [管理] > [Web コンソール] > [登録] > [招待] で、[招待状で登録] を有効にして、登録キーを生成します。
2. エージェントマシンで、登録ツールを使用して登録キーをインストールします。

a) 管理者としてコマンドプロンプトを開きます。

b) 以下のコマンドを実行します。(<enrollment key> を実際のキーに置き換えてください。)

- `Citrix.Wem.Agent.EnrollmentUtility.exe configenrollmentkey -k <enrollment key>`

ヒント:

- 登録ツールである **Citrix.Wem.Agent.EnrollmentUtility.exe** は、エージェントのインストールフォルダにあります。詳細については、「[登録ツール](#)」を参照してください。
- マスターイメージを準備するときに、マスターイメージにエージェントをインストールできます。次に、マスターイメージをユーザー用のマシンを作成するためのテンプレートとして使用します。この方法では、エージェントごとに登録キーをインストールする必要はありません。

3. [管理] > [Web コンソール] > [登録] > [招待] で、登録招待状をユーザーに送信します。

ユーザーは招待状を受け取ったら、招待コードを使用してデバイスを登録できます。「招待コードでエージェントを登録する」を参照してください。

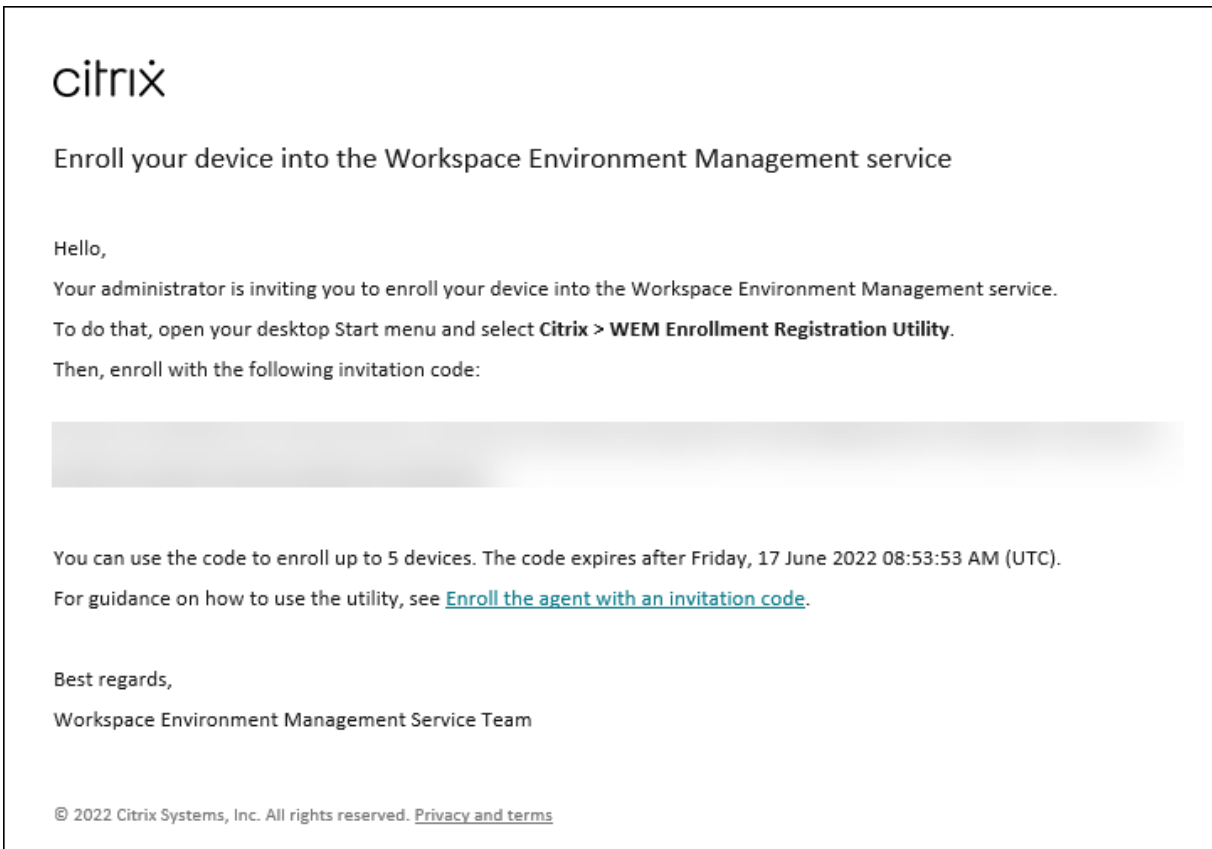
デバイスが登録されると、そのデバイスは管理対象となり、[管理] > [Web コンソール] > [登録] > [登録済みエージェント] に表示されます。これを必要な構成セットに追加して、正確な管理を行うことができます。「[登録済みエージェントの管理](#)」を参照してください。

招待コードでエージェントを登録する

重要:

エージェントを登録するには、ローカル管理者権限が必要です。

ユーザーには、次の招待メールが届きます。



次のように、招待コードを使用してデバイスを登録します。

1. デスクトップの [スタート] メニューを開き、[**Citrix**] > [**WEM 登録ユーティリティ**] を選択します。

ヒント:

ユーティリティが [スタート] メニューで使用できない場合は、WEM エージェントのインストールフォルダーに移動し、**Citrix.WEM.Agent.Enrollment.RegUtility.exe** を開きます。

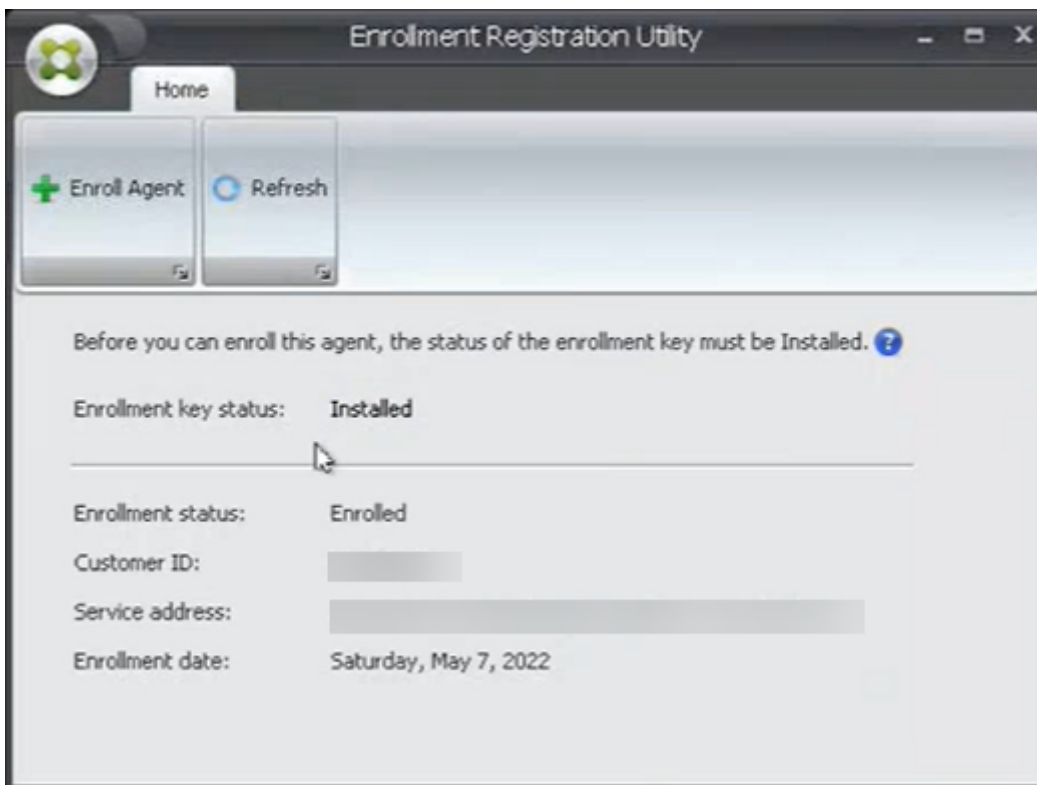
2. 登録ユーティリティで、登録キーのステータスが [インストール済み] であることを確認し、[エージェントの登録] をクリックします。

注:

登録キーのステータスが [インストール済み] でない場合は、管理者に問い合わせてください。

3. [エージェントの登録] ウィンドウで、招待コード (招待メールからコピー) を貼り付け、[登録の開始] をクリックします。

エージェントが正常に登録されると、次のメッセージが表示されます。エージェントは正常に登録されました。「閉じる」をクリックすると、登録ユーティリティに戻り、次の情報が表示されます。



注:

ベアラートークンまたは API セキュアクライアントを使用して登録するには、登録キーの参加は必要ありません。登録ユーティリティを使用して、ベアラートークンまたは API セキュアクライアントに登録されているエージェントマシンの登録ステータスを確認すると、登録キーステータスフィールドは [未インストール] と表示され、[登録ステータス] フィールドは次のように表示されます。登録済み。

ベアラートークンまたは **API** セキュアクライアントで登録する

エージェントマシンを登録するには、次の手順を実行します。

1. Citrix Cloud にサインインし、Citrix API サービスへの認証用のベアラートークンまたは API セキュアクライアントを取得します。API セキュアクライアントとベアラートークンを生成する方法については、「[Citrix Cloud API の使用を開始する](#)」を参照してください。
2. エージェントがインストールされているマシンにログオンします。
3. コマンドプロンプトウィンドウを開きます。

- ベアラートークンを使用してエージェントを登録するには、次のコマンドを入力します。

```
- Citrix.Wem.Agent.EnrollmentUtility.exe enroll --customer "customerid"--bearer "bearertoken"--url "api.wem.cloud.com"
```

ヒント:

ベアラートークンを使用する場合、ベース URL はリージョンごとに一意であることに注意してください。詳細については、「[ベース URL](#)」を参照してください。指定しない場合、米国リージョン (api.wem.cloud.com) の URL が使用されます。

- エージェントを API セキュアクライアントに登録するには、次のコマンドを入力します。

```
- Citrix.Wem.Agent.EnrollmentUtility.exe enroll --customer "customerid"--clientid "clientid"--clientsecret "clientsecret"--authurl "api-us.cloud.com"--url "api.wem.cloud.com"
```

ヒント:

1 - セキュアクライアントを使用するときは、2 つの URL があることに注意してください。

- 最初の URL は認証 URL で、リージョンごとに異なります。詳しくは、「[Citrix Cloud API の使用を開始する](#)」を参照してください。指定しない場合、米国リージョン (api-us.cloud.com) の URL が使用されます。
- 2 つ目の URL はベース URL で、これも地域ごとに異なります。詳細については、「[ベース URL](#)」を参照してください。指定しない場合、米国リージョン (api.wem.cloud.com) の URL が使用されます。

または、ステップ 3 で JSON 形式の設定ファイルを作成し、以下のコマンドでそのファイルを使用します。

```
• Citrix.Wem.Agent.EnrollmentUtility.exe enroll --config "configfilepath"
```

注:

構成ファイルには機密情報が含まれているため、登録後に構成ファイルを削除することをお勧めします。

設定ファイルの形式は次のとおりです。

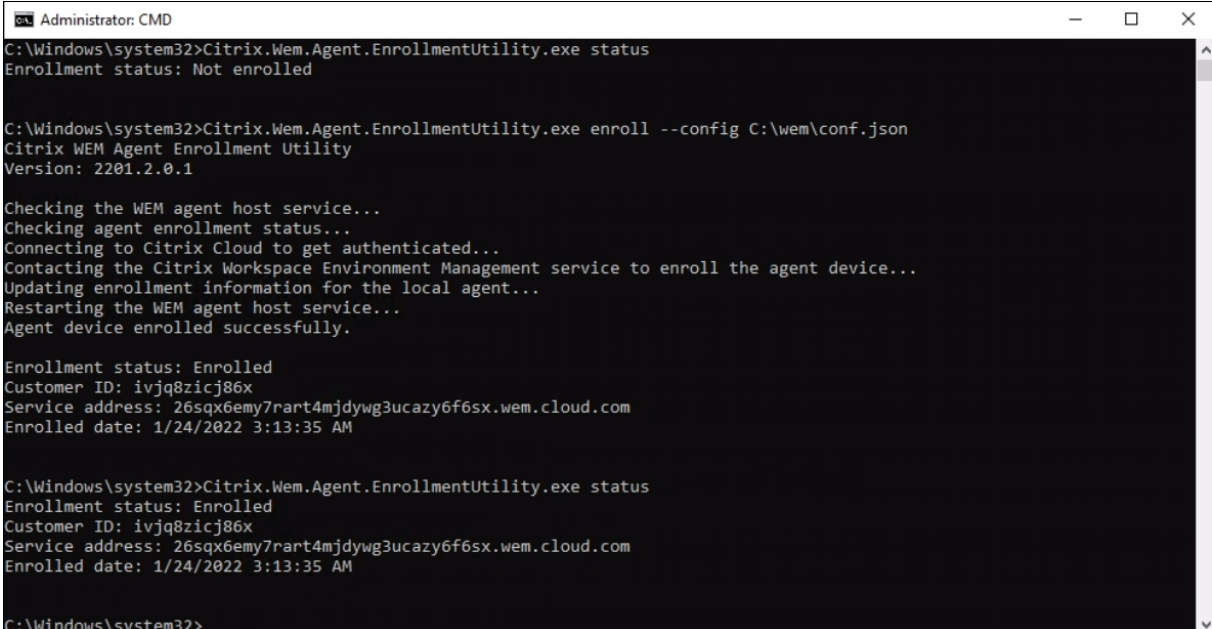
ヒント:

ベアラートークンまたはセキュアクライアントを使用する場合は、対応するフィールドを空白のままにすることができます。

```
1 {
2
3
4   "CustomerId": The Citrix Cloud customer ID,
5
6   "ClientId": The secure client ID of the Citrix Cloud API client,
7 }
```

```
8     "ClientSecret": The secure client secret of the Citrix Cloud API
          client,
9
10    "AuthUrl": The base URL of the Citrix Cloud API used to get the
          bearer
11    token,
12
13    "BearerToken": The Citrix Cloud bearer token,
14
15    "BaseUrl": The base URL of the WEM RESTful APIs
16
17    }
18
19
20 <!--NeedCopy-->
```

出力例:



```
Administrator: CMD
C:\Windows\system32>Citrix.Wem.Agent.EnrollmentUtility.exe status
Enrollment status: Not enrolled

C:\Windows\system32>Citrix.Wem.Agent.EnrollmentUtility.exe enroll --config C:\wem\conf.json
Citrix WEM Agent Enrollment Utility
Version: 2201.2.0.1

Checking the WEM agent host service...
Checking agent enrollment status...
Connecting to Citrix Cloud to get authenticated...
Contacting the Citrix Workspace Environment Management service to enroll the agent device...
Updating enrollment information for the local agent...
Restarting the WEM agent host service...
Agent device enrolled successfully.

Enrollment status: Enrolled
Customer ID: ivjq8zicj86x
Service address: 26sqx6emy7rart4mjdywg3ucazy6f6sx.wem.cloud.com
Enrolled date: 1/24/2022 3:13:35 AM

C:\Windows\system32>Citrix.Wem.Agent.EnrollmentUtility.exe status
Enrollment status: Enrolled
Customer ID: ivjq8zicj86x
Service address: 26sqx6emy7rart4mjdywg3ucazy6f6sx.wem.cloud.com
Enrolled date: 1/24/2022 3:13:35 AM

C:\Windows\system32>
```

登録したエージェントを管理する

エージェントを登録したら、管理コンソールを使用して、正確な管理のために必要な構成セットにバインドします。

- Web コンソールで、[ディレクトリオブジェクト]に移動し、エージェントマシンを構成セットに追加します。[ディレクトリオブジェクトを参照してください。](#)
- レガシーコンソールで、[**Active Directory** オブジェクト]> [マシン]に移動し、エージェントマシンを構成セットに追加します。[Active Directory オブジェクトを参照してください。](#)
- ドメインに参加していないマシンの追加については、「[ドメインに参加していないマシンの管理](#)」を参照してください。

注:

- 登録済みのドメインに参加していないマシンを追加すると、エージェントはまず [既定のサイト] 構成セットまたは [バインドされていないエージェント] 構成セット (有効な場合) に登録されます。エージェントが登録されたら、そのマシンを他の構成セットに追加できます。

キーの作成とローテーション

エージェントが WEM に正常に登録されると、サービスキーがクラウドに作成されます。次のルールを考慮してください。

- キーは 90 日で期限切れになります。有効期限が切れたら、エージェントは WEM サービスに接続してキーをローテーションする必要があります。デフォルトでは、エージェントは有効期限の 14 日前に自動的に接続してキーをローテーションします。
- 期限切れのキーは 180 日間保持されます。エージェントは 180 日以内にキーをローテーションする必要があります。その後、キーは削除されます。
- キーが削除されると、そのキーを使用するエージェントは WEM サービスに接続できなくなります。エージェントは再登録する必要があります。

注:

ID を変更すると、サービスキーとエージェント ID が一致しないことがあります。ID の変更は、たとえば、エージェントマシンがドメインに参加したり、ドメインから離脱したりするときに発生します。その場合、エージェントがキーをローテーションできるように、キーがまだ有効なときにエージェントが WEM サービスに接続できるようにする必要があります。

登録ツール

エージェント登録ツールである **Citrix.WEM.Agent.EnrollmentUtility.exe** は、WEM エージェントのインストールフォルダーにあります。デフォルトでは、エージェントは次のデフォルトフォルダにインストールされます。

- C:\Program Files (x86)\Citrix\Workspace Environment Management Agent (64 ビット OS の場合)
- C:\Program Files\Citrix\Workspace Environment Management Agent (32 ビット OS の場合)

登録ツールのコマンドラインオプション

このツールには次のオプションがあります。

パラメーター	説明
状態	エージェントマシンの現在の登録状態を表示します。
登録する	エージェントマシンを Citrix Workspace Environment Management サービスに登録します。
登録キーを構成する	登録キーを設定します。
助けて	特定のコマンドに関する詳細情報を表示します。
version	ツールのバージョン情報を表示します。

たとえば、エージェントの登録ステータスを表示するには、次のコマンドを入力します。

- `Citrix.Wem.Agent.EnrollmentUtility.exe status`

このツールは、次の登録オプションを提供します。

パラメーター	説明
-config	設定ファイルから設定を JSON 形式で読み取ります。
-c, -customer	Citrix Cloud の顧客 ID。
-b, -bearer	Citrix Cloud ベアラートークン。
-clientid	Citrix Cloud API クライアントの安全なクライアント ID。
-clientsecret	Citrix Cloud API クライアントの安全なクライアントシークレット。
-authurl	ベアラートークンの取得に使用される Citrix Cloud API のベース URL。デフォルト: <code>api-us.cloud.com</code> 。
-u, -url	WEM RESTful API のベース URL。デフォルト: <code>api.wem.cloud.com</code> 。
-f, -force	現在の登録ステータスに関係なく、エージェントマシンを登録します。デフォルト: <code>false</code> 。
-k, -key	登録キーを設定します。
-f, -file	ファイルから登録キーを読み取り、登録キーを設定します。
-s, -status	登録キーの現在のステータスが表示されます。
-help	コマンドレットのヘルプを表示します。
-version	ツールのバージョン情報を表示します。

リターンコード

このツールは、次のコードを返すことができます。

コード	説明
0	エラーなし
1	引数が無効です
2	権限が不十分
3	エージェントホストサービスの準備ができていません
4	リモート API の呼び出し中にエラーが発生しました
100	未処理の例外
1000	エージェントは登録されていません
1001	エージェントは現在登録されています。エージェントを登録する場合、 <code>-force</code> オプションが指定されていない限り、操作はスキップされます。
2000	登録キーがインストールされていません
2001	登録キーがインストールされました

エージェントの登録を解除する

エージェントを登録解除するには、エージェントをアンインストールするときに、次のコマンドを使用してエージェントインストーラを使用します。

- `citrix_wem_agent_bundle.exe /uninstall Disenroll=1`

エージェントをアンインストールすると、次のレジストリキーが削除されます。

- `HKEY_LOCAL_MACHINE\SOFTWARE\Citrix\WEM\Agent\EnrollmentData`

Azure 仮想デスクトップ用 Citrix Optimization Pack

October 26, 2023

はじめに

Azure 仮想デスクトップ向け Citrix Optimization Pack は、Azure 仮想デスクトップワークロードを最適化するための新しい Citrix 製品です。現在、軽量でスケーラブルなユーザー環境管理ソリューションである Workspace Environment Management サービスが含まれており、IT 管理を簡素化し、デスクトップを最適化して最高のユーザーエクスペリエンスを実現します。

Citrix Optimization Pack を使用すると、Workspace Environment Management サービスを使用して、ネイティブの Azure 仮想デスクトップ環境を管理、最適化、および保護できます。組織には次のようなメリットがあります。

- ログオン時間が短縮され、ログオンパフォーマンスが向上
- 最適なリソース消費
- 制御可能なデスクトップの動作
- よりセキュアなユーザー環境

その他の利点については、「[Workspace Environment Management](#)」サービスの特長を参照してください。

重要:

- Workspace Environment Management サービスで Azure 仮想デスクトップを管理するには、Citrix Optimization Pack を購入する必要があります。
- この記事のリンク先のその他の情報ソースを含むこの製品ドキュメントは、Workspace Environment Management サービスに固有のものではありません。特に明記されていない限り、すべての情報は Citrix Optimization Pack にも適用されます。Citrix Optimization Pack に適用されない Workspace Environment Management 機能の完全なリストについては、「[Azure Virtual Desktop に適用されない機能](#)」を参照してください。

前提条件

- マシンとユーザーは Active Directory または Azure Active Directory Domain Services に参加しています
- Citrix Cloud コネクタはドメインに参加しています

システム要件

Citrix Optimization Pack のシステム要件について詳しくは、「[システム要件](#)」を参照してください。

制限

Citrix Optimization Pack は、中小規模から大規模のエンタープライズ展開向けに設計されています。サーバー側では、Citrix Optimization Pack はフロントエンドコンポーネントとバックエンドコンポーネント間の通信フロー

を監視し、転送中のデータに基づいて動的にスケールアップまたはスケールダウンします。

Citrix Optimization Pack でサイジングとスケーラビリティを評価するときは、[制限を考慮してください](#)。この記事の値は、単一の Citrix Optimization Pack インスタンスの制限を示しています。

開始

Citrix Optimization Pack の展開環境を設定するには、次の手順に従います。

ヒント:

Azure 仮想デスクトップのデプロイに関する詳細な手順については、<https://docs.microsoft.com/en-au/azure/virtual-desktop/overview>にある Microsoft のドキュメントを参照してください。

ステップ 1: オンボーディング

Citrix アカウントにサインアップし、「[Azure 仮想デスクトップ用 Citrix Optimization Pack を購読する](#)」の説明に従って、[Citrix Optimization Pack 試用版](#)をリクエストします。オンボーディングの手順については、「[サインアップ](#)」を参照してください。

ステップ 2: リソースの場所を設定し、**Cloud Connector** をインストールする

リソースの場所には、インフラストラクチャサーバー（Active Directory や Citrix Cloud コネクタなど）が含まれています。詳細については、[Cloud Connector の方法を参照してください](#)。

ステップ 3: エージェントをインストールして構成する

Citrix Optimization Pack が管理する各 Azure 仮想デスクトップには、Workspace Environment Management エージェントがインストールされている必要があります。これらのマシンは、構成済みのクラウドコネクタと同じ Active Directory ドメインまたは Azure Active Directory ドメインサービスドメインに属している必要があります。各リソースの場所にあるマシンが正しく結合されていることを確認します。

エージェントのインストールについて詳しくは、「[エージェントのインストール](#)」を参照してください。

エージェントインストールの前提条件と推奨事項

エージェントが正しく動作することを確認するには、「[前提条件と推奨事項](#)」のすべての情報を確認します。

追加情報

Citrix Tech Zone のドキュメント記事では、目標の確立、ユースケースとビジネス目標の定義に役立つ情報、および構成に関する考慮事項について説明しています。

- Citrix Optimization Pack によって全体的なエクスペリエンスが向上し、展開環境のセキュリティが強化される仕組みについては、「[技術概要: Workspace Environment Management](#)」を参照してください。
- Citrix Optimization Pack のアーキテクチャと展開に関する考慮事項については、「[リファレンスアーキテクチャ: Workspace Environment Management](#)」を参照してください。
- Citrix Optimization Pack がリソース使用率、ログオン時間、RAM 使用率を最適化する方法については、「[Tech Insight: Workspace Environment Management](#)」を参照してください。そのビデオをご覧ください。

Azure 仮想デスクトップ向け Citrix Optimization Pack を購読する

April 10, 2024

はじめに

Citrix または Azure Marketplace を通じて、Azure 仮想デスクトップ向け Citrix Optimization Pack をサブスクライブできます。

デモとトライアル

[サインアップでトライアルをリクエスト](#)すると、パックを評価できます。試用版から、後で有料サービスサブスクリプションに変換できます。

シトリックスから購入する

Azure Virtual Desktop 向け Citrix Optimization Pack は、Citrix Cloud から、または Citrix のアカウント担当者または Citrix Partner を通じて注文できます。

Citrix Cloud から:

- 「[Citrix Cloud にサインアップする](#)」のガイダンスに従って、Citrix Cloud アカウントと組織 ID を取得します。
- Azure 仮想デスクトップ用の Citrix Optimization Pack 試用版をリクエストできます。[Workspace Environment Management] サービススタイルで、[トライアルをリクエスト] をクリックします。トライアルが利用可能になると、メールが届きます。

Azure Marketplace から購入する

Azure 仮想デスクトップ向けの Citrix Optimization Pack は、[Azure Marketplace](#)から注文できます。

Azure Marketplace から購入するための要件

Citrix Cloud アカウントの組織 ID が必要です。

Citrix Cloud アカウントを持っているが、組織 ID がわからない場合は、Citrix Cloud コンソールの右上隅を確認します。または、アカウントの作成時に受け取ったメールをご覧ください。

Citrix Cloud アカウントをお持ちでない場合は、「[Citrix Cloud へのサインアップ](#)」のガイダンスに従ってください。

Azure Marketplace から購入する手順

以下の手順に従って、Azure Marketplace から Azure 仮想デスクトップ用 Citrix Optimization Pack を注文します。

1. Azure アカウントの資格情報を使用して、[Azure Marketplace](#)にサインインします。
2. 注文する Azure 仮想デスクトップ向け Citrix Optimization Pack を検索して移動します。
3. **[Get it now]** を選択します。
4. **[One more thing]** メッセージ上で必要な情報を入力し、同意のチェックボックスをオンにしてから、**[Continue]** を選択します。
5. 製品、プラン、価格、使用状況に関する情報が表示されるタブを確認します。準備ができたなら、プランを選択し (複数のプランがある場合)、**[セットアップ + 購読]** を選択します。
6. **[Basics]** タブで:
 - サブスクリプション: 選択したプランを示します。
 - リソースグループ: リソースグループを選択または作成します。
 - 名前: サブスクリプション注文の名前を入力して、後で簡単に識別できるようにします。
 - [プラン] セクションには、請求期間に基づいて、選択したプランの価格が表示されます。プランの期間を変更するには、**[Change plan]** を選択します。必要な期間を選択し、**[Change plan]** を選択します。
7. **[レビュー + 購読]** タブで、次の操作を行います。
 - 連絡先情報を確認し、必要に応じて更新します。
 - 基本購読情報を確認し、**[購読]** を選択します。
8. **[Subscription in progress]** ページで、**[Configure account now]** を選択します。(ボタンが無効になっている場合は、しばらくお待ちください。)Citrix スのアクティベーションページが表示されます。
9. アクティベーションページで:

- **[Sign in]** リンクを使用して、Citrix Cloud にサインインします。サインインに成功すると、**[Organization ID]** フィールドに自動的に入力されます。
- 数量: ユーザー数を入力します。(最初の注文は少なくとも 25 でなければなりません。) 推定価格が表示されます。
- 契約条件に同意してから、**[Activate Order]** を選択します。

Azure Marketplace から購入した後

サービスがプロビジョニングされると、Citrix から電子メールが送信されます。プロビジョニングには時間がかかる場合があります。翌日までにメールが届かない場合は、[Citrix テクニカルサポートに連絡してください](#)。シトリックスからメールを受信すると、サービスの使用を開始できます。

重要:

Azure のサービスリソースを削除しないでください。Azure のサービスリソースを削除すると、サブスクリプションがキャンセルされます。

次の操作

購入が完了したら、「[展開の計画と構築](#)」の次の手順に進みます。

Azure 仮想デスクトップには適用されない機能

June 20, 2022

Workspace Environment Management サービスで使用できるが、Citrix Optimization Pack for Azure Virtual Desktop には適用されない機能を次に示します。

- [Citrix DaaS から Citrix Cloud Connector を発見](#)

この機能は、Citrix DaaS (以前の Citrix Virtual Apps and Desktops サービス) のみを対象としています。

- [フィルター条件](#)

次の条件は、Citrix DaaS および Citrix Virtual Apps and Desktops に適用されます。Azure 仮想デスクトップ用 Citrix Optimization Pack には適用されません。

- Citrix Virtual Apps ファーム名の一致
- Citrix Virtual Apps のバージョンの一致
- Citrix Virtual Apps ゾーン名の一致
- Citrix 仮想デスクトップファーム名の一致
- Citrix 仮想デスクトップグループ名の一致

- Citrix Virtual Apps ファーム名が一致しない
- Citrix Virtual Apps のバージョンが一致しません
- Citrix Virtual Apps ゾーン名が一致しない
- Citrix 仮想デスクトップファーム名が一致しません
- Citrix 仮想デスクトップグループ名が一致しません

- [ドメインに参加していないマシンを管理する](#)

この機能は Citrix DaaS のみをサポートします。

- [プロセス階層制御](#)

この機能は、Citrix DaaS および Citrix Virtual Apps and Desktops で公開されたアプリケーションのみをサポートします。

- [トランスフォーマー](#)

- [VDA ヘルスチェック](#)

この機能は、Citrix DaaS および Citrix Virtual Apps and Desktops 向けです。現在、Web コンソールでのみ使用できます。

アップグレード

May 28, 2024

注:

WEM エージェント 2211.1.0.1 以降、エージェントは必要な場合のみ構成データをダウンロードします。この拡張機能により、帯域幅の消費量を最大 50% 削減できます。「[新機能](#)」を参照してください。メリットを享受できるように、エージェントを 2211.1.0.1 以降にアップグレードすることをお勧めします。

Citrix は、WEM サービスエージェントを除くすべての Workspace Environment Management (WEM) サービスコンポーネントを展開環境に維持します。

WEM サービスエージェントは、既存の構成を失うことなく、新しいバージョンにアップグレードできます。これはインプレースアップグレードと呼ばれます。

デフォルトでは、WEM サービスエージェントの新しいバージョンがリリースされると、電子メール通知が届きます。今後、このようなメールを受信したくない場合は、登録を解除することができます。これを行うには、WEM サービスの [ユーティリティ] タブに移動し、[新しいエージェントバージョンに関する通知] セクションの [登録解除] をクリックします。

重要:

- WEM サービスエージェントをアップグレードする前に、ログオンしているユーザーがいないことを確認します。これにより、アップグレードプロセス中にエージェントマシン上のファイルを変更できるようになります。
- 最新の機能を使用できるように、Agent を最新バージョンにアップグレードすることをお勧めします。

エージェントのアップグレード

1. WEM サービスの [ユーティリティ] タブから最新の WEM サービスエージェントパッケージをダウンロードします。
2. 「[インストールと構成](#)」の説明に従って、新しい WEM サービスエージェントを各ターゲットマシンに展開します。

エージェントの自動アップグレード

注:

Agent の自動アップグレード機能を使用して Agent アップグレードを非永続マシンにロールアウトすると、マシンの再起動後にアップグレードが元に戻ります。

エージェントの自動アップグレード機能を使用して、WEM エージェントの自動アップグレードをスケジュールできます。この機能により、エージェントのアップグレードを手動でロールアウトしなくても、エージェントの定期的なアップグレードが容易になります。この機能により、WEM エージェントを柔軟にアップグレードできます。

- WEM が構成セット内のすべてのエージェントマシンに自動的にアップグレードをロールアウトする期間を指定できます。
- または、ユーザーがエージェントを手動でアップグレードできるようにすることもできます。

詳細については、「[WEM Agent アップグレードタスクの作成](#)」を参照してください。

エージェントをオンデマンドでアップグレードする

エージェントはコンソールからオンデマンドでアップグレードできます。このオプションは、レガシーコンソールと Web コンソールの両方で使用できます。この機能を使用するには、次の手順を実行します。

- レガシーコンソールで、[管理] > [エージェント] に移動し、エージェントを右クリックして、[エージェントを最新バージョンにアップグレード] を選択します。詳細については、「[管理](#)」を参照してください。
- Web コンソールで、[モニタリング] > [管理] > [エージェント] に移動し、1 つ以上のエージェントを選択して [詳細] をクリックし、[エージェントを最新バージョンにアップグレード] を選択します。詳細については、「[管理](#)」を参照してください。

移行

September 6, 2023

重要:

- 既存のオンプレミスの WEM データベースを WEM サービスに移行する場合は、必ず最新バージョンの移行ツールを使用してください。
- 移行ツールが期待どおりに動作するように、.NET Framework をアップグレードする必要がある場合があります。WEM 1909 以前を使用している場合は、ツールを実行するマシンで .NET Framework 4.7.1 以降にアップグレードします。
- インフラストラクチャサービスがインストールされているマシンで移行ツールを実行することをお勧めします。これにより、インフラストラクチャサービスが WEM データベースに接続でき、インフラストラクチャサービスが実行されているマシンに必要なコンポーネントが確実に備わります。

既存のオンプレミス Workspace Environment Management (WEM) データベースを WEM サービスに移行するためのツールキットを提供しています。このツールキットには、WEM データベースのコンテンツを含む SQL ファイルを生成するウィザードと、SQL ファイルを WEM サービス Azure データベースにアップロードする簡単な方法が含まれています。この記事では、オンプレミスのデータベース移行を完了する方法について説明します。移行プロセスを開始する前に、手順全体を確認して、想定される内容を把握してください。

WEM データベースを移行する前に、次の点に留意してください。

- 移行が正常に完了すると、現在の WEM サービスデータベースに関連付けられているすべてのデータが失われます。
- WEM データベースを移行できるのは、WEM サービスが正常にプロビジョニングされた後だけです。
- 移行プロセスを開始する前に、オンプレミスの WEM データベースをバックアップすることをお勧めします。
- 移行プロセスを開始する前に、[データベースのメンテナンス] タブでデータベースのメンテナンスを構成することをお勧めします。これにより、WEM データベースのサイズが小さくなり、移行エクスペリエンスが向上します。データベースメンテナンスの詳細については、「[インフラストラクチャサービスの構成](#)」を参照してください。
- WEM サービスのアップグレード中に WEM データベースを移行しようとする、Citrix Cloud ユーザーインターフェイスの右上隅にある通知領域に次のエラーメッセージが表示されます: 「Workspace Environment Management サービスのアップグレードが進行中のため、Workspace Environment Management データベースの移行に失敗しました。後でもう一度試してください。」この場合は、WEM サービスが正常にアップグレードされた後に SQL ファイルをアップロードしてみてください。サービスのアップグレードは、Citrix Cloud ユーザーインターフェイスの右上隅にも通知されます。

システム要件

このツールキットは WEM 4.7 以降からの移行をサポートします。以前のバージョンから移行するには、WEM 4.x を WEM 4.7 以降にアップグレードし、データベースを WEM サービスに移行します。アップグレードの詳細については、「[配置をアップグレードする](#)」を参照してください。

開始

Citrix Cloud アカウントにログオンします。詳しくは、「[Citrix Cloud アカウントとは](#)」を参照してください。

オンプレミスデータベースを移行する

ステップ 1: 移行ツールをダウンロードする

WEM サービスの [ユーティリティ] タブから移行ツール (WEM-migration-tool.zip) をダウンロードします。適切なフォルダーに zip ファイルを展開します。

注:

Citrix では、インフラストラクチャサービスがインストールされているマシンで移行ツールを実行することをお勧めします。これにより、インフラストラクチャサービスが WEM データベースに接続でき、インフラストラクチャサービスが実行されているマシンに必要なコンポーネントが確保されます。

ステップ 2: データベースデータを **SQL** ファイルにエクスポートする

zip ファイルに含まれている **Citrix WEM 移行 Tool.exe** を実行します。

The screenshot shows the 'Database Migration Wizard' dialog box. It is titled 'Database Migration Wizard' and has a close button (X) in the top right corner. The dialog is divided into several sections:

- Database Server and Credentials:** This section contains a text box for 'Server and instance name', a checkbox for 'Use integrated connection (Windows credentials)', and two text boxes for 'Login' and 'Password'.
- Source:** This section contains a text box for 'Database name'.
- Target:** This section contains a text box and a 'Browse' button.
- Settings:** This section contains two checkboxes: 'Export logs' and 'Export statistics'.

At the bottom of the dialog are two buttons: 'Export' and 'Cancel'.

ウィザードに次のデータを入力します。

サーバー名とインスタンス名。データベースをホストする SQL Server インスタンスのアドレス。ここに入力したと
おりに、インフラストラクチャサーバから到達可能である必要があります。

統合接続 (**Windows** 資格情報) を使用します。選択した場合、データベース移行ウィザードは実行中の ID の
Windows アカウントを使用して SQL Server に接続し、オンプレミスの WEM データベースの内容を含む SQL フ
ァイルを生成できます。この Windows アカウントに十分な権限がない場合は、十分な権限を持つ Windows アカ
ウントを使用して **Citrix WEM Migration Tool.exe** を実行するか、このオプションをオフにして、代わりに十分な
権限を持つ SQL アカウントを指定します。

データベース名。移行するデータベースの名前。

ターゲット。オンプレミスの WEM データベースのコンテンツを含む SQL ファイルを保存するためのフォルダです。

[参照] ボタンを使用して、SQL ファイルを保存するフォルダにナビゲートします。

ログをエクスポートします。ログをエクスポートするかどうかを制御します。ログには、WEM エージェントに加えられた変更が含まれます。有効にすると、エクスポートされるデータベースファイルにログが含まれます。移行を高速化するために、このオプションは有効にしないことをお勧めします。

統計をエクスポートします。エージェントとユーザの統計をエクスポートするかどうかを制御します。有効にすると、エクスポートされるデータベースファイルに統計情報が含まれます。デフォルトでは、このオプションは無効になっています。移行を高速化するために、このオプションは有効にしないことをお勧めします。

注:

ファイルとして保存すると、WEM データベースファイルの名前は自動的に「Your database name_upload.7z」に変更されます。

[エクスポート] をクリックしてデータベースエクスポートプロセスを開始するか、[キャンセル] をクリックしてデータベースマイグレーションウィザードを終了します。

エクスポート処理中、[データベースマイグレーションステータス] ウィンドウが表示されます。

エクスポートプロセスが終了したら、[完了] をクリックしてウィンドウを閉じ、データベースマイグレーションウィザードに戻ります。

注:

- データベースのサイズによっては、エクスポート処理に数秒から数分、場合によっては数時間かかることがあります。
- データベースのエクスポートの進行中に [データベースマイグレーションステータス] ウィンドウを閉じると、[データベースマイグレーションウィザード] に戻りますが、データベースのエクスポートプロセスはバックグラウンドで続行されるため、[エクスポート] ボタンは無効になります。エクスポート処理を完全に停止するには、[**Cancel**] をクリックします。

エクスポート中にエラーが発生した場合は、**Citrix WEM** 移行 Tool.exe を含む移行ツールフォルダーにある Citrix WEM 移行ツールのデバッグログファイルを確認します **。

ステップ 3: SQL ファイルを WEM サービスデータベースにアップロードする

重要:

アップロードが完了する前に [Workspace Environment Management] サービスページを閉じないでください。そうしないと、SQL ファイルを正常にアップロードできません。

1. WEM サービスの [ユーティリティ] タブで、[アップロード] をクリックしてアップロードプロセスを開始します。
2. [SQL ファイルのアップロード] ページで [ファイルの選択] をクリックし、アップロードする SQL ファイルを選択します。

3. **OK** をクリックしてアップロードを開始し、WEM サービスの「ユーティリティ」タブに戻ります。

WEM サービスの [ユーティリティ] タブに戻ると、[アップロード] の下に進捗メッセージが表示されます。このメッセージは、アップロードの進行に伴って更新されます。SQL ファイルが正常にアップロードされると、移行プロセスが自動的に開始されます。

注:

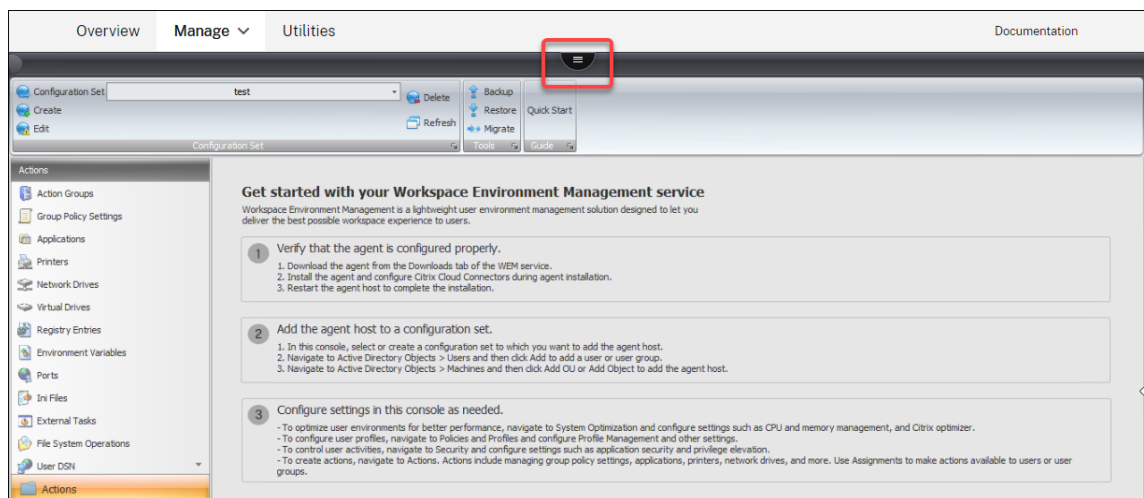
SQL ファイルが正常にアップロードされたら、10 分待ってから再度アップロードできます。

移行後

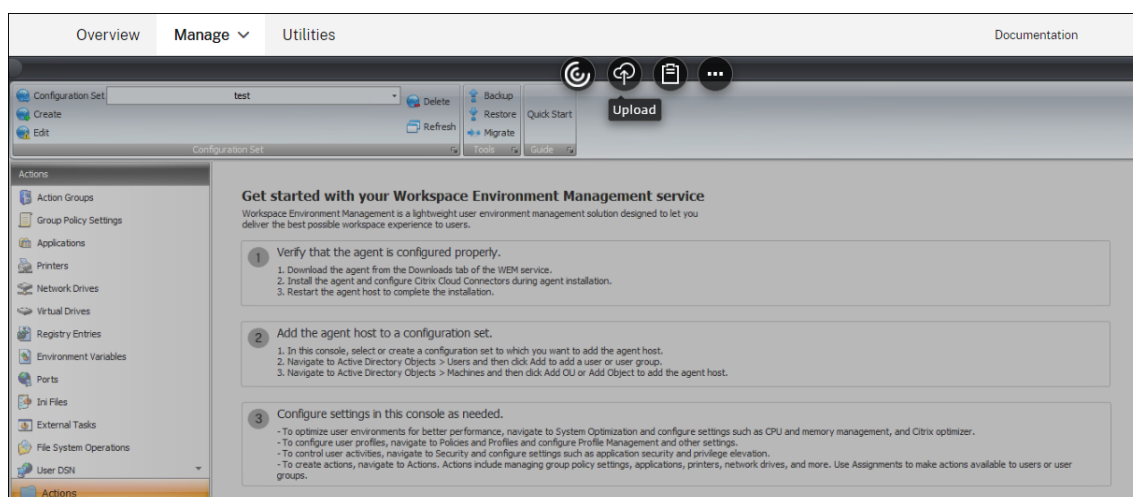
数時間後に、移行の結果を通知する通知メッセージが届きます。Citrix Cloud ユーザーインターフェースの右上隅に通知が表示されます。移行が正常に完了したら、[**Manage**] タブで次の手順を実行して、オンプレミスの WEM データベースから移行されたデータを表示します。

ステップ 1: 移行したデータを **WEM** サービスコンソールに読み込む

1. [管理] > [レガシーコンソール] で、ハンバーガーメニューにカーソルを合わせます。



2. Citrix Workspace アイコンをクリックします。



3. 省略記号アイコンをクリックして、追加オプションを展開します。
4. [ログオフ] をクリックして WEM サービスから切断します。
5. ブラウザウィンドウを更新して WEM サービスに再接続し、オンプレミスの WEM データベースから移行されたデータを表示します。

手順 2: サービスエージェントモードに切り替える

エージェントスイッチ機能を使用して、オンプレミスモードからサービスエージェントモードに切り替えます。[エージェントスイッチの詳細については、「エージェントスイッチ」を参照してください。](#)

重要:

エージェントスイッチ機能は、Workspace Environment Management 1909 以降で使用できます。以前のバージョンでは、エージェントスイッチを使用する前に、エージェントを再インストールするか、バージョン 1909 以降にアップグレードする必要があります。

または、サービスの [ユーティリティ] タブからエージェントをダウンロードし、エージェントを手動で再インストールすることもできます。

管理 (従来のコンソール)

May 28, 2024

管理コンソールの起動

1. Citrix Cloud アカウントにログオンします。

2. [Workspace Environment Management (WEM)] サービススタイルで、[管理] をクリックします。
3. [概要] で [サービスの管理] をクリックするか、[管理] タブをクリックします。

デプロイメントを構成する

[管理] タブを使用して WEM 設定を構成します。

- 左下のペインで項目をクリックすると、そのサブセクションが表示されます。
- サブセクション項目をクリックして、メインウィンドウ領域に適切なコンテンツを設定します。
- 必要に応じて構成を変更します。使用できる設定の詳細については、「[ユーザーインターフェイスの説明 \(レガシーコンソール\)](#)」を参照してください。

WEM サービスを始めましょう

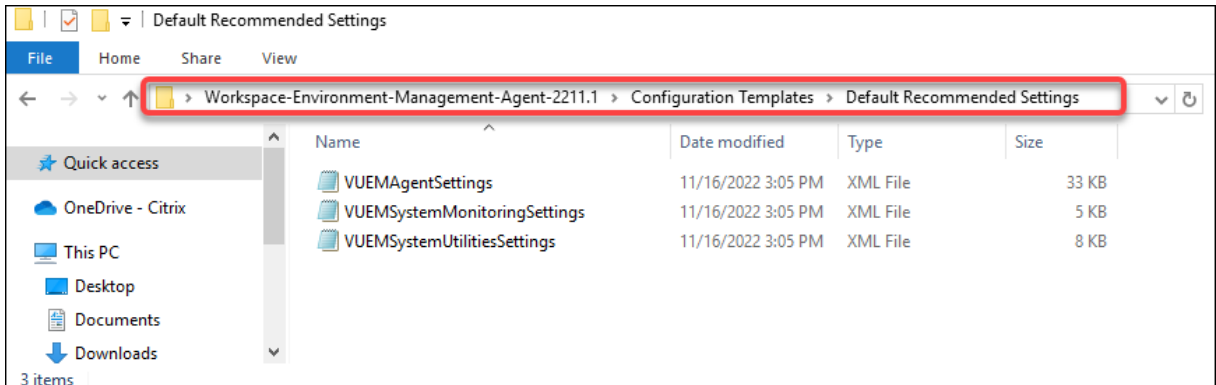
1. エージェントが適切に設定されていることを確認します。
 - a) WEM サービスの [ユーティリティ] タブからエージェントをダウンロードします。
 - b) エージェントをインストールし、エージェントのインストール中に Citrix Cloud Connector を構成します。
 - c) エージェント・ホストを再起動して、インストールを完了します。
2. エージェント・ホストを構成セットに追加します。
 - a) このコンソールで、エージェント・ホストを追加する構成セットを選択または作成します。
 - b) [**Active Directory** オブジェクト] > [ユーザー] に移動し、[追加] をクリックしてユーザーまたはユーザーグループを追加します。
 - c) [**Active Directory** オブジェクト] > [マシン] に移動し、[**OU** の追加] または [オブジェクトの追加] をクリックしてエージェントホストを追加します。
3. 必要に応じて、このコンソールで設定を構成します。
 - ユーザー環境を最適化してパフォーマンスを向上させるには、[システムの最適化] に移動し、CPU とメモリの管理、Citrix Optimizer などの設定を構成します。
 - ユーザープロファイルを構成するには、[ポリシーとプロファイル] に移動し、Profile Management およびその他の設定を構成します。
 - ユーザーアクティビティを制御するには、[セキュリティ] に移動し、アプリケーションセキュリティや特権の昇格などの設定を構成します。
 - アクションを作成するには、[アクション] に移動します。操作には、グループポリシー設定、アプリケーション、プリンタ、ネットワークドライブなどの管理が含まれます。[割り当て] を使用して、ユーザーまたはユーザーグループがアクションを使用できるようにします。

推奨設定をインポート

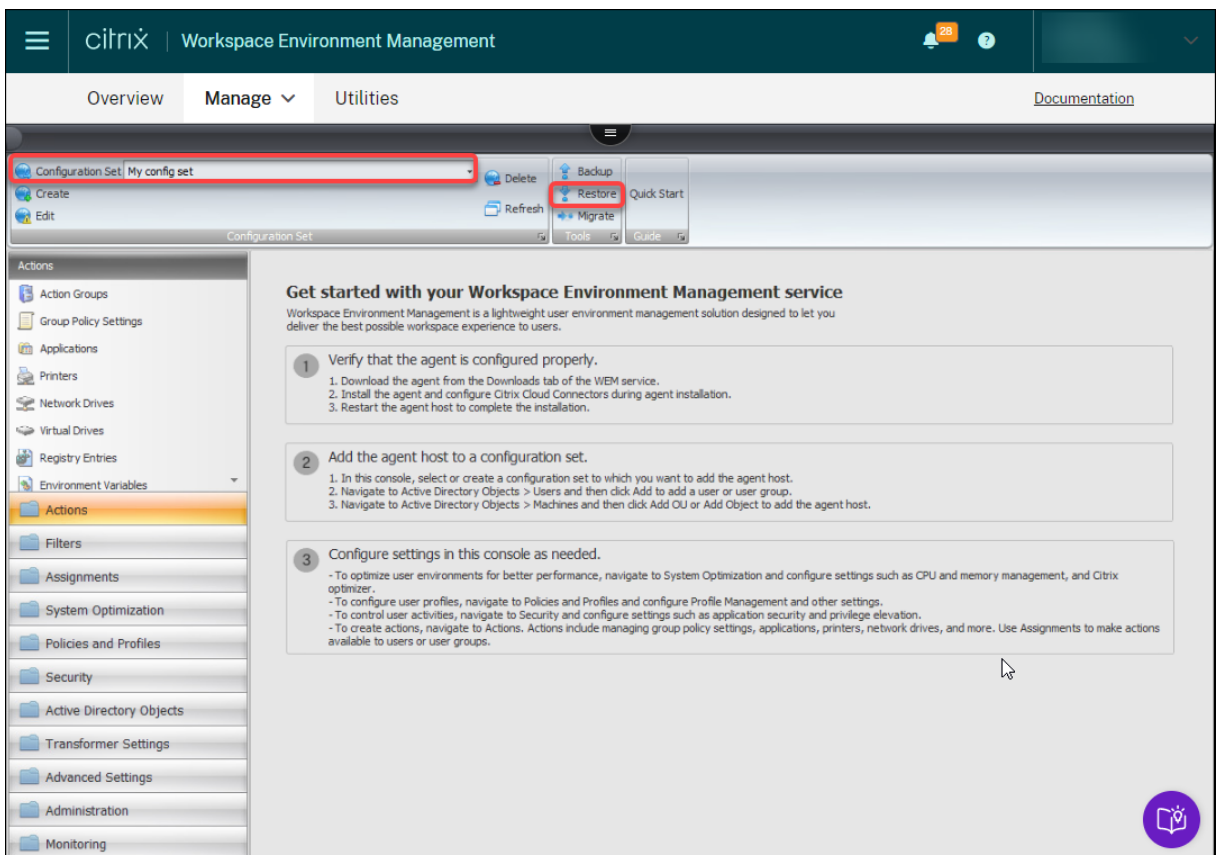
注:

複数の構成セットがある場合は、それぞれの推奨設定をインポートする必要があります。

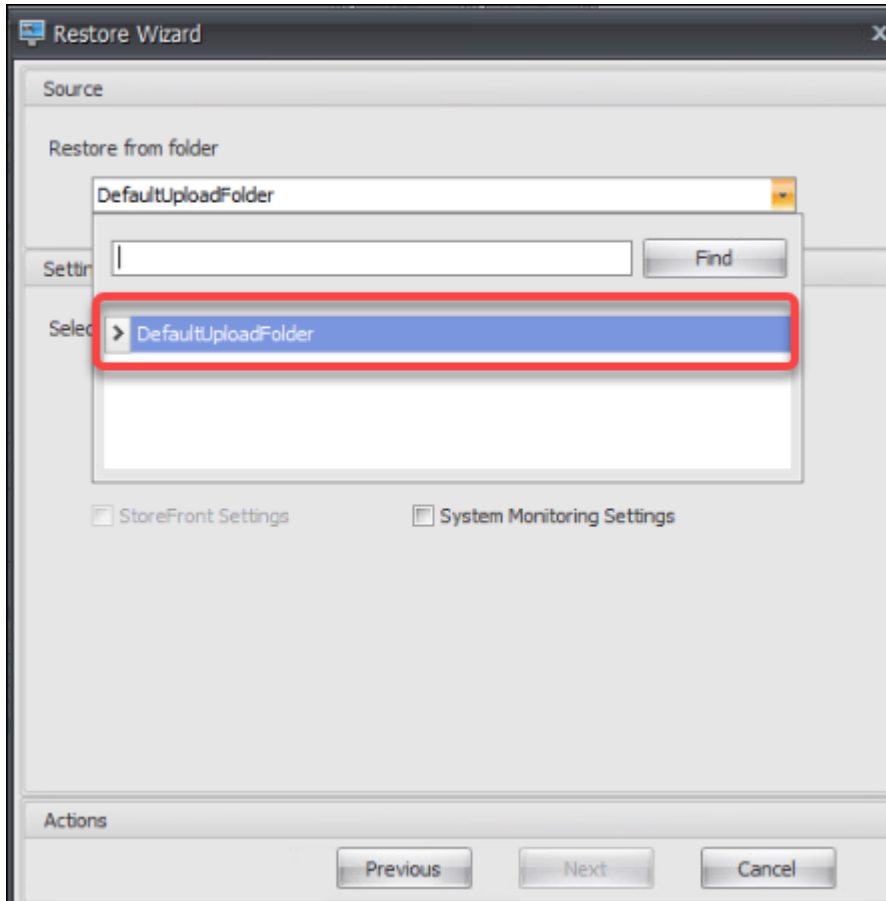
Citrix 推奨設定を構成セットにインポートし、必要に応じて調整して適用できます。推奨設定は WEM エージェントパッケージに付属しています。パッケージをダウンロードするには、**Citrix Cloud > WEM サービス > ユーティリティ**に移動します。



推奨設定をインポートするには、コンソールのリボンにある [復元] を使用します。開始する前に、まずデフォルトの推奨設定を WEM にアップロードします。「ファイルのアップロード」を参照してください。



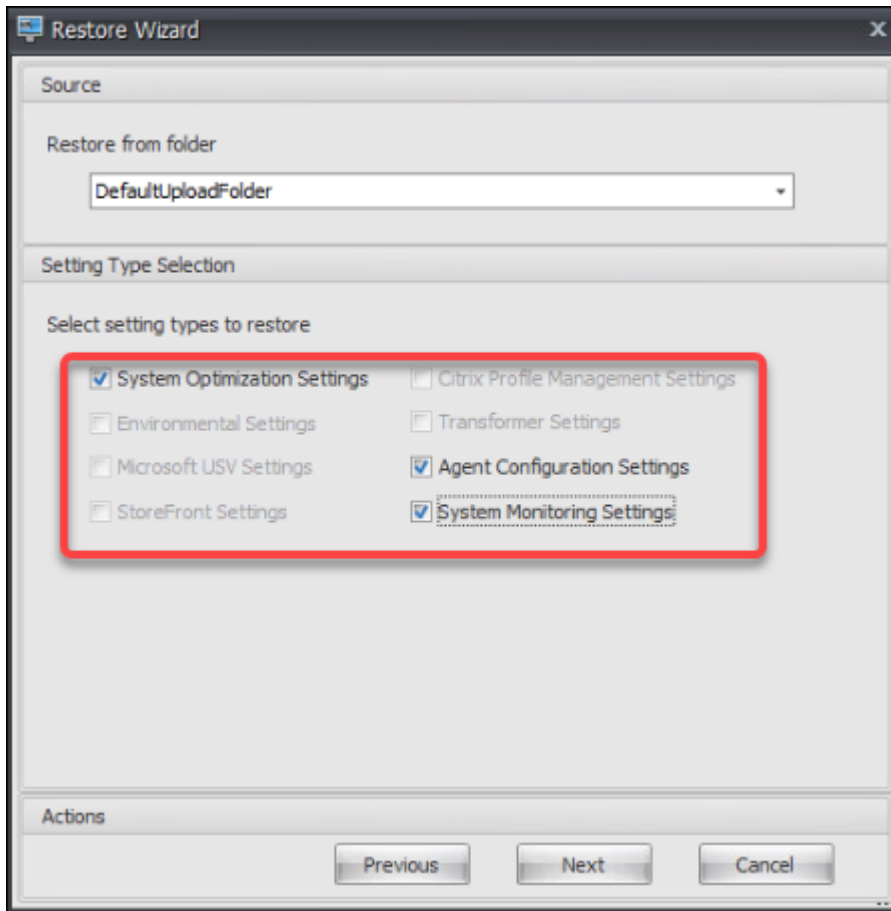
1. ターゲット構成セットの下で、「復元」をクリックします。リストアウィザードが表示されます。
2. [復元する内容の選択] ページで、[設定] を選択し、[次へ] をクリックします。
3. [設定の復元] ページで、[次へ] をクリックします。
4. ソースページで、DefaultUploadFolder を選択して設定を復元します。



5. 「ソース」 ページで、「システム最適化設定」、「エージェント構成設定」、および「システム監視設定」を選択し、「次へ」をクリックします。

注:

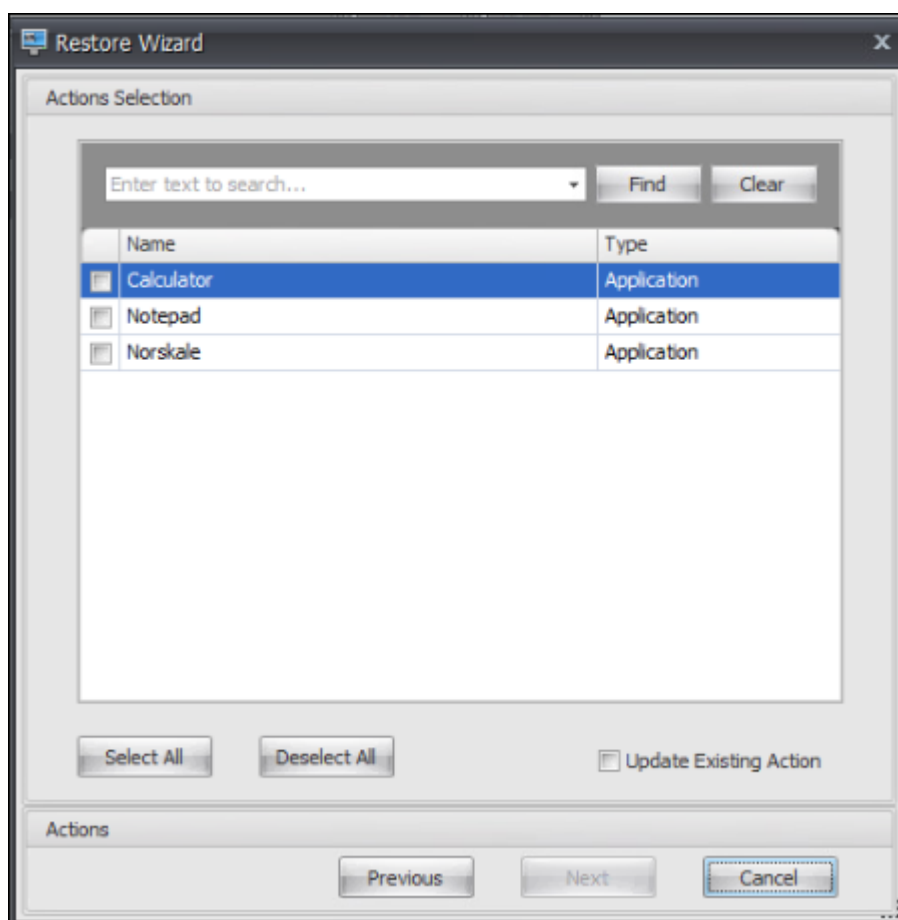
3つのオプションを使用すると、Citrix 推奨設定をすべてインポートできます。たとえば、システム最適化設定オプションでは、基本的なシステム最適化設定を構成セットに適用できます。基本設定には、CPU スパイク保護、CPU スパイクの自動防止、およびインテリジェントな CPU 最適化が含まれていません。



6. [設定の復元処理] ページで、[設定の復元] をクリックしてインポートを開始します。
7. [はい] をクリックしてアクションを確認します。
8. [完了] をクリックします。

推奨設定に加えて、WEM エージェントパッケージには次の設定も含まれています。

- 環境ロックダウンサンプル > **Vuem** 環境設定 このファイルを使用して環境設定をインポートします。そのためには、以下の点に注意しながら、上記の手順を繰り返します。
 - 「ソース」 ページで、「環境設定」 を選択します。
- サンプルアプリケーション > **VueM** アプリケーション。このファイルを使用して、サンプルアプリケーションをインポートします。そのためには、以下の点に注意しながら、上記の手順を繰り返します。
 - [復元する対象を選択] ページで [アクション] を選択し、[次へ] をクリックします。
 - 「ソース」 ページで、「アプリケーション」 を選択します。
 - アクション選択ページで、インポートするアクションを選択します。



- 復元アクション処理ページで、復元アクションをクリックしてインポートを開始します。

リボン

August 30, 2022

リボンには、次のコントロールがあります。

構成セット。Workspace Environment Management (WEM) サイト (構成セット) から別のサイト (構成セット) に切り替えます。

[作成]。「構成セットの作成」ウィンドウを開きます。

Name: リボンのサイトリストに表示されるサイト名。

[説明]。サイトの編集ウィンドウに表示されるサイトの説明。

サイトの状態。サイトが [有効] または [無効] のどちらかを切り替えます。[無効] の場合、WEM エージェントはサイトに接続できません。

編集。 [構成セットの編集] ウィンドウを開きます。このウィンドウには、[構成セットの作成] ウィンドウと同様のオプションがあります。

[削除]。 サイトを削除します。WEM は機能に依存しているため、「デフォルトサイト」を削除できません。ただし、名前を変更することはできます。

更新。 サイトリストを更新します。異なる管理コンソールからサイトを作成しても、リストは自動的に更新されません。

バックアップ。 [バックアップ] ウィザードを開き、現在の設定のバックアップコピーを WEM 管理コンソールマシンに保存します。アクション、設定、セキュリティ設定、および Active Directory (AD) オブジェクトをバックアップできます。

- **アクション。** 選択した WEM [アクションをバックアップします](#)。各タイプのアクションは、個別の XML ファイルとしてエクスポートされます。
- **設定。** 選択した WEM 設定をバックアップします。各タイプの設定は、個別の XML ファイルとしてエクスポートされます。
- **[セキュリティ設定]。** [[セキュリティ](#)] タブにあるすべての設定をバックアップします。各タイプの規則は、個別の XML ファイルとしてエクスポートされます。構成セットに関連付けられている次の項目をバックアップできます。
 - **AppLocker** ルールの設定
 - 特権昇格の設定
 - プロセス階層制御設定
- **AD オブジェクト。** WEM が管理するユーザー、コンピューター、グループ、および組織単位をバックアップします。バックアップウィザードでは、バックアップする AD オブジェクトの種類を指定できます。AD オブジェクトには、次の 2 種類があります。
 - [ユーザー]。単一ユーザーおよびユーザー・グループ
 - マシン。単一のマシン、マシングループ、および OU

注:

バックアップコピーに名前を付けることはできますが、バックアップコピーを保存する場所を指定することはできません。バックアップコピーは、Citrix Cloud のデフォルトフォルダに自動的に保存されます。

- **構成セット。** 選択した WEM 構成セットをバックアップします。各タイプの構成セットは個別の XML ファイルとしてエクスポートされます。バックアップできるのは、現在の構成セットだけです。構成セットに関連付けられている次の項目をバックアップできます。
 - アクション
 - AppLockers

- 割り当て (アクションとアクショングループに関連する)
- フィルター
- スクリプト化されたタスク設定
- ユーザー
- 設定 (WEM 設定)

次の項目はバックアップできません。

- マシンに関連する AD オブジェクト (単一マシン、マシングループ、および OU)
- データのモニタリング (統計およびレポート)
- 構成セットに登録されているエージェント

復元。復元ウィザードを開き、以前にバックアップした WEM サービス設定に戻します。プロンプトが表示されたら、ドロップダウンリストから該当するバックアップコピーを選択します。バックアップを含む Citrix Cloud フォルダを選択します。[バックアップファイルから設定を復元することもできます。](#)

- アクション。選択した WEM アクションを復元します。
- 設定。選択した WEM 設定を復元します。
- **[セキュリティ設定]**。[[セキュリティ](#)] タブにあるすべての設定を復元します。バックアップファイルの設定は、現在の構成セットの既存の設定を置き換えます。[セキュリティ] タブに切り替えるか、[セキュリティ] タブを更新すると、無効なアプリケーションセキュリティ規則が検出されます。これらのルールは自動的に削除されます。削除されたルールは、必要に応じてエクスポートできるレポートに一覧表示されます。[リストア] ウィザードでは、復元する対象を選択できます。

- **AppLocker** ルールの設定

- 特権昇格の設定

- ★ 既存の設定を上書きします。競合が発生した場合に、既存の権限昇格設定を上書きするかどうかを制御します。

- プロセス階層制御設定

- ★ 既存の設定を上書きします。競合がある場合に、既存のプロセス階層制御設定を上書きするかどうかを制御します。

[アプリケーションセキュリティ規則の割り当ての確認] ダイアログで、[はい] または [いいえ] を選択して、復元ウィザードでアプリケーションセキュリティ規則の割り当てを処理する方法を指定します。

- [はい] を選択すると、現在のサイトのユーザーおよびユーザーグループへのルール割り当ての復元が試行されます。バックアップされたユーザーまたはグループが現在のサイトまたは AD に存在する場合のみ、再割り当てが成功します。一致しないルールは復元されますが、割り当てられていないままになり、CSV 形式でエクスポートできるレポートダイアログに一覧表示されます。
- [いいえ] を選択すると、バックアップ内のすべてのルールが復元され、サイトのユーザーおよびユーザーグループに割り当てられません。

- **AD** オブジェクト。バックアップされた AD オブジェクトを既存のサイトに復元します。復元 ウィザードでは、インポートする AD オブジェクトを細かく制御できます。[復元する **AD** オブジェクトを選択] ページで、復元する AD オブジェクトと、既存の WEM AD オブジェクトを上書き（置き換える）かどうかを指定できます。
- 構成セット。バックアップした構成セットを WEM に復元します。一度に復元できる構成セットは 1 つだけです。WEM 管理コンソールに、復元した構成セットが反映されるまでしばらく時間がかかることがあります。復元された構成セットを表示するには、リボンの「構成セット」(Configuration set) メニューから構成セットを選択します。同じ名前の構成セットがすでに存在する場合は、構成セットを復元するときに、WEM はその名前を自動的に <configuration set name>_1 に変更します。

注:

- 復元されたアクションは、既存のサイトアクションに追加されます。
- 復元された設定は、既存のサイト設定を置き換えます。ただし、ユーザストア認証情報は既存のユーザストア認証情報に追加されるか、既存のユーザストア認証情報に置き換えられます
- 復元された AD オブジェクトは、復元ウィザードの [AD オブジェクト] ページで [上書きモード] を選択したかどうかに応じて、既存のサイト AD オブジェクトに追加されるか、既存のサイト AD オブジェクトと置き換えられます。
- 上書きモードを選択すると、リストアッププロセスの開始前に既存の AD オブジェクトがすべて削除されます。

移行。移行ウィザードを開き、グループポリシーオブジェクト (GPO) の zip バックアップを WEM に移行します。

重要:

- 移行ウィザードでは、WEM がサポートしている設定 (GPO) のみが移行されます。
- 移行プロセスを開始する前に、既存の設定をバックアップすることをお勧めします。

GPO をバックアップするには、次の手順を実行することをお勧めします。

1. グループポリシー管理コンソールを開きます。
2. [グループポリシーの管理] ウィンドウで、バックアップする GPO を右クリックし、[バックアップ] を選択します。
3. [グループポリシーオブジェクトのバックアップ] ウィンドウで、バックアップを保存する場所を指定します。オプションで、バックアップに説明を与えることができます。
4. [バックアップ] をクリックしてバックアップを開始し、[OK] をクリックします。
5. バックアップフォルダに移動し、zip ファイルに圧縮します。

注:

WEM では、複数の GPO バックアップフォルダを含む zip ファイルの移行もサポートしています。

GPO を正常にバックアップしたら、[アップロード] (WEM サービスの [管理] タブのメニュー) を使用して、GPO の zip ファイルを Citrix Cloud のデフォルトのフォルダにアップロードします。正常に完了したら、[移行] をクリ

ックします。[移行するファイル] ページで、リストから該当するファイルを選択します。ファイル名を入力し、[検索] をクリックしてファイルを検索することもできます。

- 上書き。競合が発生すると、既存の WEM 設定 (GPO) を上書きします。
- 変換。GPO を WEM へのインポートに適した XML ファイルに変換します。インポートする設定を細かく制御する場合は、このオプションを選択します。変換が正常に完了したら、[復元] ウィザードを使用して XML ファイルを手動でインポートします。

注:

出力フォルダには名前を付けることができますが、保存するファイルの名前を指定することはできません。

クイックスタート。クイックスタートページが開き、WEM サービスの使用を開始するために必要な情報が表示されます。画面の指示に従って、WEM 配置の設定を開始します。

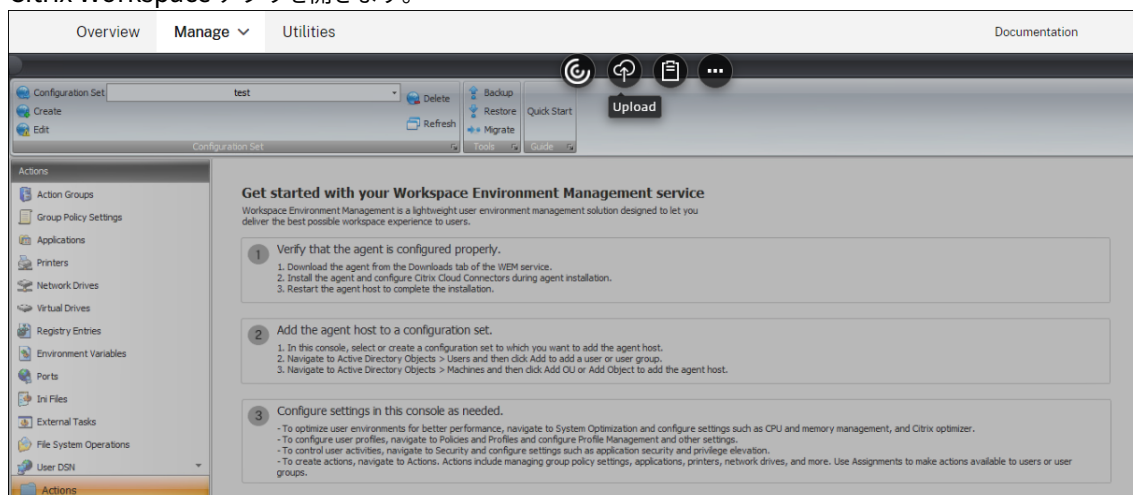
バックアップファイルから設定を復元する

警告:

設定を復元すると、Workspace Environment Management サービスの現在の設定が上書きされます。

オンプレミスの Workspace Environment Management バックアップウィザードは、現在の構成セットを特別な XML 形式のファイルにバックアップします。次の手順に従って、ファイル内の設定を Workspace Environment Management サービスの現在の構成セットに復元 (適用) できます。

1. Workspace Environment Management サービスの [管理] タブで、HTML5 セッションツールバーの Citrix Workspace アプリを開きます。



2. [アップロード] を使用して、XML バックアップファイルを Citrix Cloud フォルダにアップロードします。既定のフォルダは `DefaultUploadFolder` です。

3. Workspace Environment Management サービスの復元ウィザードを使用して、Citrix Cloud フォルダから復元します。

アクション

March 7, 2022

Workspace Environment Management サービスは、使いやすいアクションを提供することで、ワークスペースの構成プロセスを合理化します。アクションには、アプリケーション、プリンタ、ネットワークドライブ、外部タスクなどの管理が含まれます。割り当てを使用して、ユーザーがアクションを使用できるようにすることができます。Workspace Environment Management サービスには、割り当てをコンテキスト化するためのフィルターも用意されています。

- アクションには、次の管理が含まれます。

- [操作グループ](#)
- [グループポリシーの設定](#)
- [アプリケーション](#)
- [プリンター](#)
- [ネットワーク ドライブ](#)
- [仮想ドライブ](#)
- [レジストリエントリ](#)
- [環境変数](#)
- [ポート](#)
- [INI ファイル](#)
- [外部タスク](#)
- [ファイル システム操作](#)
- [ユーザー DSN](#)
- [ファイルの関連付け](#)

- [フィルター](#)
- [Assignments](#)

操作グループ

September 6, 2023

アクショングループ機能を使用すると、最初にアクションのグループを定義し、アクショングループで定義されているすべてのアクションを1つの手順でユーザーまたはユーザーグループに割り当てることができます。この機能を使用すると、[操作] ウィンドウに表示される各アクションを1つずつ割り当てする必要がなくなりました。その結果、1つのステップで複数のアクションを割り当てることができます。

ヒント:

動的トークンを使用すると、Workspace Environment Management アクションを拡張して、アクションをより強力にすることができます。

アクショングループ一覧

アクション・グループ

既存のアクショングループのリストを表示します。[検索] を使用して、名前、表示名、または説明でリストをフィルタリングします。

アクション

重要:

- アクショングループには、各アクションカテゴリ (アプリケーション、プリンタ、ネットワークドライブなど) にすでに存在するアクションのみが含まれます。たとえば、[アプリケーションリスト] タブでアプリケーションを追加していない限り、[Action Group List] タブのアクショングループには、[アプリケーション] の下に割り当て可能なアプリケーションが表示されません。
- 割り当てられたアクショングループ (Action Group List > Name > Configured) でアクションのオプションを構成した場合 (Action Group List > NameConfigured)、構成済みのオプションは、アクショングループが割り当てられているユーザーには影響しません。

「アクション」 (Actions) セクションには、使用可能なアクションが表示されます。次の操作を実行できます。

- 追加。ユーザーまたはユーザーグループに割り当てすべてのアクションを含むアクショングループを作成できます。
- 編集。既存のアクショングループを編集できます。
- [コピー]。既存のアクショングループからアクショングループを複製できます。
- [削除]。既存のアクショングループを削除できます。

アクショングループを作成するには、次の手順に従います。

- [管理コンソール] > [アクション] > [アクショングループ] > [アクショングループリスト] タブで、[追加] をクリックします。
- 「新規アクショングループ」ウィンドウで、必要な情報を入力し、ドロップダウンから該当するオプションを選択し、「OK」をクリックします。

アクショングループを編集するには、リストから該当するグループを選択し、[編集] をクリックします。

アクショングループのクローンを作成するには、クローンを作成するグループを選択し、[コピー] をクリックします。[コピー] をクリックすると、クローンが自動的に作成されることに注意してください。クローンは、元の名前を継承し、「-Copy」という接尾辞が付いています。[編集] をクリックして名前を変更できます。

注:

アクショングループをクローンすると、[割り当てプロセスでドライブ文字の再使用を許可] オプションを有効にしない限り、ネットワークドライブおよび仮想ドライブに関連付けられたアクション（存在する場合は）はクローンされません。このオプションを有効にするには、[詳細設定] > [構成] > [コンソール設定] タブに移動します。

アクショングループを削除するには、リストから該当するグループを選択し、[削除] をクリックします。

注:

すでに割り当てられているアクショングループを削除または編集すると、そのグループが割り当てられているすべてのユーザーに対して変更が加えられます。

フィールドとコントロール

Name: アクショングループリストに表示されるアクショングループの表示名。

[説明]. アクショングループに関する追加情報を指定できます。

アクショングループの状態。アクショングループを有効状態と無効状態の間で切り替えます。無効にすると、そのアクショングループをユーザーまたはユーザーグループに割り当てても、エージェントはアクショングループに含まれるアクションを処理しません。

構成

割り当てる、または設定した特定のアクションを検索できます。名前、表示名、または説明でオプションをフィルタするには、[検索] を使用します。

使用できます。作成したアクショングループに追加できるアクションは次のとおりです。

プラス記号をクリックして、特定のアクションカテゴリのアクションを展開します。アクションをダブルクリックするか、矢印ボタンをクリックして、アクションを割り当てるか割り当て解除します。

注:

- 既にユーザーに割り当てられているアクショングループにアクションを追加すると、そのアクションは自動的にそれらのユーザーに割り当てられます。

- 既にユーザーに割り当てられているアクショングループからアクションを削除すると、そのアクションはそれらのユーザーから自動的に割り当て解除されます。

設定済み。これらは、作成したアクショングループに既に割り当てられているアクションです。個々のアクションを展開して設定することができます。また、アプリケーションのショートカットの場所、既定のプリンタ、ドライブ文字など、特定の操作ごとにオプションを構成することもできます。

Assignments

重要:

[割り当て済み] ペインの [アクションの割り当て] タブで、割り当てられたアクショングループ内のアクションのオプションを構成すると、構成されたオプションは、アクショングループが割り当てられているユーザーに自動的に影響します。

[アクション] > [アクショングループ] > [Action Groups] > [Action Group] タブでアクショングループに対するアクションの設定が完了したら、構成済みのアクションを該当するユーザーまたはユーザーグループに割り当てることができます。これを行うには、[割り当て] > [アクション割り当て] > [アクションの割り当て] タブに移動します。そのタブで、ユーザーまたはユーザーグループをダブルクリックすると、作成したアクショングループを含む [使用可能] ペインに [Action Groups] ノードが表示されます。[Action Groups] ノードの横のプラス記号をクリックすると、作成したアクショングループを表示できます。アクショングループをダブルクリックするか、矢印ボタンをクリックして、アクショングループを割り当てるか、割り当て解除します。アクションを割り当てると、そのアクションをコンテキスト化するために使用するルールを選択するよう求められます。

割り当ての仕組みの詳細については、「[割り当て](#)」を参照してください。

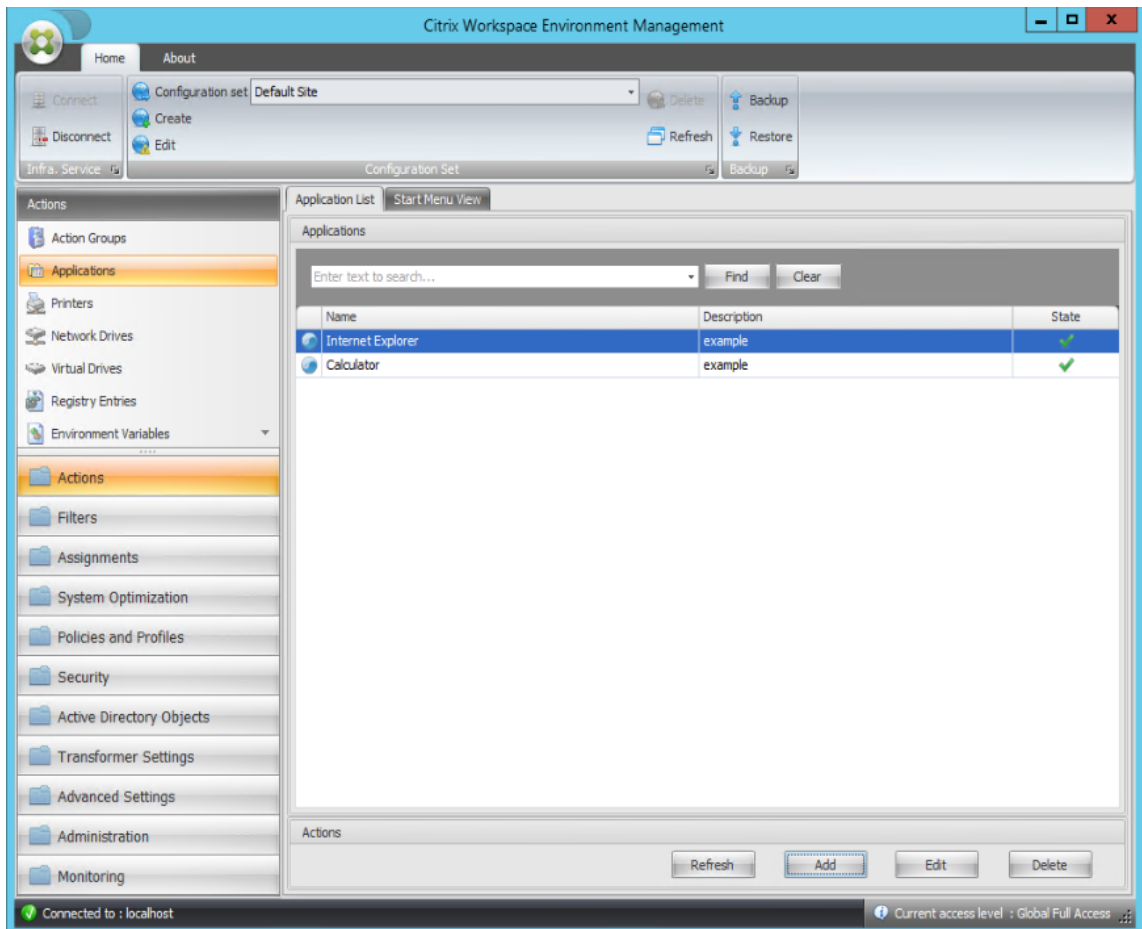
アクショングループを割り当てる場合、注意すべきいくつかのシナリオがあります。

- アクショングループを割り当てると、そのグループに含まれるすべてのアクションが割り当てられます。
- 1つまたは複数のアクションが、異なるアクショングループで重複する場合があります。オーバーラップするアクショングループの場合、最後に処理されたグループによって、以前に処理されたグループが上書きされません。
- アクショングループ内のアクションが処理されたら、別のアクショングループ内のアクションと重複するアクションを割り当てての検討してください。この場合、未割り当てのアクションは、以前に処理されたアクションを上書きし、後で処理されたアクションは割り当て解除されます。その他のアクションは変更されません。

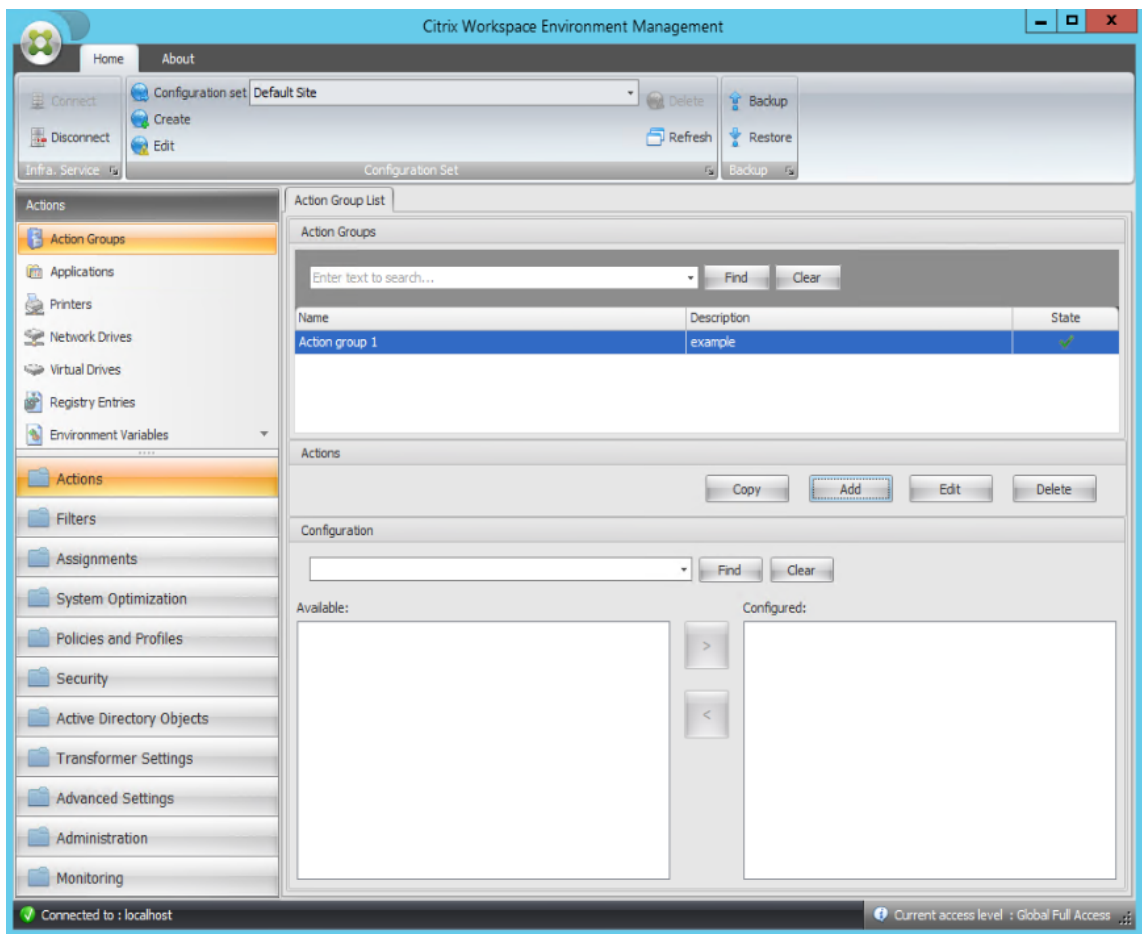
サンプルシナリオ

たとえば、アクショングループ機能を使用して2つのアプリケーション (iexplore.exe と calc.exe) を一度に1人のユーザーに割り当てるには、次の手順に従います。

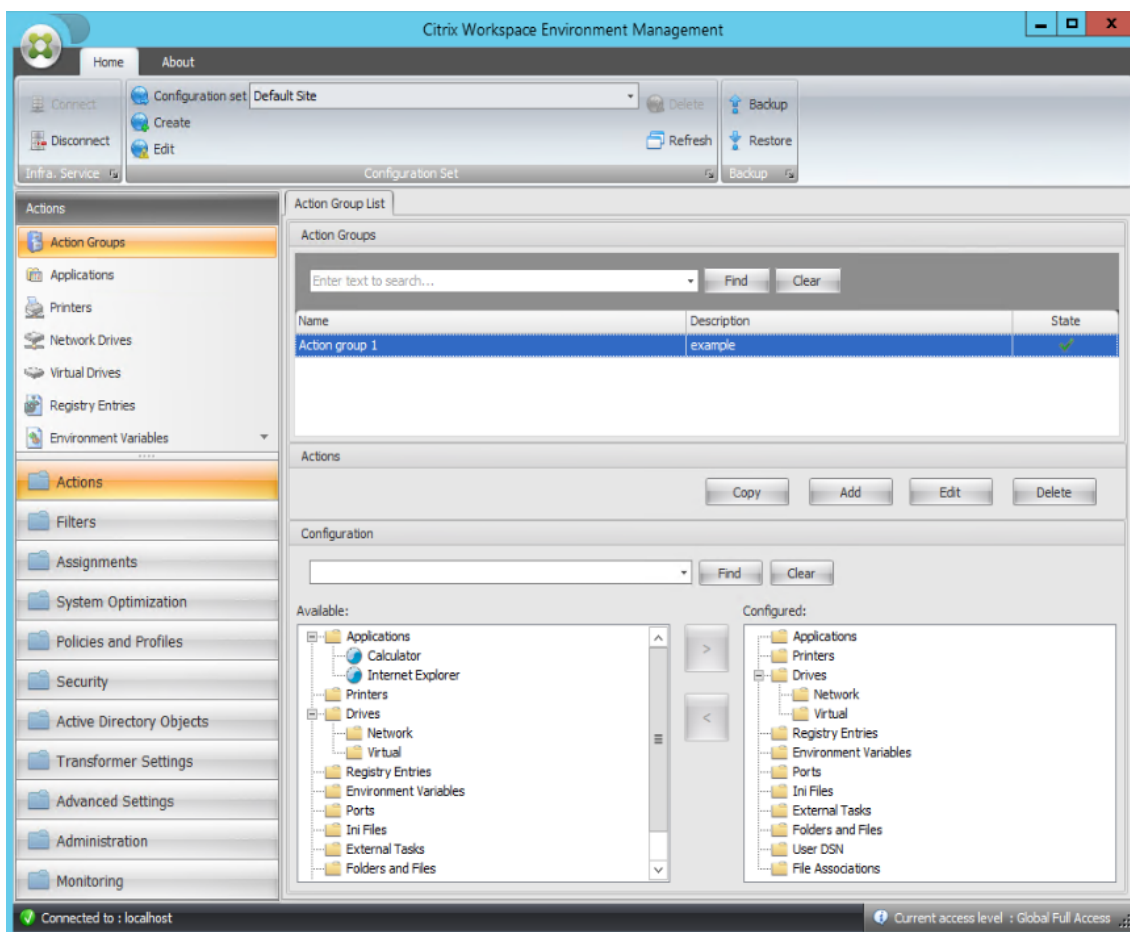
1. [管理コンソール] > [アクション] > [アプリケーション] > [アプリケーションリスト] タブに移動し、アプリケーション (iexplore.exe および calc.exe) を追加します。



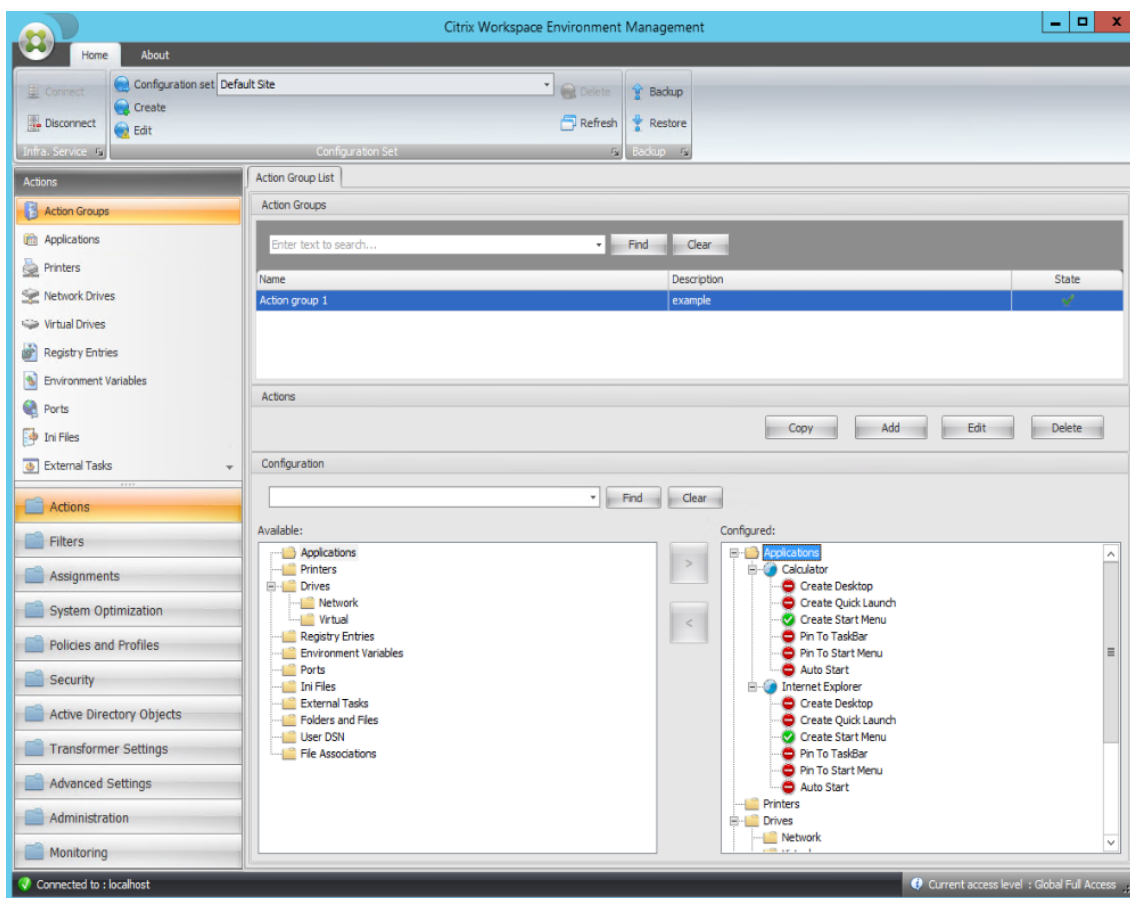
2. [管理コンソール] > [アクション] > [アクショングループ] > [アクショングループリスト] タブに移動し、[追加] をクリックしてアクショングループを作成します。



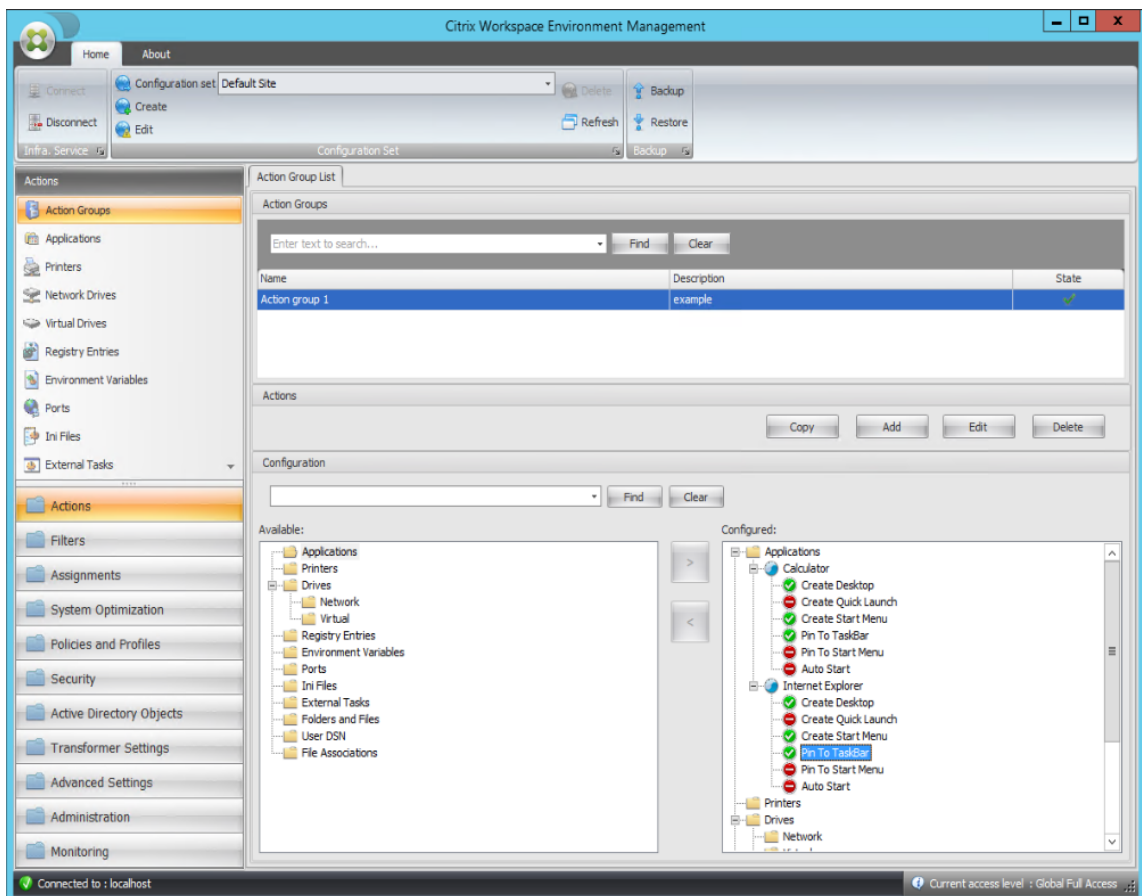
3. [**Action Group List**] タブで、作成したアクショングループをダブルクリックして、[使用可能] ペインと [構成済み] ペインにアクションリストを表示します。



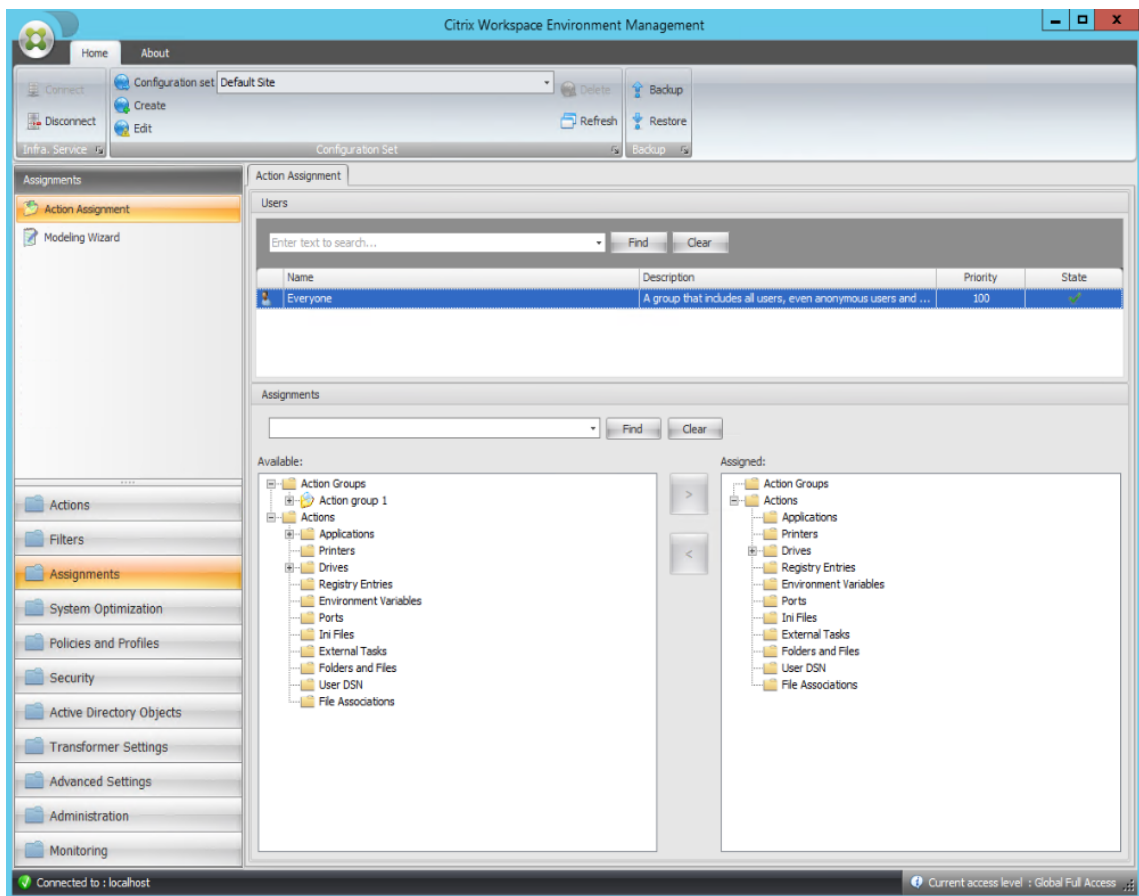
4. [使用可能] ペインで、各アプリケーションをダブルクリックして [構成済み] ペインに移動します。アプリケーションを選択し、右矢印をクリックしても、これを行うことができます。



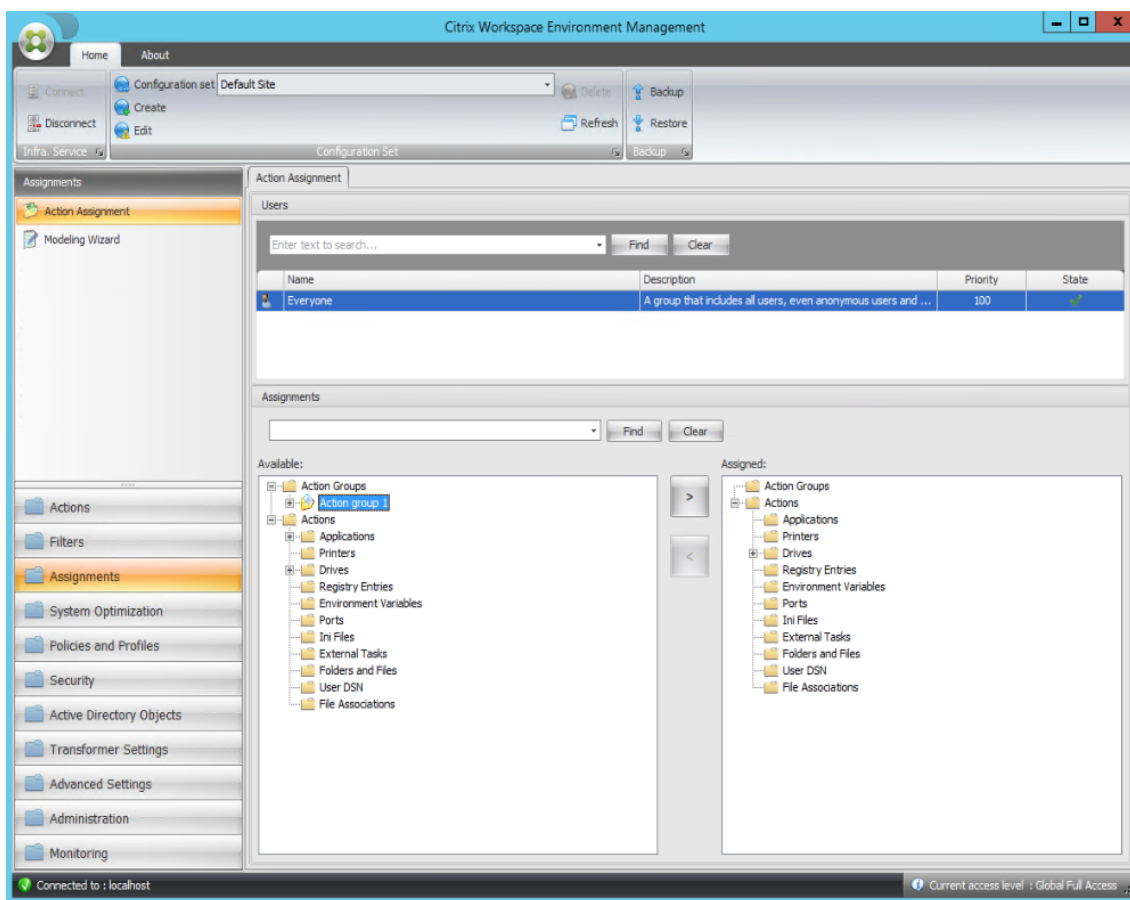
5. [構成済み] ペインで、各アプリケーションのオプションを構成します。この例では、[デスクトップの作成] および [タスクバーに固定する] を有効にします。



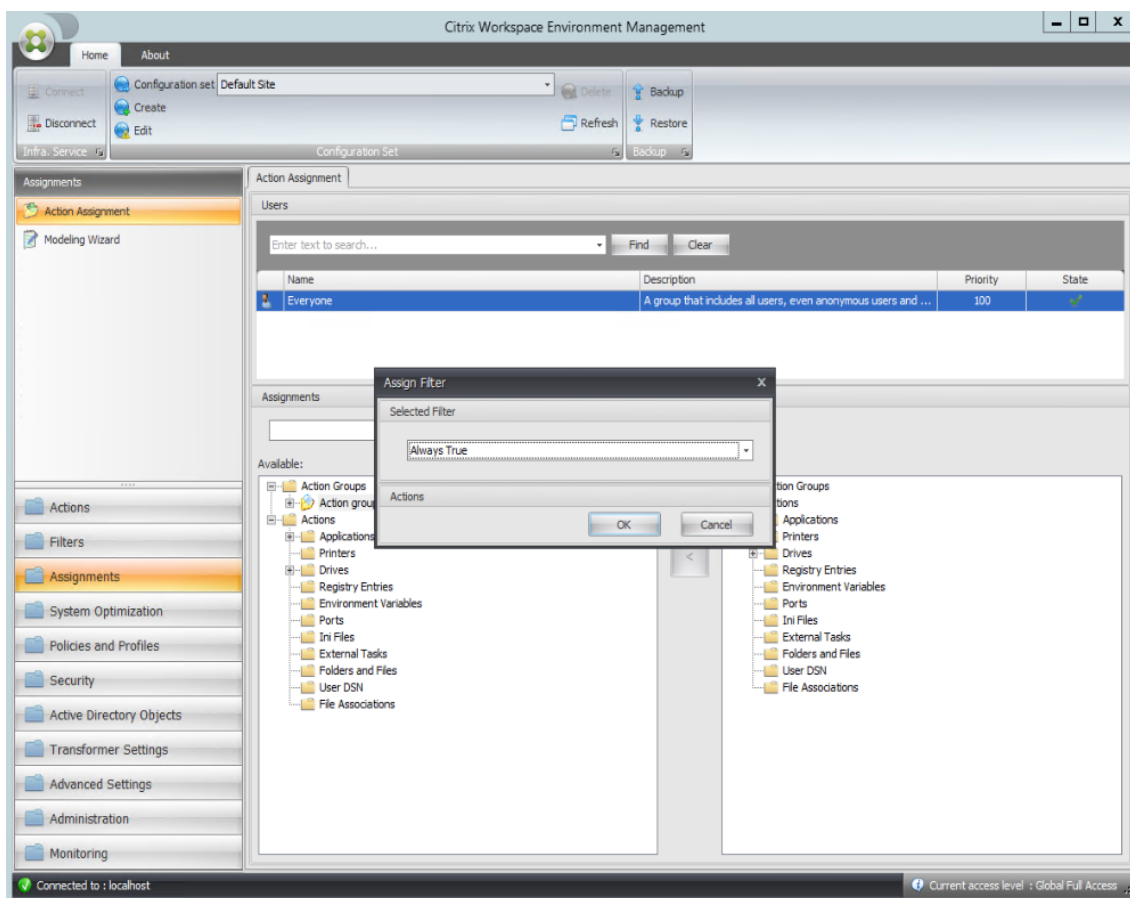
6. [管理コンソール] > [割り当て] > [アクションの割り当て] タブに移動し、該当するユーザーをダブルクリックして、[使用可能] ペインと [割り当て済み] ペインにアクショングループを表示します。



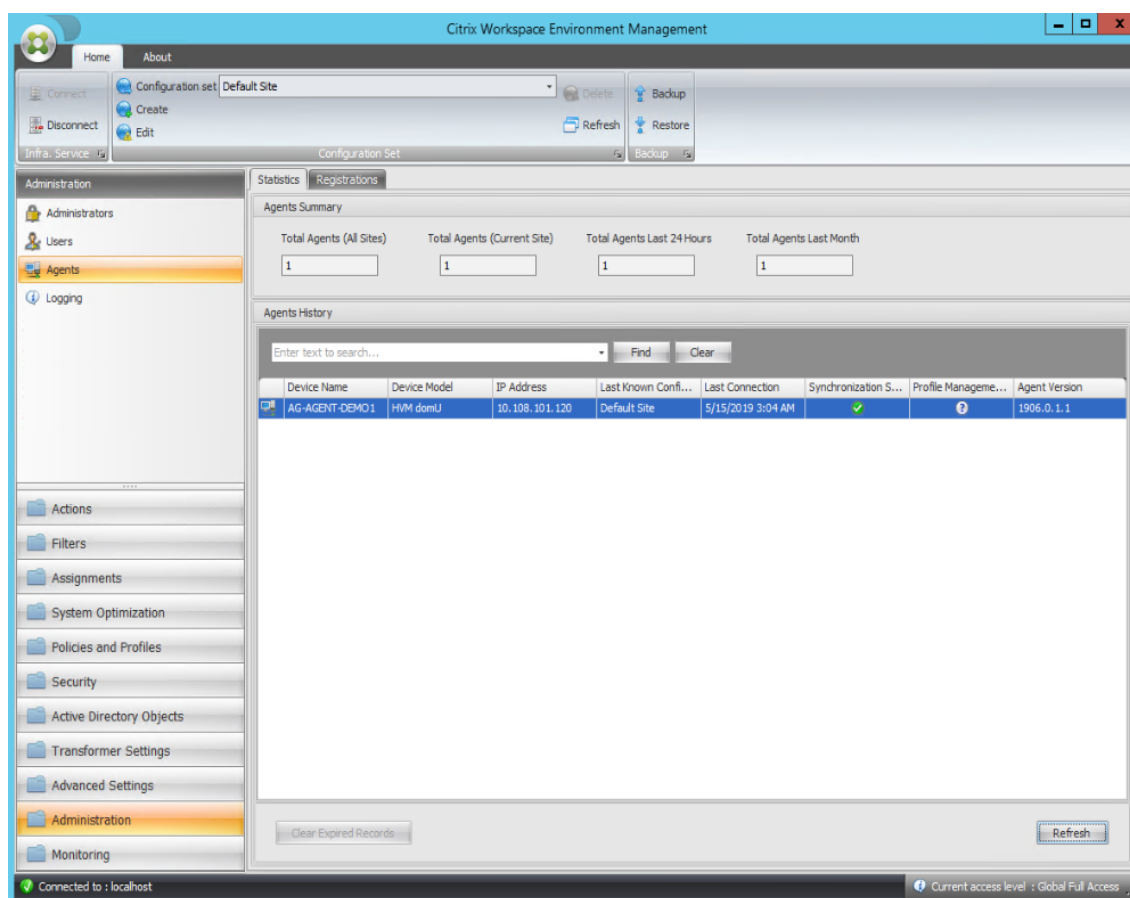
7. [使用可能] ウィンドウで、作成したアクショングループ (この例では、アクショングループ 1) をダブルクリックして [割り当て] ウィンドウに移動します。また、アクショングループを選択して右矢印をクリックすることもできます。



8. [フィルターの割り当て] ウィンドウで、[常に True] を選択し、[OK] をクリックします。



9. [管理コンソール] > [管理] > [エージェント] > [統計] タブに移動し、[更新] をクリックします。



10. エージェントを右クリックし、コンテキストメニューから [ワークスペースエージェントのリフレッシュ] を選択します。
11. エージェントが実行されているマシン（エージェントホスト）で、構成されたアクションが有効になっていることを確認します。

この例では、2つのアプリケーションがエージェントホストに正常に割り当てられ、ショートカットがデスクトップに追加され、タスク・バーに固定されます。

グループポリシー設定

May 28, 2024

重要:

WEM サービスは現在、**HKEY_LOCAL_MACHINE**および**HKEY_CURRENT_USER**レジストリハイブに関連付けられたグループポリシー設定の追加と編集のみをサポートしています。

以前のリリースでは、グループポリシーの基本設定 (GPP) のみを Workspace Environment Management

(WEM) に移行できました。詳細については、[リボンの移行ウィザードの説明を参照してください](#)。グループポリシー設定 (レジストリベースの設定) を WEM にインポートすることもできます。

設定をインポートした後、割り当てる GPO を決定する前に、各 GPO に関連付けられた設定を項目別に表示できます。他のアクションを割り当てるのと同様に、GPO を異なる AD グループに割り当てることができます。GPO を個々のユーザーに直接割り当てると、設定は有効になりません。グループには、ユーザーとマシンを含めることができます。マシンレベルの設定は、関連するマシンがグループに属している場合に有効になります。ユーザーレベルの設定は、現在のユーザーがグループに属している場合に有効になります。

ヒント:

マシンレベルの設定をすぐに有効にするには、Citrix WEM エージェントホストサービスを再起動します。ユーザーレベルの設定をすぐに有効にするには、ユーザーがいったんログオフしてからログオンし直す必要があります。

グループポリシー設定

注:

WEM エージェントがグループポリシー設定を適切に処理するには、Citrix WEM ユーザーログオンサービスが有効になっていることを確認します。

グループポリシー設定の処理を有効にします。グループポリシー設定を処理するために WEM を有効にするかどうかを制御します。デフォルトでは、このオプションは無効になっています。無効にした場合:

- グループポリシー設定は構成できません。
- WEM では、グループポリシー設定がユーザーまたはユーザーグループに割り当てられている場合でも、グループポリシー設定は処理されません。

グループポリシーオブジェクトリスト

既存の GPO の一覧が表示されます。[検索] を使用して、名前または説明でリストをフィルタリングします。

- 更新。GPO の一覧を更新します。
- [インポート]。グループポリシー設定のインポートウィザードを開きます。このウィザードでは、グループポリシー設定を WEM にインポートできます。
- 編集。既存の GPO を編集できます。
- [削除]。選択した GPO を削除します。

グループポリシー設定のインポート

グループポリシー設定をインポートする前に、ドメイン Controller でグループポリシー設定をバックアップしてください。

1. グループポリシー管理コンソールを開きます。
2. [グループポリシーの管理] ウィンドウで、バックアップする GPO を右クリックし、[バックアップ] を選択します。
3. [グループポリシーオブジェクトのバックアップ] ウィンドウで、バックアップを保存する場所を指定します。オプションで、バックアップに説明を与えることができます。
4. [バックアップ] をクリックしてバックアップを開始し、[OK] をクリックします。
5. バックアップフォルダに移動し、zip ファイルに圧縮します。

注:

WEM では、複数の GPO バックアップフォルダを含む zip ファイルのインポートもサポートしています。

グループポリシー設定をインポートするには、次の手順を実行します。

1. **WEM** サービスの [管理] タブのメニューにある [アップロード] を使用して、**GPO** の **zip** ファイルを **Citrix Cloud** のデフォルトフォルダにアップロードします。
2. [管理コンソール] > [アクション] > [グループポリシー設定] タブに移動し、[グループポリシー設定の処理を有効にする] を選択し、[インポート] をクリックしてインポートウィザードを開きます。
3. インポートウィザードの [インポートするファイル] ページで、[参照] をクリックし、リストから該当するファイルを選択します。ファイル名を入力し、[検索] をクリックしてファイルを検索することもできます。
 - 以前にインポートした **GPO** を上書きします。既存の GPO を上書きするかどうかを制御します。
4. [インポートの開始] をクリックして、インポートプロセスを開始します。
5. インポートが完了したら、[完了] をクリックします。インポートした GPO は、[グループポリシーの設定] タブに表示されます。

レジストリファイルからグループポリシー設定をインポートする

Windows レジストリエディターを使用してエクスポートしたレジストリ値を、管理および割り当て用の GPO に変換できます。レジストリエントリで使用できる [レジストリファイルのインポート] オプションに慣れている場合は、次の機能を使用できます:

- HKEY_LOCAL_MACHINEとHKEY_CURRENT_USERの両方でレジストリ値をインポートできます。
- REG_BINARYとREG_MULTI_SZ型のレジストリ値をインポートできます。
- .reg ファイルで定義したレジストリキーと値に関連付けられた削除操作の変換をサポートします。.reg ファイルを使用してレジストリキーと値を削除する方法については、「<https://support.microsoft.com/en-us/topic/how-to-add-modify-or-delete-registry-subkeys-and-values-by-using-a-reg-file-9c7f37cf-a5e9-e1cd-c4fa-2a26218a1a23>」を参照してください。

開始する前に、次の点に注意してください。

- ZIP ファイルからインポートします。zip ファイルには、1 つ以上のレジストリファイルを含めることができます。解凍したファイルのサイズが 30 M 以下であることを確認してください。
- 各.reg ファイルは GPO に変換されます。変換された各 GPO は、一連のレジストリ設定として扱うことができます。
- 変換された各 GPO の名前は、対応する.reg ファイルの名前に基づいて生成されます。例: .reg ファイルの名前がtest1.regの場合、変換された GPO の名前はtest1になります。
- 変換された GPO の説明は空です。それらの状態はデフォルトで有効 (チェックマークアイコン) です。

グループポリシー設定をインポートするには、次の手順を実行します。

1. [アップロード] を使用して、レジストリファイルの zip バックアップを Citrix Cloud のデフォルトフォルダーにアップロードします。
2. [レガシーコンソール] > [アクション] > [グループポリシー設定] に移動し、[グループポリシー設定の処理を有効にする] を選択し、[インポート] の横にある下矢印をクリックして [レジストリファイルのインポート] を選択します。
3. 表示されるウィザードで、リストからファイルを選択します。ファイル名を入力し、[検索] をクリックしてファイルを検索することもできます。
 - 既存の **GPO** を上書きします。競合が発生したときに既存の GPO を上書きするかどうかを制御します。
4. [インポートの開始] をクリックして、インポートプロセスを開始します。
5. インポートが完了したら、[完了] をクリックします。レジストリファイルから変換された GPO は、[グループポリシー設定] に表示されます。

グループポリシー設定の編集

一覧から GPO をダブルクリックすると、その設定の項目別ビューが表示されます。また、必要に応じて設定を編集します。

GPO を複製するには、GPO を右クリックし、メニューから [コピー] を選択します。[コピー] をクリックすると、クローンが自動的に作成されます。クローンはオリジナルの名前を継承し、サフィックス 「-Copy」 が付加されます。[編集] を使用して名前を変更できます。

[編集] をクリックすると、[**グループポリシーオブジェクトの編集**] ウィンドウが表示されます。

名前。GPO の一覧に表示される GPO の名前。

説明。GPO の一覧に表示される GPO に関する追加情報を指定できます。

レジストリ操作。GPO に含まれるレジストリ操作を表示します。

警告:

レジストリベースの設定を誤って編集、追加、および削除すると、ユーザー環境で設定が有効にならなくなる可能性があります。

- 追加。レジストリキーを追加できます。
- **[編集]**。レジストリキーを編集できます。
- **[削除]**。レジストリキーを削除できます。

レジストリキーを追加するには、右側の **[追加]** をクリックします。次の設定が使用可能になります。

- オーダー。レジストリキーの展開順序を指定できます。
- 操作。レジストリキーのアクションのタイプを指定できます。
 - 値を設定します。レジストリキーの値を設定できます。
 - 値を削除します。レジストリキーの値を削除できます。
 - キーを作成します。ルートキーとサブパスの組み合わせで指定したキーを作成できます。
 - キーを削除します。レジストリキーの下にあるキーを削除できます。
 - すべての値を削除します。レジストリキーの下のすべての値を削除できます。
- ルートキー。サポートされている値: **HKEY_LOCAL_MACHINE** および **HKEY_CURRENT_USER**。
- サブパス。ルートキーを含まないレジストリキーのフルパス。たとえば、**HKEY_LOCAL_MACHINE\Software\Microsoft\Windows**がレジストリキーのフルパスである場合、**Software\Microsoft\Windows**はサブパスです。
- 価値。レジストリ値の名前を指定できます。次の図全体で強調表示されている項目は、レジストリ値です。

Name	Type	Data
ab (Default)	REG_SZ	(value not set)

- タイプ。値のデータ型を指定できます。
 - **REG_SZ**。このタイプは、人間が読めるテキスト値を表すために使用される標準文字列です。
 - **REG_EXPAND_SZ**。この型は、アプリケーションによって呼び出されたときに置換される変数を含む拡張可能なデータ文字列です。たとえば、次の値の場合、文字列「%SystemRoot%」は、オペレーティングシステム内のフォルダの実際の場所に置き換えられます。
 - **REG_BINARY**。あらゆる形式のバイナリデータ。
 - **REG_DWORD**。32 ビットの数値。この型はブール値によく使用されます。たとえば、「0」は無効を意味し、「1」は有効であることを意味します。
 - **REG_DWORD_LITTLE_ENDIAN**。リトルエンディアン形式の 32 ビット数値。
 - **REG_QWORD**。64 ビットの数値。
 - **REG_QWORD_LITTLE_ENDIAN**。リトルエンディアン形式の 64 ビット数値。
 - **REG_MULTI_SZ**。この型は、リストまたは複数の値を含む値を表すために使用される複数文字列です。各エントリはヌル文字で区切られます。

- データ。レジストリ値に対応するデータを入力できます。データ型が異なると、異なる形式で異なるデータを入力しなければならない場合があります。

変更が有効になるまでに時間がかかる場合があります。次の点に注意してください。

- **HKEY_LOCAL_MACHINE**レジストリハイブに関連する変更は、**Citrix WEM** エージェントホストサービスが起動するか、指定した **SQL** 設定のリフレッシュ遅延がタイムアウトしたときに有効になります。
- **HKEY_CURRENT_USER**レジストリハイブに関連付けられた変更は、ユーザーがログオンしたときに有効になります。

グループポリシー設定のコンテキスト化

フィルタを使用して割り当てをコンテキスト化することで、グループポリシー設定を条件付きにすることができます。フィルタは、ルールと複数の条件で構成されます。WEM エージェントは、ルール内のすべての条件が実行時にユーザー環境で満たされた場合にのみ、割り当てられたグループポリシー設定を適用します。そうしないと、エージェントはフィルタを適用するときにこれらの設定をスキップします。

グループポリシー設定を条件付きにする一般的なワークフローは次のとおりです。

1. 管理コンソールで、[フィルタ] > [条件] に移動し、条件を定義します。条件を参照してください。

重要:

使用可能なフィルタ条件の一覧については、「[フィルタ条件](#)」を参照してください。グループポリシー設定は、ユーザーとコンピューターの設定で構成されます。一部のフィルタ条件は、ユーザー設定にのみ適用されます。これらのフィルタ条件をマシン設定に適用すると、WEM エージェントはフィルタ条件を無視し、マシン設定を適用します。コンピュータ設定に適用されないフィルタ条件の一覧については、「[マシン設定に適用できないフィルタ条件](#)」を参照してください。

2. [フィルタ] > [ルール] に移動し、フィルタルールを定義します。ステップ 1 で定義した条件を、そのルールに含めることができます。ルールを参照してください。
3. [操作] > [グループポリシーの設定] に移動し、グループポリシー設定を構成します。
4. [管理コンソール] > [割り当て] > [アクションの割り当て] に移動し、以下を完了します。
 - a) 設定を割り当てるユーザーまたはユーザーグループをダブルクリックします。
 - b) アプリケーションを選択し、右矢印 (>) をクリックして割り当てます。
 - c) 「フィルタの割り当て」ウィンドウで、ステップ 2 で定義したルールを選択し、「**OK**」をクリックします。設定が [使用可能] ペインから [割り当て済み] ペインに移動します。
 - d) [割り当て済み] ペインで、設定の優先度を構成します。整数を入力して優先度を指定します。値が大きいほど、優先順位が高くなります。優先度の高い設定は後で処理され、競合や依存関係がある場合に有効になります。

マシン設定には適用されないフィルタ条件

フィルタ名	マシン設定に適用可能
クライアント名の一致	いいえ
クライアント IP アドレスの一致	いいえ
レジストリ値の一致	HKCU で始まるレジストリ値を設定する場合、コンピュータ設定に適用すると、レジストリ値の一致 (Registry Value Match) フィルタは機能しません。
ユーザーの国一致	いいえ
ユーザー UI 言語の一致	いいえ
ユーザ SBC リソースタイプ	いいえ
Active Directory パスの一致	いいえ
Active Directory 属性の一致	いいえ
クライアント名が一致しません	いいえ
クライアント IP アドレスが一致しない	いいえ
一致するレジストリ値がありません	いいえ
ユーザーの国が一致しません	いいえ
ユーザー UI 言語が一致しません	いいえ
Active Directory パスが一致しません	いいえ
Active Directory 属性が一致しない	いいえ
クライアントのリモート OS の一致	いいえ
クライアントのリモート OS の一致なし	いいえ
Active Directory グループの一致	いいえ
Active Directory グループの一致がありません	いいえ
公開されたリソース名	いいえ

アプリケーション

May 28, 2024

アプリケーションショートカットの作成を制御します。

ヒント:

- Citrix DaaS の完全構成管理インターフェイスを使用してアプリケーション設定を編集し、**VUEMAppCmd.exe** を指す実行可能ファイルパスを追加できます。**VUEMAppCmd.exe** は、Citrix DaaS (以前の Citrix Virtual Apps and Desktops サービス) および Citrix Virtual Apps and Desktops の公開アプリケーションが開始される前に、Workspace Environment Management エージェントが環境の処理を終了することを保証します。詳細については、「[完全な構成管理インターフェイスを使用したアプリケーション設定の編集](#)」を参照してください。
- [動的トークンを使用して](#)、Workspace Environment Management アクションを拡張し、より強力にすることができます。

アプリケーション一覧

既存のアプリケーションリソースのリストを表示します。[検索]を使用して、名前または ID でリストをフィルタできます。

アプリケーションを追加および割り当てる一般的なワークフローは次のとおりです。

1. [管理コンソール] > [アクション] > [アプリケーション] > [アプリケーションリスト] タブに移動し、[追加] をクリックします。または、空白領域を右クリックし、コンテキストメニューから [追加] を選択します。[新しいアプリケーション] ウィンドウが表示されます。
 - a) [全般] タブで、必要な情報を入力し、必要に応じてアプリケーションの種類を選択します。
 - b) [オプション] タブで、アプリケーションのアイコンを追加し、必要に応じて設定を構成します。
 - c) [詳細設定] タブで、アプリケーションのその他のオプションを構成します。
 - d) 「**OK**」をクリックして変更を保存し、「新規アプリケーション」ウィンドウを終了します。
2. [管理コンソール] > [割り当て] > [アクションの割り当て] タブに移動します。
 - a) アプリケーションの割り当て先となるユーザーまたはユーザー・グループをダブルクリックします。
 - b) アプリケーションを選択し、右矢印 (>) をクリックして割り当てます。
 - c) [フィルターの割り当て] ウィンドウで、[常に **True**] を選択し、**[OK]** をクリックします。アプリケーションが [使用可能] ペインから [割り当て済み] ペインに移動します。
 - d) [割り当て] ウィンドウで、アプリケーションに対して、[デスクトップの作成]、[** クイック起動の作成]、[スタートメニューの作成]、[** タスクバーにピン留めする **]、[スタートメニューにピン留めする **]、および [** 自動スタート**] のいずれかのオプションを構成します。

[詳細設定] > [構成] > [サービスオプション] タブの [SQL 設定の更新遅延] で指定した値によっては、割り当てが有効になるまでに時間がかかる場合があります。必要に応じて、割り当てを直ちに有効にするには、次の手順を実行します。

1. [管理コンソール] > [管理] > [エージェント] > [統計] タブに移動し、[更新] をクリックします。
2. エージェントを右クリックし、コンテキストメニューから [ワークスペースエージェントのリフレッシュ] を選択します。

[一般] タブ

名前。アプリケーションリストに表示されるアプリケーションショートカットの表示名です。

説明。アプリケーションに関する追加情報を指定できます。

アプリケーションの種類。ショートカットが開くアプリケーションの種類を指定します。ユーザインタフェースは、選択した内容によって異なります。

- インストールされているアプリケーション。ユーザーのマシンにインストールされているアプリケーションを開くショートカットを作成できます。選択すると、次の処理を完了するように求められます。
 - コマンドライン。ユーザーのマシン上にあるアプリケーションのフルパスを入力します。一覧表示されたアプリケーションを参照し、ファイルパスの形式を理解するには、[参照] をクリックします。
 - 作業ディレクトリ。アプリケーションの作業フォルダとして、ユーザーのコンピュータ上のフォルダへのフルパスを入力します。このフィールドは、[コマンドライン] フィールドにフルパスを入力すると、自動的に入力されます。
 - パラメーター。必要に応じて、アプリケーションの起動パラメータを入力します。
- ファイル/フォルダ。ユーザーがショートカットアイコンをクリックしたときに、ユーザーのマシン上のターゲットファイルまたはフォルダを開くショートカットを作成できます。選択すると、次の処理を完了するように求められます。
 - ターゲット。ターゲットファイルまたはフォルダへのフルパスを入力します。

注:

ドメインに参加していないエージェントを使用している場合、ターゲットがネットワーク共有の場合、WEM のファイル/フォルダなどのアプリケーションタイプが機能しないことがあります。

- **URL**。アプリケーションの URL を追加できます。選択すると、次の処理を完了するように求められます。
 - ショートカット **URL**。アプリケーションの URL を入力します。
- **StoreFront** ストア。StoreFront ストアに基づくアプリケーションを追加できます。選択すると、次の処理を完了するように求められます。
 - **URL** をストアします。ショートカットから開始するリソースを含む StoreFront ストアの URL を入力します。
 - リソースを保管します。ショートカットから開始するリソース (StoreFront ストアから利用可能) を追加します。[参照] をクリックして、リソースを参照して選択します。

ヒント:

StoreFront ストアに基づいてアプリケーションを追加するには、有効な資格情報を指定する必要があります。[参照] を初めてクリックしてストアリソースを表示すると、ダイアログボックスが表示されます。このダイアログでは、Windows 向け Citrix Workspace アプリへのログオンに使用する資格情報の入力を求められます。その後、[リソースの保存] ウィンドウが開き、WEM 管理コンソールマシンで実行されている Windows 向け Citrix Workspace アプリによって取得された公開アプリケーションのリストが表示されます。

[スタート] メニューの統合。[スタート] メニューの左側で、アプリケーションショートカットを作成する場所を指定できます。既定では、新しいショートカットは [プログラム] に作成されます。ショートカットのカスタムフォルダを作成するには、次の手順を実行します。

1. [パスを選択] をクリックして、[スタート] メニュー [パスの選択] ウィンドウを開きます。
2. そのウィンドウで、[プログラム] を右クリックし、コンテキストメニューから [追加] をクリックします。[スタートメニューフォルダを新規作成] ウィンドウが表示されます。
3. そのウィンドウで、フォルダ名を指定し、「OK」をクリックします。
4. [選択] をクリックして [スタート] メニューの [パスの選択] ウィンドウを終了します。

[オプション] タブ

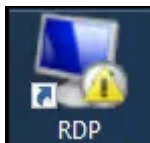
アイコンファイル。アプリケーションのアイコンを追加できます。[アイコンを選択] をクリックして、アップロードしたアイコンファイルのフルパスを入力し、一覧からパスを選択し、[読み込み] をクリックします。詳細については、「[アイコンを選択するには](#)」を参照してください。アイコンは文字列としてデータベースに格納されます。

- 高解像度アイコンのみ。一覧に高精細アイコンのみを表示します。

アイコンインデックス。このフィールドは自動的に入力されます。

アプリケーションの状態。アプリケーションのショートカットを有効にするかどうかを制御します。無効にすると、エージェントはユーザーに割り当てられていても処理しません。

- メンテナンスモード。有効にすると、ユーザーはアプリケーションショートカットを実行できなくなります。ショートカットアイコンには、ショートカットが使用できないことを示す警告記号が表示されます。ユーザーがショートカットをクリックすると、アプリケーションが使用できないことを通知するメッセージが表示されます。このオプションを使用すると、公開アプリケーションのメンテナンス中のシナリオを、アプリケーションのショートカットを無効にしたり削除したりすることなく、プロアクティブに管理できます。



表示名。ユーザー環境に表示されるショートカットの名前。

ホットキーアプリケーションの起動に使用するユーザーのホットキーを指定できます。ホットキーは大文字と小文字が区別され、次の形式で入力します (例): `Ctrl + Alt + S`。

アクションタイプ。このリソースがどのようなアクションであるかを説明します。

[詳細設定] タブ

自動自己回復機能を有効にします。選択すると、ユーザーが移動または削除した場合、エージェントは更新時にアプリケーション・ショートカットを自動的に再作成します。

アイコンの位置を強制。ユーザーのデスクトップ上のアプリケーションショートカットの正確な場所を指定できます。値はピクセル単位です。

ウィンドウのスタイル。アプリケーションを、ユーザーのマシン上で最小化、標準、または最大化したウィンドウのいずれで開くかを制御します。

セルフサービスに表示しない。ユーザーのマシンからアクセス可能なエージェントメニュー (セルフサービスインタフェース) からアプリケーションを非表示にします。ユーザーは、セッションエージェントが UI モードで実行されているときに、タスクバーのエージェントアイコンを右クリックしてエージェントメニューを開きます。選択すると、**[マイアプリケーション]** メニューと **[アプリケーションの管理]** ダイアログの両方からアプリケーションが非表示になります。

ヒント:

[アプリケーションショートカットを有効にする] オプションは、**[マイアプリケーション]** オプションをエージェントメニューで使用できるかどうかを制御します。このオプションは、**[管理コンソール] > [詳細設定] > [UI エージェントのパーソナライズ] > [UI エージェントオプション]** タブから使用できます。詳細については、[UI エージェントのパーソナライゼーション](#)を参照してください。

ユーザーのお気に入りフォルダにショートカットを作成します。ユーザーの **[お気に入り]** フォルダにアプリケーションショートカットを作成します。

[スタート] メニュービュー

[スタート] メニューに、アプリケーションのショートカットリソースの場所のツリービューが表示されます。

更新。アプリケーションリストを更新します。

移動。ウィザードが開き、アプリケーションのショートカットの移動先を選択できます。

編集。アプリケーションエディションウィザードを開きます。

[削除]。選択したアプリケーションショートカットリソースを削除します。

アプリケーションランチャー

アプリケーションランチャーは、管理コンソールを通じてユーザーに割り当てたすべてのアプリケーションを集約します。このツールを使用すると、ユーザーは割り当てられたすべてのアプリケーションを 1 か所で起動できます。

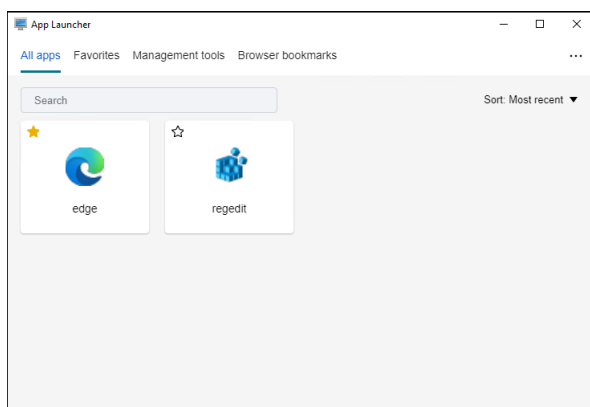
ヒント:

このツールは Citrix 仮想アプリとして公開することをお勧めします。

この機能には次の利点があります。

- 割り当てられたアプリケーションをすばやく起動できます。
- ユーザーは、自分に割り当てられているすべてのアプリケーションを 1 か所で起動できます。
- ユーザーはブックマークしたウェブサイトですばやくアクセスできます。Profile Management では、ブラウザのブックマークをローミングできます。

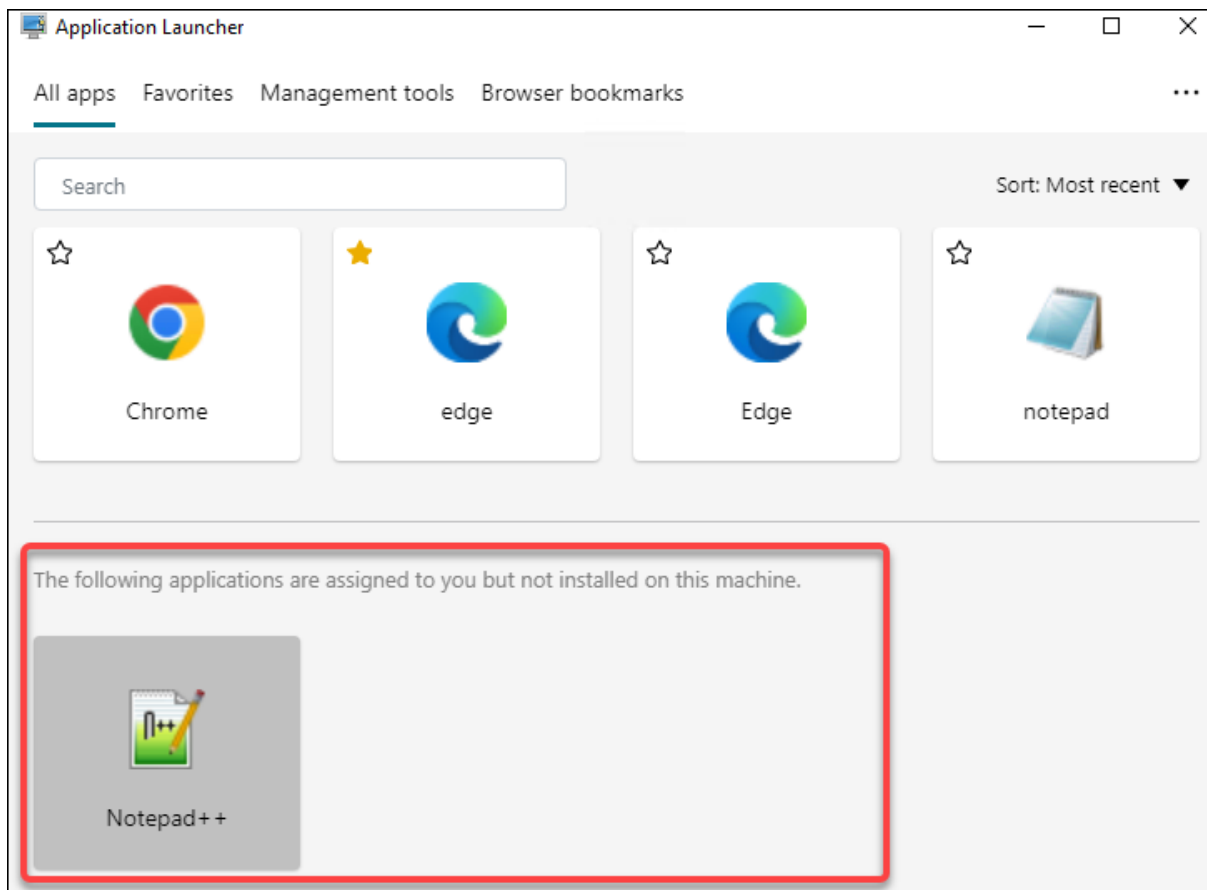
ユーザーは、自分の環境でアプリケーションランチャーツール (AppLauncherUtil.exe) を直接開くことができます。このツールは、エージェントのインストールフォルダにあります `%ProgramFiles%\Citrix\Workspace Environment Management Agent\ AppLauncherUtil.exe`。ツールを開くと、ユーザーに割り当てられているアプリケーションが反映された次の情報が表示されます。



- すべてのアプリ。割り当てられているすべてのアプリケーションを表示します。利用可能な並べ替えオプション: 最新、**A-Z**、**Z-A**。
- お気に入り。お気に入りとしてマークされたアプリケーションを表示します。
- 管理ツール。次の 2 つのツールを表示します。
 - **Taskmgr**。タスクマネージャーを開きます。
 - **vuemuiAgent**。WEM UI エージェントを起動します。
- ブラウザのブックマーク。ブラウザのブックマークに保存された Web サイトを表示します。ブックマークをクリックすることで、ユーザーはブラウザをすばやく開き、ターゲットのウェブサイトにアクセスできます。ブックマークはブラウザごとにグループ化できます。この機能は Google Chrome と Microsoft Edge のみをサポートします。利用可能な並べ替えオプション: 最新、**A-Z**、**Z-A**。

- 省略記号アイコン。ユーザーがセッションからサインアウトできるサインアウトオプションがあります。

割り当てられたアプリケーションがエージェントマシンに存在することを確認します。割り当てられたアプリケーションがエージェントマシンにインストールされていない場合、アプリケーションは表示されますが、起動できません。

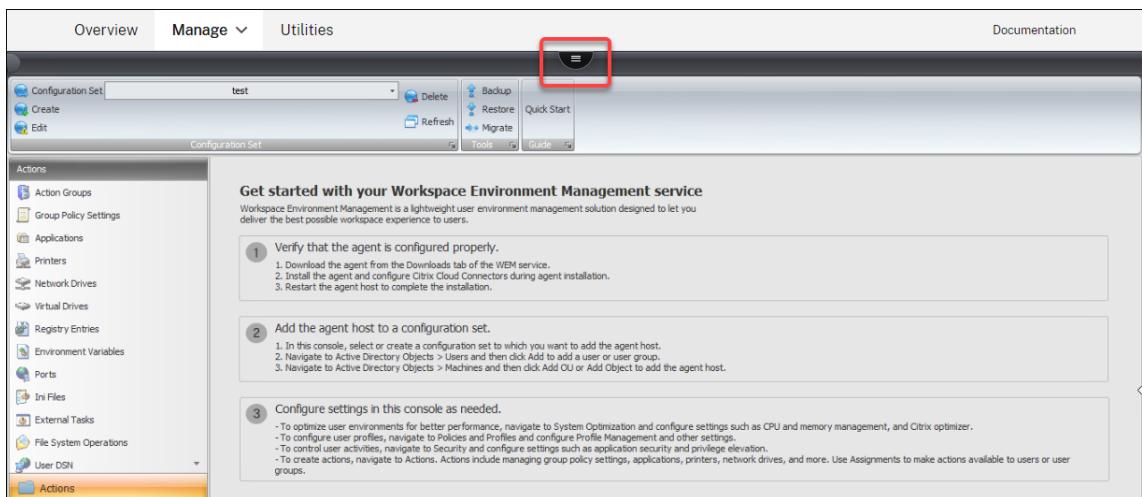


この機能の使用例については、「[割り当てられたアプリケーションを 1 か所に集約する](#)」を参照してください。

アイコンを選択するには

アイコンを選択するには、次の手順を実行します。

1. WEM サービスの [管理] タブのメニューの上にマウスカーソルを置きます。



2. Citrix Workspace アイコンをクリックします。
3. [アップロード] アイコンをクリックして、該当するアイコンファイルを Citrix Cloud フォルダにアップロードします。

注:

このアイコンファイルは、後で使用するために保持されません。ファイル数の上限に達すると、ファイルを削除する場合があります。必要に応じて、ファイルのローカルコピーを保存します。ファイル数の制限について詳しくは、「[ファイルのアップロード](#)」を参照してください。

4. [管理コンソール] > [アクション] > [アプリケーション] > [アプリケーションリスト] タブで、[追加] をクリックします。
5. [新しいアプリケーション] ウィンドウで、[オプション] タブに移動し、[アイコンの選択] をクリックします。
6. [アイコン選択] ウィンドウで、アップロードしたアイコンファイルの完全なファイルパスを入力し、ドロップダウンリストからパスを選択し、[読み込み] をクリックします。デフォルトのフォルダパスは `C:\DefaultUploadFolder\` です。完全なファイルパスを次の形式で入力する必要があります:
`C:\DefaultUploadFolder\iconname`。例:
 - `C:\DefaultUploadFolder\iconname.ico`
 - `C:\DefaultUploadFolder\iconname.exe`
7. 「アイコン選択」ウィンドウで、該当するアイコンを選択し、「OK」をクリックします。

完全構成管理インターフェイスを使用したアプリケーション設定の編集

Workspace Environment Management (WEM) には、発生した問題のトラブルシューティングを行うクライアント側のツールが用意されています。vuemappCmd ツール (**VUEMAppCmd.exe**) は、公開アプリケーションが開始される前に WEM エージェントが環境の処理を終了することを保証します。このフォルダは、エージェント

インストールフォルダ: %ProgramFiles%\Citrix\Workspace Environment Management Agent\VUEAppCmd.exeにあります。

注:

64 ビット OS の場合は、代わりに%ProgramFiles(x86)%を使用してください。

完全な構成管理インターフェイスを使用してアプリケーション設定を編集し、**VUEAppCmd.exe** を指す実行可能ファイルのパスを追加できます。このためには、次の手順を実行します:

1. [アプリケーション] ノードでアプリケーションを選択し、アクションバーの [プロパティ] をクリックして、[場所] ページに移動します。

Application Settings

Identification

Delivery

Location

Groups

Limit Visibility

File Type Association

Zone

Location

Enter the location information below.

Path to the executable file:

C:\Windows\system32\win32calc.exe

Browse the applications on the local machine, or enter the path manually.

Command-line argument (optional):

Example: https://www.Example.com

Working directory:

Example: \\myapps\

Save Cancel Apply

2. 「実行ファイルへのパス」フィールドに、VUEAppCmd.exeのパスを入力します。

- 次のように入力します。%ProgramFiles%\Citrix\Workspace Environment Management Agent\VUEAppCmd.exe。

3. コマンドライン引数フィールドに、起動するアプリケーションのパスを入力します。

- **VUEAppCmd.exe** を使用して、起動するアプリケーションのフルパスを入力します。パスに空白が含まれている場合は、アプリケーションのコマンドラインを二重引用符で囲むようにしてください。

- たとえば、**VUEAppCmd.exe** から **iexplore.exe** を起動したいとします。これを行うには、次のように入力します。"`%ProgramFiles%\Internet Explorer\iexplore.exe`"。

プリンター

July 13, 2022

このタブは、プリンターのマッピングを制御します。

ヒント:

動的トークンを使用して、Workspace Environment Management アクションを拡張し、より強力にすることができます。

ネットワークプリンタリスト

一意の ID を持つ、既存のプリンタリソースのリスト。[検索] を使用すると、プリンタの一覧を名前または ID でフィルタできます。

注:

- WEM サービスは現在、リボンの [ネットワークプリントサーバーのインポート] を使用したプリンターのインポートをサポートしていません。
- Windows Update がエージェントマシンに KB5005033 をインストールすると、割り当てられたプリンターが機能しなくなります。この問題は、更新プログラムによって Windows プリントスプーラサービスの自動起動が妨げられるために発生します。回避策として、サービスを手動で開始します。

プリンタを追加するには

1. [ネットワークプリンタリスト] タブで、[追加] をクリックするか、空白の領域を右クリックして、コンテキストメニューから [追加] を選択します。
2. [新しいネットワークプリンタ] ウィンドウで、必要な情報を入力し、[OK] をクリックします。

フィールドとコントロール

Name: プリンター一覧に表示されるプリンタの表示名です。

[説明]。このフィールドは、編集/作成ウィザードでのみ表示され、リソースに関する追加情報を指定できます。

ターゲットパス。ユーザーの環境で解決されるプリンタへのパス。

プリンタの状態。プリンタを有効にするか無効にするかを切り替えます。無効にすると、ユーザーに割り当てられていてもエージェントによって処理されません。

外部認証情報。プリンタへの接続に使用する特定の資格情報を記述できます。

自己修復。エージェントが更新されるときに、ユーザーに対してプリンタを自動的に再作成するかどうかを切り替えます。

アクションタイプ。このリソースがどのようなアクションであるかを説明します。[デバイスマッピングプリンタファイルを使用]で、XML プリンタリストファイルへの絶対パスとして [ターゲットパス] を指定します ([XML プリンタリストの構成を参照](#))。エージェントが更新されると、この XML ファイルが解析され、プリンタがアクションキューに追加されます。

ネットワーク ドライブ

July 13, 2022

ネットワークドライブのマッピングを制御します。

ヒント:

[動的トークンを使用して](#)、Workspace Environment Management アクションを拡張し、より強力にすることができます。

ネットワークドライブリスト

既存のネットワークドライブのリスト。[検索] を使用すると、テキスト文字列に対して名前または ID でリストをフィルタリングできます。

ネットワークドライブを追加するには

1. コンテキストメニューの [追加] コマンドを使用します。
2. [新しいネットワークドライブ] ダイアログのタブに詳細を入力し、[OK] をクリックします。

フィールドとコントロール

Name: ネットワークドライブリストに表示されるドライブの表示名。

[説明]。このフィールドは、編集/作成ウィザードでのみ表示され、リソースに関する追加情報を指定できます。

ターゲットパス。ユーザーの環境で解決されるネットワークドライブへのパス。

ネットワークドライブの状態。ネットワークドライブが有効か無効かを切り替えます。無効にすると、ユーザーに割り当てられていてもエージェントによって処理されません。

外部認証情報。ネットワークドライブへの接続に使用する特定の資格情報を記述できます。

自動自己回復機能を有効にします。エージェントの更新時にネットワークドライブを自動的に再作成するかどうかを切り替えます。

ホームドライブとして設定します。

アクションタイプ。このリソースがどのようなアクションであるかを説明します。デフォルトは [ネットワークドライブのマッピング] です。

仮想ドライブ

January 11, 2024

仮想ドライブのマッピングを制御します。仮想ドライブは、ローカルファイルパスをドライブ文字にマップする Windows 仮想ドライブまたは MS-DOS デバイス名です。

ヒント:

[動的トークンを使用して](#)、Workspace Environment Management アクションを拡張し、より強力にすることができます。

仮想ドライブリスト

既存の仮想ドライブのリストを表示します。[検索] を使用して、名前または ID でリストをフィルタできます。

仮想ディスクを追加して割り当てる一般的なワークフローは次のとおりです。

1. 管理コンソール > アクション > 仮想ドライブ > 仮想ドライブリスト] タブに移動し、[追加] をクリックします。または、空白領域を右クリックし、コンテキストメニューから [追加] を選択します。[新しい仮想ドライブ] ウィンドウが表示されます。
 - a) [全般] タブで、必要な情報を入力し、仮想ドライブをホームドライブとして設定するかどうかを選択します。
 - b) 「OK」をクリックして変更を保存し、「新規仮想ドライブ」ウィンドウを終了します。
2. [管理コンソール] > [割り当て] > [アクションの割り当て] タブに移動します。
 - a) 仮想ドライブを割り当てるユーザーまたはユーザーグループをダブルクリックします。
 - b) 仮想ドライブを選択し、右矢印 (>) をクリックして割り当てます。

- c) 「フィルタとドライバ文字の割り当て」ウィンドウで、「常に真」を選択し、ドライバ文字を選択して「OK」をクリックします。(次に使用可能なドライバ文字を仮想ドライブに割り当てる場合は、特定の文字ではなくアスタリスク (*) 文字を選択します)。仮想ドライブが [使用可能] ペインから [割り当て済み] ペインに移動します。

[詳細設定] > [構成] > [サービスオプション] タブの [SQL 設定の更新遅延] で指定した値によっては、割り当てが有効になるまでに時間がかかる場合があります。必要に応じて、割り当てを直ちに有効にするには、次の手順を実行します。

1. [管理コンソール] > [管理] > [エージェント] > [統計] タブに移動し、[更新] をクリックします。
2. エージェントを右クリックし、コンテキストメニューから [ワークスペースエージェントのリフレッシュ] を選択します。

フィールドとコントロール

[一般] タブ **Name:** 仮想ドライブのリストに表示されるドライブの表示名。

[説明]。仮想ドライブに関する追加情報を指定できます。この情報は、編集ウィザードまたは作成ウィザードにのみ表示されます。

ターゲットパス。ユーザーの環境で解決される仮想ドライブへのパスを入力します。

注:

ドメインに参加していないエージェントを使用しているときに、ターゲットパスがネットワーク共有の場合、WEM が機能しない場合があります。

仮想ドライブの状態。仮想ドライブが有効か無効かを切り替えます。無効にすると、エージェントはユーザーに割り当てられていても処理しません。

ホームドライブとして設定します。ホームドライブとして設定するかどうかを選択できます。

[オプション] タブ アクションタイプ。このリソースがどのようなアクションであるかを説明します。

レジストリエントリ

June 20, 2022

レジストリエントリの作成を制御します。

ヒント:

動的トークンを使用して、Workspace Environment Management アクションを拡張し、より強力にすることができます。

レジストリ値リスト

既存のレジストリエントリのリスト。[検索]を使用すると、テキスト文字列に対して名前または ID でリストをフィルタリングできます。

レジストリエントリを追加するには

1. コンテキストメニューの [追加] コマンドを使用します。
2. 「新規レジストリ値」ダイアログのタブに詳細を入力し、「OK」をクリックします。

フィールドとコントロール

Name: レジストリエントリのリストに表示されるレジストリエントリの表示名。

[説明]。このフィールドは、編集/作成ウィザードでのみ表示され、リソースに関する追加情報を指定できます。

レジストリ値の状態。レジストリエントリを有効にするか無効にするかを切り替えます。無効にすると、ユーザーに割り当てられていてもエージェントによって処理されません。

ターゲットパス。レジストリエントリが作成されるレジストリの場所。Workspace Environment Management では、現在のユーザーのレジストリエントリのみを作成できるため、%ComputerName%\HKEY_CURRENT_USER を値の前に記述する必要はありません。これは自動的に行われます。

ターゲット名。レジストリに表示されるレジストリ値の名前 (NontSecurity など)。

ターゲットタイプ。作成されるレジストリエントリの種類。

ターゲット値。一度作成されたレジストリエントリの値 (たとえば、0 または C:\Program Files)

1 回実行してください。デフォルトでは、Workspace Environment Management は、エージェントが更新されるたびにレジストリ・エントリを作成します。このチェックボックスをオンにすると、Workspace Environment Management がレジストリエントリを 1 回だけ作成し、更新するたびにではなく、最初の更新時に作成します。これにより、エージェントの更新プロセスが高速化されます。特に、多数のレジストリエントリがユーザーに割り当てられている場合。

アクションタイプ。このリソースがどのようなアクションであるかを説明します。

レジストリファイルのインポート

レジストリファイルを割り当て用のレジストリエントリに変換できます。この機能には次の制限があります。

- **HKEY_CURRENT_USER**以下のレジストリ値のみがサポートされます。レジストリエントリ機能では、**HKEY_CURRENT_USER**でレジストリ設定のみを割り当てることができます。
- **REG_BINARY**および**REG_MULTI_SZ**型のレジストリ値はサポートされていません。

制限を回避するために、グループポリシー設定の [レジストリファイルのインポート] オプションを使用して、レジストリファイルを **WEM** にインポートすることをお勧めします。詳細については、「[レジストリファイルからグループポリシー設定をインポートする](#)」を参照してください。

レジストリファイルをインポートするには、次の操作を行います。

1. [**アップロード**] を使用して、インポートするレジストリファイルをアップロードします。このファイルは、Citrix Cloud のデフォルトフォルダーに表示されます。
2. レガシーコンソール > アクション > レジストリエントリに移動します。
3. リボンで、[**レジストリファイルのインポート**] をクリックします。
4. [**レジストリファイルからインポート**] ウィンドウで、リストから目的のレジストリファイルを選択します。ファイル名を入力し始め、[**検索**] をクリックしてファイルを探すこともできます。
5. [**スキャン**] をクリックして、レジストリファイルのスキャンを開始します。スキャンが正常に完了すると、レジストリ設定の一覧が表示されます。
6. インポートするレジストリ設定を選択し、[**選択項目のインポート**] をクリックしてインポートプロセスを開始します。
7. [**OK**] をクリックして終了します。

フィールドとコントロール

レジストリファイル名。**.reg** ファイルに移動して [**開く**] をクリックすると、自動的に入力されます。**.reg** ファイルには、WEM にインポートするレジストリ設定が含まれています。**.reg** ファイルは、インポートするレジストリ設定のみが適用されるクリーンな環境から生成する必要があります。

スキャン。**.reg** ファイルをスキャンし、ファイルに含まれているレジストリ設定の一覧を表示します。

レジストリ値リスト。インポートする**.reg** ファイルに含まれているすべてのレジストリ値をリストします。

[**インポートしたアイテム**] を有効にします。無効にすると、新しくインポートされたレジストリキーは既定で無効になります。

インポートされたアイテム名の接頭辞。選択すると、このウィザードでインポートされたすべてのレジストリ項目の名前にプレフィックスが追加されます (たとえば、「XP Only」または「finance」)。これにより、レジストリエントリの識別と整理が容易になります。

注:

ウィザードは、同じ名前前のレジストリエントリをインポートできません。**.reg** ファイルに ([**レジストリ値一覧**]

に表示される) 同じ名前のレジストリエントリが複数含まれている場合は、それらのエントリの 1 つをインポート対象として選択します。他のものをインポートする場合は、名前を変更します。

環境変数

November 28, 2022

環境変数の作成を制御します。

ヒント:

[動的トークンを使用すると](#)、Workspace Environment Management アクションを拡張して、アクションをより強力にすることができます。

環境変数リスト

既存の環境変数のリスト。[検索] を使用すると、テキスト文字列に対して名前または ID でリストをフィルタリングできます。

環境変数を追加するには

1. コンテキストメニューの [追加] コマンドを使用します。
2. 「新規環境変数」ダイアログのタブに詳細を入力し、「OK」をクリックします。

フィールドとコントロール

Name: 環境変数リストに表示される変数の表示名。

[説明]。このフィールドは、編集/作成ウィザードでのみ表示され、リソースに関する追加情報を指定できます。

環境変数の状態。環境変数が有効か無効かを切り替えます。無効にすると、ユーザーに割り当てられていてもエージェントによって処理されません。

変数名。環境変数の機能名。

変数値。環境変数の値。

アクションタイプ。このリソースがどのようなアクションであるかを説明します。

実行順序。

ポート

January 21, 2022

ポート機能を使用すると、クライアントの COM および LPT ポートのマッピングが可能になります。Citrix Studio ポリシーを使用して、COM ポートと LPT ポートの自動接続を有効にすることもできます。詳しくは、「[ポートリダイレクトのポリシー設定](#)」を参照してください。

ポート機能を使用して各ポートのマッピングを手動で制御する場合は、Citrix Studio でクライアント COM ポートリダイレクトポリシーまたはクライアント LPT ポートリダイレクトポリシーを有効にしてください。既定では、COM ポートリダイレクトおよび LPT ポートリダイレクトは禁止されています。

ヒント:

[動的トークンを使用して](#)、Workspace Environment Management アクションを拡張し、より強力にすることができます。

ポートリスト

既存のポートのリスト。[検索]を使用して、名前または ID でリストをフィルタできます。

ポートを追加するには

1. コンテキストメニューから [追加] を選択します。
2. 「新規ポート」ダイアログのタブに詳細を入力し、「OK」をクリックします。

フィールドとコントロール

Name: ポートリストに表示されるポートの表示名。

[説明]。エディション/作成ウィザードにのみ表示され、リソースに関する追加情報を指定できます。

ポートステート。ポートが有効か無効かを切り替えます。無効にすると、ユーザーに割り当てられていてもエージェントによって処理されません。

ポート名。ポートの機能名。

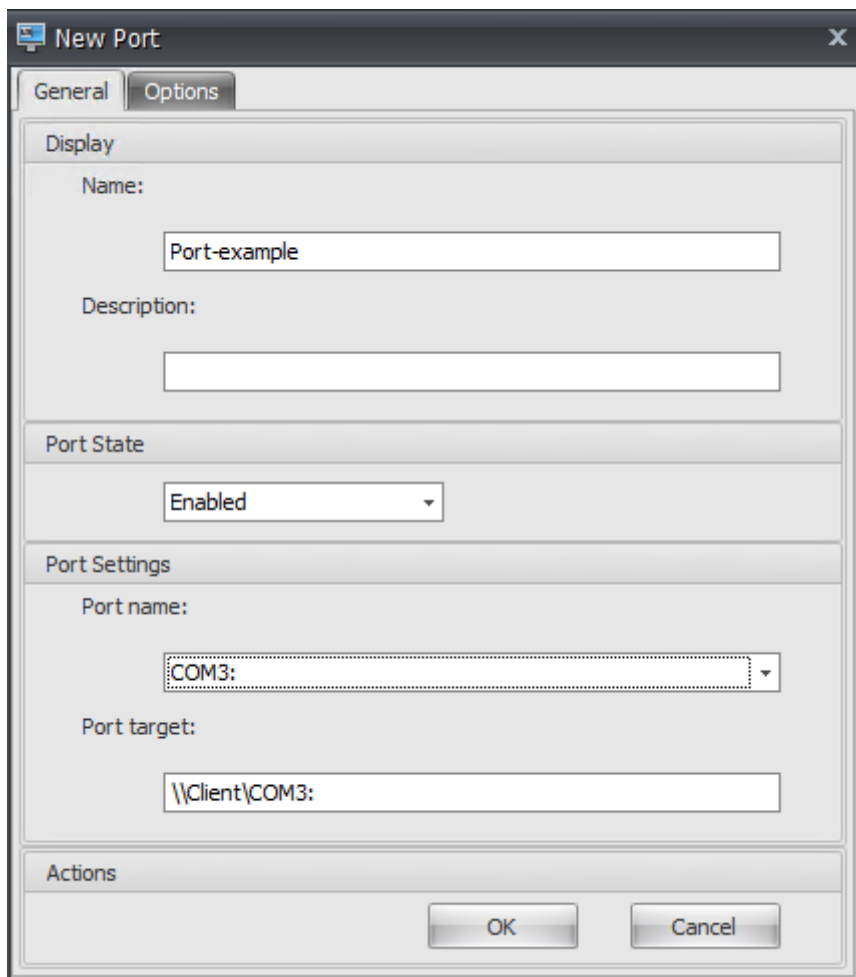
ポートターゲット。ターゲットポート。

[オプション] タブ アクションタイプ。このリソースが実行するアクションの種類を記述します。

たとえば、次のようにポート設定を構成できます。

- ポート名: 「COM3:」を選択します。

- ポートターゲット: `\\Client\COM3:`を入力



INI ファイル

February 27, 2024

.ini ファイルの操作の作成を制御し、**.ini** ファイルを変更できます。

ヒント:

動的トークンを使用して、Workspace Environment Management アクションを拡張し、より強力にすることができます。

ini ファイルの操作リスト

既存の**.ini** ファイル操作のリスト。[検索]を使用すると、テキスト文字列に対して名前または ID でリストをフィルタリングできます。

.ini ファイル操作を追加するには

1. コンテキストメニューの [追加] コマンドを使用します。
2. 「新規 **INI** ファイル操作」ダイアログタブに詳細を入力し、「**OK**」をクリックします。

フィールドとコントロール

名前。[INI ファイル操作] リストに表示される **.ini** ファイル操作の表示名です。

説明。このフィールドは、編集/作成ウィザードでのみ表示され、リソースに関する追加情報を指定できます。

.ini ファイル操作の状態。 **.ini** ファイルの操作を有効にするか無効にするかを切り替えます。無効にすると、ユーザーに割り当てられていてもエージェントによって処理されません。

ターゲットパス。ユーザーの環境で解決されるときに変更される **.ini** ファイルの場所を指定します。

注:

ドメインに参加していないエージェントを使用しているときに、ターゲットパスがネットワーク共有の場合、WEM が機能しない場合があります。

ターゲットセクション。この操作の対象となる **.ini** ファイルのセクションを指定します。存在しないセクションを指定すると、そのセクションが作成されます。

ターゲット値名。追加される値の名前を指定します。

ターゲット値。値自体を指定します。

1 回実行してください。デフォルトでは、Workspace Environment Management は、エージェントが更新されるたびに **.ini** ファイル操作を実行します。このチェックボックスを選択すると、Workspace Environment Management が更新ごとに操作を実行するのではなく、1 回だけ操作を実行するようになります。この操作により、特にユーザーに多数の **.ini** ファイル操作が割り当てられている場合に、エージェントの更新処理が高速化されます。

アクションタイプ。このリソースがどのようなアクションであるかを説明します。

外部タスク

January 11, 2024

外部タスクの実行を制御します。外部タスクには、エージェント・ホストがそれらを実行する対応するプログラムを持っている限り、スクリプトおよびアプリケーションの実行が含まれます。一般的に使用されるスクリプトには、**.vbs** スクリプトと **.cmd** スクリプトが含まれます。

外部タスク機能を使用すると、外部タスクを実行するタイミングを指定できます。これにより、ユーザー環境をより効果的に管理できます。

ヒント:

[動的トークンを使用して](#)、Workspace Environment Management アクションを拡張し、より強力にすることができます。

外部タスク・リスト

既存の外部タスクのリスト。[\[検索\]](#)を使用して、リストをフィルタできます。

外部タスクを追加するには

1. コンテキストメニューの [\[追加\]](#) コマンドを使用します。
2. 「新規外部タスク」ダイアログのタブに詳細を入力し、「**OK**」をクリックします。

フィールドとコントロール

Name: 外部タスクのリストに表示される外部タスクの表示名を指定できます。

[説明]. 外部タスクに関する追加情報を指定できます。

パス. 外部タスクへのパスを指定できます。パスはユーザー環境で解決されます。以下の点について確認してください:

- ここで指定したパスは、エージェントホストと一致しています。
- エージェント・ホストには、タスクを実行するための対応するプログラムがあります。

引数. 起動パラメーターまたは引数を指定できます。文字列を入力できます。文字列には、ターゲットスクリプトまたはアプリケーションに渡す引数が含まれています。[\[パス\]](#) フィールドと [\[引数\]](#) フィールドの使用例については、「[外部タスクの例](#)」を参照してください。

注:

ドメインに参加していないエージェントを使用しているときに、ネットワーク共有が **Path** または **Arguments** で使用されている場合、WEM が機能しないことがあります。

外部タスクの状態. 外部タスクを有効にするか無効にするかを制御します。無効にすると、タスクがユーザーに割り当てられている場合でも、エージェントはタスクを処理しません。

[非表示] を実行します。選択すると、タスクはバックグラウンドで実行され、ユーザーには表示されません。

1 回実行してください。選択した場合、[\[Triggers\]](#) タブで選択したオプションや、エージェントが再起動するかどうかに関係なく、WEM はタスクを 1 回だけ実行します。デフォルトではこのオプションが選択されています。

実行順序. 各タスクの実行順序を指定できます。このオプションは、複数のタスクがユーザーに割り当てられており、一部のタスクが他のタスクに依存して正常に実行されている場合に便利です。デフォルトでは、値は 0 です。実行順序の値が 0 (ゼロ) のタスクが最初に実行され、次に値 1 のタスク、次に値 2 のタスクが実行されます。

タスク完了を待ちます。エージェントがタスクの完了を待機する時間を指定できます。デフォルトでは、[待機タイムアウト]の値は30秒です。

アクションタイプ。外部タスクがどのようなアクションであるかを記述します。

ユーザーセッショントリガー。この機能を使用すると、次のセッションアクティビティを外部タスクのトリガーとして設定できます。

- 更新。ユーザーがエージェントを更新するときに外部タスクを実行するかどうかを制御します。デフォルトでは、このオプションが選択されています。
- 再接続。エージェントが実行されているマシンにユーザーが再接続したときに、外部タスクを実行するかどうかを制御します。デフォルトでは、このオプションが選択されています。WEM エージェントが物理 Windows デバイスにインストールされている場合、このオプションは適用されません。
- ログオン。ユーザーのログオン時に外部タスクを実行するかどうかを制御します。デフォルトでは、このオプションが選択されています。
- ログオフ。ユーザーがログオフするときに外部タスクを実行するかどうかを制御します。Citrix ユーザーログオンサービスが実行されていない限り、このオプションは機能しません。デフォルトでは、このオプションは選択されていません。
- 切断。エージェントが実行されているマシンからユーザーが切断したときに、外部タスクを実行するかどうかを制御します。デフォルトでは、このオプションは選択されていません。
- [ロック]。エージェントが実行されているマシンをユーザーがロックしたときに、外部タスクを実行するかどうかを制御します。デフォルトでは、このオプションは選択されていません。
- ロック解除。エージェントが実行されているマシンをユーザーがロック解除したときに、外部タスクを実行するかどうかを制御します。デフォルトでは、このオプションは選択されていません。

切断、ロック、ロック解除のオプションを使用する場合は、次の制約を考慮してください。

- これらのオプションの実装は Windows イベントに基づきます。環境によっては、これらのオプションが期待どおりに機能しないことがあります。たとえば、Windows 10 または Windows 11 のシングルセッション VDA で実行されているデスクトップでは、切断オプションは機能しません。代わりに lock オプションを使用してください。(このシナリオでは、受け取るアクションは「ロック」です。)
- これらのオプションは UI エージェントとともに使用することをお勧めします。2つの理由:
 - CMD エージェントでオプションを使用すると、対応するイベントが発生するたびにエージェントがユーザー環境で起動し、外部タスクが実行されるかどうかを確認します。
 - 同時実行タスクシナリオでは、CMD エージェントが最適に動作しない場合があります。

ユーザープロセストリガー。この機能を使用すると、ユーザープロセスを外部タスクのトリガーとして設定できます。この機能を使用すると、特定のプロセスが実行されている場合にのみリソースを提供し、プロセスの終了時にそれらのリソースを取り消す外部タスクを定義できます。プロセスを外部タスクのトリガーとして使用すると、ログオン時またはログオフ時に外部タスクを処理する場合に比べて、ユーザー環境をより正確に管理できます。

- この機能を使用する前に、次の前提条件が満たされていることを確認してください。
 - WEM エージェントが起動し、UI モードで実行されます。
 - 指定されたプロセスは、ログオンユーザーと同じユーザーセッションで実行されます。
 - 構成された外部タスクを最新の状態に保つには、[詳細設定] > [構成] > [詳細オプション] タブで [自動更新を有効にする] を選択してください。
- プロセスの開始時に実行します。指定したプロセスの開始時に外部タスクを実行するかどうかを制御します。
- プロセスが終了したときに実行します。指定したプロセスの終了時に外部タスクを実行するかどうかを制御します。

トラブルシューティング

この機能を有効にすると、WEM エージェントは、ユーザが初めてログオフしたときに **Citrix WEM Agent Logoff.log** という名前のログファイルを作成します。ログファイルは、ユーザーのプロファイルルートフォルダーにあります。WEM エージェントは、ユーザーがログオフするたびに情報をログファイルに書き込みます。この情報は、外部タスクに関連する問題の監視とトラブルシューティングに役立ちます。

外部タスクの例

スクリプト (PowerShell スクリプトなど) の場合:

- フォルダパスもスクリプト名にも空白文字が含まれていない場合は、次のようにします。
 - [パス] フィールドに、次のように入力します: `C:\Windows\System32\WindowsPowerShell\v1.0\powershell.exe`。
 - [引数] フィールドに、次のように入力します: `C:\<folder path>\<script name>.ps1`。

または、[パス] フィールドにスクリプトファイルへのパスを直接入力することもできます。例: `C:\<folder path>\<script name>.ps1`。[引数] フィールドで、必要に応じて引数を指定します。ただし、スクリプトファイルを実行するか、別のプログラムで開くかは、ユーザー環境で構成されたファイルタイプの関連付けによって異なります。ファイルタイプの関連付けの詳細については、「[ファイルの関連付け](#)」を参照してください。

- フォルダパスまたはスクリプト名に空白文字が含まれている場合は、次の操作を行います。
 - [パス] フィールドに、次のように入力します: `C:\Windows\System32\WindowsPowerShell\v1.0\powershell.exe`。
 - [引数] フィールドに、次のように入力します: `-file C:\<folder path>\<script name>.ps1`。

アプリケーション (iexplore.exe など) の場合:

- [パス] フィールドに、次のように入力します: `C:\Program Files\Internet Explorer\iexplore.exe`。
- [引数] フィールドに、Web サイトの URL を入力して開きます: `https://docs.citrix.com/`。

ファイル システム操作

January 11, 2024

ユーザーの環境へのフォルダとファイルのコピーを制御します。

ヒント:

動的トークンを使用して、Workspace Environment Management アクションを拡張し、より強力にすることができます。

ファイル・システム・オペレーション・リスト

既存のファイルとフォルダの操作のリスト。[検索] を使用すると、テキスト文字列に対して名前または ID でリストをフィルタリングできます。

ファイル・システム・オペレーションを追加するには

1. コンテキストメニューの [追加] コマンドを使用します。
2. 「新規ファイルシステム操作」ダイアログタブに詳細を入力し、「OK」をクリックします。

フィールドとコントロール

Name: リストに表示されるファイルまたはフォルダ操作の表示名です。

[説明]。リソースに関する追加情報を指定できます。このフィールドは、編集ウィザードまたは作成ウィザードのみ表示されます。

ファイルシステムの動作状態。ファイルシステムの操作を有効にするか無効にするかを制御します。無効にすると、ユーザーに割り当てられていてもエージェントによって処理されません。

ソースパス。コピーされるソースファイルまたはフォルダへのパス。

ターゲットパス。コピーするコピー元のファイルまたはフォルダのコピー先のパス。

注:

ドメインに参加していないエージェントを使用しているときに、ソースパスまたはターゲットパスでネットワーク共有が使用されていると、WEM が機能しないことがあります。

既存の場合はターゲットを上書きします。ファイルまたはフォルダの操作で、ターゲットの場所にある同じ名前の既存のファイルまたはフォルダを上書きするかどうかを制御します。オフにすると、同じ名前のファイルまたはフォルダがコピー先の場所に既に存在する場合、影響を受けるファイルはコピーされません。

1 回実行してください。デフォルトでは、Workspace Environment Management は、エージェントが更新されるたびにファイルシステム操作を実行します。Workspace Environment Management で、更新のたびにではなく、1 回だけ操作を実行するようにするには、このオプションを選択します。これにより、エージェントのリフレッシュ・プロセスが高速化されます。特に、多数のファイル・システム操作をユーザーに割り当てている場合は特にそうです。

アクションタイプ。このファイルまたはフォルダアクションの種類のアクション (コピー、削除、移動、名前変更、またはシンボリックリンク操作) について説明します。シンボリックリンクを作成するには、Windows でシンボリックリンクの作成を許可する `SeCreateSymbolicLinkPrivilege` 権限をユーザーに付与する必要があります。

実行順序。操作の実行順序を決定し、特定の操作を他の操作よりも先に実行できるようにします。実行順序の値が 0 (ゼロ) の操作が最初に実行され、次に値が 1 の操作、次に値が 2 の操作、というように実行されます。

ユーザー DSN

January 21, 2022

ユーザー DSN の作成を制御します。

ヒント:

[動的トークンを使用して](#)、Workspace Environment Management アクションを拡張し、より強力にすることができます。

ユーザー DSN リスト

既存のユーザー DSN のリスト。[検索] を使用すると、テキスト文字列に対して名前または ID でリストをフィルタリングできます。

ユーザー DSN を追加するには

1. コンテキストメニューの [追加] コマンドを使用します。
2. 「新規ユーザー DSN」ダイアログのタブに詳細を入力し、「OK」をクリックします。

フィールドとコントロール

Name: ユーザー DSN リストに表示されるユーザー DSN の表示名。

[説明]。このフィールドは、編集/作成ウィザードでのみ表示され、リソースに関する追加情報を指定できます。

ユーザー **DSN** の状態。ユーザー DSN が有効か無効かを切り替えます。無効にすると、ユーザーに割り当てられていてもエージェントによって処理されません。

DSN 名。 ユーザー DSN の機能名。

ドライバー。 DSN ドライバです。現時点では、SQL サーバーの DSN のみがサポートされています。

サーバー名。 ユーザー DSN が接続する SQL サーバーの名前。

データベース名。 ユーザー DSN が接続する SQL データベースの名前。

特定の認証情報を使用して接続します。サーバー/データベースへの接続に使用する資格情報を指定できます。

1 回実行してください。デフォルトでは、Workspace Environment Management は、エージェントが更新されるたびにユーザー DSN を作成します。Workspace Environment Management では、更新のたびにユーザー DSN を作成するのではなく、1 回だけ作成する場合は、このチェックボックスをオンにします。これにより、エージェントの更新プロセスが高速化されます。特に、多数の DSN がユーザーに割り当てられている場合は特にそうです。

アクションタイプ。 このリソースがどのようなアクションであるかを説明します。

ファイルの関連付け

October 26, 2023

重要:

構成するファイルの種類関連付けは、自動的に既定の関連付けになります。ただし、該当するファイルを開くと、「このファイルを開く方法しますか?」ウィンドウが表示されても、ファイルを開くアプリケーションを選択するように求めるメッセージが表示されます。「**OK**」をクリックしてウィンドウを閉じます。同じようなウィンドウを今後表示したくない場合は、次の操作を行います。グループポリシーエディターを開き、「新しいアプリケーションがインストールされました」通知ポリシーを有効にします ([コンピューターの構成] > [管理用テンプレート] > [Windows コンポーネント] > [ファイルエクスプローラー])。

ユーザー環境でのファイルタイプの関連付けの作成を制御します。

ヒント:

[動的トークンを使用して](#)、Workspace Environment Management アクションを拡張し、より強力にすることができます。

ファイルの関連付けリスト

既存のファイルの関連付けのリスト。[検索]を使用して、名前またはIDでリストをフィルタできます。

ファイルの関連付けを追加するには

1. コンテキストメニューの [追加] コマンドを使用します。
2. 「新規ファイル関連付け」ダイアログのタブに詳細を入力し、「OK」をクリックします。

Name: ファイルの関連付けリストに表示されるファイルの関連付けの表示名です。

説明。このフィールドは、編集/作成ウィザードでのみ表示され、リソースに関する追加情報を指定できます。

ファイル関連付けの状態。ファイルの関連付けを [有効] または [無効] のどちらにするかを切り替えます。無効にすると、ユーザーに割り当てられていてもエージェントによって処理されません。

ファイル拡張子です。このファイルの種類に関連付けに使用される拡張子。リストからファイル名拡張子を選択すると、**ProgID** フィールドが自動的に入力されます（管理コンソールが実行されているマシンにファイルタイプが存在する場合）。拡張機能を直接入力することもできます。ただし、ブラウザの関連付けの場合は、拡張子を直接入力する必要があります。詳細については、「[ブラウザの関連付け](#)」を参照してください。

ProgID. アプリケーション (COM) に関連付けられたプログラム識別子。この値は、リストからファイル拡張子を選択すると、自動的に設定されます。ProgID を直接入力することもできます。インストールされているアプリケーションの ProgID を検出するには、OLE/COM オブジェクトビューア (oleview.exe) を使用して、オブジェクトクラス/OLE 1.0 オブジェクトを確認します。ProgID の詳細については、「[プログラム識別子 \(ProgID\)](#)」を参照してください。

操作。アクションタイプ (開く、編集、印刷) を選択できます。

ターゲットアプリケーション。このファイル名拡張子で使用する実行可能ファイルを指定できます。実行可能ファイルのフルパスを入力します。たとえば、UltraEdit テキストエディタの場合: `C:\Program Files\IDM Computer Solutions\UltraEdit\uedit64.exe`

コマンド。実行可能ファイルに関連付けるアクションタイプを指定できます。例えば:

- 開くアクションの場合は、“%1” と入力します。
- 印刷アクションの場合は、/p"%1" と入力します。

デフォルトアクションとして設定します。関連付けが、そのファイル名拡張子の既定として設定されているかどうかを切り替えます。

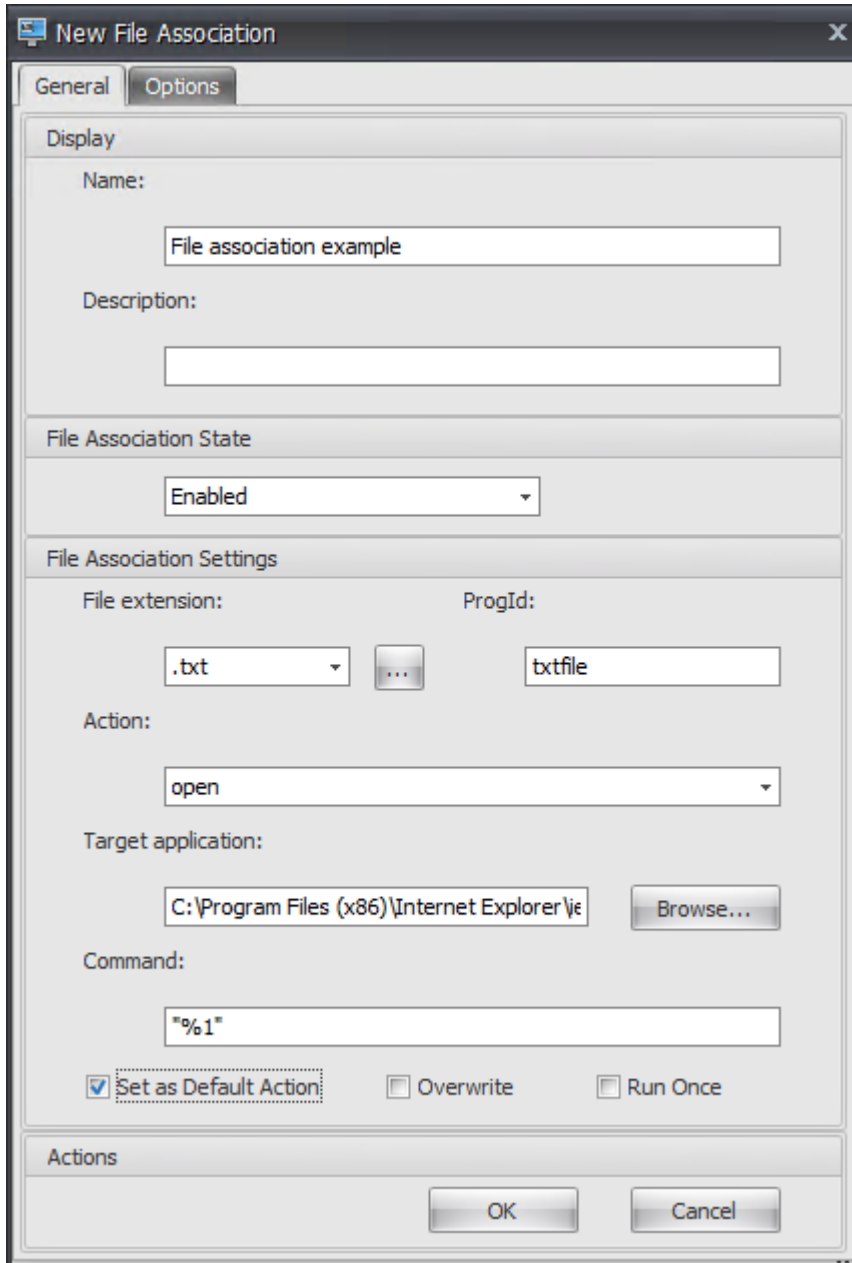
上書き。このファイルの関連付けが、指定した拡張子の既存の関連付けを上書きするかどうかを切り替えます。

1 回実行してください。デフォルトでは、Workspace Environment Management (WEM) は、エージェントが更新されるたびにファイルの関連付けを作成します。このオプションを選択すると、更新するたびにではなく、1 回だけファイルの関連付けが作成されます。これにより、エージェントの更新プロセスが高速化されます。特に、多くのファイルの関連付けがユーザーに割り当てられている場合。

アクションタイプ。このリソースがどのようなアクションであるかを説明します。

たとえば、テキスト (.txt) ファイルの新しいファイルタイプの関連付けを追加して、ユーザーが選択したプログラム (ここでは iexplore.exe) でテキストファイルを自動的に開くには、次の手順を実行します。

1. 管理コンソール > アクション > ファイル関連付け > ファイルの関連付けリスト] タブで、[追加] をクリックします。
2. 「新規ファイル関連付け」ウィンドウに情報を入力し、「OK」をクリックします。



- ファイル関連付けの状態。[有効] をクリックします。
- ファイル拡張子。ファイル名拡張子を入力します。この例では、.txt と入力します。

- 操作。[開く]を選択します。
 - ターゲットアプリケーション。[参照]をクリックして、該当する実行可能ファイル(.exe ファイル)に移動します。この例では、C:\Program ファイル (x86)\Internet Explorer フォルダにある iexplore.exe を参照します。
 - コマンド。「%1」と入力し、%1 を二重引用符で囲むようにしてください。
 - [既定のアクションとして設定]を選択します。
3. [管理コンソール] > [割り当て] > [アクションの割り当て] タブに移動します。
 4. アクションを割り当てるユーザーまたはユーザー・グループをダブルクリックします。
 5. [管理コンソール] > [管理] > [エージェント] > [統計] タブに移動し、[更新]をクリックします。
 6. エージェントを右クリックし、コンテキストメニューから [ワークスペースエージェントのリフレッシュ] を選択します。
 7. エージェントが実行されているマシン (ユーザー環境) に移動し、作成されたファイルタイプの関連付けが機能することを確認します。

この例では、エンドユーザー環境で拡張子.txt のファイルをダブルクリックすると、そのファイルは自動的に Internet Explorer で開きます。

ヒント

ブラウザーの関連付け

WEM は、次のブラウザーの関連付けの作成をサポートしています。

- Google Chrome
- Firefox
- オペラ
- Internet Explorer (IE)
- Microsoft Edge
- Microsoft Edge Chromium

ブラウザーの関連付けを作成するときは、次の点に注意してください。

- [ファイル拡張子] フィールドに、[http](#)または[https](#)と入力します。
- [**ProgID**] フィールドに、選択内容に基づいて次の (大文字と小文字が区別されます) を入力します。
 - Google Chrome の場合[ChromeHTML](#)
 - Firefox の場合[firefox](#)
 - Opera の場合[OperaStable](#)
 - Internet Explorer (IE)[IE](#)
 - Microsoft Edge 用[edge](#)

- Microsoft Edge Chromium の場合edgeまたはMSEdgeHTM

注記:

- Google Chrome のブラウザアソシエーションが機能することを確認するには、エージェントホスト上のブラウザが管理者によってインストールされていることを確認します。それ以外の場合は、管理者としてマシンにログオンし、ブラウザを再インストールします。これは、ブラウザがユーザ (管理者でない) によってインストールされる場合、ProgID はChromeHTMLではなく ProgIDChromeHTML.<X>になるためです。「X」は、ユーザーに固有のグローバル一意識別子 (GUID) を表します。たとえば、JLKDKPPE7UYB4JTWJS73YQWTD4。
- Microsoft Edge のブラウザ関連付けは、Windows 10 オペレーティングシステムの特定のバージョンに含まれている Microsoft Edge の組み込みの既定のインスタンスでのみ機能します。ブラウザをより新しいバージョンにアップグレードすると、設定された関連付けは有効になりません。この問題を回避するには、Knowledge Center の記事[CTX269675](#)を参照してください。

プログラム識別子 (ProgID)

「アクション」、「ターゲットアプリケーション」、「コマンド」の各フィールドに入力する必要はなくなりました。正しい **ProgID** を提供できる限り、フィールドは空のままにしておくことができます。一般的なアプリケーションの ProgID のリストを以下に示します。

- Acrobat Reader DC: [AcroExch.Document.DC](#)
- Opera ブラウザ: [OperaStable](#)
- Google Chrome ブラウザ: [ChromeHTML](#)
- Internet Explorer: [htmlfile](#)
- Wordpad: [textfile](#)
- メモ帳: [txtfile](#)
- Microsoft Word 2016: [Word.Document.12](#)
- Microsoft PowerPoint 2016: [PowerPoint.Show.12](#)
- Microsoft Excel 2016: [Excel.Sheet.12](#)
- Microsoft Visio 2016: [Visio.Drawing.15](#)
- Microsoft Publisher 2016: [Publisher.Document.16](#)

ただし、次の場合は、フィールド ([アクション]、[ターゲットアプリケーション]、および [コマンド]) を入力する必要があります。

- 正しい **ProgID** を指定することはできません。
- ターゲットアプリケーション (UltraEdit テキストエディターなど) は、インストール中にレジストリに独自の ProgID を登録しません。

追加情報

ファイルタイプの関連付けを構成する方法の例については、「[ファイルタイプの関連付けの構成](#)」を参照してください。

フィルター

January 21, 2022

フィルタには、ユーザーがアクションを使用可能にする (アクションを割り当てる) ためのルールと条件が含まれています。ユーザーにアクションを割り当てる前に、ルールと条件を設定します。

規則

ルールは複数の条件で構成されます。ルールを使用して、アクションがユーザーに割り当てられるタイミングを定義します。

フィルタ規則リスト

既存のルールの一覧。[検索]を使用すると、テキスト文字列に対して名前またはIDでリストをフィルタリングできます。

フィルタルールを追加するには

1. コンテキストメニューの [追加] コマンドを使用します。
2. [新しいフィルタルール] ダイアログに詳細を入力します。
3. このルールで構成する条件を [使用可能] リストから [構成済み] リストに移動します。
4. 「OK」をクリックします。

フィールドとコントロール

Name: ルールリストに表示されるルールの表示名。

[説明]。このフィールドはエディション/作成ウィザードにのみ表示され、ルールに関する追加情報を指定できません。

フィルタールールの状態。ルールが有効か無効かを切り替えます。無効にすると、エージェントは、割り当てられている場合でも、このルールを使用してアクションを処理しません。

使用可能な条件。これらは、ルールに追加できるフィルタ条件です。注。**DateTime** フィルタは、次の形式で結果を期待します。`YYYY/MM/DD HH:mm`

複数の値はセミコロン (;) で区切ることができ、範囲はハイフンで区切ることができます。同じ日付に 2 つの時刻の間の範囲を指定する場合は、その範囲の両端に日付を含める必要があります。例:1969/12/31 09:00-1969 /12/31 17:00

設定済みの条件。これらは、すでにルールに追加されている条件です。

注:

これらの条件は **AND** ステートメントであり、**OR** ステートメントではありません。複数の条件を追加する場合、フィルタがトリガーされたと見なされるためには、それらの条件がすべてトリガーされる必要があります。

条件

条件は、エージェントがユーザーにリソースを割り当てる状況を設定できる特定のトリガーです。

フィルタ条件リスト

既存の条件のリスト。[検索] を使用すると、テキスト文字列に対して名前または ID でリストをフィルタリングできます。

フィルタ条件を追加するには

1. コンテキストメニューの [追加] コマンドを使用します。
2. 「新規フィルタ条件」ダイアログのタブに詳細を入力し、「OK」をクリックします。

フィールドとコントロール

Name: 条件リストおよびルールの作成/編集ウィザードに表示される条件の表示名。

[説明]。このフィールドはエディション/作成ウィザードにのみ表示され、条件に関する追加情報を指定できます。

フィルタ条件状態。フィルタを有効にするか無効にするかを切り替えます。無効にすると、ルール作成/編集ウィザードに表示されません。

フィルタ条件タイプ。使用するフィルタ条件タイプのタイプ。「フィルタ条件」を参照してください。注:[常に真] 条件を使用するルールは、常にトリガーされます。

設定。これらは、個々の条件の特定の設定です。[フィルター条件を参照してください](#)。

注:

- IP アドレスを入力するときは、個々のアドレスまたは範囲を指定できます。
- 範囲を指定する場合は、両方の境界をフルで指定する必要があります。IP 範囲の境界を区切るには、ダッシュ文字 (-) を使用します (例: **192.168.10.1-192.168.10.5**)。セミコロン (;) を使用して、複数の範囲またはアドレスを区切ります。たとえば、**192.168.10.1-192.168.10.5; 192.168.10.8; 192.168.10.17** は、**.1-.5** および **.8-.10** の範囲と個々のアドレス ****17**** を含む有効な値です。

Assignments

November 28, 2022

ヒント:

ユーザーにアクションを割り当てる前に、次の手順を所定の順序で実行します。

- ユーザーを構成するには、「Active Directory [オブジェクト内のユーザー](#)」を参照してください。
- 条件を定義します。「[フィルタ](#)」を参照してください。
- フィルタルールを定義します。「[フィルタ](#)」を参照してください。
- アクションの設定については、この記事を参照してください。

アサインメントを使用して、ユーザーがアクションを使用できるようにします。これにより、ユーザーのログオンスク립トの一部を置き換えることができます。

アクション割り当て

Users

これは、構成済みのユーザーとグループのリストです (「Active Directory [オブジェクト内のユーザー](#)」を参照)。ユーザーまたはグループをダブルクリックして、割り当てメニューを設定します。[検索] を使用して、名前または ID でリストをフィルタリングします。

ヒント:

Active Directory のすべてのユーザーに対するアクションの割り当てを簡素化するには、「Everyone」の既定のグループを使用してアクションを割り当てます。[すべてのユーザー] の既定のグループに割り当てたアクションは、個々のユーザーの [****** アクションモデリングウィザード] の [**結果アクション ****] タブに表示されませ

ん。たとえば、action1 を「Everyone」のデフォルトグループに割り当てた後、action1 が [結果のアクション] タブに表示されないことがあります。

Assignments

選択したユーザーまたはグループにアクションを割り当てることができます。[検索] を使用して、名前または ID でリストをフィルタリングします。

使用できます。このユーザーまたはグループに割り当てることができるアクションが表示されます。

アクションをダブルクリックするか、矢印ボタンをクリックして、アクションを割り当てるか割り当て解除します。アクションを割り当てると、コンテキスト化するルールを選択するよう求められます。

注:

WEM では、次に使用可能なドライブ文字をネットワークドライブに自動的に割り当てることができます。ネットワークドライブを割り当てるときに、[フィルタとドライブ文字の割り当て] ウィンドウでアスタリスク (*) 文字を選択すると、WEM は次に使用可能なドライブ文字 (使用可能なドライブ文字に関係なく) をそのネットワークドライブに自動的に割り当てます。

割り当て済み。このユーザーまたはグループに既に割り当てられているアクションを表示します。個々のアクションを展開して構成できます (アプリケーションのショートカットの場所、既定のプリンタ、ドライブ文字など)。

ユーザー/グループにアクションを割り当てるには

1. [ユーザ] リストで、ユーザまたはグループをダブルクリックします。これにより、[割り当て] リストにデータが入力されます。
2. 「使用可能」 (Available) リストでアクションを選択し、右矢印 (**) ボタンをクリックします。
3. [フィルタの割り当て] ダイアログで、フィルタルールを選択し、[OK] をクリックします。
4. 「割り当て済み」リストで、「有効」および「無効化」コンテキストアクションを使用して、割り当ての動作を微調整します。

注:

[スタートメニューに固定] オプションが機能するようになるには、アプリケーションのショートカットがスタートメニューフォルダにあることを確認してください。よくわからない場合は、[スタートメニューの作成] オプションも有効にしてください。

たとえば、メモ帳を起動するアクションを割り当てるとします。割り当て済みリストでは、オプション「自動開始」が提供され、デフォルトで「無効」に設定されています。[有効にする] オプションを使用して自動起動を有効にすると、ユーザーが公開デスクトップセッションを起動すると、メモ帳 (VDA 上のローカルメモ帳) が自動的に起動します (デスクトップのロードが完了すると、ローカルメモ帳が自動的に起動します)。

モデリングウィザード

アクションモデリングウィザードには、特定のユーザーに対する結果アクションのみが表示されます (グループでは機能しません)。

フィールドとコントロール

アクションモデリングターゲットユーザー。モデル化するユーザーのアカウント名。

結果アクション。ユーザーまたはユーザーが属するグループに割り当てられたアクション。

ユーザーグループ。ユーザーが属するグループ。

システム最適化

January 21, 2022

Workspace Environment Management システムの最適化は、次のもので構成されます。

- [CPU 管理](#)
- [メモリ管理](#)
- [I/O 管理](#)
- [高速ログオフ](#)
- [Citrix Optimizer](#)
- [マルチセッションの最適化](#)

これらの設定は、エージェントホストのリソース使用量を減らすように設計されています。これらのリソースは、解放されたリソースが他のアプリケーションで使用できるようにするのに役立ちます。これにより、同じサーバー上でより多くのユーザーをサポートすることで、ユーザーの密度が向上します。

システム最適化設定はマシンベースで、すべてのユーザーセッションに適用されますが、プロセスの最適化はユーザー中心です。つまり、プロセスがユーザー A のセッションで CPU スパイク保護をトリガーすると、イベントはユーザー A に対してのみ記録されます。ユーザー B が同じプロセスを開始すると、プロセスの最適化動作はユーザー B のセッション内のプロセストリガーによってのみ決定されます。

CPU 管理

April 10, 2024

これらの設定により、CPU 使用率を最適化できます。

CPU 管理設定

プロセスはすべてのコアで実行でき、CPU を必要なだけ使い果たすことができます。Workspace Environment Management (WEM) の [CPU 管理設定] では、個々のプロセスが使用できる CPU キャパシティを制限できます。CPU スパイク保護は、全体的な CPU 使用量を減らすようには設計されていません。これは、CPU 使用率を過剰に消費するプロセスによるユーザーエクスペリエンスへの影響を軽減するように設計されています。

CPU スパイク保護を有効にすると、プロセスが指定したしきい値に達すると、WEM はプロセスの優先度を一定時間自動的に下げます。その後、新しいアプリケーションが起動されると、優先順位の低いプロセスよりも優先順位が高く、システムはスムーズに動作し続けます。

CPU スパイク保護は、各プロセスをすばやい「スナップショット」で検査します。プロセスの平均負荷が、指定したサンプル時間に対して指定された使用制限を超えると、その優先度はすぐに低下します。指定した時間が経過すると、プロセスの CPU 優先度は前の値に戻ります。プロセスは「スロットル」されません。**CPU** クランピングとは異なり、優先順位のみが下がります。

CPU スパイク保護は、個々のプロセスの少なくとも 1 つのインスタンスがしきい値を超えるまでトリガーされません。つまり、CPU の合計消費量が指定されたしきい値を超えた場合でも、少なくとも 1 つのプロセスインスタンスがしきい値を超えない限り、CPU スパイク保護はトリガーされません。しかし、そのプロセスインスタンスが CPU スパイク保護をトリガーすると、「インテリジェントな CPU 最適化を有効にする」オプションを有効にすると、同じプロセスの新しいインスタンスが (CPU) 最適化されます。

特定のプロセスが CPU スパイク保護をトリガーするたびに、イベントはエージェントのローカルデータベースに記録されます。エージェントは、各ユーザーのトリガーイベントを個別に記録します。つまり、user1 の特定のプロセスの CPU 最適化は、user2 の同じプロセスの動作には影響しません。

たとえば、Internet Explorer が CPU の 50~60% を消費することがある場合には、CPU スパイク保護を使用して、VDA のパフォーマンスを脅かすような iexplore.exe インスタンスのみをターゲットにすることができます。(これに対して、CPU クランプはすべてのプロセスに適用されます)。

サンプル時間を試して、同じ VDA にログオンしている他のユーザーに影響を与えない環境に最適な値を決定することをお勧めします。

CPU スパイク保護

注:

- 以下の設定の「CPU 使用率」は、物理マシンまたは仮想マシンの「論理プロセッサ」数に基づきます。CPU の各コアは、Windows と同じ方法で、論理プロセッサと見なされます。たとえば、6 コア CPU が 1 つ搭載された物理マシンは、12 個の論理プロセッサを搭載していると見なされます (ハイパースレディングテクノロジーとは、コアが 2 倍になることを意味します)。8 x CPU を持つ物理マシンで、それぞれ 12 個のコアを持つ 96 個の論理プロセッサがあります。2 つの 4 コア CPU で構成された VM には、8 個の論理プロセッサがあります。
- 同じことが仮想マシンにも当てはまります。たとえば、8 個の CPU を持つ物理マシンがあり、それぞれ

に 12 個のコア (96 個の論理プロセッサ) があり、4 つのマルチセッション OS VDA 仮想マシンをサポートしているとしてます。各 VM は、2 つの 4 コア CPU (8 つの論理プロセッサ) で構成されます。仮想マシンで CPU スパイク保護をトリガーするプロセスを制限するには、そのコアの半分を使用するには、[**CPU** コア使用量の制限] を 48 (物理マシンの論理プロセッサの半分) ではなく 4 (仮想マシンの論理プロセッサの半分) に設定します。

CPU スパイク保護を有効にします。一定期間 ([サンプル時間の制限 (Limit Sample Time)] フィールドで指定)、一定期間の CPU 使用率の指定パーセンテージを超えた場合 ([アイドル優先時間 (Idle Priority Time)] フィールドで指定)、プロセスの CPU 優先度を一定期間下げます。

- **CPU** スパイクを自動防ぐ。CPU を過負荷にするプロセスの CPU 優先度を自動的に下げるには、このオプションを使用します。このオプションは、論理プロセッサ (CPU コア) の数に基づいて CPU スパイク保護をトリガーするしきい値を自動的に計算します。たとえば、コアが 4 つあるとしてます。このオプションを有効にすると、全体の CPU 使用率が 23% を超えると、CPU リソース全体の 15% 以上を消費するプロセスの CPU 優先順位が自動的に低下します。同様に、8 コアの場合、全体の CPU 使用率が 11% を超えると、CPU リソースの 8% 以上を消費するプロセスの CPU 優先順位が自動的に低下します。
- **CPU** スパイク保護をカスタマイズします。CPU スパイク保護の設定をカスタマイズできます。
 - **CPU** 使用量の制限。CPU スパイク保護をトリガーするためにプロセスインスタンスが到達する必要がある CPU 使用率の割合。この制限は、サーバ内のすべての論理プロセッサでグローバルであり、インスタンスごとに決定されます。同じプロセスの複数のインスタンスでは、CPU スパイク保護トリガーを決定するときに、CPU 使用率の割合は加算されません。プロセスインスタンスがこの制限に達しない場合、CPU スパイク保護はトリガーされません。たとえば、サーバー VDA で、複数の同時セッションで、多数の iexplore.exe インスタンスがあるとします。各インスタンスは、一定期間中約 35% の CPU 使用率でピークに達しているため、累積的に、iexplore.exe は CPU 使用率の一貫して高い割合を消費しています。ただし、CPU 使用率の制限を 35% 以下に設定しない限り、CPU スパイク保護はトリガーされません。
 - サンプル時間を制限します。プロセスが CPU プライオリティを下げる前に CPU 使用率の制限を超える必要がある時間。
 - アイドル優先時間。プロセスの CPU プライオリティが低下する時間の長さ。この時間が経過すると、優先順位は次のいずれかに戻ります。
 - * [CPU の優先度] タブでプロセスの優先順位が指定されておらず、[インテリジェント ****CPU** 最適化を有効にする **] オプションが選択されていない場合のデフォルトレベル (標準)。
 - * [インテリジェントな **CPU** 最適化を有効にする] オプションが選択されているかどうかにかかわらず、[**CPU** の優先度] タブでプロセスの優先順位が指定されている場合に、指定したレベル。
 - * プロセスの動作に応じてランダムなレベル。このケースは、[**CPU** 優先度] タブでプロセスの優先順位が指定されておらず、[インテリジェント **CPU** 最適化を有効にする] オプションが選択されている場合に発生します。プロセスが CPU スパイク保護をトリガーする頻度が高いほど、CPU の優先度は低くなります。

CPU コア使用量の制限を有効にします。CPU スパイク保護をトリガーするプロセスを、マシン上の指定された数の

論理プロセッサに制限します。1～Xの範囲の整数を入力します。Xはコアの総数です。Xより大きい整数を入力すると、WEMは分離されたプロセスの最大消費量を既定でXに制限します。

- **CPU** コア使用量を制限します。CPUスパイク保護をトリガーするプロセスが制限される論理プロセッサの数を指定します。VMの場合、入力する値によって、基盤となる物理ハードウェアではなく、VM内の論理プロセッサの数にプロセスが制限されます。

インテリジェントな**CPU**最適化を有効にします。有効にすると、エージェントはCPUスパイク保護をトリガーするプロセスのCPU優先度をインテリジェントに最適化します。CPUスパイク保護を繰り返しトリガーするプロセスには、正しく動作するプロセスよりも起動時のCPU優先度が徐々に低くなります。WEMは、次のシステムプロセスに対してCPU最適化を実行しません。

- Taskmgr
- System Idle Process
- System
- Svchost
- LSASS
- Wininit
- services
- csrss
- audiodg
- MsMpEng
- NisSrv
- mscorsvw
- VMWareResolutionset

インテリジェントな**I/O**最適化を有効にします。有効にすると、エージェントはCPUスパイク保護をトリガーするプロセスのプロセスI/O優先度をインテリジェントに最適化します。CPUスパイク保護を繰り返しトリガーするプロセスには、正しく動作するプロセスよりも起動時のI/O優先度が徐々に低くなります。

指定したプロセスを除外する。デフォルトでは、WEM CPU管理は、最も一般的なCitrixおよびWindowsコアサービスプロセスのすべてを除外します。ただし、このオプションを使用して、CPU**スパイク保護の実行名による除外リストからプロセスを追加または削除できます** (例: notepad.exe)。通常、ウイルス対策プロセスは除外されません。

ヒント:

- セッションでディスクI/Oを引き継ぐアンチウイルススキャンを停止するには、アンチウイルスプロセスの静的なI/O優先度を[低]に設定することもできます。[I/O管理を参照してください](#)。
- プロセスがCPUスパイク保護をトリガーし、プロセスのCPU優先度が下がると、WEMはプロセスのCPU優先度が下がるたびに警告を記録します。イベントログのアプリケーションログとサービスログのWEM Agent Serviceで、「プロセスのプロセス制限スレッドを初期化中」を探します。

CPU プライオリティ

これらの設定は、プロセスがリソースと競合している場合に有効になります。これにより、特定のプロセスの CPU 優先度レベルを最適化できるため、CPU プロセッサ時間に対して競合しているプロセスがパフォーマンスのボトルネックを引き起こさないようになります。プロセスが互いに競合する場合、優先順位の低いプロセスは、優先順位の高い他のプロセスの後に処理されます。したがって、CPU 全体の消費量の大きなシェアを消費する可能性は低くなります。

ここで設定するプロセスの優先順位は、プロセス内のすべてのスレッドの「基本優先順位」を確立します。スレッドの実際の「現在の」優先順位は高くなる可能性があります（ただし、ベースよりも低いことはありません）。コンピューター上で多数のプロセスが実行されている場合、プロセッサ時間は CPU の優先度レベルに基づいてそれらの間で共有されます。プロセスの CPU 優先度レベルが高いほど、プロセッサ時間が割り当てられます。

注:

特定のプロセスで CPU の優先度を低く設定した場合、全体の CPU 消費量は必ずしも減少しません。CPU 使用率の割合に影響する他のプロセス（CPU プライオリティが高い）がある可能性があります。

[プロセスの優先度] を有効にします。オンにすると、プロセスの CPU プライオリティを手動で設定できます。

プロセスを追加するには

1. [追加] をクリックし、[プロセス CPU 優先度の追加] ダイアログボックスに詳細を入力します。
2. [OK] をクリックしてダイアログボックスを閉じます。
3. [Apply] をクリックして設定を適用します。ここで設定したプロセス CPU の優先順位は、エージェントが新しい設定を受け取り、プロセスが再起動されたときに有効になります。

プロセス名。拡張子のないプロセスの実行可能ファイル名です。たとえば、Windows エクスプローラー (explorer.exe) の場合は、「エクスプローラー」と入力します。

CPU プライオリティ。プロセス内のすべてのスレッドの「ベース」優先度。プロセスの優先度レベルが高いほど、プロセッサ時間が長くなります。[リアルタイム]、[高]、[通常以上]、[通常以下]、[低] から選択します。

プロセスを編集するには

プロセスを選択し、[Edit] をクリックします。

プロセスを削除するには

プロセスを選択し、[Remove] をクリックします。

CPU アフィニティ

プロセスアフィニティを有効にします。有効にすると、プロセスで使用する「論理プロセッサ」の数を定義できます。たとえば、VDA で起動されるメモ帳のすべてのインスタンスを、定義されたコア数に制限できます。

CPU クランプ

CPU クランプにより、CPU の処理能力の、指定した割合を超えるプロセスが使用されるのを防ぐことができます。WEM は、設定した指定された CPU パーセンテージに達したときに、そのプロセスを「スロットル」（または「クランプ」）します。これにより、プロセスが大量の CPU を消費するのを防ぐことができます。

注:

- CPU クランプは、演算費用のかかるブルートフォースアプローチです。面倒なプロセスの CPU 使用率を人為的に低く抑えるには、静的 CPU 優先順位と CPU アフィニティをそのようなプロセスに割り当てると同時に、CPU スパイク保護を使用する方がよいでしょう。CPU クランプは、リソース管理では悪く悪名高いが、優先順位を落とすことができないプロセスを制御するために最もよく予約されています。
- CPU の処理能力のパーセンテージをプロセスに適用し、後で同じプロセスに異なる割合を設定したら、[**Agent Host Settings**] を選択して変更を有効にします。

設定したクランピングパーセンテージは、サーバ内の個々の CPU の総電力に適用されます。サーバに含まれる個々のコアには適用されません。（つまり、クアッドコア CPU の 10% は、1 つのコアの 10% ではなく、CPU 全体の 10% です）。

プロセスクランプを有効にします。プロセスクランピングを有効にします。

追加。実行可能名 (notepad.exe など) でプロセスを追加します。

[削除]。強調表示されたプロセスをクランプリストから削除します。

編集。特定のプロセスに入力された値を編集します。

ヒント:

- WEM がプロセスをクランプしているとき、WEM クライアントが初期化するウォッチリストにそのプロセスを追加します。これを表示すると、プロセスがクランプされていることを確認できます。
- また、CPU クランプが機能していることを確認するには、プロセスモニターを見て、CPU 消費量がクランプ率を上回らないことを確認します。

メモリ管理

May 28, 2024

これらの設定により、Workspace Environment Management (WEM) を通じてアプリケーションのメモリ使用量を最適化できます。

メモリ管理

これらの設定がオンになっている場合、WEM は安定性を損なうことなく、プロセスが使用しているメモリ量とプロセスが必要とする最小メモリ量を計算します。WEM は、その違いを過剰なメモリと見なします。プロセスがアイドル状態になると、WEM はプロセスが消費する余分なメモリをページファイルに解放し、その後の起動のためにプロセスを最適化します。通常、アプリケーションはタスクバーに最小化されるとアイドル状態になります。

タスクバーからアプリケーションを復元すると、最初は最適化された状態で実行されますが、必要に応じて追加のメモリを消費し続けることができます。

同様に、WEM はユーザーがデスクトップセッション中に使用するすべてのアプリケーションを最適化します。複数のユーザーセッションに複数のプロセスがある場合、解放されたすべてのメモリは他のプロセスで使用できます。この動作により、同じサーバー上でより多くのユーザーをサポートできるようになり、ユーザー密度が高まります。

アイドル状態のプロセスのメモリ使用量を最適化します。指定された時間アイドル状態が続いたプロセスに、アイドル状態がなくなるまで余分なメモリを解放するように強制します。

アイドルサンプル時間 (分)。プロセスがアイドル状態とみなされ、その後に余分なメモリを強制的に解放するまでの時間を指定できます。この間、WEM は、安定性を失うことなく、プロセスが使用しているメモリ量と、プロセスが必要とする最小メモリ量を計算します。デフォルト値は 120 分です。

アイドル状態の制限 (パーセント)。CPU 使用率のパーセンテージを指定して、この値を下回るとプロセスがアイドル状態とみなされます。デフォルトは 1% です。5% を超える値は使用しないことをお勧めします。そうしないと、アクティブに使用されているプロセスがアイドルと誤解され、そのメモリが解放される可能性があります。

[使用可能なメモリの合計が (MB) を超えた場合は最適化しない]。WEM がアイドル状態のアプリケーションのメモリ使用量を最適化するしきい値制限を指定できます。

メモリ使用量の最適化からプロセスを除外する。メモリ使用量の最適化からプロセスを除外できます。プロセス名 (notepad.exe など) を指定します。

WEM は、次のシステムプロセスのアプリケーションメモリ使用量を最適化しません。

- rdpshell
- wfshell
- rdpclip
- wmiprvse
- dllhost
- audiodg
- msdtc
- mscorsvw
- spoolsv

- smss
- winlogon
- svchost
- taskmgr
- System Idle Process
- System
- LSASS
- wininit
- msisexec
- services
- csrss
- MsMpEng
- NisSrv
- Memory Compression

メモリ使用量の制限

特定のプロセスに対するメモリ使用量の制限を有効にします。プロセスが消費できる RAM の上限を設定することで、プロセスの RAM 使用量を制限できます。

警告:

特定のプロセスにメモリ使用量の制限を適用すると、システムの応答が遅くなるなど、意図しない影響が生じることがあります。

- 追加。メモリ使用量の制限を適用したいプロセスを追加できます。
- **【削除】**。既存のアイテムを削除できます。
- 編集。既存のアイテムを編集できます。
- ダイナミックリミット。指定したプロセスに動的な制限を適用できます。この設定は、指定されたプロセスに割り当てられる RAM の量を動的に制限します。適用すると、使用可能なメモリに応じてメモリ使用量の制限が適用されます。そのため、指定されたプロセスが消費する RAM は、指定された量を超える可能性があります。
- 静的制限。指定したプロセスに静的制限を適用できます。この設定は、指定されたプロセスに割り当てられる RAM の量を常に制限します。適用すると、使用可能なメモリ量に関係なく、プロセスが指定したメモリ量を超えるメモリを消費しないように制限します。その結果、指定されたプロセスが消費する RAM は、指定された量に制限されます。

プロセスを追加するには:

1. [管理コンソール] > [システム最適化] > [メモリ管理] > [メモリ使用量の制限] タブで [追加] をクリックします
2. 「プロセスの追加」ウィンドウで、追加するプロセスの名前（notepad.exe など）を入力し、メモリ使用量の制限を構成し、ドロップダウンメニューから制限モードを選択して、「OK」をクリックします。

アイテムを編集するには、アイテムを選択して「編集」(**Edit**) をクリックします。

項目を削除するには、項目を選択して [削除] をクリックします。

項目に動的制限を適用するには、項目を選択して「動的制限」(**Dynamic Limit**) をクリックします。

項目に静的制限を適用するには、項目を選択して [静的制限] をクリックします。

I/O 管理

July 13, 2022

これらの設定により、特定のプロセスの I/O 優先度を最適化できます。これにより、ディスクおよびネットワーク I/O アクセスで競合しているプロセスがパフォーマンスのボトルネックを引き起こさないようにします。たとえば、I/O 管理設定を使用して、ディスク帯域幅が消費されるアプリケーションを抑制できます。

ここで設定するプロセスの優先順位は、プロセス内のすべてのスレッドの「基本優先順位」を確立します。スレッドの実際の「現在の」優先順位は高くなる可能性があります（ただし、ベースよりも低いことはありません）。一般に、Windows では、優先順位の低いスレッドよりも先に優先順位の高いスレッドにアクセスできます。

入出力優先度

[プロセス I/O 優先度] を有効にします。プロセス I/O 優先度の手動設定を有効にします。

I/O 優先度リストにプロセスを追加するには

1. [追加] をクリックし、[プロセス I/O 優先度の追加] ダイアログに詳細を入力します。
2. [OK] をクリックしてダイアログボックスを閉じます。
3. [Apply] をクリックして設定を適用します。ここで設定したプロセス I/O の優先順位は、エージェントが新しい設定を受け取り、プロセスが次に再起動されたときに有効になります。

プロセス名。拡張子のないプロセスの実行可能ファイル名です。たとえば、Windows エクスプローラー (explorer.exe) の場合は、「エクスプローラー」と入力します。

I/O プライオリティ。プロセス内のすべてのスレッドの「ベース」優先度。プロセスの I/O 優先順位が高いほど、スレッドの I/O アクセスが早くなります。高、標準、低、非常に低いから選択します。

プロセス **I/O** 優先度項目を編集するには

プロセス名を選択し、[編集] をクリックします。

I/O 優先度リストからプロセスを削除するには

プロセス名を選択し、[削除] をクリックします。

高速ログオフ

June 20, 2022

高速ログオフは、リモートセッションへの HDX 接続をすぐに終了し、セッションがすぐに終了したような印象を与えます。ただし、セッション自体は、VDA のバックグラウンドでセッションログオフフェーズまで継続されます。

注:

高速ログオフは、Citrix 仮想アプリケーションと RDS リソースのみをサポートします。

設定

高速ログオフを有効にします。この構成セットのすべてのユーザに対して高速ログオフを有効にします。ユーザーはすぐにログアウトされますが、セッションのログオフタスクはバックグラウンドで続行されます。

特定のグループを除外します。特定のユーザーグループを高速ログオフから除外できます。

Citrix Optimizer

January 21, 2022

Citrix Optimizer はユーザー環境を最適化してパフォーマンスを向上させます。ユーザー環境のクイックスキャンを実行し、テンプレートベースの最適化の推奨事項を適用します。ユーザー環境を最適化するには、次の 2 つの方法があります。

- 組み込みのテンプレートを使用して最適化を実行します。そのためには、オペレーティングシステムに適用可能なテンプレートを選択します。
- または、特定の最適化を使用してカスタマイズした独自のテンプレートを作成し、Workspace Environment Management (WEM) にテンプレートを追加します。

カスタマイズ可能なテンプレートを取得するには、次のいずれかの方法を使用します。

- スタンドアロンの Citrix Optimizer が提供するテンプレートビルダー機能を使用します。スタンドアロンの Citrix Optimizer を <https://support.citrix.com/article/CTX224676> でダウンロードします。テンプレートビルダー機能を使用すると、独自のカスタムテンプレートを作成して WEM にアップロードできます。
- エージェントホスト (WEM エージェントがインストールされているマシン) で、<C:\Program Files (x86)>\Citrix\Workspace Environment Management Agent\Citrix Optimizer\Templates フォルダに移動し、デフォルトのテンプレートファイルを選択して、便利なフォルダにコピーします。仕様を反映するようにテンプレートファイルのカスタマイズし、カスタムテンプレートを WEM にアップロードします。

設定

Citrix Optimizer ザーを有効にします。Citrix Optimizer を有効または無効にするかどうかを制御します。

毎週実行してください。選択すると、WEM は毎週最適化を実行します。[毎週実行] が選択されていない場合、WEM は次のように動作します。

- テンプレートを WEM に初めて追加すると、WEM は対応する最適化を実行します。後でそのテンプレートを変更しない限り、WEM は最適化を 1 回だけ実行します。変更には、OS に異なるテンプレートを適用したり、[Available] ペインと [構成済み] ペイン間で最適化エントリを移動したりすることが含まれます。
- テンプレートに変更を加えるたびに、WEM は最適化を 1 回実行します。

注:

非永続的な VDI 環境では、WEM は同じ動作に従います。マシンを再起動すると、環境に対するすべての変更が失われます。Citrix Optimizer の場合、WEM はマシンが再起動するたびに最適化を実行します。

使用するテンプレートを自動的に選択します。使用するテンプレートが不明な場合は、このオプションを使用して、各 OS に対して最も一致するテンプレートを WEM で選択します。

- プレフィックスで始まるテンプレートの自動選択を有効にします。このオプションは、異なる名前の形式を持つカスタムテンプレートを使用できる場合に使用します。プレフィックスのコンマ区切りリストを入力します。カスタムテンプレートは次の名前の形式に従います。

- prefix_<os version>_<os build>
- prefix_Server_<os version>_<os build>

[Citrix Optimizer] タブには、システムの最適化を実行するために使用できるテンプレートのリストが表示されます。[アクション] セクションには、使用可能なアクションが表示されます。

- 追加。カスタムテンプレートを追加できます。
- [削除]。既存のカスタムテンプレートを削除できます。組み込みテンプレートは削除できません。
- 編集。既存のテンプレートを編集できます。
- プレビュー。選択したテンプレートに含まれる最適化エントリの項目別ビューを表示できます。

カスタム・テンプレートを追加するには、次の手順に従います。

1. 管理コンソール > システムの最適化 > **Citrix Optimizer** > **Citrix Optimizer** タブで、[追加] をクリックします。
2. 「新規カスタムテンプレート」 (**New Custom Template**) ウィンドウで、次の手順を実行します。
 - a) [テンプレート名] で、[XML ファイルの選択] をクリックし、一覧から該当するファイルを選択します。

注:

リストには、アップロードした XML ファイルが表示されます。XML ファイルをアップロードするには、「カスタムテンプレートをアップロードするには」を参照してください。

- b) [適用可能な OS] で、リストから該当する OS を選択します。
- c) [グループ] で、テンプレートに含まれるグループを構成します。
- d) 「OK」 をクリックします。

重要:

Citrix Optimizer では、カスタムテンプレートのエクスポートはサポートされていません。カスタムテンプレートの追加後は、ローカルコピーを保持します。

テンプレートを編集するには、該当するテンプレートを選択し、[編集] をクリックします。

テンプレートを削除するには、該当するテンプレートを選択し、[削除] をクリックします。

テンプレートの詳細を表示するには、該当するテンプレートを選択し、[プレビュー] をクリックします。

フィールドとコントロール

テンプレート名。選択したテンプレートの表示名です。

適用可能な OS。オペレーティングシステムのリスト。テンプレートを適用するオペレーティングシステムを 1 つ以上選択します。一覧に表示されない Windows 10 OS に適用可能なカスタムテンプレートを追加できます。ビルド番号を入力して、これらの OS を追加します。OS はセミコロン (;) で区切ってください。たとえば、2001; 2004。

重要:

同じ OS に適用できるテンプレートは 1 つだけです。

グループ。[使用可能] ペインには、グループ化された最適化エントリのリストが表示されます。エントリはカテゴリ別にグループ化されます。グループをダブルクリックするか、矢印ボタンをクリックしてグループを移動します。

状態。テンプレートを有効状態と無効状態の間で切り替えます。無効にすると、エージェントはテンプレートを処理せず、WEM はテンプレートに関連付けられた最適化を実行しません。

Citrix Optimizer の設定の変更は、[詳細設定] > [構成] > [サービスオプション] タブの [SQL 設定更新の遅延] オプションに指定した値に応じて、有効になるまでに時間がかかります。

変更をすぐに有効にするには、[管理] > [エージェント] > [統計] タブのコンテキストメニューに移動し、[Citrix Optimizer を処理する] を選択します。

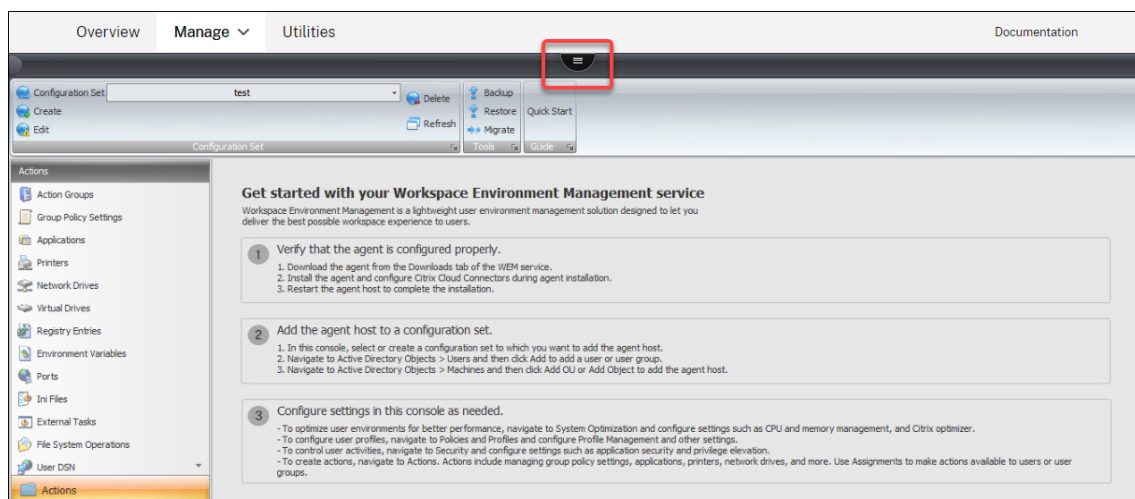
ヒント:

新しい変更がすぐに有効にならなくなる可能性があります。[Citrix Optimizer の処理] を選択する前に、[エージェントホスト設定の更新] を選択することをお勧めします。

カスタムテンプレートをアップロードするには

カスタムテンプレートをアップロードするには、次の手順を実行します。

1. [管理] タブで、マウスカーソルをハンバーガーメニューの上に置きます。



2. Citrix Workspace アイコンをクリックします。

3. アップロードアイコンをクリックして、カスタムテンプレート (XML ファイル) を Citrix Cloud のデフォルトフォルダにアップロードします。

マルチセッションの最適化

January 21, 2022

マルチセッション OS マシンは、1 台のマシンから複数のセッションを実行し、アプリケーションとデスクトップをユーザーに配信します。切断されたセッションはアクティブなままになり、そのアプリケーションは引き続き実行されます。切断されたセッションは、同じマシン上で動作する接続されたデスクトップおよびアプリケーションに必要な

なりリソースを消費する可能性があります。これらの設定により、切断されたセッションを持つマルチセッション OS マシンを最適化し、接続セッションでのユーザーエクスペリエンスを向上させることができます。

設定

マルチセッション最適化を有効にします。有効にすると、切断されたセッションが存在するマルチセッション OS マシンが最適化されます。デフォルトでは、このオプションは無効になっています。このオプションは、切断されたセッションが消費できるリソースの数を制限することで、接続セッションのユーザーエクスペリエンスを向上させます。セッションが 1 分間切断されたままになった後、WEM エージェントは CPU と、セッションに関連付けられたプロセスまたはアプリケーションの I/O 優先順位を下げます。エージェントは、セッションが消費できるメモリ・リソースの量に制限を課します。ユーザーがセッションに再接続すると、WEM は優先順位を復元し、制限を解除します。

指定したグループを除外する。マルチセッションの最適化から除外するグループを指定できます。少なくとも 1 つのグループを指定してください

指定したプロセスを除外する。マルチセッションの最適化から除外するプロセスを指定できます。除外するプロセスの名前を入力します。少なくとも 1 つのプロセスを指定してください。

ポリシーとプロファイル

January 21, 2022

これらの設定では、ユーザー GPO を置き換え、ユーザープロファイルを構成できます。

- [環境設定](#)
- [Microsoft USV の設定](#)
- [Citrix Profile Management の設定](#)

環境設定

January 11, 2024

これらのオプションは、ユーザーの環境設定を変更します。一部のオプションはログオン時に処理されますが、一部のオプションはエージェント更新機能を使用してセッションでリフレッシュできます。

スタートメニュー

これらのオプションは、ユーザーの [スタート] メニューを変更します。

プロセス環境設定。このチェックボックスは、エージェントが環境設定を処理するかどうかを切り替えます。オフにすると、環境設定は処理されません。

管理者を除外します。有効にすると、エージェントが起動されても、管理者に対して環境設定は処理されません。

ユーザーインターフェイス:[スタート]メニューこれらの設定は、エージェントによって無効にするスタートメニュー機能を制御します。

重要:

Windows 7 以外のオペレーティングシステムでは、[ユーザーインターフェイス:スタート]メニューのオプションが機能しない場合があります。ただし、[システムクロックを非表示にする]と[コンピュータの電源をオフにする]以外のオプションが機能しない場合があります。

ユーザーインターフェイス:外観。これらの設定により、ユーザーの Windows テーマとデスクトップをカスタマイズできます。リソースへのパスは、ユーザーの環境からアクセスするときに入力する必要があります。

注:

ドメインに参加していないエージェントを使用しているときに、ネットワーク共有を使用すると WEM が機能しない場合があります。

デスクトップ

ユーザーインターフェイス:デスクトップこれらの設定は、エージェントによって無効にするデスクトップ要素を制御します。

ユーザーインターフェイス:エッジ UI。これらの設定では、Windows 8.x Edge ユーザーインターフェイスの側面を無効にできます。

Windows エクスプローラー

これらの設定は、エージェントによって無効化される Windows エクスプローラーの機能を制御します。

ユーザーインターフェイス:エクスプローラー。これらのオプションを使用すると、**regedit** または **cmd** へのアクセスを無効にしたり、Windows エクスプローラーで特定の要素を非表示にしたりできます。

エクスプローラーから指定したドライブを非表示にします。有効にすると、リストされたドライブはユーザーの [マイコンピュータ] メニューから非表示になります。直接参照すると、引き続きアクセスできます。

エクスプローラーから指定したドライブを制限します。有効にすると、リストされたドライブはブロックされます。ユーザーもアプリケーションもアクセスできません。

【コントロールパネル】

【コントロールパネル】を非表示にします。このオプションは、ユーザー環境を保護するためにデフォルトで有効になっています。無効にすると、ユーザーは自分の Windows コントロールパネルにアクセスできます。

指定したコントロールパネルアプレットのみを表示します。有効にすると、ここにリストされているコントロールパネル以外のすべてのアプレットがユーザーに表示されなくなります。その他のアプレットは、正規名を使用して追加されます。

指定したコントロールパネルアプレットを非表示にします。有効にすると、リストされているコントロールパネルアプレットだけが非表示になります。その他のアプレットは、正規名を使用して追加されます。

[一般的なコントロールパネルのアプレットとその正規名を参照してください。](#)

既知のフォルダ管理

指定した既知のフォルダを無効にします。プロファイルの作成時に、指定したユーザープロファイルの既知のフォルダを作成しないようにします。

SBC/HVD チューニング

ユーザー環境: 高度なチューニング。これらのオプションを使用すると、SBC/HVD 環境でのパフォーマンスを最適化できます。

Microsoft USV の設定

November 28, 2022

これらの設定により、Microsoft ユーザー状態の仮想化 (USV) を最適化できます。

ローミングプロファイルの構成

これらの設定により、Workspace Environment Management と Microsoft ローミングプロファイルの統合を構成できます。

ユーザー状態の仮想化構成を処理します。エージェントが USV 設定を処理するかどうかを制御します。無効にすると、USV 設定は処理されません。

管理者を除外します。有効にすると、設定した USV 設定は管理者には適用されません。このオプションを使用するときは、次の点を考慮してください。

- [ローミングプロファイル設定] タブと [ローミングプロファイルの詳細設定] タブの設定はマシンレベルであり、オプションが有効になっているかどうかに関係なく適用されます。
- [フォルダリダイレクト] タブの設定はユーザーレベルです。このオプションは、設定を管理者に適用するかどうかを制御します。

Windows ローミングプロファイルのパスを設定します。Windows プロファイルへのパスを指定できます。

RDS ローミングプロファイルのパスを設定します。RDS ローミングプロファイルへのパスを指定できます。

RDS ホームドライブパスを設定します。RDS ホームドライブへのパスと、ユーザー環境に表示されるドライブ文字を指定できます。

ローミングプロファイルの詳細設定

以下は、高度なローミングプロファイル最適化オプションです。

フォルダーの除外の有効化。有効にすると、リストされたフォルダはユーザーの移動プロファイルに含まれません。これにより、ユーザーが移動プロファイルの一部として保持する必要のない大量のデータが含まれていることがわかっていて特定のフォルダを除外できます。この一覧には、既定の Windows 7 の除外が設定されており、代わりに既定の Windows XP の除外が設定されています。

ローミングプロファイルのキャッシュされたコピーを削除します。有効にすると、エージェントは移動プロファイルのキャッシュされたコピーを削除します。

管理者セキュリティグループをローミングユーザープロファイルに追加します。有効にすると、Administrators グループが移動ユーザープロファイルの所有者として追加されます。

移動プロファイルフォルダーのユーザー所有権を確認しないでください。有効にすると、エージェントは、ユーザーが移動プロファイルフォルダを所有しているかどうかを確認してから操作を行いません。

低速なネットワーク接続を検出しません。有効にすると、接続速度の検出はスキップされます。

リモートユーザープロファイルを待ちます。有効の場合、エージェントはリモートユーザープロファイルが完全にダウンロードされるのを待ってから、設定を処理します。

フォルダーのリダイレクト

プロセスフォルダリダイレクトの設定。このチェックボックスは、エージェントがフォルダーのリダイレクトを処理するかどうかを切り替えます。クリアすると、フォルダのリダイレクトは処理されません。ユーザーのフォルダをリダイレクトするかどうか、およびリダイレクト先を制御するオプションを選択します。

ローカルリダイレクトフォルダを削除します。有効にすると、エージェントはリダイレクト対象として選択されたフォルダーのローカルコピーを削除します。

Citrix Profile Management 設定

September 6, 2023

注:

一部のオプションは、特定のバージョンの Profile Management でのみ機能します。詳細については、[Profile Management](#) ドキュメントを参照してください。

Workspace Environment Management (WEM) サービスは、Citrix Profile Management の現在のバージョンの機能と操作をサポートします。WEM 管理コンソールでは、**[Citrix Profile Management の設定]** ([ポリシーとプロファイル]) で、現在のバージョンの Citrix Profile Management のすべての設定を構成できます。

WEM を使用して Citrix Profile Management 機能を構成することに加えて、Active Directory GPO、Citrix Studio ポリシー、または VDA 上の.ini ファイルを使用できます。同じ方法を一貫して使用することをお勧めします。

Citrix Profile Management の主な設定

基本設定を適用して、Profile Management の使用を開始します。基本設定には、処理済みグループ、除外グループ、ユーザーストアなどが含まれます。

Profile Management 構成を有効にします。有効にすると、設定を構成して適用できます。このオプションを有効にすると、ユーザー環境に Profile Management 関連のレジストリが作成されます。このオプションは、コンソールで構成した Profile Management 設定を WEM がエージェントにデプロイするかどうかを制御します。無効にすると、Profile Management の設定はいずれもエージェントに展開されません。

Profile Management を有効にします。エージェントマシンで Profile Management サービスを有効にするかどうかを制御します。無効にすると、Profile Management サービスは機能しません。

Profile Management を完全に無効にして、エージェントに既に展開されている設定が処理されないようにしたい場合があります。目標を達成するには、次の操作を行います。

1. 「**Profile Management** を有効にする」チェックボックスをオフにして、変更が自動的に適用されるのを待つか、変更を手動で適用してすぐに有効にします。

注:

[[詳細設定](#)] の [SQL 設定の更新遅延] で指定した値によっては、変更が有効になるまでに時間がかかります。変更をすぐに有効にするには、エージェントホストの設定を更新してから、関連するすべてのエージェントの Profile Management 設定をリセットします。「[管理](#)」を参照してください。

2. 変更が有効になったら、「**Profile Management** 構成を有効にする」チェックボックスをオフにします。

処理されたグループを設定します。Profile Management で処理するグループを指定できます。指定したグループのみ Profile management 設定が処理されます。空白のままにすると、すべてのグループが処理されます。

除外グループを設定します。Profile Management から除外するグループを指定できます。

ローカル管理者のログオンを処理します。有効にすると、Profile Management のローカル管理者ログオンは管理者以外のログオンと同様に扱われます。

ユーザーストアへのパスを設定します。ユーザーストアフォルダへのパスを指定できます。

ユーザーストアを移行します。ユーザー設定 (レジストリの変更と同期されたファイル) を保存したフォルダへのパスを指定できます。以前に使用したユーザーストアのパスを入力します。このオプションは、[ユーザーストアへのパスを設定] オプションとともに使用します。

アクティブなライトバックを有効にします。有効にすると、ユーザーのセッション中にプロファイルがユーザーストアに書き戻され、データが失われるのを防ぎます。

アクティブなライトバックレジストリを有効にします。有効にすると、ユーザーのセッション中にレジストリエントリがユーザーストアに書き戻され、データが失われるのを防ぎます。

セッションのロックと切断時にアクティブライトバックを有効にします。このオプションと [アクティブライトバックを有効にする] オプションの両方を有効にすると、セッションがロックまたは切断されたときにのみ、プロファイルファイルとフォルダーが書き戻されます。このオプションと [アクティブライトバックレジストリを有効にする] オプションの両方を有効にすると、セッションがロックまたは切断されたときにのみ、レジストリエントリが書き戻されます。

オフラインプロファイルサポートを有効にします。有効にすると、プロファイルは接続されていない間で使用するためにローカルにキャッシュされます。

プロファイルコンテナ設定

これらのオプションは、Profile Management プロファイルコンテナの設定を制御します。

プロファイルコンテナを有効にします。有効にすると、Profile Management はリストされたフォルダーをネットワーク上に保存されているプロファイルディスクにマップするため、フォルダーのコピーをローカルプロファイルに保存する必要がなくなります。プロファイルコンテナに含めるフォルダを少なくとも 1 つ指定します。

プロファイルコンテナのフォルダ除外を有効にします。有効にすると、Profile Management は一覧表示されたフォルダをプロファイルコンテナから除外します。プロファイルコンテナから除外するフォルダを少なくとも 1 つ指定します。

プロファイルコンテナのフォルダ内包を有効にします。有効にすると、Profile Management は、親フォルダーが除外されたときに、一覧表示されたフォルダーをプロファイルコンテナに保持します。この一覧のフォルダーは、除外されたフォルダーのサブフォルダーである必要があります。つまり、このオプションを [プロファイルコンテナのフォルダ除外を有効にする] オプションと組み合わせて使用する必要があります。プロファイルコンテナに含めるフォルダを少なくとも 1 つ指定します。

プロファイルコンテナの [ファイルの除外] を有効にします。有効にすると、Profile Management は一覧表示されたファイルをプロファイルコンテナから除外します。プロファイルコンテナから除外するファイルを少なくとも 1 つ指定してください。

プロファイルコンテナのファイルインクルージョンを有効にします。有効にすると、Profile Management は親フォルダーを除外しても、一覧表示されたファイルをプロファイルコンテナに保持します。このリストにあるファイルは、除外されたフォルダに含まれている必要があります。つまり、このオプションを [プロファイルコンテナのフォルダ除外を有効にする] オプションと組み合わせて使用する必要があります。プロファイルコンテナに含めるファイルを少なくとも 1 つ指定してください。

プロファイルコンテナのローカルキャッシュを有効にします。有効にすると、各ローカルプロファイルは、プロファイルコンテナのローカルキャッシュとして機能します。プロファイルストリーミングが使用中の場合は、ローカルにキャッシュされたファイルがオンデマンドで作成されます。それ以外の場合は、ユーザーのログオン時に作成されます。この設定を使用するには、ユーザープロファイル全体をプロファイルコンテナに入れます。この設定は、Citrix Profile Management プロファイルコンテナにのみ適用されます。

ヒント:

ファイルまたはフォルダを追加する場合、ワイルドカードを使用できます。詳細については、「ワイルドカードのサポート」を参照してください。

VHD ディスク圧縮を有効にします。有効にすると、特定の条件が満たされた場合、ユーザーログオフ時に VHD ディスクが自動的に圧縮されます。このオプションを使用すると、プロファイルコンテナ、OneDrive コンテナおよびミラーフォルダコンテナが消費するストレージスペースを節約できます。

ニーズと利用可能なリソースに応じて、[詳細設定] の [空き容量の比率を設定して **VHD** ディスク圧縮をトリガーする]、[ログオフ回数を設定して **VHD** ディスク圧縮をトリガーする]、および [**VHD** ** ディスク圧縮のデフラグを無効にする] オプションを使用して、デフォルトの VHD 圧縮設定と動作を調整できます **。

プロファイル処理

これらの設定は、Profile Management プロファイルの処理を制御します。

ログオフ時にローカルキャッシュプロファイルを削除します。有効にすると、ユーザーがログオフしたときにローカルにキャッシュされたプロファイルが削除されます。

キャッシュされたプロファイルを削除する前に遅延を設定します。キャッシュされたプロファイルがログオフ時に削除されるまでの間隔 (秒単位) を指定できます。

既存のプロファイルの移行を有効にします。有効にすると、ログオン時に既存の Windows プロファイルが Profile Management に移行されます。

既存のアプリケーションプロファイルの自動移行。有効にすると、既存のアプリケーションプロファイルが自動的に移行されます。Profile Management は、ユーザーのログオン時にユーザーストアにユーザープロファイルがない場合、移行を実行します。

ローカルプロファイルの競合処理を有効にします。Profile Management と Windows プロファイルが競合するケースを Citrix Workspace Environment Management が処理する方法を構成します。

テンプレートプロファイルを有効にします。有効にすると、指定された場所でテンプレートプロファイルが使用されます。

テンプレートプロファイルは、ローカルプロファイルを上書きします。有効にすると、テンプレートプロファイルがローカルプロファイルに上書きされます。

テンプレートプロファイルは、ローミングプロファイルを上書きします。有効にすると、テンプレートプロファイルが移動プロファイルよりも優先されます。

すべてのログオンの **Citrix** 固定プロファイルとして使用されるテンプレートプロファイル。有効にすると、テンプレートプロファイルが他のすべてのプロファイルよりも優先されます。

詳細設定

これらのオプションは、Profile management の詳細設定を制御します。

ロックされたファイルにアクセスするときの再試行回数を設定します。Agent がロックされたファイルへのアクセスを再試行する回数を設定します。

MFT キャッシュファイルのディレクトリを設定します。MFT キャッシュファイルディレクトリを指定できます。このオプションは廃止され、将来削除される予定です。

アプリケーションプロファイルラを有効にします。有効にすると、アプリケーションベースのプロファイル処理を定義します。定義ファイルで定義された設定のみが同期されます。定義ファイルの作成の詳細については、「[定義ファイルを作成する](#)」を参照してください。

ログオフ時にインターネット **Cookie** ファイルを処理します。有効にすると、古い Cookie はログオフ時に削除されます。

リダイレクトされたフォルダを削除します。有効にすると、リダイレクトされたフォルダーのローカルコピーを削除します。

自動構成を無効にします。有効の場合、ダイナミック設定は無効になります。

問題が発生した場合は、ユーザーをログオフします。有効にすると、問題が発生した場合、ユーザーは一時プロファイルに切り替わらずにログオフされます。

カスタマーエクスペリエンス向上プログラム。有効にすると、Profile Management はカスタマーエクスペリエンス向上プログラム (CEIP) を使用して、匿名の統計および使用状況情報を収集することで、Citrix 製品の品質とパフォーマンスを向上させます。CEIP について詳しくは、『[Citrix カスタマーエクスペリエンス向上プログラム \(CEIP\) について](#)』を参照してください。

プロファイルコンテナのマルチセッションライトバックを有効にします。有効にすると、Profile Management は、FSLogix プロファイルコンテナと Citrix Profile Management プロファイルコンテナの両方のマルチセッションシ

ナリオの変更を保存します。同じユーザーが異なるマシンで複数のセッションを起動した場合、各セッションで行われた変更は同期され、ユーザーのプロファイルコンテナディスクに保存されます。

ログオン時にユーザーグループポリシーの非同期処理を有効にします。有効にすると、Profile Management は、次のユーザーログオンの処理モード（同期または非同期処理モード）を決定するために Windows が使用するレジストリ値をユーザーとともにローミングします。レジストリ値が存在しない場合は、同期モードが適用されます。このオプションを有効にすると、ユーザーがログオンするたびに実際の処理モードが適用されます。無効にすると、ユーザーが次の場合に非同期モードを想定どおりに適用できません。

- 別のマシンにログオンする。
- [ログオフ時にローカルにキャッシュされたプロファイルを削除する] オプションが有効になっている同じマシンにログオンします。

VHD ディスク圧縮のデフラグを無効にします。 [\[VHD ディスクの圧縮を有効にする\]](#) がオンになっている場合に適用されます。VHD ディスク圧縮のファイルのデフラグ（最適化）を無効にするかどうかを指定できます。

VHD ディスク圧縮がオンになっている場合、VHD ディスクファイルは、最初に Windows 組み込みの defrag ツールを使用して自動的に最適化され、そのあと圧縮されます。VHD ディスクの最適化により圧縮結果が向上しますが、オフにするとシステムリソースを節約できます。

空き容量比率を設定して **VHD** ディスク圧縮をトリガーします。 [\[VHD ディスクの圧縮を有効にする\]](#) がオンになっている場合に適用されます。VHD ディスク圧縮のトリガーとなる空き領域の比率を指定できます。ユーザーのログオフ時に空き領域の比率が指定した値を超えると、ディスクの圧縮がトリガーされます。

空き容量の比率 = (現在の VHD ファイルサイズ - 必要最小限の VHD ファイルサイズ) ÷ 現在の VHD ファイルサイズ

* Microsoft Windows オペレーティングシステムの `MSFT_Partition` クラスの `GetSupportedSize` メソッドを使用して取得します。

VHD ディスクの圧縮をトリガーするログオフの数を設定します。 [\[VHD ディスクの圧縮を有効にする\]](#) がオンになっている場合に適用されます。VHD ディスク圧縮のトリガーとなるユーザーログオフ数を指定できます。

最後の圧縮からのログオフ数が指定した値に達すると、ディスク圧縮が再度トリガーされます。

ユーザーストアをレプリケートします。有効にすると、Profile Management は、[ユーザーストアへのパスを設定] オプションで指定されたパスに加えて、ログオンおよびログオフのたびに複数のパスにユーザーストアを複製します。セッション中に変更されたファイルおよびフォルダをユーザーストアに同期させるには、アクティブライトバックを有効にします。このオプションを有効にすると、システム I/O が増加し、ログオフが延長される可能性があります。

VHDX ファイルのストレージパスをカスタマイズします。VHDX ファイルを保存する別のパスを指定できます。デフォルトでは、VHDX ファイルはユーザーストアに保存されます。VHDX ファイルを使用するポリシーには、プロファイルコンテナ、Outlook の検索インデックスローミング、およびフォルダーミラーリングの高速化が含まれます。有効にすると、ポリシーが異なる VHDX ファイルがストレージパスの下の異なるフォルダに保存されます。

Microsoft Outlook ユーザーの検索インデックスのローミングを有効にします。有効にすると、ユーザー固有の Microsoft Outlook オフラインフォルダファイル (*.ost) と Microsoft 検索データベースがユーザープロファイル

とともに移動されます。これにより、Microsoft Outlook でメールを検索するときのユーザーエクスペリエンスが向上します。

- **Outlook** 検索インデックスデータベース—バックアップと復元。有効にすると、Profile Management は検索インデックスデータベースの最新の正常なコピーのバックアップを自動的に保存します。破損がある場合、Profile Management はそのコピーに戻ります。その結果、検索インデックスデータベースが破損したときに、手動でデータベースを再インデックスを作成する必要がなくなりました。
- **Outlook** 検索データローミングの同時セッションサポートを有効にします。同時セッションでネイティブの Outlook 検索エクスペリエンスを提供します。有効にすると、各同時セッションで個別の Outlook OST ファイルが使用されます。
 - **Outlook OST** ファイルを格納するための **VHDX** ディスクの最大数。Outlook OST ファイルを保存する VHDX ディスクの最大数を指定できます。指定しない場合、Outlook OST ファイルの保存に使用できる VHDX ディスクは 2 つだけです (ディスクごとに 1 つのファイル)。さらにセッションが開始されると、Outlook OST ファイルはローカルユーザープロファイルに保存されます。サポートされる値は 1 ~10 です。

OneDrive コンテナを有効にします。有効にすると、Profile Management は VHDX ディスクにフォルダーを保存することにより、ユーザーと共に OneDrive フォルダーをローミングします。ディスクはログオン時に接続され、ログオフ時には切り離されます。

ログ設定

これらのオプションは、Profile Management ログを制御します。

[ログ作成] を有効にします。Profile Management 操作のログを有効/無効にします。

ログ設定を構成します。ログに含めるイベントの種類を指定できます。

ログファイルの最大サイズを設定します。ログファイルの最大サイズをバイト単位で指定できます。

[パス] を **[ログファイル]** に設定します。ログファイルが作成される場所を指定できます。

レジストリ

これらのオプションは、Profile Management のレジストリ設定を制御します。

NTUSER.DAT バックアップ。選択すると、Profile Management は、NTUSER.DAT ファイルの最後に正常なバックアップを保持します。Profile Management は破損を検出すると、最新の正常なバックアップコピーを使用してプロファイルを回復します。

[既定の除外リスト] を有効にします。ユーザーのプロファイルに同期されない HKCU ハイブのレジストリキーのデフォルトのリスト。選択すると、この一覧で選択されているレジストリ設定が Profile Management プロファイルから強制的に除外されます。

レジストリ除外を有効にします。この一覧のレジストリ設定は、Profile Management プロファイルから強制的に除外されます。

レジストリインクルージョンを有効にします。この一覧のレジストリ設定は、Profile Management プロファイルに強制的に含まれます。

ファイルシステム

これらのオプションは、Profile Management のファイルシステムの除外を制御します。

ログオン除外チェックを有効にします。有効にすると、ユーザーストアのプロファイルに除外されたファイルやフォルダーが含まれている場合に、ユーザーがログオンしたときに Profile Management が行う処理を構成します。(無効の場合、既定の動作は [除外されたファイルまたはフォルダーを同期する] になります)。リストから次のビヘイビアのいずれかを選択できます。

除外されたファイルまたはフォルダを同期します (既定)。Profile Management は、ユーザーがログオンしたときに、これらの除外されたファイルまたはフォルダーをユーザーストアからローカルプロファイルに同期します。

除外されたファイルまたはフォルダーを無視。Profile Management は、ユーザーがログオンするときに、ユーザーストア内の除外されたファイルまたはフォルダーを無視します。

除外されたファイルまたはフォルダを削除します。Profile Management は、ユーザーがログオンすると、ユーザーストア内の除外されたファイルまたはフォルダーを削除します。

[既定の除外リスト-ディレクトリ] を有効にします。同期時に無視されるディレクトリのデフォルトの一覧。選択すると、この一覧で選択されているフォルダーが Profile Management の同期から除外されます。

[ファイルの除外] を有効にします。有効にすると、一覧表示されたファイルはユーザーのプロファイルに含まれません。この設定により、ユーザーがプロファイルの一部として必要としない大量のデータを含む特定のファイルを除外できます。この一覧には、既定の Windows 7 の除外が設定されており、代わりに既定の Windows XP の除外が設定されています。

フォルダーの除外の有効化。有効にすると、一覧表示されたフォルダはユーザーのプロファイルに含まれません。この設定により、ユーザーがプロファイルの一部として必要としない大量のデータを含む特定のフォルダーを除外できます。この一覧には、既定の Windows 7 の除外が設定されており、代わりに既定の Windows XP の除外が設定されています。

ヒント:

ファイルまたはフォルダを追加する場合、ワイルドカードを使用できます。詳細については、「ワイルドカードのサポート」を参照してください。

同期

これらのオプションは、Profile Management の同期設定を制御します。

ディレクトリ同期を有効にします。有効にすると、リストされたフォルダはユーザーストアと同期されます。

ファイル同期を有効にします。有効にすると、リストされたファイルはユーザーストアと同期され、ユーザーは常に最新のバージョンのファイル入手できます。複数のセッションでファイルが変更された場合、最新のファイルはユーザーストアに保持されます。

ヒント:

ファイルまたはフォルダを追加する場合、ワイルドカードを使用できます。詳細については、「ワイルドカードのサポート」を参照してください。

フォルダのミラーリングの有効化。有効にすると、リストされたフォルダはログオフ時にユーザーストアにミラーリングされ、ユーザーストアに格納されているミラーフォルダ内のファイルとサブフォルダがローカルバージョンとまったく同じになります。フォルダのミラーリングについて詳しく、以下を参照してください。

フォルダのミラーリングを高速化します。デフォルトでは、Profile Management はユーザーストアとローカルプロファイルの間で必要なトランザクションフォルダをコピーします。ミラーリングにより、これらのフォルダの整合性が保証されます。このオプションでは、コンテナベースのソリューションを使用してファイルをコピーする必要がなくなるため、フォルダのミラーリングが高速化されます。Profile Management は、ログオン中に仮想ディスクをアタッチし、ログオフ時に仮想ディスクを切り離します。これにより、ユーザーストアとローカルプロファイルの間でフォルダをコピーする必要がなくなります。ミラーリングされたフォルダ内のファイルは、変更されたかどうかにかかわらず、セッションのログオフ時に常にユーザーストアに保存されているファイルを上書きします。ミラーフォルダのローカルバージョンと比較して、ユーザーストアに余分なファイルまたはサブフォルダが存在する場合、それらの余分なファイルやサブフォルダは、セッションログオフ時にユーザーストアから削除されます。

- ミラーにフォルダを追加します。デフォルトでは、Profile Management はユーザーストアとローカルプロファイルの間で必要なトランザクションフォルダをコピーします。トランザクションフォルダは、1つのファイルが他のファイルを参照する、相互に依存するファイルを含むフォルダです。必要に応じてさらに追加できます。

大容量ファイルの処理を有効にします。有効にすると、大きなファイルはユーザーストアにリダイレクトされるため、ネットワーク経由でこれらのファイルを同期する必要がなくなります。

注:

一部のアプリケーションでは、ファイルに同時にアクセスすることはできません。大きなファイルの処理ポリシーを定義する場合、アプリケーションの動作を考慮することを Citrix ではお勧めします。

ストリーム配信ユーザープロファイル

これらのオプションは、ストリーム配信ユーザープロファイルの設定を制御します。

プロファイルストリーミングを有効にします。無効にすると、このセクションの設定は処理されません。

フォルダーのプロファイルストリーミングを有効にします。有効にすると、フォルダがアクセスされたときにのみフェッチされます。この設定により、ユーザーのログオン中にすべてのフォルダを移動する必要がなくなり、帯域幅が節約され、ファイルの同期にかかる時間が短縮されます。

常にキャッシュ。有効にすると、指定したサイズ (MB 単位) 以上のファイルが常にキャッシュされます。

保留中のエリアロックファイルのタイムアウトを設定する：サーバーが応答しなくなったときにユーザーストアがロックされたままになった場合に、指定された時間後に保留領域からユーザーストアに書き戻されるように、ファイルを解放します。

ストリーム配信ユーザープロファイルグループを設定します。このリストは、ストリーム配信されたプロファイルを使用するユーザーグループを決定します。

プロファイルストリーミング除外リスト-ディレクトリを有効にします。選択すると、Profile Management はこのリスト内のフォルダをストリーム配信せず、ユーザーのログオン時にすべてのフォルダがユーザーストアからローカルコンピュータにすぐにフェッチされます。

保留エリアのプロファイルストリーミングを有効にします。有効にすると、保留領域のファイルは、要求された場合にのみローカルプロファイルにフェッチされます。これにより、同時セッションシナリオでの最適なログオンエクスペリエンスが保証されます。待機領域は、プロファイルストリーミングが有効になっている間、プロファイルの整合性を確保するために使用されます。同時セッションで変更されたプロファイルファイルとフォルダーを一時的に保存します。デフォルトでは、このオプションは無効になっています。保留領域内のすべてのファイルとフォルダは、ログオン時にローカルプロファイルにフェッチされます。

クロスプラットフォーム設定

これらのオプションは、クロスプラットフォームの設定を制御します。

クロスプラットフォーム設定を有効にします。無効にすると、このセクションの設定は処理されません。

クロスプラットフォーム設定グループを設定します。クロスプラットフォームプロファイルを使用するユーザーグループを指定できます。

クロスプラットフォーム定義へのパスを設定します。クロスプラットフォーム定義ファイルへのパスを指定できます。

クロスプラットフォーム設定ストアへのパスを設定します。クロスプラットフォーム設定ストアへのパスを指定できます。

クロスプラットフォーム設定を作成するためのソースを有効にします。クロスプラットフォーム設定のソースプラットフォームを有効にします。

アプリのアクセス制御

このオプションは、ファイル、フォルダー、およびレジストリへのユーザーアクセスを制御します。典型的なユースケースは、規則を適用し、マシンにインストールされたアプリへのユーザーアクセスを制御することです。つまり、

関連するユーザーにアプリを表示するかどうかです。

アプリのアクセス制御を有効にします。有効にすると、Profile Management は、指定した規則に基づいて、アイテム（ファイル、フォルダー、レジストリなど）へのユーザーアクセスを制御します。

アプリケーションルールを作成する方法は 2 つあります。

- GUI ベースのツール- [WEM ツールハブ > アプリアクセス制御用のルールジェネレーター](#)
- [PowerShell ツール](#) –Profile Management インストールパッケージで利用可能

ユーザーストア認証情報

これらのオプションは、ユーザーストアの資格情報の設定を制御します。

ユーザーストアへの認証情報ベースのアクセスを有効にします。無効にすると、Profile Management は現在のユーザーを偽装してユーザーストアにアクセスします。したがって、現在のユーザーがユーザーストアに直接アクセスする権限を持っていることを確認してください。この設定を無効にすると、このタブのすべての設定が処理されなくなります。有効にすると、Profile Management は指定されたユーザーストアの資格情報を使用して、ユーザーに代わってユーザーストアにアクセスします。この設定を有効にすると、現在のユーザーがアクセス権限を持たないストレージリポジトリ (Azure Files など) にユーザーストアを配置できます。

重要:

この設定を無効にすると、WEM エージェントが以前に確立したすべてのユーザーストア接続が削除されます。

- 追加。認証情報を追加できます。
- 編集。既存の認証情報を編集できます。
- **[削除]**。既存の認証情報を削除できます。

認証情報を追加または編集するときは、次のフィールドに入力します。

- サーバー共有。サーバー共有を指定する UNC パスを入力します。
- ユーザー名。ドメイン名\ユーザー名の形式で名前を入力します。
- パスワード。サーバー共有へのアクセスに使用するパスワードを入力します。
- パスワードを表示する。パスワードを表示または非表示にするかどうかを制御します。

ファイル重複排除

これらのオプションは、Profile Management のファイル重複排除設定を制御します。

さまざまなユーザープロファイルに同じファイルが存在する可能性があります。これらのファイルをユーザーストアから分離して一元的に保存すると、重複を避けることでストレージスペースを節約できます。ユーザーストアをホストするサーバー上の共有ストアに含めるファイルを指定できます。ファイル名をユーザープロファイルからの相対パスで指定します。

ファイルインクルージョンを有効にします。有効にすると、Profile Management は共有ストアを自動的に生成します。次に、指定されたファイルは、ユーザーストアの各ユーザープロファイルではなく、共有ストアに一元的に格納されます。これにより、ファイルの重複を避けることでユーザーストアへの負荷が軽減され、ストレージコストが削減されます。

【ファイルの除外】を有効にします。有効にすると、Profile Management は指定されたファイルを共有ストアから除外します。このオプションは、「ファイルインクルージョンを有効にする」オプションと一緒に使用する必要があります。共有ストアから除外するファイルを少なくとも 1 つ指定してください。

ヒント:

ファイルまたはフォルダを追加する場合、ワイルドカードを使用できます。詳細については、「ワイルドカードのサポート」を参照してください。

ワイルドカード対応

ファイルまたはフォルダを追加する場合、ワイルドカードを使用できます。ファイル名に含まれるワイルドカードは再帰的に適用されますが、フォルダ名のワイルドカードは再帰的に適用されません。縦棒 (|) を使用すると、ポリシーを現在のフォルダーのみに制限して、そのサブフォルダーにポリシーが適用されないようにすることができます。

例:

- `AppData*.tmp` は、`AppData` フォルダとそのサブフォルダ内にある、拡張子が `.tmp` のファイルをすべて除外します。
- `AppData*.tmp|` は、フォルダ `AppData` 内の拡張子が `.tmp` のファイルをすべて除外します。
- `Downloads*\a.txt` は、`Downloads` フォルダの直近のサブフォルダから `a.txt` を除外します。注意: フォルダ名に含まれるワイルドカードは再帰的に適用されません。
- `Downloads*` は、`Downloads` フォルダの直近のサブフォルダをすべて除外します。

セキュリティ

April 28, 2023

これらの設定により、Workspace Environment Management (WEM) 内のユーザーアクティビティを制御できます。

アプリケーションのセキュリティ

重要:

ユーザーが実行できるアプリケーションを制御するには、Windows AppLocker インターフェイスまたは WEM を使用して Windows AppLocker ルールを管理します。これらのアプローチはいつでも切り替えることができます。両方のアプローチを同時に使用しないことをお勧めします。

これらの設定では、ルールを定義することで、ユーザーが実行を許可するアプリケーションを制御できます。この機能は Windows AppLocker に似ています。WEM を使用して Windows AppLocker ルールを管理すると、エージェントは、エージェントホストの [アプリケーションセキュリティ] タブの規則を Windows AppLocker ルールに変換します。エージェント処理ルールを停止すると、これらのルールは構成セットに保持されます。AppLocker は、エージェントによって処理された最後の命令セットを使用して実行を継続します。

アプリケーションのセキュリティ

このタブには、現在の WEM 構成セットのアプリケーションセキュリティルールが一覧表示されます。[検索] を使用すると、文字列に従ってリストをフィルタできます。

[セキュリティ] タブで最上位の項目「アプリケーションセキュリティ」を選択すると、次のオプションが使用可能になります。

- アプリケーションセキュリティルールを処理する。選択すると、[**Application Security**] タブのコントロールが有効になり、エージェントは現在の構成セット内のルールを処理し、エージェント・ホスト上の AppLocker ルールに変換されます。選択しない場合、[アプリケーションセキュリティ] タブのコントロールは無効になり、エージェントはルールを AppLocker ルールに変換しません。この場合、AppLocker ルールは更新されません。

注:

このオプションは、WEM 管理コンソールが Windows 7 SP1 または Windows Server 2008 R2 SP1 (またはそれ以前のバージョン) にインストールされている場合は、使用できません。

- **DLL** ルールを処理する。選択すると、エージェントは、現在の構成セットの DLL ルールを、エージェントホスト上の AppLocker DLL ルールに変換します。このオプションは、「アプリケーション・セキュリティ・ルールの処理」を選択した場合にのみ使用できます。

重要:

DLL ルールを使用する場合は、許可されたすべてのアプリで使用される各 DLL に対して「許可」アクセス許可を持つ DLL ルールを作成する必要があります。

注意:

DLL ルールを使用すると、ユーザーのパフォーマンスが低下する可能性があります。この問題は、

AppLocker がアプリの実行を許可する前に、アプリを読み込む各 DLL をチェックするために発生します。

- [上書き] および [マージ] の設定では、エージェントがアプリケーションセキュリティルールを処理する方法を指定できます。
 - [上書き]。既存のルールを上書きできます。選択すると、最後に処理されたルールは、以前に処理されたルールを上書きします。このモードは、シングルセッションマシンにのみ適用することをお勧めします。
 - マージ。ルールを既存のルールとマージできます。競合が発生すると、最後に処理されたルールは、以前に処理されたルールを上書きします。マージ中にルール適用設定を変更する必要がある場合は、上書きモードを使用してください。マージモードでは古い値が異なっても保持されるためです。

ルール・コレクション

ルールは AppLocker ルールコレクションに属します。各コレクション名は、(12) など、そのコレクションに含まれるルールの数を示します。コレクション名をクリックして、規則リストを次のいずれかのコレクションにフィルタします。

- 実行可能なルール。アプリケーションに関連付けられている拡張子が .exe および .com のファイルを含むルール。
- **Windows** の規則。クライアントコンピューターおよびサーバーへのファイルのインストールを制御するインストーラファイル形式 (.msi、.msp、.mst) を含む規則。
- スクリプトルール。 .ps1、.bat、.cmd、.vbs、.js の形式のファイルを含むルール
- パッケージルール。パッケージアプリを含むルール。ユニバーサル Windows アプリとも呼ばれます。パッケージアプリでは、アプリパッケージ内のすべてのファイルが同じ ID を共有します。したがって、1 つのルールでアプリ全体を制御できます。WEM は、パッケージアプリの公開者ルールのみをサポートします。
- **DLL** のルール。次の形式のファイルを含むルール: .dll、.ocx。

ルール一覧をコレクションにフィルター処理する場合、【ルールの適用】オプションを使用して、AppLocker がエージェントホスト上のコレクション内のすべてのルールを適用する方法を制御できます。次のルール適用値を使用できます。

オフ (デフォルト)。ルールが作成され、「オフ」に設定されます。つまり、ルールは適用されません。

オン。ルールが作成され、「強制」に設定されます。これは、エージェント・ホスト上でアクティブであることを意味します。

監査。ルールが作成され、「監査」に設定されます。つまり、エージェント・ホスト上で非アクティブ状態になります。ユーザーが AppLocker ルールに違反するアプリを実行すると、そのアプリの実行が許可され、アプリに関する情報が AppLocker イベントログに追加されます。

AppLocker ルールをインポートするには

AppLocker からエクスポートされたルールを [Workspace Environment Management] にインポートできます。インポートされた Windows AppLocker 設定は、[セキュリティ] タブの既存のルールに追加されます。無効なアプリケーションセキュリティルールは自動的に削除され、レポートダイアログに一覧表示されます。

1. リボンで、[**AppLocker** ルールのインポート] をクリックします。
2. AppLocker からエクスポートされた XML ファイルを参照して、AppLocker ルールを含めます。
3. [インポート] をクリックします。

ルールが [アプリケーションセキュリティのルール] リストに追加されます。

ルールを追加するには

1. サイドバーでルールコレクション名を選択します。たとえば、実行可能ルールを追加するには、「実行可能ルール」コレクションを選択します。
2. [ルールの追加] をクリックします。
3. [表示] セクションで、次の詳細を入力します。
 - **Name**: ルールリストに表示されるルールの表示名。
 - [説明]。リソースに関する追加情報 (オプション)。
4. [タイプ] セクションで、次のいずれかのオプションを選択します。
 - パス。ルールはファイルパスに一致します。
 - 発行元。ルールは、選択したパブリッシャーと一致します。
 - ハッシュ。ルールは特定のハッシュコードに一致します。
5. [アクセス許可] セクションで、[許可] または [拒否] を選択します。選択項目では、アプリケーションの実行を許可するか禁止するかを制御します。
6. このルールをユーザーまたはユーザーグループに割り当てるには、[割り当て] ウィンドウで、このルールを割り当てるユーザーまたはグループを選択します。[割り当て済み] 列には、割り当てられたユーザーまたはグループの [チェック] アイコンが表示されます。

ヒント:

- 通常の Windows の選択修飾キーを使用して複数の選択を行うか、[すべて選択] を使用してすべての行を選択できます。
- ユーザーは、すでに WEM ユーザーリストに登録されている必要があります。
- ルールの作成後にルールを割り当てることができます。

7. [次へ] をクリックします。
8. 選択したルールタイプに応じて、ルールが一致する基準を指定します。
 - パス。ルールを適用するファイルまたはフォルダのパスを入力します。WEM エージェントは、実行可能ファイルのパスに従って実行可能ファイルにルールを適用します。
 - 発行元。[発行元]、[製品名]、[ファイル名]、[** ファイルバージョン *]の各フィールドに入力します。フィールドを空白のままにすることはできませんが、代わりにアスタリスク (*) を入力することはできません。WEM エージェントは、パブリッシャ情報に従ってルールを適用します。適用すると、ユーザーは同じ発行者情報を共有する実行可能ファイルを実行できます。
 - ハッシュ。[追加] をクリックして、ハッシュを追加します。[ハッシュの追加] ウィンドウで、ファイル名とハッシュ値を入力します。**AppinFoViewer** ツールを使用して、選択したファイルまたはフォルダーからハッシュを作成できます。WEM エージェントは、指定した同じ実行可能ファイルにルールを適用します。その結果、ユーザーは、指定された実行可能ファイルと同じ実行可能ファイルを実行できます。
9. [次へ] をクリックします。
10. 必要な例外を追加します (オプション)。[例外の追加] で、例外の種類を選択し、[追加] をクリックします。(必要に応じて例外を編集または削除できます)。
11. ルールを保存するには、[**Create**] をクリックします。

ユーザーにルールを割り当てるには

一覧から 1 つまたは複数のルールを選択し、ツールバーまたはコンテキストメニューの [編集] をクリックします。エディタで、ルールを割り当てるユーザーおよびユーザー・グループを含む行を選択し、「OK」をクリックします。[すべて選択] を使用して、選択したルールをすべてのユーザーから割り当て解除することもできます。

注意: 複数のルールを選択して編集をクリックすると、選択したすべてのユーザーおよびユーザー・グループに、これらのルールの割り当ての変更が適用されます。つまり、既存のルールの割り当ては、それらのルール間でマージされます。

既定のルールを追加するには

[既定の規則の追加] をクリックします。AppLocker の既定のルールのセットがリストに追加されます。

ルールを編集するには

一覧から 1 つまたは複数のルールを選択し、ツールバーまたはコンテキストメニューの [編集] をクリックします。エディタが表示され、選択内容に適用する設定を調整できます。

ルールを削除するには

一覧から 1 つまたは複数のルールを選択し、ツールバーまたはコンテキストメニューの [削除] をクリックします。

アプリケーションセキュリティルールをバックアップするには

現在の構成セット内のすべてのアプリケーション・セキュリティ・ルールをバックアップできます。ルールはすべて単一の XML ファイルとしてエクスポートされます。【復元】を使用すると、規則を任意の構成セットに復元できます。リボンで、[バックアップ] をクリックし、[セキュリティ設定] を選択します。

アプリケーションセキュリティルールを復元するには

Workspace Environment Management backup コマンドで作成した XML ファイルからアプリケーション・セキュリティ・ルールを復元できます。リストアッププロセスでは、現在の構成セット内のルールが、バックアップ内のルールに置き換えられます。[セキュリティ] タブに切り替えたり、[セキュリティ] タブを更新すると、無効なアプリケーションセキュリティ規則が検出されます。無効なルールは自動的に削除され、レポートダイアログに表示されます。レポートダイアログはエクスポートできます。

リストアッププロセス中に、現在の構成セット内のユーザーおよびユーザーグループにルール割り当てを復元するかどうかを選択できます。再割り当ては、バックアップされたユーザ/グループが現在の構成セット/アクティブディレクトリに存在する場合のみ成功します。一致しないルールは復元されますが、割り当てられていないままです。復元後、CSV 形式でエクスポートできるレポートダイアログに一覧表示されます。

1. リボンの [復元] をクリックして、復元ウィザードを起動します。
2. [セキュリティ設定] を選択し、[次へ] を 2 回クリックします。
3. [フォルダから復元] で、バックアップファイルが保存されているフォルダーを参照します。
4. [AppLocker の規則の設定] を選択し、[次へ] をクリックします。
5. ルールの割り当てを復元するかどうかを確認します。
 - はい。ルールをリストアップし、現在の構成セット内の同じユーザーおよびユーザー・グループに再割り当てします。
 - いいえ。ルールを復元し、割り当てを解除します。
6. 復元を開始するには、[設定の復元] をクリックします。

プロセス管理

これらの設定では、特定のプロセスをホワイトリストに登録またはブラックリストに登録できます。

プロセス管理

プロセス管理を有効にする。このオプションは、プロセスのホワイトリストとブラックリストを有効にするかどうかを切り替えます。無効にすると、[ブラックリストを処理] タブと [** ホワイトリストを処理 **] タブの設定はどれも有効になりません。

注:

このオプションは、エージェントがユーザーのセッションで実行されている場合にのみ機能します。セッションでエージェントを実行できるようにするには、[詳細設定] > [構成] > [メイン構成] タブを使用して、[エージェントの起動] オプション ([ログオン]/[再接続]/[管理者向け]) を有効にし、[エージェントタイプ] を [UI] に設定します。これらのオプションについては、「[詳細設定](#)」を参照してください。

ブラックリストを処理する

これらの設定では、特定のプロセスをブラックリストに登録できます。

プロセスのブラックリストを有効にする。このオプションは、プロセスのブラックリストを有効にします。実行可能名 (cmd.exe など) を使用してプロセスを追加します。

ローカル管理者を除外する。プロセスのブラックリストからローカル管理者アカウントを除外します。

指定したグループを除外する。プロセスブラックリストから特定のユーザーグループを除外できます。

ホワイトリストを処理する

これらの設定では、特定のプロセスをホワイトリストに登録できます。プロセスのブラックリストとホワイトリストは、相互に排他的です。

プロセスのホワイトリストを有効にする。このオプションにより、プロセスのホワイトリストが有効になります。実行可能名 (cmd.exe など) を使用してプロセスを追加します。

注:

有効にすると、[プロセスのホワイトリストを有効にする] は、ホワイトリストにないすべてのプロセスを自動的にブラックリストにします。

ローカル管理者を除外する。プロセスホワイトリストからローカル管理者アカウントを除外します (すべてのプロセスを実行できます)。

指定したグループを除外する。プロセスホワイトリストから特定のユーザーグループを除外できます (すべてのプロセスを実行できます)。

権限昇格

注:

この機能は Citrix 仮想アプリには適用されません。

特権昇格機能を使用すると、管理者以外のユーザーの権限を、一部の実行可能ファイルに必要な管理者レベルに昇格できます。その結果、ユーザーは Administrators グループのメンバーであるかのようにこれらの実行可能ファイルを起動できます。

権限昇格

[セキュリティ] で [権限の昇格] ウィンドウを選択すると、次のオプションが表示されます。

- 特権昇格の設定を処理します。特権昇格機能を有効にするかどうかを制御します。選択すると、エージェントが特権昇格の設定を処理し、[権限の昇格] タブの他のオプションが使用可能になります。
- **Windows Server OS** には適用しないでください。Windows Server オペレーティングシステムに特権の昇格設定を適用するかどうかを制御します。選択すると、ユーザーに割り当てられたルールは Windows Server マシンでは機能しません。デフォルトではこのオプションが選択されています。
- **RunasInvoker** を強制する。現在の Windows アカウントですべての実行可能ファイルを強制的に実行するかどうかを制御します。選択すると、管理者として実行可能ファイルを実行するようユーザーに求められません。

このタブには、設定したルールの完全なリストも表示されます。[実行可能ルール] または [**Windows** インストーラー規則] をクリックして、ルール一覧を特定のルールタイプにフィルタリングします。[検索] を使用して、リストをフィルタできます。[割り当て済み] 列には、割り当てられたユーザーまたはユーザーグループのチェックマークアイコンが表示されます。

サポートされているルール

実行可能ルールと Windows インストーラーの 2 種類のルールを使用して、特権の昇格を設定できます。

- 実行可能なルール。アプリケーションに関連付けられた拡張子が .exe および .com のファイルを含むルール。
- **Windows** インストーラー規則。アプリケーションに関連付けられたインストーラーファイル with.msi および .msp 拡張子を含むルール。Windows インストーラールールを追加するときは、次のシナリオに注意してください。
 - 権限昇格は、Microsoft の msixec.exe にのみ適用されます。 .msi および .msp Windows インストーラーファイルの展開に使用するツールが msixec.exe であることを確認します。
 - プロセスが指定された Windows インストーラー規則と一致し、その親プロセスが指定された実行可能規則と一致するとします。指定した実行可能ルールで [子プロセスに適用] 設定を有効にしない限り、プロセスは昇格された権限を取得できません。

[実行可能ルール] タブまたは [**Windows** インストーラの規則] タブをクリックすると、[アクション] セクションに次のアクションが表示されます。

- 編集。既存の実行可能ルールを編集できます。
- [削除]。既存の実行可能ルールを削除できます。
- ルールを追加します。実行可能なルールを追加できます。

ルールを追加するには

1. [実行可能ルール] または [**Windows** インストーラの規則] に移動し、[ルールの追加] をクリックします。[ルールの追加] ウィンドウが表示されます。
 2. [表示] セクションで、次のように入力します。
 - **Name**: ルールの表示名を入力します。名前が [ルール] リストに表示されます。
 - [説明]。ルールに関する追加情報を入力します。
 3. [タイプ] セクションで、オプションを選択します。
 - パス。ルールはファイルパスに一致します。
 - 発行元。ルールは、選択したパブリッシャーと一致します。
 - ハッシュ。ルールは特定のハッシュコードに一致します。
 4. [設定] セクションで、必要に応じて次のように構成します。
 - 子プロセスに適用。選択すると、実行ファイルが起動するすべての子プロセスにルールが適用されます。権限昇格をより詳細なレベルで管理するには、次のオプションを使用します。
 - 同じフォルダ内の実行可能ファイルにのみ適用します。選択すると、同じフォルダを共有する実行可能ファイルにのみルールが適用されます。
 - 署名付き実行可能ファイルにのみ適用します。選択すると、署名された実行可能ファイルにのみルールが適用されます。
 - 同じパブリッシャーの実行可能ファイルにのみ適用します。選択した場合、同じパブリッシャー情報を共有する実行可能ファイルにのみルールを適用します。この設定は、ユニバーサル Windows プラットフォーム (UWP) アプリでは使用できません。
- 注:
- Windows のインストールルールを追加すると、[子プロセスに適用] 設定がデフォルトで有効になり、編集できません。
- [開始時刻]。エージェントがルールの適用を開始する時間を指定できます。時刻形式は HH: MM です。時刻は、エージェントのタイムゾーンに基づきます。

- 終了時刻。エージェントがルール適用を停止する時間を指定できます。時刻形式は HH: MM です。指定された時間以降、エージェントはルールを適用しなくなります。時刻は、エージェントのタイムゾーンに基づきます。
 - **[パラメータを追加]**。指定したパラメータに一致する実行可能ファイルに権限昇格を制限できます。パラメータは一致基準として機能します。指定したパラメータが正しいことを確認します。この機能の使用法の例については、「パラメータで実行される実行可能ファイル」を参照してください。このフィールドが空の場合、または空白のみが含まれている場合、エージェントはパラメータで実行されているかどうかにかかわらず、関連する実行可能ファイルに権限昇格を適用します。
 - 正規表現を有効にします。正規表現を使用して基準をさらに拡張するかどうかを制御できます。
5. **[割り当て]** セクションで、ルールを割り当てるユーザーまたはユーザーグループを選択します。すべてのユーザーおよびユーザー・グループにルールを割り当てる場合は、**[Select All]** を選択します。

ヒント:

- 通常の Windows の選択修飾キーを使用して、複数の選択を行うことができます。
- ユーザーまたはユーザーグループは、**[管理] > [ユーザー]** タブに表示されるリストにすでに存在している必要があります。
- ルールは、後で (ルールの作成後) に割り当てることができます。

6. **[次へ]** をクリックします。

7. 次のいずれかの操作を行います。前のページで選択したルールタイプに応じて、異なるアクションが必要になります。

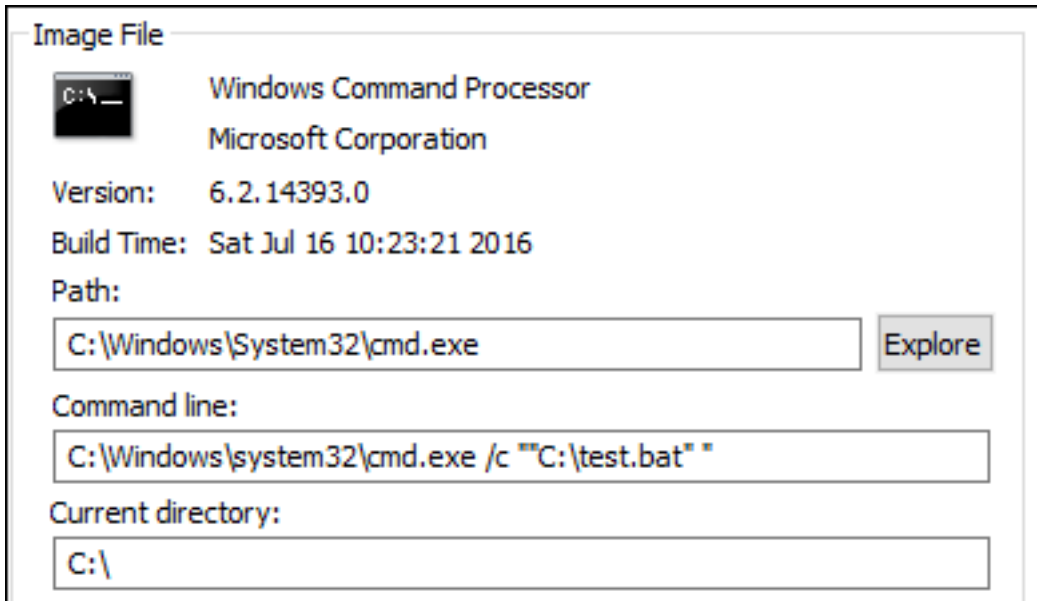
重要:

WEM には **AppinFoViewer** という名前のツールが用意されており、実行ファイルから発行元、パス、ハッシュなどの情報を取得できます。詳細については、「[実行可能ファイルの情報を取得するためのツール](#)」を参照してください。

- パス。ルールを適用するファイルまたはフォルダのパスを入力します。WEM エージェントは、実行可能ファイルのパスに従って、実行ファイルにルールを適用します。
 - 発行元。[発行元]、[製品名]、[ファイル名]、[** ファイルバージョン **] の各フィールドに入力します。フィールドを空白のままにすることはできませんが、代わりにアスタリスク (*) を入力することはできます。WEM エージェントは、パブリッシュ情報に従ってルールを適用します。適用すると、ユーザーは同じ発行者情報を共有する実行可能ファイルを実行できます。
 - ハッシュ。[追加] をクリックして、ハッシュを追加します。[ハッシュの追加] ウィンドウで、ファイル名とハッシュ値を入力します。**AppinFoViewer** ツールを使用して、選択したファイルまたはフォルダからハッシュを作成できます。WEM エージェントは、指定した同じ実行可能ファイルにルールを適用します。その結果、ユーザーは、指定された実行可能ファイルと同じ実行可能ファイルを実行できます。
8. **[Create]** をクリックしてルールを保存し、ウィンドウを終了します。

パラメータで実行されている実行可能ファイル 指定したパラメータに一致する実行可能ファイルに権限昇格を制限できます。パラメータは一致基準として機能します。実行可能ファイルで使用可能なパラメータを表示するには、プロセスエクスプローラーやプロセスモニターなどのツールを使用します。これらのツールに表示されるパラメータを適用します。

実行可能ファイルのパスに従って、実行ファイル (cmd.exe など) にルールを適用するとします。権限昇格を `test.bat` にのみ適用したい。プロセスエクスプローラを使用してパラメータを取得できます。



[パラメータを追加] フィールドに、次のように入力できます。

- `/c ""C:\test.bat""`

次に、[パス] フィールドに次のように入力します。

- `C:\Windows\System32\cmd.exe`

この場合、指定したユーザーの権限は、`test.bat` の管理者レベルにのみ昇格します。

ユーザーにルールを割り当てるには リストから 1 つまたは複数のルールを選択し、[アクション] セクションの [編集] をクリックします。「ルールの編集」ウィンドウで、ルールを割り当てるユーザーまたはユーザー・グループを選択し、「OK」をクリックします。

ルールを削除するには リストから 1 つまたは複数のルールを選択し、[アクション] セクションの [削除] をクリックします。

特権昇格ルールをバックアップするには 現在の構成セット内のすべての権限昇格ルールをバックアップできます。すべてのルールは、単一の XML ファイルとしてエクスポートされます。【復元】を使用すると、規則を任意の構成セットに復元できます。

バックアップを完了するには、リボンにある [バックアップ] ウィザードを使用します。バックアップウィザードの使用方法の詳細については、「[リボン](#)」を参照してください。

特権昇格ルールを復元するには Workspace Environment Management バックアップウィザードを使用してエクスポートされた XML ファイルから特権昇格ルールを復元できます。リストアッププロセスでは、現在の構成セット内のルールが、バックアップ内のルールに置き換えられます。[セキュリティ] > [権限の昇格] ペインに切り替えたり、更新すると、無効な権限昇格ルールが検出されます。無効なルールは自動的に削除され、エクスポートできるレポートに表示されます。復元ウィザードの使用方法の詳細については、「[リボン](#)」を参照してください。

自己昇格

自己昇格を使用すると、事前に正確な実行可能ファイルを提供しなくても、特定のユーザーの権限昇格を自動化できます。これらのユーザーは、該当するファイルを右クリックして、コンテキストメニューで [管理者権限で実行する] を選択するだけで、任意のファイルの自己昇格を要求できます。その後、昇格の理由を尋ねるプロンプトが表示されます。WEM エージェントは理由を検証しません。昇格の理由は、監査目的でデータベースに保存されます。条件が満たされると、昇格が適用され、ファイルは管理者権限で正常に実行されます。

また、この機能により、ニーズに最適なソリューションを柔軟に選択できます。ユーザーに自己昇格を許可するファイルの許可リストを作成したり、ユーザーが自己昇格できないようにするファイルの禁止リストを作成できます。

自己昇格は、`.exe`、`.msi`、`.bat`、`.cmd`、`.ps1`および`.vbs`の形式のファイルに適用されます。

注:

デフォルトでは、一部のファイルの実行には特定のアプリケーションが使用されます。たとえば、`cmd.exe` は`.cmd` ファイルの実行に使用され、`powershell.exe` は`.ps1` ファイルの実行に使用されます。これらのシナリオでは、デフォルトの動作を変更できません。

[セキュリティ] > [自己昇格] を選択すると、次のオプションが表示されます。

- 自己昇格を有効にします。自己昇格機能を有効にするかどうかを制御します。次のオプションを選択します。
 - エージェントが自己昇格設定を処理できるようにします。
 - [自己昇格] タブの他のオプションを使用可能にします。
 - ユーザーがファイルを右クリックしたときに、コンテキストメニューで [管理者権限で実行する] オプションを使用可能にします。その結果、ユーザーは [自己昇格] タブで指定した条件に一致するファイルの自己昇格を要求できます。
- 権限。ユーザーに自己昇格を許可するファイルの許可リストを作成したり、ユーザーが自己昇格できないようにするファイルの禁止リストを作成できます。
 - 許可。ユーザーに自己昇格を許可するファイルの許可リストを作成します。
 - 拒否。ユーザーが自己昇格できないようにするファイルのブロックリストを作成します。

- 次の操作を実行できます。
 - 編集。既存の条件を編集できます。
 - 【削除】。既存の条件を削除できます。
 - 【追加】。条件を追加できます。パス、選択した発行元、または特定のハッシュコードに基づいて条件を作成できます。
- 設定。エージェントが自己昇格を適用する方法を制御する追加設定を構成できます。
 - 子プロセスに適用。選択すると、ファイルが開始するすべての子プロセスに自己昇格条件を適用します。
 - 【開始時刻】。エージェントが自己昇格の条件を適用し始める時間を指定できます。時刻形式は HH: MM です。時刻は、エージェントのタイムゾーンに基づきます。
 - 終了時刻。エージェントが自己昇格条件の適用を停止する時間を指定できます。時刻形式は HH: MM です。指定された時間以降、エージェントは条件を適用しなくなります。時刻は、エージェントのタイムゾーンに基づきます。
- 【割り当て】。自己昇格条件を該当するユーザーまたはユーザーグループに割り当てることができます。条件をすべてのユーザーおよびユーザーグループに割り当てするには、【すべて選択】をクリックするか、【** 全員】を選択します。**【すべて選択 (Select All)】チェックボックスは、選択を解除してユーザとユーザグループを再選択する場合に便利です。

権限昇格アクティビティの監査

WEM では、特権の昇格に関連する監査アクティビティがサポートされています。詳細については、「ユーザーアクティビティの監査」を参照してください。

プロセス階層制御

プロセス階層制御機能は、特定の子プロセスを親プロセスから親子シナリオで開始できるかどうかを制御します。ルールを作成するには、親プロセスを定義し、その子プロセスの許可リストまたは禁止リストを指定します。この機能を使用する前に、このセクション全体を確認してください。

注:

- この機能は Citrix 仮想アプリにのみ適用されます。

ルールの仕組みを理解するには、次の点に注意してください。

- プロセスには、1 つのルールだけが適用されます。同じプロセスに複数のルールを定義する場合は、優先度が最も高いルールのみが適用されます。

- 定義したルールは、元の親子階層だけに制限されるのではなく、その階層の各レベルにも適用されます。親プロセスに適用可能なルールは、ルールの優先順位に関係なく、子プロセスに適用されるルールよりも優先されます。たとえば、次の 2 つのルールを定義します。

- ルール 1: CMD を開くことができません。
- ルール 2: メモ帳は CMD を開くことができます。

2 つのルールでは、ルールの優先順位に関係なく、最初に Word を開き、Word からメモ帳を開くことによって、メモ帳から CMD を開くことはできません。

この機能は、特定のプロセススペースの親子関係に基づいて動作します。シナリオで親子関係を視覚化するには、プロセスエクスプローラーツールのプロセスツリー機能を使用します。プロセスエクスプローラーの詳細については、<https://docs.microsoft.com/en-us/sysinternals/downloads/procmon>を参照してください。

潜在的な問題を回避するために、完全な構成管理インターフェイスの **VUEMAppCmd.exe** を指す実行可能ファイルのパスを追加することをお勧めします。**VUEMAppCmd.exe** は、公開アプリケーションが起動する前に WEM エージェントが設定の処理を終了することを保証します。次の手順を実行します：

1. [アプリケーション] ノードでアプリケーションを選択し、アクションバーの [プロパティ] をクリックして、[場所] ページに移動します。

The screenshot shows the 'Application Settings' dialog box with the 'Location' tab selected. The sidebar on the left lists various settings categories, with 'Location' highlighted. The main content area is titled 'Location' and includes instructions to 'Enter the location information below.' It features three input fields: 'Path to the executable file:' containing 'C:\Windows\system32\win32calc.exe', 'Command-line argument (optional):' containing 'Example: https://www.Example.com', and 'Working directory:' containing 'Example: \\myapps\'. At the bottom right, there are three buttons: 'Save', 'Cancel', and 'Apply'.

2. エンドユーザーオペレーティングシステム上のローカルアプリケーションのパスを入力します。

- [実行可能ファイルへのパス] フィールドに次のように入力します。 <%programFiles%>\ Citrix\ Workspace Environment Management エージェント\ VUEMAppCmd.exe。

3. コマンドライン引数を入力して、開くアプリケーションを指定します。

- [コマンドライン引数] フィールドに、 **VUEMAppCmd.exe** を使用して起動するアプリケーションへのフルパスを入力します。パスに空白が含まれている場合は、アプリケーションのコマンドラインを二重引用符で囲むようにしてください。
- たとえば、 **VUEMAppCmd.exe** から `iexplore.exe` を起動したいとします。これを行うには、次のように入力します。 `%ProgramFiles(x86)%\ "Internet Explorer" \iexplore.exe`。

注意事項

機能を機能させるには、各エージェントマシンで **AppInfoViewer** ツールを使用して機能を有効にする必要があります。このツールを使用して機能を有効または無効にするたびに、マシンの再起動が必要です。この機能を有効にした場合は、次の考慮事項に注意してください。

- エージェントをアップグレードまたはアンインストールした後、エージェントマシンを再起動する必要があります。

注:

2103.2.0.1 または **2104.1.0.1** ** からアップグレードまたはアンインストールする場合、再起動のプロンプトは表示されません。

- エージェントの自動アップグレード機能は、エージェントバージョン **2105.1.0.1** 以降では機能しません。自動エージェントアップグレード機能を使用するには、**AppInfoViewer** ツールを使用して、まずプロセス階層制御機能を無効にします。
- **2103.2.0.1** または **2104.1.0.1** ** からアップグレードする場合は、エージェントの自動アップグレードが完了した後にエージェントマシンを再起動する必要があります。

プロセス階層制御機能が有効になっていることを確認するには、エージェントマシンでレジストリエディタを開きます。次のレジストリエントリが存在する場合、この機能が有効になります。

- 32 ビット OS
 - HKEY_LOCAL_MACHINE\SOFTWARE\Citrix\CtxHook\AppInit_Dlls\WEM Hook
- 64 ビット OS
 - HKEY_LOCAL_MACHINE\SOFTWARE\Citrix\CtxHook\AppInit_Dlls\WEM Hook
 - HKEY_LOCAL_MACHINE\SOFTWARE\WOW6432Node\Citrix\CtxHook\AppInit_Dlls\WEM Hook

重要:

エージェントのバージョン **2103.2.0.1** および **2104.1.0.1** では、プロセス階層制御機能が自動的に有効になる場合があります。プロセス階層制御機能が有効になっていることを確認するには、エージェントマシンでレジストリエディタを開きます。この機能が有効になっている場合は、エージェントのアップグレードまたはアンインストール後に、エージェントマシンを手動で再起動する必要があります。

前提条件

この機能を使用するには、次の前提条件が満たされていることを確認してください。

- Citrix 仮想アプリケーションの展開。
- エージェントは、Windows 10 または Windows Server 上で実行されています。
- インプレースアップグレードまたは新規インストール後に、エージェントホストが再起動されました。

プロセス階層制御

「セキュリティ」で「プロセス階層制御」を選択すると、次のオプションが表示されます。

- プロセス階層制御を使用可能にします。プロセス階層制御機能を有効にするかどうかを制御します。選択すると、「プロセス階層制御」(**Process Hierarchy Control**) タブの他のオプションが使用可能になり、そこで構成された設定が有効になります。この機能は、Citrix 仮想アプリケーションの展開でのみ使用できます。
- コンテキストメニューから [プログラムから開く] を非表示にします。Windows の右クリックメニューから [プログラムから開く] オプションを表示または非表示にするかどうかを制御します。有効にすると、メニューオプションはインターフェイスに表示されません。無効にすると、オプションが表示され、ユーザーはこれを使用してプロセスを開始できます。プロセス階層制御機能は、「プログラムから開く」オプションを使用して開始されたプロセスには適用されません。現在のアプリケーション階層とは無関係なシステムサービスを通じてアプリケーションがプロセスを開始しないようにするには、この設定を有効にすることをお勧めします。

「プロセス階層制御」(Process Hierarchy Control) タブには、構成したルールの完全なリストも表示されます。[検索] を使用して、リストをフィルタできます。[割り当て済み] 列には、割り当てられたユーザーまたはユーザーグループのチェックマークアイコンが表示されます。

「アクション」セクションには、次のアクションが表示されます。

- 編集。ルールを編集できます。
- **[削除]**。ルールを削除できます。
- ルールを追加します。ルールを追加できます。

ルールを追加するには

1. 「プロセス階層制御」に移動し、「ルールを追加」をクリックします。[ルールを追加] ウィンドウが表示されます。
 2. [表示] セクションで、次のように入力します。
 - **Name:** ルールの表示名を入力します。名前が [ルール] リストに表示されます。
 - **[説明]:** ルールに関する追加情報を入力します。
 3. [タイプ] セクションで、オプションを選択します。
 - **パス。** ルールはファイルパスに一致します。
 - **発行元。** ルールは、選択したパブリッシャーと一致します。
 - **ハッシュ。** ルールは特定のハッシュコードに一致します。
 4. [モード] セクションで、次のいずれかのオプションを選択します。
 - **ブロックリスト**に子プロセスを追加。選択すると、親プロセスの規則を構成した後、適用可能な子プロセスのブロックリストを定義できます。ブロックリストでは、指定したプロセスの実行のみが禁止され、他のプロセスの実行が許可されます。
 - **許可リスト**に子プロセスを追加します。選択すると、親プロセスのルールを構成した後、適用可能な子プロセスの許可リストを定義できます。許可リストでは、指定したプロセスの実行のみが許可され、他のプロセスの実行が禁止されます。
- 注:
- プロセスには、1つのルールだけが適用されます。同じプロセスに複数のルールを定義すると、ルールは優先順位に従って適用されます。
5. [優先度] セクションで、ルールの優先度を設定します。優先度を設定するときは、次の点を考慮してください。優先度によって、設定したルールが処理される順序が決まります。値が大きいほど、優先順位が高くなります。整数を入力します。競合がある場合は、優先度の高いルールが優先されます。
 6. [割り当て] セクションで、ルールを割り当てるユーザーまたはユーザーグループを選択します。すべてのユーザーおよびユーザー・グループにルールを割り当てる場合は、[Select **All**] を選択します。
- 注:
- 通常の Windows 選択キーを使用して、複数の選択を行うことができます。
 - ユーザーまたはユーザーグループは、[管理] > [ユーザー] タブに表示されるリストにすでに存在している必要があります。
 - ルールは、後で (ルールの作成後) に割り当てることができます。
7. [次へ] をクリックします。
 8. 親プロセスのルールを構成するには、次のいずれかの操作を行います。前のページで選択したルールタイプに応じて、異なるアクションが必要になります。

重要:

WEM には **AppinFoViewer** という名前のツールが用意されており、実行ファイルから発行元、パス、ハッシュなどの情報を取得できます。詳細については、「[実行可能ファイルの情報を取得するためのツール](#)」を参照してください。

- パス。親プロセスのルールを適用するファイルまたはフォルダーへのパスを入力します。WEM エージェントは、実行可能ファイルのパスに従って実行可能ファイルにルールを適用します。このフィールドにアスタリスク (*) だけを入力して、パスの一致を示すことはお勧めしません。これを行うと、意図しないパフォーマンスの問題が発生する可能性があります。
- 発行元。[発行元]、[製品名]、[ファイル名]、[** ファイルバージョン **] の各フィールドに入力します。フィールドを空白のままにすることはできませんが、代わりにアスタリスク (*) を入力することはできます。WEM エージェントは、発行元情報に従って、親プロセスにルールを適用します。適用すると、ユーザーは同じ発行者情報を共有する実行可能ファイルを実行できます。
- ハッシュ。[追加] をクリックして、ハッシュを追加します。[ハッシュの追加] ウィンドウで、ファイル名とハッシュ値を入力します。**AppinFoViewer** ツールを使用して、選択したファイルまたはフォルダーからハッシュを作成できます。WEM エージェントは、指定した同じ実行可能ファイルにルールを適用します。その結果、ユーザーは、指定された実行可能ファイルと同じ実行可能ファイルを実行できます。

9. [次へ] をクリックして、子プロセス設定を構成します。

10. 適用可能な子プロセスの許可リストまたはブロックリストを定義するには、次のいずれかの操作を行います。

- a) メニューからルールタイプを選択し、[追加] をクリックします。[子プロセス] ウィンドウが表示されます。
- b) [子プロセス] ウィンドウで、必要に応じて設定を構成します。「子プロセス」(Child Process) ウィンドウのユーザー・インタフェースは、選択した規則タイプによって異なります。子プロセスでは、パス、発行元、およびハッシュの規則の種類を使用できます。
- c) 「OK」 をクリックして「ルールの追加」 ウィンドウに戻ります。子プロセスを追加するか、[Create] をクリックしてルールを保存してウィンドウを終了できます。

ユーザーにルールを割り当てるには 一覧から 1 つのルールを選択し、[アクション] セクションの [編集] をクリックします。「ルールの編集」 ウィンドウで、ルールを割り当てるユーザーまたはユーザー・グループを選択し、「OK」 をクリックします。

ルールを削除するには リストから 1 つまたは複数のルールを選択し、[アクション] セクションの [削除] をクリックします。

ルールをバックアップするには 現在の構成セット内のすべてのプロセス階層制御ルールをバックアップできます。すべてのルールは、単一の XML ファイルとしてエクスポートされます。[復元] を使用すると、規則を任意の構成セットに復元できます。

バックアップを完了するには、リボンにある [バックアップ] ウィザードを使用します。バックアップウィザードの使用方法の詳細については、「[リボン](#)」を参照してください。

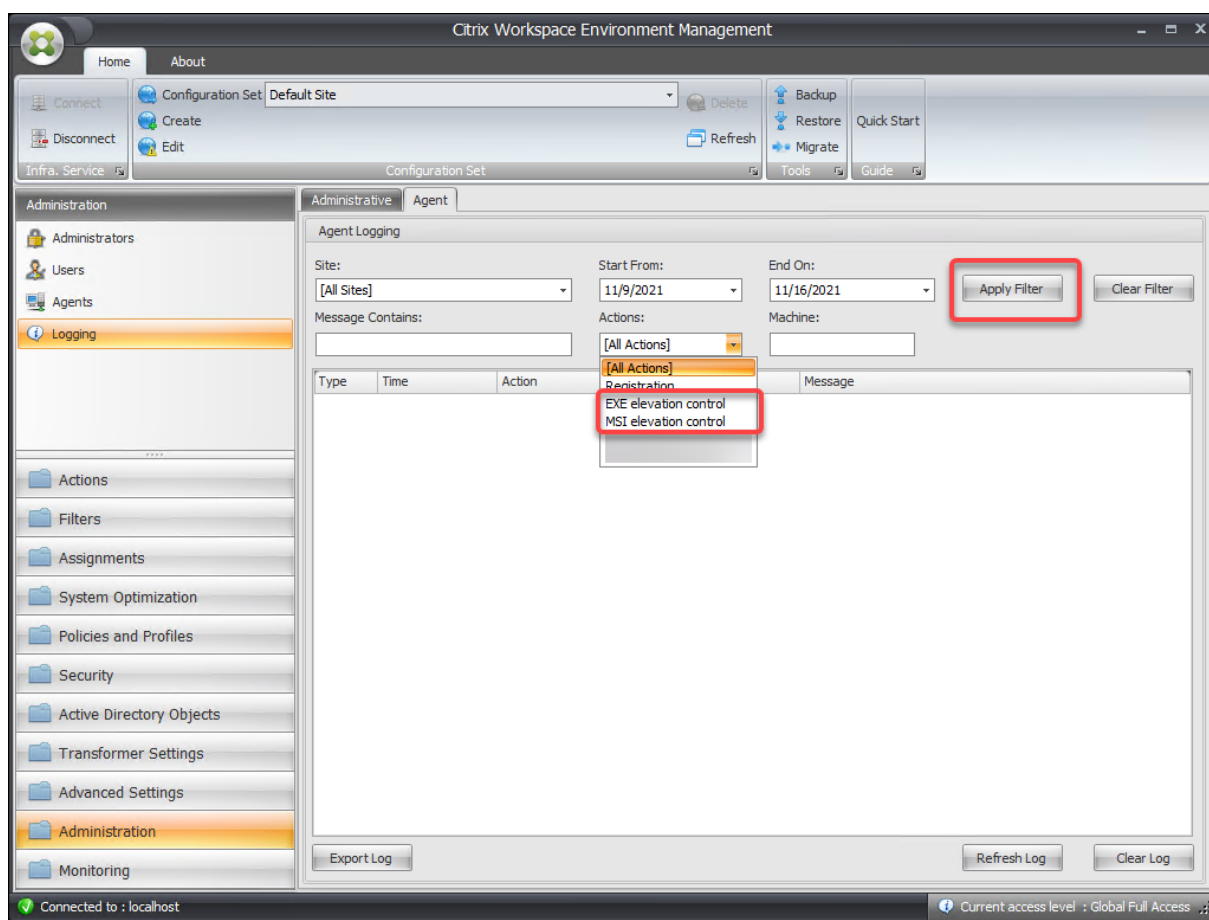
ルールを復元するには [Workspace Environment Management] バックアップウィザードを使用してエクスポートされた XML ファイルからプロセス階層制御ルールを復元できます。リストアッププロセスでは、現在の構成セット内のルールが、バックアップ内のルールに置き換えられます。[セキュリティ] > [プロセス階層コントロール] ペインに切り替えたり、更新したりすると、無効なルールはすべて削除され、エクスポート可能なレポートに一覧表示されます。復元ウィザードの使用方法の詳細については、「[リボン](#)」を参照してください。

プロセス階層制御アクティビティの監査

WEM では、プロセス階層制御に関連する監査アクティビティがサポートされています。詳細については、「[ユーザーアクティビティの監査](#)」を参照してください。

ユーザー・アクティビティの監査

WEM では、権限昇格およびプロセス階層制御に関連する監査アクティビティがサポートされています。監査を表示するには、[管理] > [ロギング] > [エージェント] タブに移動します。タブで、ログ設定を構成し、[アクション] フィールドで [ElevationControl]、[** 自己昇格]、または ProcessHierarchyControl** を選択し、[フィルターの適用] をクリックしてログを特定のアクティビティに絞り込みます。特権の昇格またはプロセス階層制御の履歴全体を表示できます。



追加情報

プロセス階層制御の構成方法の例については、「[プロセス階層制御を使用した Citrix Workspace 環境の保護](#)」を参照してください。

Active Directory オブジェクト

March 7, 2022

これらのページを使用して、Workspace Environment Management (WEM) で管理するユーザー、コンピューター、グループ、および組織単位を指定します。

注:

ユーザー、コンピューター、グループ、および OU を WEM に追加して、エージェントがそれらを管理できるようにします。

ユーザー

既存のユーザーとグループのリスト。[検索]を使用すると、テキスト文字列に対して名前または ID でリストをフィルタリングできます。

ユーザーまたはグループを追加するには

1. コンテキストメニューから [追加] を選択します。
2. 「ユーザーまたはグループの選択」ウィンドウにユーザー名またはグループ名を入力し、「OK」をクリックします。

Citrix Cloud アカウントを Azure Active Directory (AD) に接続した後、Azure AD ユーザーとグループを追加することもできます。次の手順を実行します:

1. [追加] の横にある下向き矢印をクリックします。**Azure AD ユーザーの追加** ウィンドウが表示されます。
2. **[Azure AD User の追加]** ウィンドウで、検索バーに情報を入力し、[検索]をクリックして、一致したユーザーまたはグループを表示します。
3. 該当するユーザーまたはグループを選択し、「OK」をクリックします。

Citrix Cloud を Azure AD に接続する方法については、「[Azure Active Directory を Citrix Cloud に接続する](#)」を参照してください

Name: ユーザーまたはグループの名前。

[説明]。[項目を編集] (**Edit Item**) ダイアログボックスにのみ表示され、ユーザまたはグループに関する追加情報を指定できます。

アイテムの優先順位。異なるグループとユーザーアカウント間の優先度を設定できます。優先度によって、割り当てたアクションが処理される順序が決まります。整数を入力して優先度を指定します。値が大きいほど、優先順位が高くなります。競合が発生した場合（たとえば、同じドライブ文字で異なるネットワークドライブをマッピングする場合）、優先度の高いグループまたはユーザーアカウントが優先されます。

重要:

グループポリシー設定を割り当てる場合、ここで構成した優先度は機能しません。優先度を設定するには、管理

コンソール > [割り当て] を使用します。詳細については、「[グループポリシー設定のコンテキスト化](#)」を参照してください。

アイテムの状態。ユーザーまたはグループを有効にするか無効にするかを選択できます。無効にすると、アクションを割り当てることができません。

マシン

現在の構成セットに追加されたマシンのリスト。ここにリストされているマシンのみが、Workspace Environment Management によって管理されます。[検索] を使用すると、テキスト文字列に対して名前または ID でリストをフィルタリングできます。

これらのマシン上のエージェントがインフラストラクチャサービスに登録されると、インフラストラクチャサービスは、構成セットに関連する必要なマシン依存の設定をエージェントに送信します。ユーザーエクスペリエンスを向上させるために、インフラストラクチャサービスはエージェントの構成セットに関連するデータをキャッシュします。データキャッシュにより、インフラストラクチャサービスが AD からデータを取得する頻度を減らすことができます。キャッシュは 1 時間ごとに更新されます。エージェントを別の構成セットに変更すると、有効になるまでに時間がかかる場合があります。

ヒント:

これらのマシン上のエージェントがインフラストラクチャサーバに正しく登録されているかどうかを確認するには、[管理] セクションの [エージェント] を参照してください。

コンピューターまたはコンピューターグループを現在の構成セットに追加するには

1. [オブジェクトの追加] コンテキストメニューコマンドまたはボタンを使用します。
2. [コンピューターまたはグループの選択] ダイアログで、コンピューターまたはコンピューターグループを選択し、[OK] をクリックします。

組織単位内のコンピューターを構成セットに追加するには

1. [OU を追加] コンテキストメニューコマンドまたはボタンを使用します。
2. [組織単位] ダイアログで、組織単位を選択し、[OK] をクリックします。

コンピューター、コンピューターグループ、または **OU** の詳細を編集するには

1. リスト内の項目を選択します。
2. [編集] コンテキストメニューコマンドまたはボタンを使用します。

3. [アイテムの編集] ダイアログで、次の詳細（読み取り専用ではない）のいずれかを選択し、[OK] をクリックします。

名前 *。コンピューター、コンピューターグループ、または OU 名。

識別名 *。選択したコンピューターまたはコンピューターグループの識別名 (DN)。このフィールドでは、異なる OU が同じ名前を持つ場合に、異なる OU を区別できます。

[説明]。コンピューター、コンピューターグループ、または OU に関する追加情報。

タイプ *。選択したタイプ (コンピュータ、グループ、または組織単位)

アイテムの状態。コンピュータ、コンピュータグループ、または OU の状態 (有効または無効)。無効にすると、コンピュータ、コンピュータグループ、または OU はアクションを割り当てることはできません。

アイテムの優先順位。これにより、異なるグループとユーザーアカウント間の優先順位を設定できます。優先度によって、割り当てたアクションが処理される順序が決まります。値が大きいほど、優先順位が高くなります。整数を入力します。競合が発生した場合（たとえば、同じドライブ文字で異なるネットワークドライブをマッピングする場合）、優先度の高いグループまたはユーザーアカウントが優先されます。

* Active Directory からレポートされる読み取り専用詳細。

詳細設定

どの構成セットにもバインドされていないエージェントに設定を適用するかどうかを制御する設定を提供します。

次の設定は WEM 展開全体に適用されます。これらはどの構成セットにも関連付けられていません。これらを有効にしたら、「Unbound Agent」構成セットに移動し、そこで設定を構成して、バインドされていないエージェントの動作を制御できるようにします。

- バインドされていないエージェントに設定を適用します。**Active Directory** オブジェクトにまだ追加していないエージェントに、「バインドされていないエージェント」構成セットの設定を適用できます。
 - バインドされていないドメインに参加していないエージェントを含めます。バインドされていないドメインに参加していないエージェントに設定を適用するかどうかを制御できます。

トランスフォーマー設定

September 6, 2023

これらのオプションを使用すると、トランスフォーマー機能を設定できます。Transformer を使用すると、エージェントは Web ランチャーまたはアプリケーションランチャーとして接続し、構成されたリモートデスクトップイン

ターフェイスにユーザーをリダイレクトできます。トランスフォーマーでは、完全に復元可能な「キオスク」モードを使用して、Windows PC を高性能シンクライアントに変換します。

ブラウザサポート: 最新バージョンの Microsoft Edge ではトランスフォーマーを使用してください。

一般

一般設定

これらの設定は、Transformer の外観と基本設定を制御します。

トランスフォーマーを有効にします。有効にすると、このサイトに接続されているエージェントホストが自動的にキオスクモードになります。キオスクモードでは、Agent Host は Web ランチャーまたはアプリケーションランチャーになり、構成済みのリモートデスクトップインターフェイスにユーザーをリダイレクトします。ユーザー環境はロックダウンされ、ユーザーはエージェントとの対話のみ許可されます。このオプションを無効にすると、[一般] ページまたは [詳細設定] ページの設定は処理されません。

ウェブインターフェイス **URL**。この URL は、ユーザーの仮想デスクトップの Web フロントエンドとして使用されます。これは、Citrix DaaS (以前の Citrix Virtual Apps and Desktops サービス) および Citrix Virtual Apps and Desktops 環境のアクセス URL です。

カスタムタイトル。有効にすると、Workspace Environment Management エージェントのキオスクウィンドウにカスタムのタイトルバーが表示されます。

ウィンドウモードを有効にします。有効にすると、Workspace Environment Management エージェントのキオスクはウィンドウモードで起動します。ユーザーはまだ Windows 環境からロックアウトされています。

言語選択を許可する。有効にすると、Transformer インターフェイスの言語を選択できます。

ナビゲーションボタンを表示する。有効にすると、[Agent] キオスクウィンドウに [進む]、[戻る]、および [ホーム] の Web ナビゲーションボタンが表示されます。「ホーム」は、上記で定義したウェブインターフェイス URL にユーザーを送り返します。

時計を表示します。有効にすると、トランスフォーマー UI にクロックが表示されます。

12 時間時計を表示します。有効にすると、12 時間時計 (AM/PM) が表示されます。デフォルトでは、トランスフォーマークロックは 24 時間クロックです。

アプリケーションパネルを有効にします。有効にすると、Workspace Environment Management で割り当てられたユーザーのアプリケーションを含むパネルが表示されます。

アプリケーションパネルを自動非表示にします。有効にすると、アプリケーションパネルは使用されていないときに自動的に非表示になります。

ロック解除パスワードを変更します。**Ctrl+Alt+U** を押してユーザーの環境のロックを解除するために使用できるパスワードを指定できます。これは、管理者およびサポートエージェントが制限なくユーザー環境のトラブルシューティングを実行できるように設計されています。

サイト設定

サイトリストを有効にする。有効にすると、キオスクインターフェイスに URL のリストが追加されます。

ツール設定

ツールリストを有効にする。有効にすると、ツールのリストがキオスクインターフェイスに追加されます。

詳細設定

プロセスランチャー

これらのオプションを使用すると、Web インターフェイスを表示するのではなく、Workspace Environment Management エージェントキオスクモードをプロセスランチャーに変換できます。

プロセスランチャーを有効にします。有効にすると、Workspace Environment Management エージェントがプロセス・ランチャー・モードになります。プロセスランチャーモードでは、Workspace Environment Management エージェントは、【プロセスコマンドライン】で指定されたプロセスを起動します。終了すると、プロセスが再起動されます。

コマンドラインを処理します。特定のプロセスのコマンドラインを入力できます (たとえば、RDP 接続を起動するための `mstsc.exe` へのパス)。

引数を処理します。上記のコマンドラインに任意の引数を指定できます (たとえば、`mstsc.exe` の場合は、接続先のマシンの IP アドレス)。

VMware View 最後のユーザー名をクリアします。有効にすると、VMware デスクトップセッションを起動したときに、ログオン画面上の以前のユーザーのユーザー名がクリアされます。

VMware View モードを有効にします。有効にすると、プロセスランチャーがユーザーのマシン上で実行されている仮想アプリケーションまたはデスクトップを VMware View モードで監視し、それらがすべて閉じているときにセッション終了オプションを実行できるようになります。

Microsoft RDS モードを有効にします。有効にすると、プロセスランチャーが Microsoft リモートデスクトップサービス (RDS) モードでユーザーのマシンで実行されている仮想アプリケーションまたはデスクトップを監視し、それらがすべて閉じているときにセッション終了オプションを実行できるようになります。

Citrix モードを有効にします。有効にすると、プロセスランチャーが Citrix モードでユーザーのマシン上で実行されている仮想アプリケーションまたはデスクトップを監視し、それらがすべて閉じられたときにセッション終了オプションを実行できるようになります。

詳細設定と管理設定

ブラウザレンダリングを修正しました。有効にすると、エージェントホストマシンに現在インストールされている Internet Explorer (IE) のバージョンと互換性のあるブラウザモードでキオスクウィンドウが強制的に実行されます。デフォルトでは、キオスクウィンドウは IE7 互換モードで実行されます。

注:

トランスフォーマーの設定中は、詳細設定と管理設定は無視してください。

ログオフ画面のリダイレクト。有効にすると、ログオフページに表示されるたびに、ユーザーがログオンページに自動的にリダイレクトされます。

スクリプトエラーを抑制します。有効にすると、発生したスクリプトエラーを抑制します。

SSL サイトを修正しました。有効にすると、SSL 警告を完全に非表示にします。

Citrix セッション中にキオスクを非表示にする。有効にすると、ユーザーが Citrix セッションに接続している間、Citrix Workspace Environment Management Agent のキオスクが非表示になります。

常に管理メニューを表示します。有効にすると、キオスクの管理メニューが常に表示されます。これにより、すべてのユーザーがキオスクの管理メニューにアクセスできます。

タスクバーとスタートボタンを非表示にします。有効にすると、ユーザーのタスクバーとスタートメニューが非表示になります。そうしないと、ユーザーは引き続き自分のデスクトップにアクセスできます。

Alt-Tab をロックします。有効にすると、alt tab コマンドが無視され、ユーザーがエージェントから切り替わるのを防ぎます。

Z オーダーを修正しました。有効にすると、キオスクのインターフェイスに「非表示」ボタンが追加され、キオスクをバックグラウンドにプッシュできるようになります。

Citrix Desktop Viewer をロックします。有効にすると、デスクトップビューアをロックダウンモードに切り替えます。これは、Windows デスクトップロック用 Citrix Workspace アプリがインストールされている場合に発生するロックダウンに相当します。これにより、ローカルアプリケーションとの統合が向上します。このオプションは、次の条件がすべて満たされている場合にのみ機能します。

- エージェント・ホストにログオンしているユーザーは、管理者グループのメンバーではありません。
- [一般設定] タブの [トランスフォーマーを有効にする] オプションが有効になります。
- [** ログオン/ログオフと電源設定] タブの [自動ログオンモードを有効にする **] オプションが有効になります。

[表示設定を非表示]: 有効にすると、トランスフォーマーの UI の [設定] の下の [表示] が非表示になります。

キーボード設定を非表示にします。有効にすると、トランスフォーマー UI の [設定] の下の [キーボード] が非表示になります。

マウス設定を非表示にします。有効にすると、トランスフォーマー UI の [設定] の [マウス] を非表示にします。

音量設定を非表示にします。有効にすると、トランスフォーマー UI の [設定] の [音量] を非表示にします。

クライアントの詳細を非表示にします。有効にすると、Transformer UI の感嘆符アイコンの下にクライアントの詳細が非表示になります。クライアントの詳細から、バージョン番号などの情報が表示されます。

プログレスバーを無効にします。有効にすると、埋め込まれた Web ブラウザの進行状況バーが非表示になります。

Windows バージョンを非表示にします。有効にすると、トランスフォーマー UI の感嘆符アイコンの下に **Windows** バージョンを非表示にします。

ホームボタンを隠す。有効にすると、トランスフォーマー UI のメニューのホームアイコンが非表示になります。

プリンタの設定を非表示にします。有効にすると、Transformer UI のメニューのプリンタアイコンが非表示になります。ユーザーは Transformer UI でプリンタを管理できません。

事前起動レシーバー。有効にすると、Citrix Workspace アプリが起動し、読み込まれるまで待ってからキオスクモードのウィンドウが表示されます。

ロック解除を無効にします。有効にすると、**Ctrl+Alt+U** のロック解除ショートカットを使用してエージェントをロック解除することはできません。

ログオフオプションを非表示にします。有効にすると、Transformer UI のシャットダウンアイコンの下の [ログオフ] が非表示になります。

再起動オプションを非表示にします。有効にすると、Transformer UI のシャットダウンアイコンの下の [再起動] が非表示になります。

シャットダウンオプションを非表示にします。有効にすると、トランスフォーマー **UI** のシャットダウンアイコンの下にシャットダウンが非表示になります。

最後の言語を無視します。トランスフォーマー UI は複数の言語をサポートしています。[一般] ペインで、[言語選択を許可] オプションが有効になっている場合、ユーザーは Transformer UI の言語を選択できます。エージェントは、このオプションが有効になるまで、選択した言語を記憶します。

ログオン/ログオフと電源設定

自動ログオンモードを有効にします。有効にすると、ユーザーは Windows ログオン画面をバイパスして、エージェントによってデスクトップ環境に自動的にログオンします。

Web ポータルをログオフするセッションが起動されたとき。有効にすると、ユーザーのデスクトップセッションが開始されると、[一般設定] ページで指定された Web フロントエンドがログオフされます。

セッション終了オプション。ユーザーがセッションを終了したときに、エージェントが実行している環境に対して実行するアクションを指定できます。

指定した時間にシャットダウンします。有効にすると、エージェントは、指定されたローカル時刻に実行されている環境を自動的にシャットダウンします。

アイドル時にシャットダウンします。有効にすると、エージェントは、アイドル状態（ユーザー入力なし）の実行後、指定した時間だけエージェントが実行されている環境を自動的にシャットダウンします。

バッテリーの状態を確認しないでください。Transformer のユースケースでは、エージェントはバッテリーのステータスをチェックし、バッテリーが少なくなっている場合にユーザーに警告します。有効の場合、エージェントはこのチェックを実行しません。

詳細設定

December 6, 2023

これらの設定は、エージェントがアクションを処理する方法とタイミングを変更します。

構成

これらのオプションは、基本的なエージェントの動作を制御します。

メイン構成

エージェントアクション。これらの設定は、[アクション] タブで構成されたアクションをエージェントが処理するかどうかを決定します。これらの設定は、ログオン時および更新（自動更新または手動更新）（ユーザーまたは管理者が起動）時に適用されます。

アプリケーションを処理します。選択すると、エージェントはアプリケーションのアクションを処理します。

プリンタを処理します。選択すると、エージェントはプリンタのアクションを処理します。

ネットワークドライブを処理します。選択すると、エージェントはネットワークドライブのアクションを処理します。

仮想ドライブを処理します。選択すると、エージェントは仮想ドライブのアクションを処理します。（仮想ドライブは、ローカルファイルパスをドライブ文字にマップする Windows 仮想ドライブまたは MS-DOS デバイス名です）。

レジストリ値を処理します。選択すると、エージェントはレジストリエントリアクションを処理します。

プロセス環境変数。選択すると、エージェントは環境変数のアクションを処理します。

プロセスポート。選択すると、エージェントはポートのアクションを処理します。

INI ファイル操作を処理します。選択すると、エージェントは.ini ファイルのアクションを処理します。

外部タスクの処理。選択すると、エージェントは外部タスクアクションを処理します。

ファイルシステムオペレーションを処理する。選択すると、エージェントはファイル・システムの操作アクションを処理します。

ファイルの関連付けを処理します。選択すると、エージェントはファイル関連付けアクションを処理します。

ユーザー **DSN** を処理します。選択すると、エージェントはユーザー DSN アクションを処理します。

エージェントサービスアクション。これらの設定は、エンドポイントでのエージェントサービスの動作を制御します。

ログオン時にエージェントを起動します。エージェントをログオン時に実行するかどうかを制御します。

再接続時にエージェントを起動します。エージェントが実行されているマシンにユーザーが再接続したときにエージェントを実行するかどうかを制御します。

管理者向けエージェントを起動します。ユーザーが管理者の場合にエージェントを実行するかどうかを制御します。

エージェントタイプ。エージェントと対話するときに、ユーザーにユーザーインターフェイス (UI) またはコマンドラインプロンプト (CMD) のどちらが表示されるかを制御します。

(仮想) デスクトップ互換性を有効にします。エージェントが実行されているデスクトップと互換性があることを確認します。この設定は、ユーザーがセッションにログオンしたときにエージェントを起動するために必要です。物理デスクトップまたは VDI デスクトップにユーザーがいる場合は、このオプションを選択します。

公開アプリケーションで **CMD** エージェントのみを実行します。有効にすると、エージェントは公開アプリケーションで UI モードではなく CMD モードで起動します。CMD モードでは、エージェントのスプラッシュ画面ではなくコマンドプロンプトが表示されます。

クリーンアップアクション

このタブに表示されるオプションは、エージェントが更新されたときにショートカットやその他の項目（ネットワークドライブとプリンタ）を削除するかどうかを制御します。ユーザーまたはユーザーグループにアクションを割り当てると、ショートカットやアイテムの作成も制御できます。これを行うには、[割り当て]>[アクションの割り当て]>[アクションの割り当て] タブの [****** 割り当て済み] ペインでアクションのオプションを設定します ******。Workspace Environment Management では、次のオプションが特定の優先度に従って処理されます

1. [クリーンアップ操作] タブに表示されるオプション
2. [割り当て済み] ペインで割り当てられたアクションに対して構成されたオプション

たとえば、[割り当て] ペインで割り当てられたアプリケーションの [****** デスクトップの作成] オプションを有効にしている、デスクトップにアプリケーションのショートカットがすでに作成されているとします。 ****** [クリーンアップ

操作] タブの [デスクトップショートカットの削除] オプションを有効にしても、エージェントが更新されてもショートカットはデスクトップ上に残ります。

起動時にショートカットの削除。エージェントは、更新時に、選択したタイプのすべてのショートカットを削除します。

起動時にネットワークドライブを削除します。有効にすると、エージェントは更新されるたびにすべてのネットワーク・ドライブを削除します。

起動時にネットワークプリンタを削除します。有効にすると、エージェントは更新されるたびにすべてのネットワークプリンタを削除します。

自動作成されたプリンタを保持します。有効にすると、エージェントは自動作成されたプリンタを削除しません。

特定のプリンタを保持します。有効にすると、エージェントはこのリスト内のプリンタを削除しません。

エージェントオプション

これらのオプションは、エージェントの設定を制御します。

エージェントロギングを有効にします。エージェントログファイルを有効にします。

ログファイル。ログファイルの場所。デフォルトでは、これはログインしたユーザーのプロファイルルートです。

デバッグモード。これにより、エージェントの詳細なログ記録が有効になります。

オフラインモードを有効にします。無効にすると、インフラストラクチャサービスへの接続に失敗しても、エージェントはキャッシュにフォールバックしません。

オンラインでもキャッシュを使用する。有効にすると、エージェントは常にキャッシュから設定とアクションを読み取ります（エージェントのサービスが循環するたびに構築されます）。

キャッシュを使用してアクション処理を加速します。有効にすると、エージェントはインフラストラクチャサービスからではなく、エージェントローカルキャッシュから関連する設定を取得してアクションを処理します。そうすることで、アクションの処理が高速化されます。デフォルトでは、このオプションは有効になっています。以前の動作に戻す場合は、このオプションを無効にします。

重要:

- エージェントのローカルキャッシュは、インフラストラクチャサービスと定期的に同期されます。したがって、[エージェントキャッシュの更新の遅延] オプション ([詳細設定] > [構成] > [サービスオプション] タブ) で指定した値に応じて、アクション設定の変更が有効になるまでに時間がかかります。
- 遅延を減らすには、低い値を指定します。変更をすぐに有効にするには、[管理] > [エージェント] > [統計] タブに移動し、該当するエージェントを右クリックして、コンテキストメニューで [キャッシュの更新] を選択します。
- この設定を無効にしないことをお勧めします。そうしないと、ネットワーク接続が不十分なシナリオでユーザーエクスペリエンスが低下する可能性があります。無効にすると、WEM サービスへの大量のトラフ

いくつかあるシナリオでは、管理コンソールで設定したアクションがエージェントホストに適用されないことがあります。

環境設定を更新。有効にすると、エージェントが更新されると、エージェントはユーザー環境設定の更新をトリガーします。環境設定の詳細については、[環境設定を参照してください](#)。

システム設定を更新する。有効にすると、エージェントが更新されると、エージェントは Windows システム設定 (Windows エクスプローラやコントロールパネルなど) の更新をトリガーします。

環境設定が変更されたときに更新します。有効にすると、環境設定が変更されると、エージェントはエンドポイントで Windows の更新をトリガーします。

デスクトップをリフレッシュ。有効にすると、エージェントの更新が発生すると、エージェントはデスクトップ設定の更新をトリガーします。デスクトップ設定の詳細については、「[デスクトップ](#)」を参照してください。

外観をリフレッシュ。有効にすると、エージェントが更新されると、エージェントは Windows テーマとデスクトップの壁紙のリフレッシュをトリガーします。

非同期プリンタ処理。有効にすると、エージェントは他のアクションの処理が完了するのを待たずにプリンターを非同期で処理します。

非同期ネットワークドライブ処理。有効にすると、エージェントは他のアクションの処理が完了するのを待たずにネットワークドライブを非同期で処理します。

初期環境クリーンアップ。有効にすると、エージェントは最初のログオン時にユーザー環境をクリーンアップします。具体的には、次の項目を削除します。

- ユーザーネットワークプリンタ。
 - [クリーンアップ操作] タブの [自動作成されたプリンタを保持] が有効になっている場合、エージェントは自動作成されたプリンタを削除しません。
 - [クリーンアップ操作] タブの [特定のプリンタを保持] が有効になっている場合、エージェントは一覧で指定されたプリンタを削除しません。
- ホームドライブであるネットワークドライブを除くすべてのネットワークドライブ。
- デスクトップ以外のすべてのショートカット、[スタート] メニュー、[クイック起動]、[スタート] ボタン-コンテキストメニューショートカット。
- すべてのタスクバーと [スタート] メニューのショートカットが固定されています。

初期デスクトップ **UI** クリーンアップ。有効にすると、エージェントは最初のログオン時にセッションデスクトップをクリーンアップします。具体的には、次の項目を削除します。

- デスクトップ以外のすべてのショートカット、[スタート] メニュー、[クイック起動]、[スタート] ボタン-コンテキストメニューショートカット。
- すべてのタスクバーと [スタート] メニューのショートカットが固定されています。

アプリケーションの存在を確認します。有効にすると、エージェントは、ユーザーがサインインするマシンにアプリケーションが存在することを確認しない限り、ショートカットを作成しません。

【アプリケーション変数】を展開します。有効にすると、変数はデフォルトで展開されます（[エージェントが変数に遭遇したときの通常の動作については、環境変数を参照](#)）。

クロスドメインユーザーグループ検索を有効にします。有効にすると、エージェントはすべての Active Directory ドメイン内のユーザー・グループに照会します。注: これは時間のかかるプロセスです。このオプションは必要な場合にのみ選択します。

ブローカーサービスのタイムアウト。エージェントがインフラストラクチャサービスへの接続に失敗したときに、エージェントが自身のキャッシュに切り替わるタイムアウト値。デフォルト値は 15000 ミリ秒です。

ディレクトリサービスのタイムアウト。エージェントホスト・マシン上のディレクトリ・サービスのタイムアウト値。その後、エージェントはユーザー・グループの関連付けの独自の内部キャッシュを使用します。デフォルト値は 15000 ミリ秒です。

ネットワークリソースタイムアウト。ネットワーク・リソース（ネットワーク上にあるネットワーク・ドライブまたはファイル/フォルダ・リソース）を解決するためのタイムアウト値。この値を過ぎると、エージェントはアクションが失敗したと判断します。デフォルト値は 500 ミリ秒です。

エージェントの最大並列度。エージェントが使用できるスレッドの最大数。デフォルト値は 0（プロセッサで物理的に許可されている数のスレッド）、1 はシングルスレッド、2 はデュアルスレッド、というように同様です。通常、この値は変更する必要はありません。

通知を有効にします。有効にすると、インフラストラクチャサービスへの接続が失われたり復元されたりすると、エージェントはエージェントホストに通知メッセージを表示します。低品質のネットワーク接続では、このオプションを有効にしないことをお勧めします。そうしないと、接続状態変更通知がエンドポイント（エージェントホスト）で頻繁に表示される場合があります。

詳細オプション

エージェントアクションの実行を強制します。これらの設定が有効になっている場合、変更が行われていない場合でも、エージェント・ホストは常にこれらのアクションを更新します。

未割り当てアクションを元に戻す。これらの設定が有効になっている場合、エージェント・ホストは次回の更新時に未割り当てのアクションをすべて削除します。

自動リフレッシュ。有効にすると、エージェント・ホストは自動的に更新されます。デフォルトでは、更新の遅延は 30 分です。

再接続アクション

再接続でのアクション処理。これらの設定は、ユーザー環境への再接続時にエージェントホストが処理するアクションを制御します。

高度な処理

フィルタ処理の適用。これらのオプションを有効にすると、エージェント・ホストは更新のたびにフィルタを再処理します。

サービスオプション

これらの設定は、Agent Host サービスを構成します。

エージェントキャッシュの更新遅延。この設定項目では、Citrix WEM エージェントホストサービスがキャッシュの更新を待機する時間を制御します。更新では、キャッシュと WEM サービスデータベースとの同期が維持されます。デフォルトは 30 分です。このオプションを使用する場合は、次の点に注意してください。

- キャッシュが WEM サービスデータベースと同期する最小間隔は 15 分です。15 分以上の整数を入力します。
- 実際の同期間隔は異なる場合があります。WEM エージェントは、指定された値に基づいて、エージェントキャッシュの更新遅延がタイムアウトするたびに、実際の同期間隔としてランダム値が選択された間隔を計算します。たとえば、値を 30 分に設定します。エージェントはこの間隔から $[(30 - 30/2), (30 + 30/2)]$ というランダムな値を選択します。

SQL 設定のリフレッシュ遅延。この設定項目では、Citrix WEM エージェントホストサービスが SQL 接続の設定を更新するまで待機する時間を制御します。デフォルトは 15 分です。15 分以上の整数を入力します。

エージェントの追加起動遅延。この設定では、Citrix WEM エージェントホストサービスがエージェントホスト実行可能ファイルの起動を待つ時間を制御します。デフォルトは 0 です。

ヒント:

エージェント・ホストで最初に必要な作業を完了させるシナリオでは、エージェント・アプリケーション・ランチャー (VUEMAppCmd.exe) の待機時間を指定できます。VUEMAppCmd.exe は、Citrix DaaS (以前の Citrix 仮想アプリケーションおよびデスクトップサービス) および Citrix Virtual Apps and Desktops の公開アプリケーションが起動する前に、エージェントホストが環境の処理を終了することを保証します。待機時間を指定するには、[エージェントホスト構成] グループポリシーの vueMappCmd 追加同期遅延設定を構成します。詳細については、「[エージェントのインストールと構成](#)」を参照してください。

デバッグモードを有効にします。これにより、このサイトに接続しているすべてのエージェントホストの詳細ログが有効になります。

ie4unit チェックをバイパスします。デフォルトでは、Citrix WEM エージェントホストサービスは、エージェントホスト実行可能ファイルを起動する前に、ie4unit の実行を待機します。この設定では、エージェントホストサービスが ie4unit を待たないように強制します。

エージェント起動の除外。有効にすると、指定したユーザーグループに属するユーザーに対して Citrix WEM エージェントホストが起動されません。

コンソール設定

禁止されたドライブ。このリストに追加されたドライブ文字は、ドライブリソースを割り当てるときにドライブ文字の選択から除外されます。

割り当てプロセスでのドライブ文字の再利用を許可します。有効にすると、アサインで使用されているドライブ文字は、他のアサインでも使用できます。

StoreFront

このタブを使用して、StoreFront ストアを Workspace Environment Management サービスに追加します。次に、[アクション]>[アプリケーション]>[アプリケーションリスト]タブに移動して、これらのストアで使用可能なアプリケーションを追加できます。これにより、公開アプリケーションをアプリケーションのショートカットとしてエンドポイントに割り当てることができます。詳細については、「[アプリケーション](#)」を参照してください。トランスフォーマー（キオスク）モードでは、割り当てられた StoreFront アプリケーションアクションが [アプリケーション] タブに表示されます。StoreFront アの詳細については、[StoreFront のドキュメント](#)を参照してください。

ストアを追加するには

1. [追加] をクリックします。
2. [ストアの追加] ダイアログに詳細を入力し、[OK] をクリックします。ストアが構成セットに保存されます。

URL をストアします。Workspace Environment Management を使用してリソースにアクセスするストアの URL。URL を次の形式で指定します: `http[s]://hostname[:port]`。ホスト名はストアの FQDN で、プロトコルのデフォルトポートが使用できない場合、ポートはストアとの通信に使用されるポートです。

重要:

- 使用するストア URL は、外部ネットワークから直接アクセスできる必要があり、NetScaler ADC などのソリューションの背後に存在してはいけません。
- この機能は、多要素認証を使用する StoreFront では機能しません。

説明。ストアを説明するオプションのテキスト。

ストアを編集するには リスト内のストアを選択し、[編集] をクリックして、ストアの URL または説明を変更します。

ストアを削除するには リストからストアを選択し、[削除] をクリックして、構成セットからストアを削除します。

変更を適用するには [Apply] をクリックして、ストア設定をエージェントにすぐに適用します。

Wake-on-LAN

エージェント・ホストをリモートでオンにするには、このタブを使用します。WEM は、ターゲットエージェントと同じサブネットに存在するエージェントを自動的に選択し、それらのエージェントを Wake on LAN メッセージャーとして使用します。この機能には、Wake on LAN と互換性のあるハードウェアが必要です。この機能を使用するには、ターゲットマシンがハードウェア要件を満たし、関連する BIOS 設定が構成されていることを確認します。

エージェントの **Wake on LAN** を有効にします。Windows オペレーティングシステムの設定を構成して、エージェントホストの Wake on LAN を有効にするかどうかを制御します。選択すると、エージェントは次のシステム設定を構成します。

- ネットワークアダプタのエネルギー効率に優れたイーサネットを無効にする
- ネットワークアダプタの **Wake on Magic Packet** を有効にする
- [このデバイスがネットワークアダプタのコンピュータをスリープ解除できるようにする] を有効にします。
- [有効] マジックパケットのみによるネットワークアダプタのコンピュータのスリープ解除を許可する
- 無効化高速起動をオンにする

このオプションを有効にした後、[管理] > [エージェント] > [統計] タブに移動し、リストから 1 つ以上のエージェントを選択し、[エージェントをウェイクアップ] をクリックして選択したエージェントを起動します。

UI エージェントのパーソナライズ

これらのオプションを使用すると、UI モードでエージェントのルックアンドフィールをパーソナライズできます。これらのオプションは、ユーザー環境での UI エージェントの表示方法を決定します。

注:

これらのオプションは、UI モードのエージェントにのみ適用されます。CMD モードのエージェントには適用されません。

UI エージェントオプション

これらの設定では、ユーザー環境でのセッションエージェント (UI モードのみ) の外観をカスタマイズできます。

カスタム背景イメージパス。指定すると、エージェントの起動または更新時に、Citrix Workspace Environment Management のロゴの代わりにカスタムスプラッシュ画面が表示されます。イメージは、ユーザー環境からアクセス可能である必要があります。400*200 px の.bmp ファイルを使用することをお勧めします。

円の色を読み込んでいます。ロードする円の色をカスタム背景に合わせて修正できます。

テキストラベルの色。ロードするテキストの色をカスタム背景に合わせて修正できます。

UI エージェントスキン。 UI エージェントから開くダイアログに使用する、構成済みのスキンを選択できます。たとえば、[アプリケーションの管理] ダイアログや [プリンタの管理] ダイアログなどです。注: この設定では、スプラッシュ画面は変更されません。

エージェントのスプラッシュ画面を非表示にします。有効にすると、エージェントがロード中またはリフレッシュ中のスプラッシュ画面が非表示になります。この設定は、エージェントが初めて更新されるときには有効になりません。

公開アプリケーションでエージェントアイコンを非表示にします。有効にすると、公開アプリケーションにはエージェントアイコンが表示されません。

公開アプリケーションでエージェントのスプラッシュ画面を非表示にします。有効にすると、エージェントが実行されている公開アプリケーションのエージェントのスプラッシュ画面が非表示になります。

管理者だけがエージェントを閉じることができます。有効にすると、管理者だけがエージェントを終了できます。その結果、管理者以外のエンドポイントでは、エージェントメニューの [終了] オプションが無効になります。

ユーザーによるプリンタの管理を許可します。有効にすると、エンドポイントのユーザーがエージェントメニューの [プリンタの管理] オプションを使用できます。このオプションをクリックすると、[プリンタの管理] ダイアログが開き、既定のプリンタを構成したり、印刷環境設定を変更できます。デフォルトでは、このオプションは有効になっています。

ユーザーがアプリケーションの管理を許可する。有効にすると、エンドポイントのユーザーがエージェントメニューの [アプリケーションの管理] オプションを使用できます。ユーザーは、オプションをクリックして [アプリケーションの管理] ダイアログを開き、次のオプションを構成できます。デフォルトでは、このオプションは有効になっています。

- デスクトップ。アプリケーションのショートカットをデスクトップに追加します。
- [スタート] メニュー。[スタート] メニューフォルダにアプリケーションショートカットを作成します。
- **QuickLaunch**。アプリケーションをクイック起動ツールバーに追加します。
- タスクバー **(P)**。タスクバーにアプリケーションショートカットを作成します。
- スタートメニュー **(P)**。アプリケーションを [スタート] メニューに固定します。

注:

自己修復モードで作成したショートカットは、このメニューでは削除できません。

クイック起動オプションは、Windows XP および Windows Vista でのみ使用できます。

管理者がエージェントを閉じないようにする。有効にすると、管理者はエージェントを終了できません。

[アプリケーションショートカット] を有効にします。有効にすると、エージェントメニューに [マイアプリケーション] オプションを表示するかどうかを制御します。ユーザーは [マイアプリケーション] メニューからアプリケーションを実行できます。デフォルトでは、このオプションは有効になっています。

管理更新フィードバックを無効にします。このオプションを有効にすると、管理者が管理コンソールを使用してエージェントを強制的に更新しても、ユーザー環境に通知は表示されません。

ユーザーにアクションのリセットを許可します。エージェントメニューに「アクションのリセット」オプションを表示するかどうかを制御します。デフォルトでは、このオプションは無効になっています。[アクションのリセット **] オプションを使用すると、現在のユーザーが自分の環境でリセットするアクションを指定できます。ユーザーが [** アクションのリセット] を選択すると、[アクションのリセット] ダイアログが表示されます。ダイアログでは、リセットする内容を細かく制御できます。ユーザーは該当するアクションを選択し、[リセット] をクリックします。この操作を行うと、対応するアクション関連のレジストリエントリが消去されます。

注:

- エージェントメニューでは、常に [更新] と [バージョン情報] の 2 つのオプションを使用できます。[**Refresh**] オプションを使用すると、WEM エージェント設定の即時更新がトリガーされます。その結果、管理コンソールで設定した設定はただちに有効になります。[**About**] オプションを選択すると、使用中のエージェントに関するバージョンの詳細を表示するダイアログが開きます。

ヘルプデスクオプション

これらのオプションは、エンドポイントのユーザーが利用できるヘルプデスク機能を制御します。

ヘルプリンクアクション。エンドポイントのユーザーが [ヘルプ] オプションを使用できるかどうか、およびユーザーがクリックしたときの動作を制御します。ユーザーがヘルプを求めることができる Web サイトのリンクを入力します。

カスタムリンクアクション。エージェントメニューに [サポート] オプションを表示するかどうか、およびユーザーがクリックしたときの動作を制御します。ユーザーがサポート関連情報にアクセスできる Web サイトのリンクを入力します。

スクリーンキャプチャを有効にします。エージェントメニューに [キャプチャ] オプションを表示するかどうかを制御します。ユーザーは、オプションを使用して画面キャプチャツールを開くことができます。このツールには、次のオプションがあります。

- 新しいキャプチャ。ユーザー環境でのエラーのスクリーンショットを撮ります。
- 保存。スクリーンショットを保存します。
- サポートに送る。スクリーンショットをサポートスタッフに送信します。

[サポートに送信] オプションを有効にします。スクリーンキャプチャツールで [サポートに送信] オプションを表示するかどうかを制御します。有効にすると、ユーザーはオプションを使用してスクリーンショットとログファイルを指定した形式で指定したサポート電子メールアドレスに直接送信できます。この設定には、正常に構成された電子メールクライアントが必要です。

カスタム件名。有効にすると、画面キャプチャツールがサポート電子メールの送信に使用する電子メールの件名テンプレートを指定できます。

メールテンプレート。スクリーンキャプチャツールがサポート電子メールの送信に使用する電子メールコンテンツテンプレートを指定できます。このフィールドは空にできません。

注:

メールテンプレートで使用できるハッシュタグの一覧については、「[動的トークン](#)」を参照してください。

##UserScreenCaptureComment## ハッシュタグが電子メールテンプレートに含まれている場合にのみ、コメントを入力するオプションが表示されます。

SMTP を使用して電子メールを送信します。有効にすると、は MAPI ではなく SMTP を使用してサポート電子メールを送信します。

SMTP をテストします。上記のように SMTP 設定をテストし、それらが正しいことを確認します。

省電力

指定した時刻にシャットダウンします。有効にすると、エージェントは指定した時刻に実行されているマシンを自動的にシャットダウンできます。時刻は、エージェントのタイムゾーンに基づきます。

アイドル時にシャットダウンします。有効にすると、指定した時間だけマシンがアイドル状態（ユーザー入力なし）になった後に、エージェントが実行されているマシンを自動的にシャットダウンできます。

管理

August 30, 2022

[管理] ペインは、次の項目で構成されています。

- **[ユーザー]**。ユーザ統計を表示できます。
- **エージェント**。エージェント統計を表示し、キャッシュのリフレッシュ、設定のリセット、統計のアップロードなどの管理タスクを実行できます。
- **ロギング**。Workspace Environment Management (WEM) の管理アクティビティを表示できます。ログを使用して、次のことができます。
 - 構成変更の履歴を確認して問題の診断およびトラブルシューティングを行う。
 - 変更管理の補助および構成の追跡を行う。
 - 管理アクティビティをレポートします。

ユーザー

このページには、WEM 展開に関する統計が表示されます。

統計

このページには、エージェント・ホストがデータベースに接続しているユーザーのサマリーが表示されます。

ユーザーサマリー。現在のサイト (構成セット) とすべてのサイト (構成セット) の両方について、WEM ライセンスを予約したユーザーの総数を表示します。また、過去 24 時間および先月の新規ユーザー数も表示されます。

ユーザー履歴。これにより、現在のサイト (構成セット) に関連付けられたすべてのユーザーの接続情報が表示されます。これには、最後の接続時刻 (協定世界時、UTC)、最後に接続したマシンの名前、セッションエージェントのタイプ (UI または CMD) とバージョンが含まれます。[検索] を使用すると、テキスト文字列に対して名前または ID でリストをフィルタリングできます。

エージェント

このページには、WEM 展開内のエージェントに関する統計が表示されます。

統計

このページには、WEM データベースに記録された WEM エージェントの概要が表示されます。

エージェントの概要。現在の構成セットとすべての構成セットの両方について、WEM ライセンスを予約したエージェントの総数を表示します。また、過去 24 時間および先月に追加されたエージェントも報告します。

エージェント履歴。構成セットに登録されているすべてのエージェントの接続情報 (最終接続時刻、前回接続したデバイスの名前、エージェントのバージョンなど) を表示します。[検索] を使用して、名前または ID でリストをフィルタできます。

[同期状態] 列では、次のアイコンが、エージェントキャッシュと WEM サービスの最後の同期の結果を示します。

- 成功 (チェックマークアイコン) 前回の同期が成功し、同期の結果が管理コンソールに報告されたことを示します。
- 不明 (疑問符アイコン)。同期が進行中、同期がまだ開始されていない、または同期の結果が管理コンソールに報告されていないことを示します。
- 失敗 (X アイコン)。前回の同期が失敗したことを示します。

[**Profile Management** の健全性ステータス] 列では、展開の Profile Management のヘルスステータスを表示できます。

Profile Management の健全性ステータスは、エージェントホストで自動ステータスチェックを実行し、Profile Management が最適に構成されているかどうかを判断します。これらのチェックの結果を表示して、各エージェントホストの出力ファイルから特定の問題を特定できます (%systemroot%\temp\UpmConfigCheckOutput.xml)。機能は、毎日、または WEM エージェントホストサービスが起動するた

びにステータスチェックを実行します。ステータスチェックを手動で実行するには、管理コンソールで選択したエージェントを右クリックし、コンテキストメニューの [**Profile Management** 構成チェックの更新] を選択します。各ステータスチェックは、ステータスを返します。最新のステータスを表示するには、[更新] をクリックします。**Profile Management** の健全性ステータス列のアイコンには、Profile Management のヘルスステータスに関する一般的な情報が表示されます。

- 良好 (チェックマークアイコン) Profile Management が良好な状態であることを示します。
- 警告 (三角形の感嘆符アイコン)。Profile Management の最適でない状態について通知します。最適でない設定は、展開環境での Profile Management のユーザーエクスペリエンスに影響する可能性があります。このステータスは、必ずしもユーザー側でのアクションを必要としません。
- エラー (X アイコン) Profile Management が正しく構成されていないため、Profile Management が正しく機能しないことを示します。
- 使用不可 (疑問符アイコン)。このアイコンは、Profile Management が見つからない、または有効になっていない場合に表示されます。

ステータスチェックに経験が反映されない場合や、発生している問題が検出されない場合は、Citrix テクニカルサポートに連絡してください。

[最近の接続 (**Recently Connected**)] 列の次のアイコンは、エージェントが特定の区間内に統計情報を WEM サービスにアップロードしたことを示します。エージェントはオンラインです。空白の列フィールドは、エージェントがオフラインであることを示します。

- オンライン (チェックマークアイコン)

期限切れのレコードをクリアします。WEM サービスデータベースから期限切れのレコードを削除できます。ユーザーの最終ログオン時間が 24 時間以上前の場合、対応するレコードは期限切れになります。

エージェントをウェイクアップします。選択したエージェントをウェイクアップできます。

エージェントを更新するには エージェントを更新すると、インフラストラクチャサーバーと通信します。インフラストラクチャサーバーは、WEM データベースを使用してエージェントホスト ID を検証します。

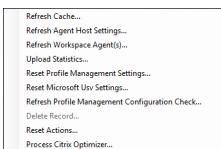
1. [更新] をクリックして、エージェントのリストを更新します。
2. コンテキストメニューで、[ワークスペースエージェントを更新] を選択します。

コンテキストメニューのオプション ドメインに参加していないエージェントや登録済みのエージェントにオプションを適用する場合は、次の点を考慮してください。

- エージェントはバージョン 2207.1.0.1 以降である必要があります。
- ターゲットエージェントには、これらのタスクの実行がすぐには通知されません。通知は、ターゲットエージェントまたは同じサブネット上の別のエージェントが Citrix Cloud に接続して設定を更新するときに送信さ

れます。そのため、タスクがエージェント側で実行されるまでに遅延が生じる可能性があります。同じサブネット上に存在するエージェントが多いほど、遅延は短くなります。

- 最大遅延は、**SQL** 設定の更新遅延の値の **1.5** 倍です。既定では、[**SQL** 設定の更新遅延] の値は 15 分です。「[サービスオプション](#)」を参照してください。そのため、その場合の最大遅延は 22.5 (1.5 x 15) 分です。



現在、これらのオプションをドメインに参加していない登録済みのエージェントに適用することはサポートされていません。

キャッシュをリフレッシュ。エージェントローカルキャッシュ (WEM 構成データベースのエージェント側のレプリカ) の更新をトリガーします。キャッシュを更新すると、エージェントローカルキャッシュがインフラストラクチャサービスと同期されます。

エージェントホストの設定を更新します。エージェントサービス設定を適用します。これらの設定には、詳細設定、最適化設定、トランスフォーマー設定、およびユーザー割り当て以外の設定が含まれます。

ワークスペースエージェントをリフレッシュします。ユーザーが割り当てたアクションを WEM エージェントに適用します。これらのアクションには、ネットワークドライブ、プリンタ、アプリケーションなどがあります。

重要:

- [ワークスペースエージェントのリフレッシュ] オプションは、自動的に起動される (エンドユーザーまたはスクリプトを使用して起動しない) UI モードのエージェントでのみ機能します。このオプションは、CMD モードのエージェントでは機能しません。
- すべての設定をリフレッシュできるわけではありません。一部の設定 (環境設定、グループポリシー設定など) は、起動時またはログオン時にのみ適用されます。

統計情報をアップロードします。統計情報をインフラストラクチャサービスにアップロードします。

Profile Management 設定をリセットします。レジストリキャッシュをクリアし、関連する構成設定を更新します。Profile Management 設定がエージェントに適用されていない場合は、[**Profile Management** 設定のリセット] をクリックします。このオプションを使用できるようにするには、[**更新**] をクリックする必要がある場合があります。

注:

WEM 管理コンソールから [**Profile Management** 設定のリセット] を構成した後に設定がエージェントに適用されない場合は、[CTX219086](#) で回避策を参照してください。

Microsoft USV 設定をリセットします。レジストリキャッシュをクリアし、関連する構成設定を更新します。Microsoft USV 設定がエージェントに適用されていない場合は、[**Microsoft Usv** 設定のリセット] をクリックし、[**更新**] をクリックします。

Profile Management 構成チェックのリフレッシュ。エージェントホストのステータスチェックを実行して、Profile Management が最適に構成されているかどうかを判断します。

レコードの削除。データベースからエージェントレコードを削除できるようにします。エージェントがまだアクティブな場合、このオプションはグレー表示されます。

アクションのリセット。適用可能なマシン上のすべてのアクション関連のレジストリエントリを消去することによって、割り当てたすべてのアクションをリセットできます。

Citrix Optimizer を処理します。設定をエージェントに適用し、Citrix Optimizer の設定に対する変更がすぐに有効になります。

このセクションで前述した更新操作は、エージェント側でも実行できます。ただし、これらの操作は、実際の条件によって動作が異なります。詳細については、「[エージェント側の更新操作](#)」を参照してください。

Agent を最新バージョンにアップグレードします。エージェントを最新バージョンにアップグレードできます。エージェントのアップグレードを実行する時刻によって、エージェントの最新バージョンが決まります。エージェントの最新バージョンを確認するには、WEM サービスの [ユーティリティ] タブに移動します。

登録

このページには、データベースに記録された WEM エージェントの登録ステータスが表示されます。

重要:

WEM エージェントは、設定を適用できるように WEM サービスに登録する必要があります。エージェントは 1 つの構成セットにのみバインドできます。

次の情報が報告されます。

マシン名。エージェントが実行されているコンピュータの名前。

状態。エージェント・ホスト・コンピュータ上のエージェントの登録ステータス。アイコンと次の説明で示され、登録の成功または失敗に関する詳細が示されます。

エージェントはどのサイトにもバインドされていません。エージェントがどのサイト (構成セット) にもバインドされていないため、インフラストラクチャサーバーはこのエージェントのサイト (構成セット) を解決できません。

エージェントは 1 つのサイトにバインドされています。インフラストラクチャサーバーは、必要なマシン依存の設定を、そのサイト (構成セット) のエージェントに送信しています。

エージェントは複数のサイトにバインドされています。エージェントが複数のサイト (構成セット) にバインドされているため、インフラストラクチャサーバーはこのエージェントのサイト (構成セット) を解決できません。

登録エラーを解決するには どちらか

- Active Directory 階層 (コンピューター、コンピューターグループ、および OU 間の関係) を編集する

または

- WEM 階層を編集して (管理コンソールの [[Active Directory オブジェクト](#)] セクションで)、コンピューターが 1 つのサイト (構成セット) のみにバインドされるようにします。

これらの変更を行った後、インフラストラクチャサーバでエージェントを更新します。

ログ

行政機関

このタブには、データベースの WEM 設定に加えられたすべての変更のリストが表示されます。デフォルトでは、ログを手動で更新するまで、ログは入力されません。

フィルタリングオプション。これらのオプションを使用すると、サイト (構成セット) と日付範囲でログをフィルタリングできます。

ログのエクスポート。ログイン XLS 形式をエクスポートします。

ログのリフレッシュ。ログを更新します。

ログをクリアします。すべての構成セットのログをクリアします。これは元に戻すことはできません。ログをクリアすると、新しいログに 1 つのイベントが追加されます。このオプションは、グローバルフルアクセス管理者のみが使用できます。

エージェント

このタブには、WEM エージェントに加えられたすべての変更が一覧表示されます。[**Refresh**] をクリックするまで、ログは入力されません。

フィルタリングオプション。これらのオプションを使用すると、サイト (構成セット) と日付範囲でログをフィルタリングできます。

ログのエクスポート。ログイン XLS 形式をエクスポートします。

ログのリフレッシュ。ログを更新します。

ログをクリアします。すべての構成セットのログをクリアします。これは元に戻すことはできません。ログをクリアすると、新しいログに 1 つのイベントが追加されます。このオプションは、グローバルフルアクセス管理者のみが使用できます。

監視

July 4, 2023

これらのページには、詳細なユーザーログインレポートとマシン起動レポートが含まれます。

デイリーレポート

デイリーログインレポート。このサイトに接続しているすべてのユーザーのログイン時間の日次サマリー。カテゴリをダブルクリックすると、各デバイスの各ユーザーの個々のログオン時間を示す詳細ビューが表示されます。

デイリーブートレポート。このサイトに接続されているすべてのデバイスでの起動時間の毎日のサマリー。カテゴリをダブルクリックすると、各デバイスの個別の起動時間を示す詳細ビューが表示されます。

ユーザートレンド

ログイントレンドレポート。このレポートには、選択した期間における各日の全体的なログイン傾向が表示されます。各日の各カテゴリをダブルクリックすると、詳細ビューが表示されます。

ブートトレンドレポート。このレポートには、選択した期間における各日の全体的なブート傾向が表示されます。各日の各カテゴリをダブルクリックすると、詳細ビューが表示されます。

デバイスタイプ。このレポートには、このサイトに接続している各オペレーティングシステムのデバイスの数が1日単位で表示されます。各デバイスタイプをダブルクリックすると、詳細が表示されます。

ユーザーとデバイスのレポート

ユーザーレポート。このレポートでは、選択した期間における単一ユーザーのログイン傾向を表示できます。各データポイントをダブルクリックして、詳細ビューを表示できます。

デバイスレポート。このレポートでは、選択した期間における単一デバイスのブート傾向を表示できます。各データポイントをダブルクリックして、詳細ビューを表示できます。

プロファイルコンテナに関するインサイト

この機能は、Profile Management および FsLogix のプロファイルコンテナを監視します。プロファイルコンテナの基本的な使用状況データ、プロファイルコンテナを使用するセッションのステータス、検出された問題などに関する洞察を提供します。この機能を使用して、プロファイルコンテナのスペース使用状況を把握し、プロファイルコンテナの動作を妨げる問題を特定します。

まとめ

2つのドーナツチャートが含まれています。

- 使用済み領域。左側のグラフには、指定した期間におけるプロファイルコンテナのスペース使用量が表示されます。
- セッションステータス。右側のグラフには、指定した期間に確立されたセッションのプロファイルコンテナをアタッチした結果が表示されます。

期間（たとえば、過去 6 日間）を指定したら、[更新] をクリックしてグラフの更新をトリガーします。

使用領域が **(GB)** を超える場合は高。しきい値を超えると、プロファイルコンテナのスペース使用量を高い値として扱うことができます。正の整数を入力します。

使用領域が **(GB)** 未満の場合、低。しきい値を下回って、プロファイルコンテナのスペース使用量を低値として扱うことができます。正の整数を入力します。

注:

- 上限しきい値は、下限しきい値よりも大きくする必要があります。
- 上限と下限の閾値を指定したら、「更新」をクリックして「使用済みスペース」グラフの更新をトリガーします。
- 上限しきい値および下限しきい値を指定した後、その間の領域使用量はデフォルトで [中 (**Medium**)] になります。

コンテナステータスのプロファイル

指定した期間におけるプロファイルコンテナのステータスレコードのリストを表示します。期間（たとえば、過去 6 日間）を指定したら、[更新] ボタンをクリックしてレコードをフィルタします。

選択したレコードが関係するコンテナのデータの収集をトリガーできます。これにより、ユーザーのコンテナステータスが最新の状態になります。そのためには、ステータスレコードを右クリックし、[Refresh] を選択します。更新操作により、一連のタスクが実行されます。まず、関連するエージェント・ホストにタスクがただちに送信されます。エージェントはタスクを受信し、コンテナがエージェント・ホストで使用中の場合、ステータス関連のデータを収集します。その後、収集されたデータで最新のアタッチレコードが更新されます。ステータスが更新されるまでしばらく時間がかかる場合があります。最新のレコードを表示するには、[Refresh] ボタンをクリックします。

[**Status**] 列には、ステータスコードとエラーコードに関する情報が表示されます。エラーコードの詳細については、の Microsoft のドキュメントを参照してください <https://docs.microsoft.com/en-us/fslogix/fslogix-error-codes-reference>。

構成

レポートオプション

これらのオプションを使用すると、レポート期間と稼働日を制御できます。また、** 最小ブート時間とログイン時間 ** (秒) を指定することもできます。この値を下回るとレポートされません。

管理 (Web コンソール)

April 4, 2022

管理コンソールの起動

1. Citrix Cloud アカウントにログオンします。
2. [Workspace Environment Management (WEM)] サービススタイルで、[管理] をクリックします。
3. [概要] で [サービスの管理] をクリックするか、[管理] タブをクリックします。

デプロイメントを構成する

[管理] > [Web コンソール] を使用して WEM 設定を構成します。コンソールは次の 2 つのペインで構成されています。

- 左側のペイン (ナビゲーションペイン)。クイックナビゲーションノードが表示されます。次のノードを使用できます。
 - ホーム。WEM 展開の概要と、WEM を迅速に理解して使用を開始するために必要な情報を提供します。
 - 構成セット。構成セットの一覧を表示します。
 - ディレクトリオブジェクト。WEM で管理するマシン、グループ、OUなどを追加できます。
 - モニタリング。WEM 展開を監視およびトラブルシューティングするためのダッシュボードを表示し、管理タスクを実行できるようにします。ノードをクリックすると、さらに多くの項目が表示されます。
 - [ファイル]。クラウドストレージ上のすべてのファイルを 1 か所で管理できます。

- スクリプト化されたタスク。独自の環境管理ニーズに合わせてカスタマイズしたスクリプト化されたタスクを追加できます。その後、該当する構成セットで構成することで、WEM でこれらのタスクを自動化できます。

- 右側のペインには、現在いるノードに関する詳細が表示されます。

Web コンソールで使用できる設定の詳細については、「[ユーザーインターフェイスの説明 \(Web コンソール\)](#)」を参照してください。

ホームページ

October 20, 2022

このページには、Workspace Environment Management (WEM) の展開の概要と、WEM をすぐに理解して使い始めるために必要な情報が表示されます。

このインターフェイスは、次の 4 つの部分で構成されます。

- 概要
- クイックアクセス
- ハイライト
- プレビュー機能

概要

WEM 展開の概要を説明します。次の情報が含まれます。

- すべての構成セットに対するエージェントの総数
- ユーザーが最近ログオンしたエージェントマシンの数
- VDA の健全性ステータス

エージェントの詳細を表示するには、[エージェント統計の表示] をクリックして [モニタリング] > [管理] > [エージェント] に移動します。エージェント情報を表示し、キャッシュの更新、設定のカスタマイズ、エージェント情報の取得などの管理タスクを実行できます。詳細については、「[WEM エージェント](#)」を参照してください。

VDA の健全性ステータスを詳細に表示するには、[通常] の [表示] をクリックして正常状態の **VDA** に関するレポートを表示するか、[異常] の [表示] をクリックして異常な状態の VDA に関するレポートを表示します。詳細については、「[レポート](#)」を参照してください。

クイックアクセス

WEM が提供する主要機能のサブセットにすばやくアクセスできます。Web コンソールでは次の機能を使用できません。

- リソース使用率を最適化します。ユーザーのログオン時間を短縮し、アプリケーションの応答性を高めることができます。
- 洞察を得る。プロファイルコンテナとアプリケーションの動作に関するインサイトを得ることができます。
- スクリプト化されたタスクを設定する。固有の環境管理ニーズに合わせて、スクリプト化されたタスクをカスタマイズできます。

ヒント:

クイックアクセスリンクをクリックすると、該当する構成セットを選択するよう求めるウィンドウが表示されます。すると、構成セット内の機能ページに直接移動します。

レガシーコンソールでは次の機能を使用できます。

- プロファイル管理を最適化します。すべてのユーザーデスクトップで統一されたエクスペリエンスを提供できます。
- グループポリシーを割り当てます。他のアクションを割り当てる場合と同様に、グループポリシーオブジェクトをさまざまな Active Directory グループに割り当てることができます。
- エンタープライズセキュリティを強制。追加の AppLocker ルールを適用してデスクトップを保護できます。

ハイライト

WEM が提供する主な機能を示します。Web コンソールでは次の機能を使用できます。

- [CPU 管理](#)
- [スクリプト化されたタスク](#)

レガシーコンソールでは次の機能を使用できます。

- [権限昇格](#)
- [外部タスク](#)

プレビュー機能

現在プレビュー段階の機能を表示します。プレビュー機能を表示するには、コンソールの右上隅にあるプレビュー機能アイコンをクリックします。新しいプレビュー機能が利用可能になるたびに、赤い点が表示されます。表示するプレビュー機能がない場合は、次のツールチップが表示されます: **No preview features to show at the moment.**

プレビュー機能は完全にはローカライズされていない可能性があるため、本番環境以外での使用が推奨されます。プレビュー機能で見つかった問題は、Citrix テクニカルサポートではサポートされていません。

プレビュー機能を有効または無効にした後は、ブラウザウィンドウを更新して変更を有効にします。

構成セット

April 10, 2024

このページでは、構成セットを管理できます。構成セットは、一連の Workspace Environment Management (WEM) 構成を整理するために使用される論理コンテナです。次の操作を実行できます：

- 構成セットを追加する
- 構成セットを編集または削除する
- 構成セットをお気に入り追加
- 構成セットの設定を構成する
- 現在の設定のバックアップコピーを保存する
- 以前にバックアップしたバージョンの WEM サービス設定に戻す
- 検索ボックスを使用すると、構成セットをすばやく検索できます。
- [バックアップと復元] ボタンの横にある [更新] アイコンをクリックして、現在のページを更新します。

次の 2 つの組み込み設定セットがあります。

- 既定のサイト。組み込み WEM 構成セット。
- バインド解除されたエージェント。組み込み WEM 構成セット。どの構成セットにもバインドされていないエージェントでのみ使用できます。この構成セットの設定をこれらのエージェントに適用するには、[ディレクトリオブジェクト] > [詳細設定] に移動します。

注：

- [既定のサイト] では削除できません。必要に応じて、名前と説明を変更できます。
- **Unbound Agent** の場合は、削除も編集もできません。[構成セットを編集] オプションは使用できません。

構成セットを追加する

ディレクトリオブジェクト (ユーザー、マシン、グループ、OU) に設定を適用する構成セットを作成します。そのため、次の手順に従います。

1. [構成セット] ノードで、[構成セットの追加] をクリックします。
2. 構成セットの名前を指定します。
3. オプションで、構成セットを識別するのに役立つ追加情報を指定します。
4. [保存] をクリックします。

構成セットを編集または削除する

構成セットを編集または削除するには、次の手順を実行します。

1. [構成セット] ノードで、構成セットを探します。
2. 構成セットをクリックします。構成セットの詳細ビューが表示されます。
3. 右上隅にある [構成セットの編集] をクリックします。
4. 名前と説明を編集するか、[構成セットの削除] をクリックします。

構成セットをお気に入りに追加

構成セットをお気に入りに追加するには、次の手順を実行します。

1. [構成セット] ノードで、構成セットを探します。
2. 構成セットをクリックします。
3. 右上の [お気に入りに追加] をクリックします。

注:

- 最大 5 つの構成セットをお気に入りに追加できます。
- お気に入りは管理者ごとに保存されます。

構成セットの設定を構成する

構成セットの設定を構成するには、次の手順を実行します。

1. [構成セット] ノードで、構成セットを探します。
2. 構成セットをクリックします。
3. 必要に応じて設定を行います。

構成セットに対して次の設定を構成できます。

- [システム最適化](#)
- [詳細設定](#)
- [スクリプト化されたタスク設定](#)

バックアップと復元

[バックアップと復元] ページには、既存のバックアップの一覧が表示されます。バックアップには、自動バックアップと手動バックアップ (構成セットと設定) の 2 種類があります。コンテンツタイプ列で自動バックアップと手動バックアップを区別できます。

バックアップごとに、次の操作を実行できます。

- 復元。バックアップから構成を復元できます。バックアップから構成を復元すると、選択した構成セットに関連するすべての設定がバックアップの設定に置き換えられます。

注:

- Profile Management の設定を構成セットに復元するには、その構成セットの下にある [プロファイル] > [Profile Management 設定] ページのクイックセットアップ機能を使用することもできます。
- Profile Management の設定をバックアップから復元すると、関連するサービスに使用するために選択された SMB 共有も復元されます。

- [ダウンロード]。バックアップのコピーをローカルマシンに保存できます。バックアップは、ブラウザのデフォルトのダウンロード場所に保存されます。バックアップファイルは JSON 形式です。
- [削除]。既存のバックアップを削除できます。

また、次の操作も実行できます。

- [アップロード] ボタンの横にある [更新] アイコンをクリックして、現在のページを更新します。
- 設定ファイルのアップロード
- 自動バックアップを管理する
- 構成セットをバックアップする
- Profile Management の設定をバックアップする

設定ファイルのアップロード

以前のバックアップに戻すために使用される JSON ファイルをアップロードできます。JSON ファイルには、構成セットまたは Profile Management 設定を含めることができます。ファイルをアップロードするには、次の手順に従います。

1. [アップロード] をクリックします。バックアップファイルのアップロードウィザードが表示されます。
2. 「ブラウズ」をクリックし、アップロードするファイルをブラウズしてファイルを選択し、「開く」をクリックします。バックアップファイルのアップロードウィザードに戻ります。
3. ファイルの名前を指定してください。

4. [**Upload**] をクリックしてアップロードを開始します。

注:

- アップロードできるのは JSON ファイルのみです。
- アップロードできるのは、サイズが 5 MB 未満のファイルのみです。

自動バックアップを管理する

構成セットのバックアップは、自動的に保存できます。この機能では、最も古い既存ファイルの上書きを開始する前に、構成セットごとに最大 25 つのバックアップファイルを保存できます。構成セットに関連する次の項目はバックアップできません:

- マシンに関連するディレクトリオブジェクト (単一マシン、マシングループ、OU)
- データのモニタリング (統計およびレポート)
- プロセス管理
- 構成セットに登録されているエージェント

自動バックアップを設定するには、次の手順に従います。

1. [自動バックアップの管理] をクリックします。[自動バックアップの管理] ウィザードが表示されます。
2. 自動的にバックアップする構成セットを探します。
3. その構成セットに対して、次の 3 つのオプションのいずれかを選択します。
 - 設定されていません。選択した場合、WEM は自動的にバックアップされません。
 - デイリー。選択した場合、WEM は毎日バックアップを実行します。
 - 毎週。選択した場合、WEM は毎週月曜日にバックアップを実行します。
4. 必要に応じて、他の構成セットに対して手順 2 と 3 を繰り返します。
5. [保存] をクリックして変更を保存し、ウィザードを終了します。

構成セットをバックアップする

重要:

手動バックアップの数は、アカウントあたり 25 個に制限されています。上限に達した場合は、既存のバックアップを削除して再試行してください。

構成セットのバックアップコピーを保存し、そのバックアップを復元目的で使用できます。構成セットに関連する次の項目をバックアップできます。

- 操作

- アプリケーションセキュリティ、権限昇格、プロセス階層制御
- 割り当て (アクションとアクショングループに関連する)
- フィルター
- スクリプト化されたタスク設定
- ユーザー
- WEM 設定

構成セットに関連する次の項目はバックアップできません:

- マシンに関連するディレクトリオブジェクト (単一マシン、マシングループ、OU)
- データのモニタリング (統計およびレポート)
- プロセス管理
- 構成セットに登録されているエージェント

構成セットをバックアップするには、次の手順を実行します。

1. [バックアップ] をクリックします。バックアップウィザードが表示されます。
2. ターゲット構成セットを選択します。
3. バックアップする構成セットをリストから選択します。
4. バックアップの名前を指定してください。
5. 必要に応じて、[バックアップのコピーをローカルマシンに保存] を選択して、バックアップをローカルに保存します。

注:

バックアップは、ブラウザのデフォルトのダウンロード場所に保存されます。

6. [**Back up**] をクリックしてバックアップを開始します。

Profile Management の設定をバックアップする

重要:

手動バックアップの数は、アカウントあたり 25 個に制限されています。上限に達した場合は、既存のバックアップを削除して再試行してください。

Profile Management の設定をバックアップするには、次の手順を実行します。

1. [バックアップ] をクリックします。バックアップウィザードが表示されます。
2. ターゲット構成セットを選択します。
3. [バックアップ対象] リストから [設定] を選択します。
4. 「**Profile Management**」設定を選択します。

5. バックアップの名前を指定してください。
6. 必要に応じて、[バックアップのコピーをローカルマシンに保存] を選択して、バックアップをローカルに保存します。

注:

バックアップは、ブラウザのデフォルトのダウンロード場所に保存されます。

7. [**Back up**] をクリックしてバックアップを開始します。

操作

May 28, 2024

ヒント:

- 動的トークンを使用して WEM アクションを拡張し、より強力なものにすることができます。
- WEM Tool Hub からコピーしたデータを Web コンソールに貼り付けるには、ブラウザがデータのコピーを許可していることを確認してください。例: Microsoft Edge の場合は、必ず [サイト権限] > [クリップボード] > [クリップボードにコピーされたテキストと画像をサイトが表示するタイミングを確認する] オプションが有効になっている必要があります。

Workspace Environment Management (WEM) は、使いやすいアクションを提供することにより、ワークスペースの構成プロセスを合理化します。割り当てを使用して、ユーザーがアクションを使用できるようにすることができます。WEM には、割り当てをコンテキスト化するフィルターも用意されています。

グループポリシー設定

重要:

- Workspace Environment Management (WEM) は現在、HKEY_LOCAL_MACHINE および HKEY_CURRENT_USER レジストリハイブに関連付けられたグループポリシー設定の追加と編集のみをサポートしています。

グループポリシー管理コンソールを使用してグループポリシーオブジェクト (GPO) を管理するのに Active Directory 管理者に頼るのではなく、WEM を介して GPO を展開できます。

開始する前に、グループポリシー設定を追加またはインポートします。次に、GPO の形式でユーザーに割り当てることにより、設定を展開します。割り当てるターゲットを指定することで、各 GPO の割り当てを管理できます。

この機能を有効にすると、次のようになります。

- 設定を構成できます。
- WEM エージェントはグループポリシー設定を処理できます。

この機能が無効になっている場合:

- グループポリシー設定は構成できません。
- WEM エージェントは、既にユーザーまたはユーザーグループに割り当てられている場合でも、グループポリシー設定を処理しません。

注:

WEM エージェントがグループポリシー設定を適切に処理および適用するには、Citrix WEM User Logon Service が有効になっていることを確認します。

レジストリベースの設定

このタブは、レジストリ操作を構成して Windows の設定を構成するために使用します。

構成セットの [操作] > [グループポリシー設定] > [レジストリベース] で、次の操作を実行できます:

- レジストリベースのグループポリシー設定を WEM にインポートします。
- GPO を作成します。
- GPO リストを更新します。
- GPO を編集します。
- GPO の割り当てを管理します。
- GPO のクローンを作成します。
- GPO を削除します。

警告:

レジストリベースの設定を誤って編集、追加、および削除すると、ユーザー環境で設定が有効にならなくなる可能性があります。

グループポリシー設定のインポート GPO は、GPO バックアップまたはエクスポートされたレジストリファイルを含む zip ファイルからインポートできます。

レジストリファイルから設定をインポートする場合、Windows レジストリエディターを使用してエクスポートしたレジストリ値を GPO に変換して管理および割り当てることができます。開始する前に、次の点に注意してください。

- ZIP ファイルから設定をインポートする場合、ファイルには 1 つ以上のレジストリファイルが含まれることがあります。
- 各.reg ファイルは GPO に変換されます。変換された各 GPO は、一連のレジストリ設定として扱うことができます。

- 変換された各 GPO の名前は、対応する.reg ファイルの名前に基づいて生成されます。例: .reg ファイルの名前がtest1.regの場合、変換された GPO の名前はtest1になります。
- この機能は、.reg ファイルで定義したレジストリキーと値に関連付けられた削除操作の変換をサポートします。.reg ファイルを使用してレジストリキーと値を削除する方法については、「<https://support.microsoft.com/en-us/topic/how-to-add-modify-or-delete-registry-subkeys-and-values-by-using-a-reg-file-9c7f37cf-a5e9-e1cd-c4fa-2a26218a1a23>」を参照してください。
- 変換された GPO の説明は空です。

グループポリシー設定をインポートするには、次の手順を実行します。

1. アクションバーで、[インポート]をクリックします。
2. ファイルタイプを選択します。
 - **GPO** バックアップファイル。GPO バックアップファイルから設定をインポートする場合は、このオプションを選択します。グループポリシー設定をバックアップする方法については、「グループポリシー設定のバックアップ」を参照してください。
 - レジストリファイルをエクスポートしました。Windows レジストリエディタを使用してエクスポートするレジストリファイルから設定をインポートする場合は、このオプションを選択します。
3. [参照]をクリックして ZIP ファイルに移動します。

注:

アップロードできるのは、サイズが 10 MB を超えないファイルのみです。

4. 同じ名前の既存の GPO を上書きするかどうかを選択します。
5. [インポート]をクリックして、インポートプロセスを開始します。

インポートが正常に完了すると、インポートされた GPO が [レジストリベース] タブに表示されます。

GPO を作成する GPO を作成するには、次の手順を完了します。

1. アクションバーで、[GPO の作成]をクリックします。
2. GPO の名前を指定します。
3. オプションで、GPO を識別するのに役立つ追加情報を指定します。
4. レジストリ操作を追加するには、[追加]をクリックします。次の設定が使用可能になります。
 - 操作。レジストリキーのアクションのタイプを指定できます。
 - 値を設定します。レジストリキーの値を設定できます。
 - 値を削除します。レジストリキーの値を削除できます。
 - キーを作成します。ルートキーとサブパスの組み合わせで指定したキーを作成できます。

- キーを削除します。レジストリキーの下にあるキーを削除できます。
- すべての値を削除します。レジストリキーの下のすべての値を削除できます。
- ルートキー。サポートされている値: `HKEY_LOCAL_MACHINE` および `HKEY_CURRENT_USER`。
- サブパス。ルートキーを含まないレジストリキーのフルパス。たとえば、`HKEY_LOCAL_MACHINE\Software\Microsoft\Windows`がレジストリキーのフルパスである場合、`Software\Microsoft\Windows`はサブパスです。
- 名前。レジストリ値の名前を指定できます。次の図全体で強調表示されている項目は、レジストリ値です。

Name	Type	Data
ab (Default)	REG_SZ	(value not set)

- タイプ。値のデータ型を指定できます。
 - **REG_SZ**。このタイプは、人間が読めるテキスト値を表すために使用される標準文字列です。
 - **REG_EXPAND_SZ**。この型は、アプリケーションによって呼び出されたときに置換される変数を含む拡張可能なデータ文字列です。たとえば、次の値の場合、文字列「`%SystemRoot%`」は、オペレーティングシステム内のフォルダの実際の場所に置き換えられます。
 - **REG_BINARY**。あらゆる形式のバイナリデータ。
 - **REG_DWORD**。32 ビットの数値。この型はブール値によく使用されます。たとえば、「0」は無効を意味し、「1」は有効であることを意味します。
 - **REG_DWORD_LITTLE_ENDIAN**。リトルエンディアン形式の 32 ビット数値。
 - **REG_QWORD**。64 ビットの数値。
 - **REG_QWORD_LITTLE_ENDIAN**。リトルエンディアン形式の 64 ビット数値。
 - **REG_MULTI_SZ**。この型は、リストまたは複数の値を含む値を表すために使用される複数文字列です。各エントリはヌル文字で区切られます。
- データ。レジストリ値に対応するデータを入力できます。データ型が異なると、異なる形式で異なるデータを入力しなければならない場合があります。

5. 終了したら、[完了] をクリックします。

GPO を編集する GPO を編集するには、次の手順を実行します。

1. GPO を選択し、アクションバーの [編集] をクリックします。
2. 名前と説明を編集します
3. 必要に応じて次の操作を行います。
 - レジストリ操作を追加するには、[追加] をクリックします。
 - レジストリ操作を選択し、編集します。

- レジストリ操作を削除してから削除します。
- レジストリ操作を上下に移動します。または、レジストリ操作を選択し、六つのドットアイコンをクリックして、目的の位置にドラッグします。

4. 終了したら、[完了]をクリックします。

注:

GPO が既にユーザーに割り当てられている場合、GPO を編集するとそのユーザーに影響します。

GPO の割り当てを管理する GPO はさまざまな AD グループに割り当てることができます。グループには、ユーザーとマシンを含めることができます。マシンレベルの設定は、関連するマシンがグループに属している場合に有効になります。ユーザーレベルの設定は、現在のユーザーがグループに属している場合に有効になります。

ヒント:

マシンレベルの設定をすぐに有効にするには、Citrix WEM エージェントホストサービスを再起動します。ユーザーレベルの設定をすぐに有効にするには、ユーザーがいったんログオフしてからログオンし直す必要があります。

GPO の割り当てを管理するには、次の手順を実行します。

1. GPO を選択し、アクションバーの [割り当ての管理] をクリックします。
2. GPO を割り当てる割り当て対象 (ユーザー、グループ、OU) を選択します。

注:

GPO をマシンに割り当てるときは、マシンが OU または関連するセキュリティグループにあることを確認してください。

- 新しいターゲットを追加するには、[新しいターゲットの追加] をクリックします。詳細については、「[割り当てターゲットの追加](#)」を参照してください。

3. フィルタを使用して割り当てをコンテキスト化し、各ターゲットの GPO の優先順位を設定します。

ヒント:

フィルタの追加については、「[フィルタ](#)」を参照してください。グループポリシー設定は、ユーザーとコンピューターの設定で構成されます。一部のフィルタ条件は、ユーザー設定にのみ適用されます。これらの条件をマシン設定に適用すると、WEM エージェントは、設定を割り当てる前にフィルターを評価するときにそれらをスキップします。マシン設定に適用されない条件の完全なリストについては、「[マシン設定に適用されない条件](#)」を参照してください。

4. 各タイトルの省略記号アイコンをクリックし、必要に応じて次の操作を行います。

- 構成をコピーします。割り当ての構成をコピーできます。

- 設定を貼り付けます。他の構成からコピーした構成を貼り付けることができます。
- この構成をすべてのターゲットに適用します。割り当ての構成をすべてのターゲットに適用できます。

5. 終了したら、[保存] をクリックします。

GPO のクローンを作成する GPO のクローンを作成するには、次の手順を実行します。

1. GPO を選択し、アクションバーの [クローン] をクリックします。
2. 名前と説明を編集します。
3. GPO のクローンを作成する構成セットを選択します。
4. [クローン] をクリックして、クローンプロセスを開始します。

GPO を削除する GPO を削除するには、GPO を選択し、アクションバーの [削除] をクリックします。

注:

GPO が既にユーザーに割り当てられている場合、削除するとそのユーザーに影響します。

テンプレートベースの設定

グループポリシー管理用テンプレートを使用して Windows の設定を構成するには、このタブを使用します。GPO は、マシンレベルとユーザーレベルで構成できます。

構成セットの [操作] > [グループポリシー設定] > [テンプレートベース] で、次の操作を実行できます。

- テンプレートを使用して GPO を作成します。
- テンプレートを管理します。
- テンプレートをインポートします。
- GPO リストを更新します。
- GPO を編集します。
- GPO の割り当てを管理します。
- GPO のクローンを作成します。
- GPO を削除します。

テンプレートを使用して **GPO** を作成する テンプレートを使用して GPO を作成するには、次の手順を完了します。

1. アクションバーで、[**GPO** の作成] をクリックします。
2. 基本情報:
 - GPO の名前を指定します。

- オプションで、GPO を識別するのに役立つ追加情報を指定します。
3. [コンピューターの構成] で、マシンに適用するポリシーを（ログオンするユーザーに関係なく）構成します。
 4. [ユーザーの構成] で、ユーザーに適用するポリシーを構成します（ユーザーがどのマシンにログオンするかは関係ありません）。
 5. 【概要】 で、行った変更を確認します。
 6. 終了したら、[完了] をクリックします。

[コンピューターの構成] と [ユーザーの構成] で、構成する設定を選択します。ポリシーは、ツリービューとリストビューで表示できます。リストビューでは、ポリシーはアルファベット順にソートされ、目的のポリシーを検索できます。

設定を構成するには、最初に設定を有効にします。設定には、構成可能な項目が複数ある場合があります。必要な入力のタイプに応じて、チェックボックス、入力ボックス（入力としてテキストまたは数字）、選択、リスト、または組み合わせを設定できます。

設定について詳しくは、[Microsoft 社サイト](#)から GPO リファレンスシートをダウンロードしてください。

テンプレートを管理する テンプレートを管理するには、次の手順を完了します。

1. アクションバーで、[テンプレートを管理] をクリックします。
2. テンプレートの管理ウィザードで、次の操作を行います。
 - マシンに適用するポリシーを構成するには、[コンピューターの構成] を選択します（ログオンするユーザーに関係なく）。
 - ユーザーに適用するポリシーを構成するには、[ユーザー構成] を選択します（ユーザーがどのマシンにログオンするかに関係なく）。
1. 終了したら、[完了] をクリックします。

[コンピューターの構成] と [ユーザーの構成] で、構成する設定を選択します。ポリシーは、ツリービューとリストビューで表示できます。リストビューでは、ポリシーはアルファベット順にソートされ、目的のポリシーを検索できます。

設定を構成するには、最初に設定を有効にします。設定には、構成可能な項目が複数ある場合があります。必要な入力のタイプに応じて、チェックボックス、入力ボックス（入力としてテキストまたは数字）、選択、リスト、または組み合わせを設定できます。

設定について詳しくは、[Microsoft 社サイト](#)から GPO リファレンスシートをダウンロードしてください。

テンプレートをインポートする

重要:

ADMX ファイルを WEM にインポートしてテンプレートとして使用する場合は、zip ファイル内のすべての.adml ファイルが同じ言語であることを確認してください。

ADMX ファイルを WEM にインポートして、テンプレートとして使用できます。次に、それらのテンプレートを使用して GPO を作成します。テンプレートをインポートするには、次の手順を完了します。

1. アクションバーで、[テンプレートを管理] をクリックします。
2. テンプレートの管理ウィザードで、[インポート] をクリックします。
3. ADMX ファイルを含む zip ファイルを参照し、既存のテンプレートと同じ名前のテンプレートがファイルに含まれている場合の対処方法を決定します。
 - インポートしないでください。インポートをキャンセルします。
 - テンプレートをスキップして、残りをインポートします。
 - 既存のテンプレートを上書きします。上書きすると、既存のテンプレートに由来する関連設定が変更される可能性があります。テンプレートを使用して作成された既存の GPO には影響しません。ただし、これらの GPO を編集すると、関連する設定は失われます。
4. [インポートの開始] をクリックして、インポートプロセスを開始します。
5. 終了したら、[完了] をクリックして [テンプレートの管理] ウィザードに戻ります。
6. そこでテンプレートを管理するか、[完了] をクリックして終了します。

インポートしたテンプレートファイルの管理方法については、「[ファイル](#)」を参照してください。そこで管理する場合は、次の点を考慮してください。

- GPO 管理用テンプレートファイルを削除すると、現在のテンプレートから関連する設定が削除されます。テンプレートを使用して作成された既存の GPO には影響しません。ただし、これらの GPO を編集すると、関連する設定は失われます。

GPO を編集する GPO を編集するには、次の手順を実行します。

1. GPO を選択し、アクションバーの [編集] をクリックします。
2. [基本情報] で、名前と説明を編集します。
3. [コンピュータの構成] で、マシンポリシーを編集します。
4. [ユーザー構成] で、ユーザーポリシーを編集します。
5. [概要] で、行った変更を確認します。
6. 終了したら、[保存] をクリックします。

注:

GPO が既にユーザーに割り当てられている場合、GPO を編集するとそのユーザーに影響します。

GPO の割り当てを管理する レジストリベースの GPO の場合と同様に、テンプレートを使用して作成された GPO の割り当てを管理できます。詳細については、「GPO の割り当てを管理する」を参照してください。

GPO のクローンを作成する GPO のクローンを作成するには、次の手順を実行します。

1. GPO を選択し、アクションバーの [クローン] をクリックします。
2. GPO をレジストリベースの GPO として複製するか、テンプレートベースの GPO として複製するかを決定します。

注:

レジストリベースとして複製すると、GPO はレジストリ値に変換され、[レジストリベース] タブに表示されます。変換された各 GPO は、一連のレジストリ設定として扱うことができます。

3. 名前と説明を編集します。
4. GPO のクローンを作成する構成セットを選択します。
5. [クローン] をクリックして、クローンプロセスを開始します。

GPO を削除する GPO を削除するには、GPO を選択し、アクションバーの [削除] をクリックします。

注:

GPO が既にユーザーに割り当てられている場合、削除するとそのユーザーに影響します。

アプリケーション

この機能により、アプリケーションを追加してユーザーに割り当てることができます。これらのアプリケーションを割り当てると、構成に応じて、デスクトップ、スタートメニュー、またはタスクバーにショートカットが作成されます。

ヒント:

Citrix DaaS のフル構成管理コンソールを使用してアプリケーション設定を編集し、**VUEMAppCmd.exe** を指す実行ファイルパスを追加できます。**VUEMAppCmd.exe** を使用すると、Citrix DaaS と Citrix Virtual Apps and Desktops の公開アプリケーションが起動する前に、Workspace Environment Management エージェントが環境の処理を完了することが保証されます。詳細については、「[完全な構成管理インターフェイスを使用したアプリケーション設定の編集](#)」を参照してください。

次の操作を実行できます：

- アプリケーションを追加します。
- アプリケーションリストを更新します。
- アプリケーションを編集してそのプロパティを管理します。
- アプリケーションの課題を管理します。
- アプリケーションをクローニングします。
- アプリケーションを削除します。
- [スタート] メニュービューに切り替えます。
- エージェントがアプリケーションを処理する方法を指定します。

アプリケーションを追加および割り当てる一般的なワークフローは次のとおりです。

1. Web コンソールで、関連する設定セットに移動し、[アクション] > [アプリケーション] に移動して、[アプリケーションを追加] をクリックします。「アプリケーションの追加」を参照してください。
2. 追加したアプリケーションを選択し、アクションバーの [割り当ての管理] をクリックします。アプリケーションの割り当ての管理を参照してください。

[[詳細設定](#)] の [SQL 設定の更新遅延] に指定した値によっては、割り当てが有効になるまでに時間がかかります。アサインをすぐに有効にするには、次の手順を実行してください。

1. [**Web** コンソール] > [監視] > [管理] > [エージェント] > [統計] に移動し、エージェントを選択します。
2. アクションバーの [詳細] をクリックし、[エージェント] > [エージェントホスト設定の更新] を選択します。

重要：

- エージェントがアクションを処理するには、次の設定が有効になっていることを確認します。
 - ログオン時にエージェントを起動する (ログオン時のアクションを処理するため)
 - 再接続時にエージェントを起動する (再接続時のアクションを処理するため)
 - デスクトップ互換モードを有効にする
- これらの設定は、[レガシーコンソール > 詳細設定 > 設定 > メイン設定 > エージェントサービスアクション](#)にあります。

アプリケーションの追加

アプリケーションを追加するには、次の手順を実行します。

1. 「アプリケーション」で、「アプリケーションを追加」をクリックします。
2. 基本情報ページで、次の設定を行います。
 - 名前。アプリケーションを識別しやすい名前を指定します。
 - 説明。アプリケーションに関する追加情報を指定してください。

- 状態。アプリケーションを有効または無効にするか、メンテナンスモードにします。メンテナンスモードの場合、アプリケーションは使用できません。そのショートカットアイコンには、使用できないことを示す警告サインが表示されます。
- アプリケーションタイプ。ショートカットが開くアプリケーションの種類を指定します。ユーザーインターフェースは、選択した内容によって異なります。
 - インストールされているアプリケーション。ユーザーのマシンにインストールされているアプリケーションを開くショートカットを作成します。選択すると、次の処理を完了するように求められます。
 - * アプリケーションパス。ユーザーのマシンにあるアプリケーションのフルパスを入力します。
 - * 作業フォルダ。アプリケーションの作業フォルダとして、ユーザーのマシン上のフォルダへのフルパスを入力します。このフィールドは、「アプリケーションパス」フィールドにフルパスを入力すると自動的に入力されます。
 - * パラメーター。必要に応じて、アプリケーションの起動パラメータを入力します。
 - ファイルまたはフォルダ。ユーザーがショートカットアイコンをクリックしたときに、ユーザーのマシン上のターゲットファイルまたはフォルダを開くショートカットを作成できます。選択すると、次の処理を完了するように求められます。
 - パス。ターゲットファイルまたはフォルダへのフルパスを入力します。
 - **URL**。アプリケーションの URL を追加できます。選択すると、次の処理を完了するように求められます。
 - アプリケーション **URL**。アプリケーションの URL を入力します。
 - **Citrix Workspace** リソース。Citrix Workspace からアプリケーションを追加できます。選択すると、次の処理を完了するように求められます。
 - **URL** をストアします。アプリケーションショートカットから起動するリソースを含む StoreFront または Workspace ストアの URL を入力します。

注:

エージェントマシンでは、**SaaS** アプリまたは **Citrix Workspace (Storefront)** リソースタイプの特定のアプリケーションを開くことはできません。

- リソース。 **WEM Tool Hub** > アプリケーションアシスタントを使用して、ターゲットのワークスペースリソースを参照します。リソース情報をコピーして、[リソース情報を貼り付け] をクリックしてここに貼り付けます。[アプリケーションアシスタントを開く] をクリックして WEM ツールハブを開きます (インストールされている場合)。WEM ツールハブをダウンロードするには、[**Citrix Cloud**] > [**WEM サービス**] > [**ユーティリティ**] に移動します。詳細については、「**WEM ツールハブ**」を参照してください。

3. オプションページで、次の設定を行います。

- アプリケーションアイコン。[変更] をクリックして別のアイコンを選択するか、新しいアイコンを追加します。
 - 新しいアイコンを追加するには、.ico ファイルを参照するか、**WEM Tool Hub > Application Assistant** からコピーしたアイコンデータを貼り付けます。WEM は最大 100 個のアイコンの保存をサポートしています。詳細については、「[WEM ツールハブ](#)」を参照してください。
- ユーザーのデスクトップ上のアイコンの位置を設定します。ユーザーのデスクトップ上のアプリケーションショートカットのターゲット場所を指定します。値はピクセル単位です。移動すると、ショートカットを次のログオン時に指定した場所に戻します。
- 表示名。ショートカットの名前を指定します。名前はユーザー環境に表示されます。
- スタートメニューの統合。[変更] をクリックして、[スタート] メニューの左側にあるアプリケーションショートカットの作成場所を指定します。既定では、新しいショートカットは [プログラム] に作成されます。スタートメニュー統合ウィンドウでは、次の操作を実行できます。
 - ショートカットのカスタムフォルダーを作成します。
 - [スタート] メニューフォルダ内のアプリケーションショートカットの場所を指定します。
 - カスタムフォルダーの名前を変更します。

Note:

To delete custom folders, go to **Start menu view** in **Applications**. See [Switch to the Start menu view](#).

- ウィンドウスタイル。アプリケーションをユーザーのマシン上で最小化 (タスクバーに最小化)、標準 (通常の画面表示)、最大化 (全画面表示) のいずれのウィンドウで開くかを指定します。
- ホットキーホットキーを設定するには、入力フィールドをクリックしてキーの組み合わせを押します。または、組み合わせを次の形式で入力します (例): Ctrl + Alt + S
- 自動復元を有効にします。有効にすると、エージェントは更新時にショートカット (移動または削除された場合) を自動的に再作成します。
- エージェントメニューからアプリケーションを非表示にします。ユーザーのマシンからアクセスできるエージェントメニューでアプリケーションを表示するか非表示にするかを指定します。
- ユーザーのお気に入りフォルダにショートカットを作成します。ユーザーの [お気に入り] フォルダにアプリケーションショートカットを作成するかどうかを指定します。

4. 完了したら、[完了] をクリックして保存し、終了します。

アプリケーションを編集する

アプリケーションを編集するには、次の手順を実行します。

1. 「アプリケーション」で、アプリケーションを選択します。必要な場合は、検索ボックスを使用してアプリケーションをすばやく見つけてください。
2. アクションバーの [編集] をクリックします。
3. [基本情報] ページと [オプション] ページで、必要に応じて変更を加えます。
4. 終了したら、[保存] をクリックします。

アプリケーションの課題を管理

アプリケーションの課題を管理するには、次の手順を実行します。

1. アプリケーションを選択し、アクションバーの [割り当ての管理] を選択します。
2. アプリケーションを割り当てる割り当て対象 (ユーザーとグループ) を選択します。
 - 新しいターゲットを追加するには、[新しいターゲットの追加] をクリックします。詳細については、「[割り当てターゲットの追加](#)」を参照してください。
 - ターゲットを設定して、使用するフィルターとアプリケーションショートカットの作成場所を指定します。
 - デスクトップショートカットの作成
 - [スタート] メニューに追加
 - [スタート] メニューに固定
 - クイック起動に追加
 - Windows スタートアップに追加
 - タスクバーに固定
1. フィルターを使用して課題をコンテキスト化します。
 - フィルタの追加については、「[フィルタ](#)」を参照してください。
2. 終了したら、[完了] をクリックします。

アプリケーションをクローニングする

注:

アサインメントは複製されません。

アプリケーションをクローニングするには、次の手順を実行します。

1. アプリケーションを選択し、アクションバーで [クローン] を選択します。
2. 名前と説明を編集します。
3. アプリケーションのクローンを作成する構成セットを選択します。
4. [クローン] をクリックして、クローンプロセスを開始します。

アプリケーションを削除する

アプリケーションを削除するには、そのアプリケーションを選択し、アクションバーで [削除] を選択します。

注:

アプリケーションが既にユーザーに割り当てられている場合、そのアプリケーションを削除するとそのユーザーに影響が及びます。

[スタート] メニュービューに切り替える

[スタート] メニュービューに切り替えるには、[スタート] メニュービューをクリックします。このビューには、各アプリケーションがスタートメニューフォルダーのどこにあるかが表示されます。以下の操作を実行できます:

- カスタムフォルダを作成します。
- アプリケーションを目的のフォルダに移動します。
- カスタムフォルダの名前を変更します。
- カスタムフォルダを削除します。カスタムフォルダを削除すると、そのフォルダ内のアプリケーションも削除されます。

エージェントがアプリケーションを処理する方法を指定します

処理:

- ログオン時と更新時にアプリケーションを処理
- 再接続時にアプリケーションを処理
- 割り当てが解除されたらデスクトップからアプリケーションを削除
- アプリケーションの処理を強制する
- アプリケーション用のフィルター処理を強制する

StoreFront:

- StoreFront URL を追加し、必要に応じてその説明を入力します。この URL は、「Citrix Workspace リソース」タイプのアプリケーションを追加する際に必要です。「アプリケーションの追加」を参照してください。

外部タスク

ヒント:

外部タスクはユーザーセッションレベルで機能します。タスクをマシンレベルで実行するには、[代わりにスク립トタスクを使用してください](#)。

この機能により、外部タスクを作成してユーザーに割り当てることができます。外部タスクはユーザーセッションレベルで機能し、スクリプトでもアプリケーションでもかまいません。ターゲットエージェントマシンに、それらを実行するために必要なプログラムがあることを確認してください。一般的に使用されるスクリプトには、**.vbs** スクリプトと **.cmd** スクリプトが含まれます。

ユーザー環境を正確かつ効果的に管理できるように、外部タスクを実行するタイミングを指定できます。

次の操作を実行できます：

- 外部タスクを作成します。
- 外部タスクリストを更新します。
- 外部タスクを編集します。
- 外部タスクの割り当てを管理します。
- 外部タスクを複製します。
- 外部タスクを削除します。

ヒント：

State 列のトグルを使用して、外部タスクを簡単に有効または無効にできます。タスクを有効にするには、そのタスクに少なくとも 1 つのトリガーを設定します。

外部タスクを作成する

タスクを作成するには、次の手順を実行します。

1. 「外部タスク」で、「外部タスクの作成」をクリックします。
2. タスクタブで、次の設定を行います。
 - 名前。タスクを識別しやすい名前を指定します。
 - 説明。タスクに関する追加情報を指定してください。
 - このタスクを有効にします。タスクを有効にするか無効にするかを制御します。無効にすると、タスクがユーザーに割り当てられている場合でも、エージェントはタスクを処理しません。
 - タスク詳細
 - パス。タスクへのパスを入力するか、タスクを参照します。パスはユーザー環境で解決されます。以下の点について確認してください：
 - * ここで指定したパスは、ターゲットエージェントマシンと一致しています。
 - * ターゲットエージェントマシンには、タスクを実行するための対応するプログラムがありません。
 - 引数。起動パラメータまたは引数を指定します。文字列を入力できます。文字列には、ターゲットスクリプトまたはアプリケーションに渡す引数が含まれています。**Path** フィールドと **Arguments** フィールドの使用例については、「外部タスクの例」を参照してください。

- タスク設定
 - 非表示で実行。選択すると、タスクはバックグラウンドで実行され、ユーザーには表示されません。
 - 一度だけ実行する：選択した場合、WEM は、トリガーで選択したオプションやエージェントが再起動するかどうかに関係なく、タスクを 1 回だけ実行します。
 - 実行順序。このオプションは、複数のタスクがユーザーに割り当てられていて、一部のタスクが他のタスクに依存して正常に実行される場合に使用します。実行順序の値が 0 (ゼロ) のタスクが最初に実行され、次に値 1 のタスク、次に値 2 のタスクが実行されます。
 - タスクが完了するのを待ってください。エージェントがタスクの完了を待つ時間を指定します。デフォルトでは、待機タイムアウト値は 30 秒です。

3. 「トリガー」タブで、タスクに関連付けるトリガーを選択します。

注：

すべてのトリガーを外部タスクに関連付けることができるわけではありません。考慮事項を参照してください。

- 新しいトリガーを作成します。「[トリガーを作成する](#)」を参照してください。
- このタスクに該当するトリガーのみを表示します。タスクに当てはまらないトリガーを除外します。

4. 完了したら、[完了] をクリックして保存し、終了します。

注意事項 外部タスクはセッションレベルで機能します。外部タスクに関連付けることができるのは、次のトリガーのみです。詳細については、「[トリガーのサポートマトリックス](#)」を参照してください。

- ビルトイントリガー：
 - エージェント更新
 - 再接続
 - ログオン
 - ログオフ
 - 切断
 - ロック
 - ロック解除
 - マシンスタートアップ
 - マシンシャットダウン
- Windows トリガー：
 - イベント
- スケジュールされたトリガー

- ユーザープロセストリガー：
 - プロセスが開始されました
 - 処理は終了しました

Reconnect ビルトイントリガーを使用する場合は、次の点を考慮してください。

- WEM エージェントが物理 Windows デバイスにインストールされている場合、このオプションは適用されません。

接続解除、ロック、ロック解除トリガーを使用する場合は、次の点を考慮してください。

- 切断、ロック、ロック解除の実装は Windows イベントに基づいています。環境によっては、これらのオプションが期待どおりに機能しないことがあります。たとえば、Windows 10 または Windows 11 のシングルセッション VDA で実行されているデスクトップでは、切断オプションは機能しません。代わりに lock オプションを使用してください。(このシナリオでは、受け取るアクションは「ロック」です。)
- これらのトリガーは UI エージェントでを使用することをお勧めします。2つの理由：
 - これらを CMD エージェントで使用すると、対応するイベントが発生するたびにエージェントがユーザー環境で起動し、外部タスクが実行されているかどうかを確認します。
 - 同時実行タスクシナリオでは、CMD エージェントが最適に動作しない場合があります。

ユーザープロセストリガーを使用すると、特定のプロセスの実行中にのみリソースを供給し、プロセスの終了時にこれらのリソースを取り消す外部タスクを定義できます。プロセスを外部タスクのトリガーとして使用すると、ログオン時またはログオフ時に外部タスクを処理する場合に比べて、ユーザー環境をより正確に管理できます。ユーザープロセストリガーを使用する前に、次の前提条件が満たされていることを確認してください。

- WEM エージェントが起動し、UI モードで実行されます。
- 指定されたプロセスは、ログオンユーザーと同じユーザーセッションで実行されます。
- 構成された外部タスクを最新の状態に保つには、[詳細設定] > [構成] > [詳細オプション] タブで [自動更新を有効にする] を選択してください。

Windows イベントトリガーを使用するときは、次の点を考慮してください：

- 外部タスクをトリガーするために使用できるのは、ユーザー名が記録された Windows イベントだけです。
- WEM エージェントは UI モードで開き、実行されます。

外部タスクを編集する

タスクを編集するには、次の手順を実行します。

1. 「外部タスク」で、タスクを選択します。必要に応じて、検索ボックスを使用してタスクをすばやく検索できます。
2. アクションバーの [編集] をクリックします。

3. [タスク] タブと [トリガー] タブで、必要に応じて変更を加えます。
4. 終了したら、[完了] をクリックします。

外部タスクの割り当てを管理する

外部タスクの割り当てを管理するには、次の手順を実行します。

1. タスクを選択し、アクションバーの [割り当ての管理] を選択します。
2. タスクを割り当てる割り当てターゲット (ユーザーとグループ) を選択します。
 - 新しいターゲットを追加するには、[新しいターゲットの追加] をクリックします。詳細については、「[割り当てターゲットの追加](#)」を参照してください。
3. フィルターを使用して課題をコンテキスト化します。
 - フィルタの追加については、「[フィルタ](#)」を参照してください。
4. 終了したら、[完了] をクリックします。

外部タスクのクローンを作成する

注:

トリガーの関連付けと割り当ては複製されません。

タスクを複製するには、次の手順を実行します。

1. タスクを選択し、アクションバーの [クローン] を選択します。
2. 名前と説明を編集します。
3. タスクのクローニング先となる構成セットを選択します。
4. [クローン] をクリックして、クローンプロセスを開始します。

外部タスクを削除する

タスクを削除するには、タスクを選択し、アクションバーで [削除] を選択します。

注:

外部タスクが既にユーザーに割り当てられている場合、それを削除するとそれらのユーザーに影響が及びます。

プリンター

この機能により、プリンターを割り当て可能なアクションとして追加できます。割り当てられると、それらのプリンターはユーザーのデスクトップで使用できます。

次の操作を実行できます：

- プリンタを追加します。
- 印刷サーバーからプリンターを追加します。
- プリンタリストを更新します。
- プリンタを編集します。
- プリンターの割り当てを管理します。
- プリンターのクローンを作成します。
- プリンタを削除します。
- エージェントがプリンタを処理する方法を指定します。

プリンタを追加して割り当てる一般的なワークフローは次のとおりです。

1. Web コンソールで、関連する設定セットに移動し、[アクション]>[プリンター]に移動し、[** プリンターの追加 **]をクリックします。「プリンターの追加」を参照してください。
2. 追加したプリンタを選択し、アクションバーの [割り当ての管理] をクリックします。プリンターの割り当ての管理を参照してください。

割り当てが反映されるまでにはしばらく時間がかかります。すぐに適用するには、「割り当てをすぐに有効にする」を参照してください。

プリンターの追加

プリンタを追加するには、次の手順を実行します。

1. [プリンター] で、[プリンターの追加] をクリックします。
2. アクションタイプを指定します。インターフェイスは、選択したアクションタイプによって異なります。
 - ネットワークプリンタをマップします。
 - 名前。プリンタを識別しやすい名前を指定してください。
 - 説明 (オプション)。プリンタに関する追加情報を指定してください。
 - このプリンタを有効にします。プリンタを有効または無効にします。無効にすると、ユーザーに割り当てられていてもエージェントによって処理されません。
 - プリンタパス。ユーザー環境での解決時にプリンターへのパスを指定します。
 - 特定の認証情報を使用して接続します。デフォルトでは、エージェントは実行に使用する Windows アカウントを使用してプリンタに接続します。ユーザーが接続に別の認証情報を指定する必要がある場合は、このオプションを選択してください。

- 表示名。プリンタの名前を指定します。名前はユーザー環境に表示されます。
- 自動復元を有効にします。有効にすると、エージェントは更新時にプリンターを自動的に再作成します (削除された場合)。
- プリンタマッピングファイルを使用してください。
 - 名前。プリンタを識別しやすい名前を指定してください。
 - 説明 (オプション)。プリンタに関する追加情報を指定してください。
 - このプリンタを有効にします。プリンタを有効または無効にします。無効にすると、ユーザーに割り当てられていてもエージェントによって処理されません。
 - ファイルパス。XML プリンタリストファイルを使用して、ユーザー用のプリンタを設定できます。イメージとして使用するエージェントマシンにファイルを配置します。エージェントが更新されると、プリンターがアクションキューに追加する XML ファイルを解析します。[XML プリンタリストの設定を参照してください](#)。

3. 完了したら、[完了] をクリックして保存し、終了します。

印刷サーバーからのプリンターの追加

ネットワークプリントサーバーからプリンターを追加するには、**WEM Tool Hub > Printer Assistant** で目的のプリンターを探し、その情報をコピーして貼り付けます。[WEM ツールハブを参照してください](#)。

プリンターの編集

プリンタを編集するには、次の手順を実行します。

1. 「プリンター」で、プリンターを選択します。必要な場合は、検索ボックスを使用してプリンタをすばやく検索できます。
2. アクションバーの [編集] をクリックします。
3. 必要に応じて変更を加えます。
4. 終了したら、[保存] をクリックします。

プリンターの割り当てを管理

プリンターの割り当てを管理するには、次の手順を実行します。

1. プリンタを選択し、アクションバーの [割り当ての管理] を選択します。
2. プリンターを割り当てる割り当て対象 (ユーザーとグループ) を選択します。
 - 新しいターゲットを追加するには、[新しいターゲットの追加] をクリックします。詳細については、「[割り当てターゲットの追加](#)」を参照してください。

- ターゲットを構成して、使用するフィルターと、それをデフォルトプリンターとして設定するかどうかを指定します。フィルタの追加については、「[フィルタ](#)」を参照してください。

3. 終了したら、[完了]をクリックします。

プリンターのクローンを作成

注:

アサインメントは複製されません。

プリンターのクローンを作成するには、次の手順を実行します。

1. プリンターを選択し、アクションバーの [クローン] を選択します。
2. 名前と説明を編集します。
3. プリンターのクローンを作成する構成セットを選択します。
4. [クローン] をクリックして、クローンプロセスを開始します。

プリンターを削除する

プリンターを削除するには、プリンターを選択し、アクションバーの [削除] を選択します。

注:

プリンターが既にユーザーに割り当てられている場合、そのプリンターを削除するとそれらのユーザーに影響が及びます。

エージェントがプリンターを処理する方法を指定してください

処理オプション:

- ログオン時と更新時にプリンターを処理する
- 再接続時にプリンターを処理する
- 割り当てられていないときにデスクトップからプリンターを削除する
- プリンターの処理を強制
- プリンターのフィルター処理を強制
- プリンターを非同期に処理 (有効にすると、エージェントは他のアクションの処理が完了するのを待たずにプリンターを非同期で処理します)

ネットワークドライブ

この機能により、ネットワークドライブを割り当て可能なアクションとして追加できます。割り当てられると、それらのネットワークドライブはユーザーのデスクトップで使用できます。

次の操作を実行できます：

- ネットワークドライブを追加します。
- ネットワークドライブリストを更新します。
- ネットワークドライブを編集します。
- ネットワークドライブの割り当てを管理します。
- ネットワークドライブのクローンを作成します。
- ネットワークドライブを削除します。
- エージェントがネットワークドライブを処理する方法を指定します。

ネットワークドライブを追加して割り当てる一般的なワークフローは次のとおりです。

1. Web コンソールで、関連する構成セットに移動し、[操作] > [ネットワークドライブ] に移動し、[ネットワークドライブの追加] をクリックします。ネットワークドライブの追加を参照してください。
2. 追加したネットワークドライブを選択し、アクションバーの [割り当ての管理] をクリックします。ネットワークドライブの割り当ての管理を参照してください。

割り当てが反映されるまでにはしばらく時間がかかります。すぐに適用するには、「[割り当てをすぐに有効にする](#)」を参照してください。

ネットワークドライブの追加

ネットワークドライブを追加するには、次の手順を実行します。

1. [ネットワークドライブ] で、[ネットワークドライブの追加] をクリックします。
2. 次の設定を構成します：
 - 名前。ネットワークドライブを識別しやすい名前を指定してください。
 - 説明 (オプション)。ネットワークドライブに関する追加情報を指定してください。
 - このネットワークドライブを有効にします。ネットワークドライブを有効または無効にします。無効にすると、ユーザーに割り当てられていてもエージェントによって処理されません。
 - ターゲットパス。ユーザー環境で解決されるネットワークドライブへのパスを指定します。
 - 特定の認証情報を使用して接続します。デフォルトでは、エージェントは実行に使用する Windows アカウントを使用してネットワークドライブに接続します。ユーザーが接続に別の認証情報を指定する必要がある場合は、このオプションを選択してください。
 - 表示名。ネットワークドライブの名前を指定します。名前はユーザー環境に表示されます。
 - 自動復元を有効にします。有効にすると、エージェントは更新時に自動的にネットワークドライブを再作成します (削除された場合)。
 - ホームドライブとして設定します。有効にすると、ネットワークドライブがホームドライブとして設定されます。
3. 完了したら、[完了] をクリックして保存し、終了します。

ネットワークドライブを編集する

ネットワークドライブを編集するには、次の手順を実行します。

1. 「ネットワークドライブ」で、ネットワークドライブを選択します。必要に応じて、検索ボックスを使用してネットワークドライブをすばやく検索できます。
2. アクションバーの [編集] をクリックします。
3. 必要に応じて変更を加えます。
4. 終了したら、[保存] をクリックします。

ネットワークドライブの割り当てを管理

ネットワークドライブの割り当てを管理するには、次の手順を実行します。

1. ネットワークドライブを選択し、アクションバーの [割り当ての管理] を選択します。
2. ネットワークドライブを割り当てる割り当てターゲット (ユーザーとグループ) を選択します。
 - 新しいターゲットを追加するには、[新しいターゲットの追加] をクリックします。詳細については、「[割り当てターゲットの追加](#)」を参照してください。
 - ターゲットを設定して、使用するフィルターとドライブ文字を指定します。フィルタの追加については、「[フィルタ](#)」を参照してください。
3. 終了したら、[完了] をクリックします。

ネットワークドライブのクローンを作成

注:

アサインメントは複製されません。

ネットワークドライブのクローンを作成するには、次の手順を実行します。

1. ネットワークドライブを選択し、アクションバーの [クローン] を選択します。
2. 名前と説明を編集します。
3. ネットワークドライブのクローンを作成する構成セットを選択します。
4. [クローン] をクリックして、クローンプロセスを開始します。

ネットワークドライブを削除する

ネットワークドライブを削除するには、そのネットワークドライブを選択し、操作バーの [削除] を選択します。

注:

ネットワークドライブが既にユーザーに割り当てられている場合、それを削除するとそれらのユーザーに影響が及びます。

エージェントがネットワークドライブを処理する方法を指定してください

処理オプション:

- ログオンと更新時にネットワークドライブを処理する
- 再接続時にネットワークドライブを処理
- 割り当てられていないときにデスクトップからネットワークドライブを削除する
- ネットワークドライブの処理を強制
- ネットワークドライブのフィルター処理を強制
- ネットワークドライブを非同期で処理します。有効にすると、エージェントは他のアクションの処理が完了するのを待たずにネットワークドライブを非同期で処理します。

ドライブレター:

- ドライブレターは課題には使用しないでください。ドライブリソースを割り当てるとき、選択したドライブ文字はドライブ文字選択から除外されます。
- 課題でのドライブレターの再利用を許可します。有効にすると、割り当てに使用されたドライブ文字は、同じターゲットに割り当てられた他のドライブでも引き続き使用できます。

仮想ドライブ

この機能により、仮想ドライブを割り当て可能なアクションとして追加できます。割り当てられると、それらの仮想ドライブはユーザーのデスクトップで使用できます。

次の操作を実行できます:

- 仮想ドライブを追加します。
- 仮想ドライブリストを更新します。
- 仮想ドライブを編集します。
- 仮想ドライブの割り当てを管理します。
- 仮想ドライブのクローンを作成します。
- 仮想ドライブを削除します。
- エージェントが仮想ドライブを処理する方法を指定します。

仮想ドライブを追加して割り当てる一般的なワークフローは次のとおりです。

1. Web コンソールで、関連する構成セットに移動し、[操作] > [仮想ドライブ] に移動し、[仮想ドライブの追加] をクリックします。「仮想ドライブの追加」を参照してください。

2. 追加した仮想ドライブを選択し、アクションバーの [割り当ての管理] をクリックします。仮想ドライブの割り当ての管理を参照してください。

割り当てが反映されるまでにはしばらく時間がかかります。すぐに適用するには、「[割り当てをすぐに有効にする](#)」を参照してください。

仮想ドライブの追加

仮想ドライブを追加するには、次の手順を実行します。

1. [仮想ドライブ] で、[仮想ドライブの追加] をクリックします。
2. 次の設定を構成します：
 - 名前。仮想ドライブを識別しやすい名前を指定します。
 - 説明 (オプション)。仮想ドライブに関する追加情報を指定します。
 - この仮想ドライブを有効にします。仮想ドライブを有効または無効にします。無効にすると、ユーザーに割り当てられていてもエージェントによって処理されません。
 - ターゲットパス。ユーザー環境で解決される仮想ドライブへのパスを指定します。
 - ホームドライブとして設定します。有効にすると、ネットワークドライブがホームドライブとして設定されます。
3. 完了したら、[完了] をクリックして保存し、終了します。

仮想ドライブを編集する

仮想ドライブを編集するには、次の手順を実行します。

1. 「仮想ドライブ」で、仮想ドライブを選択します。必要に応じて、検索ボックスを使用して仮想ドライブをすばやく検索できます。
2. アクションバーの [編集] をクリックします。
3. 必要に応じて変更を加えます。
4. 終了したら、[保存] をクリックします。

仮想ドライブの割り当てを管理

仮想ドライブの割り当てを管理するには、次の手順を実行します。

1. 仮想ドライブを選択し、アクションバーの [割り当ての管理] を選択します。
2. 仮想ドライブを割り当てる割り当て対象 (ユーザーとグループ) を選択します。

- 新しいターゲットを追加するには、[新しいターゲットの追加] をクリックします。詳細については、「[割り当てターゲットの追加](#)」を参照してください。
- ターゲットを設定して、使用するフィルターとドライブ文字を指定します。フィルタの追加については、「[フィルタ](#)」を参照してください。

重要:

[次に使用可能] オプションと [文字割り当てなし] オプションはネットワークドライブにのみ適用されます。

3. 終了したら、[完了] をクリックします。

仮想ドライブのクローンを作成

注:

アサインメントは複製されません。

仮想ドライブのクローンを作成するには、次の手順を実行します。

1. 仮想ドライブを選択し、アクションバーの [クローン] を選択します。
2. 名前と説明を編集します。
3. 仮想ドライブのクローニング先となる構成セットを選択します。
4. [クローン] をクリックして、クローンプロセスを開始します。

仮想ドライブを削除する

仮想ドライブを削除するには、その仮想ドライブを選択し、アクションバーの [削除] を選択します。

注:

仮想ドライブが既にユーザーに割り当てられている場合、それを削除するとそれらのユーザーに影響が及びます。

エージェントが仮想ドライブを処理する方法を指定してください

処理オプション:

- ログオン時および更新時に仮想ドライブを処理する
- 再接続時に仮想ドライブを処理
- 割り当てられていないときにデスクトップから仮想ドライブを削除する
- 仮想ドライブのフィルター処理を強制

- 仮想ドライブのフィルター処理を強制

ドライブレター:

- ドライブレターは課題には使用しないでください。ドライブリソースを割り当てるとき、選択したドライブ文字はドライブ文字選択から除外されます。
- 課題でのドライブレターの再利用を許可します。有効にすると、割り当てに使用されたドライブ文字は、同じターゲットに割り当てられた他のドライブでも引き続き使用できます。

レジストリエントリ

この機能により、レジストリ値を作成、設定、削除し、それらを割り当ててレジストリを作成または変更できます。レジストリエントリにタグを追加し、複数のレジストリエントリを同時に割り当てることができます。

次の操作を実行できます:

- レジストリエントリの追加
- レジストリエントリリストを更新する
- レジストリエントリ (1 つまたは複数) を編集する
- 1 つまたは複数のレジストリエントリの割り当ての管理
- レジストリエントリの複製
- **reg** ファイルによるレジストリエントリのインポート
- レジストリエントリを削除する
- タグの削除

レジストリエントリを追加して割り当てる一般的なワークフローは次のとおりです。

1. Web コンソールで、関連する設定セットに移動します。[アクション]>[レジストリエントリ]に移動し、[レジストリエントリの追加]をクリックします。詳細については、「[レジストリエントリの追加](#)」を参照してください。
2. 追加したレジストリエントリを選択し、アクションバーの [割り当ての管理] をクリックします。詳細については、「[1 つのレジストリエントリまたは複数のレジストリエントリの割り当ての管理](#)」を参照してください。

割り当てが反映されるまでにはしばらく時間がかかります。すぐに適用するには、「[割り当てをすぐに有効にする](#)」を参照してください。

レジストリエントリの追加

レジストリエントリを追加するには、次の手順を実行します。

1. [レジストリエントリ] で、[レジストリエントリの追加] をクリックします。
2. 次の設定を構成します:

- アクションタイプ。リソースのアクションの種類を記述します。
- 名前。レジストリエントリの識別に役立つ名前を指定します。
- 説明 (オプション)。レジストリエントリに関する追加情報を指定します。
- タグ。レジストリエントリに新しいタグを作成するか、既存のタグを選択してから、そのタグを使用してレジストリエントリを一括管理できます。
- この操作を有効にしますか: レジストリエントリを有効または無効にします。無効にすると、ユーザーまたはマシンに割り当てられていてもエージェントによって処理されません。
- レジストリパス。レジストリエントリのレジストリパスを指定します。
- 値の名前。レジストリに表示されるレジストリ値の名前 (**NonTSECURITY** など)。
- タイプ。作成される可能性のあるレジストリエントリのタイプ。
- データ。一度作成されたレジストリエントリの値 (たとえば、0 または `C:\Program Files`)
- 一度だけ実行する: 選択した場合、WEM はアクションを 1 回だけ実行します。

3. 完了したら、[完了] をクリックして保存し、終了します。

1 つまたは複数のレジストリエントリを編集する

1 つまたは複数のレジストリエントリを編集するには、次の手順を実行します。

1. 「レジストリ・エントリ」で、1 つまたは複数のレジストリ・エントリを選択します。必要に応じて、検索ボックスを使用するか、リストにタグを付けると、レジストリエントリをすばやく見つけることができます。
2. アクションバーの [編集] をクリックします。
3. 必要に応じて変更を加えます。
4. 終了したら、[保存] をクリックします。

1 つまたは複数のレジストリエントリの割り当ての管理

1 つまたは複数のレジストリエントリの割り当てを管理するには、次の手順を実行します。

1. 1 つまたは複数のレジストリエントリを選択し、アクションバーの [割り当ての管理] を選択します。必要に応じて、検索ボックスまたはタグリストを使用して、レジストリエントリまたはレジストリエントリをすばやく検索できます。

注:

複数のレジストリエントリの割り当てを管理するには、レジストリエントリリストを確認し、[次へ] をクリックします。

1. レジストリエントリを割り当てる割り当て対象 (ユーザーとグループ) を選択します。
 - 新しいターゲットを追加するには、[新しいターゲットの追加] をクリックします。詳細については、「[割り当てターゲットの追加](#)」を参照してください。

- ターゲットを設定して、使用するフィルターを指定します。フィルタの追加については、「[フィルタ](#)」を参照してください。

2. 終了したら、[完了]をクリックします。

レジストリエントリの複製

注:

アサインメントは複製されません。

レジストリエントリを複製するには、次の手順を実行します。

1. レジストリエントリを選択し、アクションバーで [クローン] を選択します。
2. 名前と説明を編集します。
3. レジストリエントリの複製先となる構成セットを選択します。
4. [クローン] をクリックして、クローンプロセスを開始します。

レジストリ・エントリを **reg** ファイルごとにインポートする

レジストリファイルを課題のレジストリエントリに変換できます。この機能には次の制限があります。

- **HKEY_CURRENT_USER**以下のレジストリ値のみがサポートされます。レジストリエントリ機能では、**HKEY_CURRENT_USER**でレジストリ設定のみを割り当てることができます。
- **REG_BINARY**および**REG_MULTI_SZ types**のレジストリ値はサポートされていません。

制限を回避するには、グループポリシー設定の [****** グループポリシー設定のインポート] 設定を使用してレジストリファイルを WEM にインポートすることをお勧めします。****** 詳細については、「[グループポリシー設定のインポート](#)」を参照してください。

レジストリエントリをインポートするには、次の手順を実行します。

1. アクションバーで [インポート] を選択します。
2. ローカル**reg**ファイルをブラウズします。
3. [インポート] をクリックして、レジストリエントリをページにロードします。
4. 読み込んだレジストリエントリのオプションを選択します。
5. 読み込まれたレジストリエントリの上書きルールを選択します。
6. [インポート] をクリックして、インポートプロセスを開始します。

レジストリエントリを削除する

レジストリエントリを削除するには、レジストリエントリを選択し、アクションバーで [削除] を選択します。

タグの削除

レジストリエントリのタグを削除するには、次の手順を実行します。

1. レジストリエントリを選択し、アクションバーの [タグの削除] を選択します。
2. [削除] をクリックして、削除プロセスを開始します。

環境変数

この機能により、環境変数を割り当て可能なアクションとして追加できます。割り当てられると、これらの環境変数はユーザー環境で作成または設定されます。

次の操作を実行できます：

- 環境変数を追加します。
- 環境変数リストを更新します。
- 環境変数を編集します。
- 環境変数の割り当てを管理します。
- 環境変数を複製します。
- 環境変数を削除します。
- エージェントが環境変数を処理する方法を指定します。

環境変数を追加して割り当てる一般的なワークフローは次のとおりです。

1. Web コンソールで、関連する設定セットに移動し、[アクション] > [環境変数] に移動して、[環境変数の追加] をクリックします。[環境変数の追加を参照してください。](#)
2. 追加した環境変数を選択し、アクションバーの [割り当ての管理] をクリックします。[環境変数の割り当ての管理を参照してください。](#)

割り当てが反映されるまでにはしばらく時間がかかります。すぐに適用するには、「[割り当てをすぐに有効にする](#)」を参照してください。

環境変数を追加する

環境変数を追加するには、次の手順を実行します。

1. 「環境変数」で、「環境変数を追加」をクリックします。
2. 次の設定を構成します：

- 名前。環境変数を識別しやすい名前を指定します。
- 説明 (オプション)。環境変数に関する追加情報を指定します。
- この環境変数を有効にします。環境変数を有効または無効にします。無効にすると、ユーザーに割り当てられていてもエージェントによって処理されません。
- 変数名。環境変数の機能名。
- 変数値。環境変数の値。
- 実行順序。このオプションを使用して、エージェントが変数を処理する順序を決定します。エージェントは、最初に実行順序の値が 0 (ゼロ) の変数を処理し、次に値が 1 の変数、次に値が 2 の変数、というように処理します。競合が発生すると、最後に処理された変数が以前に処理された変数を上書きします。

3. 完了したら、[完了] をクリックして保存し、終了します。

環境変数を編集する

環境変数を編集するには、次の手順を実行します。

1. [環境変数] で、環境変数を選択します。必要に応じて、検索ボックスを使用して環境変数をすばやく見つけてください。
2. アクションバーの [編集] をクリックします。
3. 必要に応じて変更を加えます。
4. 終了したら、[保存] をクリックします。

環境変数の割り当てを管理

環境変数の割り当てを管理するには、次の手順を実行します。

1. 環境変数を選択し、アクションバーの [割り当ての管理] を選択します。
2. 環境変数を割り当てる割り当て対象 (ユーザーとグループ) を選択します。
 - 新しいターゲットを追加するには、[新しいターゲットの追加] をクリックします。詳細については、「[割り当てターゲットの追加](#)」を参照してください。
 - ターゲットを設定して、使用するフィルターを指定します。フィルタの追加については、「[フィルタ](#)」を参照してください。
3. 終了したら、[完了] をクリックします。

環境変数を複製する

注:

- アサインメントは複製されません。

環境変数を複製するには、以下の手順を実行します。

1. 環境変数を選択し、アクションバーの [クローン] を選択します。
2. 名前と説明を編集します。
3. 環境変数を複製する構成セットを選択します。
4. [クローン] をクリックして、クローンプロセスを開始します。

環境変数を削除する

環境変数を削除するには、環境変数を選択し、アクションバーの [削除] を選択します。

注:

- 環境変数がすでにユーザーに割り当てられている場合、それを削除するとそれらのユーザーに影響します。

エージェントが環境変数を処理する方法を指定します

処理オプション:

- ログオン時と更新時に環境変数を処理
- 再接続時に環境変数を処理する
- 割り当てられていないときにデスクトップから環境変数を削除
- 環境変数のフィルター処理を強制する
- 環境変数のフィルター処理を強制する

追加情報

割り当てをすぐに有効化

通常、割り当ては、[詳細設定](#)の **[SQL 設定の更新遅延]** で指定した時間が経過すると有効になります。アサインをすぐに有効にするには、次の手順を実行してください。

1. [**Web** コンソール] > [監視] > [管理] > [エージェント] > [統計] に移動し、エージェントを選択します。
2. アクションバーの [詳細] をクリックし、[エージェント] > [エージェントホスト設定の更新] を選択します。

重要:

- エージェントがアクションを処理するには、次の設定が有効になっていることを確認します。
 - ログオン時にエージェントを起動する (ログオン時のアクションを処理するため)
 - 再接続時にエージェントを起動する (再接続時のアクションを処理するため)
 - デスクトップ互換モードを有効にする
- これらの設定は、[レガシーコンソール](#) > [詳細設定](#) > [設定](#) > [メイン設定](#) > [エージェントサービスアクショ](#)

ンにあります。

グループポリシー設定をバックアップする

グループポリシー設定をバックアップするには、ドメインコントローラーで次の手順を実行します。

1. グループポリシー管理コンソールを開きます。
2. [グループポリシーの管理] ウィンドウで、バックアップする GPO を右クリックし、[バックアップ] を選択します。
3. [グループポリシーオブジェクトのバックアップ] ウィンドウで、バックアップを保存する場所を指定します。オプションで、バックアップに説明を与えることができます。
4. [バックアップ] をクリックしてバックアップを開始し、[OK] をクリックします。
5. バックアップフォルダに移動し、zip ファイルに圧縮します。

注:

WEM は、複数の GPO バックアップフォルダを含む zip ファイルのインポートをサポートしています。

WEM GPO を使用して FSLogix プロファイルコンテナを構成する

グループポリシー管理用テンプレートを使用して Windows の設定を構成する方法の例については、「[WEM GPO を使用して FSLogix プロファイルコンテナを構成する](#)」を参照してください。

アプリケーションランチャー

アプリケーションランチャーは、管理コンソールを通じてユーザーに割り当てたすべてのアプリケーションを集約します。このツールを使用すると、ユーザーは割り当てられたすべてのアプリケーションを 1 か所で起動できます。

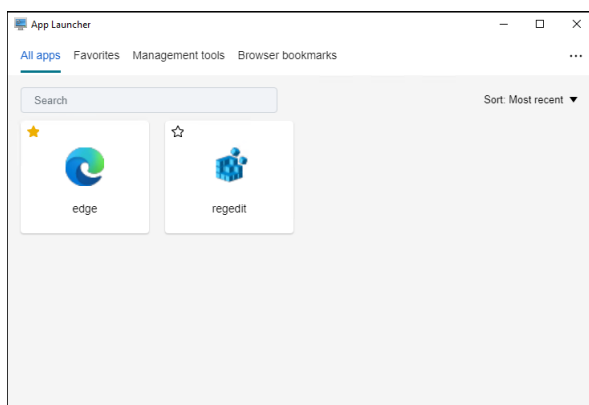
ヒント:

このツールは Citrix 仮想アプリとして公開することをお勧めします。

この機能には次の利点があります。

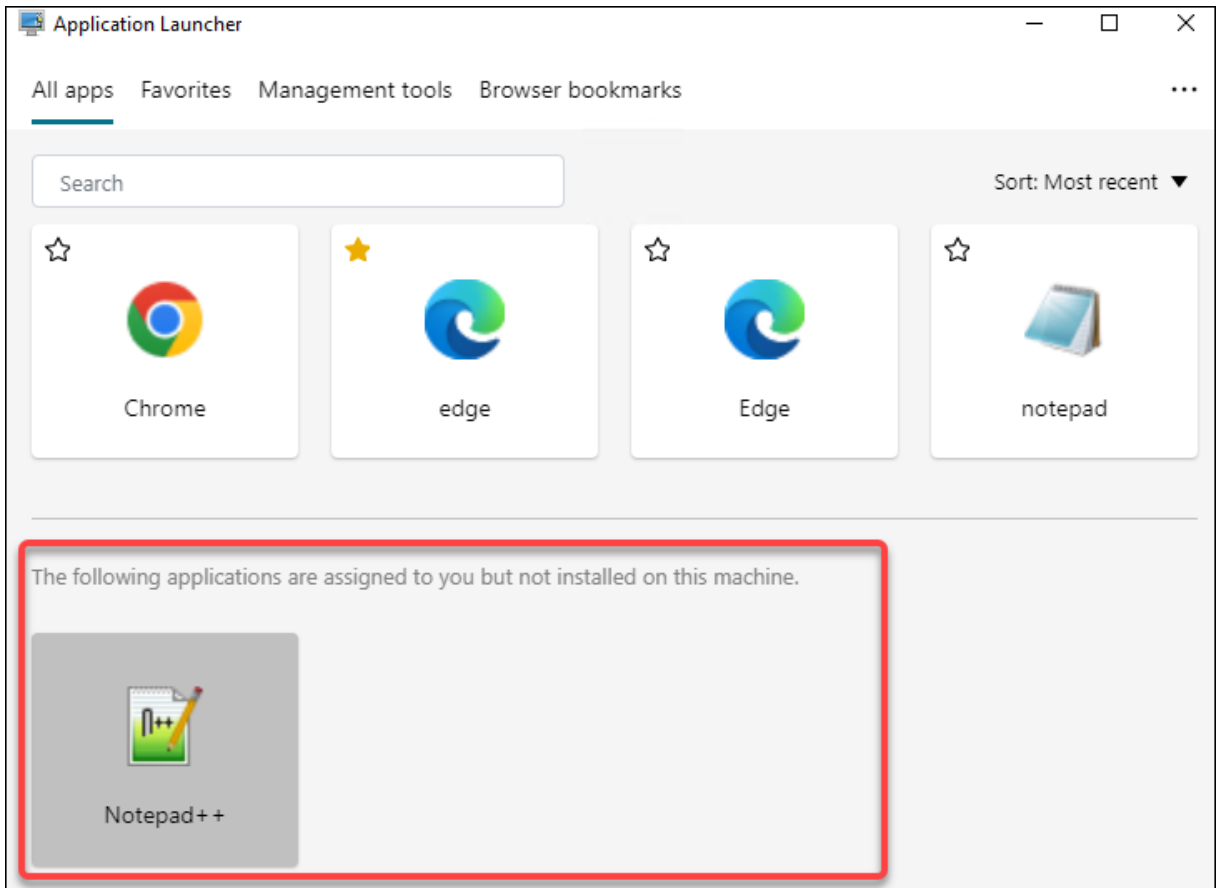
- 割り当てられたアプリケーションをすばやく起動できます。
- ユーザーは、自分に割り当てられているすべてのアプリケーションを 1 か所で起動できます。
- ユーザーはブックマークしたウェブサイトですばやくアクセスできます。Profile Management では、ブラウザのブックマークをローミングできます。

ユーザーは、自分の環境でアプリケーションランチャーツール (AppLauncherUtil.exe) を直接開くことができます。このツールは、エージェントのインストールフォルダにあります `%ProgramFiles%\Citrix\Workspace Environment Management Agent\ AppLauncherUtil.exe`。ツールを開くと、ユーザーに割り当てられているアプリケーションが反映された次の情報が表示されます。



- すべてのアプリ。割り当てられているすべてのアプリケーションを表示します。利用可能な並べ替えオプション: 最新、**A-Z**、**Z-A**。
- お気に入り。お気に入りとしてマークされたアプリケーションを表示します。
- 管理ツール。次の 2 つのツールを表示します。
 - **Taskmgr**。タスクマネージャーを開きます。
 - **vuemuiAgent**。WEM UI エージェントを起動します。
- ブラウザのブックマーク。ブラウザーのブックマークに保存された Web サイトを表示します。ブックマークをクリックすることで、ユーザーはブラウザをすばやく開き、ターゲットのウェブサイトアクセスできます。ブックマークはブラウザごとにグループ化できます。この機能は Google Chrome と Microsoft Edge のみをサポートします。利用可能な並べ替えオプション: 最新、**A-Z**、**Z-A**。
- 省略記号アイコン。ユーザーがセッションからサインアウトできるサインアウトオプションがあります。

割り当てられたアプリケーションがエージェントマシンに存在することを確認します。割り当てられたアプリケーションがエージェントマシンにインストールされていない場合、アプリケーションは表示されますが、起動できません。



この機能の使用例については、「[割り当てられたアプリケーションを1か所に集約する](#)」を参照してください。

外部タスクの例

スクリプト（PowerShell スクリプトなど）の場合：

- フォルダパスもスクリプト名にも空白文字が含まれていない場合は、次のようにします。
 - [パス]フィールドに、次のように入力します：`C:\Windows\System32\WindowsPowerShell\v1.0\powershell.exe`
 - [引数]フィールドに、次のように入力します：`C:\<folder path>\<script name>.ps1`

または、[パス]フィールドにスクリプトファイルへのパスを直接入力することもできます。例：`C:\<folder path>\<script name>.ps1`。[引数]フィールドで、必要に応じて引数を指定します。ただし、スクリプトファイルが実行されるか、別のプログラムで開くかは、ユーザー環境で設定されているファイルタイプの関連付けによって異なります。ファイルタイプの関連付けの詳細については、「[ファイルの関連付け](#)」を参照してください。

- フォルダパスまたはスクリプト名に空白文字が含まれている場合は、次の操作を行います。

- [パス]フィールドに、次のように入力します:`C:\Windows\System32\WindowsPowerShell\v1.0\powershell.exe`。
- [引数]フィールドに、次のように入力します: `-file C:\<folder path>\<script name>.ps1`。

アプリケーション (iexplore.exe など) の場合:

- [パス]フィールドに、次のように入力します: `C:\Program Files\ "Internet Explorer" \iexplore.exe`。
- [引数]フィールドに、Web サイトの URL を入力して開きます: `https://docs.citrix.com/`。

ファイル システム操作

ユーザーの環境へのフォルダとファイルのコピーを制御します。

ヒント:

動的トークンを使用して、Workspace Environment Management アクションを拡張し、より強力にすることができます。

ファイル・システム・オペレーション・リスト

既存のファイルとフォルダの操作のリスト。[検索]を使用すると、テキスト文字列に対して名前または ID でリストをフィルタリングできます。

ファイル・システム・オペレーションを追加するには

1. コンテキストメニューの [追加] コマンドを使用します。
2. 「新規ファイルシステムオペレーション」ダイアログのタブに詳細を入力し、「OK」をクリックします。

フィールドとコントロール 名前。リストに表示されるファイルまたはフォルダ操作の表示名です。

説明。リソースに関する追加情報を指定できます。このフィールドは、編集ウィザードまたは作成ウィザードにのみ表示されます。

ファイルシステムの動作状態。ファイルシステムの操作を有効にするか無効にするかを制御します。無効にすると、ユーザーに割り当てられていてもエージェントによって処理されません。

ソースパス。コピーされるソースファイルまたはフォルダへのパス。

ターゲットパス。コピーするコピー元のファイルまたはフォルダのコピー先のパス。

既存の場合はターゲットを上書きします。ファイルまたはフォルダの操作で、ターゲットの場所にある同じ名前の既存のファイルまたはフォルダを上書きするかどうかを制御します。オフにすると、同じ名前のファイルまたはフォルダがコピー先の場所に既に存在する場合、影響を受けるファイルはコピーされません。

1 回実行してください。デフォルトでは、Workspace Environment Management は、エージェントが更新されるたびにファイルシステム操作を実行します。Workspace Environment Management で、更新のたびにではなく、1 回だけ操作を実行するようにするには、このオプションを選択します。これにより、エージェントのリフレッシュ・プロセスが高速化されます。特に、多数のファイル・システム操作をユーザーに割り当てている場合は特にそうです。

アクションタイプ。 このファイルまたはフォルダのアクションの種類について説明します。コピー、削除、移動、名前の変更、またはシンボリックリンク操作。シンボリックリンクを作成するには、Windows でシンボリックリンクの作成を許可する `SeCreateSymbolicLinkPrivilege` 権限をユーザーに付与する必要があります。

実行順序。 操作の実行順序を決定し、特定の操作を他の操作よりも先に実行できるようにします。実行順序の値が 0 (ゼロ) の操作が最初に実行され、次に値が 1 の操作、次に値が 2 の操作、というように実行されます。

ファイルタイプの関連付け

重要:

設定したファイルタイプ関連付け (FTA) は、自動的にデフォルトの関連付けになります。ただし、該当するファイルを開くと、「このファイルを開く方法しますか?」ウィンドウが表示されても、ファイルを開くアプリケーションを選択するように求めるメッセージが表示されます。「**OK**」をクリックしてウィンドウを閉じます。同じようなウィンドウを今後表示したくない場合は、次の操作を行います。グループポリシーエディターを開き、「新しいアプリケーションがインストールされました」通知ポリシーを有効にします ([コンピューターの構成] > [管理用テンプレート] > [Windows コンポーネント] > [ファイルエクスプローラー])。

ユーザー環境での FTA の作成を制御します。

ヒント:

[動的トークンを使用して](#)、Workspace Environment Management アクションを拡張し、より強力にすることができます。

この機能により、FTA を割り当て可能なアクションとして追加できます。

次の操作を実行できます:

- FTA の追加
- FTA を更新
- FTA を編集
- 課題を管理する
- FTA のクローン
- FTA を削除

FTA を追加するには

1. コンテキストメニューの [関連付けの追加] コマンドを使用します。

2. 「ファイルタイプの関連付けを追加」ダイアログボックスに詳細を入力します。

アクションタイプ。このリソースがどのようなアクションであるかを説明します。

名前。ファイルの関連付けリストに表示されるファイルの関連付けの表示名です。

説明。このフィールドは、編集/作成ウィザードでのみ表示され、リソースに関する追加情報を指定できます。

ファイル関連付けの状態。ファイルの関連付けを [有効] または [無効] のどちらにするかを切り替えます。無効にすると、ユーザーに割り当てられていてもエージェントによって処理されません。

ファイル拡張子です。このファイルの種類に関連付けに使用される拡張子。リストからファイル名拡張子を選択すると、**ProgID** フィールドが自動的に入力されます（管理コンソールが実行されているマシンにファイルタイプが存在する場合）。拡張機能を直接入力することもできます。ただし、ブラウザの関連付けの場合は、拡張子を直接入力する必要があります。詳細については、「[ブラウザの関連付け](#)」を参照してください。

ProgID。アプリケーション (COM) に関連付けられたプログラム識別子。この値は、リストからファイル拡張子を選択すると、自動的に設定されます。ProgID を直接入力することもできます。インストールされているアプリケーションの ProgID を検出するには、OLE/COM オブジェクトビューア (oleview.exe) を使用して、オブジェクトクラス/OLE 1.0 オブジェクトを確認します。ProgID の詳細については、「[プログラム識別子 \(ProgID\)](#)」を参照してください。

操作。アクションタイプ (開く、編集、印刷) を選択できます。

ターゲットアプリケーション。このファイル名拡張子で使用する実行可能ファイルを指定できます。実行可能ファイルのフルパスを入力します。たとえば、UltraEdit テキストエディタの場合: `C:\Program Files\IDM Computer Solutions\UltraEdit\uedit64.exe`

コマンド。実行可能ファイルに関連付けるアクションタイプを指定できます。例:

- 開くアクションの場合は、“%1” と入力します。
- 印刷アクションの場合は、`/p"%1"` と入力します。

デフォルトアクションとして設定します。関連付けが、そのファイル名拡張子の既定として設定されているかどうかを切り替えます。

上書き。このファイルの関連付けが、指定した拡張子の既存の関連付けを上書きするかどうかを切り替えます。

1 回実行してください。デフォルトでは、Workspace Environment Management (WEM) は、エージェントが更新されるたびにファイルの関連付けを作成します。このオプションを選択すると、更新するたびにではなく、1 回だけファイルの関連付けが作成されます。これにより、エージェントの更新プロセスが高速化されます。特に、多くのファイルの関連付けがユーザーに割り当てられている場合。

ヒント:

[ファイルタイプ関連付けアシスタントのデータを使用して](#)、それらを管理コンソールに割り当て可能なアクションとして追加できます。

詳細については、「[知っておきましょう](#)」を参照してください。

ファイルタイプの関連付けを編集する

ファイルタイプの関連付けを編集するには、次の手順を実行します。

1. 「ファイルタイプの関連付け」で、必要な関連付けを選択します。必要に応じて、検索ボックスを使用して必要なファイルタイプの関連付けをすばやく検索できます。
2. アクションバーの [編集] をクリックします。
3. 必要に応じて変更を加えます。
4. 終了したら、[保存] をクリックします。

課題を管理する

ファイルタイプ関連付けの割り当てを管理するには、次の手順を実行します。

1. ファイルタイプの関連付けを選択し、アクションバーの [割り当ての管理] を選択します。
2. 関連付けを割り当てる割り当て対象 (ユーザーとグループ) を選択します。
 - 新しいターゲットを追加するには、[新しいターゲットの追加] をクリックします。詳細については、「[割り当てターゲットの追加](#)」を参照してください。
 - フィルターを使用して課題をコンテキスト化します。必要に応じて、各ターゲットに必要なアソシエーションの優先順位を設定します。
 - 割り当てに関連付けられている3つの省略記号をクリックして、設定をコピーします。
 - 割り当てに関連するそれぞれのオプションを選択することで、コピーした構成をすべてのターゲットに適用することもできます。

クローン・ファイル・タイプ・アソシエーション

ファイルタイプの関連付けを複製するには、次の手順を実行します。

1. ファイルタイプの関連付けを選択し、アクションバーで [クローン] を選択します。
2. 名前と説明を編集します。
3. ファイルタイプアソシエーションのクローニング先となる構成セットを選択します。
4. [クローン] をクリックして、クローンプロセスを開始します。

ファイルタイプの関連付けを削除する

ファイルタイプの関連付けを削除するには、関連付けを選択し、アクションバーの [削除] を選択します。

エージェントがファイルタイプの関連付けを処理する方法を指定してください

処理オプション:

- ログオン時と更新時にファイルタイプの関連付けを処理
- 再接続時に FTA を処理
- FTA のフィルター処理を強制
- 未割り当て時にデスクトップから FTA を削除

JSON ファイル

この機能によって、JSON オブジェクトを追加して割り当てて JSON ファイルを作成または変更できるようになりました。この機能を使用すると、JSON 構成ファイル (Microsoft Teams など) を使用してアプリケーションにパーソナライズされた設定を適用できます。

次の操作を実行できます:

- JSON オブジェクトを追加します。
- JSON オブジェクトリストを更新します。
- JSON オブジェクトを編集します。
- JSON オブジェクトの割り当てを管理します。
- JSON オブジェクトを複製します。
- JSON オブジェクトを削除します。
- JSON オブジェクトを処理するかどうかを制御します。

JSON オブジェクトを追加して割り当てる一般的なワークフローは次のとおりです:

1. Web コンソールで、関連する構成セットに移動し、[操作] > [JSON オブジェクト] に移動して、[JSON オブジェクトを追加する] をクリックします。「JSON オブジェクトを追加する」を参照してください。
2. 追加した JSON オブジェクトを選択し、操作バーの [割り当てを管理する] をクリックします。「JSON オブジェクトの割り当てを管理する」を参照してください。

割り当てが反映されるまでにはしばらく時間がかかります。すぐに適用するには、「[割り当てをすぐに有効にする](#)」を参照してください。

JSON オブジェクトを追加する

JSON オブジェクトを追加するには、次の手順を実行します:

1. **JSON** オブジェクトで、「**JSON** オブジェクトを追加」をクリックし、「標準」を選択します。
2. 次の設定を構成します:
 - 名前。JSON オブジェクトを特定しやすい名前を指定します。

- 説明 (オプション)。JSON オブジェクトに関する追加情報を指定します。
- この操作を有効にしますか: JSON オブジェクトを有効または無効にします。無効にすると、ユーザーまたはマシンに割り当てられていてもエージェントによって処理されません。
- ファイルパスとコンテンツ: オブジェクトを変更する JSON ファイルへのパスを指定します。指定されたコンテンツは、ターゲットファイルの既存のコンテンツとマージされます。コンテンツがどのようにマージされるかを理解するには、「JSON コンテンツのマージの例」を参照してください。

パスとコンテンツを手動で入力しない場合は、[テンプレートから生成する] をクリックします。[テンプレートから生成] 機能を使用して、特定のアプリケーションを構成するためにテンプレートを使用して JSON コンテンツを生成できます。現在、この機能は Microsoft Teams にのみ適用されます。

テンプレートから生成

- 存在しない場合はファイルを作成する: これは、オブジェクトが正常に動作することを保証するフェールセーフオプションです。たとえば、Microsoft Teams の場合、「desktop-config.json」ファイルは Microsoft Teams を初めて起動するまで存在しません。
- 元のファイルをバックアップする: 選択すると、エージェントはターゲットファイルのバックアップを同じ場所に自動的に保存します。バックアップは元の名前を継承し、サフィックスが付きます: 「-WEMCopy」。
- 処理モード
 - ユーザーレベルの処理: ユーザーのログオン時またはエージェントの更新時にアクションを処理します。
 - マシンレベルの処理: マシンの起動時、またはエージェントが SQL 接続設定を更新するときに処理を行います。
- 一度だけ実行する: 選択した場合、WEM はアクションを 1 回だけ実行します。

3. 完了したら、[完了] をクリックして保存し、終了します。

JSON コンテンツのマージの例 指定されたコンテンツは、ターゲットファイルの既存のコンテンツとマージされます。

ターゲットファイルの内容の例:

```
1 {
2
3     "value": "value1",
4     "array": ["test1", "test2"],
5     "object": {
6     "key1": "value1", "key2": "value2" }
7
8 }
9
10 <!--NeedCopy-->
```

指定コンテンツの例:

```
1 {
2
3   "value": "value2",
4   "array": ["test2", "test3"],
5   "object": {
6     "key1": "changed", "key3": "value3", "key4": "value4"   }
7 ,
8   "new": 1
9 }
10
11 <!--NeedCopy-->
```

マージされた結果の例:

```
1 {
2
3   "value": "value2",
4   "array": ["test1", "test2", "test3"],
5   "object": {
6     "key1": "changed", "key2": "value2", "key3": "value3", "key4": "value4"
7     "   " }
8 ,
9   "new": 1
10 }
11 <!--NeedCopy-->
```

Windows 11 の [スタート] メニューレイアウトに JSON オブジェクトを追加します

JSON オブジェクトを Windows 11 のスタートメニューレイアウトに追加するには、次の手順を実行します。

1. 「新規 **JSON** オブジェクトを追加」をクリックします。
2. **Windows 11** の [スタート] メニュー設定を選択します。
3. **JSON** オブジェクトの追加ページに設定を貼り付けます。
4. [完了] をクリックします。

詳しくは、「[Windows 11 の \[スタート\] メニューのレイアウトのカスタマイズ](#)」を参照してください。

JSON オブジェクトを編集する

JSON オブジェクトを編集するには、次の手順を実行します。

1. **JSON** オブジェクトで、JSON オブジェクトを選択します。必要に応じて、検索ボックスを使用して JSON オブジェクトをすばやく検索できます。
2. アクションバーの [編集] をクリックします。

3. 必要に応じて変更を加えます。
4. 終了したら、[保存] をクリックします。

JSON オブジェクトの割り当てを管理する

JSON オブジェクトの割り当てを管理するには、次の手順を実行します。

1. JSON オブジェクトを選択し、アクションバーの [割り当ての管理] を選択します。
2. JSON オブジェクトを割り当てる割り当て対象 (ユーザーとグループ) を選択します。
 - 新しいターゲットを追加するには、[新しいターゲットの追加] をクリックします。詳細については、「[割り当てターゲットの追加](#)」を参照してください。
 - ターゲットを設定して、使用するフィルターを指定します。フィルタの追加については、「[フィルタ](#)」を参照してください。
3. 終了したら、[完了] をクリックします。

JSON オブジェクトのクローン

注:

- アサインメントは複製されません。

JSON オブジェクトを複製するには、次の手順を実行します。

1. JSON オブジェクトを選択し、アクションバーの [クローン] を選択します。
2. 名前と説明を編集します。
3. JSON オブジェクトのクローニング先となる構成セットを選択します。
4. [クローン] をクリックして、クローンプロセスを開始します。

JSON オブジェクトを削除する

JSON オブジェクトを削除するには、そのオブジェクトを選択し、アクションバーの [削除] を選択します。

注:

- JSON オブジェクトが既にユーザーに割り当てられている場合、それを削除するとそのユーザーに影響します。

INI ファイル

.ini ファイルの操作の作成を制御し、**.ini** ファイルを変更できます。

ini ファイルの操作リスト

既存の**.ini** ファイル操作のリスト。[検索]を使用すると、テキスト文字列に対して名前または ID でリストをフィルタリングできます。

INI ファイル操作を追加するには

1. コンテキストメニューの [追加] コマンドを使用します。
2. 「INI ファイル操作を追加」 ページに詳細を入力し、「OK」をクリックします。

フィールドとコントロール 名前。[INI ファイル操作] リストに表示される**.ini** ファイル操作の表示名です。

説明。このフィールドは、編集/作成ウィザードでのみ表示され、リソースに関する追加情報を指定できます。

.ini ファイル操作の状態。 .ini ファイルの操作を有効にするか無効にするかを切り替えます。無効にすると、ユーザーに割り当てられていてもエージェントによって処理されません。

ターゲットパス。ユーザーの環境で解決されるときに変更される.ini ファイルの場所を指定します。

注:

ドメインに参加していないエージェントを使用しているときに、ターゲットパスがネットワーク共有の場合、WEM が機能しない場合があります。

ターゲットセクション。この操作の対象となる.ini ファイルのセクションを指定します。存在しないセクションを指定すると、そのセクションが作成されます。

ターゲット値名。追加される値の名前を指定します。

ターゲット値。値自体を指定します。

1 回実行してください。デフォルトでは、Workspace Environment Management は、エージェントが更新されるたびに.ini ファイル操作を実行します。このチェックボックスを選択すると、Workspace Environment Management が更新ごとに操作を実行するのではなく、1 回だけ操作を実行するようになります。この操作により、特にユーザーに多数の.ini ファイル操作が割り当てられている場合に、エージェントの更新処理が高速化されます。

アクションタイプ。このリソースがどのようなアクションであるかを説明します。

INI ファイル操作の編集 編集/変更するには、次の手順を実行します:

1. アクションバーの [編集] をクリックします。
2. 必要に応じて変更を加えます。
3. 終了したら、[保存] をクリックします。

課題を管理する アサインメントを管理するには、次の手順を実行します：

1. INI ファイルを選択し、アクションバーの [割り当ての管理] を選択します。
2. この INI ファイルを割り当てる割り当てターゲット (ユーザーとグループ) を選択してください。
3. フィルターを使用して課題をコンテキスト化します。
4. 選択した INI ファイルの優先順位をターゲットごとに設定します。
5. 終了したら、[保存] をクリックします。

INI ファイルのクローン操作 クローンを作成するには、次の手順を実行します：

1. INI ファイルを選択し、アクションバーで [クローン] を選択します。
2. 名前と説明を編集します。
3. 複製する必要がある構成セットを選択します。
4. [クローン] をクリックして、クローンプロセスを開始します。

INI ファイルの削除 INI ファイルを削除するには、INI ファイルを選択してアクションバーの [削除] を選択します。

ポート

ポートマッピングを割り当て可能なアクションとして追加できます。ポート機能により、クライアントの COM ポートをマッピングできます。Citrix Studio ポリシーを使用して COM ポートの自動接続を有効にすることもできます。ポート機能を使用して各ポートのマッピングを手動で制御する場合は、Citrix Studio でクライアント COM ポートリダイレクトポリシーを必ず有効にしてください。デフォルトでは禁止されます。

ポートリスト

既存のポートのリスト。[検索] を使用して、名前または ID でリストをフィルタできます。

ポートを追加するには

1. コンテキストメニューから [ポートマッピングの追加] を選択します。
2. 「ポートマッピングを追加」ダイアログタブに詳細を入力し、「**OK**」をクリックします。

フィールドとコントロール 名前。ポートリストに表示されるポートの表示名。

説明。エディション/作成ウィザードにのみ表示され、リソースに関する追加情報を指定できます。

ポートステート。ポートが有効か無効かを切り替えます。無効にすると、ユーザーに割り当てられていてもエージェントによって処理されません。

ポート名。ポートの機能名。

ポートターゲット。ターゲットポート。

[オプション] タブ アクションタイプ。このリソースが実行するアクションの種類を記述します。

たとえば、次のようにポート設定を構成できます。

- ポート名: 「COM3:」を選択します。
- ポートターゲット: \\Client\COM3:を入力

ポートマッピングを編集 ポートマッピングを編集するには、次の手順を実行します:

1. アクションバーの [編集] をクリックします。
2. 必要に応じて変更を加えます。
3. 終了したら、[保存] をクリックします。

課題を管理する アサインメントを管理するには、次の手順を実行します:

1. ポートマッピングを選択し、アクションバーの [割り当ての管理] を選択します。
2. このポートを割り当てる割り当てターゲット (ユーザーとグループ) を選択します。
3. フィルターを使用して課題をコンテキスト化します。
4. 選択したポートマッピングの優先順位を各ターゲットに設定します。
5. 終了したら、[保存] をクリックします。

ポートマッピングを複製 クローンを作成するには、次の手順を実行します:

1. ポートを選択し、アクションバーで [クローン] を選択します。
2. 名前と説明を編集します。
3. 複製する必要がある構成セットを選択します。
4. [クローン] をクリックして、クローンプロセスを開始します。

ポートマッピングを削除 ポートマッピングを削除するには、ポートマッピングを選択し、アクションバーで [削除] を選択します。

ユーザー DSN

ユーザー DSN の作成を制御します。

ユーザー **DSN** リスト

既存のユーザー DSN のリスト。[検索] を使用すると、テキスト文字列に対して名前または ID でリストをフィルタリングできます。

ユーザー **DSN** の追加

1. コンテキストメニューの [追加] コマンドを使用します。
2. 「ユーザー **DSN** を追加」ダイアログタブに詳細を入力し、「**OK**」をクリックします。

フィールドとコントロール

名前。ユーザー DSN リストに表示されるユーザー DSN の表示名。

説明。このフィールドは、編集/作成ウィザードでのみ表示され、リソースに関する追加情報を指定できます。

ユーザー **DSN** の状態。ユーザー DSN が有効か無効かを切り替えます。無効にすると、ユーザーに割り当てられていてもエージェントによって処理されません。

データソース名。ユーザー DSN の機能名。

ドライバー。DSN ドライバです。現時点では、SQL サーバーの DSN のみがサポートされています。

サーバー名。ユーザー DSN が接続する SQL サーバーの名前。

データベース名。ユーザー DSN が接続する SQL データベースの名前。

1 回実行してください。デフォルトでは、Workspace Environment Management は、エージェントが更新されるたびにユーザー DSN を作成します。Workspace Environment Management では、更新のたびにユーザー DSN を作成するのではなく、1 回だけ作成する場合は、このチェックボックスをオンにします。これにより、エージェントの更新プロセスが高速化されます。特に、多数の DSN がユーザーに割り当てられている場合は特にそうです。

アクションタイプ。このリソースがどのようなアクションであるかを説明します。

ユーザー **DSN** を編集する ユーザー DSN を編集/変更するには、次の手順を実行します：

1. アクションバーの [編集] をクリックします。
2. 必要に応じて変更を加えます。
3. 終了したら、[保存] をクリックします。

ユーザー **DSN** の割り当てを管理 ユーザー DSN の割り当てを管理するには、次の手順を実行します：

1. ユーザー DSN を選択し、アクションバーの [割り当ての管理] を選択します。
2. ユーザー DSN を割り当てる割り当てターゲット (ユーザー、グループ、OU) を選択します。
3. フィルターを使用して課題をコンテキスト化します。

4. 選択したユーザー DSN の優先順位を各ターゲットに設定します。
5. 終了したら、[保存] をクリックします。

ユーザー **DSN** を複製する ユーザー DSN を複製するには、次の手順を実行します：

1. ユーザー DSN を選択し、アクションバーで [複製] を選択します。
2. 名前と説明を編集します。
3. 複製する必要がある構成セットを選択します。
4. [クローン] をクリックして、クローンプロセスを開始します。

ユーザー **DSN** を削除する ユーザー DSN を削除するには、ユーザー DSN を選択し、アクションバーで [削除] を選択します。

割り当て

April 10, 2024

アサインメントを使用して、ユーザーがアクションを使用できるようにします。これにより、ユーザーのログオンスク립トの一部を置き換えることができます。

課題ターゲット

[割り当てターゲット] ページでは、アクションとセキュリティルールを割り当てることができるように、ユーザーとグループ (ターゲット) を追加できます。割り当てを管理するターゲットを選択します。

注：

SID をターゲット名に変換するには時間がかかる場合があります。変換が正しくないか失敗した場合は、Cloud Connector のヘルスステータスを表示して正常に動作していることを確認します。問題が解決しない場合は、Citrix テクニカルサポートに連絡してください。

次の 2 つの組み込みターゲットがあります。

- みんな。匿名ユーザーとゲストを含むすべてのユーザーを含むビルトイングループ。メンバーシップはオペレーティングシステムによって制御されます。

- 管理者。管理者グループのすべてのメンバーを含むビルトイングループ。オペレーティングシステムの初回インストール後、グループのメンバーは管理者アカウントのみです。コンピューターがドメインに参加すると、Domain Admins グループが管理者グループに追加されます。サーバーがドメインコントローラーになると、Enterprise Admins グループが管理者グループに追加されます。

使用できるオプションには次のものがあります。

- **[フィルタ]**。リストをフィルタできます。
- 割り当てターゲットを追加します。ターゲットを追加できます。
- 更新。ターゲットのリストを更新します。
- **[表示]**。組み込みターゲットの詳細を表示できます。
- 編集。ターゲットを編集できます。説明、優先度、有効化ステータスを変更できます。優先度を設定する際には、次の点を考慮してください。優先度によって、割り当てたアクションが処理される順序が決まります。値が大きいほど、優先順位が高くなります。整数を入力します。競合が発生した場合は、優先度の高いターゲットが優先されます。
- 有効。オブジェクト (ターゲット) を有効または無効にできます。
- **[削除]**。ターゲットを削除できます。注: 組み込みターゲットは削除されません。

ヒント:

[**State**] 列のトグルを使用して、ターゲットをすばやく有効または無効にできます。

課題ターゲットの追加

アサインメントを追加するには、次の手順を実行します。

1. [割り当てターゲット] ページで、[割り当てターゲットの追加] をクリックします。
2. ID プロバイダーを選択します。
3. 追加するターゲットが存在するドメインを選択します。
4. ターゲットタイプを選択します。

注:

Active Directory と Azure Active Directory では、検索対象をユーザーまたはセキュリティグループに絞り込むことができます。Active Directory では、組織単位を選択することもできます。[組織単位に割り当てることができるのはグループポリシー設定のみであることに注意してください。](#)

5. [検索] ボックスに、追加するターゲットの名前を入力します。名前を入力すると、一致する項目がメニューに表示されます。

注:

検索では上位 50 件の結果のみが返されます。必要に応じて検索を絞り込みます。

6. プラスアイコンをクリックしてターゲットを追加します。(追加済みのターゲットは緑色のチェックマークアイコンで表示されます)。

ヒント:

別の ID プロバイダーのターゲットを追加する場合は、別の ID タイプに切り替えて続行します。

7. 終了したら、[追加] をクリックしてターゲットを追加し、ウィザードを終了します。

ターゲットのアサインの管理

ターゲットの割り当てを管理するには、次の手順を実行します。

1. 「課題ターゲット」ページで、ターゲットを選択します。必要に応じて、検索ボックスを使用してターゲットをすばやく見つけることができます。
2. アクションバーで、「課題の管理」を選択します。【アサインメントの管理】ウィンドウが表示されます。
3. 必要に応じて各アクションの割り当てを管理します。
4. [変更を確認] をクリックして、意図したとおりに変更を加えたことを確認します。

割り当てターゲットを複製する

割り当てターゲットを複製するには、以下の手順を実行します。

1. 「課題ターゲット」ページで、ターゲットを選択します。必要に応じて、検索ボックスを使用してターゲットをすばやく見つけることができます。
2. アクションバーで、「クローン」を選択します。[クローンの割り当てターゲット] ウィンドウが表示されます。
3. ターゲットのクローニング先となる構成セットを選択します。
4. [複製] をクリックします。

注:

- ビルトインターゲットのクローンは作成できません。
- 一度に最大 10 個のターゲットをクローニングできます。
- ターゲットが宛先にすでに存在する場合、そのターゲットはスキップされます。
- クローンターゲットの説明は空です。割り当ては複製されず、優先度はデフォルト値 (100) に設定され、状態はデフォルトで有効 (チェックマークアイコン) に設定されます。

フィルター

注:

- この機能はプレビューとして提供されています。
- フィルターは、課題やスクリプト化されたタスクで使用するためのものです。

[フィルター] ページでは、ユーザにアクションを割り当てるタイミングを制御するフィルタを追加できます。フィルターは複数の条件で構成できます。

組み込みのフィルターがあります。

- 常に **true**。選択すると、関連するアクションは常にターゲットユーザーに割り当てられます。この組み込みフィルターは編集または削除できません。

使用できるオプションには次のものがあります。

- フィルターを追加します。アクションを割り当てるときに使用できるようにフィルタを追加できます。
- 条件を管理します。条件を追加、削除、編集できます。
- 更新。フィルターのリストを更新します。このオプションを使用すると、[条件を管理] の条件のリストも更新されます。
- 編集。フィルターを編集できます。ユーザーに割り当てられたアクションにバインドされているフィルターを編集すると、その変更はそれらのユーザーにすぐに影響します。
- **[削除]**。フィルターを削除できます。
- 状態。フィルターを有効または無効にできます。

フィルターを追加

フィルターを追加するには、次の手順を実行します。

1. [フィルター] ページで、[フィルターを追加] をクリックします。
2. [基本情報] で以下を構成し、[次へ] をクリックします。
 - フィルター名。フィルターの名前を入力します。
 - 説明。他のフィルターと区別しやすいように、フィルターの説明を入力します。この情報は入力しなくても構いません。
 - このフィルターを有効にします。[はい] を選択してフィルターを有効にするか、[いいえ] を選択してフィルターを無効にします。
3. 「条件」で、条件を追加してフィルターを作成します。 ****** 演算子をクリックして、[**すべて一致] (AND 演算子) または [任意に一致] (OR 演算子) を切り替えます。 ****** 両方の演算子を使用して、2 つ以上の条件を組み合わせると 1 つの複合条件にすることができます。

- 条件を追加します。リストから条件を選択するか、新しい条件を作成します。
- 条件グループを追加します。条件グループを追加して、同じ論理演算子 (AND または **OR**) を使用して一連の条件をグループ化します **。条件グループ内に条件グループを追加できます。コンディショニンググループは最大 3 レベルまでネストできます。

注:

- ここで作成した条件は、他のフィルターで使用できます。
- 複合条件の基準をより深く理解するには、概要のセクションを使用してください。
- **OR** 演算子を含むフィルターは、バージョンが 2210.2.0.1 以降のエージェントでのみ評価されます。
- 特定の種類の条件は、ユーザー設定にのみ適用されます。これらをマシン設定 (スクリプト化されたタスクや GPO など) に適用すると、エージェントはフィルタを評価するときにそれらをスキップします。マシン設定に適用されないフィルター条件の完全なリストについては、[マシン設定に適用されない条件を参照してください](#)。

4. 終了したら [完了] をクリックします。

条件を作成する

条件は、フィルターを追加するか、条件を管理するときに作成できます。表示される [条件の作成] ウィザードで、次の手順を実行します。

1. 条件名を入力します。
2. [はい] を選択して有効にし、[いいえ] を選択して条件を無効にします。
3. リストから条件タイプを選択し、それに応じて設定を構成します。

条件タイプが異なれば、設定も異なる場合があります。次の条件タイプを使用できます。

コンディショニングタイプ	説明
常に真実	条件は常に成り立つ。
Active Directory 属性	属性名が指定された値と一致するかどうかに応じて、True または false。属性値をセミコロン (;) で区切って入力します。注: 属性値に関係なく条件が成立するようにするには、疑問符 (?) を入力します。
Active Directory グループ	グループ名が指定された値と一致するかどうかに応じて、True または false。グループ名をセミコロン (;) で区切って入力します。

コンディションタイプ	説明
Active Directory パス	パスが指定された値と一致するかどうかに応じて、True または false。パスをセミコロン (;) で区切って入力します。注: アスタリスク (*) はワイルドカードとして使用できます。
Active Directory サイト	サイト名が指定された値と一致するかどうかに応じて、True または false。サイト名をセミコロン (;) で区切って入力します。
Citrix Provisioning イメージモード	** 画像モードが共有かプライベートかによって **、True または false。
Citrix Virtual Apps ファーム名	ファーム名が指定された値と一致するかどうかに応じて、True または false。
Citrix Virtual Apps バージョン	バージョンが指定された値と一致するかどうかに応じて、True または false。
Citrix Virtual Apps ゾーン名	ゾーン名が指定された値と一致するかどうかに応じて、True または false。
Citrix Virtual Desktops デスクトップグループ名	デスクトップグループ名が指定された値と一致するかどうかに応じて、True または false。
Citrix Virtual Desktops ファーム名	ファーム名が指定された値と一致するかどうかに応じて、True または false。
クライアント IP アドレス	IP アドレスが指定された値と一致するかどうかに応じて、True または False。
クライアント名	クライアント名が指定された値と一致するかどうかに応じて、True または false。クライアント名をセミコロン (;) で区切って入力します。アスタリスク (*) をワイルドカードとして使用できます。動的トークンも使用できません。
クライアント OS	クライアント OS が指定された値と一致するかどうかに応じて、true または false。
クライアントリモート OS	クライアントのリモート OS が指定された値と一致するかどうかに応じて、true または false。
コンピュータ名	コンピューター名が指定された値と一致するかどうかに応じて、True または false。コンピューター名をセミコロン (;) で区切って入力します。アスタリスク (*) をワイルドカードとして使用できます。
接続状態	** 接続状態がオンラインかオフラインかに応じて **、True または false。

コンディションタイプ	説明
日付と時刻	日付と時刻が指定された値と一致するかどうかに応じて、True または false。日付または日付範囲をセミコロン (;) で区切って入力します。日付を、 <code>mm/dd/yyyy</code> の形式で入力します。日付範囲を <code>mm/dd/yyyy HH:mm - mm/dd/yyyy HH:mm</code> (時刻はオプション) の形式で入力します。
曜日	日が指定された値に一致するかどうかに応じて、True または false。
動的価値	動的値が指定された値と一致するかどうかに応じて、True または false。ダイナミック式が解決する値をセミコロン (;) で区切って入力します。注: 動的式の値に関係なく条件を真にする場合は、疑問符 (?) を入力します。
環境変数	環境変数が指定された値と一致するかどうかに応じて、True または false。環境変数の値をセミコロン (;) で区切って入力します。注: 環境変数の値に関係なく条件を真にする場合は、疑問符 (?) を入力します。
ファイルバージョン	ファイルバージョンが指定された値と一致するかどうかに応じて、True または false。ファイルバージョンをセミコロン (;) で区切って入力します。
ファイル/フォルダが存在するかどうか	パスが指定された値と一致するかどうかに応じて、True または false。ファイルまたはフォルダのフルパスを入力します。 動的トークンは使用できません。
IP アドレス	IP アドレスが指定された値と一致するかどうかに応じて、True または False。IP アドレスまたは IP アドレス範囲をセミコロン (;) で区切って入力します。注: アスタリスク (*) はワイルドカードとして使用できます。
名前がリストにあるかどうか	名前が指定されたリストにあるかどうかに応じて、True または false。[名前] フィールドに、リストで検索する名前を入力します。「XML リストのファイルパス」フィールドに、XML リストの完全なファイルパスを入力します。
名前/値がリストにあるかどうか	名前または値が指定されたリストにあるかどうかに応じて、True または false。[名前] フィールドに、リストで検索する名前または値を入力します。「XML リストのファイルパス」フィールドに、XML リストの完全なファイルパスを入力します。
ネットワーク接続状態	ネットワーク接続の状態が [使用可能] か [** 使用不可 **] かに応じて、True または false。

コンディションタイプ	説明
OS プラットフォームタイプ	OS プラットフォームの種類が x86 か x64** かによって、真か偽か。
公開されたリソース名	名前が指定された値と一致するかどうかに応じて、True または false。公開リソース名をセミコロン (;) で区切って入力します。
レジストリ値	レジストリ値が指定された値と一致するかどうかに応じて、True または false。[レジストリパスと名前] フィールドに、レジストリ値の名前を含むフルパスを入力します。[レジストリ値] フィールドに、レジストリ値をセミコロン (;) で区切って入力します。注: レジストリエントリの値に関係なく条件を真にする場合は、疑問符 (?) を入力します。
トランスモード状態	状態が [無効] か [有効] かによって、真または偽になります。
地域フォーマット	フォーマットが指定された値と一致するかどうかに応じて、True または false。必要に応じて、[リストにない値を追加] オプションを使用して、 ISO 言語コードをセミコロン (;) で区切って入力します。
ユーザ SBC リソースタイプ	** 種類がデスクトップか公開アプリケーションかによって **、True または false。
ユーザ UI 言語	言語が指定された値と一致するかどうかに応じて、True または false。
WMI クエリ	指定されたクエリに結果があるかどうかに応じて、True または false。Windows 管理インスツルメンテーション (WMI) クエリ操作では、エージェントマシン上でクエリを実行できます。この条件は、クエリから返された結果に基づいて定義できます。詳しくは、Microsoft 社のドキュメントを参照してください： https://docs.microsoft.com/en-us/windows/win32/wmisdk/querying-with-wql 。

「クライアント」と「コンピュータ」に関連する条件を使用する場合は、次の 2 つのシナリオに注意してください。

- エージェントがシングルセッション OS またはマルチセッション OS にインストールされている場合は、次の手順を実行します。
 - 「クライアント」とは、エージェントホストに接続しているクライアントデバイスを指します。
 - 「コンピュータ」と「クライアントリモート」は、エージェントホストを指します。

- エージェントが物理エンドポイントにインストールされている場合、条件名に「クライアント」を含む条件は適用されません。

追加情報

マシン設定には適用されない条件

設定には 2 種類あります。

- マシン設定。これらの設定は、ログオンするユーザーに関係なく、マシンにのみ適用されます。例: グループポリシー設定とスクリプト化されたタスク。
- ユーザー設定。これらの設定は、ログオンするマシンに関係なく、ユーザーにのみ適用されます。例: ユーザーの言語設定。

次の条件は、マシン設定には適用されません。フィルタにそれらのいずれかが含まれている場合、エージェントはフィルタを評価するときにそれらをスキップします。

フィルタ名	マシン設定に適用可能
クライアント名の一致	いいえ
クライアント IP アドレスの一致	いいえ
レジストリ値の一致	HKCU で始まるレジストリ値を設定する場合、コンピュータ設定に適用すると、レジストリ値の一致 (Registry Value Match) フィルタは機能しません。
ユーザーの国一致	いいえ
ユーザー UI 言語の一致	いいえ
ユーザ SBC リソースタイプ	いいえ
Active Directory パスの一致	いいえ
Active Directory 属性の一致	いいえ
クライアント名が一致しません	いいえ
クライアント IP アドレスが一致しない	いいえ
一致するレジストリ値がありません	いいえ
ユーザーの国が一致しません	いいえ
ユーザー UI 言語が一致しません	いいえ
Active Directory パスが一致しません	いいえ
Active Directory 属性が一致しない	いいえ

フィルタ名	マシン設定に適用可能
クライアントのリモート OS の一致	いいえ
クライアントのリモート OS の一致なし	いいえ
Active Directory グループの一致	いいえ
Active Directory グループの一致がありません	いいえ
公開されたリソース名	いいえ

課題グループ

この機能により、GPO ファイルや JSON ファイルなどのアクションをグループに追加し、展開する割り当てターゲットを選択できます。フィルターやオプションなどの割り当ての詳細は、個々のアイテムレベルで管理されます。特定のターゲットに関連するすべてのアサインメントに 1 つのフィルターを設定できるようになりました。グループに新しいアイテムを追加すると、それらのアイテムの割り当てが自動的に生成され、割り当ての詳細を確認したり、必要な調整を行ったりできます。

課題グループを作成する

アサイングループを作成するには、次の手順を実行します。

1. 課題グループの名前と説明を入力します。
2. [追加] をクリックし、[グループコンテンツの設定] ページでグループに含める必要のあるアクションを選択します。
3. ドロップダウンリストからアサインターゲットを選択します。
4. 必要な構成をコピー、貼り付け、タブのすべての割り当てに適用できます。

注:

- グループ内のアイテムがドロップダウンリストから指定されたターゲットにすでに割り当てられている場合、選択したターゲットによって割り当てが更新されます。課題の詳細ページでは、各課題ターゲットの課題詳細を詳細に設定できます。
- グループが組織単位に割り当てられている場合、そのグループにはグループポリシー設定以外の項目を含めることはできません。
- 仮想ドライブを追加するには、ドライブレターを手動で選択する必要があります。

課題グループを表示

- アサイングループを表示するには、アサイングループを選択し、アクションバーの [表示] をクリックします。

- 「コンテンツ」タブでは、アイテムのカテゴリと、テーブルの選択したカテゴリにリストされているアイテムを表示できます。
- 「割り当て」タブでは、グループが割り当てられている課題ターゲットを一覧表示できます。

課題グループを編集

- アサイングループを編集するには、アサイングループを選択し、アクションバーの [編集] をクリックします。
- 「コンテンツ」タブで、課題グループの名前、説明、およびコンテンツを編集します。
- 「割り当て」タブでは、課題ターゲットを追加または削除できます。各ターゲットの割り当ての詳細を編集することもできます。

課題グループを削除

課題グループを削除するには、課題を選択し、アクションバーの「削除」をクリックします。

トリガー

May 28, 2024

トリガーを作成し、タスクを関連付けます。アクティブ化されると、トリガーはユーザー環境で関連するタスクを開始します。トリガーに関連付けられたタスクを表示するには、トリガーをクリックしてその行を展開します。

次の操作を実行できます：

- トリガーを作成する
- ビューを更新する
- トリガーを編集する
- トリガーを複製する
- 関連付けを管理する
- トリガーを削除する

ヒント：

[状態] 列のトグルを使用して、トリガーをすばやく有効または無効にできます。

ビルトイントリガーは以下のとおりです：

- セッショントリガー：

- エージェント更新。ユーザーがエージェントを更新するとアクティブになります。
- 再接続。ユーザーがエージェントマシンに再接続するとアクティブになります。
- ログオン。ユーザーがマシンにログオンするとアクティブになります。
- ログオフ。ユーザーがマシンからログオフするとアクティブになります。
- 切断。ユーザーがマシンとの接続を切断するとアクティブになります。
- [ロック]。ユーザーがマシンをロックするとアクティブになります。
- ロック解除。ユーザーがマシンをロック解除するとアクティブになります。

注:

セッショントリガーを使用すると、セッションアクティビティをトリガーとして設定でき、現在は外部タスクでのみ使用できます。

• マシントリガー:

- マシンがシャットダウンしました。マシンがシャットダウンするとアクティブ化されます。
- マシンの起動。マシンの起動時にアクティブ化されます。

注:

- 組み込みトリガーは削除および編集できません。
- 起動トリガーとシャットダウントリガーの使用方法的例については、「[スクリプトタスクの起動トリガーとシャットダウントリガーの設定](#)」を参照してください。

トリガーを作成する

トリガーを作成するには、次の手順を実行します。

1. [トリガー] で、[トリガーの作成] をクリックします。
2. トリガーの名前を指定します。
3. オプションで、トリガーを識別するのに役立つ追加情報を指定します。
4. トリガーを有効にする (はい) か、無効にする (いいえ) かを選択します。

注:

無効にすると、エージェントはトリガーを評価および処理しません。

5. リストからトリガータイプを選択し、必要な情報を入力します。
 - スケジュール指定
 - プロセスが開始されました
 - 処理は終了しました

- **Windows** イベント
- **Cloud Health Check** 結果
- **Profile Management** ヘルスチェック結果
- カスタムスクリプトタスク結果

ヒント:

- この情報は、選択したトリガータイプによって異なります。詳細については、「使用可能なトリガータイプ」を参照してください。
- Windows イベントをトリガーとして使用する方法の例については、「[Windows イベントをトリガーとして使用して VDA 登録の問題を検出する](#)」を参照してください。

6. [概要] で、意図したとおりにトリガーを作成したことを確認します。

7. 終了したら、[完了] をクリックして保存し、終了します。

使用可能なトリガータイプ

次のトリガータイプを選択できます。

- **スケジュール指定**。トリガーをアクティブにするタイミングをスケジュールします。次のオプションを使用できます。
 - 日付と時刻。トリガーがいつアクティブになるかを指定します。
 - 繰り返し。トリガーをアクティブにする頻度を指定するには、[はい] を選択します。たとえば、1 時間ごと、2 時間ごと、毎日、2 日ごとなどです。[週] または [月] を選択した場合は、1 つ以上の特定の日を指定できます。トリガーを 1 回だけアクティブにする場合は、[いいえ] を選択します。
- **ユーザープロセストリガー**
 - 処理が開始されました。指定されたプロセスの開始時にトリガーをアクティブにします。
 - 処理は終了しました。指定されたプロセスが終了したときにトリガーをアクティブにします。

注:

ユーザープロセストリガーを使用すると、ユーザープロセスをトリガーとして設定でき、現在は外部タスクでのみ使用できます。

- **Windows** イベント。トリガーをアクティブ化するために Windows イベントが満たす必要のある条件を定義できます。次のオプションを使用できます。
 - 基準を追加します。トリガーをアクティブ化するために Windows イベントが満たす必要がある条件を定義します。

- 間隔。トリガーの間隔を分単位で指定します。アクティブ化された後、指定された間隔が経過するまでトリガーは再度アクティブになりません。

注:

アプリケーション、システム、セキュリティなどの Windows Classic イベントログのみがサポートされています。

- **Cloud Health Check** の結果。Cloud Health Check が指定されたヘルスステータスを返したときにトリガーをアクティブにします。次のオプションを使用できます。
 - **VDA** ヘルスステータス。VDA のヘルスステータスを使用してトリガーを有効にします。 [[ホーム](#)] > [[概要](#)] に示されているように、VDA は正常状態でも異常状態でもかまいません。
 - タスクデータ。関連するタスクに渡すデータを選択し、それらのタスクでデータを受け取るパラメータを指定します。ここで指定するパラメータが、関連するタスクに設定されているパラメータと同じ場合は、前者が優先されます。デフォルトのパラメータ名を使用することをお勧めします。必要に応じてスクリプトファイルを更新してください。次のデータを指定できます。
 - * **VDA** ヘルスステータス (文字列)。Cloud Health Check が返すヘルスステータス。関連するタスクのパラメータを使用してステータスを受け取ります。
 - * **ヘルスレポート** (文字列)。Cloud Health Check が生成する VDA ヘルスチェックレポート。レポートのフルパスを受け取るには、関連タスクのパラメータを使用してください。詳細については、「[ヘルスチェック結果](#)」を参照してください。
- **Profile Management** ヘルスチェック結果。Profile Management のヘルスチェックが指定されたヘルスステータスを返したときにトリガーをアクティブにします。次のオプションを使用できます。
 - **Profile Management** ヘルスステータス。次の Profile Management ヘルスステータスを使用して関連タスクをトリガーします: 警告 (Profile Management の最適な状態ではない) とエラー (Profile Management が正しく構成されていない)。
 - タスクデータ。関連するタスクに渡すデータを選択し、それらのタスクでデータを受け取るパラメータを指定します。ここで指定するパラメータが、関連するタスクに設定されているパラメータと同じ場合は、前者が優先されます。デフォルトのパラメータ名を使用することをお勧めします。必要に応じてスクリプトファイルを更新してください。次のデータを指定できます。
 - * **Profile Management** ヘルスステータス (文字列)。Profile Management ヘルスチェックが返すヘルスステータス。関連するタスクのパラメータを使用してステータスを受け取ります。詳細については、「[管理](#)」を参照してください。
 - * **ヘルスレポート** (文字列)。Profile Management のヘルスチェックによって生成されるヘルスチェックレポート。レポートのフルパスを受け取るには、関連タスクのパラメータを使用してください。詳しくは、「[レポート](#)」を参照してください。

- カスタムスクリプト形式のタスク結果。スクリプト化されたタスクが指定された結果を返すときにトリガーをアクティブにします。最初にカスタムスクリプトタスクを指定し、次にタスクがトリガーをアクティブ化するために満たす必要のある条件を定義します。次のオプションを使用できます。
 - 基準を追加します。1つまたは複数のスクリプトタスクを選択し、それらのタスクがトリガーをアクティブ化するために満たす必要がある条件を定義します。
 - タスクデータ。関連するタスクに渡すデータを選択し、それらのタスクでデータを受け取るパラメータを指定します。ここで指定するパラメータが、関連するタスクに設定されているパラメータと同じ場合は、前者が優先されます。デフォルトのパラメータ名を使用することをお勧めします。必要に応じてスクリプトファイルを更新してください。次のデータを指定できます。
 - * タスク名 (文字列)。関連するタスクをトリガーするスクリプト化されたタスクの名前。関連するタスクのパラメータを使用して名前を取得します。
 - * 終了コード (整数)。スクリプトタスクが返す終了コード値。関連するタスクのパラメータを使用して値を受け取ります。
 - * コンソール出力 (文字列)。スクリプト化されたタスクが書き込むコンソール出力。関連するタスクのパラメータを使用して、出力のフルパスを受け取ります。
 - * ファイル出力 (文字列)。スクリプトタスクが生成するファイル出力。関連するタスクのパラメータを使用して、出力のフルパスを受け取ります。

トリガーを編集する

トリガーを編集するには、次の手順を実行します。

1. 「トリガー」で、トリガーを選択します。
2. アクションバーの [編集] をクリックします。
3. 必要に応じて変更を加えます。
4. [概要] で、意図したとおりに変更を加えたことを確認します。
5. 終了したら、[完了] をクリックして保存し、終了します。

トリガーを複製する

トリガーを複製するには、次の手順を実行します。

1. 「トリガー」で、トリガーを選択します。
2. アクションバーの [複製] をクリックします。
3. クローンの名前を指定します。

4. オプションで、トリガーを識別するのに役立つ追加情報を指定します。
5. トリガーを複製する構成セットを選択します。
6. 終了したら、[完了]をクリックして保存し、終了します。

関連付けを管理する

トリガーの関連付けを管理するには、次の手順を実行します。

1. 「トリガー」で、トリガーを選択します。
2. アクションバーの [関連付けを管理] をクリックします。
3. スクリプト化されたタスクを選択してトリガに関連付けるか、関連付けを解除するスクリプト化されたタスクの選択を解除します。必要に応じて、検索ボックスを使用してタスクをすばやく検索します。
4. このタスクに適用されるトリガーのみを表示するかどうかを選択します。
5. 終了したら、[完了]をクリックして保存し、終了します。

アソシエーションを管理する際には、次の点に注意してください。

- 無限ループを防ぐため、WEM は 1 つのループチェーンで最大 10 回のトリガー回数をサポートします。次の例は、タスク A がタスク B をトリガーし、タスク B がタスク C をトリガーし、タスク K がタスク L をトリガーします。タスク K はタスク L をトリガーしません。この単一ループチェーンのトリガー時間が 10 を超えたため、ループは終了します。



トリガーを削除する

トリガーを削除するには、次の手順を実行します。

1. 「トリガー」で、トリガーを選択します。
2. アクションバーの [削除] をクリックします。

注:

スクリプト化されたタスクが関連付けられているトリガを削除すると、それらのタスクはトリガされなくなります。

トリガーのサポートマトリックス

次の表は、どのトリガーがどのタスクでサポートされているかを示しています。

	スクリプト化されたタスク	外部タスク
エージェント更新		X
再接続		X
ログオン		X
ログオフ		X
切断		X
ロック		X
ロック解除		X
マシンスタートアップ	X	
マシンシャットダウン	X	
スケジュール指定	X	X
プロセスが開始されました		X
処理は終了しました		X
Windows イベント	X	X
Cloud Health Check 結果	X	
Profile Management ヘルスチェック結果	X	
カスタムスクリプトタスク	X	

システム最適化

May 28, 2024

Workspace Environment Management (WEM) システムの最適化は、次の設定で構成されます。

- CPU 管理
- メモリ管理
- I/O 管理
- 高速ログオフ

- Citrix Optimizer
- マルチセッションの最適化

これらの設定は、エージェントマシンでのリソース使用量を抑えるように設計されています。これらは、解放されたリソースを他のアプリケーションで使用できるようにするのに役立ちます。これにより、サーバあたりのユーザー数が増え、ユーザー密度が高まります。

システム最適化の設定はマシンベースですべてのユーザーセッションに適用されますが、プロセス最適化はユーザー中心です。つまり、プロセスがユーザー A のセッションで CPU スパイク保護をトリガーすると、そのイベントはユーザー A に対してのみ記録されます。ユーザー B が同じプロセスを開始すると、プロセスの最適化動作は、ユーザー B のセッション内のプロセストリガーによってのみ決定されます。

CPU 管理

これらの設定により、CPU 使用率を最適化できます。

プロセスはすべてのコアで実行でき、CPU を必要なだけ使い果たすことができます。WEM では、CPU 管理機能を使用して、個々のプロセスが使用できる CPU キャパシティを制限できます。CPU スパイク保護は、全体的な CPU 使用量を減らすようには設計されていません。CPU 使用率を過度に消費するプロセスによるユーザーエクスペリエンスへの影響を軽減するように設計されています。

CPU スパイク保護を有効にすると、プロセスが指定したしきい値に達すると、WEM はプロセスの優先度を一定時間自動的に下げます。その後、新しいアプリケーションが起動されると、優先順位の低いプロセスよりも優先順位が高く、システムはスムーズに動作し続けます。

CPU スパイク保護は、各プロセスをすばやい「スナップショット」で検査します。プロセスの平均負荷が、指定したサンプル時間に対して指定された使用制限を超えると、その優先度はすぐに低下します。指定した時間が経過すると、プロセスの CPU 優先度は前の値に戻ります。プロセスは「スロットル」されません。**CPU** クランピングとは異なり、優先順位のみが下がります。

CPU スパイク保護は、個々のプロセスの少なくとも 1 つのインスタンスがしきい値を超えるまでトリガーされません。つまり、CPU の合計消費量が指定されたしきい値を超えた場合でも、少なくとも 1 つのプロセスインスタンスがしきい値を超えない限り、CPU スパイク保護はトリガーされません。ただし、そのプロセスインスタンスが CPU スパイク保護をトリガーすると、[インテリジェント **CPU** 最適化を有効にする] オプションを有効にすると、同じプロセスの新しいインスタンスが (**CPU**) 最適化されます。

特定のプロセスが CPU スパイク保護をトリガーするたびに、イベントはエージェントのローカルデータベースに記録されます。エージェントは、各ユーザーのトリガーイベントを個別に記録します。つまり、user1 の特定のプロセスの CPU 最適化は、user2 の同じプロセスの動作には影響しません。

たとえば、Internet Explorer が CPU の 50~60% を消費することがある場合には、CPU スパイク保護を使用して、VDA のパフォーマンスを脅かすような iexplore.exe インスタンスのみをターゲットにすることができます。(これに対して、CPU クランプはすべてのプロセスに適用されます)。

サンプル時間を試して、同じ VDA にログオンしている他のユーザーに影響を与えない環境に最適な値を決定することをお勧めします。

CPU スパイク保護

注:

- 以下の設定の「CPU 使用率」は、物理マシンまたは仮想マシンの「論理プロセッサ」数に基づきます。CPU の各コアは、Windows と同じ方法で、論理プロセッサと見なされます。たとえば、6 コア CPU が 1 つ搭載された物理マシンは、12 個の論理プロセッサを搭載していると見なされます (ハイパースレッディングテクノロジーとは、コアが 2 倍になることを意味します)。8 x CPU を持つ物理マシンで、それぞれ 12 個のコアを持つ 96 個の論理プロセッサがあります。2 つの 4 コア CPU で構成された VM には、8 個の論理プロセッサがあります。
- 同じことが仮想マシンにも当てはまります。たとえば、8 個の CPU を持つ物理マシンがあり、それぞれに 12 個のコア (96 個の論理プロセッサ) があり、4 つのマルチセッション OS VDA 仮想マシンをサポートしているとします。各 VM は、2 つの 4 コア CPU (8 つの論理プロセッサ) で構成されます。仮想マシンで CPU スパイク保護をトリガーするプロセスを制限し、そのコアの半分を使用するには、**CPU** コアの使用制限を 48 (物理マシンの論理プロセッサの半分) ではなく 4 (仮想マシンの論理プロセッサの半分) に設定します。

有効にすると、一定時間 ([**Sample time limit**] フィールドで指定) の CPU 使用率が指定したパーセンテージを超えた場合に、プロセスの CPU 優先度を一定時間 ([**Idle priority time**] フィールドで指定) 低くします。基本展開の種類を選択すると、以下の最適化機能がデフォルトで有効になります。これらの設定は、定義済みのエージェントキャッシュファイルに保存されます。

CPU スパイクを自動的に防止します。このオプションは、CPU に過負荷をかけるプロセスの CPU 優先度を自動的に下げます。このオプションは、論理プロセッサ (CPU コア) の数に基づいて CPU スパイク保護をトリガーするしきい値を自動的に計算します。たとえば、4 つのコアがあるとします。このオプションを有効にすると、全体の CPU 使用率が 23% を超えると、CPU リソース全体の 15% 以上を消費するプロセスの CPU 優先順位が自動的に低下します。同様に、8 コアの場合、全体の CPU 使用率が 11% を超えると、CPU リソースの 8% 以上を消費するプロセスの CPU 優先順位が自動的に低下します。

CPU スパイク保護をカスタマイズします。CPU スパイク保護の設定をカスタマイズできます。

- **CPU** 使用率の上限。CPU スパイク保護をトリガーするためにプロセスインスタンスが到達する必要がある CPU 使用率の割合。この制限は、サーバ内のすべての論理プロセッサでグローバルであり、インスタンスごとに決定されます。同じプロセスの複数のインスタンスでは、CPU スパイク保護トリガーを決定するときに、CPU 使用率の割合は加算されません。プロセスインスタンスがこの制限に達しない場合、CPU スパイク保護はトリガーされません。たとえば、サーバー VDA で複数の同時セッションで、多数の `iexplore.exe` インスタンスが存在するとします。各インスタンスは、一定期間中約 35% の CPU 使用率でピークに達しているため、累積的に、`iexplore.exe` は CPU 使用率の一貫して高い割合を消費しています。ただし、CPU 使用率の制限を 35% 以下に設定しない限り、CPU スパイク保護はトリガーされません。

- サンプル時間制限。プロセスが CPU プライオリティを下げる前に CPU 使用率の制限を超える必要がある時間。
- アイドル優先時間。プロセスの CPU プライオリティが低下する時間の長さ。この時間が経過すると、優先順位は次のいずれかに戻ります。
 - [CPU 優先度] タイルでプロセスの優先順位が指定されておらず、[インテリジェント CPU 最適化を有効にする] オプションが選択されていない場合の既定のレベル (**Normal**)。
 - [インテリジェント CPU 最適化を有効にする] オプションが選択されているかどうかに関係なく、[CPU 優先度] タイルでプロセス優先度が指定されている場合に指定されるレベル。
 - プロセスの動作に応じてランダムなレベル。この状況は、[CPU 優先度] タイルでプロセスの優先順位が指定されておらず、[インテリジェント CPU 最適化を有効にする] オプションが選択されている場合に発生します。プロセスが CPU スパイク保護をトリガーする頻度が高いほど、CPU の優先度は低くなります。

CPU コアの使用制限を有効にします。CPU スパイク保護をトリガーするプロセスを、マシン上の指定された数の論理プロセッサに制限します。1~X の範囲の整数を入力します。X はコアの総数です。X より大きい整数を入力すると、WEM は分離されたプロセスの最大消費量を既定で X に制限します。

- **CPU** コアの使用制限です。CPU スパイク保護をトリガーするプロセスが制限される論理プロセッサの数を指定します。VM の場合、入力する値によって、基盤となる物理ハードウェアではなく、VM 内の論理プロセッサの数にプロセスが制限されます。

インテリジェントな **CPU** 最適化を有効にします。有効にすると、エージェントは CPU スパイク保護をトリガーするプロセスの CPU 優先度をインテリジェントに最適化します。CPU スパイク保護を繰り返しトリガーするプロセスには、正しく動作するプロセスよりも起動時の CPU 優先度が徐々に低くなります。WEM は、次のシステムプロセスに対して CPU 最適化を実行しません。

- Taskmgr
- System Idle Process
- System
- Svchost
- LSASS
- Wininit
- services
- csrss
- audiodg
- MsMpEng
- NisSrv
- mscorsvw
- VMWareResolutionset

インテリジェントな **I/O** 最適化を有効にします。有効にすると、エージェントは CPU スパイク保護をトリガーする

プロセスのプロセス I/O 優先度をインテリジェントに最適化します。CPU スパイク保護を繰り返しトリガーするプロセスには、正しく動作するプロセスよりも起動時の I/O 優先度が徐々に低くなります。

プロセスを除外する。デフォルトでは、WEM CPU 管理は、最も一般的な Citrix および Windows コアサービスプロセスのすべてを除外します。ただし、このオプションを使用して、CPU ** スパイク保護の実行名による除外リストからプロセスを追加または削除できます ** (例: notepad.exe)。通常、ウイルス対策プロセスは除外されません。

ヒント:

- セッションでディスク I/O を引き継ぐアンチウイルススキャンを停止するには、アンチウイルスプロセスの静的な I/O 優先度を [低] に設定することもできます。I/O 管理を参照してください。
- プロセスが CPU スパイク保護をトリガーし、プロセスの CPU 優先度が下がると、WEM はプロセスの CPU 優先度が下がるたびに警告を記録します。イベントログのアプリケーションログとサービスログの WEM Agent Service で、プロセスのプロセス制限スレッドの初期化を探します。

子プロセスが **CPU** 優先度を継承しないようにします。子プロセスが CPU 優先度を継承しないプロセスを指定します。

CPU スパイク保護オプション CPU スパイク保護を適用する方法を選択してください。

- **CPU** スパイクを自動的に防止します。このオプションを使用すると、システムの CPU 使用率 (単一の CPU コアに対する相対値) が 90% を超え、プロセスの CPU 使用率 (単一の CPU コアに対する相対値) が 80% を超えたときに、エージェントが CPU スパイク保護を実行できるようになります。
- **CPU** スパイク保護をカスタマイズします。CPU スパイク保護の設定をカスタマイズできます。
 - **CPU** 使用率の上限。CPU スパイク保護をトリガーするためにプロセスインスタンスが到達する必要がある CPU 使用率の割合。この制限は、サーバー上のすべての論理プロセッサに共通で、インスタンスごとに決定されます。1 つの CPU コアを基準にして制限を構成するには、「単一 **CPU** コアに対する制限の設定」オプションを使用します。

注:

- 整数値と非整数値の両方がサポートされています。整数値以外の値 (たとえば 37.5%) を入力すると、8 コアのプラットフォームで 3 つ以上のコアを使用するプロセスを制限できます。
- **1** つの **CPU** コアに対する制限を設定します。1 つの CPU コアを基準として CPU 使用量の制限を設定できます。値は 100% より大きくすることができます (たとえば 200% や 250%)。例: 値を 200% に設定すると、エージェントは 2 つ以上の CPU コアを使用するプロセスを最適化します。整数値と非整数値の両方がサポートされています。

注:

- **Customize CPU** スパイク保護を設定すると、グローバル CPU 使用率制限または単一の CPU コアに対する CPU 使用率制限のいずれか早い方に達したときに、CPU スパイク保護がトリガーされます。

CPU スパイク保護をトリガーするプロセスでは、エージェントは次の操作を実行できます。

- **[CPU コア使用量制限を有効にする]** オプションが選択されていない場合: エージェントはそれらのプロセスの CPU 優先度を下げます。
- **[CPU コア使用量制限を有効にする]** オプションが選択されている場合: エージェントはそれらのプロセスの CPU 優先度を下げ、マシン上の指定された数の論理プロセッサに制限します。

CPU スパイク保護を設定するときは、次の点に注意してください。

- 同じプロセスの複数のインスタンスでは、CPU スパイク保護トリガーを決定するときに、CPU 使用率の割合は加算されません。プロセスインスタンスがこの制限に達しない場合、CPU スパイク保護はトリガーされません。たとえば、複数の同時セッションを持つマルチセッション VDA の場合、複数の chrome.exe プロセスがあります。CPU 使用率を計算するときに、それらの CPU 使用量は合計されません。

CPU スパイク保護のサンプリング時間 サンプル時間制限。CPU スパイク保護が適用されるまでに、プロセスが CPU 使用量の制限を超えなければならない時間の長さ。

CPU スパイク保護の優先度低下時間 アイドル優先時間。プロセスの CPU プライオリティが低下する時間の長さ。この時間が経過すると、優先順位は次のいずれかに戻ります。

CPU 優先度タイルにプロセス優先度が指定されておらず、かつ **[インテリジェント CPU 最適化を有効にする]** オプションが選択されていない場合のデフォルトレベル (標準)。

CPU 優先度タイルでプロセスの優先度が指定されている場合は、「**インテリジェント CPU 最適化を有効にする**」オプションが選択されているかどうかにかかわらず、指定されたレベル。

プロセスの動作に応じて計算されたランダムレベル。この状況は、**[CPU 優先度]** タイルでプロセスの優先順位が指定されておらず、**[インテリジェント CPU 最適化を有効にする]** オプションが選択されている場合に発生します。プロセスが CPU スパイク保護をトリガーする頻度が高いほど、CPU の優先度は低くなります。

その他のオプション **CPU** コアの使用制限を有効にします。このオプションを使用すると、CPU スパイク保護をトリガーするプロセスを、マシン上の特定の数の論理プロセッサに制限できます。

CPU プライオリティ

有効にすると、プロセスの CPU 優先度を手動で設定できます。

これらの設定は、プロセスがリソースと競合している場合に有効になります。これにより、特定のプロセスの CPU 優先度レベルを最適化できるため、CPU プロセッサ時間に対して競合しているプロセスがパフォーマンスのボトルネックを引き起こさないようになります。プロセスが互いに競合する場合、優先順位の低いプロセスは、優先順位の高い他のプロセスの後に処理されます。したがって、CPU 全体の消費量の大きなシェアを消費する可能性は低くなります。

ここで設定するプロセスの優先順位は、プロセス内のすべてのスレッドの「基本優先順位」を確立します。スレッドの実際の「現在の」優先順位は高くなる可能性があります (ただし、ベースよりも低いことはありません)。1 台のコ

コンピュータで複数のプロセスが実行されている場合、CPU 優先度レベルに基づいてプロセッサ時間が共有されます。プロセスの CPU 優先度レベルが高いほど、プロセッサ時間が割り当てられます。

注:

特定のプロセスで CPU の優先度を低く設定した場合、全体の CPU 消費量は必ずしも減少しません。CPU 使用率の割合に影響する他のプロセス (CPU プライオリティが高い) がある可能性があります。

プロセスを追加するには、[**Add process**] をクリックします。次の情報を指定し、[プロセスの保存] をクリックします。

- プロセス名。拡張子のないプロセスの実行可能ファイル名です。たとえば、Windows エクスプローラー (explorer.exe) の場合は、「エクスプローラー」と入力します。
- **Priority**: プロセス内のすべてのスレッドの「ベース」優先度。プロセスの優先度レベルが高いほど、プロセッサ時間が長くなります。アイドル、標準以下、標準、** 標準より上、** 高、リアルタイムから選択します。

ヒント:

ここで設定したプロセス CPU の優先順位は、エージェントが新しい設定を受け取り、プロセスが再起動されたときに有効になります。

プロセスを削除するには、プロセスの横にある省略記号をクリックし、[**Delete**] を選択します。

プロセスを編集するには、プロセスの横にある省略記号をクリックし、[**Edit**] を選択します。

CPU アフィニティ

有効にすると、プロセスで使用する「論理プロセッサ」の数を定義できます。たとえば、VDA で起動されるメモ帳のすべてのインスタンスを、定義されたコア数に制限できます。

プロセスを追加するには、[**Add process**] をクリックします。次の情報を指定し、[プロセスの保存] をクリックします。

- プロセス名。プロセスの実行可能ファイル名 (notepad.exe など)。
- アフィニティ。正の整数を入力します。

プロセスを削除するには、プロセスの横にある省略記号をクリックし、[**Delete**] を選択します。

プロセスを編集するには、プロセスの横にある省略記号をクリックし、[**Edit**] を選択します。

CPU クランプ

有効にすると、プロセスが CPU の処理能力の指定した割合を超えて消費されるのを防ぐことができます。CPU クランプにより、CPU の処理能力の、指定した割合を超えるプロセスが使用されるのを防ぐことができます。WEM は、設定した指定された CPU パーセンテージに達したときに、そのプロセスを「スロットル」(または「クランプ」) します。これにより、プロセスが大量の CPU を消費するのを防ぐことができます。

注:

- CPU クランプは、演算費用のかかるブルートフォースアプローチです。面倒なプロセスの CPU 使用率を人為的に低く抑えるには、静的 CPU 優先順位と CPU アフィニティをそのようなプロセスに割り当てると同時に、CPU スパイク保護を使用する方がよいでしょう。CPU クランプは、リソース管理では悪く悪名高いが、優先順位を落とすことができないプロセスを制御するために最もよく予約されています。
- CPU の処理能力のパーセンテージをプロセスに適用し、後で同じプロセスに対して異なるパーセンテージを構成したら、[エージェントホスト設定の更新] を選択して変更を有効にします。

設定したクランプパーセンテージは、サーバ内の個々の CPU の総電力に適用されます。サーバに含まれる個々のコアには適用されません。(つまり、クアッドコア CPU の 10% は、1 つのコアの 10% ではなく、CPU 全体の 10% です)。

プロセスを追加するには、[**Add process**] をクリックします。次の情報を指定し、[プロセスの保存] をクリックします。

- プロセス名。プロセスの実行可能ファイル名 (notepad.exe など)。
- パーセンテージ。正の整数を入力します。

ヒント:

- WEM がプロセスをクランプしているとき、WEM クライアントが初期化するウォッチリストにそのプロセスを追加します。これを表示すると、プロセスがクランプされていることを確認できます。
- また、CPU クランプが機能していることを確認するには、プロセスモニターを見て、CPU 消費量がクランプ率を上回らないことを確認します。

プロセスを削除するには、プロセスの横にある省略記号をクリックし、[**Delete**] を選択します。

プロセスを編集するには、プロセスの横にある省略記号をクリックし、[**Edit**] を選択します。

メモリ管理

これらの設定により、WEM を通じてアプリケーションのメモリ使用量を最適化できます。

これらの設定が有効になっている場合、WEM は、安定性を失うことなく、プロセスが使用しているメモリ量とプロセスが必要とする最小メモリ量を計算します。WEM は、その違いを過剰なメモリと見なします。プロセスがアイドル状態になると、WEM はプロセスが消費する余分なメモリをページファイルに解放し、その後の起動のためにプロセスを最適化します。通常、アプリケーションはタスクバーに最小化されるとアイドル状態になります。

タスクバーからアプリケーションを復元すると、最初は最適化された状態で実行されますが、必要に応じて追加のメモリを消費し続けることができます。

同様に、WEM はユーザーがデスクトップセッション中に使用するすべてのアプリケーションを最適化します。複数のユーザーセッションに複数のプロセスがある場合、解放されたすべてのメモリは他のプロセスで使用できます。この動作により、同じサーバー上でより多くのユーザーをサポートできるようになり、ユーザー密度が高まります。

アイドル状態のプロセスのメモリ使用量を最適化する

有効にすると、指定した時間アイドル状態が続いたプロセスが、アイドル状態がなくなるまで余分なメモリを強制的に解放します。

アイドルサンプル時間。プロセスがアイドル状態とみなされ、その後に余分なメモリを強制的に解放するまでの時間を指定できます。この間、WEM は、安定性を失うことなく、プロセスが使用しているメモリ量と、プロセスが必要とする最小メモリ量を計算します。デフォルト値は 120 分です。

アイドル状態の制限。CPU 使用率のパーセンテージを指定して、この値を下回るとプロセスがアイドル状態とみなされます。デフォルトは 1% です。5% を超える値は使用しないことをお勧めします。そうしないと、アクティブに使用されているプロセスがアイドルと誤解され、そのメモリが解放される可能性があります。

最適化を制限します。WEM がアイドル状態のアプリケーションのメモリ使用量を最適化するしきい値制限を指定できます。

メモリ使用量の最適化からプロセスを除外します。メモリ使用量の最適化からプロセスを除外できます。プロセス名 (notepad.exe など) を指定します。

WEM は、次のシステムプロセスのアプリケーションメモリ使用量を最適化しません。

- rdpshell
- wfshell
- rdpclip
- wmiprvse
- dllhost
- audiodg
- msdtc
- mscorsvw
- spoolsv
- smss
- winlogon
- svchost
- taskmgr
- System Idle Process
- System
- LSASS
- wininit
- smss

- [services](#)
- [csrss](#)
- [MsMpEng](#)
- [NisSrv](#)
- [Memory Compression](#)

特定のプロセスに対するメモリ使用量の上限

有効にすると、プロセスが消費できるメモリの上限を設定して、プロセスのメモリ使用量を制限できます。

警告:

特定のプロセスにメモリ使用量の制限を適用すると、システムの応答が遅くなるなど、意図しない影響が生じることがあります。

プロセスを追加するには、[**Add process**] をクリックします。次の情報を指定し、[プロセスの保存] をクリックします。

- プロセス名。追加するプロセスの名前 (notepad.exe など) を入力します。
- メモリ制限。メモリ使用量の上限を入力します。
- 制限タイプ。リストから制限モードを選択します。
 - ダイナミックリミット。指定したプロセスに動的制限を適用できます。この設定は、指定したプロセスに割り当てられるメモリ量を動的に制限します。適用すると、使用可能なメモリに応じてメモリ使用量の制限が適用されます。そのため、指定したプロセスが消費するメモリが、指定した量を超える可能性があります。
 - 静的制限。指定したプロセスに静的制限を適用できます。この設定では、指定したプロセスに割り当てられるメモリ量が常に制限されます。適用すると、使用可能なメモリ量に関係なく、プロセスが指定したメモリ量を超えるメモリを消費しないように制限します。その結果、指定されたプロセスが消費するメモリは、指定された量に制限されます。

プロセスを削除するには、プロセスの横にある省略記号をクリックし、[**Delete**] を選択します。

プロセスを編集するには、プロセスの横にある省略記号をクリックし、[**Edit**] を選択します。

入出力管理

これらの設定により、特定のプロセスの I/O 優先度を最適化して、ディスクやネットワーク I/O アクセスで競合しているプロセスがパフォーマンスのボトルネックを引き起こさないようにすることができます。たとえば、I/O 管理設定を使用して、ディスク帯域幅が消費されるアプリケーションを抑制できます。

ここで設定するプロセスの優先順位は、プロセス内のすべてのスレッドの「基本優先順位」を確立します。スレッドの実際の「現在の」優先順位は高くなる可能性があります（ただし、ベースよりも低いことはありません）。一般に、Windows では、優先順位の低いスレッドよりも先に優先順位の高いスレッドにアクセスできます。

プロセス I/O 優先度

有効にすると、特定のプロセスの I/O 優先度を最適化して、ディスクやネットワーク I/O アクセスで競合しているプロセスがパフォーマンスのボトルネックを引き起こさないようにできます。

プロセスを追加するには、[**Add process**] をクリックします。次の情報を指定し、[プロセスの保存] をクリックします。

- プロセス名。拡張子を除いたプロセス実行可能ファイル名を入力します。たとえば、Windows エクスプローラー (explorer.exe) の場合は、「エクスプローラー」と入力します。
- **I/O** プライオリティ。プロセス内のすべてのスレッドの「基本」優先度を入力します。プロセスの I/O 優先順位が高いほど、スレッドの I/O アクセスが早くなります。高、標準、低、非常に低いから選択します **。

ヒント:

ここで設定したプロセス I/O の優先順位は、エージェントが新しい設定を受け取り、プロセスが次に再起動されたときに有効になります。

プロセスを削除するには、プロセスの横にある省略記号をクリックし、[**Delete**] を選択します。

プロセスを編集するには、プロセスの横にある省略記号をクリックし、[**Edit**] を選択します。

高速ログオフ

これらの設定により、リモートセッションへの HDX 接続をただちに終了できます。これにより、ユーザーはセッションがすぐに終了したという印象をユーザーに与えます。ただし、セッション自体は、VDA のバックグラウンドでセッションログオフフェーズまで継続されます。

注:

高速ログオフは、Citrix 仮想アプリケーションと RDS リソースのみをサポートします。

有効にすると、この構成セットのすべてのユーザーに対して高速ログオフが有効になります。ユーザーはすぐにログアウトされますが、セッションのログオフタスクはバックグラウンドで続行されます。

特定のグループを除外するには、次の手順を実行します。

1. [指定したグループを除外] を選択し、[グループの追加] を選択します。[除外するグループを追加] ウィザードが表示されます。

2. ID タイプを選択します。
3. 追加するグループが存在するドメインを選択します。
4. [検索] ボックスに、追加するグループの名前を入力します。(検索では大文字と小文字は区別されません)。
5. プラスアイコンをクリックしてグループを追加します。
6. 終了したら、[保存] をクリックしてグループを追加し、[除外するグループを追加] ウィザードを終了します。

Citrix Optimizer

これらの設定により、ユーザー環境を最適化してパフォーマンスを向上させることができます。Citrix Optimizer はユーザー環境のクイックスキャンを実行し、テンプレートベースの最適化の推奨事項を適用します。

ユーザー環境を最適化するには、次の 2 つの方法があります。

- 組み込みのテンプレートを使用して最適化を実行します。そのためには、オペレーティングシステムに適用可能なテンプレートを選択します。
- または、特定の最適化を使用してカスタマイズした独自のテンプレートを作成し、Workspace Environment Management (WEM) にテンプレートを追加します。

カスタマイズ可能なテンプレートを取得するには、次のいずれかの方法を使用します。

- スタンドアロンの Citrix Optimizer が提供するテンプレートビルダー機能を使用します。スタンドアロンの Citrix Optimizer を <https://support.citrix.com/article/CTX224676> でダウンロードします。テンプレートビルダー機能を使用すると、独自のカスタムテンプレートを作成して WEM にアップロードできます。
- エージェントホスト (WEM エージェントがインストールされているマシン) で、<C:\Program Files (x86)>\Citrix\Workspace Environment Management Agent\Citrix Optimizer\Templates フォルダに移動し、デフォルトのテンプレートファイルを選択して、便利なフォルダにコピーします。仕様を反映するようにテンプレートファイルをカスタマイズし、カスタムテンプレートを WEM にアップロードします。

有効にすると、次の設定を構成できます。

毎週実行してください。選択すると、WEM は毎週最適化を実行します。[毎週実行] が選択されていない場合、WEM は次のように動作します。

- テンプレートを WEM に初めて追加すると、WEM は対応する最適化を実行します。後でそのテンプレートを変更しない限り、WEM は最適化を 1 回だけ実行します。変更には、OS への異なるテンプレートの適用、テンプレートの有効化または無効化が含まれます。
- テンプレートに変更を加えるたびに、WEM は最適化を 1 回実行します。

カスタム・テンプレートを追加するには、次の手順に従います。

1. [カスタムテンプレートを追加] をクリックします。
2. [カスタムテンプレートの追加] ウィザードで、次の手順を完了します。
 - a) [テンプレート名] で [参照] をクリックし、追加するテンプレートを選択します。
 - b) [適用可能なオペレーティングシステム] で、テンプレートを適用する 1 つまたは複数のオペレーティングシステムをリストから選択します。

ヒント:

一覧にはないが、テンプレートが適用される Windows 10 オペレーティングシステムを追加できます。ビルド番号を入力して、これらの OS を追加します。OS はセミコロン (;) で区切ってください。たとえば、2001; 2004。

- c) 必要に応じてアクティブ化するグループを選択します。
- d) [**Save**] をクリックします。

重要:

Citrix Optimizer では、カスタムテンプレートのエクスポートはサポートされていません。カスタムテンプレートの追加後は、ローカルコピーを保持します。

[State] 列のトグルを使用して、テンプレートの有効状態と無効状態を切り替えることができます。無効にすると、エージェントはテンプレートを処理せず、WEM はテンプレートに関連付けられた最適化を実行しません。

テンプレートを削除するには、該当するテンプレートの省略記号を選択し、[**Delete**] を選択します。注: 組み込みテンプレートは削除できません。

テンプレートを編集するには、該当するテンプレートの省略記号を選択し、[**Edit**] を選択します。

テンプレートの詳細を表示するには、該当するテンプレートの省略記号を選択し、[**Preview**] を選択します。

注:

非永続的な VDI 環境では、WEM は同じ動作に従います。マシンを再起動すると、環境に対するすべての変更が失われます。Citrix Optimizer の場合、WEM はマシンが再起動するたびに最適化を実行します。

使用するテンプレートを自動的に選択します。使用するテンプレートが不明な場合は、このオプションを使用して、各 OS に対して最も一致するテンプレートを WEM で選択します。カスタムテンプレートを優先テンプレートとして使用する場合は、プレフィックスのカンマ区切りリストを入力します。カスタムテンプレートは次の名前形式に従います:

```
-prefix_<os version>_<os build>  
-prefix_Server_<os version>_<os build>
```

レガシーコンソールの [詳細設定] > [構成] > [サービスオプション] タブの [SQL 設定の更新遅延] オプションで指定した値によっては、**Citrix Optimizer** の設定に対する変更が有効になるまでに時間がかかります。

変更をすぐに有効にするには、[監視] > [管理] > [エージェント] に移動してエージェントを探し、[詳細] メニューから [**Citrix Optimizer** の処理] を選択します。

ヒント:

新しい変更がすぐに有効にならなくなる可能性があります。[Citrix Optimizer の処理] を選択する前に [エージェントホスト設定の更新] を選択することをお勧めします。

マルチセッション最適化

これらの設定により、切断されたセッションを持つマルチセッション OS マシンを最適化し、接続セッションでのユーザーエクスペリエンスを向上させることができます。

マルチセッション OS マシンは、1 台のマシンから複数のセッションを実行し、アプリケーションとデスクトップをユーザーに配信します。切断されたセッションはアクティブなままになり、そのアプリケーションは引き続き実行されます。切断されたセッションは、同じマシン上で動作する接続されたデスクトップおよびアプリケーションに必要なリソースを消費する可能性があります。これらの設定により、切断されたセッションを持つマルチセッション OS マシンを最適化し、接続セッションでのユーザーエクスペリエンスを向上させることができます。

有効にすると、切断されたセッションが存在するマルチセッション OS マシンが最適化されます。デフォルトでは、マルチセッション最適化は無効になっています。この機能は、切断されたセッションが消費できるリソースの数を制限することで、接続セッションのユーザーエクスペリエンスを向上させます。セッションが 1 分間切断されたままになった後、WEM エージェントは CPU と、セッションに関連付けられたプロセスまたはアプリケーションの I/O 優先順位を下げます。エージェントは、セッションが消費できるメモリ・リソースの量に制限を課します。ユーザーがセッションに再接続すると、WEM は優先順位を復元し、制限を解除します。

グループを除外する

マルチセッション最適化の対象から特定のグループを除外するには、次の手順を実行します。

1. [指定したグループを除外] を選択し、[グループの追加] をクリックします。[除外するグループを追加] ウィザードが表示されます。
2. ID タイプを選択します。
3. 追加するグループが存在するドメインを選択します。
4. [検索] ボックスに、追加するグループの名前を入力します。グループのフルネームを入力します。(検索では大文字と小文字は区別されません)。
5. プラスアイコンをクリックしてグループを追加します。
6. 終了したら、[保存] をクリックしてグループを追加し、[除外するグループを追加] ウィザードを終了します。

プロセスの除外

特定のプロセスをマルチセッション最適化の対象から除外するには、[**Add process**] をクリックし、追加するプロセスを参照して [**Save process**] をクリックします。

プロセスを削除するには、プロセスの横にある省略記号をクリックし、[**Delete**] を選択します。

プロセスを編集するには、プロセスの横にある省略記号をクリックし、[**Edit**] を選択します。

Citrix Profile Management 設定

May 28, 2024

注:

一部のオプションは、特定のバージョンの Profile Management でのみ機能します。詳細については、[Profile Management](#) ドキュメントを参照してください。

Workspace Environment Management (WEM) では、現在のバージョンまでのすべてのバージョンの Citrix Profile Management がサポートされています。

コンソール ([構成セット] > [プロファイル] > [**Profile Management** 設定]) では、現在のバージョンの Citrix Profile Management のすべての設定を構成できます。

WEM を使用して Citrix Profile Management 機能を構成することに加えて、Active Directory GPO、Citrix Studio ポリシー、または VDA 上の .ini ファイルを使用できます。同じ方法を一貫して使用することをお勧めします。

Profile Management 設定

有効にすると、設定を構成して適用できます。このオプションを有効にすると、ユーザー環境に Profile Management 関連のレジストリが作成されます。このオプションは、コンソールで構成した Profile Management 設定を WEM がエージェントに展開するかどうかを制御します。無効にすると、Profile Management の設定はいずれもエージェントに展開されません。

デフォルトでは、ほとんどの Profile Management 設定はマシンレベルでのみ機能します。特定の Profile Management 設定をユーザーレベルで有効にして、特定のユーザーに合わせてプロファイルエクスペリエンスを調整できます。ユーザーレベルの Profile Management 設定を参照してください。

タグを選択して、必要に応じてプロファイル管理設定をフィルタリングできます。選択したタグに関連する設定が表示され、残りは非表示になります。

- ファイルベース。ファイルベースのソリューションをサポートする設定。

- コンテナベース。コンテナベースのソリューションをサポートする設定。
- アプリアクセス制御。アプリのアクセス制御に関連する設定。

ビューを切り替えると、選択したタグセットが管理者設定の一部として保存され、後で使用できるようになります。

クイックセットアップ

Profile Management をすばやく設定するには、バックアップから設定を復元するか、テンプレートから始めることができます。

バックアップから復元

Profile Management 設定を含むバックアップが表示されます。Profile Management の設定を含むバックアップをアップロードするには、「[Profile Management 設定のバックアップ](#)」を参照してください。

リストから 1 つのバックアップを選択します。「プレビュー」をクリックして設定を確認し、必要に応じて調整します。バックアップ内の他の種類の設定 (ある場合) は無視されます。

注:

- Profile Management の設定を復元するには、[バックアップと復元機能を使用することもできます](#)。
- Profile Management の設定をバックアップから復元すると、関連するサービスに使用するために選択された SMB 共有も復元されます。

テンプレートから始める

重要:

Profile Management を既に構成している場合は、テンプレートを使用すると既存の設定がすべて上書きされることに注意してください。

ユーザーストアには、プロファイルの処理方法に応じて次の 2 つのタイプがあります。

- ファイルベース。ユーザープロファイルは、ログオン時にリモートユーザーストアからローカルコンピュータに取得され、ログオフ時には書き戻されます。
- コンテナベース。ユーザープロファイルはプロファイルコンテナに保存されます。これらのコンテナはログオン時にアタッチされ、ログオフ時にデタッチされます。

用途に合わせて Profile Management を素早く設定するには、テンプレートを選択してください。

ユーザーレベルの設定

この機能により、特定の Profile Management 設定をユーザーレベルで構成して、カスタマイズと正確な制御を行うことができます。この機能を使用して、特定の Profile Management 設定を個々のユーザーまたはユーザーグループに適用し、必要に応じてプロファイルのエクスペリエンスを調整します。

Profile Management の設定をユーザーレベルで構成するには、次の 2 つの方法があります。

- Workspace Environment Management Web コンソールを使用する
- Profile Management で使用できるユーザーレベルのポリシー設定を使用する

Web コンソールには、Profile Management のユーザーレベル設定を行うための使いやすい UI ベースのインターフェイスがあります。

Web コンソールを使用してユーザーレベルの設定を構成するには、次の手順を実行します。

- 「**Profile Management** 設定」ページで、「ユーザーレベル設定」リンクをクリックします。
- ユーザーレベルの設定ページでは、次の操作を行うことができます。
 - 設定を追加します。
 - グループの優先順位を設定します。
 - 「構成別表示」と「ユーザー/グループ別表示」の **2** つのビューを切り替えます。

構成を追加

設定を追加するには、次の手順を実行します。

1. 設定に名前を付けます。
2. この設定を適用する個々のユーザーまたはユーザーグループを追加します。

注:

Active Directory (AD) と Azure Active Directory (AAD) がサポートされています。

3. それらのユーザーに適用する設定を追加します。

注:

- UI には、ユーザーが利用できる設定のみが表示されます。
- 必要に応じて設定を編集または削除できます。

構成を追加するたびに、[アクション] > [グループポリシー設定] > [その他] に表示されます。ユーザーレベルの設定を有効にするには、GPO 処理を有効にする必要があります (グループポリシー設定の [GPO を処理] オプションを有効にします)。

グループの優先順位を設定

セッションが開始されると、Profile Management は、ユーザーグループ設定よりもユーザー設定を優先し、マシン設定よりもユーザーグループ設定を優先することにより、適用するポリシー設定を決定します。

次の手順を実行することで、グループの優先順位を設定して（ユーザーが複数のグループに属し、設定が矛盾する場合）に対処できます。

1. 「グループの優先順位を有効にする」オプションを選択します。
2. [追加] をクリックしてグループを追加します。
3. グループを優先順位の低い順に並べます。

注:

ユーザーが複数のグループに属し、設定が矛盾する場合は、リストの上位に表示されるグループが優先されます。

4. 完了したら、[保存] をクリックして終了します。

構成別またはユーザー/グループ別に表示

2つのビューを切り替えて、ユーザー/グループ別、または構成別に分類されたユーザーレベルの設定を表示できます。

フォルダーのリダイレクト

ローカルフォルダーのパスを新しい場所にリダイレクトするようにルールセットを設定します。各ルールセットは、アクセスするユーザーに基づいてフォルダーをリダイレクトする場所を指定します。ルールセットには主に以下が含まれます:

- リダイレクションルール。リダイレクトするローカルフォルダとリダイレクト先（ネットワーク上の場所など）を指定します。
- [割り当て]。リダイレクションルールを割り当てるユーザーを指定します。

設定セットにルールセットを追加するには、次の手順に従います:

1. ターゲット構成セットの「**Profile Management** 設定」ページに移動します。
2. 検索ボックスの上にある [フォルダリダイレクト] リンクをクリックします。
3. 表示される [フォルダリダイレクト] ページで、[ルールセットの追加] をクリックします。
4. 表示される [ルールセットの追加] ページで、次の手順に従って設定を完了します:
 - a) [リダイレクトルール] ページで、リダイレクトするフォルダを選択し、リダイレクト先を指定して、[次へ] をクリックします。

- b) [その他の設定] ページで、ルールセットに次の設定を指定し、[次へ] をクリックします。
- ローカル管理者グループにリダイレクトターゲットパスへのアクセス権を付与するかどうか。デフォルトでは、これらのパスにはプロファイル所有者のみがアクセスできます。
 - %userdomain% 環境変数を UNC パスの一部として含めるかどうか。
 - 数値を入力して、このルールセットの優先順位を設定します。数字が大きいほど優先度が高くなります。同じユーザーに複数のルールセットが適用される場合は、優先度の高いルールセットが優先されます。
- c) [割り当て] ページで、リダイレクトルールを割り当てるユーザー、グループ、または OU を選択し、[次へ] をクリックします。デフォルトグループには「全員」と「管理者」が含まれます。グループを追加するには、「新規ターゲットを追加」をクリックします。
- d) このルールセットのわかりやすい名前を入力し、設定を確認します。調整するには、左側のペインで対応するステップをクリックします。
- e) [完了] をクリックします。

注:

現在、新しく展開されたルールセットを有効にするには、エンドユーザーは 2 回ログオンする必要があります。

基本設定

基本設定を適用して、Profile Management の使用を開始します。基本設定には、処理済みグループ、除外グループ、ユーザーストアなどが含まれます。

Profile Management を有効にします。エージェントマシンで Profile Management サービスを有効にするかどうかを制御します。無効にすると、Profile Management サービスは機能しません。

Profile Management を完全に無効にして、エージェントに既に展開されている設定が処理されないようにしたい場合があります。目標を達成するには、次の操作を行います。

1. 「**Profile Management** を有効にする」チェックボックスをオフにして変更が自動的に適用されるのを待つか、変更を手動で適用してすぐに有効にします。

注:

[[詳細設定](#)] の [SQL 設定の更新遅延] で指定した値によっては、変更が有効になるまでに時間がかかります。変更をすぐに有効にするには、エージェントホストの設定を更新してから、関連するすべてのエージェントの Profile Management 設定をリセットします。「[管理](#)」を参照してください。

2. 変更が有効になったら、**Profile Management** 設定を無効にします。

処理されたグループを設定します。Profile Management で処理するグループを指定できます。指定したグループのみ Profile management 設定が処理されます。空白のままにすると、すべてのグループが処理されます。

除外グループを設定します。Profile Management から除外するグループを指定できます。

ローカル管理者のログオンを処理します。有効にすると、Profile Management のローカル管理者ログオンは管理者以外のログオンと同様に扱われます。

ユーザーストアへのパスを設定します。ユーザーストアへのパス (Citrix ユーザープロファイルを集中管理する場所) を指定できます。絶対 UNC パスまたはホームディレクトリからの相対パスを入力します。パスの例:

- `\\<IP address or FQDN>\<user store directory>\\%USERNAME%.%USERDOMAIN%\!CTX_OSNAME!!CTX_OSBITNESS!`

ユーザーストアを移行します。ユーザー設定 (レジストリの変更と同期されたファイル) を保存したフォルダへのパスを指定できます。以前に使用したユーザーストアパスを入力します。このオプションは、[ユーザーストアへのパスを設定] オプションとともに使用します。

アクティブなライトバックを有効にします。有効にすると、ユーザーセッション中にプロファイルがユーザーストアに書き戻され、データが失われるのを防ぎます。

- アクティブなライトバックレジストリを有効にします。有効にすると、ユーザーセッション中にレジストリエントリがユーザーストアに書き戻され、データが失われるのを防ぎます。
- セッションのロックと切断時にアクティブライトバックを有効にします。有効にすると、セッションがロックまたは切断されたときにのみ、プロファイルファイルとフォルダーが書き戻されます。このオプションと [アクティブライトバックレジストリを有効にする] オプションの両方を有効にすると、セッションがロックまたは切断されたときにのみ、レジストリエントリが書き戻されます。

オフラインプロファイルサポートを有効にします。有効にすると、プロファイルは接続されていない間で使用するためにローカルにキャッシュされます。

プロファイルコンテナ

プロファイルコンテナ設定を構成します。プロファイルコンテナは、ネットワーク上に保存され、ログオン時に接続され、ログオフ時に切り離される VHDX ディスクです。

プロファイルコンテナを有効にします。プロファイルコンテナに含めたいフォルダを追加できます。ユーザープロファイル全体をプロファイルコンテナに入れるには、代わりにアスタリスク (*) を追加します。有効にすると、Profile Management はリストされたフォルダーをネットワーク上に保存されているプロファイルディスクにマップするため、フォルダーのコピーをローカルプロファイルに保存する必要がなくなります。プロファイルコンテナに含めるフォルダを少なくとも 1 つ指定します。

- プロファイルコンテナのローカルキャッシュを有効にします。有効にすると、各ローカルプロファイルは、プロファイルコンテナのローカルキャッシュとして機能します。このオプションでは、ユーザープロファイル全体をプロファイルコンテナに入れる必要があります。
- ログオン中にプロファイルコンテナが使用できない場合は、ユーザーをログオフします。ユーザーログオン中にプロファイルコンテナが使用できない場合に、ユーザーを強制的にログオフするかどうかを指定できます。

このオプションを有効にすると、ユーザーに通知メッセージが表示され、ユーザーが「OK」をクリックした後にログオフします。

フォルダーの除外を有効にします。有効にすると、Profile Management は一覧表示されたフォルダをプロファイルコンテナから除外します。プロファイルコンテナから除外するフォルダを少なくとも 1 つ指定します。

ファイル除外を有効にします。有効にすると、Profile Management は一覧表示されたファイルをプロファイルコンテナから除外します。プロファイルコンテナから除外するファイルを少なくとも 1 つ指定してください。

フォルダー包含を有効にします。有効にすると、Profile Management は、親フォルダーが除外されたときに、一覧表示されたフォルダーをプロファイルコンテナに保持します。この一覧のフォルダーは、除外されたフォルダーのサブフォルダーである必要があります。つまり、このオプションを [フォルダーの除外を有効にする] オプションと組み合わせて使用する必要があります。プロファイルコンテナに含めるフォルダを少なくとも 1 つ指定します。

ファイルインクルージョンを有効にします。有効にすると、Profile Management は親フォルダーを除外しても、一覧表示されたファイルをプロファイルコンテナに保持します。このリストにあるファイルは、除外されたフォルダに含まれている必要があります。つまり、このオプションを [フォルダーの除外を有効にする] オプションと組み合わせて使用する必要があります。プロファイルコンテナに含めるファイルを少なくとも 1 つ指定してください。

ヒント:

ファイルまたはフォルダを追加する場合、ワイルドカードを使用できます。詳細については、「[ワイルドカードのサポート](#)」を参照してください。

プロファイルコンテナのコンテンツ、除外、および包含を追加する場合、それらを個別に、または一括して追加できます。一括で追加する場合は、改行で区切ってパスを入力します。その後、[検証を実行] をクリックして、追加しようとしている項目を検証します。追加できるのは有効な項目だけです。無効なアイテムはスキップされます。

また、プロファイルコンテナのコンテンツ、除外、および包含を階層的に表示することもできます。そのためには、[階層の表示] をクリックします。

プロファイルコンテナの **VHD** 自動拡張を有効にします。有効にすると、プロファイルコンテナの使用率が 90% に達すると、自動的に 10 GB ずつ拡張され、最大容量は 80 GB になります。必要に応じて、以下のオプションを使用してデフォルトの自動拡張設定を調整できます。

- 自動拡張トリガーのしきい値 (**%**)。プロファイルコンテナが自動拡張をトリガーするストレージ容量の使用率を指定できます。
- 自動拡張インクリメント (**GB**)。自動拡張がトリガーされたときにプロファイルコンテナが自動的に拡張するストレージ容量 (GB 単位) を指定できます。
- 自動拡張の上限 (**GB**)。自動拡張がトリガーされたときにプロファイルコンテナが自動的に拡張できる最大ストレージ容量 (GB 単位) を指定できます。

プロファイルコンテナにアクセスするユーザーとグループを設定します。プロファイルコンテナに対する読み取りおよび実行権限を、どの AD ドメインユーザーおよびグループに付与するかを指定できます。デフォルトでは、プロファイルコンテナにアクセスできるのはその所有者のみです。

プロフィール処理

Profile Management がユーザープロフィールを処理する方法を指定します。

ログオフ時にローカルにキャッシュされたプロフィールを削除します。有効にすると、ユーザーがログオフしたときにローカルにキャッシュされたプロフィールが削除されます。

- キャッシュされたプロフィールを削除する前に遅延を設定します。キャッシュされたプロフィールがログオフ時に削除されるまでの間隔 (秒単位) を指定できます。サポートされる値は 0 ~600 です。

既存のプロフィールの移行を有効にします。有効にすると、ログオン時に既存の Windows プロフィールが Profile Management に移行されます。ユーザーストアが空の場合に移行するユーザープロフィールの種類を指定します。タイプには以下が含まれます。

- ローカルおよび移動
- ローカル
- ローミング

既存のアプリケーションプロフィールの自動移行。有効にすると、既存のアプリケーションプロフィールが自動的に移行されます。Profile Management は、ユーザーがログオンし、ユーザーストアにユーザープロフィールがない場合に移行を実行します。

ローカルプロフィールの競合処理を有効にします。Profile Management と Windows プロフィールが競合するケースを WEM がどのように処理するかを構成します。ローカル Windows ユーザープロフィールと Citrix ユーザープロフィールの両方がユーザーストアに存在する場合の対処方法を指定します。

- ローカル プロフィールを使用
- ローカル プロフィールを削除
- ローカルプロフィールの名前を変更

テンプレートプロフィールを有効にします。テンプレートプロフィールパスを入力できます。有効にすると、指定したテンプレートプロフィールが Profile Management で使用されます。次のように、その他の設定を構成できます。

- テンプレートプロフィールは、ローカルプロフィールを上書きします。有効にすると、テンプレートプロフィールがローカルプロフィールに上書きされます。
- テンプレートプロフィールは、ローミングプロフィールを上書きします。有効にすると、テンプレートプロフィールが移動プロフィールよりも優先されます。
- テンプレートプロフィールをすべてのログオンで **Citrix** 固定プロフィールとして使用します。有効にすると、テンプレートプロフィールが他のすべてのプロフィールよりも優先されます。

詳細設定

Profile Management の高度な構成を制御します。

Microsoft Outlook ユーザーの検索インデックスのローミングを有効にします。有効にすると、ユーザー固有の Microsoft Outlook オフラインフォルダファイル (*.ost) と Microsoft 検索データベースがユーザープロファイルとともに移動されます。これにより、Microsoft Outlook で電子メールを検索する際のユーザーエクスペリエンスが向上します。

- **Outlook** 検索インデックスデータベース—バックアップと復元。有効にすると、Profile Management は検索インデックスデータベースの最新の正常なコピーのバックアップを自動的に保存します。破損がある場合、Profile Management はそのコピーに戻ります。その結果、検索インデックスデータベースが破損したときに、手でデータベースを再インデックスを作成する必要がなくなりました。
- 同時セッションのサポートを有効にします。同時セッションでネイティブの Outlook 検索エクスペリエンスを提供します。有効にすると、各同時セッションで個別の Outlook OST ファイルが使用されます。
 - **Outlook OST** ファイルを格納するための **VHDX** ディスクの最大数。Outlook OST ファイルを保存する VHDX ディスクの最大数を指定できます。指定しない場合、Outlook OST ファイルの保存に使用できる VHDX ディスクは2つだけです (ディスクごとに1つのファイル)。さらにセッションが開始されると、Outlook OST ファイルはローカルユーザープロファイルに保存されます。サポートされる値は1~10です。

OneDrive コンテナを有効にします。有効にすると、Profile Management は VHDX ディスクにフォルダーを保存することにより、ユーザーと共に OneDrive フォルダーをローミングします。ディスクはログオン時に接続され、ログオフ時には切り離されます。

UWP アプリローミングを有効にします。有効にすると、UWP (ユニバーサル Windows プラットフォーム) アプリはユーザーと一緒にローミングします。その結果、ユーザーは異なるデバイスから同じ UWP アプリにアクセスできます。

アプリケーション定義ファイルの使用を有効にします。定義ファイルへのパスを入力できます。有効にすると、定義ファイルに含まれる設定のみが同期されます。Citrix 仮想アプリケーションの最適化定義ファイルが保存されているフォルダーを指定します。定義ファイルの作成の詳細については、「[定義ファイルを作成する](#)」を参照してください。

VHD コンテナのデフォルト容量 (**GB**) 各 VHD コンテナのデフォルトストレージ容量 (GB) を指定できます。

VHDX ファイルのストレージパスをカスタマイズします。VHDX ファイルを保存する別のパスを指定できます。デフォルトでは、VHDX ファイルはユーザーストアに保存されます。VHDX ファイルを使用するポリシーには、プロファイルコンテナ、Outlook の検索インデックスローミング、およびフォルダーミラーリングの高速化が含まれます。有効にすると、ポリシーが異なる VHDX ファイルがストレージパスの下に異なるフォルダに保存されます。

プロファイルコンテナのマルチセッションライトバックを有効にします。有効にすると、Profile Management は、FSLogix プロファイルコンテナと Citrix Profile Management プロファイルコンテナの両方のマルチセッションシナリオの変更を保存します。同じユーザーが異なるマシンで複数のセッションを起動した場合、各セッションで行われた変更は同期され、ユーザーのプロファイルコンテナディスクに保存されます。

VHD ディスク圧縮を有効にします。有効にすると、特定の条件が満たされた場合、ユーザーログオフ時に VHD ディスクが自動的に圧縮されます。このオプションを使用すると、プロファイルコンテナ、OneDrive コンテナおよびミラーフォルダコンテナが消費するストレージスペースを節約できます。

ニーズと利用可能なリソースに応じて、以下のオプションを使用してデフォルトの VHD 圧縮設定と動作を調整できます。

- 空き容量比率を設定して **VHD** ディスク圧縮をトリガーします。VHD ディスク圧縮のトリガーとなる空き領域の比率を指定できます。ユーザーのログオフ時に空き領域の比率が指定した値を超えると、ディスクの圧縮がトリガーされます。

空き容量の比率 = (現在の VHD ファイルサイズ - 必要最小限の VHD ファイルサイズ) ÷ 現在の VHD ファイルサイズ

* Microsoft Windows オペレーティングシステムの **MSFT_Partition** クラスの `GetSupportedSize` メソッドを使用して取得します。

- **VHD** ディスクの圧縮をトリガーするログオフの数を設定します。VHD ディスク圧縮のトリガーとなるユーザーログオフ数を指定できます。

最後の圧縮からのログオフ数が指定した値に達すると、ディスク圧縮が再度トリガーされます。

- **VHD** ディスク圧縮のデフラグを無効にします。VHD ディスク圧縮のファイルのデフラグ (最適化) を無効にするかどうかを指定できます。

VHD ディスク圧縮がオンになっている場合、VHD ディスクファイルは、最初に Windows 組み込みの `defrag` ツールを使用して自動的に最適化され、そのあと圧縮されます。VHD ディスクの最適化により圧縮結果が向上しますが、オフにするとシステムリソースを節約できます。

プロファイルコンテナへの排他アクセスを有効にします。有効にすると、プロファイルコンテナは一度に 1 つのアクセスを許可します。

OneDrive コンテナへの排他アクセスを有効にします。有効にすると、OneDrive コンテナは一度に 1 つのアクセスを許可します。

ロックされたファイルにアクセスするときの再試行回数を設定します。WEM エージェントがロックされたファイルへのアクセスを再試行する回数を設定します。使用できる値: 0~100。

ユーザーストアを複製します。有効にすると、Profile Management は、[ユーザーストアへのパスを設定] オプションで指定されているパスに加えて、ログオフのたびにユーザーストアを複数のパスに複製します。セッション中に変更されたファイルおよびフォルダをユーザーストアに同期させるには、アクティブライトバックを有効にします。このオプションを有効にすると、システム I/O が増加し、ログオフが延長される可能性があります。

複数のユーザーストアが利用可能な場合、Profile Management はデフォルトで最新のプロファイルデータを持つストアを選択します。複数のストアに最新のプロファイルがある場合、Profile Management は最も早く構成されたストアを選択します。ユーザーストアの選択方法オプションを使用して、ProProfile Management を有効にして、アクセスパフォーマンスが最も高いストアを選択できるようになりました。

ユーザーストアへの認証情報ベースのアクセスを有効にします。無効にすると、Profile Management は現在のユーザーを偽装してユーザーストアにアクセスします。したがって、現在のユーザーがユーザーストアに直接アクセスできることを確認してください。有効にすると、Profile Management は、[\[詳細設定\]](#) > [\[ファイル共有\]](#) > [\[SMB 共有\]](#) で関連サービスに構成された接続を介して、ユーザーに代わってユーザーストアにアクセスします。(必要な場

合、Profile Management はユーザーストアをホストする選択された SMB 共有にアクセスします。) この設定を有効にすると、現在のユーザーがアクセス権限を持たないファイル共有 (Azure Files など) にユーザーストアを配置できます。このオプションを使用するときは、次の点を考慮してください。

- ユーザーストアをホストする SMB 共有を追加するには、[詳細設定] > [ファイル共有] > [SMB 共有] に移動します。
- 関連するサービスの [ファイル共有] で選択した SMB 共有がここに表示されます。Profile Management は、必要に応じて選択した SMB 共有にアクセスします。

重要:

この設定を無効にすると、WEM エージェントが以前に確立したすべてのユーザーストア接続が削除されます。

- 認証情報を追加または編集するときは、次のフィールドに入力します。
 - サーバー共有。サーバ共有を指定する UNC パスを入力します。
 - ユーザー名。フォーム `domain\username` に名前を入力します。
 - パスワード。サーバー共有へのアクセスに使用するパスワードを入力します。
 - パスワードを表示する。パスワードを表示または非表示にするかどうかを制御します。

自動構成を無効にします。有効の場合、ダイナミック設定は無効になります。

ログオン時にユーザーグループポリシーの非同期処理を有効にします。有効にすると、Profile Management は、次のユーザーログオンの処理モード (同期または非同期処理モード) を決定するために Windows が使用するレジストリ値をユーザーとともにローミングします。レジストリ値が存在しない場合は、同期モードが適用されます。このオプションを有効にすると、ユーザーがログオンするたびに実際の処理モードが適用されます。無効にすると、ユーザーが次の場合に非同期モードを想定どおりに適用できません。

ログオフ時にインターネット **Cookie** ファイルを処理します。有効にすると、古い Cookie はログオフ時に削除されます。

問題が発生した場合は、ユーザーをログオフします。有効にすると、問題が発生した場合、ユーザーは一時プロファイルに切り替えられるのではなく、ログオフされます。

- 別のマシンにログオンする。
- [ログオフ時にローカルにキャッシュされたプロファイルを削除する] オプションが有効になっている同じマシンにログオンします。

Citrix カスタマーエクスペリエンス向上プログラムに参加してください。有効にすると、Profile Management はカスタマーエクスペリエンス向上プログラム (CEIP) を使用して、匿名の統計および使用状況情報を収集することで、Citrix 製品の品質とパフォーマンスを向上させます。CEIP について詳しくは、『[Citrix カスタマーエクスペリエンス向上プログラム \(CEIP\) について](#)』を参照してください。

ファイルシステム

プロファイル内の同期から除外するファイルとフォルダー、ユーザーストアに同期するファイルとフォルダー、およびそれらの同期方法を指定します。

ログオン時に除外チェックを有効にします。有効にすると、ユーザーストアのプロファイルに除外されたファイルやフォルダーが含まれている場合に、ユーザーがログオンしたときに Profile Management が行う処理を構成します。(無効の場合、既定の動作は [除外されたファイルまたはフォルダーを同期する] になります)。リストから次のビヘイビアーのいずれかを選択できます。

- 除外されたファイルまたはフォルダを同期します (既定)。Profile Management は、ユーザーがログオンしたときに、これらの除外されたファイルまたはフォルダーをユーザーストアからローカルプロファイルに同期します。
- 除外されたファイルまたはフォルダーを無視。Profile Management は、ユーザーがログオンするときに、ユーザーストア内の除外されたファイルまたはフォルダーを無視します。
- 除外されたファイルまたはフォルダーを削除。Profile Management は、ユーザーがログオンすると、ユーザーストア内の除外されたファイルまたはフォルダーを削除します。

既定のフォルダ除外を有効にします。同期中に既定のフォルダの一覧が表示されます。有効にすると、この一覧で選択されているフォルダーは同期から除外されます。

フォルダーの除外を有効にします。有効にすると、一覧表示されたフォルダはユーザーのプロファイルに含まれません。この設定により、ユーザーがプロファイルの一部として必要としない大量のデータを含む特定のフォルダーを除外できます。この一覧には、既定の Windows 7 の除外が設定されており、代わりに既定の Windows XP の除外が設定されています。

ファイル除外を有効にします。有効にすると、一覧表示されたファイルはユーザーのプロファイルに含まれません。この設定により、ユーザーがプロファイルの一部として必要としない大量のデータを含む特定のファイルを除外できます。この一覧には、既定の Windows 7 の除外が設定されており、代わりに既定の Windows XP の除外が設定されています。

フォルダー包含を有効にします。有効にすると、追加したフォルダーは強制的にユーザーストアと同期されます。

ファイルインクルージョンを有効にします。有効にすると、追加したファイルは強制的にユーザーストアに同期されます。

ヒント:

ファイルまたはフォルダを追加する場合、ワイルドカードを使用できます。詳細については、「[ワイルドカードのサポート](#)」を参照してください。

フォルダーミラーリングを有効にします。有効にすると、追加したフォルダーはログオフ時にユーザーストアにミラーリングされ、ユーザーストアに格納されているミラーフォルダー内のファイルとサブフォルダーは、ローカルバージョンとまったく同じになります。フォルダのミラーリングについて詳しく、以下を参照してください。

フォルダのミラーリングを高速化します。デフォルトでは、Profile Management はユーザーストアとローカルプロファイルの間で必要なトランザクションフォルダーをコピーします。ミラーリングにより、これらのフォルダーの

整合性が保証されます。このオプションでは、コンテナベースのソリューションを使用してファイルをコピーする必要がなくなるため、フォルダーのミラーリングが高速化されます。Profile Management は、ログオン中に仮想ディスクをアタッチし、ログオフ時に仮想ディスクを切り離します。これにより、ユーザーストアとローカルプロファイルの間でフォルダをコピーする必要がなくなります。ミラーリングされたフォルダー内のファイルは、変更されたかどうかにかかわらず、セッションのログオフ時に常にユーザーストアに保存されているファイルを上書きします。ミラーフォルダーのローカルバージョンと比較して、ユーザーストアに余分なファイルまたはサブフォルダーが存在する場合、それらの余分なファイルやサブフォルダーは、セッションログオフ時にユーザーストアから削除されます。

- ミラーにフォルダを追加します。デフォルトでは、Profile Management はユーザーストアとローカルプロファイルの間で必要なトランザクションフォルダーをコピーします。トランザクションフォルダーは、1つのファイルが他のファイルを参照する、相互に依存するファイルを含むフォルダーです。必要に応じてさらに追加できます。

大容量ファイルの処理を有効にします。有効にすると、大きなファイルはユーザーストアにリダイレクトされるため、ネットワーク経由でこれらのファイルを同期する必要がなくなります。

注:

一部のアプリケーションでは、ファイルに同時にアクセスすることはできません。大容量ファイルの処理ポリシーを定義する際には、アプリケーションの動作を考慮に入れることをお勧めします。

除外と包含を追加する場合、個別にまたは一括して追加できます。一括で追加する場合は、改行で区切ってパスを入力します。その後、[検証を実行] をクリックして、追加しようとしている項目を検証します。追加できるのは有効な項目だけです。無効なアイテムはスキップされます。

また、除外と包含を階層的に表示することもできます。そのためには、[階層の表示] をクリックします。

ファイル重複排除

重複排除のために共有ストアに含めるファイルを指定します。

さまざまなユーザープロファイルに同じファイルが存在する可能性があります。これらのファイルをユーザーストアから分離して一元的に保存すると、重複を避けることでストレージスペースを節約できます。

ユーザーストアをホストするサーバー上の共有ストアに含めるファイルを指定できます。ファイル名をユーザープロファイルからの相対パスで指定します。

ファイル重複排除を有効にします。有効にすると、Profile Management は共有ストアを自動的に生成します。次に、指定されたファイルは、ユーザーストアの各ユーザープロファイルではなく、共有ストアに一元的に格納されます。これにより、ファイルの重複を避けることでユーザーストアへの負荷が軽減され、ストレージコストが削減されます。

ヒント:

ファイルまたはフォルダを追加する場合、ワイルドカードを使用できます。詳細については、「ワイルドカードのサポート」を参照してください。

包含と除外を追加する場合、それらを個別に、またはまとめて追加できます。一括で追加する場合は、パスをカンマまたは改行で区切って入力してください。その後、[検証を実行]をクリックして、追加しようとしている項目を検証します。追加できるのは有効な項目だけです。無効なアイテムはスキップされます。

デフォルトでは、Profile Management がプロファイルコンテナからファイルの重複排除を行うのは、それらのファイルが 256MB より大きい場合のみとなります。必要に応じて、同じサイズかそれより大きい重複除外ファイル (**MB**) に大きい値を指定することで、このしきい値サイズを増やすことができます。

ファイル除外を有効にします。有効にすると、Profile Management は指定されたファイルを共有ストアから除外します。このオプションは、[ファイル重複排除を有効にする] オプションを有効にした後のみ使用できます。共有ストアから除外するファイルを少なくとも 1 つ指定してください。

ストリーム配信ユーザープロファイル

ストリーム配信されたユーザー Profile Management で処理する方法を指定します。

プロファイルストリーミングを有効にします。無効にすると、このセクションの設定は処理されません。

- フォルダーのプロファイルストリーミングを有効にします。有効にすると、フォルダはアクセス時にのみフェッチされるため、ログオン中にすべてのフォルダをトラバースする必要がなくなります。これにより、帯域幅が節約され、ファイルの同期にかかる時間が短縮されます。

常にキャッシュ。有効にすると、指定したサイズ (MB 単位) 以上のファイルが常にキャッシュされます。サポートされる値は 0 ~20,000 です。

ユーザーストアがロックされたままの場合に、保留領域にあるファイルのタイムアウトを設定します。ユーザーストアがロックされたままの状態、ユーザーのファイルが保留領域からユーザーストアに書き戻されるまでの日数を指定できます。サポートされる値:1 ~30。

ストリーム配信ユーザープロファイルグループを設定します。ストリーム配信プロファイルを使用するユーザーグループを追加できます。

除外するフォルダーを設定します。有効にすると、Profile Management はこの一覧内のフォルダーをストリーム配信せず、ユーザーのログオン時にすべてのフォルダーがユーザーストアからローカルマシンにすぐにフェッチされます。

保留エリアのプロファイルストリーミングを有効にします。有効にすると、保留領域のファイルは、要求された場合にのみローカルプロファイルにフェッチされます。これにより、同時セッションシナリオでの最適なログオンエクスペリエンスが保証されます。待機領域は、プロファイルストリーミングが有効になっている間、プロファイルの整合性を確保するために使用されます。同時セッションで変更されたプロファイルファイルとフォルダーを一時的に保存します。デフォルトでは、このオプションは無効になっています。保留領域内のすべてのファイルとフォルダは、ログオン時にローカルプロファイルにフェッチされます。

ログ設定

Profile Management ログ記録を構成します。

ログインを有効にします。Profile Management 操作のログ記録を有効または無効にします。

ログにさらに情報を含めてください。以下のような詳細情報 (またはイベントのタイプ) をログに指定できます。

- 一般的な警告
- 一般的な情報
- ファイルシステム通知
- ファイルシステム操作
- レジストリ操作
- ログオフ時のレジストリの相違点
- Active Directory 操作
- ログオン時とログオフ時のポリシー値
- ログオン
- ログオフ
- 個人用ユーザー情報

ログファイルの最大サイズを設定します。Profile Management ログファイルに許可される最大サイズを指定できます。ログファイルが最大サイズを超えると、そのバックアップ (.bak) が削除され、ログファイルの名前が.bak に変更され、新しいログファイルが作成されます。サポートされる値:1 ~100。

ログファイルへのパスを設定します。ログファイルを作成する場所を指定できます。

レジストリ

Profile Management の処理に含める、または除外するレジストリキーを指定します。

NTUSER.DAT バックアップ。有効にすると、Profile Management 前回正常起動時のバックアップが保持されます。NTUSER.DAT Profile Management は破損を検出すると、最新の正常なバックアップコピーを使用してプロフィールファイルを回復します。

既定のレジストリ除外を有効にします。ユーザープロフィールと同期されない HKCU ハイブ内のレジストリキーの既定の一覧を提供します。有効にすると、この一覧で選択したレジストリ設定が Profile Management から強制的に除外されます。

レジストリ除外を有効にします。有効にすると、追加したレジストリ設定が Profile Management から強制的に除外されます。

レジストリインクルージョンを有効にします。有効にすると、追加したレジストリ設定が Profile Management に強制的に含まれます。

アプリのアクセス制御

ファイル、フォルダー、レジストリなどのアイテムへのユーザーアクセスを制御するルールを追加します。一般的な使用例は、マシンにインストールされたアプリへのユーザーアクセスを制御するルールを適用することです。つまり、アプリを関連ユーザーに見えないようにするかどうかです。

人事、営業、研究開発の 3 つの部門のユーザーに割り当てられたデスクトップにアプリケーション (App1、App2、App3、および App4) を提供する必要があるとします。

- 人事部門のユーザーのみが App1 にアクセスできます。
- 営業部門のユーザーのみが App2 にアクセスできます。
- 研究開発部門のユーザーのみが App3 にアクセスできます。
- すべてのユーザーが App4 にアクセスできます。

この目標を達成するには、1 つのイメージのみを使用してルールをデプロイできます。このイメージには、アプリケーション App1、App2、App3、および App4 が含まれています。次に、次のようにアプリケーションルールを設定します。

- **App1** のルールを作成します。App1 に関連するオブジェクトと、営業部門と研究開発部門のユーザーを追加します。
- **App2** のルールを作成します。App2 に関連するオブジェクトと HR および R & D 部門のユーザーを追加します。
- **App3** のルールを作成します。App3 に関連するオブジェクトと、人事部門と営業部門のユーザーを追加します。

アプリケーションルールを作成する方法は 2 つあります。

- GUI ベースのツール- [WEM ツールハブ > アプリアクセス制御用のルールジェネレーター](#)
- [PowerShell ツール](#) –Profile Management インストールパッケージで利用可能

アプリケーションルールをデプロイするには、Web コンソールのアプリケーションアクセスコントロールを使用します。

アプリアクセス制御を有効にします。有効にすると、Profile Management はアプリルールを処理します。ルールを追加するときは、[WEM Tool Hub > Rule Generator for App Access Control](#) を使用して生成された [.rule ファイルを参照するか](#)、クリップボードからデータを貼り付けることができます。ルールを追加したら、「管理」をクリックしてルールを表示、編集、または更新します。ルールを表示するときに、カテゴリビューとローデータビューを切り替えることができます。

ワイルドカード対応

ファイルまたはフォルダを追加する場合、ワイルドカードを使用できます。ファイル名に含まれるワイルドカードは再帰的に適用されますが、フォルダ名のワイルドカードは再帰的に適用されません。縦棒 (|) を使用すると、ポリシーを現在のフォルダーのみに制限して、そのサブフォルダーにポリシーが適用されないようにすることができます。

例:

- `AppData*.tmp`は、`AppData`フォルダとそのサブフォルダ内にある、拡張子が`.tmp`のファイルをすべて除外します。
- `AppData*.tmp|`は、フォルダ`AppData`内の拡張子が`.tmp`のファイルをすべて除外します。
- `Downloads*\a.txt`は、`Downloads`フォルダの直近のサブフォルダから`a.txt`を除外します。注意: フォルダ名に含まれるワイルドカードは再帰的に適用されません。
- `Downloads*`は、`Downloads`フォルダの直近のサブフォルダをすべて除外します。

スクリプト化されたタスク設定

September 12, 2022

[スクリプト化されたタスク] ページで使用可能なすべてのスクリプト化されたタスクを一覧表示します。スクリプト化されたタスクは構成セットレベルで実行されます。ここでは、現在の構成セットに対して有効にするスクリプト化されたタスクを設定します。スクリプト化されたタスクを編集するには、[スクリプト化されたタスク]に移動します。

スクリプト化されたタスクを設定する

1. [スクリプト化されたタスクの設定] ページで、スクリプト化されたタスクを探して省略記号を選択し、[構成]を選択します。
2. [スクリプトタスクの構成] ウィザードで、次の設定を構成し、[保存]をクリックします。

一般:

- このタスクを有効にします。現在の構成セットに対してタスクを有効 (**Yes**) または無効 (**No**) にするかを選択します。無効にすると、エージェントはタスクを処理しません。
- 署名を検証します。タスクを実行する前に署名を検証するかどうかを選択します。スクリプト化されたタスクにフルアクセス権が付与されている場合、署名の検証は必須です。
- タスクタイムアウト。タスクにタイムアウト (分単位) を設定するかどうかを選択します。タイムアウトが発生すると、タスクは強制的に終了します。サポートされる値:1–60。タスクのタイムアウトを設定することをお勧めします。そうしないと、タスクが実行されたままになり、他のタスクが実行されなくなる可能性があります。
- [フィルタ]。フィルターを選択して、タスクをコンテキスト化するかどうかを選択します。フィルターを選択すると、このタスクはフィルタのすべての条件が満たされた場合にのみ実行されます。フィルターを選択するときは、次の点を考慮してください。

- スクリプト化されたタスクに適用されない条件がフィルタに含まれている場合、エージェントはタスクを実行する前にフィルタを評価するときそれらの条件をスキップします。スクリプト化されたタスクに適用されない条件の完全なリストについては、[マシン設定に適用されない条件を参照してください](#)。

[トリガー]:

- タスクのトリガーを構成します。以下の操作を実行できます:
 - タスクに関連付けるトリガーを選択します。アクティブ化されると、これらのトリガーはユーザー環境でタスクを開始します。
 - このタスクに適用されるトリガーのみを表示するかどうかを選択します。
 - 新しいトリガーを作成します。「[トリガーを作成する](#)」を参照してください。

注:

既存のトリガーを編集するには、[\[トリガー\]](#)に移動します。

[パラメータ]:

- スクリプト化されたタスクにパラメーターを渡します。スクリプトタスクにパラメータを渡すかどうかを選択します。有効にすると、実行時にスクリプトタスクにパラメータ変数として入力を提供できます。この利点は、基になるコードを変更することなく、スクリプトタスクの動作を制御できることです。次のパラメータタイプを使用できます。
 - 整数。例: 123
 - 文字列。例: `hello world`
 - ブール値。True または False。
 - キャラクター。例: `c`
 - [スイッチ]。True または False。
 - ダブル。例: 1.023
 - 日付と時刻。例: `YYYY-MM-DD HH:mm:ss`
 - ファイルパス。System.IO.FileInfo クラスに渡すパスを入力します。環境変数がサポートされています。パスには、次の文字を含めないでください: * ? < >。

注:

- 最大 20 個のパラメータを設定できます。
- name フィールドは、「switch」タイプのパラメータを除いて任意です。
- PowerShell は部分的なパラメーター名をサポートしています。部分的なパラメータ名を使用するときは、名前が一意であることを確認してください。既存のパラメータ名と明確に区別してください。例: 次のパラメーター名は PowerShell でも同じです: `-t`、`-ti`、`-title`。この場合、他のパラメータと区別できるように、パラメータ名に十分な文字を指定します。

出力内:

- 出力ファイル。タスクが出力するファイルを収集するかどうかを選択します。選択すると、タスクに対して生成されるレポートに出力ファイルの内容が含まれます。これにより、ユーザー環境で出力ファイルにアクセスしなくても、レポートに出力ファイルの内容を表示できます。
- ハイライトを出力します。出力ファイルの内容とコンソール出力で、特定のコンテンツをハイライト表示するかどうかを選択します。
 - キーワードを強調表示します。レポートで強調表示するキーワードを指定します。複数のキーワードをカンマで区切って入力できます。キーワードを入力したら、**Enter** キーを押して続行します。指定すると、キーワードに一致するレポートコンテンツが、生成されたレポートの [出力ファイルの内容] セクションと [コンソール出力] セクションで強調表示されます。
 - 正規表現の一致を強調表示します。強調表示するコンテンツを表す正規表現を入力します。正規表現は、PCRE 互換の .NET 正規表現ライブラリ構文に準拠している必要があります。詳しくは、Microsoft 社のドキュメントを参照してください: <https://docs.microsoft.com/en-us/dotnet/standard/base-types/regular-expression-language-quick-reference>.
 - * 正規表現。強調表示するコンテンツを表す正規表現を入力します。
 - * 大文字小文字を無視内容の大文字と小文字が正確に一致する必要があるかどうかを選択します。
 - * 複数行一致を使用します。複数行一致を使用するかどうかを選択します。^ と \$ は、出力コンテンツ全体の先頭と末尾ではなく、各行の先頭と末尾に一致します。
 - * 名前付きグループのみをキャプチャします。名前付きグループのみをキャプチャするかどうかを選択します。キャプチャされたグループは、正規表現パターンで括弧を使用して定義されます。名前付きグループには、(?<name> subexpression) 構文によって名前または番号が明示的に割り当てられます。
 - * コンテキストの手がかりとして含める行数。コンテキストの手がかりとして、ハイライトに含める一致の前後の行数を指定します。サポートされる値は 1 ~ 10 です。
 - * レポートには正規表現の一致のみを含めます。出力コンテンツ全体をレポートに含めるか、正規表現に一致するコンテンツのみを含めるかを制御します。このオプションを有効にすると、Citrix Cloud に送信されるデータ量が減少します。このオプションを有効にすると、キーワードの強調表示機能には、指定されたキーワードに関係なく表示するコンテンツがありません。
- 詳細オプション。
 - ランタイムエラーが発生しても出力を収集します。タスクの実行中にエラーが発生した場合でも、出力ファイルの内容とコンソール出力を収集するかどうかを制御します。

スクリプト化されたタスクのレポートを表示する

[スクリプト化されたタスクの設定] ページで、スクリプト化されたタスクを探して省略記号を選択し、[レポートの表示] を選択します。その結果、[**Monitoring**] > [**Reports**] ページが表示され、タスクに関連するレポート (存在する場合) が表示されます。省略記号をクリックすると、詳細情報が表示されます。詳しくは、「[レポート](#)」を参照してください。

アプリパッケージ配信

April 10, 2024

この機能により、WEM エージェントインストーラーとカスタム .exe インストーラーをサポートするエージェントマシンのアプリインストール/アンインストールタスクを構成できるため、アプリ配信機能が提供されます。SMB 共有に保存されているインストーラーを含むアプリパッケージを追加し、パッケージのコマンド、実行基準、および関連設定を指定できます。次に、実行を処理するスケジュールとルールを使用して、アプリケーションをユーザー環境に展開するための配信タスクを構成できます。アプリパッケージはすべての構成セットで共有されます。各構成セットのアプリパッケージを使用して配信タスクを構成できます。マシン全体のインストーラーのみがサポートされます。

クラウド環境では、組み込みの WEM エージェントパッケージは 1 つしか使用できません。WEM エージェントパッケージに関連付けられた省略記号を使用して、配信タスクの作成、パッケージの編集、およびパッケージの削除を行うことができます。使用中のパッケージはすべて削除できません。アプリパッケージと配信タスクをアルファベット順または作成日に基づいて並べ替えることもできます。

保管場所の設定

現在の構成セットの保存場所を構成するには、次の手順を実行します。

1. SMB 共有と、その共有にアクセスする権限を持つ管理者の認証情報を [ストレージロケーション] ページに入力して新しいストレージロケーションを追加し、[完了] をクリックします。
2. 指定した保存場所は、現在の構成セットにのみ適用されます。
3. SMB 共有 (Storage location) \Citrix\WEM\AppPackages の次のパスにインストーラーを保存し、[保存] をクリックします。

アプリパッケージを追加

アプリパッケージを追加するには、次の手順を完了します。

1. [アプリパッケージを追加] > [EXE] をクリックして、[アプリパッケージの追加] ページにアクセスします。このページには、基本情報、実行条件、および設定がツリー構造で一覧表示されます。
 - 実行基準。アプリパッケージをいつ実行するかを決定する基準を指定する必要があります。実行条件は、ファイルまたはフォルダの有無、ファイルの作成日、ファイルの変更日、ファイルのバージョン、ファイルサイズ **、** レジストリキーの有無、** レジストリ値の有無、** およびレジストリ値に分類されます。パッケージの繰り返し実行によるエラーを防ぐため、必ず基準を設定してください。
 - 64 ビットバージョンの Windows では、Program Files ディレクトリ内でファイルまたはフォルダーのパスが設定されている場合、**Criterion** タイプを [ファイルまたはフォルダーの存

在]として選択した場合、WEM エージェントは 32 ビットProgram Files (x86)フォルダーと 64 ビットProgram Filesフォルダーの両方を自動的に確認します。たとえば、設定されたパスがC:\Program Files\Testの場合、WEM エージェントは次の 2 つのパス、つまりC:\Program Files (x86)\TestとC:\Program Files\Testの存在を確認します。同様に、設定されたパスがC:\Program Files (x86)\Testの場合、WEM エージェントはC:\Program Files (x86)\TestとC:\Program Files\Testの両方を確認します。これにより、32 ビットと 64 ビットの両方のアプリケーション間で互換性とアクセシビリティが確保されます。

- 基準タイプを [ファイルサイズ]として選択した場合、WEM エージェントは整数部分を考慮し、10 進値を無視してファイルサイズをキロバイト (KB) 単位で計算します。たとえば、ファイルのサイズが 46,913,080 バイトの場合、WEM エージェントはそのサイズを KB 単位で 45,813 KB と計算します (46,913,080 を 1024 で割ると 45,813.554 になり、小数点部分の「.554」は無視されます)。
- 基準タイプとして [レジストリキーの存在] を選択した場合:64 ビットバージョンの Windows では、レジストリは 32 ビットキーと 64 ビットキーに分けられます。レジストリキーを 64 ビットバージョンとして構成すると、WEM エージェントは 32 ビットバージョンと 64 ビットバージョンの両方でレジストリキーの存在を確認しようとします。ただし、レジストリキーを 32 ビットバージョンとして構成した場合、WEM エージェントは 32 ビットバージョンでのみその存在を確認します。たとえば、設定したレジストリキーがHKEY_LOCAL_MACHINE\Software\testの場合、HKEY_LOCAL_MACHINE\Software\testまたはHKEY_LOCAL_MACHINE\Software\WOW6432Node\testのいずれかのレジストリキーが存在すれば基準が満たされます。設定したレジストリキーがHKEY_LOCAL_MACHINE\Software\WOW6432Node\testの場合、HKEY_LOCAL_MACHINE\Software\WOW6432Node\testが存在すれば基準が満たされます。

2. 各オプションの下に表示されているフィールドを更新します。
3. 一部のパッケージをインストールまたはアンインストールした後、必要に応じて [設定] の [実行後にマシンを再起動する] チェックボックスを選択できます。
 - インストール中にアプリケーションパッケージがマシンの再起動をトリガーした場合、正確な結果を取得できないため、ステータスは「予期しない再起動」として記録されます。再起動を防ぐためにインストールコマンドにパラメータを組み込んでください。また、この問題に対処するには、[実行後にマシンを再起動する] チェックボックスを選択してください。
 - アプリケーションパッケージが再起動後も継続的な操作を必要とする場合、パッケージの結果が完全に正確ではない場合があります。これは、WEM が WEM によって開始されていないパッケージの結果を取得できないためです。
4. 成功ステータスを示すリターンコードを必ず指定してください。パッケージのリターンコードは [設定] で定義できます。

WEM エージェントアップグレードタスクを作成する

WEM エージェントアップグレードタスクを作成するには、次の手順を実行します。

1. 配信タスクの作成 > **WEM** エージェントアップグレードタスクタイプを選択して、配信タスクの作成ページにアクセスします。このページには、** 基本情報とスケジュールとルールがツリー構造で一覧表示されます **。
2. 各オプションの下に表示されているフィールドを更新します。
3. デフォルトでは、「アップグレード先」で「最新バージョン」が選択されます。
4. UI モードで実行されているエージェントでは、[ユーザによるエージェントの手動アップグレードを許可] を有効にすると、エージェントユーザインターフェイスで [アップグレード] オプションが使用できるようになります。このオプションを使用して、ドロップダウンメニューで指定されたバージョン (最後の 3 つのバージョン) にエージェントをアップグレードできます。この設定は、WEM エージェントアップグレード配信タスクのサブセットです。つまり、手動アップグレードタスクは、設定されたルールに従って WEM エージェントアップグレード配信タスクで指定されたバージョンにアップグレードされます。
5. 配信タスクはスケジュールを設定しないと手動で実行されないため、配信タスクを実行する必要がある時間帯と日を指定してスケジュールを設定してください。開始時刻と終了時刻は、少なくとも 2 時間間隔を空けて同じ日に設定する必要があります。
6. ルールを設定して、どのエージェントがタスクを実行する必要があるかを決定することもできます。[マシンカタログ名]、[デリバリーグループ名]、[デバイス名 **]、[**IP アドレス]、[OS プラットフォームタイプ]、[**OS バージョン]、[** 固定マシンルール] から [すべて一致] または [任意に一致] を選択できます。

注:

次の WEM エージェントのアップグレード設定により、2310 より古いバージョンでエージェントのアップグレードを実行する際に互換性の問題が発生する可能性があります。

- 曜日はスケジュール設定で設定します。
- ルールは固定マシン以外のルールで設定されます。
- 「ルール」で「どれでも一致」が選択されています。
- ルールはスケジュールなしで設定されます。

制限事項

- WEM エージェントをアップグレードすると、2310 より前の WEM エージェントバージョンでは、現在利用可能なすべてのエージェントアップグレードタスクの中で最初に作成されたタスクのみを使用できます。

カスタムタスクを作成する

カスタムタスクを作成するには、次の手順を完了します。

1. 配信タスクの作成 ▶ カスタムタスクタイプを選択して、配信タスクの作成ページにアクセスします。このページには、** 基本情報とスケジュールとルールがツリー構造で一覧表示されます **。
2. 各オプションの下に表示されているフィールドを更新します。
3. 必要なアプリパッケージを選択し、実行したい順序に並べることができます。
4. スケジュールされた他のタスクがブロックされないようにするには、選択したパッケージ機能（インストール/アンインストール）のいずれかが失敗しても、他のアプリパッケージのシームレスな処理を続行するには、[タスクコンテンツ] で [失敗した場合は続行] を選択してください。
5. [再起動が終了するまで待つ] チェックボックスを選択した場合、個々のアプリパッケージの再起動設定は無視され、タスクのリスト全体の実行が終了するとマシンが再起動します。
6. 「1回実行」チェックボックスを選択すると、スケジュールされたタスクを1回だけ実行できます。
7. 配信タスクはスケジュールが設定されていないと手動で実行されないため、配信タスクを実行する必要がある時間帯と日を指定してスケジュールを設定してください。
8. 各パッケージの最大実行時間は60分です。そうしないと、パッケージはタイムアウトして終了します。

詳細については、「[レポート](#)、[エージェント](#)、[および詳細設定](#)」を参照してください。

詳細設定

December 6, 2023

これらの設定を使用して、Workspace Environment Management (WEM) エージェントがアクションを処理する方法とタイミングを制御します。

エージェントの設定

このページでは、WEM エージェントの動作を設定できます。

エージェントオプション

エージェントの設定を行います。

エージェント起動時の動作:

- ログオン時にエージェントを起動します。エージェントをログオン時に実行するかどうかを制御します。
- 再接続時にエージェントを起動します。エージェントが実行されているマシンにユーザーが再接続したときにエージェントを実行するかどうかを制御します。

- 管理者用エージェントを起動します。ユーザーが管理者の場合にエージェントを実行するかどうかを制御します。
- デスクトップ互換モードを有効にします。エージェントが実行されているデスクトップと互換性があることを確認します。この設定は、ユーザーがセッションにログオンしたときにエージェントを起動するために必要です。
- 公開アプリケーションでは **CMD** エージェントのみを実行してください。有効にすると、エージェントは公開アプリケーションで UI モードではなく CMD モードで起動します。CMD モードでは、エージェントのスプラッシュ画面ではなくコマンドプロンプトが表示されます。CMD と UI モードの詳細については、「[CMD および UI モードのエージェント](#)」を参照してください。

エージェント起動の除外:

- 特定のグループのエージェントを起動しないでください。有効にすると、指定したユーザーグループに属するユーザーに対して Citrix WEM エージェントホストが起動されません。
- 指定されたグループのみのエージェントを起動します。有効にすると、Citrix WEM エージェントホストは、指定されたユーザーグループに属するユーザーに対してのみ起動されます。

エージェントログ:

- エージェントロギングを有効にします。有効にすると、エージェントはエージェントログファイルを出力します。
- デバッグモード。エージェントの詳細ログを有効にするかどうかを制御します。

リフレッシュ:

- 環境設定を更新します。有効にすると、エージェントが更新されると、エージェントはユーザー環境設定の更新をトリガーします。環境設定の詳細については、「[環境設定](#)」を参照してください。
- システム設定を更新します。有効にすると、エージェントが更新されると、エージェントは Windows システム設定 (Windows エクスプローラやコントロールパネルなど) の更新をトリガーします。
- 環境設定が変更されたら更新します。有効にすると、環境設定が変更されると、エージェントはエンドポイントで Windows の更新をトリガーします。
- デスクトップを更新します。有効にすると、エージェントの更新が発生すると、エージェントはデスクトップ設定の更新をトリガーします。デスクトップ設定の詳細については、「[デスクトップ](#)」を参照してください。
- 外観をリフレッシュ。有効にすると、エージェントが更新されると、エージェントは Windows テーマとデスクトップの壁紙のリフレッシュをトリガーします。

自動更新 (UI エージェントのみ):

- 自動更新を有効にします。有効にすると、Citrix WEM エージェントホストは自動的に更新されます。デフォルトでは、更新の遅延は 30 分です。

オフラインモード:

- オフラインモードを有効にします。無効にすると、エージェントは WEM サービスへの接続に失敗してもキャッシュにフォールバックしません。

- オンラインのときでもキャッシュを使う。有効にすると、エージェントは常にキャッシュから設定とアクションを読み取ります（エージェントのサービスが循環するたびに構築されます）。
- キャッシュを使用してアクションの処理を高速化します。有効にすると、エージェントはインフラストラクチャサービスからではなく、エージェントローカルキャッシュから関連する設定を取得してアクションを処理します。そうすることで、アクションの処理が高速化されます。デフォルトでは、このオプションは有効になっています。以前の動作に戻す場合は、このオプションを無効にします。

重要:

- エージェントローカルキャッシュは WEM サービスと定期的に同期されます。したがって、アクション設定の変更は、エージェントキャッシュ更新遅延オプション（[** 詳細設定] > [エージェント設定] > [エージェントサービスオプション **] タイル）に指定した値によっては、有効になるまでにしばらく時間がかかります。
- 遅延を減らすには、低い値を指定します。変更をすぐに有効にするには、[監視] > [管理] > [エージェント] > [統計] に移動し、対象のエージェントを選択して、[詳細] で [エージェント] > [キャッシュの更新] を選択します。
- この設定を無効にしないことをお勧めします。そうしないと、ネットワーク接続が不十分なシナリオでユーザーエクスペリエンスが低下する可能性があります。無効にすると、WEM サービスへの大量のトラフィックがあるシナリオでは、管理コンソールで設定したアクションがエージェントホストに適用されないことがあります。

エージェントサービスオプション

エージェントホストサービスの設定を行います。

エージェントキャッシュの更新遅延 (分)。この設定項目では、Citrix WEM エージェントホストサービスがキャッシュの更新を待機する時間を制御します。更新では、キャッシュと WEM サービスデータベースとの同期が維持されます。デフォルトは 30 分です。このオプションを使用する場合は、次の点に注意してください。

- キャッシュが WEM サービスデータベースと同期する最小間隔は 15 分です。15 分以上の整数を入力します。
- 実際の同期間隔は異なる場合があります。WEM エージェントは、指定された値に基づいて、エージェントキャッシュの更新遅延がタイムアウトするたびに、実際の同期間隔としてランダム値が選択された間隔を計算します。たとえば、値を 30 分に設定します。エージェントはこの間隔から $[(30 - 30/2), (30 + 30/2)]$ というランダムな値を選択します。

SQL 設定の更新遅延 (分)。この設定項目では、Citrix WEM エージェントホストサービスが SQL 接続の設定を更新するまで待機する時間を制御します。デフォルトは 15 分です。15 分以上の整数を入力します。

エージェントの追加起動遅延 (ミリ秒)。この設定では、Citrix WEM エージェントホストサービスがエージェントホスト実行可能ファイルの起動を待つ時間を制御します。デフォルトは 0 です。

ヒント:

エージェント・ホストで最初に必要な作業を完了させるシナリオでは、エージェント・アプリケーション・ランチャー (VUEAppCmd.exe) の待機時間を指定できます。VUEAppCmd.exe は、Citrix DaaS (以前の Citrix 仮想アプリケーションおよびデスクトップサービス) および Citrix Virtual Apps and Desktops の公開アプリケーションが起動する前に、エージェントホストが環境の処理を終了することを保証します。待機時間を指定するには、[エージェントホスト構成] グループポリシーの vueAppCmd 追加同期遅延設定を構成します。詳細については、「[エージェントのインストールと構成](#)」を参照してください。

デバッグモードを有効にします。構成セットに接続しているすべてのエージェントの詳細ログを有効にするかどうかを制御します。

ie4unit チェックをバイパスします。デフォルトでは、Citrix WEM エージェントホストサービスは、エージェントホスト実行ファイルを起動する前に ie4unit の実行を待ちます。この設定により、Citrix WEM エージェントホストサービスは ie4unit を待たなくなります。

エージェントアップグレード

この構成セットにバインドされているすべてのエージェントの自動アップグレードをスケジュールします。

エージェントのアップグレードは、新しいアプリケーションパッケージ配信機能内で行われるようになりました。エージェントのアップグレードを構成してスケジュールするには、[アプリパッケージ配信] > [配信タスク] に移動し、**WEM** エージェントアップグレード配信タスクを作成します。以前に設定した設定は、自動的に配信タスクに変換されます。

その他

通知、初期環境のクリーンアップ、Wake on LAN などの設定を行います。

通知:

- 接続状態の変化の通知を有効にします。有効にすると、インフラストラクチャサービスへの接続が失われたり復元されたりすると、エージェントはエージェントホストに通知メッセージを表示します。低品質のネットワーク接続では、このオプションを有効にしないことをお勧めします。そうしないと、接続状態変更通知がエンドポイント (エージェントホスト) で頻繁に表示される場合があります。

追加機能:

- 初期環境のクリーンアップ。有効にすると、エージェントは最初のログオン時にユーザー環境をクリーンアップします。具体的には、次の項目を削除します。
 - ユーザーネットワークプリンタ。
 - * [クリーンアップ操作] タブの [自動作成されたプリンタを保持] が有効になっている場合、エージェントは自動作成されたプリンタを削除しません。

- ★ [クリーンアップ操作] タブの [特定のプリンタを保持] が有効になっている場合、エージェントは一覧で指定されたプリンタを削除しません。
 - ホームドライブであるネットワークドライブを除くすべてのネットワークドライブ。
 - デスクトップ以外のすべてのショートカット、[スタート] メニュー、[クイック起動]、[スタート] ボタン-コンテキストメニューショートカット。
 - すべてのタスクバーと [スタート] メニューのショートカットが固定されています。
- デスクトップ **UI** の初期クリーンアップ。有効にすると、エージェントは最初のログオン時にセッションデスクトップをクリーンアップします。具体的には、次の項目を削除します。
 - デスクトップ以外のすべてのショートカット、[スタート] メニュー、[クイック起動]、[スタート] ボタン-コンテキストメニューショートカット。
 - すべてのタスクバーと [スタート] メニューのショートカットが固定されています。
- ユーザーグループのクロスドメイン検索を有効にします。有効にすると、エージェントはすべての Active Directory ドメイン内のユーザー・グループに照会します。クロスドメイン検索には時間がかかる場合があります。このオプションは必要な場合にのみ選択します。
- エージェントがキャッシュされたドメイン検索結果を使用できるようにします。有効にすると、エージェントはドメインクエリ結果のキャッシュを使用してパフォーマンスと耐障害性を向上させます。ドメインクエリの結果は最大 7 日間キャッシュされます。
- アプリケーションの存在を確認してください。有効にすると、エージェントは、ユーザーがサインインするマシンにアプリケーションが存在することを確認しない限り、ショートカットを作成しません。
- アプリケーションの環境変数を拡張します。処理前にアプリケーションターゲットパスと作業フォルダ内の環境変数を展開するかどうかを制御します。
- **WEM** サービスタイムアウト (ミリ秒)。エージェントがインフラストラクチャサービスへの接続に失敗したときに、エージェントが自身のキャッシュに切り替わるタイムアウト値。デフォルト値は 15000 ミリ秒です。
- エージェントの最大並列処理度。エージェントが使用できる最大スレッド数。デフォルト値は 0 (プロセッサが物理的に許容するスレッド数) です。1 はシングルスレッド、2 はデュアルスレッド、といった具合です。通常、この値は変更する必要はありません。
- ディレクトリサービスのタイムアウト (ミリ秒)。エージェントホスト・マシン上のディレクトリ・サービスのタイムアウト値。その後、エージェントはユーザー・グループの関連付けの独自の内部キャッシュを使用します。デフォルト値は 15000 ミリ秒です。
- ネットワークリソースタイムアウト (ミリ秒)。ネットワークリソース (ネットワーク上のネットワークドライブまたはファイル/フォルダリソース) を解決するためのタイムアウト値。この時間が経過すると、エージェントはアクションが失敗したと判断します。デフォルト値は 500 ミリ秒です。

ウェイクオン LAN:

エージェント・ホストをリモートでオンにするには、このタブを使用します。WEM は、ターゲットエージェントと同じサブネットに存在するエージェントを自動的に選択し、それらのエージェントを Wake on LAN メッセージャー

として使用します。この機能には、Wake on LAN と互換性のあるハードウェアが必要です。この機能を使用するには、ターゲットマシンがハードウェア要件を満たし、関連する BIOS 設定が構成されていることを確認します。

エージェントの **Wake on LAN** を有効にします。Windows オペレーティングシステムの設定を構成して、エージェントホストの Wake on LAN を有効にするかどうかを制御します。選択すると、エージェントは次のシステム設定を構成します。

- ネットワークアダプタのエネルギー効率に優れたイーサネットを無効にする
- ネットワークアダプタの **Wake on Magic Packet** を有効にする
- [このデバイスがネットワークアダプタのコンピュータをスリープ解除できるようにする] を有効にします。
- [有効] マジックパケットのみによるネットワークアダプタのコンピュータのスリープ解除を許可する
- 無効化高速起動をオンにする

このオプションを有効にしたら、[監視] > [管理] > [エージェント] > [統計] に移動し、一覧から 1 つまたは複数のエージェントを選択し、[電源管理] > [Wake in More] を選択して、選択したエージェントを起動します。

アクション設定

このページでは、アクション処理とクリーンアップに関連する設定を構成できます。

アクション処理

エージェントがアクションを処理する方法とタイミングを制御し、割り当てられていないアクションをデスクトップから削除するかどうかを制御します。

ログオンおよび更新時のアクション処理。次の設定は、ユーザーがログオンしたとき、およびエージェントが更新するときに、エージェントが処理するアクションを制御します。

- ログオン時と更新時にアプリケーションを処理
- ログオン時と更新時にプリンターを処理する
- ログオン時および更新時に仮想ドライブを処理する
- ログオン時と更新時にレジストリを処理する
- ログオン時と更新時に環境変数を処理
- ログオン時と更新時にポートを処理する
- ログオン時と更新時に **INI** ファイルを処理
- ログオン時と更新時に外部タスクを処理
- ログオン時と更新時にファイルシステムの操作を処理する
- ログオン時および更新時にユーザーの **DSN** を処理する
- ログオン時および更新時に **FTA** を処理

その他の設定:

- ログオン時にポリシーと **JSON** ファイルの処理を待ちます。すべての設定 (GPO と JSON オブジェクト) が処理されるまでユーザーにログオンを完了させたい場合は、このオプションを使用してください。

再接続時のアクション処理。次の設定は、ユーザーがエージェントマシンに再接続したときにエージェントが処理するアクションを制御します。

- 再接続時にアプリケーションを処理
- 再接続時にプリンタを処理する
- 再接続時にネットワークドライブを処理
- 再接続時に仮想ドライブを処理
- 再接続時にレジストリを処理
- 再接続時に環境変数を処理する
- 再接続時にポートを処理する
- 再接続時に **INI** ファイルを処理
- 再接続時に外部タスクを処理
- 再接続時にファイルシステムの操作を処理する
- 再接続時にユーザー **DSN** を処理
- 再接続時に **FTA** を処理

割り当てられていないときにアクションを削除します。これらの設定が有効になっている場合、エージェントは次回更新時に未割り当てのアクションをすべて削除します。

- 割り当てが解除されたらデスクトップからアプリケーションを削除
- 割り当てられていないときにデスクトップからプリンターを削除する
- 割り当てられていないときにデスクトップからネットワークドライブを削除する
- 割り当てられていないときにデスクトップから仮想ドライブを削除する
- 割り当てられていないときにデスクトップからレジストリを削除する
- 割り当てられていないときにデスクトップから環境変数を削除
- 割り当てられていないときにデスクトップからポートを削除
- 割り当てられていないときにデスクトップからファイルシステムの操作を削除する
- 割り当て解除時にユーザーの **DSN** をデスクトップから削除する
- 未割り当て時にデスクトップから **FTA** を削除

アクション処理を強制します。これらの設定が有効になっている場合、エージェントは、変更が加えられていない場合でも、常にそれらのアクションを更新します。

- アプリケーションの処理を強制する
- プリンターの処理を強制
- ネットワークドライブの処理を強制
- 仮想ドライブの処理を強制
- 環境変数の処理を強制する
- ポートの処理を強制

フィルター処理を強制します。これらのオプションを有効にすると、エージェントは更新のたびにフィルターを再処理します。

- アプリケーション用のフィルター処理を強制する
- プリンターのフィルター処理を強制
- ネットワークドライブのフィルター処理を強制
- 仮想ドライブのフィルター処理を強制
- レジストリのフィルター処理を強制する
- 環境変数のフィルター処理を強制する
- ポートのフィルター処理を強制
- ファイルシステム操作のフィルター処理を強制
- ユーザー **DSN** のフィルター処理を強制
- **FTA** のフィルター処理を強制

非同期処理:

- プリンタを非同期で処理します。有効にすると、エージェントは他のアクションの処理が完了するのを待たずにプリンタを非同期で処理します。
- ネットワークドライブを非同期で処理します。有効にすると、エージェントは他のアクションの処理が完了するのを待たずにネットワークドライブを非同期で処理します。

アクションクリーンアップ

このタイルに表示されるオプションは、エージェントが起動時にショートカットや他のアイテム（ネットワークドライブとプリンター）を削除するかどうかを制御します。ユーザーまたはユーザーグループにアクションを割り当てると、ショートカットや項目の作成を制御できる場合もあります。たとえば、[アプリケーションの課題を管理するとき](#)に、アプリケーションショートカットの作成場所を指定できます。Workspace Environment Management では、次のオプションが特定の優先度に従って処理されます

1. 割り当てられたアクションに設定されたオプションは、「割り当ての管理」にあります。
2. アクションクリーンアップタイルにあるオプション。

たとえば、割り当てられたアプリケーションの [デスクトップショートカットの作成] オプションを [割り当ての管理] で有効にしている、アプリケーションショートカットがすでにデスクトップに作成されているとします。アクションクリーンアップタイルの [起動時にデスクトップショートカットを削除] オプションを有効にしても、ショートカットはエージェントの起動時にデスクトップに残っています。

アプリケーションショートカット。次の設定は、起動時に削除するショートカットを制御します。

- 起動時にデスクトップショートカットを削除します。
- 起動時にタスクバーに固定されていたショートカットを削除します。
- 起動時に Quick Launch のショートカットを削除します。
- 起動時に [スタート] メニューのショートカットを削除します。

- 起動時に [スタート] メニューに固定されたショートカットを削除します。

ネットワークプリンター:

- 起動時にネットワークプリンターを削除します。有効にすると、エージェントは起動時にすべてのネットワークプリンターを削除します。

ネットワークドライブ:

- 起動時にネットワークドライブを削除します。有効にすると、エージェントは起動時にすべてのネットワークドライブを削除します。

UI エージェントのパーソナライゼーション

このページでは、ユーザー環境での (UI モードの) エージェントの外観をパーソナライズし、ユーザーがエージェントを操作する方法をカスタマイズできます。

外観とインタラクション

UI エージェントの外観とインタラクションをカスタマイズします。

スプラッシュスクリーンとテーマ:

- カスタムロゴ。デフォルトでは、エージェントが起動または更新されると、Citrix Workspace Environment Management ロゴが付いたスプラッシュスクリーンがユーザーに表示されます。ユーザー環境からアクセスできる画像を指定して、ロゴを置き換えることができます。
- サークルの色を読み込んでいます。カスタムロゴに合うようにローディングサークルの色を変更します。
- テキストラベルの色。ロード中のテキストの色を、カスタムロゴに合うように変更します。
- **UI** エージェントテーマ。UI エージェントから開くダイアログの外観テーマを選択します。
- エージェントのスプラッシュ画面を非表示にする。有効にすると、エージェントがロード中またはリフレッシュ中のスプラッシュ画面が非表示になります。この設定は、エージェントが初めて更新されるときには有効になりません。
- 再接続時にエージェントのスプラッシュ画面を非表示にする。有効にすると、ユーザーがエージェントマシンに再接続したときにスプラッシュ画面が非表示になります。
- 公開アプリケーションのエージェントスプラッシュ画面を非表示にする。有効にすると、エージェントが実行されている公開アプリケーションのエージェントのスプラッシュ画面が非表示になります。
- 公開アプリケーションのエージェントアイコンを非表示にします。有効にすると、公開アプリケーションにはエージェントアイコンが表示されません。

ユーザーインタラクション:

- 管理者のみがエージェントを終了できます。有効にすると、管理者だけがエージェントを終了できます。その結果、管理者以外のエンドポイントでは、エージェントメニューの [終了] オプションが無効になります。

- 管理者がエージェントをクローズすることを禁止します。有効にすると、管理者はエージェントを終了できません。
- 管理更新フィードバックを無効にします。選択した場合、管理者が管理コンソールを使用してエージェントを更新しても、ユーザー環境に通知は表示されません。
- ユーザーがアクションをリセットできるようにします。エージェントメニューに [アクションをリセット] オプションを表示するかどうかを制御します。デフォルトでは、このオプションは無効になっています。[アクションのリセット **] オプションを使用すると、現在のユーザーが自分の環境でリセットするアクションを指定できます。ユーザーが [** アクションのリセット] を選択すると、[アクションのリセット] ダイアログが表示されます。ダイアログでは、リセットする内容を細かく制御できます。ユーザーは該当するアクションを選択し、「リセット」をクリックできます。この操作を行うと、対応するアクション関連のレジストリエントリが消去されます。

注:

エージェントメニューでは、常に [更新] と [バージョン情報] の 2 つのオプションを使用できます。[**Refresh**] オプションを使用すると、WEM エージェント設定の即時更新がトリガーされます。その結果、管理コンソールで設定した設定はただちに有効になります。[**About**] オプションを選択すると、使用中のエージェントに関するバージョンの詳細を表示するダイアログが開きます。

- ユーザーがアプリケーションを管理できるようにします。有効にすると、エンドポイントのユーザーがエージェントメニューの [アプリケーションの管理] オプションを使用できます。ユーザーは、オプションをクリックして [アプリケーションの管理] ダイアログを開き、次のオプションを構成できます。デフォルトでは、このオプションは有効になっています。
- ユーザーがプリンターを管理できるようにします。有効にすると、エンドポイントのユーザーがエージェントメニューの [プリンタの管理] オプションを使用できます。このオプションをクリックすると、[プリンタの管理] ダイアログが開き、既定のプリンタを構成したり、印刷環境設定を変更できます。デフォルトでは、このオプションは有効になっています。
- エージェントメニューに [マイアプリケーション] を表示します。有効になっている場合は、エージェントメニューに [マイアプリケーション] オプションを表示します。表示されている場合、ユーザーは自分に割り当てられたアプリケーションを表示できます。

ヘルプデスクオプション

ヘルプとサポートのリンクを指定し、画面キャプチャオプションを設定します。

ヘルプとサポート

- ヘルプリンク。ユーザーが助けを求めることができる Web リンクを入力します。指定すると、ユーザーにはエージェントメニューのヘルプオプションが表示されます。クリックするとウェブサイトが開きます。

- サポートリンク。ユーザーがサポート関連情報にアクセスできる Web リンクを入力します。指定すると、ユーザーにはエージェントメニューにサポートオプションが表示されます。クリックするとウェブサイトが開きます。

スクリーンキャプチャ 画面キャプチャを有効にします。エージェントメニューに [キャプチャ] オプションを表示するかどうかを制御します。ユーザーは、オプションを使用して画面キャプチャツールを開くことができます。このツールには、次のオプションがあります。

- 新しいキャプチャ。ユーザー環境でのエラーのスクリーンショットを撮ります。
- 保存。スクリーンショットを保存します。
- サポートに送る。スクリーンショットをサポートスタッフに送信します。

[サポートに送信] オプションを表示します。スクリーンキャプチャツールで [サポートに送信] オプションを表示するかどうかを制御します。有効にすると、ユーザーはオプションを使用してスクリーンショットとログファイルを指定した形式で指定したサポート電子メールアドレスに直接送信できます。この設定には、正常に構成された電子メールクライアントが必要です。

サポートメールアドレス。電子メールアドレスを入力します。

メールテンプレート。スクリーンキャプチャツールがサポートメールの送信に使用するメールコンテンツテンプレートを指定します。このフィールドは空にできません。

注:

メールテンプレートで使用できるハッシュタグの一覧については、「[動的トークン](#)」を参照してください。メールテンプレートにコメントが含まれている場合にのみ、ユーザーにはコメントを入力するオプションが表示されます。##UserScreenCaptureComment## `hash-tag`

カスタム件名。スクリーンキャプチャツールがサポートメールの送信に使用するメール件名テンプレートを指定します。

SMTP を使用して電子メールを送信します。有効にすると、は MAPI ではなく SMTP を使用してサポート電子メールを送信します。

省電力

エージェントマシンをシャットダウンまたはサスペンドするタイミングを指定します。

- 指定した時刻にシャットダウンします。有効にすると、エージェントは指定された時間に実行中のマシンを自動的にシャットダウンします。時刻は、エージェントのタイムゾーンに基づきます。
- アイドル状態のときにシャットダウンします。有効にすると、エージェントは、マシンが指定された時間アイドル状態（ユーザー入力なし）になった後、実行中のマシンを自動的にシャットダウンします。
- シャットダウンするのではなくサスペンドする。有効にすると、エージェントは代わりに、指定された時間に、またはマシンが指定された時間アイドル状態になった後に、実行中のマシンを一時停止します。

監視環境設定

このページには以下の設定が含まれています。

- アクション処理結果。アクション処理の結果を収集し、レポートを表示できます。結果を収集したいアクションを選択します。

注:

- 結果は4時間ごとにアップロードされます。エージェントからの結果をすぐにアップロードするには、[[監視](/ja-jp/workspace-environment-management/service/manage/monitoring/administration.html#agent)]>[[管理](/ja-jp/workspace-environment-management/service/manage/monitoring/administration.html#agent)]>[エージェント]の[エージェントから統計を取得]オプションを使用します。
- グループポリシー設定
- **JSON** ファイル

このページには、インサイトに関連する次の設定が含まれています。

- 最適化と使用状況の洞察アプリケーションの動作に関するインサイトを得ることができます。次のオプションを使用して、エージェントがインサイトのためにデータを収集してアップロードするかどうかを制御します。

- データの収集とアップロードを可能にし、最適化と使用状況に関するインサイトを得る

このオプションを有効にすると、データの更新が完了するまでに数時間かかることがあります。

- コンテナのインサイトをプロファイルします。Profile Management および FSLogix 用のプロファイルコンテナに関するインサイトを得ることができます。次のオプションを使用して、Agent がプロファイルコンテナ上の大きなファイルをスキャンするかどうかを制御します。

- 大容量ファイルのスキャンを有効にする

有効にすると、コンテナの使用量が指定したしきい値を超えたときに、プロファイルコンテナ上の大きなファイルのスキャンを実行します。スキャンは24時間に1回に制限されています。どのファイルを大きなファイルとして扱うかを、そのサイズに基づいて指定できます。

- **Profile Management** ヘルスチェック。Profile Management のヘルスチェックレポートの対象となる設定の範囲を指定できます。ヘルスチェックは24時間ごとまたはオンデマンドで実行されます。レポートでカバーする Profile Management 設定を選択します。

注:

- オンデマンドでヘルスチェックを実行するには、[[監視]>[管理]>エージェント]の[Profile Management ヘルスチェックの実行]オプション
- 行った変更は新しいレポートにのみ反映され、既存のレポートには影響しません。エージェントごとに最新のレポートのみが保持されます。

- セキュリティログ。セキュリティルールの実行に関するログを収集し、レポートを生成できます。レポートに含めたいセキュリティ面を選択します。
 - 権限昇格セキュリティアスペクトは、イベントのログ収集、**EXE** 権限昇格、MSI 権限昇格 ******、****** および自己昇格を制御します。
 - プロセス階層制御のセキュリティ面を選択すると、「ブロックされたアクティビティ」オプションがデフォルトで選択されますが、「許可されたアクティビティ」オプションは編集できます。
 - アプリケーションセキュリティログのセキュリティアスペクトを選択すると、デフォルトでブロックされたアクティビティオプションがオンになりますが、「監査されたアクティビティ」と「許可されたアクティビティ ******」オプションは編集できます。

詳細については、「[レポート](#)」を参照してください。

- アプリケーション配信結果。アプリケーション配信の結果を収集し、レポートを生成できます。[アプリケーション配信タスク結果] チェックボックスをオンにすると、エージェントはレポートを収集し、レポートを WEM サーバーにアップロードします。詳細については、「[レポート](#)」を参照してください。

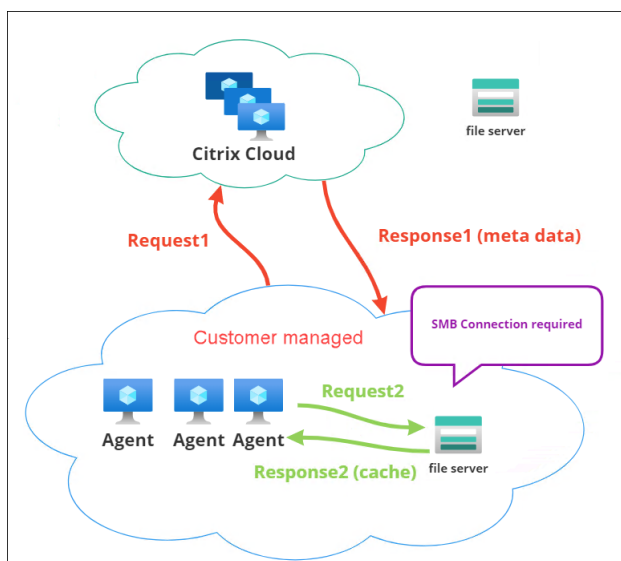
注:

- 結果は4時間ごとにアップロードされます。エージェントからの結果をすぐにアップロードするには、[\[\[監視\]\(\[ja-jp/workspace-environment-management/service/manage/monitoring/administration.html#agent\]\)>\[\[管理\]\(\[ja-jp/workspace-environment-management/service/manage/monitoring/administration.html\]\)>\[エージェント\]の\[エージェントから統計を取得\]オプションを使用します。](#)

ファイル共有

このページでは、WEM が接続できる SMB 共有を追加できます。その後、必要な機能の共有を構成して、それらの機能が必要に応じて共有を使用できるようにします。SMB 共有を使用すると、ネットワーク上のトラフィックが減少し、エージェントマシンにファイルをダウンロードする時間が短縮されます。

次の図は、ファイル共有の仕組みの概要を示しています。



ファイルのダウンロードは、特定のエージェントマシンから始まります。この初回ダウンロードは、Citrix Cloud を介して行われます。ダウンロードが完了すると、エージェントはファイルをファイル共有にアップロードし、他のエージェントが使用できるようにします。そのため、その後のダウンロードは、Citrix Cloud 経由ではなくファイル共有から直接行われます。

ファイル共有が設定されている場合、ファイルのダウンロードが必要な場合、エージェントはまずそのファイルがファイル共有で利用可能かどうかを確認します。利用可能な場合、ダウンロードはファイル共有を介して行われます。使用できない場合、エージェントは最初のダウンロードのために Citrix Cloud に接続し、ダウンロードしたファイルをファイル共有にアップロードします。

SMB 共有を追加する

SMB 共有と、その共有にアクセスする権限を持つ管理者の資格情報を入力します。次の手順を実行します：

1. [ファイル共有] ページで、[**SMB 共有の追加**] をクリックします。
2. SMB 共有の追加ウィザードで、次の情報を入力します。
 - **SMB** シェア。 **ServerName****ShareName** の形式でパスを入力します。**ServerName** は SMB 共有をホストしているサーバーの FQDN または IP アドレス、**ShareName** は SMB 共有の名前です。
 - ユーザー名。フォーム **domain****username** に名前を入力します。
 - パスワード。SMB 共有へのアクセスに使用するパスワードを入力します。
3. [完了] をクリックして保存し、終了します。

使用する機能の **SMB** 共有を選択

リストから SMB 共有を選択します。既定の設定は [なし] です。フィーチャーの共有を選択するときは、次の点を考慮してください：

- 認証情報には、共有に対する完全な読み取り/書き込み権限が必要です。
- 共有に接続するには、エージェントをローカルシステムアカウントで実行する必要があります。
- 構成すると、機能は必要に応じて共有を使用します。共有への接続は非永続的であり、必要な場合にのみ確立されます。
- 共有にアクセスできない場合、エージェントはフォールバックして Citrix Cloud 経由でファイルをダウンロードします。

アプリパッケージ配信機能の SMB 共有を変更または削除することもできます。

使用する関連サービスの **SMB** 共有を選択する

リストから 1 つ以上の SMB 共有を選択します。選択すると、展開環境のローカルシステムアカウントで実行されているサービス (Citrix Profile Management サービスなど) は、必要に応じて共有を使用できます。共有への接続は永続的です。この機能により、これらのサービスは接続を介して共有にアクセスできます。

SMB 構成例

SMB 共有の設定方法の例については、

- [Citrix Profile Management サービスが使用する SMB 共有の設定を参照してください。](#)

ディレクトリオブジェクト

October 26, 2023

このページでは、Workspace Environment Management (WEM) で管理するマシン、グループ、組織単位 (OU) などを追加できます。エージェントが管理できるように、これらのオブジェクトを WEM に追加する必要があります。オブジェクトを追加すると、追加されたマシンのリストが表示されます。WEM によって管理されるのは、ここにリストされているマシンのみです。検索ボックスを使用して、目的のオブジェクトをすばやく検索できます。フィルターを使用して検索を絞り込むこともできます。

注記:

識別名をコンピューター名に変換するには時間がかかる場合があります。変換が正しくないか失敗した場合は、

Cloud Connector のヘルスステータスを表示して正常に動作していることを確認します。問題が解決しない場合は、Citrix テクニカルサポートに連絡してください。

これらのマシン上のエージェントがインフラストラクチャサービスに登録されると、インフラストラクチャサービスは、構成セットに関連する必要なマシン依存の設定をエージェントに送信します。ユーザーエクスペリエンスを向上させるために、インフラストラクチャサービスはエージェントの構成セットに関連するデータをキャッシュします。データキャッシュにより、インフラストラクチャサービスはディレクトリからデータを取得する頻度を減らすことができます。キャッシュは 1 時間ごとに更新されます。エージェントを別の構成セットに変更すると、有効になるまでに時間がかかる場合があります。

ヒント:

これらのマシン上のエージェントがインフラストラクチャサービスに正しく登録されているかどうかを確認するには、[監視] > [管理] > [エージェント] に移動します。

次のオブジェクトを追加できます。

- マシンとグループ
- OU
- ドメインに参加していないマシン

[**Add object**] をクリックしてオブジェクトタイプを選択し、追加するオブジェクトまでディレクトリ内を移動します。あるタイプのオブジェクトを追加したら、別のタイプに切り替えて続行できます。完了したら、[**Add**] をクリックします。

マシンまたはコンピュータグループを追加する

1. [ディレクトリオブジェクト] ノードで、[オブジェクトの追加] をクリックします。
2. オブジェクトタイプリストから [コンピュータとグループ] を選択します。
3. リストからドメインを選択し、追加するコンピュータまたはコンピュータグループを検索します。

注記:

ドメインリストの有効期限が切れている場合は、更新ボタンをクリックしてドメインリストを強制的に更新できます。

1. プラス記号をクリックして追加します。追加したマシンは、検索ボックスの下の表に表示されます。
2. 追加する構成セットを選択します。
3. 完了したら、[**Add**] をクリックします。

OU にマシンを追加する

1. [ディレクトリオブジェクト] ノードで、[オブジェクトの追加] をクリックします。
2. オブジェクトタイプリストから [組織単位] を選択します。
3. リストからドメインを選択し、追加する OU を検索します。

注記:

ドメインリストの有効期限が切れている場合は、更新ボタンをクリックしてドメインリストを強制的に更新できます。

1. プラス記号をクリックして追加します。追加したオブジェクトは、検索ボックスの下のテーブルにリストされます。
2. 追加する構成セットを選択します。
3. 完了したら、[**Add**] をクリックします。

ドメインに参加していないマシンの追加

注記:

ディレクトリオブジェクトにリストされているドメインに参加していないマシンは、構成セットに追加できるマシンのリストには表示されません。

1. [ディレクトリオブジェクト] ノードで、[オブジェクトの追加] をクリックします。
2. オブジェクトタイプリストから [ドメインに参加していないマシン] を選択します。
3. 追加するマシンを検索します。
4. プラス記号をクリックして追加します。追加したマシンは、検索ボックスの下の表に表示されます。
5. 追加する構成セットを選択します。
6. 完了したら、[**Add**] をクリックします。

マシン、コンピュータグループ、または **OU** の詳細を編集する

1. 「ディレクトリオブジェクト」ノードで、編集するオブジェクトを選択し、操作バーの「編集」を選択します。
2. [オブジェクトの編集] ウィザードで、次のいずれかの詳細を編集し、[保存] をクリックします。

- **Name:** マシン、コンピュータグループ、または OU 名。
- 識別名。選択したコンピュータまたはコンピュータグループの識別名 (DN)。この名前を使用すると、異なる OU が同じ名前を持つ場合に区別できます。このセクションは、マシンカタログタイプのオブジェクトには使用できません。

- オブジェクトタイプ。オブジェクトタイプ (マシン、グループ、OU、またはドメインに参加していないマシン)。
- 説明。マシン、コンピュータグループ、または OU に関する追加情報。
- 構成セット。オブジェクトの追加先となる構成セット。
- **Priority**: 異なるマシンまたはグループ間で優先度を設定できます。優先度によって、割り当てたアクションが処理される順序が決まります。値が大きいほど、優先順位が高くなります。整数を入力します。競合が発生した場合 (たとえば、同じドライブ文字で異なるネットワークドライブをマッピングする場合)、優先度の高いマシンまたはグループが優先されます。
- オブジェクトの状態。オブジェクトを有効 (**Yes**) または無効 (**No**) にするかどうかを制御します。無効にすると、マシン、コンピュータグループ、または OU にアクションを割り当てることができなくなり、割り当てられたアクションは無効になります。または、[ディレクトリオブジェクト] ページの [状態] 列の切り替えを使用して、状態のオンとオフを切り替えることができます。

* ディレクトリから報告された読み取り専用の詳細。

注記:

マシンカタログタイプのオブジェクトでは、構成セットのみを変更できます。名前と説明を変更するには、Citrix DaaS (以前の Citrix Virtual Apps and Desktops サービス) の完全構成インターフェイスを使用します。

オブジェクトを削除する

削除するオブジェクトを選択し、アクションバーの「削除」(**Delete**) を選択します。

詳細設定

バインドされていないエージェント

どの構成セットにもバインドされていないエージェントに設定を適用するかどうかを制御します。次の設定を有効にしたら、[Unbound Agents] 構成セットに移動し、バインドされていないエージェントの動作を制御できるように、ここで設定を構成します。

- バインドされていないエージェントに設定を適用します。「Unbound Agents」設定セットの設定を、ディレクトリオブジェクトにまだ追加していないエージェントに適用できます。
 - バインドされていないドメインに参加していないエージェントを含めます。バインドされていないドメインに参加していないエージェントに設定を適用するかどうかを制御できます。

注記:

[バインドされていないエージェントに設定を適用する] を有効にすると、バインドされていないエージェントを別の構成セットに追加すると、新しい設定が適用されるまでに最大で 1 時間かかることがあります。

ドメインに参加していないエージェント

バインドされていないドメインに参加していないエージェントのバインドルールを設定します。ルールは、一致するエージェントをどの構成セットにバインドするかを決定します。各エージェントは、一致するものが見つかるまで、リストされている順序でルールに照らして評価されます。最大 50 のルールを追加できます。

ルールを作成するには、次の手順を実行します。

1. [ルールを作成] をクリックします。
2. 必要に応じて設定を行います。
 - **Name**: ルールに名前を付けてください。
 - **基準**. 1 つ以上の条件を追加します。
 - **デバイス名**. 一致するデバイス名を説明する正規表現を入力します。たとえば、照合するマシンの名前が PC-Sales-01、PC-Sales-02、PC-Sales-03 などの場合は、次の式を入力します `PC-Sales.*`。
 - **IP アドレス**. IP アドレスまたは IP アドレス範囲を入力します。照合する IP アドレスを説明する正規表現を入力することもできます。たとえば、照合するアドレスが 192.168.1.0 から 192.168.1.255 の場合は、次の式を入力します `192\.168\.1\.*`。
 - **MAC アドレス**. MAC アドレスのリストをカンマで区切って入力します。
3. 一致するマシンをバインドする構成セットを選択します。
4. 終了したら、[完了] をクリックして保存し、終了します。

監視

July 13, 2022

[**Monitoring**] ノードでは、Workspace Environment Management (WEM) 展開の監視とトラブルシューティングに使用できる情報が提供され、管理タスクを実行できます。

モニタリングノードは、次のアイテムで構成されます。

- [**管理**]. ユーザとエージェントの統計情報、および管理アクティビティを表示できます。
 - **ユーザー統計**. 展開に関するユーザー統計情報を表示します。

- エージェント。エージェント情報を表示し、キャッシュのリフレッシュ、設定のリセット、エージェント情報の取得などの管理タスクを実行できます。
- [インサイト](#)。アプリケーションの動作に関するインサイトを得ることができます。構成セットのインサイトを有効にするには、[詳細設定] > [インサイト] ページに移動し、[最適化と使用状況に関するインサイトのためにデータの収集とアップロードを有効にする] を選択します。インサイトを表示するには、構成セットと日付範囲を選択し、[適用] をクリックします。
 - 最適化インサイト。指定した期間に CPU スパイク保護とメモリ使用量の最適化を最も頻繁にトリガーした上位 10 個のアプリケーションを表示します。
 - 使用状況の洞察。使用時間 (時間) 別の上位 10 個のアプリケーション、ユーザー数による上位 10 個のアプリケーションと、指定した期間に最も多くの CPU およびメモリリソースを消費した上位 10 個のアプリケーションが表示されます。
 - プロファイルコンテナインサイト。Profile Management と FSLogix コンテナのインサイトを表示します。
- [レポート](#)。展開を分析できるレポートを提供します。各レポートはテーブルレコードとして表示されます。

管理

April 10, 2024

ユーザとエージェントの統計情報、および管理アクティビティを表示できます。

ユーザー統計

Workspace Environment Management (WEM) 展開に関するユーザー統計を表示します。ユーザがエージェントマシンにログオンするたびに、関連情報が収集され、テーブルレコードとしてここに表示されます。

このページには次の情報が含まれています。

- ユーザーサマリー。すべての構成セットについて、エージェントマシンにログオンしたすべてのユーザーの数を表示します。
- ユーザー履歴。最終接続時刻 (協定世界時、UTC)、ユーザーが最後に接続したマシンの名前、セッションエージェントの種類 (UI または CMD)、バージョンなど、すべての構成セットに関連付けられているすべてのユーザーの接続情報を表示します。

ヒント:

[Filter] を使用してリストをフィルタできます。たとえば、特定の構成セットの全ユーザー数と、指定した日付範囲内のユーザー数を表示します。

次の操作を実行できます:

- 更新。ユーザー統計の一覧を更新します。
- 期限切れのレコードを消去します。WEM サービスデータベースから期限切れのレコードを削除できます。ユーザーの最終ログオン時間が 24 時間以上前の場合、対応するレコードは期限切れになります。期限切れのレコードがない場合は使用できません。注: このオプションは、[ユーザ ID] が [ローカルシステム] のレコードには使用できません。
- レコードを削除する。WEM サービスデータベースからレコードを削除します。エージェントを 1 つだけ選択し、対応するレコードの有効期限が切れている場合に使用できます。注: このオプションは、ユーザ ID が [ローカルシステム]、[ネットワークサービス]、または [NT Authority (ローカルサービス)] のレコードには使用できません。
- [エクスポート] をクリックします。各レコードのデータを CSV または JSON 形式でエクスポートし、Microsoft Excel などのプログラムで開くことができます。そのためには、次の手順を実行します。
 1. [エクスポート] をクリックします。エクスポートウィザードが表示されます。
 2. 書き出し形式を選択します。使用可能なオプション: CSV および JSON。
 3. 必要に応じて、[エクスポートのコピーをローカルマシンに保存] を選択します。エクスポートは、ブラウザのデフォルトのダウンロード場所に保存されます。
 4. [**Export**] をクリックして、エクスポート処理を開始します。

重要:

- 最大 50,000 件のレコードをエクスポートできます。エクスポートするレコード数が制限を超えると、上位 50,000 件のみがエクスポートされます。フィルタを使用して、レコード数を 50,000 件以下に減らすことをお勧めします。
- エクスポートの実行中は、別のエクスポートを実行することはできません。
- エクスポートが 30 分以内に完了しない場合、そのエクスポートに関する通知は送信されません。後でエクスポート結果を表示するには、「ファイル」に移動します。
- ユーザー統計をエクスポートすると、エクスポートはクラウドストレージに保存されます。クラウドストレージにはストレージ制限があります。上限に達すると、エクスポートを続行できません。その場合は、[ファイル] に移動し、不要なファイルを削除して空き容量を増やします。「[ファイル](#)」を参照してください。

エージェント

このページでは、エージェント情報を表示し、キャッシュのリフレッシュ、設定のリセット、エージェント情報の取得などの管理タスクを実行できます。

統計

このタブには、WEM 展開内のエージェントに関する統計が表示されます。WEM 展開内のエージェントに関する次の統計を表示できます。

- すべての構成セットについて、ユーザーがログオンしたエージェントの総数。

ヒント:

フィルタ条件に構成セットを指定すると、その構成セットに登録されたエージェントの総数が、過去 24 時間および過去 30 日間に登録されたエージェント数とともに表示されます。

- 構成セットに登録されたすべてのエージェントの接続情報。前回の接続時刻、前回接続したマシンの名前、エージェントのバージョンなどが含まれます。
- [同期状態] 列には、エージェントキャッシュと WEM サービスの前回の同期結果に関する情報が表示されません。
 - 成功 (チェックマークアイコン)。前回の同期が成功し、同期結果が管理コンソールに報告されたことを示します。
 - 不明 (感嘆符アイコン) 同期が進行中であるか、まだ開始されていないか、結果が管理コンソールに報告されていないことを示します。
 - 失敗 (エラーアイコン)。前回の同期が失敗したことを示します。
- [最近接続した] 列には、次の情報が表示されます。
 - オンライン (チェックマークアイコン)。エージェントがオンラインであることを示します。エージェントは一定の間隔で WEM サービスに統計情報をアップロードしました。
 - 空白の列フィールドは、エージェントがオフラインであることを示します。
- **Profile Management** 正常性列には、環境内の Profile Management の正常性ステータスに関する情報が表示されます。

Profile Management の健全性ステータスは、エージェントホストで自動ステータスチェックを実行し、Profile Management が最適に構成されているかどうかを判断します。これらのチェックの結果を表示して、各エージェントマシンの出力ファイルから特定の問題を特定できます (%systemroot%\temp\UpmConfigCheckOutput.json)。機能は、毎日、または WEM エージェントホストサービスが起動するたびにステータスチェックを実行します。ステータスチェックを手動で実行するには、エージェントを選択し、アクションバーから [**Profile Management** の実行] ヘルスチェックを選択します。各ステータスチェックは、ステータスを返します。最新のステータスを表示するには、[更新] をクリックします。 **Profile**

Management の健全性列のアイコンは、ProProfile Management の正常性ステータスに関する一般的な情報を提供します。

- 良好 (チェックマークアイコン) Profile Management が良好な状態であることを示します。
- 注意 (右上隅に青い点が付いたチェックマークアイコン)。Profile Management 許容可能な状態を特定します。
- 警告 (右上隅にオレンジ色の点が付いたチェックマークアイコン)。Profile Management の最適でない状態について通知します。最適ではない状態は、展開環境での Profile Management のユーザーエクスペリエンスに影響する場合があります。このステータスは、必ずしもユーザー側でのアクションを必要としません。詳細レポートを表示するには、[詳細] の [**Profile Management** ヘルスチェックレポートの表示] オプションを使用します。
- エラー (エラーアイコン)。Profile Management が正しく構成されておらず、正しく機能していないことを示します。
- 無効 (無効アイコン)。Profile Management が見つからない、または有効になっていない場合に表示されます。

ステータスチェックに経験が反映されない場合や、発生している問題が検出されない場合は、[Citrix テクニカルサポートに連絡してください](#)。

次の操作を実行できます：

- **タスク履歴**。過去 24 時間に開始されたエージェントタスクを一覧表示します。[エージェント] ページの [タスク履歴] をクリックすると、[タスク履歴] ページに移動し、開始されたタスクの進行状況と結果を確認できます。
- **表示する列**。表示する列を選択して、テーブルをカスタマイズできます。
- **更新**。エージェントの一覧を更新します。
- **期限切れのレコードを消去**します。WEM サービスデータベースから期限切れのレコードを削除できます。ユーザーの最終ログオン時間が 24 時間以上前の場合、対応するレコードは期限切れになります。期限切れのレコードがない場合は使用できません。
- **詳細を表示**します。エージェントに関する詳細情報を表示できます。
- [**エクスポート**] をクリックします。各レコードのデータを CSV または JSON 形式でエクスポートし、Microsoft Excel などのプログラムで開くことができます。そのためには、次の手順を実行します。
 1. [**エクスポート**] をクリックします。エクスポートウィザードが表示されます。
 2. 書き出し形式を選択します。使用可能なオプション: CSV および JSON。
 3. 必要に応じて、[**エクスポートのコピーをローカルマシンに保存**] を選択します。エクスポートは、ブラウザのデフォルトのダウンロード場所に保存されます。
 4. [**Export**] をクリックして、エクスポート処理を開始します。

重要:

- 最大 50,000 件のレコードをエクスポートできます。エクスポートするレコード数が制限を超えると、上位 50,000 件のみがエクスポートされます。フィルタを使用して、レコード数を 50,000 件以下に減らすことをお勧めします。
- エクスポートの実行中は、別のエクスポートを実行することはできません。
- エクスポートが 30 分以内に完了しない場合、そのエクスポートに関する通知は送信されません。後でエクスポート結果を表示するには、「ファイル」に移動します。
- エージェント統計をエクスポートすると、エクスポートはクラウドストレージに保存されます。クラウドストレージにはストレージ制限があります。上限に達すると、エクスポートを続行できません。その場合は、[ファイル] に移動し、不要なファイルを削除して空き容量を増やします。「[ファイル](#)」を参照してください。

[その他] メニューでは次のオプションを使用できます。これらのオプションをドメインに参加していないエージェントや登録済みのエージェントに適用する場合は、次の点を考慮してください。

- エージェントはバージョン 2207.1.0.1 以降である必要があります。
- ターゲットエージェントには、これらのタスクの実行がすぐには通知されません。通知は、ターゲットエージェントまたは同じサブネット上の別のエージェントが Citrix Cloud に接続して設定を更新するときに送信されます。そのため、タスクがエージェント側で実行されるまで遅延が生じる可能性があります。同じサブネット上に存在するエージェントが多いほど、遅延は短くなります。
- 最大遅延は、**SQL** 設定の更新遅延の値の **1.5** 倍です。既定では、[**SQL** 設定の更新遅延] の値は 15 分です。「[サービスオプション](#)」を参照してください。そのため、その場合の最大遅延は 22.5 (1.5 x 15) 分です。

注:

[**More**] メニューは、選択したエージェントが 50 人以下の場合にのみ使用できます。

Agent	>	Refresh cache	ection (UTC+08:00)
Profile	>	Refresh agent host settings	22, 5:28:46 PM
Power management	>	Refresh UI-mode agent	22, 5:40:17 PM
Process Citrix Optimizer		Retrieve statistics from agent	22, 5:36:56 PM
Run scripted task			
Reset actions		onysin_Dev	Mar 22, 2022, 5:37:22 PM
Delete record		ult Site	Mar 22, 2022, 5:38:39 PM

エージェント:

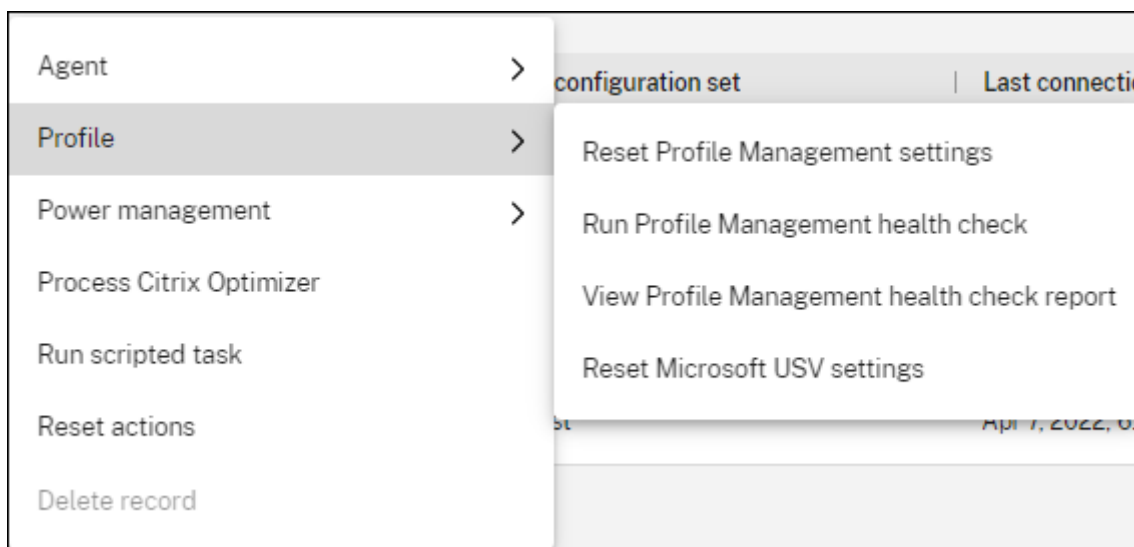
- キャッシュをリフレッシュします。ローカルエージェントキャッシュ (WEM 構成データベースのエージェント側レプリカ) の更新をトリガーします。キャッシュを更新すると、ローカルエージェントキャッシュがインフラストラクチャサービスと同期されます。
- エージェントホストの設定を更新します。ユーザー環境内のエージェントサービス設定の更新をトリガーします。これらの設定には、詳細設定、最適化、トランスフォーマー、ユーザー以外が割り当てた設定が含まれます。
- **UI** モードエージェントをリフレッシュします。ユーザーが割り当てたアクションを WEM エージェントに適用します。これらのアクションには、ネットワークドライブ、プリンタ、アプリケーションなどがあります。エージェントを更新すると、そのエージェントはインフラストラクチャサービスと通信します。インフラストラクチャサービスは、WEM データベースを使用してエージェントホスト ID を検証します。

重要:

- [**Refresh UI Mode agent**] オプションは、自動的に起動される (エンドユーザーまたはスクリプトを使用して起動されない) UI モードのエージェントでのみ機能します。このオプションは、CMD モードのエージェントでは機能しません。
- すべての設定をリフレッシュできるわけではありません。一部の設定 (環境やグループポリシーの設定など) は、起動時またはログオン時にのみ適用されます。

- エージェントから統計情報を取得します。エージェントが統計情報をインフラストラクチャサービスにアップロードできるようにします。

更新操作はエージェント側でも実行できます。ただし、これらの操作は、実際の条件によって動作が異なります。詳細については、「[エージェント側の更新操作](#)」を参照してください。



プロフィール:

- **Profile Management** の設定をリセットします。レジストリキャッシュをクリアし、関連する構成設定を更新します。Profile Management の設定がエージェントに適用されていない場合は、[**Profile**

Management 設定のリセット] をクリックします。このオプションを使用できるようにするには、[更新] をクリックする必要がある場合があります。

注:







WEM 管理コンソールから [**Profile Management** 設定のリセット] を構成した後に設定がエージェントに適用されない場合は、[CTX219086](#) で回避策を参照してください。

- **Profile Management** ヘルスチェックを実行します。ターゲットエージェントコンピュータでステータスチェックを実行し、Profile Management が最適に構成されているかどうかを判断します。このオプションを選択すると、**Profile Management** ヘルスチェックの実行ウィザードが表示されます。ヘルスチェックレポートの対象とする Profile Management 設定を選択し、「実行」をクリックします。次のことに注意してください：
 - デフォルトでは、ヘルスレポートにはすべての設定が含まれます。2205.1.0.1 より前のエージェントでは、レポートでカバーする設定の範囲に加えた変更は有効になりません。
 - ヘルスレポートが表示されるまでに時間がかかる場合があります。[レポート] で、必要に応じてビューを更新します。
 - [レポートを表示] をクリックして、レポートに直接アクセスします。

Task history ✕

Below are administrative tasks initiated in the last 24 hours. Expand each task to view details.

[Refresh](#) [Dismiss all](#)

-  **Refresh cache** ✕
Jan 19, 2024, 3:32:57 PM · 15 pending
-  **Run scripted task** [View reports](#) ✕
Jan 19, 2024, 2:47:36 PM · 3 complete, 1 failed, 2 pending
-  **Retrieve statistics from agent** ✕
Jan 19, 2024, 1:24:56 PM · 1 complete, 1 failed
-  **Run Profile Management health check** [View reports](#) ✕
Jan 19, 2024, 11:15:08 AM · 1 complete
-  **Wake** ✕
Jan 19, 2024, 10:28:31 AM · 8 complete
-  **Run scripted task** [View reports](#) ✕
Jan 19, 2024, 9:36:22 AM · 3 failed

[Close](#)

- **Profile Management** のヘルスチェックレポートを表示します。ターゲットエージェントマシンに関連する Profile Management の正常性レポートにすばやくアクセスできます。Profile Management の正常性レポートについて詳しくは、「[レポート](#)」を参照してください。
- **Microsoft USV** の設定をリセットします。レジストリキャッシュをクリアし、関連する構成設定を更新しま

す。Microsoft USV 設定がエージェントに適用されていない場合は、[**Microsoft USV** 設定のリセット] をクリックします。このオプションを使用できるようにするには、[更新] をクリックする必要がある場合があります。

電源管理:

- シャットダウン。選択したエージェントをシャットダウンできます。
- 再起動。選択したエージェントを再起動できます。
- スリープ。選択したエージェントをスリープモードにすることができます。このオプションは、ターゲットマシンがスリープモードをサポートしている場合にのみ機能します。
- 休止状態。選択したエージェントを休止モードにすることができます。このオプションは、ターゲットマシンが休止モードをサポートしている場合にのみ機能します。
- ウェイク。選択したエージェントをウェイクアップできます。オプションを使用するには、[レガシーコンソール] > [詳細設定] > [構成] > [Wake on LAN] に移動し、[エージェントの Wake on LAN を有効にする] を選択します。また、ターゲットマシンがハードウェア要件を満たし、関連する BIOS 設定が構成されていることを確認してください。詳しくは、「[Wake on LAN](#)」を参照してください。

ヒント:

- エージェントをシャットダウンまたは再起動するときに、シャットダウンまたは再起動が始まるまでの遅延（秒単位）を指定できます。指定した時間内にマシンをシャットダウンまたは再起動することを求めるプロンプトがユーザーに表示されます。シャットダウンプロンプトの例: `Your administrator has initiated the shutdown of your machine from the Workspace Environment Management console. The machine shuts down in 60 seconds..` 再起動プロンプトの例: `Your administrator has initiated the restart of your machine from the Workspace Environment Management console. The machine restarts in 60 seconds..`
- スリープと休止状態の違いを考えてみましょう。スリープモードでは、マシン上のすべてのアクションが停止し、開いているドキュメントとアプリケーションがメモリに格納されます。マシンは低電力状態になります。休止モードでは、開いているドキュメントと実行中のアプリケーションがハードディスクに保存されます。マシンは、ゼロパワーで完全にオフになります。
- ターゲットマシンがスリープモードと休止モードをサポートしていることを確認するには、マシンに移動し、次の PowerShell コマンドを実行します: `powercfg /a`.

Citrix Optimizer を処理します。Citrix Optimizer の設定に対する変更がすぐに反映されるように、設定をエージェントに適用します。

スクリプト化されたタスクを実行する。ターゲットエージェントマシンでスクリプト化されたタスクを実行できます。このオプションを選択すると、[スクリプト化されたタスクの実行] ウィザードが表示されます。次の設定を構成し、[**Run**] をクリックします。各設定の詳細については、「[スクリプト化されたタスク設定](#)」を参照してください。

注:

このオプションは、ドメインに参加していないエージェントには適用されません。

- **[タスク]**。実行するスクリプトタスクを選択します。
- スクリプト化されたタスクにパラメーターを渡します。スクリプトタスクにパラメーターを渡すかどうかを選択します。有効にすると、実行時にスクリプトタスクにパラメーター変数として入力を提供できます。
- 出力ファイル。タスクが出力するファイルを収集するかどうかを選択します。選択すると、タスクに対して生成されるレポートに出力ファイルの内容が含まれます。これにより、ユーザー環境内のファイルにアクセスしなくても、出力ファイルの内容をレポートに表示できます。
- キーワードを強調表示します。レポートで強調したいキーワードを指定します。キーワードは複数入力できます。キーワードを入力したら、**Enter** キーを押して別のキーワードを追加します。指定すると、キーワードに一致するレポートコンテンツが、生成されたレポートの [出力ファイルの内容] セクションと [コンソール出力] セクションで強調表示されます。
- 正規表現の一致を強調表示します。強調表示するコンテンツを表す正規表現を入力します。正規表現は、PCRE 互換の .NET 正規表現ライブラリ構文に準拠している必要があります。詳細については、「[スクリプト化されたタスク設定](#)」を参照してください。

配信タスクを実行します。このオプションを有効にするには、同じ構成セットにバインドされたエージェントを選択します。配信タスクをすばやく実行するには、このページから配信タスクを実行することを選択できます。「配信タスクを実行」をクリックし、ドロップダウンリストから配信タスクを選択して、選択した配信タスクをエージェント上で実行します。どのエージェントがタスクを実行する必要があるかを決定するルールをタスクに設定した場合、オンデマンドタスクを実行する特定のエージェントを選択しても、それらのルールは無視されます。

リセットアクション。該当するエージェントマシン上のアクション関連のレジストリエントリをすべて消去して、割り当てたすべてのアクションをリセットできます。

レコードを削除する。WEM サービスデータベースからレコードを削除します。エージェントがまだアクティブな場合、このオプションは使用できません。エージェントを 1 つだけ選択し、対応するレコードの有効期限が切れている場合に使用できます。

登録

このタブには、データベースに記録されているエージェントの登録ステータスが表示されます。

重要:

WEM エージェントは、設定を適用できるように WEM サービスに登録する必要があります。エージェントは 1 つの構成セットにのみバインドできます。

次の情報を表示できます。

- デバイス名。エージェントが実行されているマシンの名前。
- 登録ステータス。エージェントの登録ステータス: 登録済みまたは未登録。

- 説明。登録の成功または失敗に関する詳細情報を提供します。
 - エージェント<**agent name**>は構成セットにバインドされています <**configuration set name**>。WEM サービスが、マシンに依存する必要な設定を構成セットのエージェントに送信していることを示します。
 - エージェント<**agent name**>はどの構成セットにもバインドされていません。WEM サービスがエージェントに設定されている構成を解決できないことを示します。「バインドされていないエージェントに設定を適用」を有効にすると、「バインド解除されたエージェント」構成セットの設定がエージェントに適用されます。バインドされていないエージェントに設定を適用する方法の詳細については、「[ディレクトリオブジェクト](#)」を参照してください。
 - エージェント<**agent name**>は構成セットに複数回バインドされています <**configuration set name**>。WEM サービスがエージェントに設定を適用するのを妨げません。
 - **Citrix Endpoint Management Management** で管理するために、**WEM** サービスに登録されたエージェント<**agent name**>。Endpoint Management 対象エージェントにのみ表示されます。
 - エージェント<**agent name**>は複数の構成セットにバインドされています。エージェントが複数の構成セットにバインドされているため、WEM サービスがエージェントの構成セットを解決できないことを示します。

必要に応じて [検索] を使用して結果を絞り込みます。検索はデバイス名と説明に対してのみ実行されます。デフォルトでは、検索は未登録のエージェントのみに制限されます。制限を解除するには、[未登録のエージェントのみを表示] を有効にします。

登録エラーを解決するには、次のいずれかを実行します：

- Active Directory 階層 (コンピューター、コンピューターグループ、OU 間の関係) を編集して、エージェントが同じ構成セットに複数回バインドされないようにします。
- エージェントが 1 つの構成セットにのみバインドされるように、[ディレクトリオブジェクトの WEM 階層](#)を編集します。
- 「Unbound Agents」構成セットの設定がバインドされていないエージェント (**Directory Objects** にまだ追加していないエージェント) に適用されるように、設定をバインドされていないエージェントに適用します (まだ適用されていない場合)。

これらの変更を行った後、**UI** モードエージェントの更新オプションを使用してエージェントを更新します。

Profile Management ヘルスチェックを構成する

WEM は、Citrix Profile Management がエージェントマシンで最適に構成されているかどうかを確認できます。詳しくは、「[Profile Management ヘルスチェックの構成](#)」を参照してください。

識見

October 26, 2023

プロファイルコンテナとアプリケーションの動作に関するインサイトを得ることができます。

最適化に関する洞察

このページには、次の 2 つの棒グラフが含まれています。

- **CPU** 最適化による上位 **20** のアプリケーション指定した期間に CPU スパイク保護を最も頻繁にトリガーした上位 10 個のアプリケーションを表示します。
- メモリ最適化による上位 **20** のアプリケーション。指定した期間にメモリ使用量の最適化を最も頻繁にトリガーした上位 10 個のアプリケーションを表示します。

インサイトを表示するには、構成セットと日付範囲を選択し、[適用] をクリックします。その後、グラフが更新され、関連するインサイトが表示されます。

重要:

- 構成セットのデータをグラフに表示するには、その構成セットのインサイトを有効にする必要があります。構成セットのインサイトを有効にするには、[詳細設定] > [インサイト] ページに移動します。チャートには、以前に収集されたデータに基づくインサイトが表示されます。
- 最適化インサイトデータは、CPU またはメモリ管理を有効にするまで使用できません。

除外アプリケーション

最適化インサイト (棒グラフ) からアプリケーションを除外できます。除外するアプリケーションを指定するには、次の手順を実行します。

- [追加] をクリックします。
- 棒グラフに記載されているアプリケーションの名前を入力します。
- **Enter** キーを押して保存するか、[**Shift**] + [**Enter**] を押して保存し、別のエントリを開始します。
- ウィザードの指示に従って、追加したアプリケーションを編集および削除することもできます。

使用状況の洞察

このページには、次の 4 つの棒グラフが含まれています。

- 使用時間 (時間) 別の上位 **20** 個のアプリケーション
- ユーザー数別の上位 **20** のアプリケーション
- **CPU** 使用率 (%) 別の上位 **20** 個のアプリケーション。指定した期間に最も多くの CPU リソースを消費した上位 10 個のアプリケーションを表示します。
- メモリ使用量 (**MB**) 別の上位 **20** 個のアプリケーション指定した期間に最も多くのメモリリソースを消費した上位 10 個のアプリケーションを表示します。

インサイトを表示するには、構成セットと日付範囲を選択し、[適用] をクリックします。その後、グラフが更新され、関連するインサイトが表示されます。

重要:

チャートに構成セットのデータを表示するには、その構成セットのインサイトを有効にする必要があります。構成セットのインサイトを有効にするには、[詳細設定] > [インサイト] ページに移動します。チャートには、以前に収集されたデータに基づくインサイトが表示されます。

除外アプリケーション

使用状況分析 (棒グラフ) からアプリケーションを除外できます。除外するアプリケーションを指定するには、次の手順を実行します。

- [追加] をクリックします。
- 棒グラフに記載されているアプリケーションの名前を入力します。アプリケーションの名前を入力する場合、拡張子は含まれません。
- **Enter** キーを押して保存するか、[**Shift**] + [**Enter**] を押して保存し、別のエントリを開始します。
- ウィザードの指示に従って、追加したアプリケーションを編集および削除することもできます。

プロファイルコンテナに関するインサイト

この機能は、Profile Management および FsLogix のプロファイルコンテナを監視します。プロファイルコンテナの基本的な使用状況データ、プロファイルコンテナを使用するセッションのステータス、検出された問題などに関する洞察を提供します。

この機能を使用して、プロファイルコンテナのスペース使用状況を把握し、プロファイルコンテナの動作を妨げる問題を特定します。

まとめ

このページには 2 つのドーナツチャートが含まれています。グラフの各セグメントをクリックすると、ドリルダウンして詳細を表示できます。

- スペース使用量。左側のグラフには、指定した期間におけるプロファイルコンテナのスペース使用量が表示されます。数値は、そのカテゴリのプロファイルコンテナの数を表します。

- セッションステータス。右側のグラフには、指定した期間に確立されたセッションのプロファイルコンテナをアタッチした結果が表示されます。数値は、そのカテゴリのセッション数を表します。

インサイトを表示するには、構成セットと日付範囲を選択し、[適用] をクリックします。その後、グラフが更新され、関連するインサイトが表示されます。

次の設定を構成できます。

- 使用領域が **(GB)** を超えると、領域の使用率が高くなります。しきい値を超えると、プロファイルコンテナのスペース使用量を高い値として扱うことができます。正の整数を入力します。
- 使用領域が **(GB)** 未満の場合、領域の使用率は低くなります。しきい値を下回って、プロファイルコンテナのスペース使用量を低値として扱うことができます。正の整数を入力します。

注記:

- 上限しきい値は、下限しきい値よりも大きくする必要があります。
- 上限と下限の閾値を指定したら、「更新」をクリックして「使用済みスペース」グラフの更新をトリガーします。
- 上限しきい値および下限しきい値を指定した後、その間の領域使用量はデフォルトで [中 (**Medium**)] になります。

コンテナステータスのプロファイル

このページには、指定した期間におけるプロファイルコンテナのステータスレコードの一覧が表示されます。レコードをフィルタするには、構成セットと日付範囲を選択し、[Apply] をクリックします。必要に応じて、フィルタを使用して結果をさらに絞り込むことができます。

次の操作を実行できます。

- 表示する列。テーブルの表示をカスタマイズできます。列をカスタマイズする場合は、少なくとも 2 つの列を選択する必要があります。カスタマイズの完了後、テーブルが更新され、選択した列が表示されます。
- 更新。ステータスレコードの一覧を更新します。
- 最新のステータスを取得します。選択したレコードが属するコンテナのデータの収集をトリガします。このオプションを選択すると、ユーザーのコンテナステータスが最新の状態になります。

注記:

コンテナが使用中の場合、エージェントは関連データの収集を試みます。成功すると、コンテナの最新レコードで最新のステータスが更新されます。更新が完了するまでに時間がかかる場合があります。最新のレコードを表示するには、[Refresh] をクリックします。

[Attach status] 列には、ステータスコードとエラーコードに関する情報が表示されます。エラーコードについては、Microsoft

のドキュメントを参照してください。 <https://docs.microsoft.com/en-us/fslogix/fslogix-error-codes-reference>

[大容量ファイルスキャン] 列には、大容量ファイルスキャンの結果に関する情報が表示されます。構成セットに対して大容量ファイルのスキャンを有効にするには、[詳細設定] > [Insights] ページに移動します。レコードの大容量ファイルのスキャン結果の詳細を表示するには、該当する列フィールドの [Results] をクリックします。大容量ファイルスキャンウィザードが開き、プロファイルコンテナーで実行された大容量ファイルスキャンの結果が表示されます。100 MB 未満のファイルおよびフォルダは個別には表示されません。

レポート

January 11, 2024

展開を分析できるレポートを提供します。

はじめに

このページには、展開を分析できるレポートが表示されます。レポートはイベントごとに生成されます。ただし、すべてのイベントが対応するレポートを生成するわけではありません。現在、次のタイプのイベントがレポートを生成します。

- アプリケーションセキュリティログ
 - アプリケーションセキュリティログを有効にするたびに、対応するレコードが生成されます。これらの記録は 4 時間ごとに 1 つのレポートにまとめられます。各レポートの詳細内で、管理者はログをサブタイプ別に表示できます。この表には、使用したフィルター、イベント時間、イベントタイプ ******、****** 結果コード、****** 結果サマリー、****** 重要度、エージェントとユーザーのリスト、構成セットなどの情報が含まれています。この表には、次のサブタイプも含まれています。
 - **EXE** と **DLL**
 - **MSI** とスクリプト
 - パッケージアプリのデプロイ
 - パッケージアプリの実行

アプリケーションセキュリティログを有効にすると、**4** つの **EXE** と **DLL**、MSI とスクリプト、パッケージ型アプリケーションの展開、およびパッケージ型アプリケーションの実行サブタイプレポートを Web コンソールですべて表示できますが、各サブタイプに対応するレポートを個別に表示することはできません。この表には、[時間]、[ルール名]、[イベント ID]、[ターゲット]、[結果] の各フィールドのログが表示されます。この選択の結果は、[許可]、[監査済み]、または [ブロック] になります。

- 権限昇格とプロセス階層制御ログ

- ****** 権限昇格とプロセス階層制御ログを有効にするたびに、対応するレコードが生成されます。これらの記録は 4 時間ごとに 1 つのレポートにまとめられます。各レポートの詳細内で、管理者はログをサブタイプ別に表示できます。この表には、使用したフィルター、****** イベント時間、****** イベントタイプ、****** 結果コード、****** 結果サマリー、****** 重要度、エージェントとユーザーのリスト、構成セットなどの情報が含まれています。4 つのセキュリティ項目から選択して、詳細を表示できます。
- **EXE** 権限昇格。**EXE** 権限昇格サブタイプを選択すると、テーブルには [時間]、[プロセス]、[コマンドライン]、[ルール名]、および [結果] の各フィールドのログが表示されます。昇格の結果は、成功または失敗のどちらかになります。
- **MSI** 権限昇格。**MSI** 権限昇格サブタイプを選択すると、テーブルには [時間]、[パッケージ]、[コマンドライン]、[ルール名]、[結果] の各フィールドのログが表示されます。昇格の結果は、成功または失敗のどちらかになります。
- セルフエレベーション。自己昇格サブタイプを選択すると、テーブルには [****** 時間]、[プロセス]、[ルール名]、[理由]、[結果] の各フィールドのログが表示されます。****** 昇格の結果は、成功または失敗のどちらかになります。

注:

「失敗のみを表示」トグルを有効にすると、結果が「失敗」のレコードのみが表示され、残りは非表示になります。

- プロセス階層制御。プロセス階層制御サブタイプを選択すると、テーブルには「時間」、「子プロセス」、「親プロセス ID」、「ルール名」、および「結果」の各フィールドのログが表示されます。この選択の結果、ブロックされたアクティビティまたは許可されたアクティビティが表示されます。

注:

- 各サブタイプで少なくとも 1 つの障害が発生すると、セキュリティアスペクトタブにエラーアイコンが表示されます。
- [ブロックのみ表示] トグルを有効にすると、結果が [ブロック済み] のレコードのみが表示され、残りは非表示になります。

- アクション処理結果

- アクションが割り当てられるたびに、対応するレコードが生成されます。これらの記録は 4 時間ごとに 1 つのレポートにまとめられます。レポートには、エージェントマシンにログオンしているユーザーのすべてのアクション処理結果が含まれます。アクションタイプを選択すると、詳細を表形式で表示できます。このテーブルには、アクションの名前、アクションが割り当てられているユーザー、使用されたフィルター、処理結果 (ステータス) などの情報が含まれます。次の 3 つのステータスがあります。
 - * **適用 (処理済み)**。アクションがターゲットユーザーに正常に適用された (または正常に処理された) ことを意味します。

- ★ 時代遅れ。処理されたアクションが最新ではないことを意味します。これは、アクションが更新されてもまだ適用されていない場合に発生します。
- ★ [エラー]。アクションの適用中にエラーが発生しました。トラブルシューティングを行うには、デバッグモードを有効にしてエージェントのログを表示します。「[ログファイルの表示](#)」を参照してください。
- 現在、表示できるのはグループポリシー設定と JSON ファイル処理結果のみです。結果収集を有効にするには、「[監視設定](#)」を参照してください。
- スクリプト化されたタスク
 - タスクが実行されるたびに、対応するレポートが生成されます。レポートには、タスクの実行日時、タスクの実行結果などに関する情報が含まれます。
 - 組み込みタスクとカスタムタスクの両方でレポートが生成されます。これらのレポートには、定義済みのレポートデータがあります。カスタムタスクを追加する場合、レポートするデータをカスタマイズできます。定義済みのレポートデータがニーズに合わない場合は、拡張データを使用してさらに分析することを検討してください。
- コンテナステータスのプロファイル
 - プロファイルコンテナがアタッチされるたびに、対応するアタッチレコードが生成されます。これらの記録は、毎日 1 つのレポートに統合されます。このレポートには、プロファイルコンテナの基本的な使用状況データ、プロファイルコンテナを使用するセッションのステータス、検出された問題などに関する情報が含まれます。この情報を使用して、プロファイルコンテナのストレージ使用量を追跡し、プロファイルコンテナの動作を妨げる問題を特定できます。
- 最適化と使い方
 - [[詳細設定](#)] > [**** インサイト**] ページの構成セットで [[最適化および使用状況インサイトのためのデータ収集とアップロードを有効にする **](#)] を有効にすると、エージェントは最適化データと使用状況データを毎日収集してアップロードします。収集されたデータに基づいてレポートが生成されます。
- 最適化と使用状況に関する洞察
 - 構成セットにインサイトを適用するたびに、最適化と使用状況に関する対応するレポートが生成されます。このレポートにより、アプリケーションの動作に関する洞察を得ることができます。使用状況と最適化に関するインサイトを 1 つのレポートに集約します。

注:

[[監視](#)] ** [**** インサイト**] の [[最適化インサイト](#)] または [[使用状況インサイト](#)] ページで、構成セットと日付範囲を選択してインサイトを適用します。同じ構成セットと日付範囲を使用して適用されたインサイトのレポートは 1 つだけ保持されます。同じ構成セットと日付範囲を使用してインサイトを適用すると、後でレポートが更新されます。

- **Profile Management** ヘルスチェック

- エージェントは、Profile Management ヘルスチェックを 24 時間ごとに、またはオンデマンドで実行します。次に、対応するレポートが生成されます。レポートには、次の要素が含まれています：
 - * レポートが生成された日時
 - * 関連するエージェントや構成セットなどの詳細情報
 - * 問題 (エラーや警告など) が分かり、修正の推奨事項
- ** エラー/警告を修正し、必要な **Profile Management** 設定に到達するには、「** エージェント」ページの「統計」タブで「詳細」>「プロファイル」>「**Profile Management** ヘルスチェックレポートを表示」をクリックすると、「レポート」ページが表示されます。** 次に、「** 結果」の「**Profile Management** 設定」を選択して、「Profile Management」の「ヘルスチェック」ページの「** 詳細」タブで Profile Management** 設定を変更または更新できます。これにより、「Profile Management」設定ページが表示されます。対応する設定が強調表示されているフッターのすべてのエラー/警告を順に表示し、構成に必要な変更を加えることができます。
- Profile Management の設定を変更するには、「**Profile Management 設定**」に移動します。レポートの対象となる設定の範囲をカスタマイズするには、その構成セットの下にある [[詳細設定]> **監視設定**] に移動します。
- アプリケーション配信タスク結果イベントタイプを選択してフィルターを設定した場合、エージェントは対応するレポートのみを表示します。ただし、** アプリケーション配信タスクの結果ページには未加工データのみが表示されます **。

各レポートはテーブルレコードとして表示されます。これらのレポートは、アクションを知らせる有用な診断情報を提供します。たとえば、イベントの重大度に基づいてレポートをチェックできます。重大度に基づいて、実行するアクションを決定できます。

ヒント:

組み込みのスクリプト化されたタスクレポートなど、特定のレポートには、重大度のレベルが事前に定義されています。

スクリプト化されたタスクの場合、[**Result Code**] 列には次の情報が表示されます。

- **0:** タスクが正常に実行されたことを示します。
- **-4:** 指定した実行可能ファイルのチェックサムを検証しようとして失敗した場合に表示されます。
- **-5:** 実行可能ファイルの署名の検証に失敗した場合に表示されます。考えられる原因: 実行可能ファイルの末尾に有効な署名がない、または証明書がないために署名の検証に失敗している。
- **-8:** タイムアウトによりタスクがキャンセルされた場合に表示されます。

プロファイルコンテナステータスの結果コード (ステータスコード) については、Microsoft のドキュメントを参照してください。 <https://docs.microsoft.com/en-us/fslogix/fslogix-error-codes-reference> 注意: 「-1」は WEM がステータスコードを取得しない可能性があることを意味します。

表示する列とフィルタ

テーブルの表示はカスタマイズできます。[表示する列]をクリックして、表示する列を選択します。列をカスタマイズする場合は、少なくとも2つの列を選択する必要があります。カスタマイズの完了後、テーブルが更新され、選択した列が表示されます。

列ヘッダーをクリックして並べ替えることができます。フィルタを適用してレポートをフィルタできます。

レポートの詳細を表示する

レポートを選択すると、より詳細な情報を表示できます。そのためには、レポートを探し、右側の省略記号をクリックします。レポートウィザードが表示されます。このタブには2つのタブがあります。

- **詳細**。詳細な結果サマリーを提供します。
- **生データ**。レポートに関連する生データを提供します。拡張データはJSON形式です。必要に応じて、詳細な分析に拡張データを使用します。

正規表現の一致をハイライト表示が有効になっているスクリプトタスクでは、レポートの[**Details**]タブに次のオプションが表示されます。

- **正規表現の一致を表示します**。正規表現の一致を詳細に表示できます。

レポートのエクスポート

各レポートのデータはCSVまたはJSON形式でエクスポートできます。そのためには、次の手順を実行します。

1. [エクスポート]をクリックします。エクスポートウィザードが表示されます。
2. 次のオプションからエクスポート形式を選択します。
 - **CSV**。このオプションでは、未加工データをCSV形式でエクスポートします。
 - **CSV (フォーマット済み)**。この選択により、CSV形式の拡張データが読みやすくなります。
 - **JSON**。このオプションは、未加工データをJSON形式でエクスポートします。
 - **JSON (フォーマット済み)**。この選択により、JSON形式の拡張データが読みやすくなります。

さらに、レポートの内容が`variable = value`または`variable: value`の形式に従っている場合、フォーマットされたオプションはスクリプトタスクレポートを変数に解析できます。ただし、**CSV (フォーマット)** オプションを選択した場合、エクスポートされたデータで余分な数の列の一部が省略されることがあります。

1. 必要に応じて、[エクスポートのコピーをローカルマシンに保存]を選択します。エクスポートは、ブラウザのデフォルトのダウンロード場所に保存されます。
2. [**Export**]をクリックして、エクスポート処理を開始します。

重要:

- 最大 50,000 件のレコード (レポート) をエクスポートできます。エクスポートするレコード数が制限を超えると、上位 50,000 件のみがエクスポートされます。フィルタを使用して、レコード数を 50,000 件以下に減らすことをお勧めします。
- エクスポートの実行中は、別のエクスポートを実行することはできません。
- エクスポートが 30 分以内に完了しない場合、そのエクスポートに関する通知は送信されません。[ファイル] に移動して、エクスポート結果を後で確認します。
- レポートをエクスポートすると、エクスポートはクラウドストレージに保存されます。クラウドストレージにはストレージ制限があります。上限に達すると、エクスポートを続行できません。その場合は、[ファイル] に移動し、不要なファイルを削除して空き容量を増やします。「[ファイル](#)」を参照してください。

スクリプト化されたタスク

October 26, 2023

はじめに

ヒント:

スクリプト化されたタスクはマシンレベルで機能します。ユーザーセッションレベルでタスクを実行するには、代わりに[外部タスク](#)を使用してください。

このページでは、独自の環境管理ニーズに合わせてカスタマイズしたスクリプト化されたタスクを追加できます。その後、Workspace Environment Management (WEM) で該当する構成セットで構成することで、これらのタスクを自動化できます。

現在、次の組み込みスクリプトタスクが用意されています。

- **クラウドヘルスチェック。** 仮想配信エージェント (VDA) の正常性を測定するチェックを実行できます。VDA のヘルスチェックは、一般的な VDA 登録およびセッションの起動の問題を引き起こす原因となるものを見つけ出します。Cloud Health Check は、エージェントホストのローカルシステムアカウントで実行されます。

ヒント:

- カスタムタスクと組み込みスクリプトタスクを区別できます。カスタムタスクには「CUSTOM」ラベル、組み込みタスクには「CITRIX」ラベルが付いています。
- 組み込みのスクリプトタスクは、常にカスタムタスクの上に表示されます。カスタムスクリプトタスクは、最終更新日時に基づいて降順でソートされます。

この機能を使用すると、独自の管理ニーズに合わせて WEM の機能を拡張できます。たとえば、組み込みのスクリプトタスク Cloud Health Check を使用すると、VDA の正常性を測定できます。タスクはスクリプトベースです。独自のスクリプトファイルを記述できます。次に、WEM を使用してタスクを自動化できるように、スクリプトファイルをスクリプト化されたタスクとして WEM に追加します。

スクリプト化されたタスクが実行されるたびに、対応するレポートが生成されます。このレポートには、タスクの実行日時、タスクの実行結果などに関する情報が含まれるため、タスクに関連するアクティビティを監査できます。

スクリプト化されたタスクは、構成セットレベルで機能します。スクリプト化されたタスクを使用する一般的なワークフローは次のとおりです。

1. [スクリプト化されたタスク] ページで、スクリプト化されたタスクを追加します。
2. スクリプト化されたタスクを有効にする設定セットに移動します。
3. その構成セットの [スクリプト化されたタスクの設定] ページで、スクリプト化されたタスクを有効にします。「[スクリプト化されたタスク設定](#)」を参照してください。
4. 必要に応じて、スクリプト化されたタスクに関連するレポートを表示します。そのためには次の 2 つの方法があります。
 - [監視] > [レポート] に移動し、そこでレポートを表示します。
 - 設定セットの [スクリプト化されたタスク] または [スクリプト化されたタスクの設定] ページに移動します。スクリプト化されたタスクを探し、省略記号を選択し、[View reports] を選択します。[モニタリング] > [レポート] ページが表示され、関連するフィルタが自動的に適用されます。その後、関連レポートを表示できます。

スクリプト化されたタスクレポートについては、「[レポート](#)」を参照してください。

スクリプト化されたタスクを追加する

スクリプト化されたタスクを追加するには、次の手順を実行します。

1. [スクリプト化されたタスク] ページで、[スクリプト化されたタスクの追加] をクリックします。
2. [スクリプト化されたタスクを追加] ウィザードで、次の設定を構成し、[保存] をクリックします。
 - タスク名。タスクの名前を指定してください。
 - タグ。既存のタグから選択するか、カンマで区切ってタグを入力します。タグの長さは 20 文字以下でなければなりません。タグは、キーワードまたはラベルのようなものです。タグを使用すると、新しい方法でタスクを識別できます。また、これらはフィルターとして機能し、重要な条件に応じてスクリプトタスク内のタスクの表示を再配置できます。タグは好きなだけ使えます。
 - 説明。必要に応じて、タスクの特定に役立つ追加情報を指定します。
 - ファイルタイプ。タスクのファイルタイプを選択します。次の 2 種類のファイルがサポートされています。

- **PowerShell**. 個々の PowerShell スクリプトファイル。
- **ZIP**. 複数のファイルが 1 つの zip ファイルにまとめられています。10 MB より大きい Zip ファイルはサポートされていません。ZIP ファイルをアップロードした後、スクリプトタスクの開始時に実行するファイルを示すエントリポイントを指定します。エントリポイントファイルは、フォルダー構造の深さが 3 レベル以下である必要があることに注意してください。
- ファイルをアップロードします。[参照] をクリックし、ファイルに移動して選択し、[開く] をクリックします。スクリプトタスクの追加ウィザードに戻ります。
- 権限を付与します。スクリプト化されたタスクに付与するアクセスレベルを指定します。各オプションに関連付けられている権限について理解していることを確認します。
 - フルアクセス。[フルアクセス] が割り当てられたスクリプトタスクには、広範なローカルアクセス権があります。選択すると、スクリプト化されたタスクは、ローカルシステムアカウントで実行されているかのようにパーミッションが付与されます。
 - 制限付きアクセス (ネットワークアクセスあり) 制限付きアクセス (ネットワークアクセスあり) が割り当てられたスクリプトタスクには、広範なローカルアクセスはできませんが、ネットワークリソースにはアクセスできます。選択すると、スクリプト化されたタスクは、Network Service アカウントで実行されているかのようにパーミッションが付与されます。
 - 制限付きアクセス (ネットワークアクセスなし) 制限付きアクセス (ネットワークアクセスなし) が割り当てられたスクリプトタスクには、ローカルアクセスが拡張されず、ネットワークリソースにアクセスできません。選択すると、スクリプト化されたタスクに、ローカルサービスアカウントで実行されているかのようにパーミッションが付与されます。

For more information, see the Microsoft documentation <https://docs.microsoft.com/en-us/windows/security/identity-protection/access-control/security-identifiers#well-known-sids>.

- 作業フォルダ。必要に応じて、エンドユーザーのオペレーティングシステム上のローカルフォルダの絶対パスを入力します。作業フォルダは、ファイルが起動されたときの現在のフォルダです。環境変数 (%ProgramFiles% など) を使用してパスを作成できます。指定しない場合、PSScriptRoot が既定の作業フォルダとして使用されます。PSScriptRoot の詳細については、Microsoft のドキュメントを参照してください。 https://docs.microsoft.com/en-us/powershell/module/microsoft.powershell.core/about/about_automatic_variables?view=powershell-7.1
- このタスクは出力ファイルを生成しますか。追加したタスクが出力ファイルを生成するかどうかを選択します。
- 出力パス。ファイルが置かれているフォルダからの相対パスを入力します。パスには、ファイル名とファイル名拡張子を含める必要があります。例: `output\report.txt`

スクリプト化されたタスクを編集する

スクリプト化されたタスクを編集するには、次の手順を実行します。

1. [スクリプト化されたタスク] ページで、タスクを探します。必要に応じて、検索ボックスを使用してタスクをすばやく検索できます。
2. タスクの省略記号をクリックし、[タスクの編集] を選択します。[スクリプトタスクの編集] ウィザードが表示されます。
3. [タスク情報] タブで、必要に応じて設定を構成します。
4. [スクリプトコンテンツ] タブで、スクリプトコンテンツを表示します。
5. [保存] をクリックします。

注記:

組み込みのスクリプトタスクは編集できません。

スクリプト化されたタスクを削除する

スクリプト化されたタスクを削除するには、次の手順を実行します。

1. [スクリプト化されたタスク] ページで、タスクを探します。必要に応じて、検索ボックスを使用してタスクをすばやく検索できます。
2. タスクの省略記号をクリックし、[タスクの削除] を選択します。

重要:

- 組み込みのスクリプトタスクは削除できません。
- 一部の構成セットで現在有効になっているスクリプト化されたタスクを削除するには、まずその構成セットでそのタスクを無効にします。

スクリプトタスクを複製する

スクリプトタスクを複製するには、次の手順を実行します。

1. [スクリプト化されたタスク] ページで、タスクを探します。必要に応じて、検索ボックスまたはタグを使用してタスクをすばやく検索します。
2. タスクの省略記号をクリックし、[**Clone task**] を選択します。

注記:

タスクを複製する場合、名前が重複しないように名前を変更するように求められます。

タスク設定オプションの設定

タスク設定にすばやくアクセスするには、次の手順を実行します。

1. [スクリプト化されたタスク] ページで、タスクを探します。必要に応じて、検索ボックスまたはタグを使用してタスクをすばやく検索します。
2. タスクの省略記号をクリックし、[タスク設定の構成] を選択します。
3. 構成セットの選択ウィザードで構成セットを選択します。
4. 「実行」をクリックすると、「スクリプトタスク設定」ページでフィルターされたタスクが表示されます。選択したタスクのみが除外されます。

追加情報

スクリプトタスクの使用法の例については、以下を参照してください。

- [スクリプト化されたタスクを使用してログオン時間を分析する](#)
- [スクリプト化されたタスクを使用して Windows 更新プログラムを自動的に適用する](#)

ファイル

July 13, 2022

このページでは、クラウドストレージ上のすべてのファイルを 1 か所で管理できます。ストレージ容量の合計サイズは 10 GB です。必要に応じて、ファイルを削除して空き容量を増やします。

次のタイプのファイルは、ストレージスペースを占有します。

- [構成セットのバックアップ](#)
- [レポート](#)
- [スクリプト化されたタスク](#)

現在、ストレージにあるファイルをダウンロードして削除できます。

注:

- バックアップファイルと復元ファイルはここには表示されませんが、ストレージ領域を占有します。
- スクリプト化されたタスクに関連するファイルは削除できません。それらを削除するには、タスクを削除します。

登録

October 20, 2022

[登録] ノードには、管理する登録済みエージェントが一覧表示され、登録方法を使用してエージェントを登録できます。

登録方法は、Workspace Environment Management (WEM) エージェントを WEM サービスに接続するために使用できる [3つのセットアップ方法](#) の 1 つです。詳細については、「[エージェントの登録](#)」を参照してください。

「登録」ノードは、次のアイテムで構成されています。

- [登録エージェント](#)。登録されているすべてのエージェントを一覧表示します。必要に応じて管理できます。
- [招待](#)。登録招待状をユーザーに送信できます。各招待状には、招待コードと登録を完了するために必要な手順が含まれています。

登録エージェント

October 20, 2022

登録されているすべての Workspace Environment Management (WEM) エージェントを一覧表示します。必要に応じて管理できます。

はじめに

エージェントが登録されると、管理対象になります。[ディレクトリオブジェクト](#)では、必要に応じて構成セットにバインドできます。登録の詳細については、「[エージェントの登録](#)」を参照してください。

エージェントを登録するには、次の 2 つの方法があります。

- 招待状で登録する。これには Web コンソールが必要です。ユーザーは、登録プロセスに参加するよう招待できます。
- ベアラートークンまたは API セキュアクライアントで登録します。これにはウェブコンソールが不要で、ユーザーが登録プロセスに参加する必要もありません。詳細については、「[ベアラートークンまたは API セキュアクライアントで登録する](#)」を参照してください。

このページでは、次の操作を実行できます。

- [更新](#)。登録済みエージェントのリストを更新します。
- [登録解除](#)。エージェントを登録解除します。
- [関連付けられているユーザーを編集](#)します。関連付けを変更するか、関連付けられているユーザーを削除します。
- [無効なエージェントを削除](#)してください。無効な登録を持つエージェントを削除します。

エージェントの登録を解除する

一度に複数のエージェントを登録解除できます。エージェントの登録を解除すると、その登録が無効になり、WEM から削除されます。

エージェントの登録を解除するには、次の手順に従います。

1. **【登録】** > **【登録済みエージェント】** で、エージェントを選択します。
2. アクションバーで、**【登録解除】** を選択します。

関連付けられているユーザーを編集します

登録されると、ドメインに参加していないデバイスは、招待されたユーザーに自動的に関連付けられます。ユーザーをドメインに参加していないマシンに関連付けると、WEM はログオン時にユーザーに設定を適用できます。

デバイスの関連付けを変更するには、次の手順に従います。

1. **【登録】** > **【登録済みエージェント】** で、エージェントを選択します。
2. アクションバーで、**【関連付けられたユーザーの編集】** を選択します。**【関連ユーザーの編集】** ウィザードが表示されます。
3. ID プロバイダを選択します。
4. 追加するユーザーのドメインを選択します。
5. **【ユーザーの選択】** ボックスに、追加するユーザーの名前を入力します。
6. 終了したら、**【保存】** をクリックします。

デバイスの関連ユーザーを削除するには、次の手順に従います。

1. **【登録】** > **【登録済みエージェント】** で、エージェントを選択します。
2. アクションバーで、**【関連付けられたユーザーの編集】** を選択します。**【関連ユーザーの編集】** ウィザードが表示されます。
3. **【関連付けられているユーザーを削除】** を選択します。

無効なエージェントを削除する

登録されたエージェントが 270 日間非アクティブだった場合、その登録は無効になります。WEM によって管理されなくなります。**【無効なエージェントを削除】** ボタンは、無効なエージェントが存在する場合にのみ表示されます。

招待

October 20, 2022

登録招待状をユーザーに送信できます。各招待状には、招待コードと登録を完了するために必要な手順が含まれています。

はじめに

Workspace Environment Management (WEM) エージェントの登録方法を柔軟に決定できます。次の 2 つの方法があります。

- 招待状で登録する。これには Web コンソールが必要です。ユーザーは、登録プロセスに参加するよう招待できます。
- ベアラートークンまたは API セキュアクライアントで登録します。これにはウェブコンソールが不要で、ユーザーが登録プロセスに参加する必要もありません。詳細については、「[ベアラートークンまたは API セキュアクライアントで登録する](#)」を参照してください。

招待状で登録する一般的なワークフローは次のとおりです。

1. [**** 管理**] > [**Web コンソール**] > [**登録**] > [**招待**] で、[**招待状で登録**] を有効にし、[**生成**] をクリックして登録キーを生成します。 **
2. エージェントマシンで、登録ツールを使用して登録キーをインストールします。
 - a) 管理者としてコマンドプロンプトを開きます。
 - b) 次のコマンドを実行します。(<enrollment key> を実際のキーに置き換えてください。)
 - `Citrix.Wem.Agent.EnrollmentUtility.exe configenrollmentkey -k <enrollment key>`

ヒント:

登録ツールである **Citrix.Wem.Agent.EnrollmentUtility.exe** は、エージェントのインストールフォルダにあります。詳細については、「[登録ツール](#)」を参照してください。
3. [**管理**] > [**Web コンソール**] > [**登録**] > [**招待**] で、招待状を作成するか、登録招待状をユーザーに送信します。
4. 必要に応じて以下のステップを実行します。
 - WEM 経由で登録招待状を送信しない場合は、招待状を作成してから、次のいずれかを実行します。
 - エージェントに行き、招待コードで登録します。
 - 招待コードをユーザーと共有します。次に、ユーザーはエージェントにログオンし、招待コードを使用してエージェントを登録します。

- WEM を介して登録招待状を送信する場合、ユーザー側でこれ以上のアクションは必要ありません。ユーザーは招待メールを受信すると、招待コードを使用してエージェントを登録できます。

招待コードを使用してエージェントを登録する方法については、「[招待コードを使用してエージェントを登録する](#)」を参照してください。

エージェントが登録されると、そのエージェントは管理対象となり、[登録] > [登録済みエージェント] に表示されます。これを必要な構成セットに追加して、正確な管理を行うことができます。詳細については、「[登録済みエージェントを管理する](#)」を参照してください。

招待状で登録する

招待ベースの登録を開くかどうかを制御します。

有効にすると、登録キーを生成して招待状を送信できます。無効にすると、エージェントは招待状を使用して登録できません。

登録キー

登録キーを生成できます。次に、エージェントのインストールフォルダーにある登録ツール **Citrix.Wem.Agent.EnrollmentUtility.exe** を使用して、エージェントにキーをインストールします。キーがないと、エージェントは招待状を使用して登録できません。

生成された鍵は 180 日で期限切れになります。キーを生成したら、次の操作を実行できます。

- [コピー]。キーをクリップボードにコピーします。
- ダウンロード。キーを含む.txt ファイルをダウンロードします。
- 再生成。キーを再生成します。

重要:

キーを再生成すると、現在のキーが自動的に無効になります。登録されていないエージェントについては、招待状を送信する前に有効なキーがインストールされていることを確認してください。

登録招待

すべての招待状を一覧表示します。次の操作を実行できます。

- 招待状を作成する
- ユーザーを招待する
- リストを更新する

- 招待状の詳細を表示する
- 招待メールを再送信する
- 招待を削除する
- 期限切れの招待状をクリアする

招待状を作成する

招待状を作成するには、招待コードを生成します。このコードは最大 5 台のデバイスの登録をサポートし、48 時間後に有効期限が切れます。

このコードでは、必要に応じて次のことができます。

- コードを自分で使ってください。エージェントに行き、コードで登録します。
- コードをユーザーと共有します。次に、ユーザーはエージェントにログオンし、コードを使用して登録します。

重要:

WEM は、招待コードに関連付けられたアクティビティをコードごとに監査します。たとえば、登録を行うのは誰か、登録が行われるタイミング、どのデバイスが登録されているかなどです。そのため、同じコードを複数のユーザーと共有しないことをお勧めします。

招待状を作成するには、次の手順を実行します。

1. アクションバーで、[招待状を作成] を選択します。招待状の作成ウィザードが表示されます。
2. [コードを生成] を選択します。
3. コードが生成されたら、[クリップボードにコピー] を選択します。

ユーザーを招待する

登録招待状をユーザーに送信できます。各招待状には、招待コードと登録を完了するために必要な手順が含まれています。

ユーザーを招待するときは、次の点を考慮してください。

- 最大 100 人のユーザーを招待できます。
- 招待コードは、ユーザーごとに作成されます。このコードは最大 5 台のデバイスの登録をサポートし、48 時間後に有効期限が切れます。
- 登録されたメールアドレスを持つユーザーには、招待コードがメールで届きます。電子メールアドレスを登録していないユーザーは、他の方法で招待コードを共有できます。

- エージェントを登録するには、ローカル管理者権限が必要です。登録されると、ドメインに参加していないデバイスは、招待されたユーザーに自動的に関連付けられます。

ユーザーを招待するには、次の手順を実行します。


1. アクションバーで、[ユーザーを招待] を選択します。[ユーザーの招待] ウィザードが表示されます。
2. ID プロバイダを選択します。
3. 追加するユーザーのドメインを選択します。必要に応じて、[ユーザー] と [セキュリティグループ] を選択します。
4. [選択] ボックスに、招待するユーザーまたはグループの名前を入力します。

注:

検索では上位 50 件の結果のみが返されます。必要に応じて検索を絞り込みます。

5. リストから必要なユーザーまたはユーザーグループを選択します。選択したユーザーとユーザーグループが [検索] の下に表示されます。
6. 完了したら、[招待] をクリックして招待状を送信します。

ユーザーには次の招待メールが届きます。



Enroll your device into the Workspace Environment Management service

Hello,

Your administrator is inviting you to enroll your device into the Workspace Environment Management service.

To do that, open your desktop Start menu and select **Citrix > WEM Enrollment Registration Utility**.

Then, enroll with the following invitation code:

You can use the code to enroll up to 5 devices. The code expires after Friday, 17 June 2022 08:53:53 AM (UTC).

For guidance on how to use the utility, see [Enroll the agent with an invitation code](#).

Best regards,

Workspace Environment Management Service Team

© 2022 Citrix Systems, Inc. All rights reserved. [Privacy and terms](#)

登録ツールを使用してユーザーのエージェントに登録キーをインストールした場合、ユーザー側でこれ以上の操作は必要ありません。ユーザーは招待コードを使用して登録を完了する必要があります。

招待状の詳細を表示する

招待の詳細を表示するには、招待を選択し、アクションバーの [詳細の表示] を選択します。[詳細の表示] ウィンドウが表示され、次の情報が表示されます。

- 招待コード
- 招待状が作成された時刻
- 有効期限
- 受信者—招待メールを受け取った人
- 受取人の表示名
- 受取人のメールアドレス
- 配送状況

設定可能な値:

- 配信済み。招待メールがユーザーに正常に配信されたことを示します。
- 失敗。招待メールの送信に失敗したことを示します。
- 保留中。招待メールがまだ配信されていないことを示します。

招待メールを再送信する

招待を再送信するには、招待を選択し、アクションバーの [電子メールの再送信] を選択します。

このアクションは、招待コードの有効期限を延長しません。

招待を削除する

招待を削除するには、招待を選択し、アクションバーの [削除] を選択します。複数の招待状を一度に削除できます。

招待を削除すると、ユーザーに送信または共有された招待コードが無効になります。その結果、これらのユーザーはコードを使用してエージェントを登録できません。

期限切れの招待状をクリアする

期限切れの招待状をすべて削除するには、アクションバーで [期限切れの招待をクリア] を選択します。[期限切れの招待をクリア] ボタンは、期限切れの招待がある場合にのみ表示されます。

ドメインに参加していないマシンを管理する

August 30, 2022

Workspace Environment Management (WEM) を使用して、[Citrix DaaS Standard for Azure](#) (以前の Citrix Virtual Apps and Desktops Standard for Azure) 展開で、ドメインに参加していないマシンを管理できます。

この機能を使用すると、ドメインに参加していないマシンの場合と同様に、ドメインに参加していないマシンにポリシーや設定を割り当てることができます。

ドメインに参加していないマシンの管理を始めるための一般的なワークフローは、次のとおりです。

1. Azure で、Citrix VDA と WEM エージェントを含むマスターイメージを準備します。
2. そのイメージを Azure からインポートして、カタログの作成に使用します。詳しくは、「[マスターイメージ](#)」を参照してください。

重要:

- この機能を使用するには、WEM エージェントバージョン 2103.2.0.1 以降を使用する必要があります。WEM サービスの [ユーティリティ] タブから WEM エージェントをダウンロードします。
- この機能を動作させるには、エージェントのインストール時に [設定をスキップ] を選択する必要があります。
- 設計上、イメージの作成に使用される仮想マシンで実行されているエージェントは WEM サービスに接続できません。

3. Citrix DaaS Standard for Azure で、ドメインに参加していないカタログを作成します。詳しくは、「[カタログの作成](#)」を参照してください。
4. レガシーコンソールで、ドメインに参加していないマシンを WEM 構成セットに追加します。
 - a) [管理コンソール] > [Active Directory オブジェクト] > [マシン] タブに移動し、[オブジェクトの追加] の横にある下矢印をクリックし、[ドメインに参加していないコンピューターの追加] を選択します。
 - b) [ドメインに参加していないコンピューターの追加] ウィンドウで、構成セットに追加する 1 台以上のドメインに参加していないマシンを選択します。この一覧には、構成セットにまだ追加されていない、ドメインに参加していないマシンのみが表示されます。
 - c) [追加] をクリックして選択したマシンを追加し、[ドメインに参加していないコンピューターの追加] ウィンドウを終了します。
5. 必要に応じて、これらのマシンが WEM サービスに登録されていることを確認します。そのためには、[管理コンソール] > [管理] > [エージェント] > [統計] タブに移動し、追加したマシンをダブルクリックして、[エージェント情報] ウィンドウで登録情報を確認します。

重要:

ドメインに参加していないエージェントマシンは WEM サービスに自動的に登録され、既定の構成セットに追加されます。

ドメインに参加していないマシンを WEM サービスに追加すると、ドメインに参加しているマシンの場合と同様に、それらのマシンにポリシーと設定を割り当てることができます。ただし、ドメインに参加していないマシンの場合にポリシーと設定を割り当てると、[全員] 割り当てオプションしか使用できません。

基本導入エージェントの管理

May 28, 2024

Workspace Environment Management (WEM) を使用して基本的なデプロイメントエージェントを管理できます。この機能は、WEM を軽量にデプロイする方法を提供します。このデプロイ方法を使用すると、ブローカー、データベース、コンソールなどのバックエンドコンポーネントをデプロイしなくても、WEM の基本機能を簡単に利用できます。

基本的なデプロイメントエージェント設定の構成

WEM エージェントが基本モードの場合、一部の最適化機能がデフォルトで有効になっています。これらの設定は、定義済みのエージェントキャッシュファイルに保存されます。

- VDA マシンの CPU スパイク保護は自動的にオンになります。この設定では、CPU 使用率が高いプロセスの優先度が下がり、ユーザーエクスペリエンスへの影響を最小限に抑えることができます：
 - CPU スパイク保護
 - CPU スパイクを自動的に防止
 - インテリジェントな CPU 最適化を有効にする
- 基本デプロイメントエージェントの設定をカスタマイズします。詳しくは、「[グループポリシーの設定](#)」を参照してください。基本モードで使用できる設定は次のとおりです：

プロパティ	種類	設定	デフォルト	例	注
enableCpuSpikeProtection	ブール型	CPU スパイク保護を有効にする	true	true	CPU スパイク保護設定
enableCpuAutoProtection	ブール型	CPU スパイクを自動的に防止	true	true	

プロパティ	種類	設定	デフォルト	例	注
cpuUsageLimitOfSpikeProtection	数値	CPU 使用量の上 限 (%)	70.0	70.0	
enablePerCoreCpuUsageLimit	ブール値	1 つの CPU コア を基準にして制 限を設定	false	false	
perCoreCpuUsageLimitOfSpikeProtection	数値	1 つの CPU コアに対する CPU 使用量の上 限 (%)	80.0	80.0	
cpuUsageLimitSpikeProtection	数値	スイク保護 時間制 限 (秒)	30	30	
idlePriorityTimeOfSpikeProtection	数値	アイドル優先時 間 (秒)	180	180	
enableLimitCpuCoreUsage	ブール値	CPU コア使用制 限を有効にする	false	false	
cpuCoreLimitOfSpikeProtection	数値	CPU コア使用量 の上限	1	1	
enableIntelligentCpuOptimization	ブール値	インテリジェン トな CPU 最適 化を有効にする	true	true	
enableIntelligentI/OOptimization	ブール値	インテリジェン トな I/O 最適化 を有効にする	false	false	
excludeProcessesFromCpuSpikeProtection	ブール値	スイク保 護からプロセス を除外	false	false	
processesExcludedFromCpuSpikeProtection	文字列の配列	除外するプロセス名	[]	[<code>devenv</code> , <code>msbuild</code>]	
disableProcessPriorityInheritance	ブール値	子プロセスが CPU 優先度を継 承しないように する	false	false	
parentProcessesToExcludePriorityInheritance	文字列の配列	除外するプロセス名	[]	[<code>devenv</code> , <code>msbuild</code>]	

プロパティ	種類	設定	デフォルト	例	注
enableMemoryWorkingSetOptimization	ブール型	アイドル状態のプロセスのメモリ使用量を最適化する	true	true	メモリ最適化設定
idleSampleTimeOfMemoryWorkingSetOptimization	整数	アイドル時間 (分)	30	30	
idleStateLimitOfMemoryWorkingSetOptimization	整数	アイドル制限 (%)	1	1	
enableMemoryOptimizationThreshold	ブール型	最適化を制限する	true	true	
memoryOptimizationThreshold	整数	使用可能なメモリの合計が (MB) 未満の場合のみ最適化する	200	200	
excludeProcessesFromMemoryWorkingSetOptimization	ブール型	使用量の最適化からプロセスを除外	false	false	
processesExcludedFromMemoryWorkingSetOptimization	配列	除外されるプロセス	[]	[devenv, msbuild]	
enableFastLogoff	ブール型	高速ログオフを有効にする	true	true	高速ログオフ設定
enableMultiSessionOptimization	ブール型	マルチセッション最適化を有効にする	true	true	マルチセッション最適化
excludeProcessesFromMultiSessionOptimization	ブール型	マルチセッション最適化からプロセスを除外	false	false	
processesExcludedFromMultiSessionOptimization	配列	除外されるプロセス	[]	[devenv, msbuild]	
agentServiceDebugModeEnabled	ブール型	エージェントサービスデバッグモードを有効にする	false	false	詳細設定 > エージェント設定 > エージェントサービスオプション

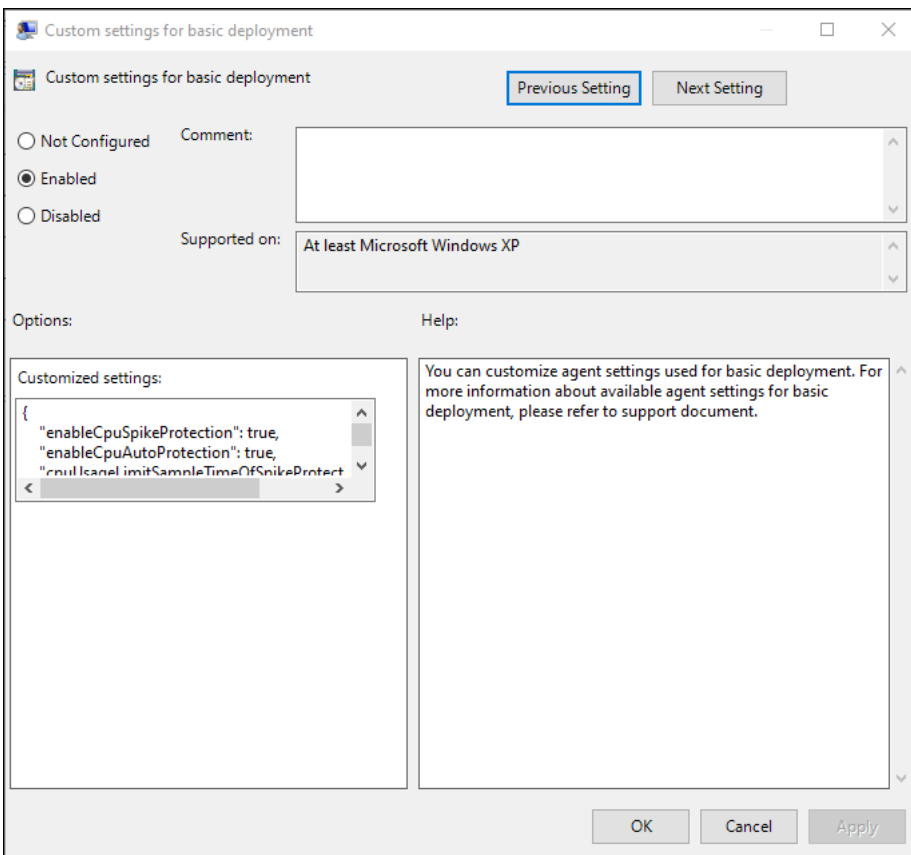
プロパティ	種類	設定	デフォルト	例	注
enableLogonDurationAnalysis	ブール値	ログオン時間分析を有効にする	true	true	ログオン時間分析
useAlternativeLocalReportingLocation	ブール値	別の場所を使用してローカルエージェントレポートを保存する	false	false	
alternativeLocalReportingLocation	文字列	ローカルエージェントレポートを保存する代替場所	%PROGRAMDATA%\Citrix\WEM\LocalAgentReports	D:\WEMLocalAgentReports	
localReportMaxDays	整数	ローカルエージェントのレポートを保存できる最大日数	7	7	
localReportMaxFilesPerEvent	整数	保存するローカルエージェントレポートの最大数	30	30	
saveLogonDurationAnalysisToLocal	ブール値	ログオン時間分析レポートをローカルエージェントレポートとして保存	true	true	
saveUpmHealthCheckToLocal	ブール値	UPM ヘルスチェックレポートをローカルエージェントレポートとして保存	true	true	
saveProfileContainerInsightsToLocal	ブール値	プロファイルコンテナインサイトレポートをローカルエージェントレポートとして保存	true	true	

注:

カスタム設定が設定されていないか無効な場合、WEM エージェントはデフォルト設定を使用します。

JSON 形式の文字列を指定して、基本デプロイエージェントの設定をカスタマイズできます。例:

```
1 {
2
3     "enableCpuSpikeProtection": true,
4     "enableCpuAutoProtection": true,
5     "enableIntelligentCpuOptimization": true,
6 }
7
8 <!--NeedCopy-->
```



エージェントの展開の種類の切り替え

展開の種類を切り替えるには、次のいずれかの方法を選択します。

- エージェントグループポリシーを利用して、エージェントを別の展開の種類に切り替えます。詳しくは、「[グループポリシーの設定](#)」を参照してください。
- WEM ヘルステックツールを使用して、別の展開の種類に切り替えます。

WEM ログオン期間機能の使用

WEM ログオン期間機能を使用する利点は次のとおりです：

- WEM エージェントはログオン時間を分析し、エージェントマシンにログインすると自動的にレポートを生成します。
- WEM Tool Hub を使用して、エージェントが生成したレポートを確認できます。

ファイルのアップロード

June 20, 2022

注：

この記事は、レガシーコンソールを使用する場合のファイルのアップロードに適用されます。

「アップロード」(Upload) を使用して、インポートまたは Workspace Environment Management 管理コンソールに追加するファイルをアップロードできます。[アップロード] オプションは、WEM サービスの [管理] タブのメニューにあります。

この機能は、次のような場合に便利です。

- 復元ウィザードを使用して、WEM 設定を WEM サービスに復元します。これらの設定には、次のものがあります。
 - セキュリティの設定
 - AD オブジェクト
 - 構成セット

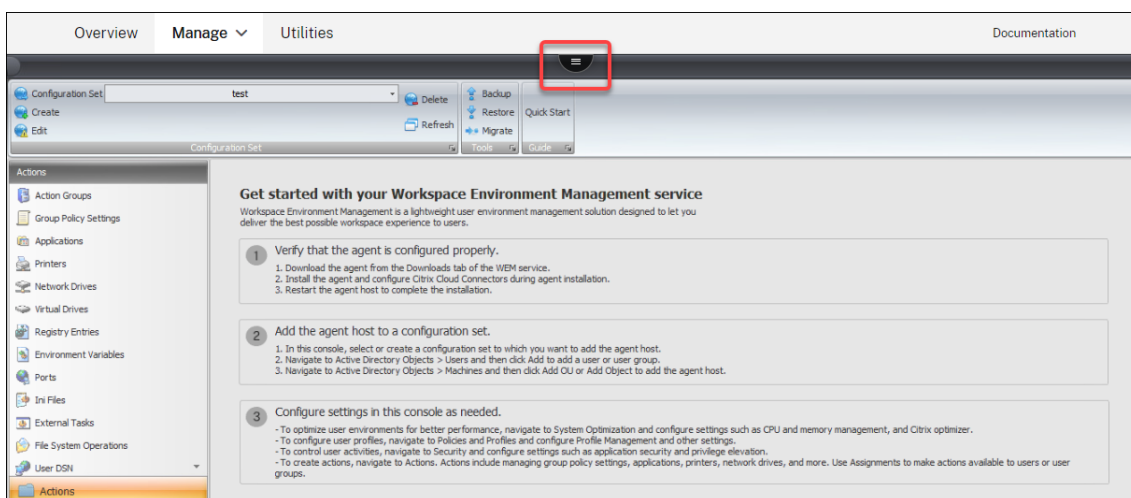
詳細については、「[リボン](#)」を参照してください。

- 移行ウィザードを使用して、グループポリシーオブジェクト (GPO) の zip バックアップを WEM サービスに移行します。詳細については、「[リボン](#)」を参照してください。
- レジストリファイルをインポートします。詳細については、「[レジストリエントリ](#)」を参照してください。
- アプリケーションのカスタムアイコンを追加します。詳細については、「[アプリケーション](#)」を参照してください。

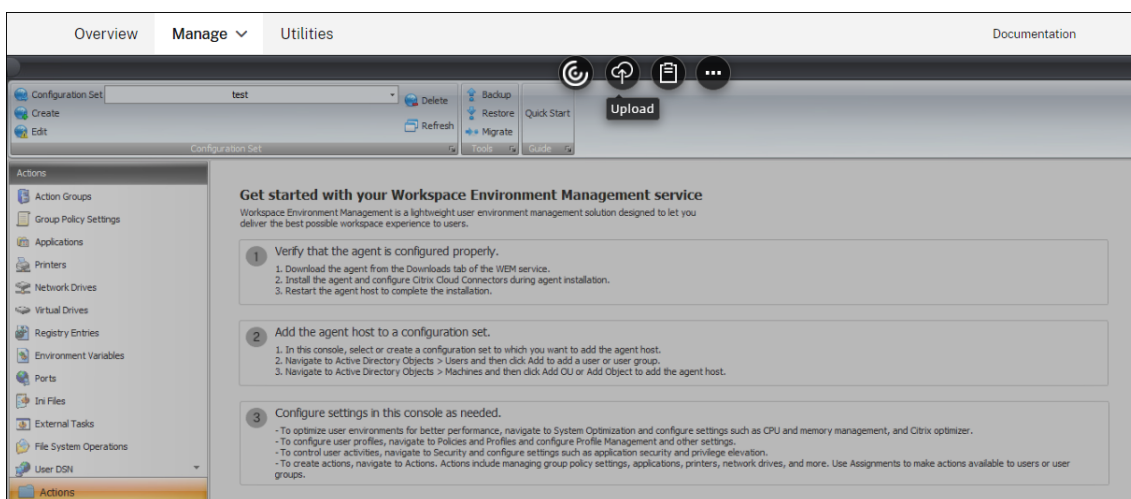
アップロードしたファイルは、Citrix Cloud のデフォルトフォルダ (`DefaultUploadFolder`) に保存されます。

ファイルをアップロードするには、以下の手順を実行します。

1. [管理] > [レガシーコンソール] で、ハンバーガーメニューにカーソルを合わせ、Citrix Workspace アプリのアイコンをクリックします。



2. [アップロード] をクリックして、Citrix Cloud のデフォルトのフォルダにファイルをアップロードします。



この機能を使用してファイルをアップロードする場合は、次の制限事項に留意してください。

- ファイル数の制限。この機能では、一度に複数のファイルをアップロードできます。デフォルトでは、アカウントごとに最大 10 個のファイルを保存できます。アップロードされたファイルは、先着順に処理されます。
- ファイルサイズの制限。デフォルトでは、サイズが 5 MB 未満のファイルのみをアップロードできます。
- ファイルの同期間隔。既定では、この機能は 30 分ごとにアップロードされたファイルを Azure ストレージに同期します。

デフォルトを変更する場合は、Citrix テクニカルサポートにお問い合わせください。

アップグレード後に初めて管理コンソールにアップロードされたファイルを追加または復元しようとする、使用できないことがあります。この問題は、コンソールを初めて使用するときにも発生する可能性があります。考えられる原因:

- これらのファイルは、Azure ストレージからまだダウンロードされていません。管理コンソールへのダウンロードが完了するまでに時間がかかる場合があります。管理コンソールを終了し、後でもう一度試してください。
- これらのファイルのダウンロード中にエラーが発生することがあります。問題が解決されない場合は、Citrix のテクニカルサポートにお問い合わせください。

REST API

April 8, 2021

Workspace Environment Management (WEM) サービスの REST API を使用すると、WEM デプロイメント内のリソースの管理を自動化できます。

API サービスでは、サービスを呼び出すために WEM 管理コンソールにサインインする必要はありません。

現在、次の API カテゴリがサポートされています。

- マシン **AD** オブジェクト **API**: WEM デプロイメント内のマシンレベルの AD オブジェクトを管理するための一連の API。
- サイト **API**: WEM デプロイメント内の構成セットを管理するための一連の API。
- システム最適化 **API**: WEM 展開内の Windows デバイスのリソース (CPU、メモリ、I/O など) を管理および最適化するための一連の API。
- ユーザー **AD** オブジェクト **API**: WEM デプロイメント内のユーザーレベルの AD オブジェクトを管理するための API のセット。

WEM サービス API は、<https://developer.cloud.com/citrixworkspace/workspace-environment-management/docs/overview>で入手できます。API サービスへのアクセスを設定し、これらの API を使用してリソースを管理および最適化するために必要なものがすべて含まれています。

割り当てられたアプリケーションを **1** か所に集約

February 13, 2023

管理者は、ユーザーに割り当てたすべてのアプリケーションを 1 か所に集約して、すばやく簡単に起動できます。また、ユーザーは追加の手順を実行するよりも、ブックマークしたウェブサイト直接向くことを好むかもしれません。最初にブラウザを開いてから、ウェブサイトへアクセスします。

Workspace Environment Management (WEM) は、ユーザーが割り当てられたアプリケーションを 1 か所で起動し、ブラウザー (割り当てられている場合) を使用してブックマークされた Web サイトを直接向くことができるア

アプリケーションランチャーツールを提供します。ツールの詳細については、「[アプリケーションランチャー](#)」を参照してください。

このツールを使用する一般的なワークフローは次のとおりです。

1. 管理者として、管理コンソールからアプリケーションをターゲットユーザーまたはユーザーグループに割り当てます。
2. ユーザーはエージェントマシンにログオンし、ツールを使用してアプリケーションを起動します。

前提条件

このツールを使用する前に、次の点に留意してください。

- 割り当てられたアプリケーションがエージェントマシンに存在することを確認します。エージェントマシンに存在するアプリケーションのみが、アプリケーションランチャーウィンドウに表示されます。
- この機能は Google Chrome と Microsoft Edge のみをサポートします。ブラウザのブックマーク機能を動作させるには、エージェントマシンに Google Chrome または Microsoft Edge が存在することを確認します。

推奨

このツールは WEM の一部として独立して実行できます。最適なユーザーエクスペリエンスを得るには、次の操作を行うことをお勧めします。

- ツールを **Citrix Virtual Apps** として公開します。Citrix Workspace で公開アプリとして使用すると、割り当てられたアプリケーションをすばやく起動し、ユーザーがブックマークした Web サイトを簡単に開くことができます。他の方法で使用すると、ブラウザのブックマーク機能は動作しません。
- このツールを **Citrix Profile Management** とともに使用します。アプリケーションランチャーを使用すると、ユーザーは割り当てられたアプリケーションをお気に入りとしてマークできます。[Profile Management](#) と併用すると、ログインしているマシンに関係なく、ユーザーのお気に入りとブラウザのブックマークをローミングできます。

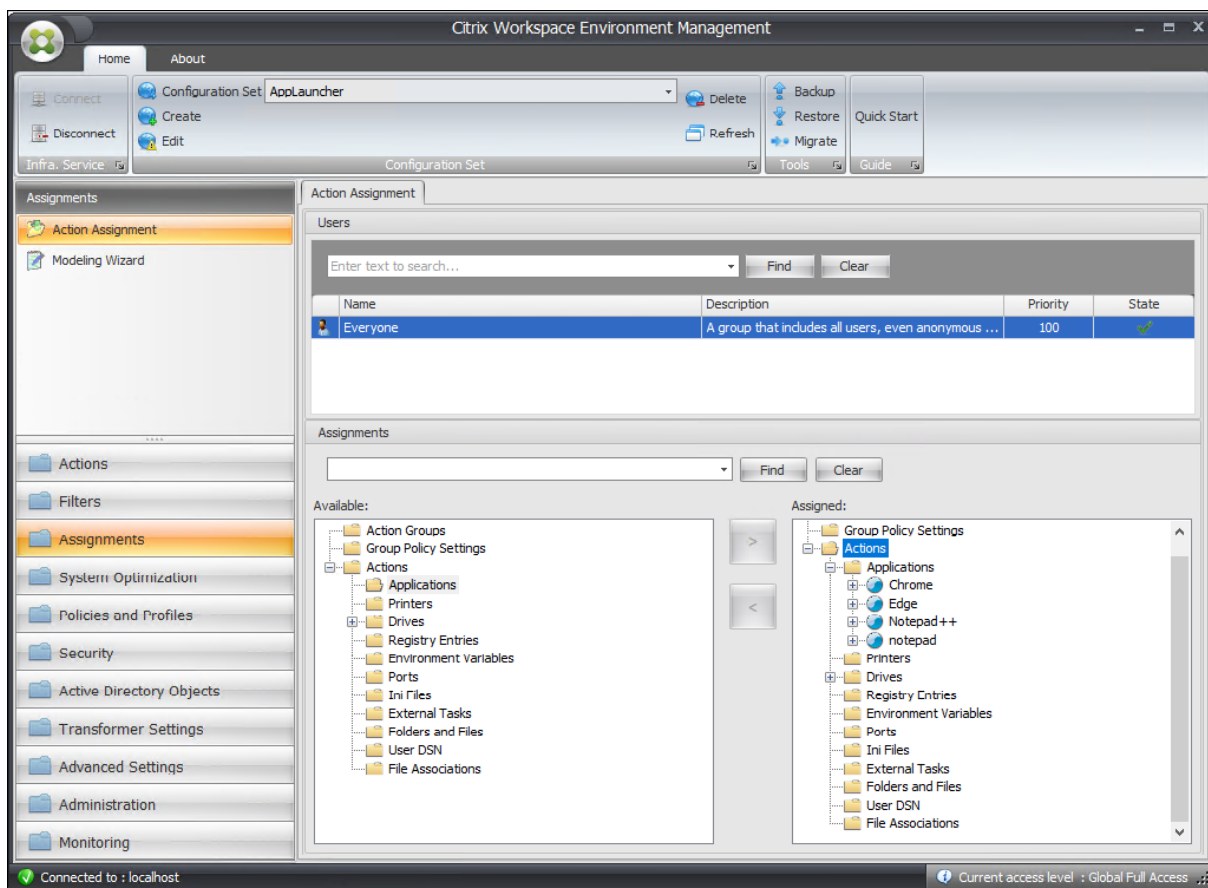
アプリケーションを割り当てる (管理者として)

以下の情報は、[アクション課題のガイダンスを補足するものです](#)。アプリケーションを割り当てるには、その記事の一般的なガイダンスに従ってください。

この例では、次のアプリケーションが割り当てられます。

- Chrome

- Edge
- Notepad++
- メモ帳



ツールを使用してアプリケーションを起動する (ユーザーとして)

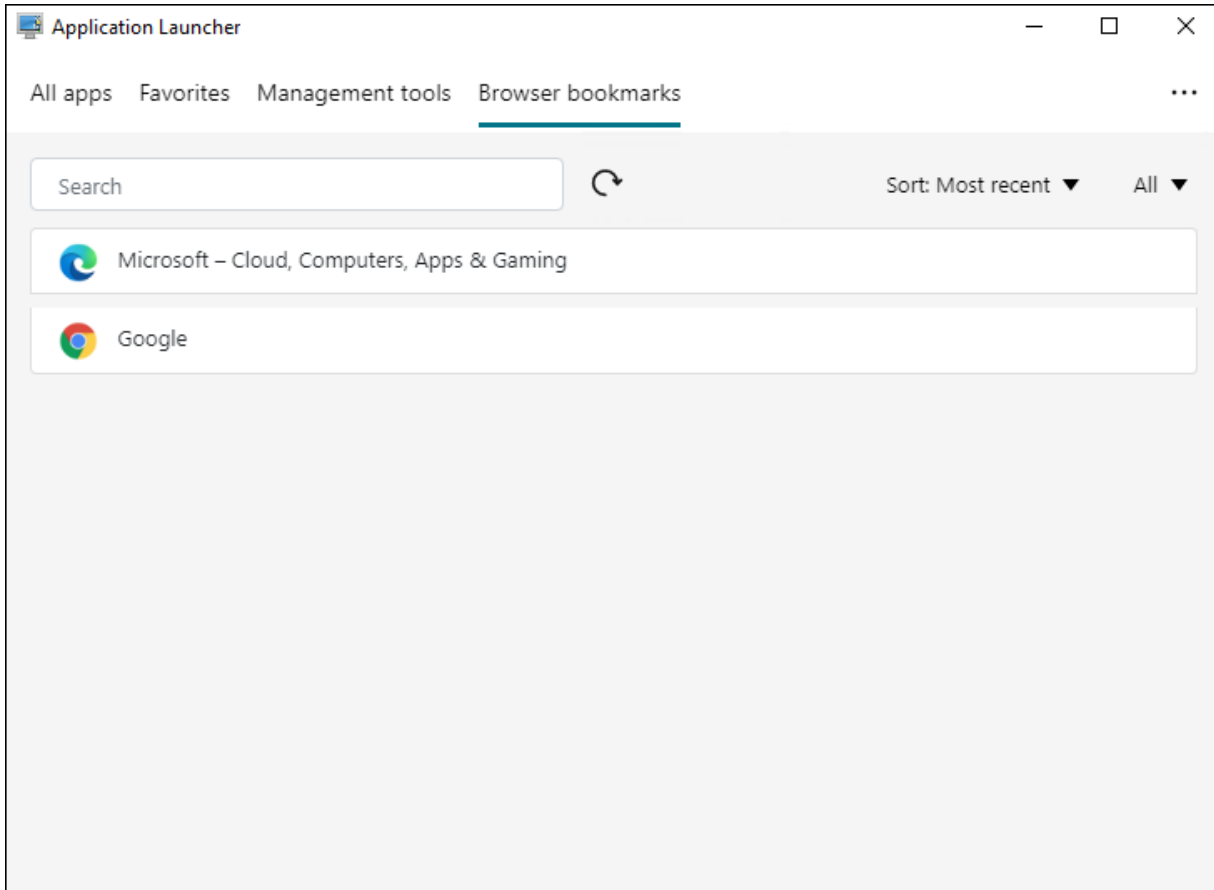
ユーザーはエージェントマシンにログオンした後、アプリケーション起動ツールを起動し、次の操作を行うことができます。

- 割り当てられているアプリケーションを開く
- お気に入りのアプリケーション
- 起動管理ツール
- ブックマークした Web サイトにアクセスする
- 現在のセッションからサインアウトする

詳細については、「[アプリケーションランチャー](#)」を参照してください。

以下の情報は、アプリケーションランチャーの記事を補足するものです。その記事の一般的なガイダンスと、以下のマインド詳細に従ってください。

ユーザーはブックマークしたウェブサイトを直接開くことができます。ブラウザーのブックマーク機能を使用すると、ブックマークした Web サイトをすばやく簡単に開くことができます。

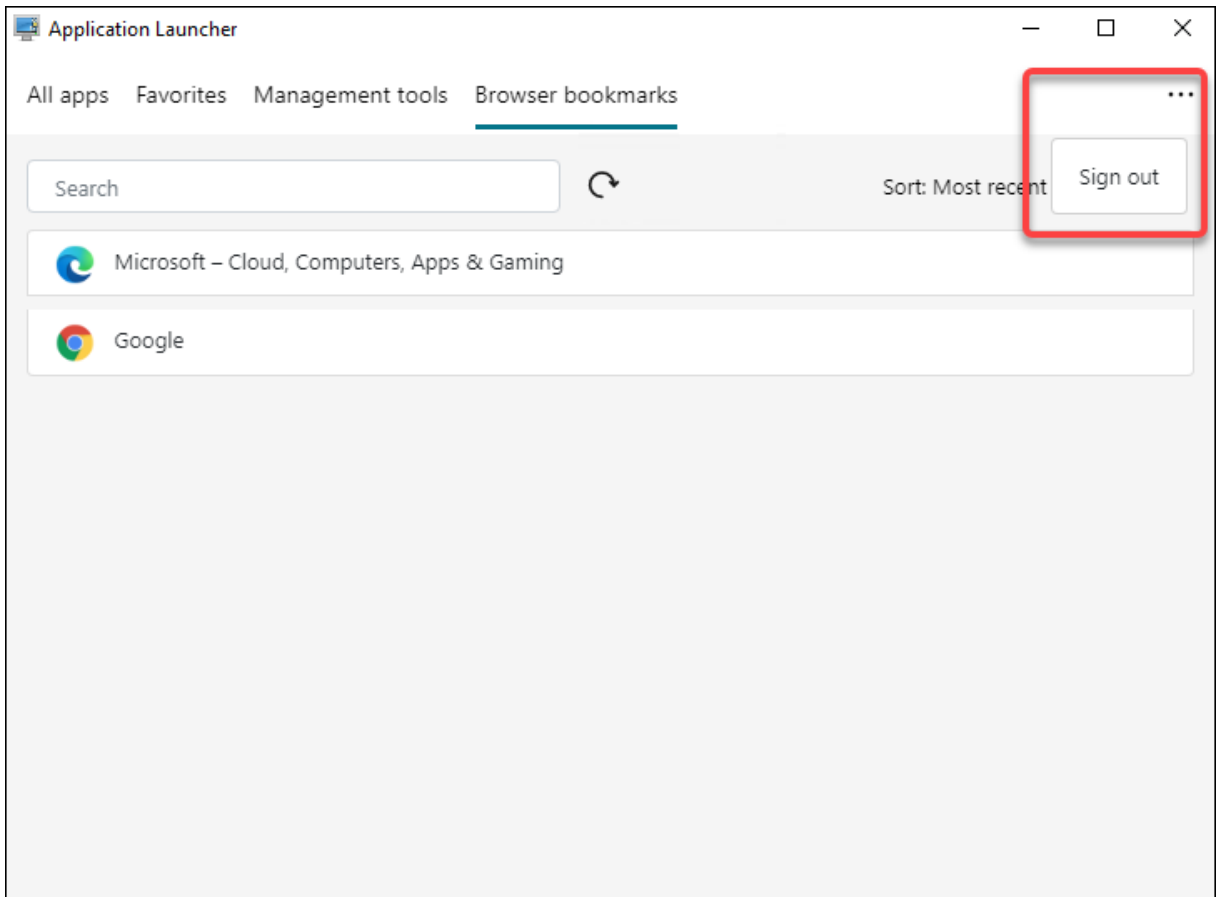


ブックマークを追加するには、ユーザーはアプリケーションランチャーを使用して割り当てられたブラウザーを開き、Web サイトにアクセスしてブックマークします。ブックマークされた Web サイトは、[ブラウザのブックマーク]に表示されます。

ブックマークを削除または変更するには、次の手順を完了します。

1. ブラウザを開くか、ブックマークされた Web サイトをクリックしてブラウザを開きます。
2. 必要に応じてブックマークを削除または変更します。

現在のセッションからサインアウトするには、右上隅の省略記号アイコンをクリックし、[サインアウト]を選択します。



ウィンドウを閉じる場合とは異なり、サインアウトするとアプリケーションセッションが終了します。

スクリプト化されたタスクを使用してログオン時間を分析する

February 13, 2023

ログオン時間が長くなると、ユーザーの生産性が低下し、ユーザーエクスペリエンスが低下します。管理者は、ログオン時間の詳細な概要を把握して、ログオンの速度が遅くなるプロセスを特定し、それに応じて是正措置を講じることができる場合があります。

この目標を達成するために、スクリプト `Analyze_Logon_Duration.ps1` を使用できます。これは PowerShell スクリプトで、ログオンプロセスに関連するすべての主要なイベントをイベントログに照会します。このスクリプトには、次のような利点があります。

- これにより、ユーザーの最新のログオンのログオン期間の内訳が表示されます。
- ログオンプロセスの主要な順次フェーズがすべて表示され、どのフェーズでログオンが遅くなっているかが簡単にわかります。
- これにより、あるフェーズの終了と次のフェーズの開始の間に遅延があるかどうかを確認できます。

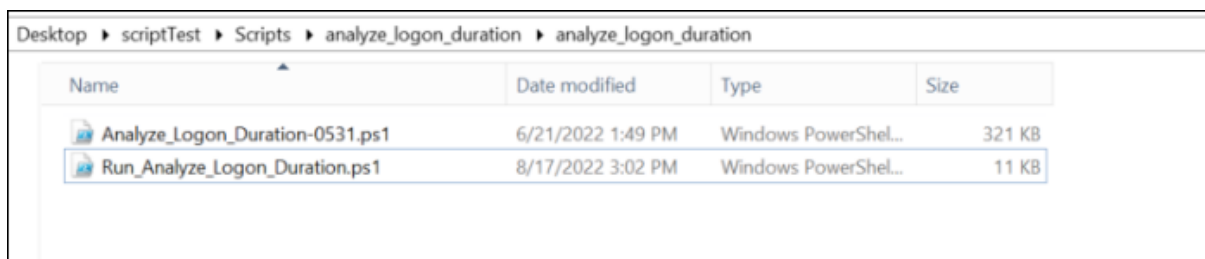
その他の特典を確認するには、「<https://www.controlup.com/script-library-posts/analyze-logon-duration/>」を参照してください。

Workspace Environment Management (WEM) は、スクリプトの実行を自動化するスクリプト化されたタスク機能を提供します。必要なのは、スクリプト化されたタスクを設定することだけです。一般的なワークフローは次のとおりです。

1. 関連するスクリプトを準備する
2. スクリプト化されたタスクを追加する
3. スクリプト化されたタスクを設定する
4. タスク実行レポートを表示する

関連するスクリプトを準備する

次の 2 つのスクリプトを含む ZIP ファイルを準備します。



- `Analyze_Logon_Duration-0531.ps1`. このスクリプトは<https://www.controlup.com/script-library-posts/analyze-logon-duration/>から入手できます。
- `Run_Analyze_Logon_Duration.ps1`. このスクリプト `Analyze_Logon_Duration-0531.ps1` はエントリポイントとして使用され、関連するパラメータをスクリプトに渡します。このスクリプトは必要に応じてカスタマイズできます。

この例では、スクリプト `Run_Analyze_Logon_Duration.ps1` には次の内容が含まれています。

注:

以下の内容は参考用です。「domainUser」が正しく解決されていることを確認します。そうしないと、スクリプトは期待どおりに動作しません。

```
1 $SessionID = (Get-Process -PID $pid).SessionID
2 $DomainUser =(Get-WMIObject -ClassName Win32_ComputerSystem).Username
3 & ((Split-Path $MyInvocation.InvocationName) + "\Analyze_Logon_Duration-0531.ps1") -DomainUser $DomainUser -SessionID $SessionID
4 <!--NeedCopy-->
```

スクリプト化されたタスクを追加する

以下の情報は、「スクリプト化されたタスクを追加する」のガイダンスを補足するものです。ログオン時間を分析するタスクを作成するには、その記事の一般的なガイダンスに従い、以下の詳細を念頭に置いてください。

[Web コンソール] > [スクリプト化されたタスク] で、次のようにタスクを追加します。

The screenshot shows the 'Add scripted task' form with the following fields and values:

- Task name:** Analyze_Logon_Duration
- Description:** Enter description
- Tags:** Select or enter tags separated by commas
- File type:** ZIP
- Upload file:** analyze_logon_duration... (with a 'Browse' button)
- Entry point:** analyze_logon_duration/Run_Analyze_L...
- Grant permissions:** Full access
- Working folder:** Example: C:\Program Files\Tasks\

At the bottom of the form are 'Save' and 'Cancel' buttons.

- [ファイルタイプ] で [ZIP] を選択します。
- zip ファイルを参照してアップロードし、スクリプト `Run_Analyze_Logon_Duration.ps1` をエントリポイントとして設定します。
- [権限の付与] オプションは、セキュリティ上のリスクをもたらす可能性がある、信頼できないスクリプトから発生する攻撃から保護するために、セキュリティレイヤーを追加するように設計されています。Analyze_Logon_Duration タスクは、フルアクセスで実行する必要があります。

スクリプト化されたタスクを設定する

以下の情報は、「スクリプトタスクの設定」のガイダンスを補足するものです。Analyze_Logon_Duration タスクを構成するには、以下の詳細を念頭に置いて、その記事の一般的なガイダンスに従ってください。

1. 関連する構成セットに移動し、[スクリプトタスク設定]に移動し、[一般]で Analyze_Logon_Duration タスクを次のように設定します。
 - WEM では、タスクを実行する前に署名を検証するかどうかを決定できます。スクリプト化されたタスクにフルアクセス権が付与されている場合、署名の検証は必須です。これにより、スクリプトが危険にさらされるのを防ぎ、セキュリティを確保します。** フィルターとタスクのタイムアウト設定はオプションです **。

The screenshot shows a 'Configure scripted task' dialog box for the task 'Analyze_Logon_Duration'. The dialog has a sidebar on the left with tabs for 'General', 'Triggers', 'Parameters', and 'Output'. The 'General' tab is selected. The main content area contains the following settings:

- Enable this task?** Radio buttons for 'Yes' (selected) and 'No'.
- Verify signature?** A checked checkbox with the text 'Verify the signature before running the task'. Below it is a blue information banner: 'Signature verification is mandatory when the scripted task is granted full access.'
- Filter** A dropdown menu showing 'Always True'.
- Task timeout** A checked checkbox with the text 'Set a timeout value'. Below it is a numeric input field with '5', up/down arrows, and a 'Min' label with a dropdown arrow.

At the bottom of the dialog, there are 'Done' and 'Cancel' buttons, and a purple icon in the bottom right corner.

2. 「トリガー」で、タスクのトリガーを設定します。

Configure scripted task ×

Analyze_Logon_Duration

General

Triggers

Parameters

Output

Configure triggers for this task. To edit existing triggers, go to [Triggers](#).

No triggers selected

Search + **Create new trigger**

Show only triggers that apply to this task

Machine shutdown
Machine shuts down

Machine startup
Machine starts up

Done Cancel

- トリガーを使用して、タスクを実行するタイミングを制御します。マシンの起動後にタスクが実行されることを確認してください。たとえば、「スケジュールされた」トリガーを作成してタスクの実行をスケジュールし、そのトリガーをタスクに関連づけることができます。

Create trigger ✕

Name

Description (optional)


Enable this trigger?
 Yes No

Trigger type

Date and time

Repeat
 Yes No

Summary
At 12:00 on 11/9/2022 (agent local time)



Configure scripted task

Analyze_Logon_Duration

General

Triggers

Parameters

Output

Configure triggers for this task. To edit existing triggers, go to [Triggers](#).

Selected: 1


[Create new trigger](#)

Show only triggers that apply to this task

Machine shutdown
Machine shuts down

Machine startup
Machine starts up

triggerForLogonDuration
At 12:00 on 11/9/2022 (agent local time)

Done Cancel 

3. 「パラメータ」で、タスクにパラメータを渡すかどうかを選択します。この例では、このステップをスキップできます。
4. 「出力」で、次のように設定を構成します。

Configure scripted task

Analyze_Logon_Duration

- General
- Parameters
- Output**

Output files ?

Include output file content in reports

i This task does not generate output files.

Output highlights

Highlight keywords ?

Keywords

Enter keywords separated by commas

Highlight regular expression matches ?

Regular expression

`((?<Key>[a-zA-Z]+\s+)(?<value>\d+\.\d+)\s)`

Ignore case

Use multiline matching ?

Capture only named groups ?

Number of lines to include as context clues ?

0

Include only regular expression matches in reports ?

Advanced options

Collect output even if runtime errors occur ?

Done **Cancel**

タスク実行レポートを表示する

タスクが正常に実行されたら、レポートを確認して結果を表示できます。詳細については、「[レポート](#)」を参照してください。この例では、次のレポートが表示されます。

Reports

Provides the following reports that let you analyze your deployments. Each report appears as a table record. You can apply filters to

Columns to display Refresh Filter 3 Export

Event time (UTC+08:00)	Event type	Result code	Result summary
Aug 17, 2022, 3:41:55 PM	Scripted task	-6	Failed to run scripted task "A
Aug 17, 2022, 3:41:50 PM	Scripted task	-6	Failed to run scripted task "A
Aug 17, 2022, 3:41:52 PM	Scripted task	-6	Failed to run scripted task "A
Aug 17, 2022, 3:41:52 PM	Scripted task	-6	Failed to run scripted task "A
Aug 17, 2022, 1:32:33 PM	Scripted task	-6	Failed to run scripted task "A

Regular expression matches

Matches based on the following regular expression and settings:

```
((?<Key>[a-zA-Z]+\s+)(?<value>\d+\.\d+)\s)
```

Ignore case: Enabled | Use multiline matching: Enabled | Capture only named groups: Enabled

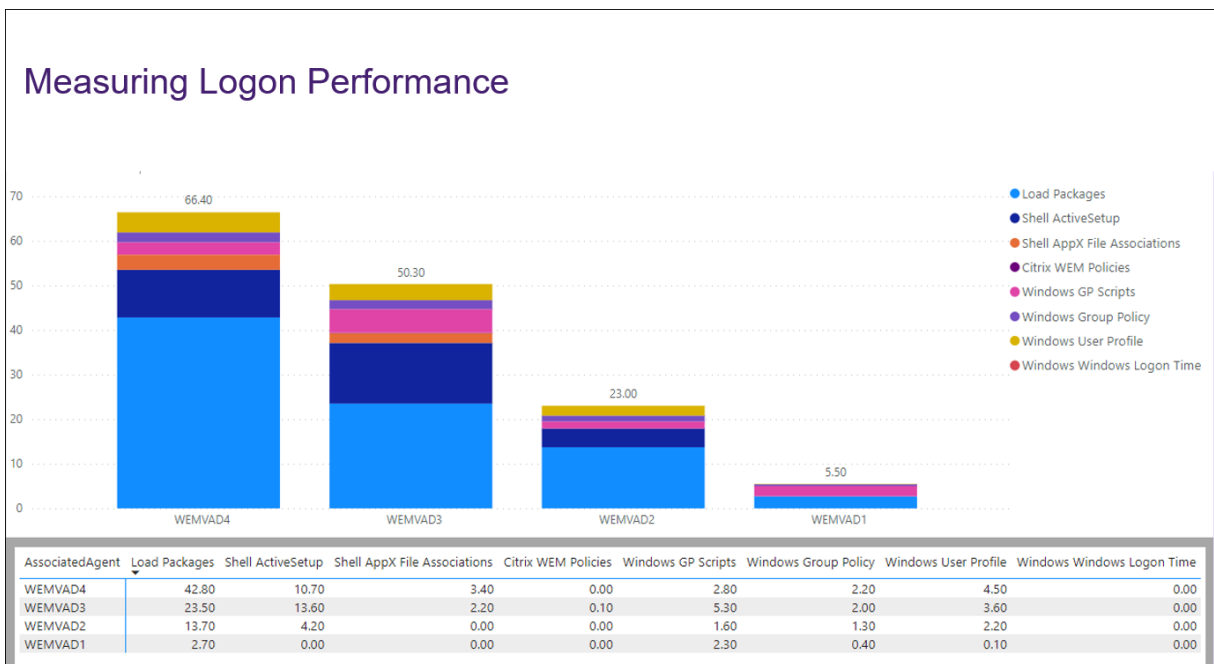
Total match count: 6

- > Console output: Line 8 Windows Windows Logon Time 0.0
- > Console output: Line 9 Windows User Profile 4.5
- > Console output: Line 10 Shell AppX File Associations 3.4
- > Console output: Line 11 Load Packages 42.8
- > Console output: Line 12 Shell ActiveSetup 10.7
- > Console output: Line 13 Windows Duration 57.5

Close

フィルターを使用して、関連するレポートにビューを絞り込み、エクスポートできます。レポートのエクスポートについては、「[レポートのエクスポート](#)」を参照してください。エクスポートされたデータに基づいて、さらに分析を行うことができます。

以下は、Power BI で関心のあるデータを視覚化する例です。ユーザーのログオン期間の内訳が表示されます。



ヒント:

ログオンパフォーマンスの最適化は、Workspace Environment Management サービスのハイライトの 1 つです。この機能により、ログオンプロセス全体を変更して、ログオン時間を大幅に短縮できます。[ログオンの](#)

最適化を参照してください。

スクリプト化されたタスクを使用して **Windows** 更新プログラムを自動的に適用する

February 13, 2023

管理者として、管理するデバイスが多数ある場合があります。これらは異なるドメインに存在し、セキュリティレベルや Windows OS のバージョンが異なる可能性があります。潜在的なリスクを防ぐためにこれらのデバイスをタイムリーに更新するのは面倒な作業です。この目標を達成するには、次のことを行ってください。

- 更新に関連する情報を収集します。
- 収集した情報を比較して、更新がないデバイスを特定します。
- 関連するデバイスに 1 つまたは複数のアップデートを 1 つずつ適用します。

Workspace Environment Management (WEM) には、デバイスにアップデートを適用するタスクを簡略化するスクリプト形式のタスク機能があります。

必要なのは、2 つのスクリプトタスクを設定することだけです。一般的なワークフローは次のとおりです。

1. スクリプトを 2 つ用意してファイルを作成する
2. 2 つのスクリプトタスクを追加
3. 2 つのスクリプトタスクを設定します。
4. タスク実行レポートを表示する

スクリプトを **2** つ用意してファイルを作成する

1. 利用可能なアップデートを監視するスクリプトを用意してください。

```
1 $List = Get-Content \hyenvwemserver\share\hotfix.list
2 $Applied = Get-HotFix | Select-Object -ExpandProperty HotFixID
3 $ExitCode = 0
4 $List | ForEach-Object {
5
6     if(-not ($Applied.Contains($_)))
7     {
8
9         Write-Host $_
10        $ExitCode = 1
11    }
12
13 }
14
```

```
15 Exit $ExitCode
16 <!--NeedCopy-->
```

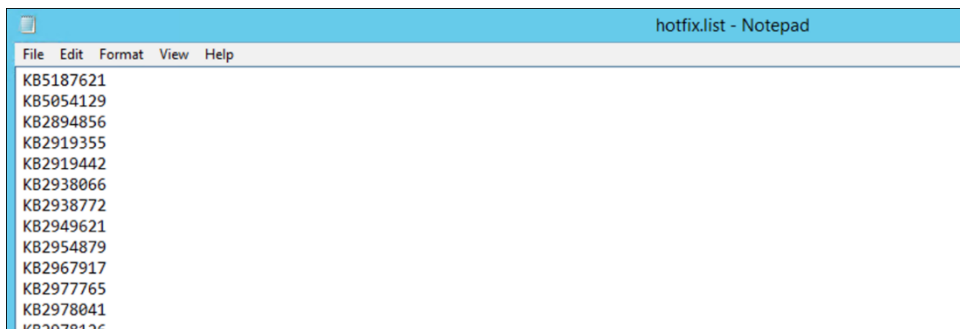
2. 更新を適用する別のスクリプトを用意してください。

```
1 Param(
2     [string]$consoleOutputPath
3 )
4 $List = Get-Content $consoleOutputPath
5 $List | ForEach-Object {
6
7     Write-host "Installing hotfix: $_"
8     Get-WindowsUpdate -Install -KBArticleID $_
9 }
10
11 <!--NeedCopy-->
```

3. 更新のリストを含むファイルを作成します。

注:

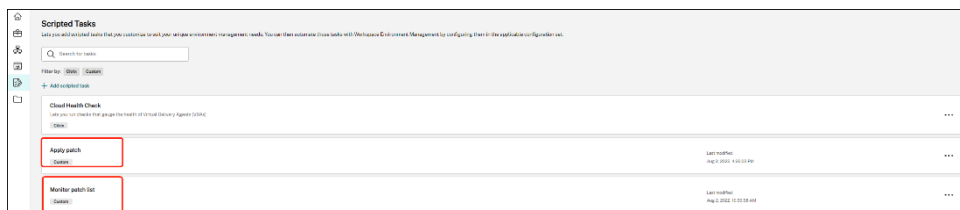
このファイルを WEM エージェントがアクセスできる場所、たとえば共有パス \\hyenvwenserver\share\hotfix.list に置きます。



2 つのスクリプトタスクを追加

以下の情報は、「スクリプト化されたタスクを追加する」のガイダンスを補足するものです。2 つのスクリプトタスクを作成するには、以下の詳細を念頭に置いて、その記事の一般的なガイダンスに従ってください。

Web コンソール > スクリプトタスクで、2 つのスクリプトタスクを追加します。



2 つのスクリプトタスクを設定します

以下の情報は、「スクリプトタスクの設定」のガイダンスを補足するものです。スクリプト化された 2 つのタスクを設定するには、以下の詳細を念頭に置いて、その記事の一般的なガイダンスに従ってください。

1. 関連する設定セットに移動し、スクリプトタスク設定に移動して、「更新の適用」タスクを設定します。

この例では、タスクは次のように具体的に構成されています。

- a) [はい] を選択してタスクを有効にします。
- b) [タスクを実行する前に署名を確認してください] をオフにします。
- c) 「トリガー」で、次のように「スケジュールされた」トリガーを作成します。

Create trigger

Name

Description (optional)

Enable this trigger?

Yes No

Trigger type

Date and time

Repeat

Yes No

Every

Summary

Every day at 12:00 starting 8/3/2022 (agent local time)

2. 同じ構成セットで、「更新の監視」タスクを設定します。

この例では、タスクは次のように具体的に構成されています。

- a) [はい] を選択してタスクを有効にします。
- b) [タスクを実行する前に署名を確認してください] をオフにします。
- c) 「トリガー」で、次のように「カスタムスクリプトタスク結果」トリガーを作成します。

Create trigger

Name

Description (optional)

Enable this trigger?

Yes No

Trigger type

Trigger criteria

Specify custom scripted tasks and define the criteria that the tasks must meet to activate this trigger.

is

AND contains

AND is

+ Add criterion

Task data

Pass data as parameters to tasks associated with this trigger

Select data to pass to associated tasks, and specify the parameters in those tasks to receive the data.

- Task name (string) Parameter name: LastTaskName
- Exit code (integer) Parameter name: LastExitCode
- Console output (string) Parameter name: consoleOutputPath
- File output (string) Parameter name: FileOutputFileName

Summary

(Exit code is 1) AND (Console output contains "KB")

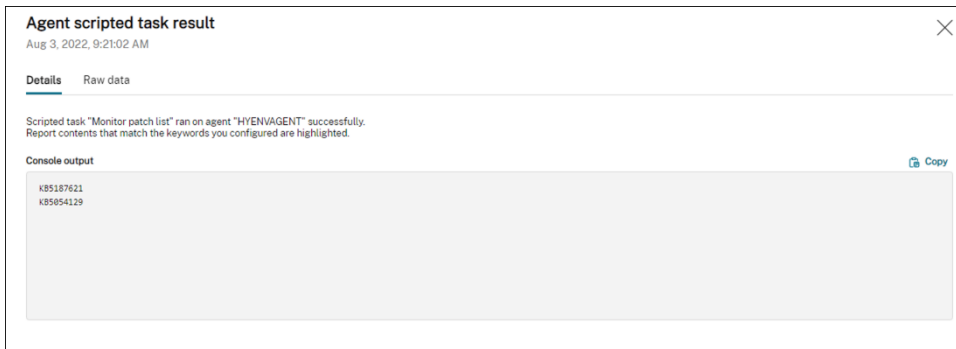
タスク実行レポートを表示する

タスクが正常に実行されたら、レポートを確認して結果を確認できます。詳細については、「[レポート](#)」を参照してください。この例では、次のレポートが表示されます。

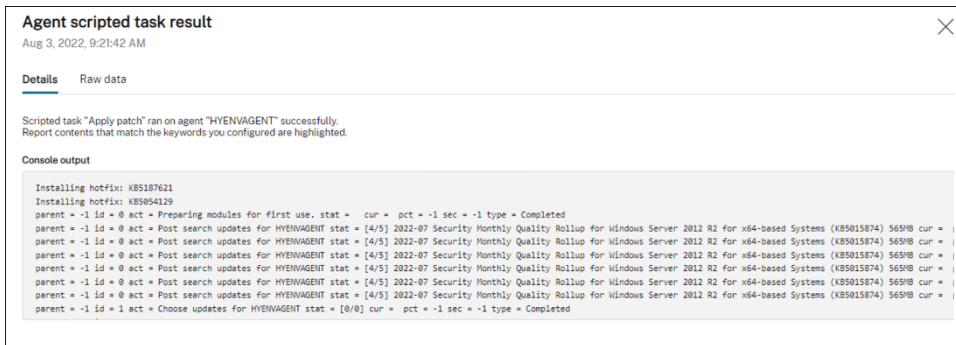
レポート概要:

Event time (UTC+9:00)	Event type	Feedback	Event summary	Severity	Agent	User	Default action
Aug 12 2022 12:04:43 AM	Scripted task	0	Scripted task: 'Daily result trigger' is done	info	HYDRAAGENT		Default flow
Aug 12 2022 12:02:43 AM	Scripted task	1	Scripted task: 'Monitor patch list' has completed %1	info	HYDRAAGENT		Default flow
Jul 25 2022 12:05:49 PM	Scripted task	0	Rollout for scripted task: 'Sleep from ping' is ok	Error	HYDRAAGENT		Default flow
Jul 25 2022 12:06:57 PM	Scripted task	-6	Rollout for scripted task: 'Sleep from ping' is ok	Error	HYDRAAGENT		Default flow
Jul 15 2022 01:37:03 AM	Cloud health check	1	Scripted task: 'Cloud health check' has no agent %1	Warning	HYDRAAGENT		Default flow
Jul 05 2022 19:07:19 PM	Scripted task	0	Rollout for scripted task: 'Install or update %1' is done	Error	HYDRAAGENT		Default flow
Aug 12 2022 14:42:55 PM	Policy Management health check		Policy Management has been successfully installed	info	HYDRAAGENT		Default flow

「更新の適用」タスクのレポート詳細:



「更新の監視」タスクのレポート詳細:



WEM API と Windows PowerShell を使用して構成セットを自動的にバックアップする

October 7, 2022

Workspace Environment Management (WEM) 管理者は、設定が失われないように、構成セットを定期的にバックアップする必要がある場合があります。たとえば、12 時間ごとにバックアップを起動し、バックアップファイルをローカルで自動的に管理したい場合があります。WEM パブリック API と Windows PowerShell を使用すると、その目標を達成できます。

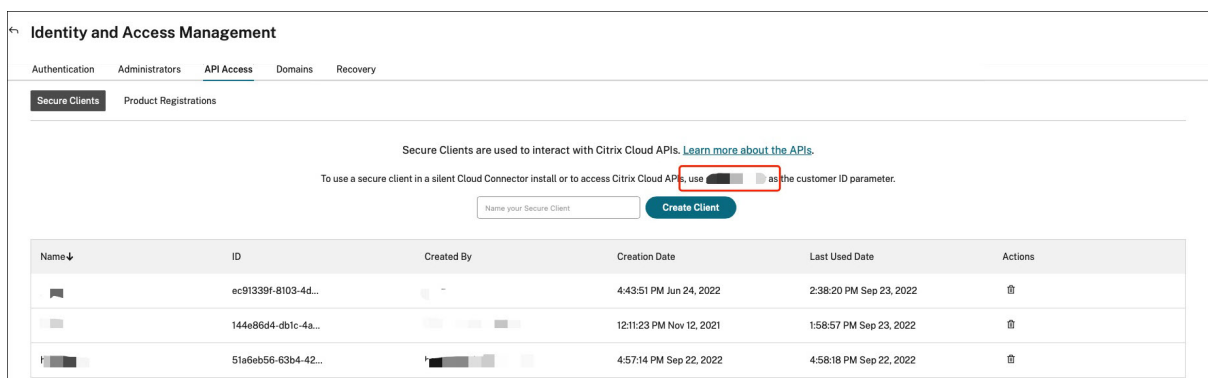
一般的なワークフローは次のとおりです。

1. Citrix Cloud API クライアントに申し込む
2. 構成セットをバックアップする PowerShell スクリプトの作成
3. スクリプトを実行するようにスケジュールされたタスクを設定します

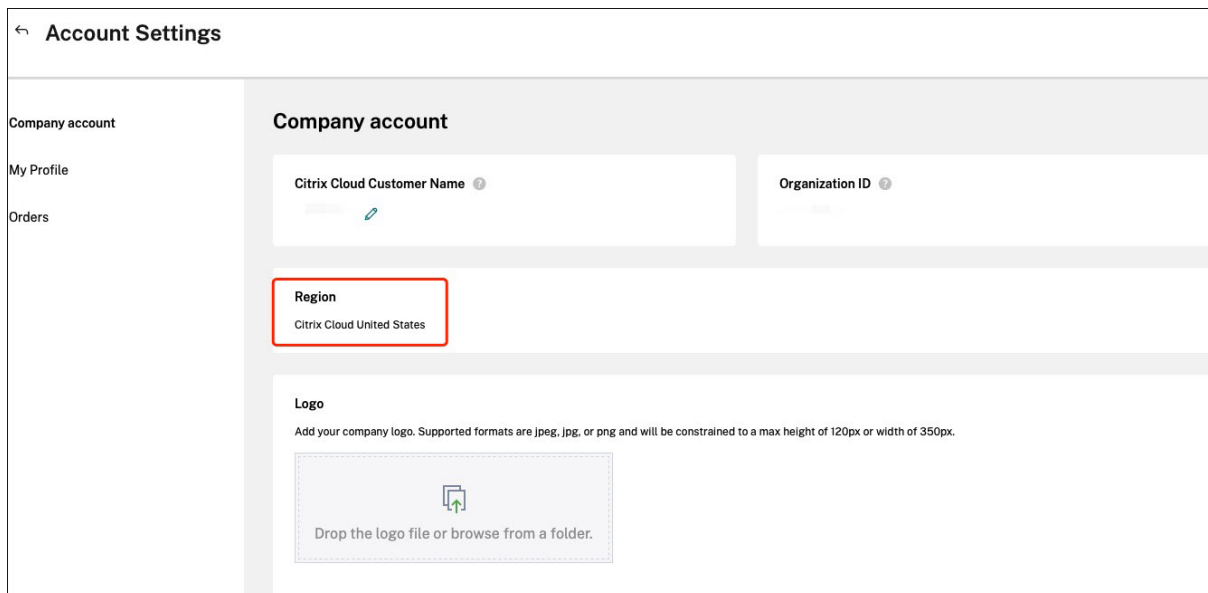
前提条件

始める前に、Citrix カスタマー ID と関連する API ベースの URL を確認してください。

Citrix Cloud にサインインし、[ID およびアクセス管理] > [API アクセス] に移動して、Citrix カスタマー ID を確認します。



Citrix Auth API ベースの URL や WEM API ベースの URL を含む API ベースの URL は、接続している Citrix Cloud のリージョンに関連しています。リージョンは、Citrix Cloud へのオンボーディング時に決定されます。アカウント設定からお住まいの地域を照会することもできます。



API ベースの URL は、以下の表で確認できます。

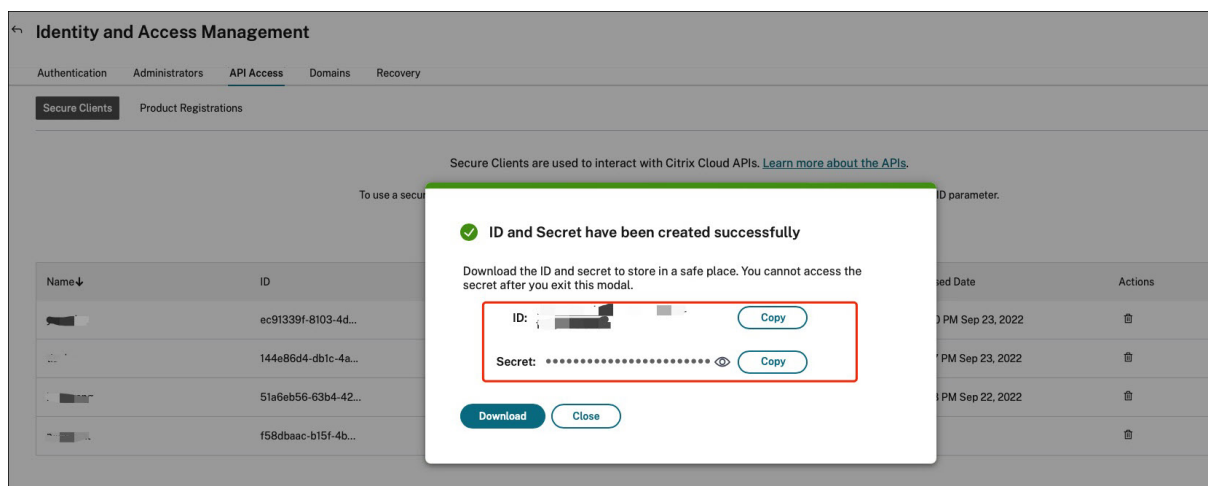
リージョン	Citrix 認証 API ベース URL	WEM API ベース URL
米国 (米国)	api-us.cloud.com	api.wem.cloud.com
欧州連合 (EU)	api-eu.cloud.com	eu-api.wem.cloud.com
アジア太平洋南部 (AP-S)	api-ap-s.cloud.com	aps-api.wem.cloud.com
日本 (JP)	api.citrixcloud.jp	jp-api.wem.citrixcloud.jp

API ベースの URL については、「[Citrix Cloud API 入門ガイド](#)」と「[WEM API の概要](#)」を参照してください

い。

Citrix Cloud API クライアントに申し込む

[ID とアクセス管理] > [API アクセス] に移動します。セキュアクライアントの名前を入力し、「**Create Client**」をクリックし、セキュアクライアント ID とクライアントシークレットをローカルに保存します。



構成セットをバックアップする PowerShell スクリプトの作成

次の PowerShell スクリプトを使用して、名前を付けて保存します `Invoke-WEMConfigSetBackupAPI.ps1`。スクリプトの冒頭にある変数を必ず置き換えてください。

```

1 # replace the variables before running the script
2
3 $CitrixCustomerId = 'your-citrix-customer-id'
4 $CitrixAuthAPIBaseURL = 'api-us.cloud.com'
5 $CitrixWEMAPIBaseURL = 'api.wem.cloud.com'
6 $ClientId = 'your-api-client-id'
7 $ClientSecret = 'your-api-client-secret'
8
9 $ConfigSetsToBackUp = @('Default Site', 'MyConfigSet') # leave it empty
   if you want to back up all configuration sets
10 $FolderToSaveBackup = 'C:\ProgramData'
11
12 # get bearer token
13
14 $ErrorActionPreference = 'Stop'
15
16 $URL = "https://{
17   CitrixAuthAPIBaseURL }
18   /cctrustoauth2/{
19   CitrixCustomerId }
20   /tokens/clients"
21 $Body = "grant_type=client_credentials&client_id=${

```

```
22 ClientId }
23 &client_secret=${
24 ClientSecret }
25 "
26 $Response = Invoke-RestMethod -Method 'Post' -Uri $URL -Body $Body -
    ContentType 'application/x-www-form-urlencoded'
27
28 $BearerToken = $Response.access_token
29
30 if ([string]::IsNullOrEmpty($BearerToken))
31 {
32
33     throw 'Cannot retrieve bearer token.'
34 }
35
36
37 Write-Host "Retrieved bearer token successfully."
38
39 # back up WEM configuration sets
40
41 if (-not (Test-Path -Path $FolderToSaveBackup -PathType 'Container'))
42 {
43
44     throw 'The folder to save backup not exists.'
45 }
46
47
48 $Headers = @{
49
50     'Citrix-CustomerId' = $CitrixCustomerId
51     'Accept' = 'application/json'
52     'Authorization' = "CWSAUTH bearer=${
53 BearerToken }
54 "
55 }
56
57
58 if ($ConfigSetsToBackUp.Count -eq 0 -or $ConfigSetsToBackUp -eq $null)
59 {
60
61     $URL = "https://${
62 CitrixWEMAPIBaseURL }
63 /services/wem/sites"
64     $Response = Invoke-RestMethod -Method 'Get' -Uri $URL -Headers
        $Headers
65     $ConfigSetsToBackUp = $Response.items |% {
66     $_.name }
67
68 }
69
70
71 $ConfigSetsToBackUp | ForEach-Object {
72
```

```
73 Write-Host "Backing up configuration set ""$\"""
74 $URL = "https://${
75 CitrixWEMAPIBaseURL }
76 /services/wem/sites/%24export?name=$\"
77 Write-Host "GET $URL"
78 $Response = Invoke-RestMethod -Method 'Get' -Uri $URL -Headers
79 $Headers
80 $Timestamp = Get-Date -Format "yyyyMMddHHmmss"
81 $Response | ConvertTo-Json -Depth 10 | Out-File (Join-Path
82 $FolderToSaveBackup "{$
83 _ }
84 -${
85 Timestamp }
86 .json")
87 }
88 <!--NeedCopy-->
```

ベアラートークンについて詳しくは、「[Citrix Cloud API 入門](#)」を参照してください。

WEM API を使用して構成セットをバックアップする方法の詳細については、「[WEM 構成セット API のエクスポート](#)」を参照してください。

注:

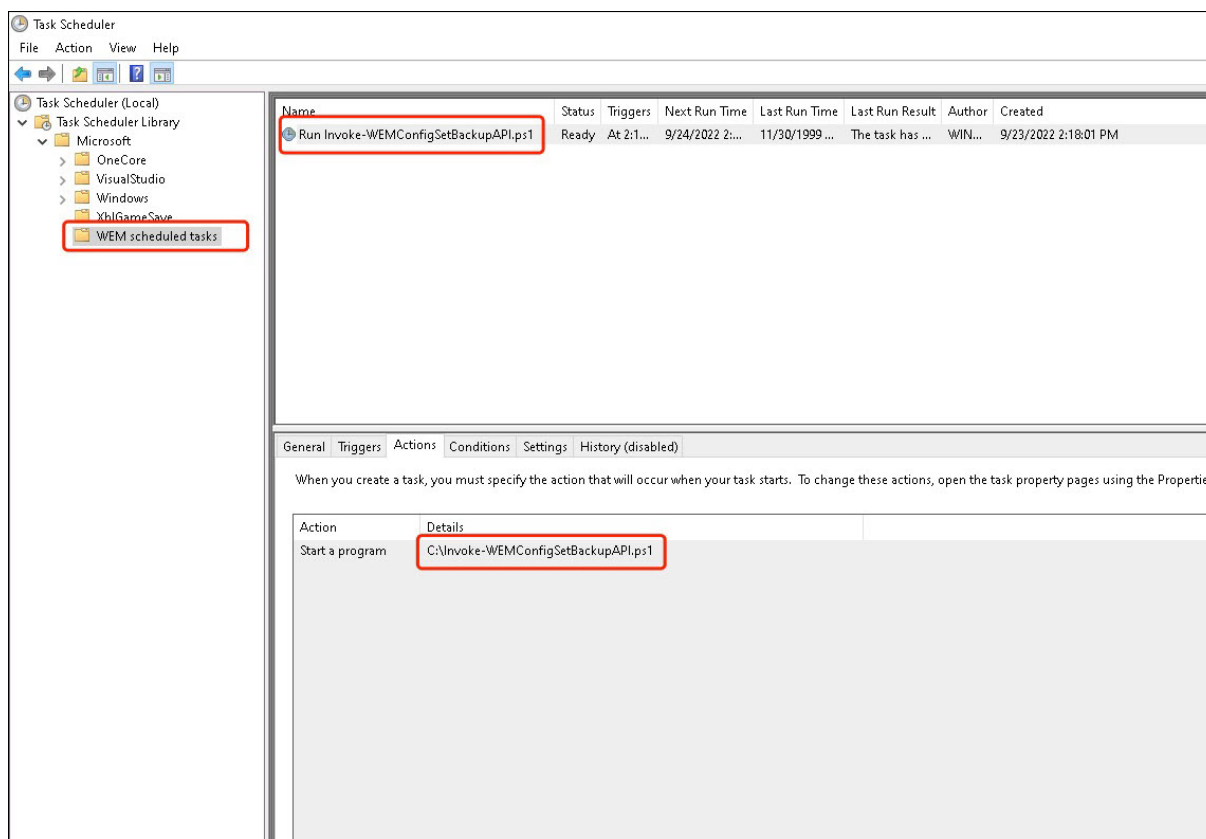
各ベアラートークンは 1 時間後に期限切れになります。Citrix Cloud 認証 API と WEM API を頻繁に呼び出さないようにするには、バックアップ時間が 1 時間未満の場合はベアラートークンをキャッシュして再利用します。

スクリプトを実行するようにスケジュールされたタスクを設定します

Citrix Cloud にアクセスできるマシンでは、Windows の [スタート [Task Scheduler](#)] メニューから起動するか、[taskschd.msc](#) Windows のコマンドプロンプトから起動します。

という名前のフォルダを作成できます [WEM scheduled task](#)。

フォルダーに、という名前のタスクを作成します [launch Invoke-WEMConfigSetBackupAPI.ps1](#)。「12 時間ごとに 1 日繰り返す」という新しいトリガーを追加し、スクリプトを起動する新しいアクションを追加します [Invoke-WEMConfigSetBackupAPI.ps1](#)。



ファイルタイプの関連付けを構成する

August 30, 2022

ファイルタイプの関連付け (FTA) の設定は、以前は簡単な作業でした。管理者は、スクリプトを使用してこれを実現できます。しかし、Windows 8 から FTA 検証のためにハッシュが導入されたため、FTA 構成は管理者にとって苦痛でした。

Workspace Environment Management (WEM) を使用して、特定のユーザーまたはユーザーグループの FTA をカスタマイズできます。たとえば、URL タイプ (HTTP と HTTPS) とファイルタイプ (*.htm と *.html) を Google Chrome に関連付けて、デフォルトのブラウザにすることができます。

構成プロセスには、次の手順が含まれます。

1. FTA アクションを作成する
2. FTA アクションをターゲットユーザーまたはユーザーグループに割り当てる

前提条件

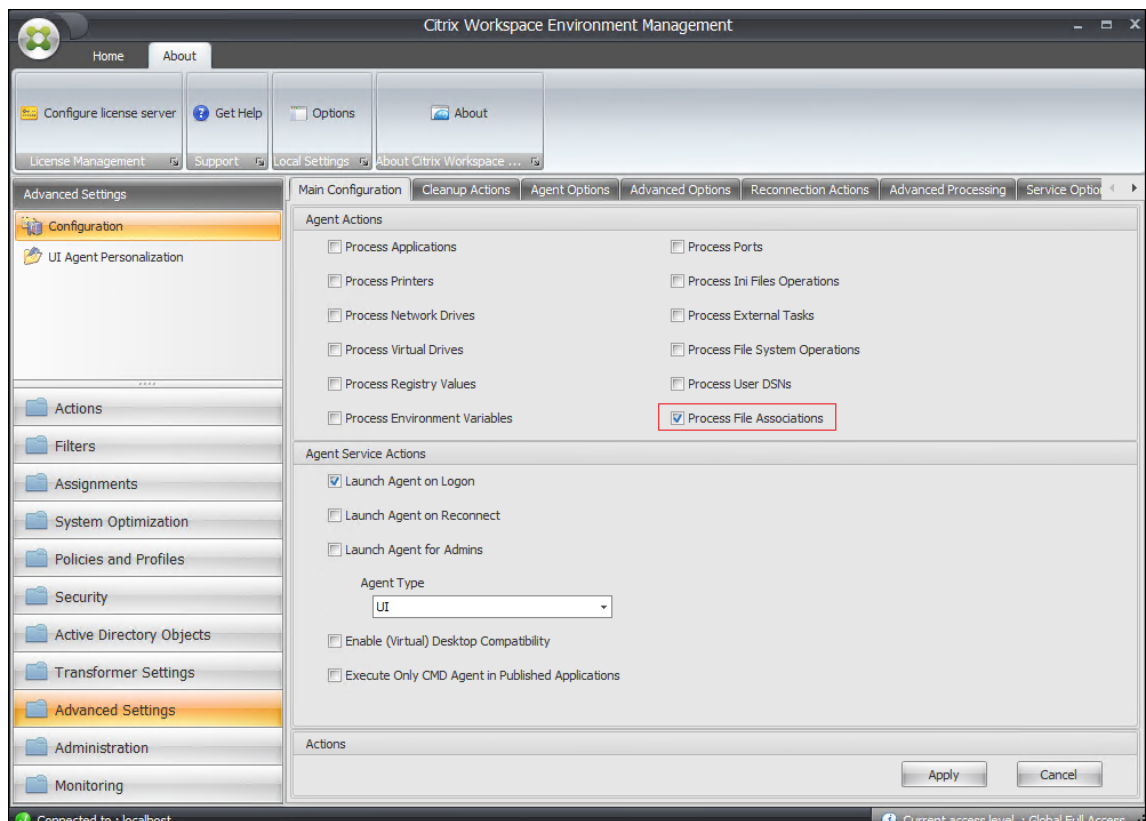
開始する前に、次の操作を行います。

- エージェントマシンに Google Chrome がインストールされていることを確認します。
- Google Chrome の ProgID を取得します。

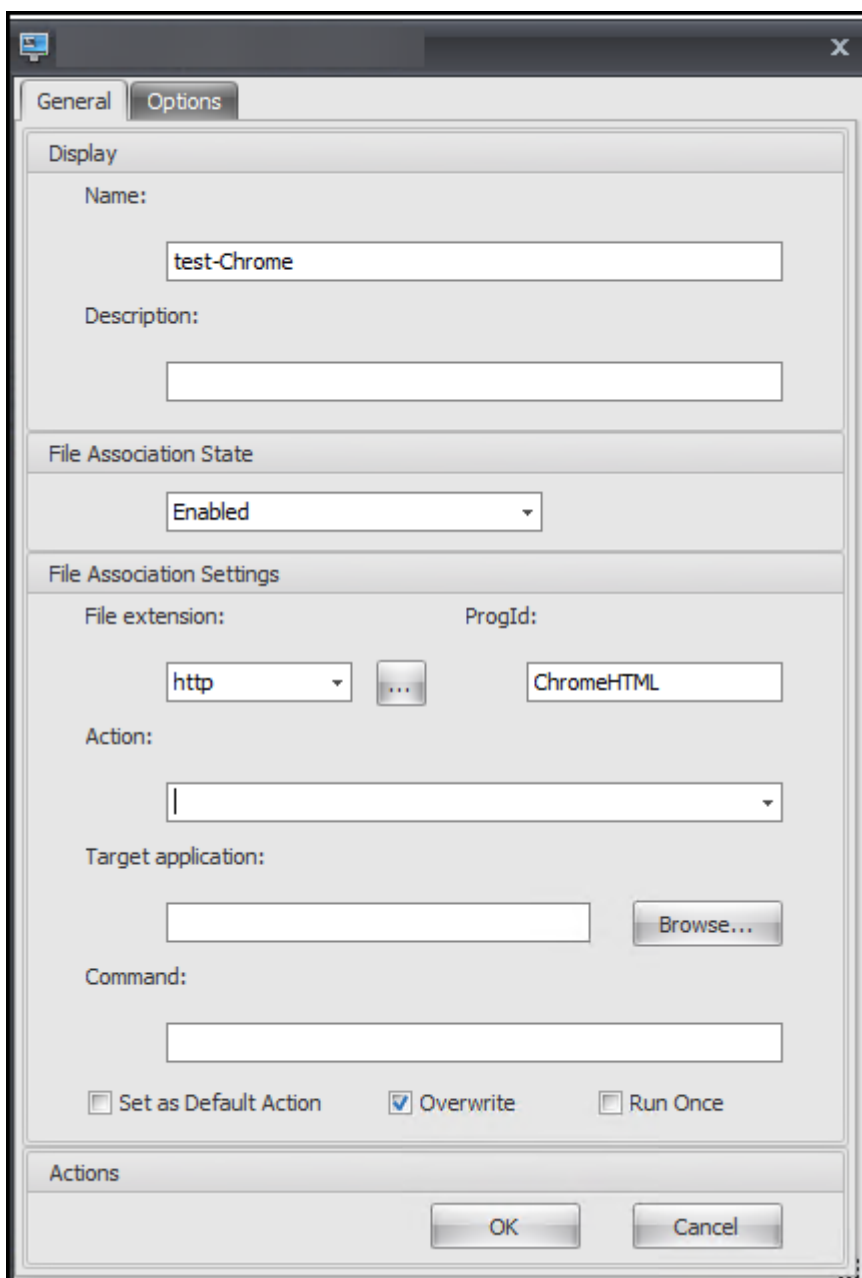
Google Chrome の ProgID は **ChromeHTML** です。インストールされているアプリケーションの ProgID を見つけるには、OLE/COM オブジェクトビューア (oleview.exe) を使用して、オブジェクトクラス/OLE 1.0 オブジェクトで探します。ProgID の詳細については、「[プログラム識別子 \(ProgID\)](#)」を参照してください。

FTA アクションを作成する

1. [従来のコンソール] > [詳細設定] > [構成] > [メイン設定] に移動し、[プロセスファイルの関連付け



2. [従来のコンソール] > [アクション] > [ファイルの関連付け] > [ファイルの関連付けリスト] に移動し、[追加
3. 「新規ファイルの関連付け」ウィンドウで、次のように情報を入力し、「OK」をクリックします。



注:

この例では、正しい ProgID **ChromeHTML** が提供されているため、アクション、ターゲットアプリケーション、コマンドの3つのフィールドに入力する必要はありません。ただし、インストールされているアプリケーションの ProgID を指定できない場合、またはインストールしたアプリケーションがインストール中に ProgID を登録しない場合は、3つのフィールドに入力する必要があります。詳細については、「[ファイルの関連付け](#)」を参照してください。

FTA アクションをターゲットグループに割り当てる

1. [レガシーコンソール] > [割り当て] > [アクションの割り当て] に移動し、アクションを割り当てるユーザーまたはユーザーグループをダブルクリックします。
2. レガシーコンソール > 管理 > エージェント > 統計に移動し、更新をクリックします。
3. エージェントを右クリックし、コンテキストメニューから [ワークスペースエージェントのリフレッシュ] を選択します。

WEM の FTA 構成の詳細については、「[ファイルの関連付け](#)」を参照してください。

WEM GPO を使用して FSLogix プロファイルコンテナを構成する

August 30, 2022

Workspace Environment Management (WEM) を使用すると、ドメインコントローラーにログオンしなくても FSLogix プロファイルコンテナの設定を構成できます。管理用テンプレート (.admx) を WEM にアップロードしたら、ドメインコントローラーで通常行うのと同じように WEM でポリシーを構成できます。次に、目的の割り当てターゲットにポリシーを割り当てます。正確な制御のために、定義済みのフィルターを使用して割り当てをコンテキスト化することもできます。

WEM GPO を使用して FSLogix 設定を構成するための一般的なワークフローは次のとおりです。

1. FSLogix 関連の管理用テンプレート (.admx) を WEM にアップロードします。
2. FSLogix を構成する GPO を作成し、GPO で対応する設定を有効にします。
3. GPO を目的の割り当てターゲットに割り当てます。

前提条件

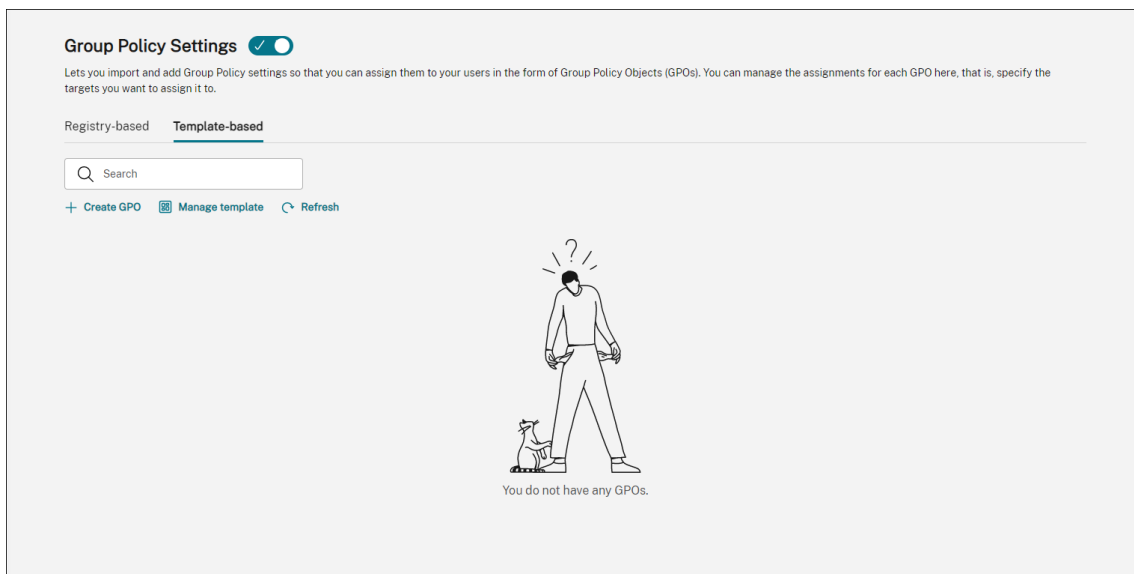
開始する前に、次の操作を行います。

- エージェントマシンに FSLogix をインストールします。
- 「fslogix.admx」および「fslogix.adml」ファイル (FSLogix のインストールパッケージで入手可能) を zip ファイルにバンドルします (例: `fslogix.zip`)。

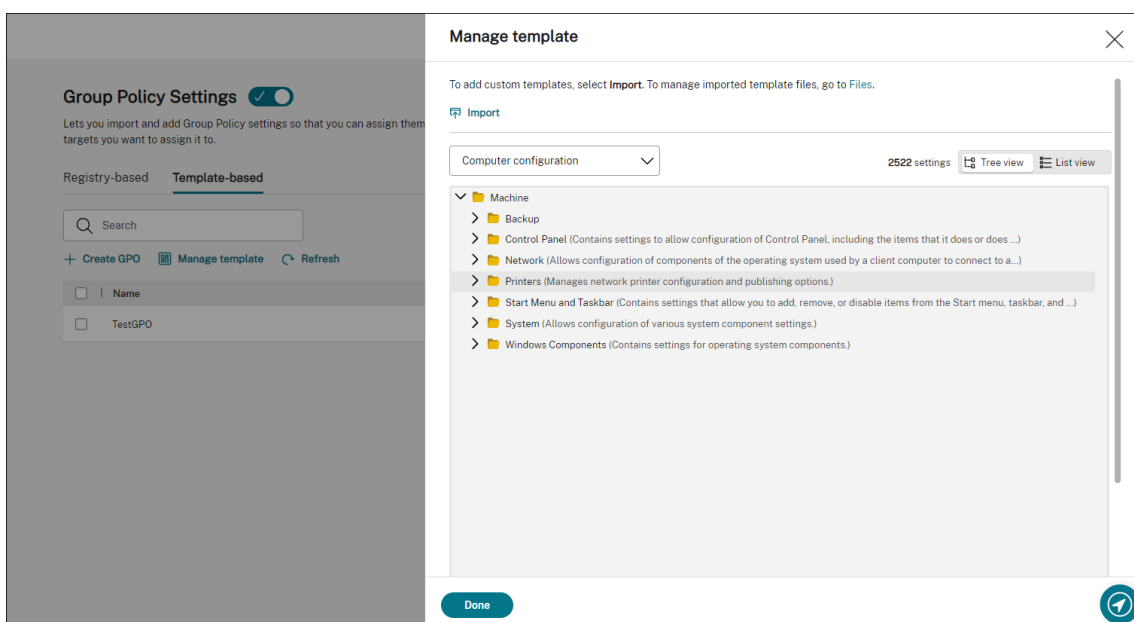
ZIP ファイルをインポートします

WEM は、テンプレートベースおよびレジストリベースの GPO の作成をサポートします。FSLogix 用のテンプレートベースの GPO を作成するには、以下のように zip ファイルをアップロードします。

1. グループポリシー設定を有効にします。



2. [テンプレートベース] タブで、[テンプレートの管理] をクリックします。[テンプレートの管理] ウィザードが表示されます。



3. ZIP ファイルを参照し、[インポートの開始] をクリックします。

Import

Template file

fslogix.zip [Browse](#)

If the file contains a template with the same name as an existing template

Do not import

Skip the template and import the rest

Overwrite the existing template

⚠ Overwriting might change associated settings originating from existing templates. Existing GPOs created with the templates are not affected. However, when you edit those GPOs, associated settings are lost.

[Start import](#)

[Done](#)

GPO を作成および編集する

テンプレートベースの GPO では、コンピューターレベルとユーザーレベルの両方の設定を構成できます。この例では、ユーザーレベルの設定を構成する必要はありません。

次の手順を実行します：

1. [テンプレートベース] タブで、[**GPO** の作成] をクリックします。[テンプレートを使用して **GPO** を作成] ウィザードが表示されます。
2. [基本情報] に、必要な情報を入力します。

Create GPO with template ✕

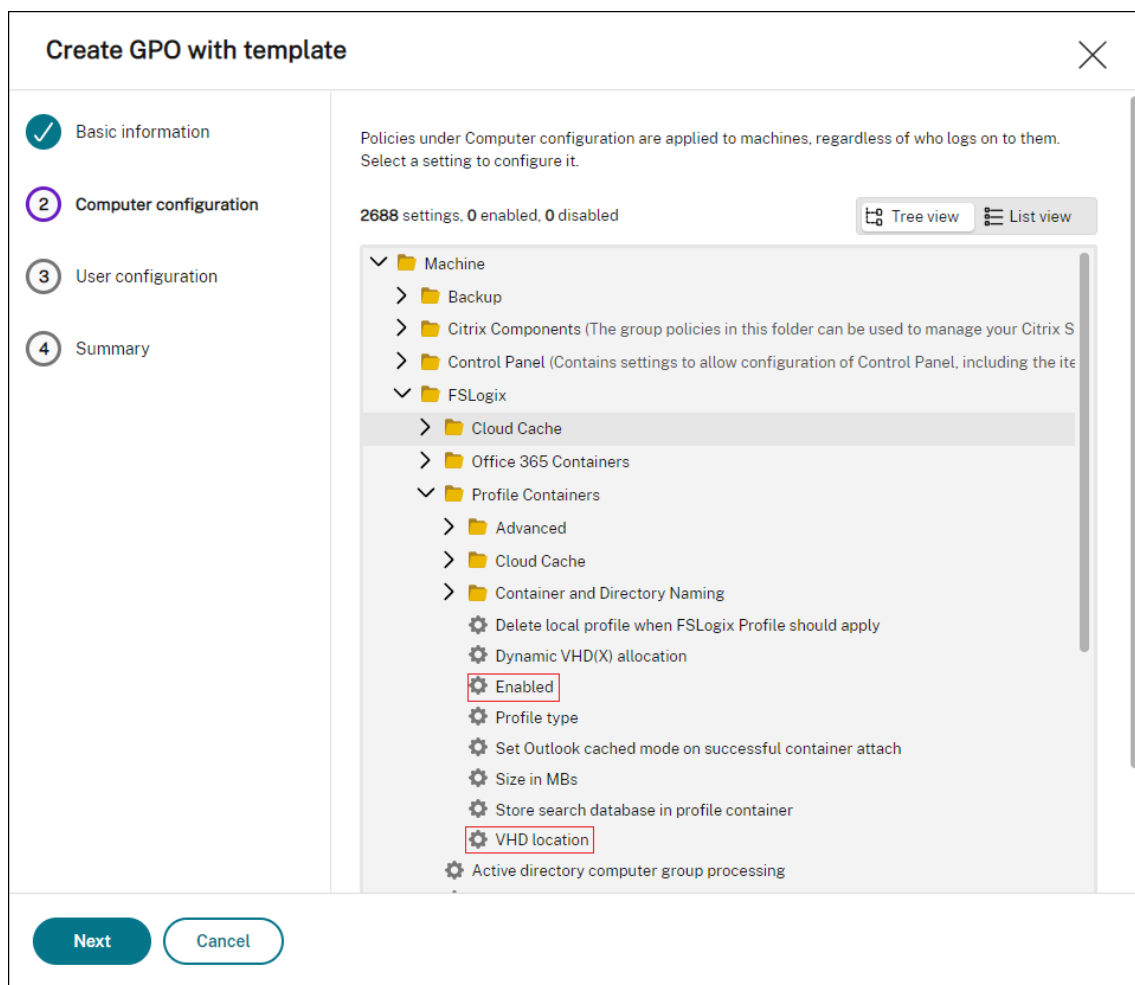
- 1 Basic information
- 2 Computer configuration
- 3 User configuration
- 4 Summary

Name

Description (optional)

Next **Cancel**

3. コンピューターの構成で、[マシン] > [FSLogix] > [プロファイルコンテナ] > [コンテナとディレクトリの命名] に移動し、次の 2 つの設定を構成します。



- 有効。設定を選択し、[ステータス]を[有効]、[オプション]を[**有効]**に設定します。

The screenshot shows a 'Configure setting' dialog box with the following elements:

- Path: Machine\FSLogix\Profile Containers
- Status: Enabled (radio button selected)
- Comment (optional): Enter comment (text input field)
- Options: Enabled (checkbox checked)
- Buttons: Done (highlighted), Cancel

- **VHD** の場所。設定を選択し、[ステータス]を[有効]に設定し、VHD へのパスを入力します。

Configure setting ✕

Machine\FSLogix\Profile Containers

VHD location

Specifies the network location where the VHD(X) files are stored. For example, \\servername\share\containers. Show more

Status

Not configured

Enabled

Disabled

Comment (optional)

Enter comment

Options

VHD location

\\TestProfileShare\profiled

Done **Cancel**

4. [概要] で、意図したとおりに設定したことを確認し、[完了] をクリックします。

Create GPO with template

✓ Basic information
✓ Computer configuration
✓ User configuration
4 Summary

Name
FSLogix Profile Container Settings

Description
-

Computer configuration (2 enabled, 0 disabled)

Machine\FSLogix\Profile Containers

✓ Enabled Enabled
Comment (optional) -
Enabled true

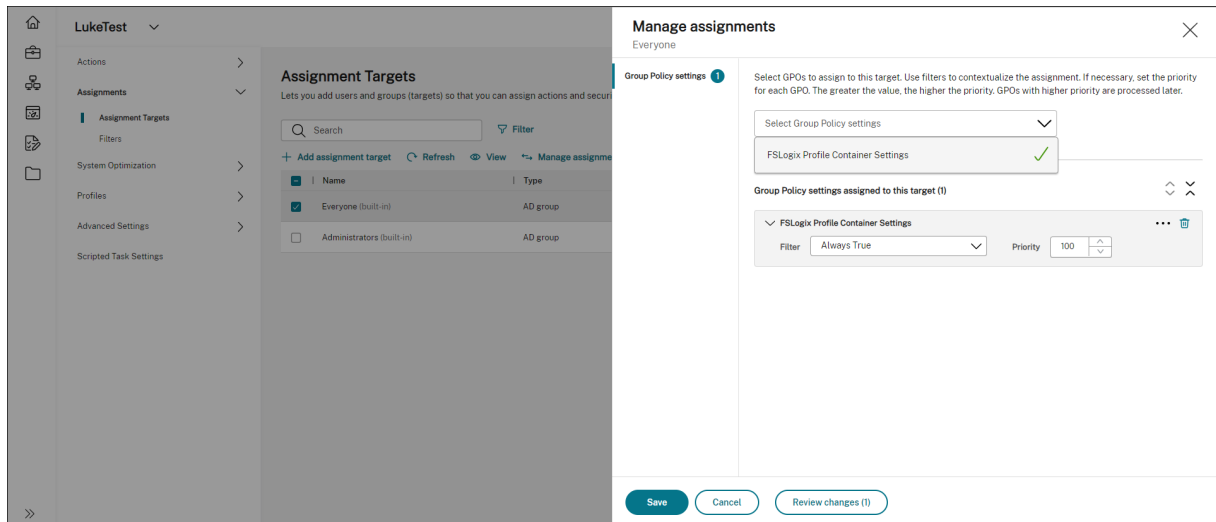
✓ VHD location Enabled
Comment (optional) -
VHD location \\TestProfileShare\profiles

Done Cancel

GPO を割り当てる

GPO を作成したら、それを目的の割り当てターゲットに割り当てることができます。他のアクションを割り当てると同様に、GPO を異なる AD グループに割り当てることができます。グループには、ユーザーとマシンを含めることができます。マシンレベルの設定は、関連するマシンがグループに属している場合に有効になります。ユーザーレベルの設定は、現在のユーザーがグループに属している場合に有効になります。

この例では、GPO は「Everyone」グループに割り当てられ、既定の「Always True」フィルターが適用されます。



GPO を割り当てたら、対象のエージェントマシンに移動して、ポリシーが有効になったことを確認します。

スクリプトと外部タスクを使用して **MSIX** アプリ接続を設定する

May 28, 2024

Workspace Environment Management (WEM) を使用すると、Citrix DaaS (以前の Citrix Virtual Apps and Desktops サービス) および Citrix Virtual Apps and Desktops 環境、および物理ワークステーションで使用する MSIX アプリのアタッチを設定できます。ユーザーにシームレスな MSIX アプリのアタッチベースのアプリケーションエクスペリエンスを提供するために、MSIX アプリのアタッチデータを Profile Management でローミングできます。

セットアッププロセスには以下のステップが含まれます:

- スクリプトタスクの作成
- 外部タスクを作成する
- Profile Management の構成

前提条件

開始する前に、次の操作を行う必要があります。

- MSIX アプリアタッチコンテナ (VHDX ファイル) を、Citrix DaaS または Citrix Virtual Apps and Desktops がアクセスできるファイル共有に配置します。MSIX アプリケーションを含む VHDX ファイルを準備するには、[MSIX パッケージツール](#)と[MSIXMGR ツール](#)を使用します。

- [MSIX アプリアタッチ用の PowerShell スクリプトを準備します](#)。スクリプトは、MSIX アプリのアタッチの起動、シャットダウン、サインイン、およびサインアウト時に実行される、ステージング、デステージ、登録、および登録解除の 4 つの異なるフェーズに対応しています。

スクリプトタスクの作成

スクリプト化されたタスクを使用して、MSIX アプリケーションのマウント、ステージング、デステージング、アンマウントなどの機能を実装します。また、スクリプトタスク機能をマシンの起動時とシャットダウン時に起動トリガーとシャットダウントリガーとともに使用して、同じ機能セットを実行することもできます。

以下の情報は、「[スクリプトタスクの起動トリガーとシャットダウントリガーの設定](#)」のガイダンスを補足するものです。

スクリプト化されたタスクを作成するには、その記事の一般的なガイダンスに従い、MSIX アプリのアタッチシナリオに固有の詳細に注意してください。

Web コンソールの [**Web** コンソール] > [スクリプトタスク] で、次の 2 つのタスクを追加します：

- MSIX VHD ファイルをマウントし、マシンの起動時に MSIX アプリパッケージをステージングするタスク。

Add scripted task

Task name

Description

Tags

File type

Upload file

 [Browse](#)

Grant permissions ?

Working folder ?

Does this task generate output files?

Yes No

Output path ?

[Save](#) [Cancel](#)

詳細については、「[スクリプト化されたタスクの追加](#)」を参照してください。

- マシンの起動時に、このスクリプトタスクのトリガーを設定します。

Configure scripted task
mount and stage

General

Triggers

Parameters

Output

Configure triggers for this task. To edit existing triggers, go to [Triggers](#).

Selected: Machine startup

Search [Create new trigger](#)

Machine shutdown
Machine shuts down

Machine startup
Machine starts up

Agent refresh
Agent is refreshed

Disconnect
User disconnects from machine

Lock
User locks machine

Logoff
User logs off

Logon
User logs on

Reconnect
User reconnects to machine

Unlock
User unlocks machine

Done Cancel

詳細については、「[起動トリガーとシャットダウントリガーをスクリプト化されたタスクに関連付ける](#)」を参照してください。

- MSIX VHD ファイルを削除し、マシンのシャットダウン中に MSIX アプリパッケージをデステージするタスク。

Add scripted task

Task name

Description

Tags

File type

 ▼

Upload file

 [Browse](#)

Grant permissions ?

 ▼

Working folder ?

Does this task generate output files?

Yes No

Output path ?

[Save](#) [Cancel](#)

詳細については、「[スクリプト化されたタスクの追加](#)」を参照してください。

- マシンのシャットダウン時に、このスクリプトタスクのトリガーを設定します。

Configure scripted task
destage and unmount

General

Triggers

Parameters

Output

Configure triggers for this task. To edit existing triggers, go to [Triggers](#).

Selected: Machine shutdown

Search [Create new trigger](#)

Machine shutdown
Machine shuts down

Machine startup
Machine starts up

Agent refresh
Agent is refreshed

Disconnect
User disconnects from machine

Lock
User locks machine

Logoff
User logs off

Logon
User logs on

Reconnect
User reconnects to machine

Unlock
User unlocks machine

Done Cancel

詳細については、「[起動トリガーとシャットダウントリガーをスクリプト化されたタスクに関連付ける](#)」を参照してください。

外部タスクを作成する

外部タスクを使用して、MSIX アプリケーションの登録や登録解除などの機能を実装します。

以下の情報は、「[外部タスク](#)」のガイダンスを補足するものです。

外部タスクを作成するには、MSIX アプリのアタッチシナリオに固有の詳細を念頭に置いて、その記事の一般的なガイダンスに従ってください。

レガシーコンソールの [アクション] > [外部タスク] で、次の 2 つのタスクを追加します：

- エンドユーザーがログオンしたときに MSIX アプリケーションをデスクトップセッションに登録するタスク。

Create external task

1 Task

2 Triggers

Name

Register MSIX

Description (optional)

Enter a description for your task

Enable this task?

Yes No

Task details

Path

C:\Windows\System32\WindowsPowerShell\v1.0\powershell.exe

Arguments

-Executionpolicy Bypass -File "C:\... \reg"

Task settings

Run hidden

Run once

Execution order

0

Wait for task to complete

Wait timeout (sec)

30

Next Cancel

- エンドユーザーがログオフしたときに MSIX アプリケーションをデスクトップセッションから登録解除するタスク。

Create external task

1 Task

2 Triggers

Name

Description (optional)

Enable this task?

Yes No

Task details

For guidance and examples, see the [product documentation](#).

Path

Arguments

Task settings

Run hidden

Run once

Execution order ?

 ^ v

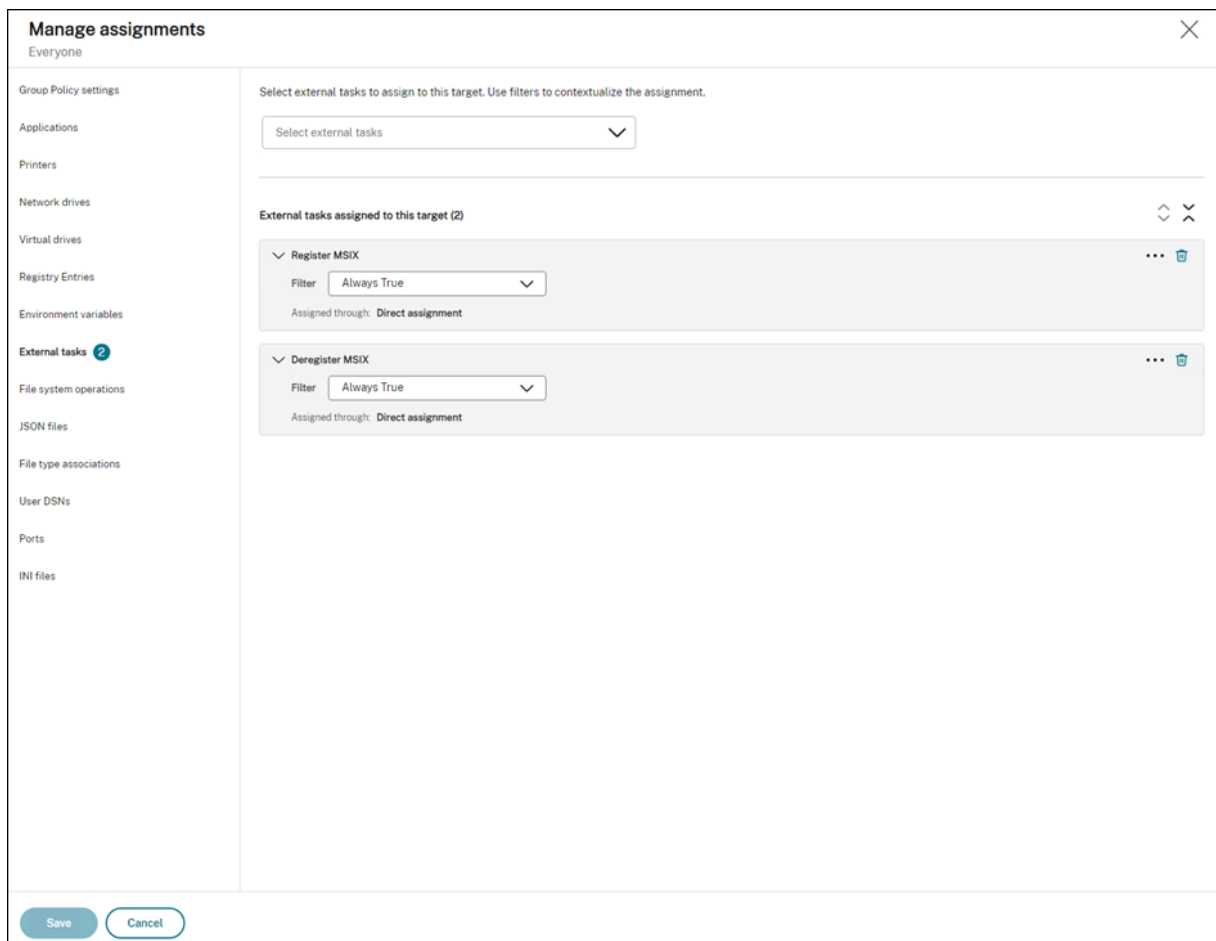
Wait for task to complete

Wait timeout (sec) ?

 ^ v

Next **Cancel**

その後、MSIX アプリアタッチを有効にするターゲットユーザーに 2 つのタスクを割り当てます。外部タスクの割り当てについては、「[割り当て](#)」を参照してください。デスクトップマシンで実行されている WEM エージェントがタスクを実行し、デスクトップセッションで MSIX アプリにアクセスできるようにします。



Profile Management の構成

MSIX アプリデータは、ユーザーセッションのユーザープロファイルに保存されます。MSIX アプリデータを非永続デスクトップに保持したり、デスクトップ間でデータをローミングしたりするには、ProProfile Management を使用できます。Profile Management を使用してプロファイルの移動を構成する方法については、「[Citrix ProProfile Management の設定](#)」を参照してください。

Profile Management ヘルスチェックを構成する

October 20, 2022

Workspace Environment Management (WEM) は、Citrix Profile Management がエージェントマシンで最適に構成されているかどうかを確認できます。

Profile Management が正常に動作していても、[Web コンソール > 監視 > 管理 > エージェント](#)でヘルスチェックが警告ステータスを返すことがあります。このステータスは、すべての Profile Management 設定が推奨設定され

ているわけではないことを示します。ユーザーエクスペリエンスが低下する可能性があります。

この問題に対処するには、次のいずれかの方法を使用します。

- 関連する構成セットの下の「プロファイル」 > 「**Profile Management** 設定」で設定を変更します。
- Profile Management ヘルスチェックレポートの対象となる設定の範囲を構成します。

前提条件

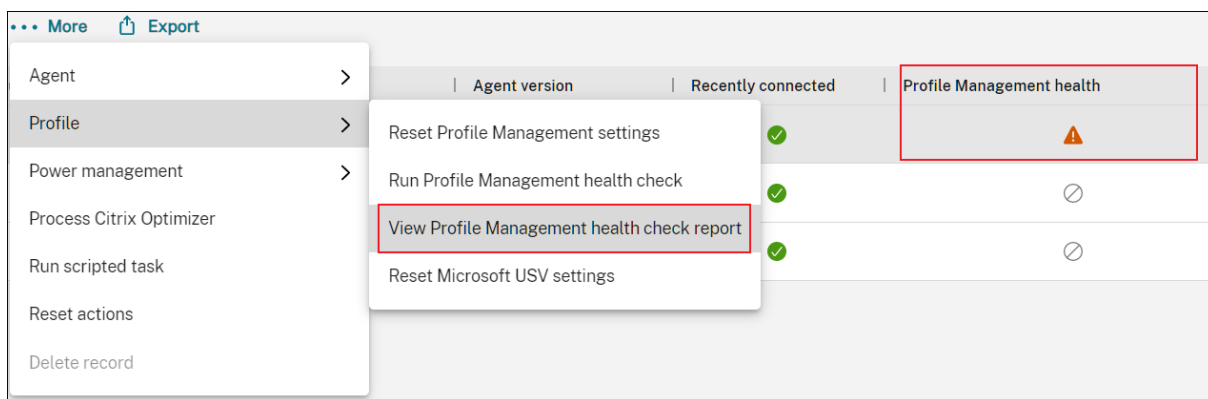
始める前に、次のことを確認してください。

- Profile Management がエージェントマシンにインストールされ、有効になっています。
- ユーザーストアへのパスは有効です。
- WEM エージェントのバージョンは 2205.1.0.1 以降です。

Profile Management 正常性を確認する

Web コンソールで、[監視] > [管理] > [エージェント] に移動し、[Profile Management の状態] 列を確認します。ヘルスステータスの詳細については、「[管理](#)」を参照してください。

エージェントの詳細なヘルスチェックレポートを表示するには、エージェントを選択し、[その他] > [プロファイル] > [Profile Management ヘルスチェックレポートの表示] を選択します。



レポートには、検出された問題と修正の推奨事項が含まれます。問題ごとに、関連する構成セットの下にある [プロファイル] > [Profile Management 設定] に移動し、それに応じて設定を変更します。問題を却下するには、[詳細設定] > [監視設定] に移動し、レポートの対象となる設定の範囲を指定します。

Profile Management health check ✕

Aug 7, 2022, 2:55:47 PM

Details Raw data

Results

i To change your Profile Management settings, go to [Profile Management Settings](#). To customize which aspects to cover in a report, go to [Advanced Settings > Monitoring Preferences](#).

Warnings (6)

⚠ **Profile Management Basic Settings > Enable active write back: the effective setting "Disabled" does not match the preferred setting "Enabled".**

We recommend that you enable this setting to prevent loss of profile changes in the event of power outages.

⚠ **Profile Management Advanced Settings > Process Internet cookie files on logoff: the effective setting "Disabled" does not match the preferred setting "Enabled".**

We recommend that you enable this setting to prevent cookie bloat.

問題が見つからない場合、ヘルスチェックは良好なステータスを返し、Profile Management が良好な状態であることを示します。

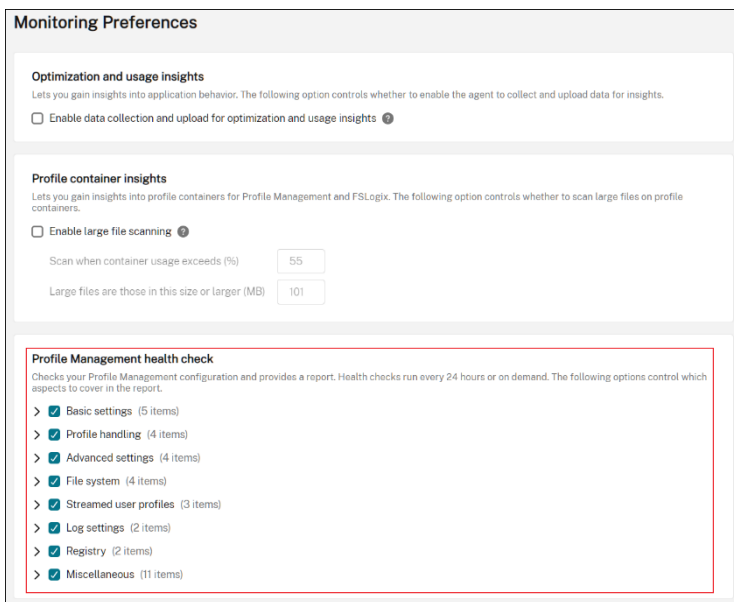
注:

問題がエラーの場合は、関連する構成セットの「プロファイル」>「**Profile Management** 設定」で修正する必要があります。そうしないと、Profile Management が正しく機能しません。

レポートでカバーする設定の範囲をカスタマイズする

ヘルスチェックレポートの対象となる設定の範囲をカスタマイズするには、関連する構成セットの下の **[詳細設定]** > **[監視設定]** に移動します。

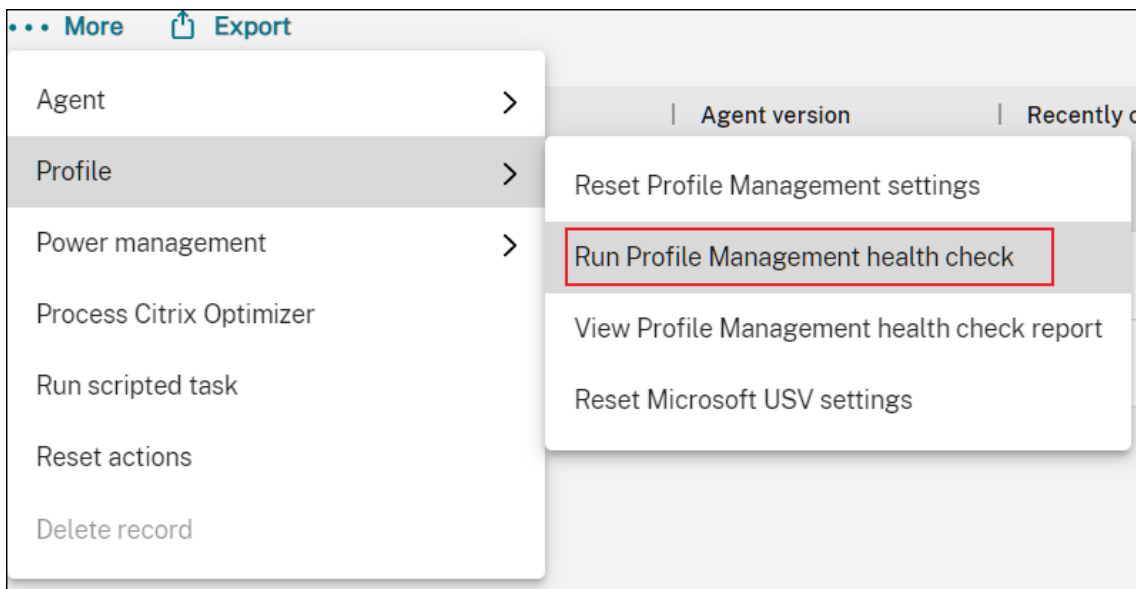
既定では、すべての設定が含まれています。詳細については、「[詳細設定](#)」を参照してください。



Profile Management ヘルスチェックをオンデマンドで実行する

エージェントマシンで Profile Management ヘルスチェックをオンデマンドで実行するには、次の手順に従います。

1. Web コンソールで、[監視] > [管理] > [エージェント] に移動し、エージェントを選択して、[その他] > [プロフィール] > [Profile Management ヘルスチェックの実行] を選択します。



2. 表示されるウィザードで、ヘルスチェックレポートの対象となる設定の範囲を変更するかどうかを選択し、[実行] をクリックします。

注:

ここで行った変更は、生成されるヘルスチェックレポートにのみ影響します。

Run Profile Management health check ✕

Select which aspects to cover in the health check report.

- > Basic settings (5 items)
- > Profile handling (4 items)
- > Advanced settings (4 items)
- > Log settings (2 items)
- > Registry (2 items)
- > File system (4 items)
- > Streamed user profiles (3 items)
- > Miscellaneous (11 items)

Profile Management で使用する SMB 共有を構成する

February 13, 2023

Citrix Profile Management でユーザープロファイルを管理する管理者として、ファイル共有をユーザーストアとして指定する必要があります。

現在のユーザーがアクセス権限を持たないストレージリポジトリ (Azure Files など) にユーザーストアを配置する場合があります。Workspace Environment Management (WEM) を使用してストレージリポジトリへの SMB 接続を確立すると、その目的が達成されます。これにより、Profile Management はユーザーストアにアクセスできるようになります。

セットアッププロセスには以下のステップが含まれます。

- SMB 共有を構成する
- Profile Management の構成

前提条件

開始する前に、次の操作を行います。

- WEM エージェントがアクセスできるファイル共有を準備します。

SMB 共有を構成する

以下の情報は、[SMB 共有を補足するものです](#)。その記事の一般的なガイダンスに従い、以下の詳細を念頭に置いてください。

1. Web コンソールで、関連する構成セットの下の **[詳細設定]** > **[ファイル共有]** に移動し、準備した SMB 共有を追加します。

Add SMB share ✕

Enter an SMB share and credentials of an administrator with permission to access that share.

SMB share ?

User name

Password

Done
Cancel

2. Profile Management サービスで使用する SMB 共有を選択します。

File Shares

SMB shares

Lets you add SMB shares to which Workspace Environment Management can connect. You can then configure shares for desired features so that those features can use the shares as needed. Using SMB shares reduces traffic on networks and reduces the time to download files to agent machines. [Learn more](#)

SMB share	User name	
\\[redacted]\ShareFolder	[redacted]\administrator	✎ 🗑

+ Add SMB share

Select SMB shares for the following features to use. ?

Agent upgrade None ▼

Scripted tasks None ▼

Select SMB shares for relevant services to use. ?

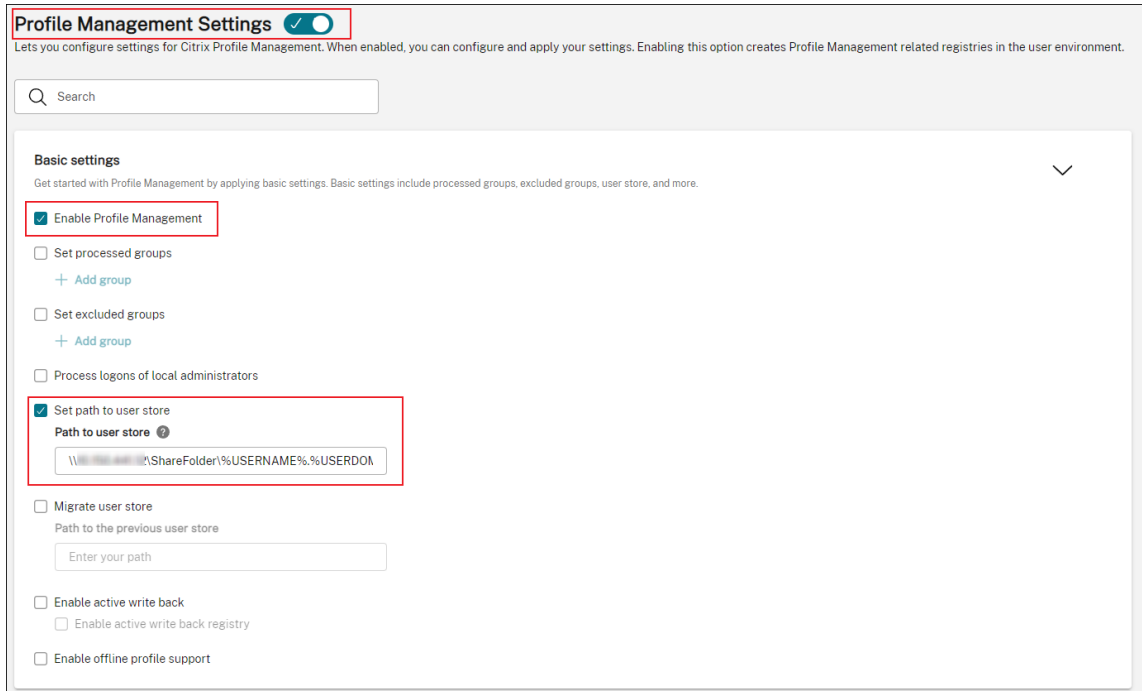
1 selected ▼

\\[redacted]\ShareFolder

Profile Management の構成

以下の情報は、「[Citrix Profile Management 設定](#)」のガイダンスを補足するものです。その記事の一般的なガイダンスに従い、以下の詳細を念頭に置いてください。

1. Web コンソールで、関連する構成セットの下にある「プロファイル」 > 「**Profile Management 設定**」に移動し、「**Profile Management 設定**」を有効にします。
2. 基本設定に移動し、Profile Management を有効にして、ユーザーストアへのパスを設定します。



Profile Management Settings

Lets you configure settings for Citrix Profile Management. When enabled, you can configure and apply your settings. Enabling this option creates Profile Management related registries in the user environment.

Search

Basic settings

Get started with Profile Management by applying basic settings. Basic settings include processed groups, user store, and more.

Enable Profile Management

Set processed groups
+ Add group

Set excluded groups
+ Add group

Process logons of local administrators

Set path to user store
Path to user store ⓘ
\\<redacted>\ShareFolder1%USERNAME%%USERDON

Migrate user store
Path to the previous user store
Enter your path

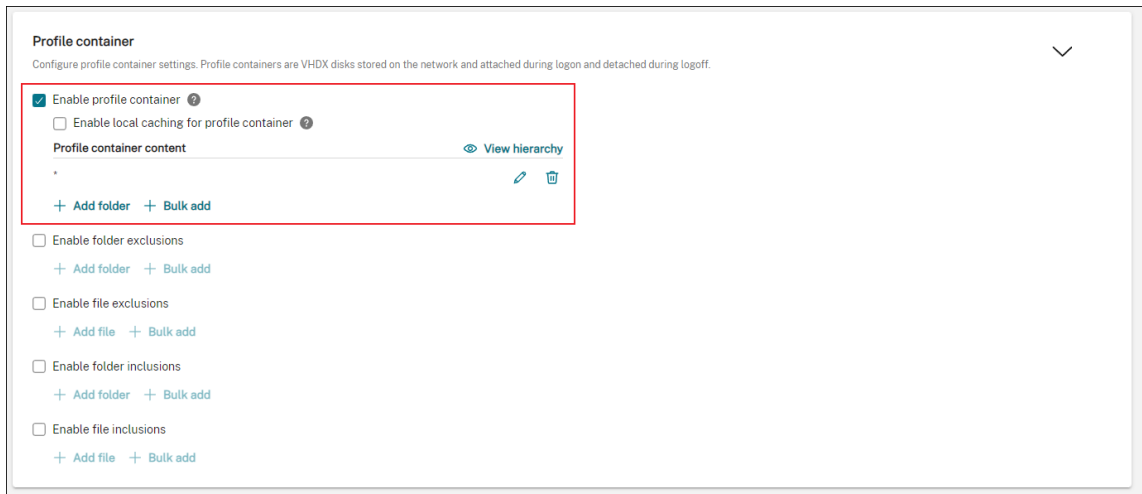
Enable active write back
 Enable active write back registry

Enable offline profile support

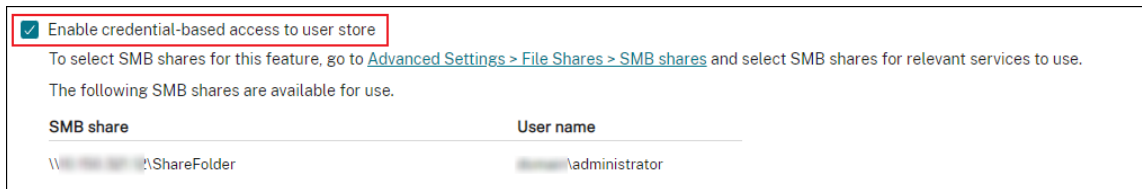
3. [プロファイルコンテナ]に移動し、プロファイルコンテナを有効にして、アスタリスク (*) を追加します。

注:

アスタリスク (*) を追加すると、ユーザープロファイル全体がプロファイルコンテナに配置されます。これにより、NTFS アクセス許可が確実に保持されます。



4. **【詳細設定】** に移動し、ユーザーストアへの資格情報ベースのアクセスを有効にします。



詳しくは、「[ユーザーストアへの資格情報ベースのアクセスを有効にする](#)」を参照してください。

スクリプト化されたタスクの起動トリガーとシャットダウンのトリガーを設定

February 13, 2023

管理者は、オペレーティングシステムの起動時またはシャットダウン時に、構成タスクやクリーンアップタスクなどのシステムレベルのタスクを実行したい場合があります。

Workspace Environment Management (WEM) では、スクリプト化されたタスクに関連付けることができるマシンの起動およびシャットダウンのトリガーが提供されます。タスクは、オペレーティングシステムが起動またはシャットダウンしたときに実行されます。

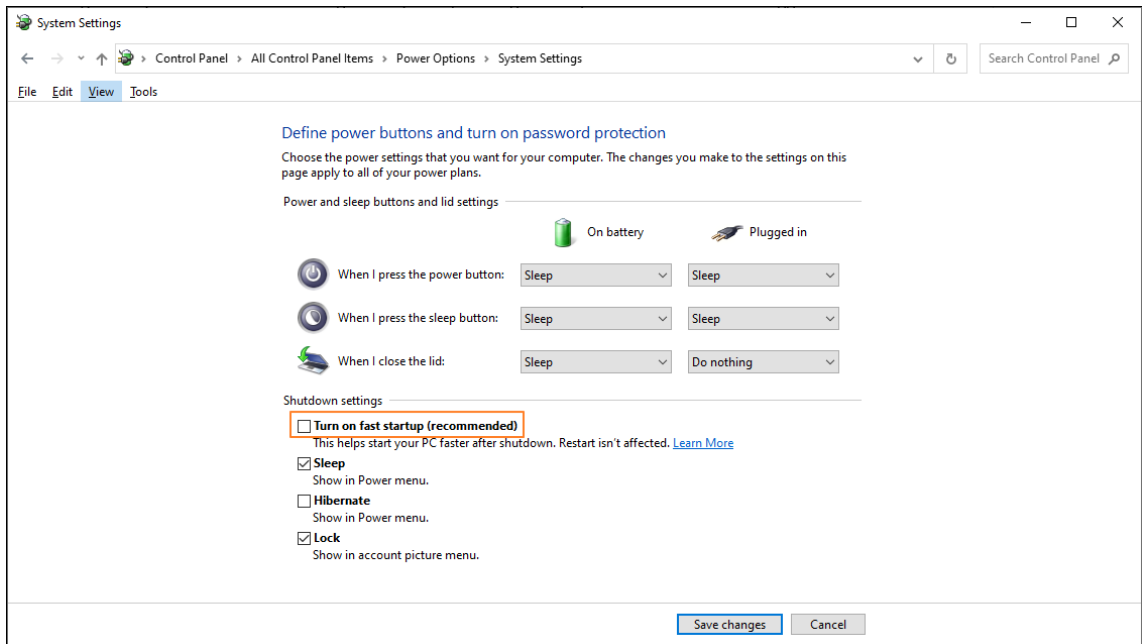
目標を達成するための一般的なワークフローは次のとおりです。

1. スクリプト化されたタスクを追加する
2. 起動トリガーとシャットダウントリガーをスクリプトタスクに関連付ける
3. タスク実行レポートを表示する

前提条件

始める前に、次のことを確認してください。

- ターゲットマシンの高速起動はオフになっています。例:Windows 10 マシンでは、[コントロールパネル] > [すべてのコントロールパネル項目] > [電源オプション] > [システム設定] に移動し、[高速起動を有効にする] オプションを無効にします。このオプションは起動処理にのみ影響します。



- スクリプト化されたタスクは信頼できる証明書で署名され、証明書はターゲットマシンにインストールされます。

推奨

スクリプト化されたタスクには、信頼できる証明書を使用して署名することをお勧めします。

スクリプト化されたタスクを追加する

次の情報は、「スクリプトタスク」のガイダンスを補足するものです。その記事の一般的なガイダンスに従い、以下の詳細を念頭に置いてください。

この例では、2つのスクリプトタスクを追加します。

- タスク 1: `startupscript` -起動時に実行するスクリプトが含まれます。
- タスク 2: `shutdownscript` -シャットダウン時に実行するスクリプトが含まれます。

ヒント:

2つのスクリプトを1つにまとめることができるため、タスクを1つ追加するだけで済みます。

1. [**Web** コンソール] > [スクリプトタスク] で、まず次のように `startupscript` タスクを追加します。

Add scripted task

Task name

Description

Tags

File type

Upload file

 [Browse](#)

Grant permissions ?

Working folder ?

Does this task generate output files?

Yes No

Output path ?

この例の構成は次のとおりです。

- [ファイルタイプ] で [PowerShell] を選択します。
- PowerShell ファイルを参照してアップロードします。
- [権限の付与] で [フルアクセス] を選択します。

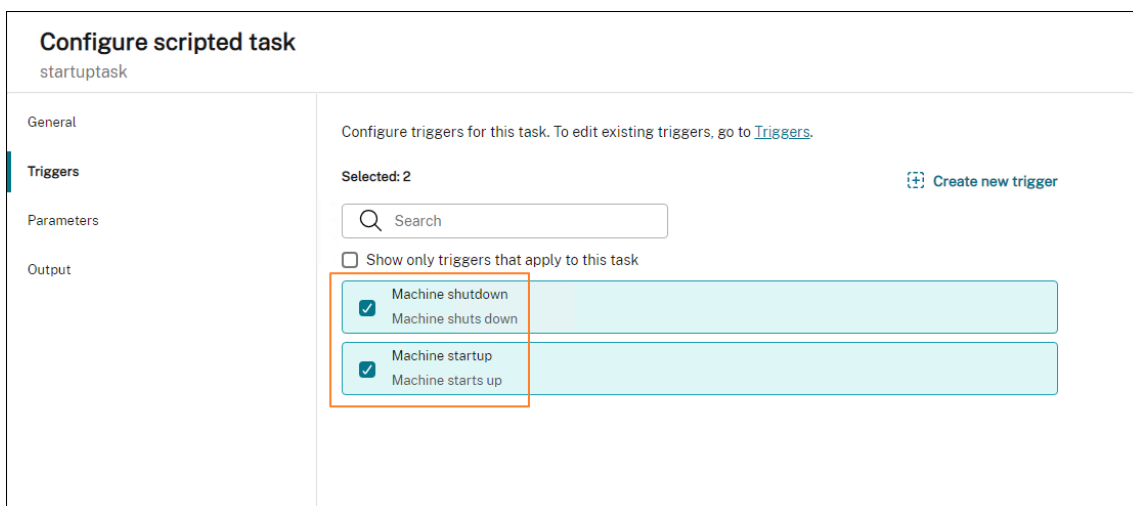
2. 手順 1 を繰り返して shutdownscript タスクを追加します。

起動トリガーとシャットダウントリガーをスクリプトタスクに関連付ける

次の情報は、「スクリプトタスク設定」のガイダンスを補足するものです。その記事の一般的なガイダンスに従い、以下の詳細を念頭に置いてください。

関連する設定セットに移動し、スクリプトタスク設定に移動して、次のように 2 つのタスクを設定します。

- [トリガー] で、startupscript タスクに [マシン起動] を選択し、shutdownscript タスクに [マシンのシャットダウン] を選択します。



変更をすぐに有効にするには、[監視] > [管理] > [エージェント] に移動し、[エージェントホスト設定の更新] を選択します。

タスク実行レポートを表示する

タスクが正常に実行されたら、レポートを確認して結果を確認できます。詳細については、「レポート」を参照してください。この例では、次の 2 つのレポートが表示されます。1 つはシャットダウン用、もう 1 つは起動用です。

Reports
Provides the following reports that let you analyze your deployments. Each report appears as a table record. You can apply filters to filter reports.

Columns to display Refresh Filter

Event time (UTC+09:00)	Event type	Result code	Result summary	Severity	Agent	Use	Configuration set
Sep 6, 2022, 5:46:03 PM	Scripted task	0	Scripted task "[Sub]Subtask" ran on agent "HAOPINGC-AGENT3" successfully.	Info	HAOPINGC-AGENT3		Default Site
Sep 6, 2022, 5:48:24 PM	Scripted task	0	Scripted task "[Sub]Subtask" ran on agent "HAOPINGC-AGENT3" successfully.	Info	HAOPINGC-AGENT3		Default Site
Sep 5, 2022, 11:56:53 PM	Optimization and usage		Optimization and usage report unloaded by agent	Info	HAOPINGC-AGENT3		Default Site
Sep 4, 2022, 11:59:18 PM	Optimization and usage		Optimization and usage report unloaded by agent	Info	HAOPINGC-AGENT3		Default Site
Sep 3, 2022, 11:56:03 PM	Optimization and usage		Optimization and usage report unloaded by agent	Info	HAOPINGC-AGENT3		Default Site
Sep 2, 2022, 11:52:47 PM	Optimization and usage		Optimization and usage report unloaded by agent	Info	HAOPINGC-AGENT3		Default Site
Sep 1, 2022, 11:59:34 PM	Optimization and usage		Optimization and usage report unloaded by agent	Info	HAOPINGC-AGENT3		Default Site

WEM を使用して DaaS でプロビジョニングされたドメインに参加していないマシンを管理

January 17, 2023

Workspace Environment Management (WEM) を使用して、Citrix DaaS でプロビジョニングされたドメイン結合されていないマシンを管理できます。

目標を達成するには、次の操作を行います。

1. [**DaaS**] > [管理] > [フル構成] > [マシンカタログ] に移動して、WEM を使用して管理するカタログを探します。
2. カタログを選択し、アクションバーの [構成セットの管理] を選択します。
3. カタログをバインドする構成セットを選択します。
4. WEM では、構成セットを構成してマシンに設定を適用します。

前提条件

開始する前に、次の前提条件が満たされていることを確認してください。

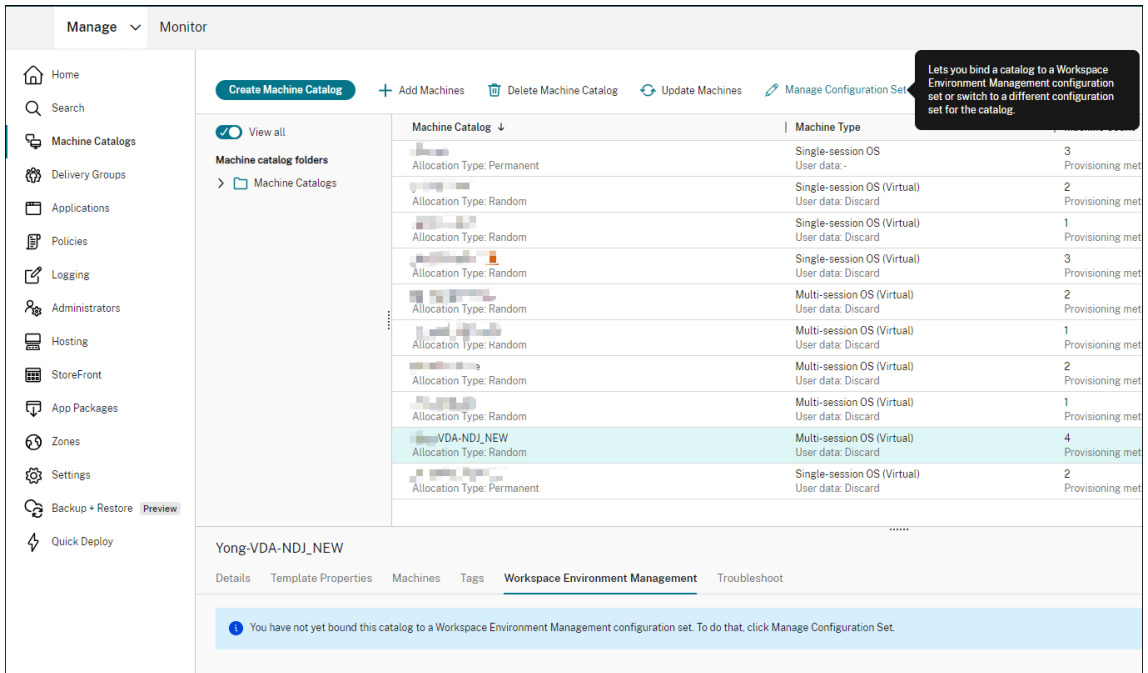
- WEM エージェントバージョン 2103.2.0.1 またはそれ以降。
- 「構成をスキップ」を選択した状態でインストールされたエージェント。[エージェントのインストールを参照してください。](#)

カタログの構成セットの管理

カタログの構成セットを管理するには、次の操作を行います。

1. Citrix Cloud にサインインします。
2. [マイサービス] > [**DaaS**] > [管理] > [フル構成] > [マシンカタログ] に移動します。

3. カタログを選択し、アクションバーの [構成セットの管理] を選択します。「構成セットの管理」ブレードが表示されます。

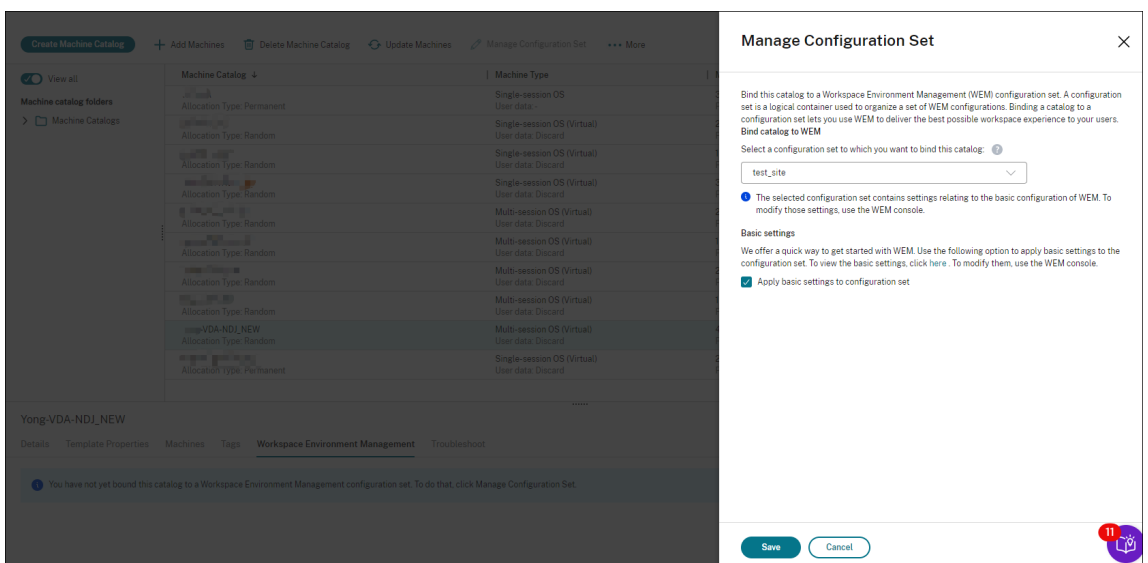


4. カタログをバインドする構成セットを選択します。

注:

選択した構成セットが WEM の基本構成に関連する設定を含むように構成されていない場合、[基本設定を構成セットに適用] オプションが表示されます。基本設定を構成セットに適用するオプションを選択することをお勧めします。

5. 終了したら、[保存] をクリックして変更を保存し、ブレードを終了します。



カタログがどの構成セットにバインドされているかを確認するには、カタログを選択し、下部ペインの「**Workspace Environment Management**」タブを確認します。このタブには、カタログがバインドされている構成セットが表示されます。

The screenshot shows the 'Machine Catalogs' section in the Workspace Environment Management console. The top navigation bar includes 'Create Machine Catalog', '+ Add Machines', 'Delete Machine Catalog', 'Update Machines', 'Manage Configuration Set', and 'More'. On the left, there is a sidebar with 'View all' and 'Machine catalog folders' containing 'Machine Catalogs'. The main area displays a table of machine catalogs with columns for 'Machine Catalog' and 'Machine Type'. The 'Yong-VDA-NDJ_NEW' catalog is highlighted in teal. Below the table, the 'Workspace Environment Management' tab is selected, showing the configuration set 'test_site'.

Machine Catalog	Machine Type
Allocation Type: Permanent	Single-session OS User data: -
Allocation Type: Random	Single-session OS (Virtual) User data: Discard
Allocation Type: Random	Single-session OS (Virtual) User data: Discard
Allocation Type: Random	Single-session OS (Virtual) User data: Discard
Allocation Type: Random	Multi-session OS (Virtual) User data: Discard
Allocation Type: Random	Multi-session OS (Virtual) User data: Discard
Allocation Type: Random	Multi-session OS (Virtual) User data: Discard
Allocation Type: Random	Multi-session OS (Virtual) User data: Discard
Allocation Type: Random	Multi-session OS (Virtual) User data: Discard
Allocation Type: Random	Multi-session OS (Virtual) User data: Discard
Allocation Type: Random	Multi-session OS (Virtual) User data: Discard
Allocation Type: Random	Multi-session OS (Virtual) User data: Discard
Allocation Type: Permanent	Single-session OS (Virtual) User data: Discard

詳細については、DaaS ドキュメントの「[カタログの構成セットの管理](#)」を参照してください。

ドメインに参加していないマシンに設定を適用

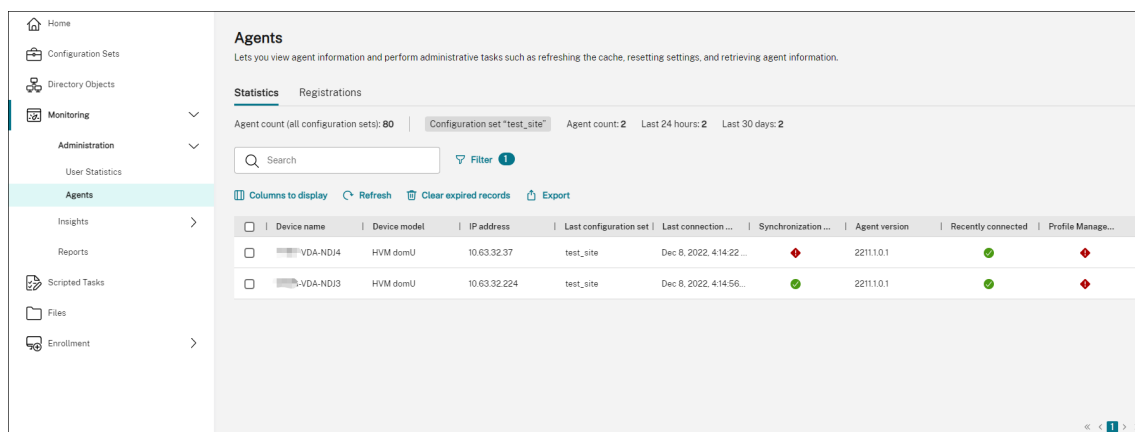
設定を行う前に、まず WEM で関連情報を表示できます。

- DaaS で、[管理] > [環境管理 (Web)] に移動します。
- ディレクトリオブジェクトで、ドメインに参加していないマシンと、それらのマシンがバインドされている構成セットを確認します。

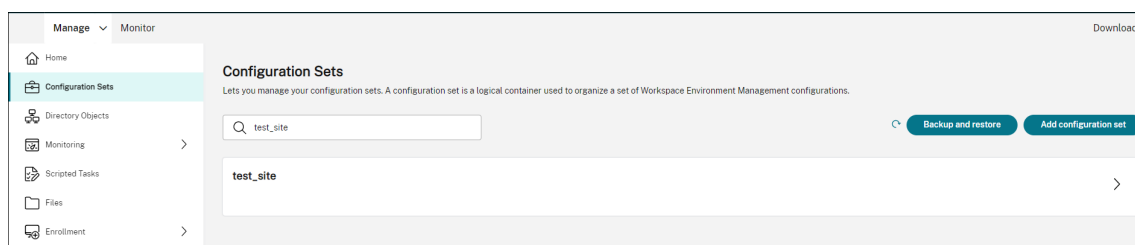
The screenshot shows the 'Directory Objects' page in the Workspace Environment Management console. The left sidebar has 'Directory Objects' selected. The main area shows a table of directory objects with columns for 'Name', 'Type', 'Description', 'Configuration set', 'Distinguished name', and 'State'. The 'Yong-VDA-NDJ_NEW' object is listed with 'Machine catalog' as the type and 'test_site' as the configuration set. The 'State' column has a toggle switch that is currently turned on.

Name	Type	Description	Configuration set	Distinguished name	State
Yong-VDA-NDJ_NEW	Machine catalog		test_site		On

- **[監視] > [エージェント]** で、ドメイン以外のマシンを表示します。

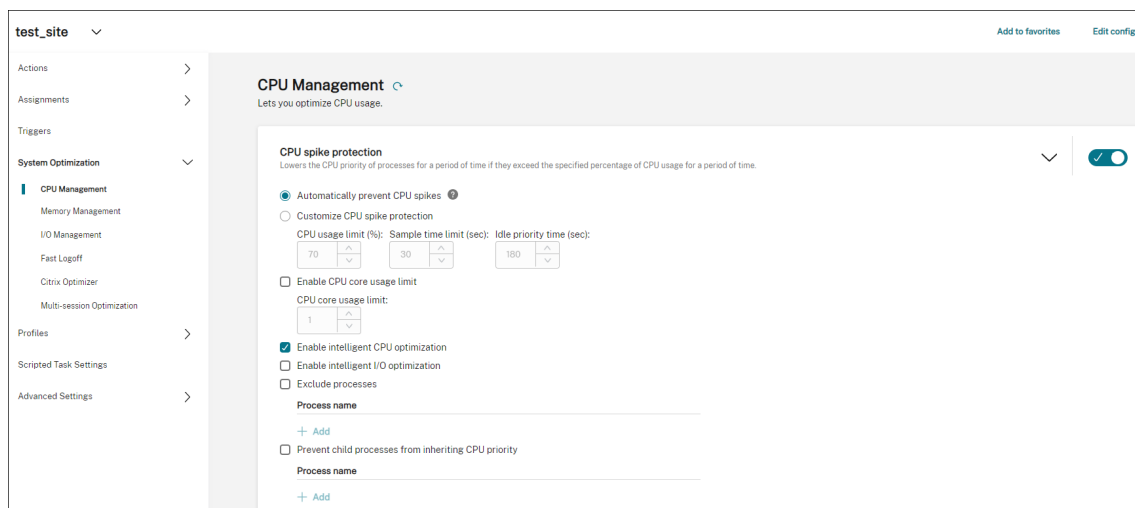


- 「構成セット」で、ターゲットの構成セットをクリックします。



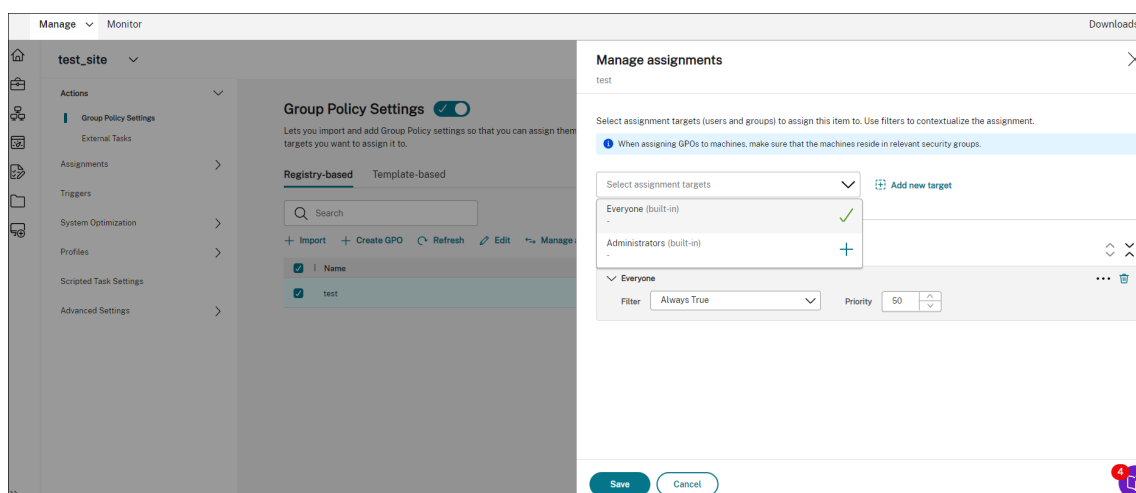
- システム最適化で、必要に応じて設定を調整して適用します。

この例では、一部の設定が有効になっています。DaaSで「基本設定を構成セットに適用」オプションが選択されているため、これらの設定は自動的に構成されます。



その後、構成セットを構成することで、ドメインに参加していないマシンに設定を適用できます。たとえば、それらにポリシーを適用できます。

- **[アクション] > [グループポリシー設定]** で GPO を選択し、**[割り当ての管理]** をクリックして **[全員]** を選択します。



ドメインに参加していないマシンに移動して、ポリシーが有効になっていることを確認できます。必要に応じて他のアクションを割り当てることもできます。ドメインに参加していないマシンに設定を適用するには、必ず **Everyone** を選択してください。

追加情報

- [ドメイン非参加カタログの作成](#)
- [カタログの構成セットの管理](#)

プロセス階層制御を使用して **Citrix Workspace** 環境を保護する

August 30, 2022

Citrix Workspace 環境では、一部のアプリケーションが意図したとおりに起動されない場合があります。この状況は、特に CMD や PowerShell などの強力な Windows ツールが起動されている場合、セキュリティ上のリスクをもたらす可能性があります。

管理者として、許可されたアプリケーションの起動のみにユーザーを制限したい場合があります。Workspace Environment Management (WEM) には、エンドユーザーが子プロセスを起動できないようにするプロセス階層制御機能があります。

Citrix Workspace 環境で、特定の子プロセスを親プロセスから起動できるかどうかを制御できます。この機能は、意図しないプロセスが公開アプリケーションを介して実行されないようにする場合に役立ちます。

この記事では CMD を例として使用します。プロセス階層制御を使用すると、Citrix 仮想アプリ環境で CMD が公開アプリから開始されないようにすることで、Citrix 仮想アプリ環境で CMD を介して起動される攻撃から保護できます。この機能を使用する一般的なワークフローは次のとおりです。

1. WEM エージェントでプロセス階層制御を有効にする
2. WEM コンソールでプロセス階層制御ルールを構成する

推奨

アプリケーションを公開するには、WEM ツール **VuemAppCmd** を使用することをお勧めします。このツールは、公開アプリケーションが起動する前に WEM エージェントがプロセス階層制御ルールの処理を完了することを保証します。

完全構成管理インターフェイスを使用してアプリケーション設定を編集し、**VUEMAppCmd.exe** を指す実行可能ファイルパスを追加します。詳細については、「[アプリケーション](#)」を参照してください。

Application Settings ✕

- Identification
- Delivery
- Location**
- Groups
- Limit Visibility
- File Type Association

Location


Enter the location information below.

Enter path of the local application on the end users operating system:

Browse the applications on the local machine, or enter the path manually.

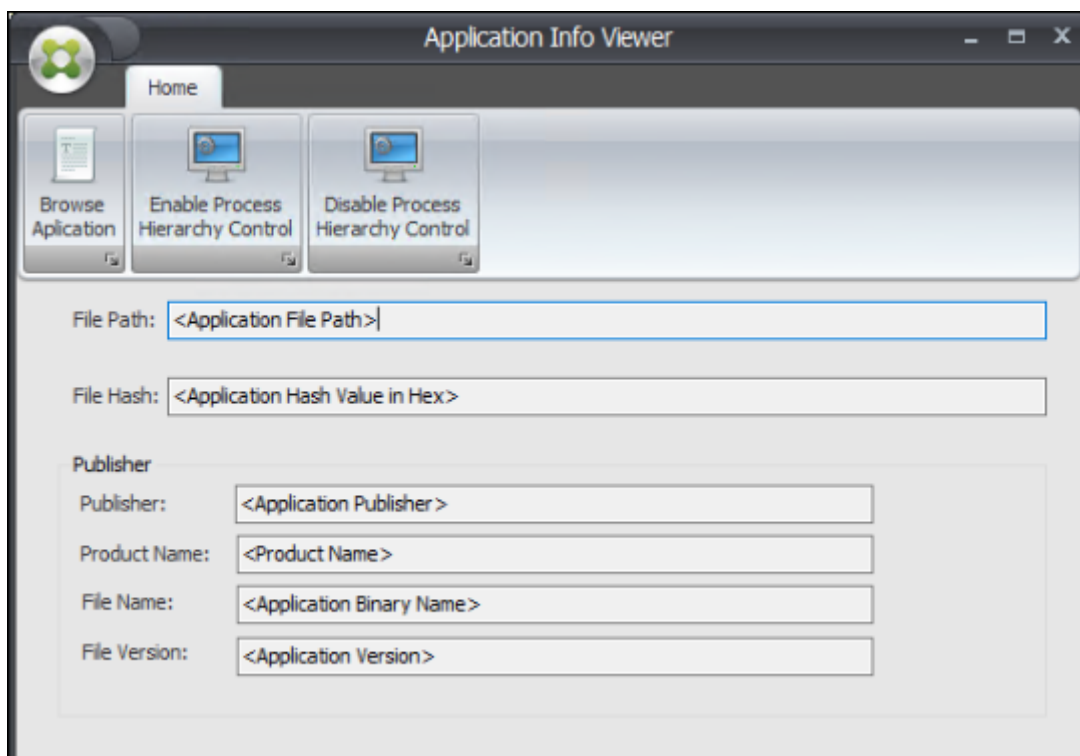
Command-line argument (optional):

Working directory:



WEM エージェントでプロセス階層制御を有効にする

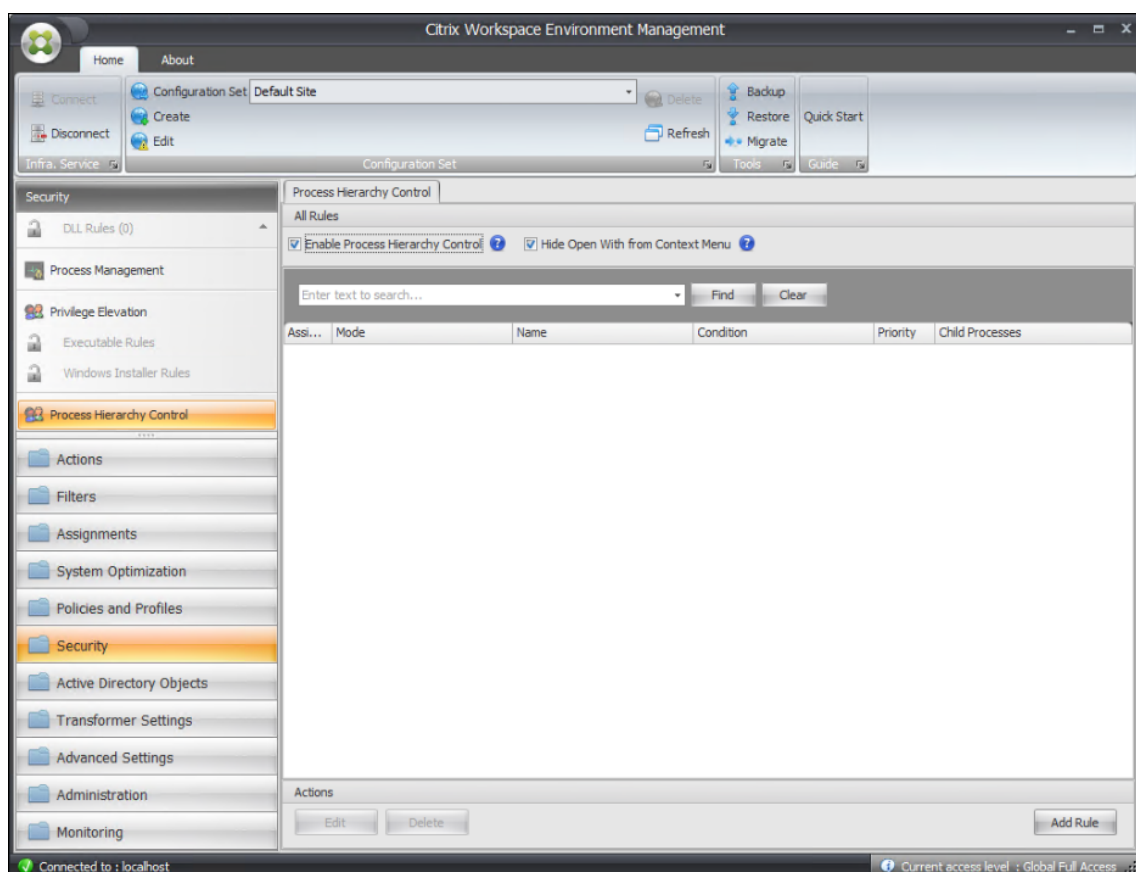
この機能を有効にするには、エージェントマシンで **AppInfoViewer** ツールを使用します。このツールは、エージェントのインストールフォルダにあります。この機能を有効または無効にした後は、マシンを再起動する必要があります。



WEM コンソールでプロセス階層制御ルールを構成する

メモ帳からの CMD の起動をブロックするとします。プロセス階層制御規則を作成するには、次の手順を実行します。

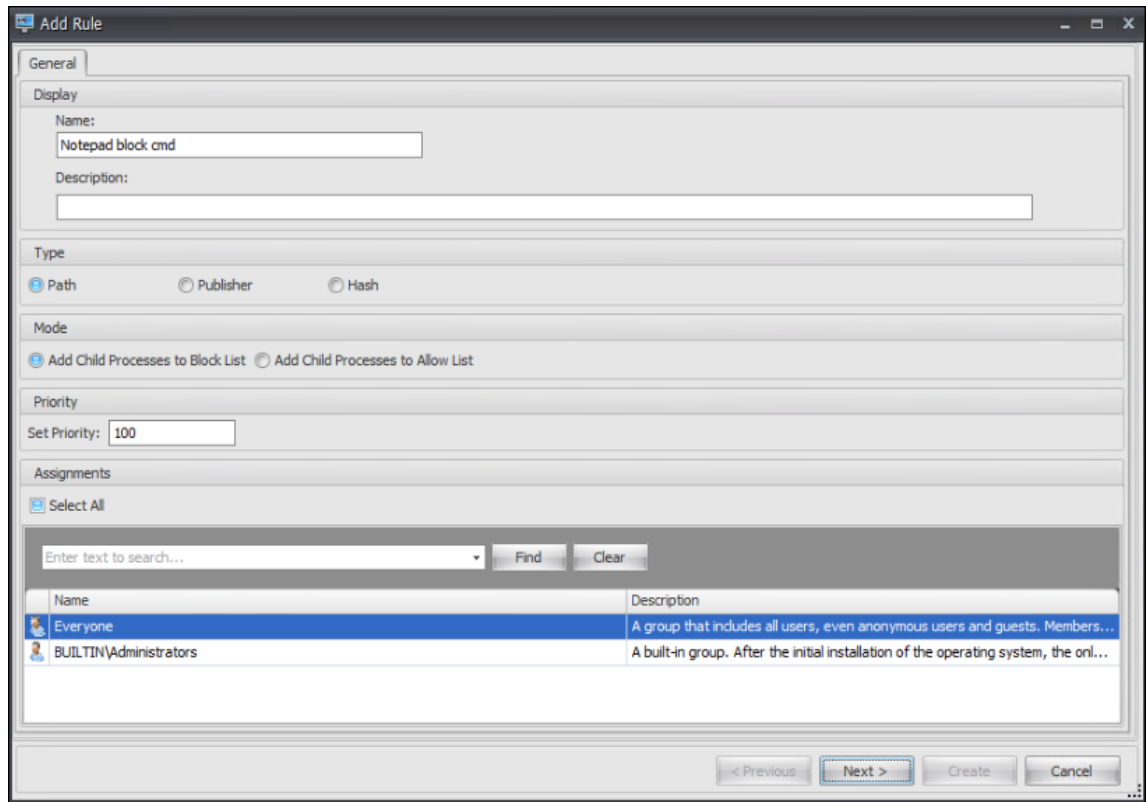
1. レガシーコンソール > セキュリティ > プロセス階層制御に移動し、プロセス階層制御を有効にするを選択します。



2. [ルールを追加] をクリックし、次のように設定を構成して、[次へ] をクリックします。

注:

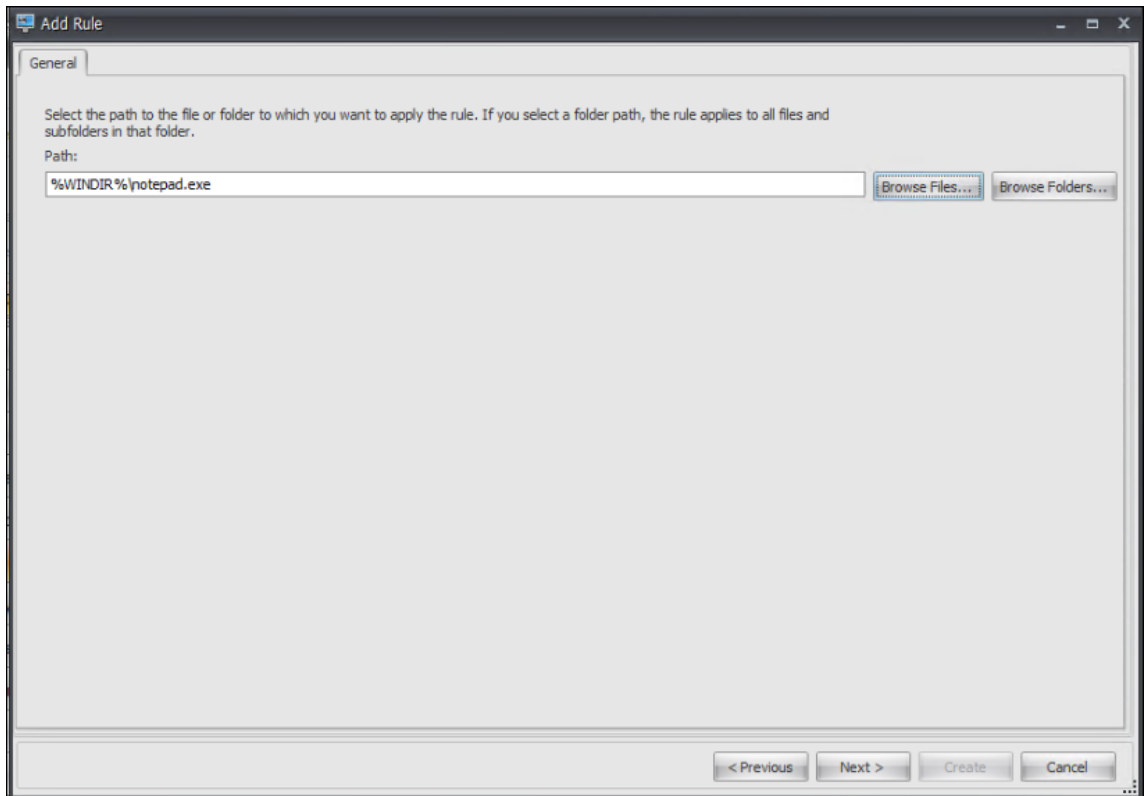
この例では、メモ帳から CMD が起動されないようにするルールを作成します。3つのルールタイプ (パス、パブリッシャー、ハッシュ) のいずれかを使用して、親プロセスと子プロセスを指定できます。[割り当て] で、ルールを適用するユーザーを選択します。設定の詳細については、「[プロセス階層制御](#)」を参照してください。



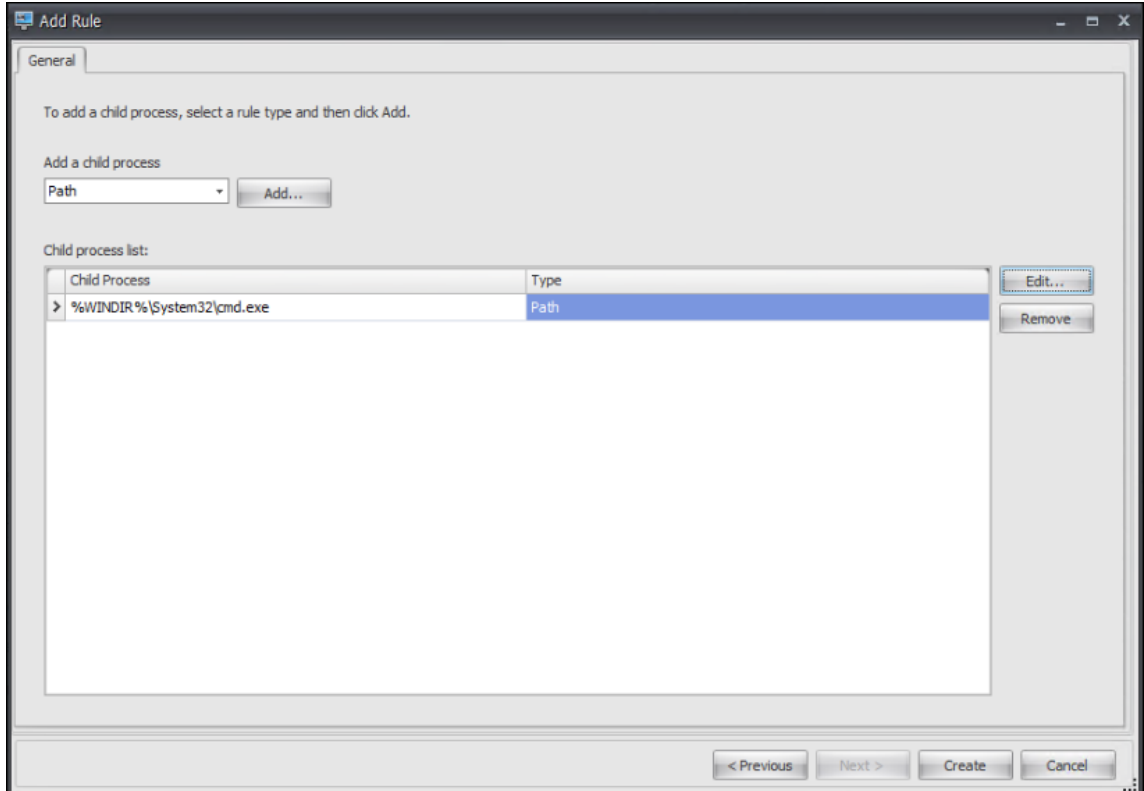
3. メモ帳を親プロセスとして構成し、[次へ]をクリックします。

注:

ユーザーインターフェイスは、手順 2 で選択したルールタイプによって異なります。



4. 必要に応じてルールに複数の子プロセスを追加し、[作成]をクリックします。



これでルールのは作成は完了です。エージェントは、Citrix Workspace 環境のメモ帳から CMD が起動するのを防ぎます。

スクリプト化されたタスクを使用して **VDA** 登録とセッション起動の問題のトラブルシューティング

February 13, 2023

管理者は、導入環境内の仮想配信エージェント (VDA) に関連する問題を事前に発見したい場合があります。この洞察は、ユーザーが影響を受ける前に問題を時間内に解決するのに役立ちます。

Workspace Environment Management (WEM) には、[Cloud Health Check](#)というスクリプトタスクが組み込まれており、チェックを実行して VDA の状態を測定できます。このタスクを使用すると、VDA 登録とセッション起動の問題の考えられる原因を特定できます。タスクを実行するたびに、詳細なヘルスチェックレポートが生成されます。レポートに基づいて、問題を適切に分析して解決できます。

タスクを設定する一般的なワークフローは次のとおりです。

1. スケジュールされたトリガーを作成します。
2. トリガーを Cloud Health Check タスクに関連付けます。
3. ヘルスチェックレポートを表示します。

スケジュールされたトリガーの作成

以下の情報は、「[トリガーの作成](#)」のガイダンスを補足するものです。スケジュールされたトリガーを追加するには、以下の詳細を念頭に置いて、その記事の一般的なガイダンスに従ってください。

関連する設定セットに移動し、「トリガー」に移動して、次のようにトリガーを作成します。

Create trigger

Name

Description (optional)

Enable this trigger?

Yes No

Trigger type

Date and time

Repeat

Yes No

Every

Summary

Every day at 02:00 starting 1/4/2023 (agent local time)

この例の構成は次のとおりです。

- トリガーにDailyRunTriggerという名前を付けます。
- [トリガータイプ]で[スケジュール済み]を選択します。
- [日付と時刻]で、タスクを2023年4月4日の02:00に実行するように設定します。
- **Repeat**では、タスクを毎日実行するように設定します。

トリガーを **Cloud Health Check** タスクに関連付ける

以下の情報は、「[スクリプトタスクの設定](#)」のガイダンスを補足するものです。クラウドヘルスチェックタスクを設定するには、以下の詳細を念頭に置いて、その記事の一般的なガイダンスに従ってください。

関連する設定セットに移動し、スクリプト化されたタスク設定に移動して、Cloud Health Check タスクを次のように設定します。

Configure scripted task
Cloud Health Check

General

Triggers

Output

Configure triggers for this task. To edit existing triggers, go to [Triggers](#).

Selected: DailyRunTrigger

Search [Create new trigger](#)

Show only triggers that apply to this task

DailyRunTrigger
Every day at 02:00 starting 1/5/2023 (agent local time)

Machine shutdown
Machine shuts down

Machine startup
Machine starts up

Done Cancel

この例では、スケジュールされたトリガーDailyRunTriggerを選択して Cloud Health Check タスクに関連付けます。

ヘルスチェックレポートを表示する

Cloud Health Check タスクはスケジュールされた時間に実行されます。完了したら、レポートを確認してヘルスチェックの結果を表示できます。詳細については、「[レポート](#)」を参照してください。

Web コンソール > ホーム > 概要では、VDA のヘルスステータスの概要を確認できます。VDA のヘルスステータスを詳細に表示するには：

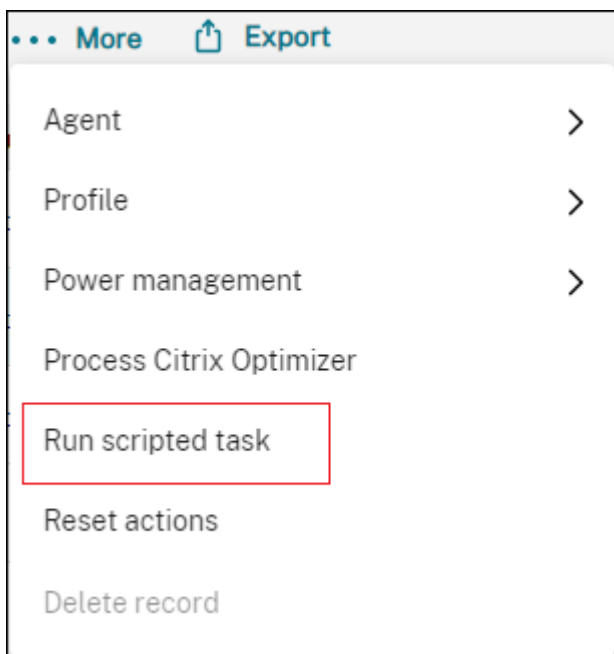
- [標準] の [表示] をクリックすると、通常の状態の VDA に関するレポートが表示されます。
- **** 異常な状態の VDA に関するレポートを表示するには ****、「不具合」の下の「表示」をクリックします。

異常な状態の VDA に関するレポートには、見つかった問題と修正に関する推奨事項が含まれます。問題を適宜解決できます。

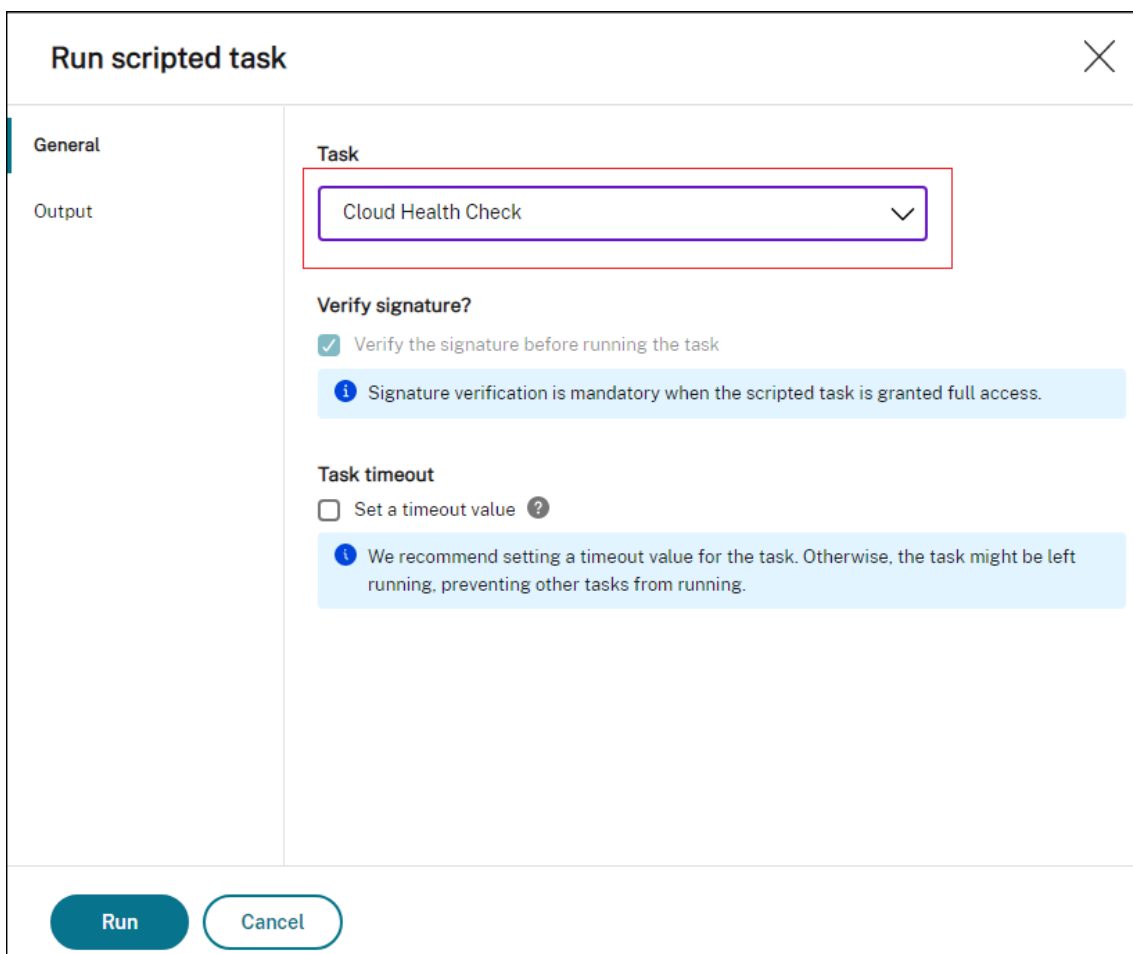
Cloud Health Check タスクをオンデマンドで実行する

WEM には、オンデマンドでエージェントマシン上でタスクを実行する方法もあります。そのためには、次の手順を実行します。

1. [監視] > [管理] > [エージェント] に移動してエージェントを選択し、[その他] > [スクリプト化されたタスクを実行] を選択します。



2. 表示されるウィザードで、タスクとして **Cloud Health Check** を選択し、「実行」をクリックします。



The screenshot shows a dialog box titled "Run scripted task" with a close button (X) in the top right corner. On the left, there are two tabs: "General" (selected) and "Output". The "Task" dropdown menu is highlighted with a red box and shows "Cloud Health Check" with a downward arrow. Below the dropdown, there are two sections: "Verify signature?" with a checked checkbox and a blue information box stating "Signature verification is mandatory when the scripted task is granted full access."; and "Task timeout" with an unchecked checkbox and a blue information box stating "We recommend setting a timeout value for the task. Otherwise, the task might be left running, preventing other tasks from running." At the bottom, there are two buttons: "Run" (dark blue) and "Cancel" (light blue).

3. タスクが完了すると、レポートを確認してヘルスチェックの結果を表示できます。詳細については、「[レポート](#)」を参照してください。

Windows イベントをトリガーとして使用して、VDA 登録の問題を検出する

February 13, 2023

管理者として、VDA 登録の問題が発生した場合、各 VDA にログオンして Citrix Health Assistant を実行し、VDA 登録の問題をトラブルシューティングする必要がある場合があります。

Workspace Environment Management (WEM) では、Windows イベントをトリガーとして使用して、VDA 登録の問題を検出できます。次に、トリガーをスクリプト化されたタスクである [Cloud Health Check](#) に関連付けます。次に、タスクが実行され、考えられる原因が特定されます。最後に、タスクレポートを使用して、それに応じて問題を解決できます。これにより、VDA 登録の問題を常に把握し、より多くのユーザーが影響を受ける前に時間内に解決できます。

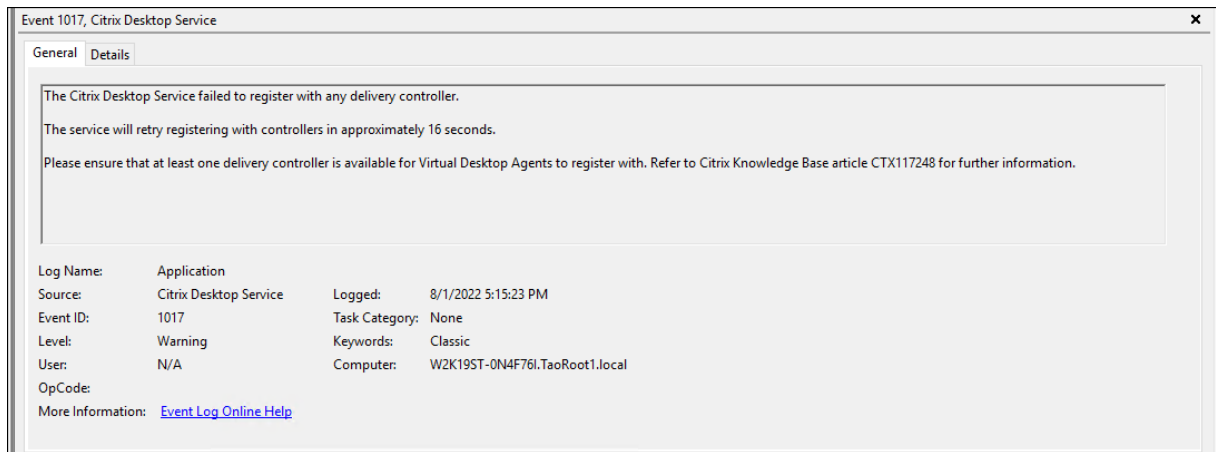
目標を達成するための一般的なワークフローは次のとおりです。

1. VDA 登録の問題に関する Windows イベントログを取得します。
2. VDA 登録の問題を検出する Windows イベントトリガーを作成します。
3. Windows イベントトリガーをタスクの Cloud Health Check に関連付けます。
4. タスク実行レポートを表示します。

Windows イベントログを取得する

未登録の VDA から発生した Windows イベントログを収集する必要があります。この情報は、VDA が登録解除される理由を理解する手がかりとなります。

以下は、未登録の VDA に関する Windows イベントログのメッセージの例です。



Windows イベントトリガーを作成する

以下の情報は、「トリガーの作成」のガイダンスを補足するものです。Windows イベントトリガーを追加するには、以下の詳細を念頭に置いて、その記事の一般的なガイダンスに従ってください。

- 関連する構成セットに移動し、[**Triggers**] に移動して、`UnregisteredEventLogTrigger` という名前のトリガーを作成します。

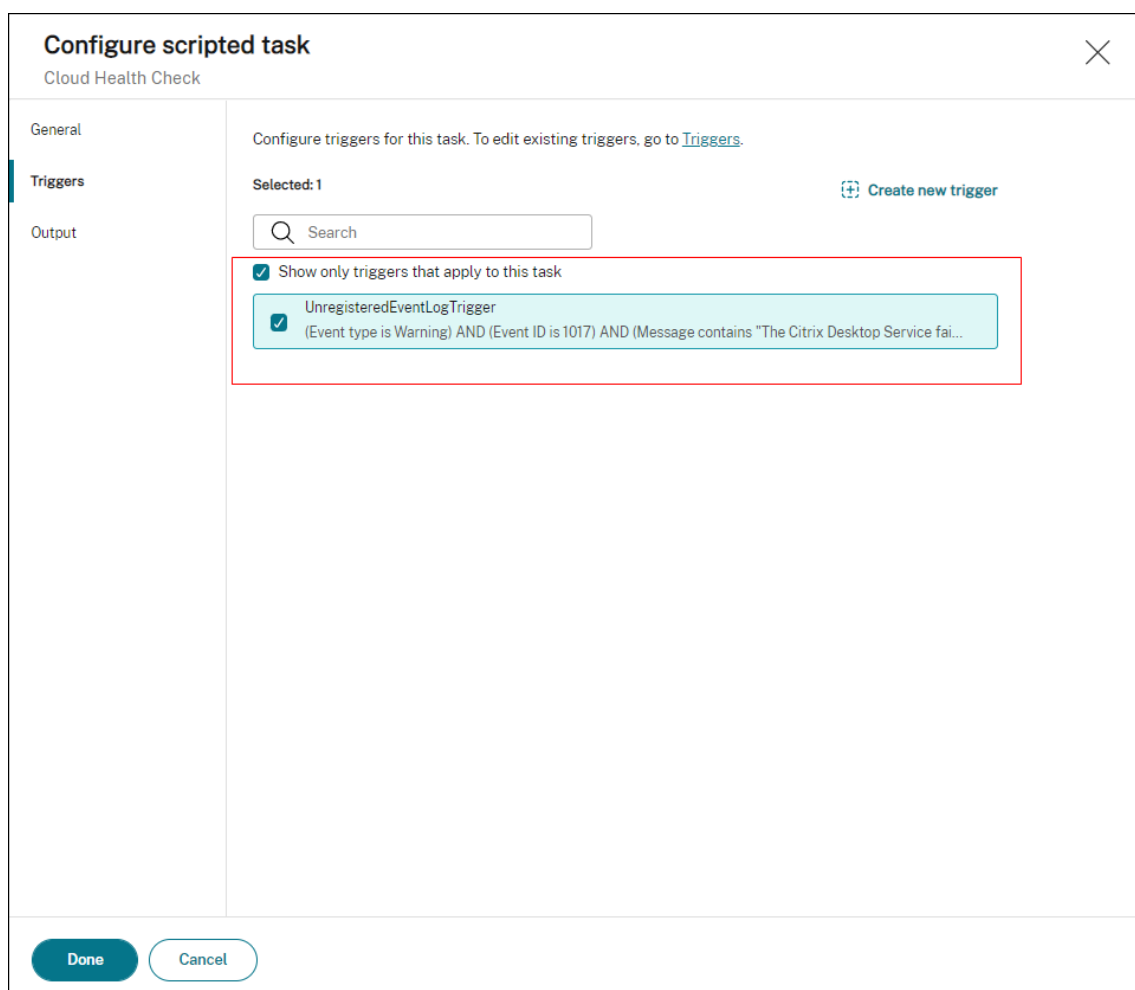
この例では、次のように設定を構成します。

- [トリガータイプ] で、[**Windows イベント**] を選択します。
- トリガー条件の場合：
 - * イベントタイプ: 警告
 - * イベント **ID**: 1017
 - * メッセージ: **The Citrix Desktop Service failed to register with any Delivery Controller**

Windows イベントトリガーをクラウドヘルスチェックタスクに関連付ける

以下の情報は、「[スクリプトタスクの設定](#)」のガイダンスを補足するものです。クラウドヘルスチェックタスクを設定するには、以下の詳細を念頭に置いて、その記事の一般的なガイダンスに従ってください。

- 関連する設定セットに移動し、[スクリプトタスク設定] に移動して、クラウドヘルスチェックタスクを設定します。



この例では、次のように設定を構成します。

- [トリガー]で、クラウドヘルスチェックタスクに関連付けるUnregisteredEventLogTrigger トリガーを選択します。

タスク実行レポートを表示する

VDA が未登録状態の場合、WEM エージェントは対応する Windows イベントログを検出します。クラウドヘルスチェックタスクは自動的に実行されます。レポートを確認すると結果が表示されます。詳細については、「[レポート](#)」を参照してください。この例では、次のレポートが表示されます。

Reports

Provides the following reports that let you analyze your deployments. Each report appears as a table record. You can apply filters to the reports.

Columns to display Refresh Filter Export

Event time (UTC+08:00)	Event type	Result code	Result summary
Aug 29, 2022, 9:00:36 PM	Cloud health check	0	Scripted task failed
Aug 29, 2022, 9:00:50 PM	Cloud health check	1	Scripted task failed

Cloud health check

Aug 29, 2022, 9:00:50 PM

Details Raw data

Machine name
W2K19ST-0N4F76I.TeoRoot1.local

Machine type
VDA

Extended data

Issue	Fix
<p>VDA software installation status The Virtual Delivery Agent software installation on the following machine(s) is not functioning correctly. This issue can occur if the software was not installed correctly or does not support the current OS version on the machine. "We verified" - "Passed" The VDA installation image path exists. "Not Passed" The VDA installation key registry exists.</p>	
<p>VDA domain membership verification The domain membership of the following VDA(s) cannot be confirmed. This issue can occur if: "The VDA did not join the domain correctly." "DNS name resolution might not be working." "The domain controller can't be reached." "There is no trust relationship between the VDA and the domain controller." "A restart is required for the VDA due to Windows Updates." "The VDA must be joined successfully to the domain so the VDA can register with the Site. If the VDA can't register with the Site, users cannot access the applications and desktops that the VDA hosts." "We verified" - "Failed" The Computer, Domain and Role has been set. "Cannot contact the domain controller. Check DNS and network settings." "Passed" The Local DNS name has been set.</p>	To resolve this issue, see [CTX227387] (https://support.citrix.com/article/CTX227387)
<p>VDA communication ports availability TCP port 80 is unavailable and in use by Occupancy/Processes. This port is required for BrokerAgent.exe. If this port is blocked or in use by another application, the VDA cannot register with the Site. If this happens, users might not be able to log on and access their applications and desktops.</p>	
<p>Citrix Desktop Service status The Citrix Desktop service is not running, properly installed, registered on the machine, or the service permissions might not be set correctly. This issue can occur if the service is not started or the system Event Log has traces of service-related issues. If the Citrix Desktop Service is not present or running, the VDA can't register with the Site, preventing users from accessing their applications and desktops.</p>	
<p>Windows Firewall configuration Port BlockPorts blocked by Firewall. The following Windows Firewall rules are not enabled on the VDA: "Inbound agent connections on TCP port 80" "Outbound Broker connections on TCP port 80 (default)" "Inbound agent connections on TCP port 80"</p>	
<p>VDA communication status with Delivery Controllers The following VDA(s) can't communicate with the Delivery Controllers in the Site. This issue can occur if: "There are network issues preventing communication between the VDA and Delivery Controllers." "The VDA or Delivery Controllers have incorrect DNS settings." "Active Directory OU-based discovery of Delivery Controllers is not configured correctly." "Delivery Controller host names in the ListOfDDCs do not resolve correctly." "Delivery Controller host names in the ListOfDDCs and the Windows Hosts file are incorrect or misspelled." "The Delivery Controller host names in the ListOfDDCs and the Windows Hosts file are incorrect or misspelled." "The Delivery Controller host names in the ListOfDDCs and the Windows Hosts file are incorrect or misspelled." "The Delivery Controller host names in the ListOfDDCs and the Windows Hosts file are incorrect or misspelled."</p>	

Close

レポートに基づいて、問題を分析し、それに応じて解決できます。

エージェントイベントログ

September 6, 2023

この記事では、WEM イベントログの包括的なリストと、それに対応する個別のイベント ID について説明します。

WEM 構成セット

イベント ID	レベル	メッセージ
1001	情報	エージェントは構成セット: 名前: configuration set name (ID: configuration set ID) に正常に登録されました。
1002	警告	エージェントはどの構成セットにも登録されていません

インフラストラクチャサービスへの **WEM** エージェント接続

イベント ID	レベル	メッセージ
2001	情報	インフラストラクチャサービスへの接続: アドレス: service address
2002	エラー	インフラストラクチャサービスのアドレスが無効です
2003	エラー	WEM サービスに接続できません
2020	情報	WEM サービスへの接続: アドレス: service address
2021	情報	WEM 用に設定されたクラウドコネクタの取得: Cloud Connector list
2022	情報	Citrix DaaS からのクラウドコネクタの検出: Cloud Connector list
2023	エラー	すべてのクラウドコネクタにアクセスできません
2024	情報	Cloud Connector が動作中: Cloud Connector address
2025	警告	Cloud Connector にアクセスできません: Cloud Connector address
2026	エラー	Cloud Connector を介して WEM サービスに接続できません

エージェント設定更新イベント

イベント ID	レベル	メッセージ
3001	情報	エージェント構成設定の更新の開始
3002	エラー	エージェント構成設定の更新に次の例外が発生して失敗しました: exception code

イベント ID	レベル	メッセージ
3003	情報	エージェント構成設定は正常に更新されました

ディレクトリサービスイベント

イベント ID	レベル	メッセージ
4001	警告	ユーザートークングループリストを取得できません
4002	警告	ユーザーディレクトリサービスグループを取得できません
4003	警告	ユーザーが属するすべてのグループを取得できません
4004	警告	ユーザーが属するすべての OU を取得できません
4005	警告	ローカルコンピュータグループリストを取得できません
4006	警告	ローカルコンピュータの OU リストを取得できません

マシンポリシーイベント

イベント ID	レベル	メッセージ
5001	情報	コンピュータグループポリシーの処理の開始
5002	情報	前提条件が満たされていないためにマシンポリシーの処理をスキップする
5003	情報	マシンポリシー処理をスキップ: グループポリシー設定処理が有効化されていません
5004	警告	コンピュータが属するグループまたは OU を取得できません。グループポリシー処理が終了しました

イベント ID	レベル	メッセージ
5005	情報	コンピュータグループポリシーが正常に適用されました
5006	警告	コンピュータグループポリシーを適用できません。障害が発生した GPO のリスト: GPO list

ユーザーポリシーイベント

イベント ID	レベル	メッセージ
5501	情報	のユーザーグループポリシーの処理を開始します user name
5502	情報	前提条件が満たされていないためにユーザーポリシーの処理をスキップする
5503	情報	ユーザーポリシー処理をスキップ: グループポリシー設定処理が有効化されていません
5504	情報	マップされたアカウントが見つからなかったため、ローカルユーザー - user identity name のポリシー処理がスキップされました
5505	警告	ユーザーが属するグループまたは OU を取得できません。グループポリシー処理が終了しました
5506	情報	ユーザーグループポリシーが正常に適用されました
5507	警告	ユーザーグループポリシーを適用できません。障害が発生した GPO のリスト: GPO list

キャッシュ同期イベント

イベント ID	レベル	メッセージ
6001	情報	自動エージェントキャッシュ同期の開始
6002	情報	オンデマンドエージェントキャッシュ同期の開始
6003	warning	ネットワークを使用できません。エージェントキャッシュの同期はスキップされました
6004	warning	エージェントキャッシュ同期がスキップされました: クラウドサービスの設定が無効です
6005	warning	エージェントキャッシュの同期がスキップされました: インフラストラクチャサービスのアドレスが無効です
6006	エラー	エージェントキャッシュの同期が予期しないエラーで失敗しました
6007	情報	エージェントキャッシュの同期が正常に完了しました

最適化イベント

CPU 最適化

7003 から 7008 までのイベント ID のメッセージを書き込むには、次のレジストリを追加します。

HKEY_LOCAL_MACHINE\SYSTEM\currentControlSet\コントロール\Norskale\エージェントホスト

名前: 最適化のための追加ログを有効にする

種類: REG_DWORD

値: 1

注意:

レジストリを誤って編集すると、オペレーティングシステムの再インストールを必要とする重大な問題が発生する可能性があります。レジストリエディターの誤用による障害に対して、Citrix では一切責任を負いません。レジストリエディターは、お客様の責任と判断の範囲でご使用ください。また、レジストリファイルのバックアップを作成してから、レジストリを編集してください。

イベント ID	レベル	メッセージ
7001	情報	ユーザー <code>user name</code> が作成したプロセス <code>process name</code> (ID: <code>process ID</code>) の CPU スパイク保護を初期化しています。 <code>percentage value</code> で検出された各コアあたりの平均 CPU 使用率の合計で、システム CPU の合計使用率を <code>percentage value</code> とします。
7002	情報	ユーザー <code>user name</code> が作成したプロセス <code>process name</code> (ID: <code>process ID</code>) の CPU スパイク保護を初期化しています。検出された平均 CPU 使用率は <code>percentage value</code> で、 <code>percentage value</code> で検出された各コアあたりの平均 CPU 使用率の合計はです。
7003	情報	ユーザー <code>user name</code> が作成したプロセス <code>process name</code> (ID: <code>process ID</code>) の優先度を <code>priority value</code> に変更しました。
7004	警告	<code>user name</code> ユーザーが作成したプロセス <code>process name</code> (ID: <code>process ID</code>) の優先度を <code>priority value</code> に変更できません。エラーコード: <code>error code</code> 。
7005	情報	<code>user name</code> ユーザーが作成したプロセス (ID: <code>affinity value</code>) のアフィニティ <code>process name</code> (<code>process ID</code>) が正常に処理されました。

イベント ID	レベル	メッセージ
7006	警告	<code>user name</code> ユーザーが作成したプロセス (ID: <code>affinity value</code>) のアフィニティ <code>process name</code> (<code>process ID</code>) を設定できません。
7007	情報	<code>user name</code> ユーザーが作成したプロセス <code>process name</code> (ID: <code>process ID</code>) の入出力優先度を <code>priority value</code> に変更しました。
7008	警告	<code>user name</code> ユーザーが作成したプロセス <code>process name</code> (ID: <code>process ID</code>) の入出力優先度を <code>priority value</code> に変更できません。

メモリ最適化

イベント ID	レベル	メッセージ
8001	情報	<code>user name</code> ユーザーが作成したプロセス <code>process name</code> (ID: <code>process ID</code>) のメモリ最適化を初期化しています。
8002	情報	<code>user name</code> ユーザーが作成したプロセス <code>process name</code> (ID: <code>process ID</code>) のメモリ最適化が成功しました。
8003	警告	<code>user name</code> ユーザーが作成したプロセス <code>process name</code> (ID: <code>process ID</code>) のメモリを最適化できません。

CMD および UI モードのエージェント

January 21, 2022

Workspace Environment Management エージェントは、CMD モードと UI モードで実行できます。

ログオン時にエージェントを実行するように構成すると、CMD モードまたは UI モードのどちらで起動するかを制御できます。これを行うには、[管理コンソール] > [詳細設定] > [構成] > [メイン構成] タブにある [エージェントタイプ] 設定を使用します。詳しくは、「[詳細設定](#)」を参照してください。

ログオン時にエージェントを自動的に実行するように構成しない場合、管理者 (管理者またはエンドユーザー) は、エージェントマシン上で CMD モードまたは UI モードでエージェントを起動できます。そのためには、エージェントのインストールフォルダに移動し、次の 2 つの .exe ファイルを特定します。

- **VUEMCmdAgent.exe**。エージェントを CMD モードで実行できます。
- **VUEMUIAgent.exe**。エージェントを UI モードで実行できます。

CMD モードと UI モードの違い

CMD モードでは、次の考慮事項に注意してください。

- ログオン時に自動的に実行されている場合、CMD モードではコマンドプロンプトが表示されます。CMD モードは起動後に自動的に終了します。
- CMD モードでは、起動時にユーザーが割り当てたアクションがエージェントに適用されます。これらのアクションには、ネットワークドライブ、プリンタ、アプリケーションなどがあります。
- 現在、CMD モードではコマンドライン操作はサポートされていません。

UI モードでは、次の考慮事項に注意してください。

- ログオン時に自動的に実行されると、UI モードにエージェントのスプラッシュ画面が表示されます。
- UI モードでは次のオプションを表示できます。
 - マイアプリケーション。自分に割り当てられているアプリケーションを表示できます。
 - 画面のキャプチャ。スクリーンキャプチャツールを開くことができます。このオプションを使用するには、[管理コンソール] > [詳細設定] > [UI Agent パーソナライズ] > [ヘルプデスクオプション] タブで [スクリーンキャプチャを有効にする] を有効にする必要があります。詳細については、「[ヘルプデスクオプション](#)」を参照してください。
 - アクションのリセット。[アクションのリセット] ツールを開いて、環境内でリセットするアクションを指定できます。

このオプションを使用するには、[管理コンソール] > [詳細設定] > **[UI Agent Personalization]** > **[UI Agent オプション]** タブで [ユーザーがアクションのリセットを許可] を有効にする必要があります。詳細については、[UI Agent オプションを参照してください](#)。

- アプリケーションを管理します。[アプリケーションの管理] ツールを開いて、アプリケーションを管理できます。

このオプションを使用するには、[** 管理コンソール] > [詳細設定] > **[UI Agent Personalization]** > **[UI Agent オプション]** タブで [ユーザーにアプリケーションの管理を許可 **] を有効にする必要があります。詳細については、[UI Agent オプションを参照してください](#)。

- プリンタの管理。[プリンタの管理] ツールを開いて、既定のプリンタを構成したり、印刷設定を変更したりできます。

このオプションを使用するには、[** 管理コンソール] > [詳細設定] > **[UI エージェントの個人設定]** > **[UI エージェントオプション]** タブで [プリンタの管理をユーザーに許可する **] を有効にする必要があります。詳細については、[UI Agent オプションを参照してください](#)。

- 更新。エージェントを更新し、ユーザーが割り当てたアクションをエージェントに適用します。これらのアクションには、ネットワークドライブ、プリンタ、アプリケーションなどがあります。
- [ヘルプ]。ヘルプを求めることができる Web サイトを開くことができます。

このオプションを使用するには、[管理コンソール] > [詳細設定] > **[UI Agent の個人設定]** > [ヘルプデスク オプション] タブで [**** ヘルプリンクアクション ****] を指定する必要があります。詳細については、「[ヘルプデスクオプション](#)」を参照してください。

- について。エージェントのバージョンに関する情報を表示します。
- [終了]。エージェントを閉じることができます。

アクションのリセットしてアプリケーションとプリンタを管理するには、エージェントを UI モードで使用しなくても、次のツール (エージェントのインストールフォルダにあります) を直接使用できます。

- **ResetActionsUtil.exe**。[アクションのリセット] ツールを開くことができます。
- **AppsMgmtUtil.exe**。[アプリケーションの管理] ツールを開くことができます。
- **PrnsMgmtUtil.exe**。[プリンタの管理] ツールを開くことができます。

CMD モードと UI モードの主な違いは次のとおりです。

- CMD エージェントは設定を適用して終了します。特定の時点 (ログオンや再接続など) で CMD エージェントを起動するように WEM エージェントサービス (Citrix WEM エージェントホストサービスまたは Citrix WEM ユーザーログオンサービス) を構成できます。必要に応じて、管理者は CMD エージェントを手動で呼び出すことができます。

- UI エージェントは実行され続けます。Citrix WEM エージェントホストサービスは UI エージェントを開始または停止します。UI エージェントは、エンドユーザーにセルフサービスオプションを提供します。管理者は UI エージェントを手動で起動しないことをお勧めします。

注:

CMD エージェントと UI エージェントを 1 つのセッションで同時に実行することはできません。

エージェント側の更新操作

April 8, 2021

エージェント側では、次の更新操作を実行できます。

- キャッシュをリフレッシュします。コマンドラインを使用して、エージェントのインストールフォルダで *AgentCacheUtility.exe* を実行します。次に例を示します。

- `AgentCacheUtility.exe -RefreshCache`

- エージェントホストの設定を更新します。コマンドラインを使用して、エージェントのインストールフォルダで *AgentCacheUtility.exe* を実行します。次に例を示します。

- `AgentCacheUtility.exe -RefreshSettings`

- ワークスペースエージェントを更新します。エージェントが UI モードになったら、エージェントメニューに移動し、[**Refresh**] をクリックします。

	インフラストラクチャサービスがオンラインの場合	インフラストラクチャサービスがオフラインの場合
キャッシュをリフレッシュ	キャッシュを更新すると、エージェントローカルキャッシュがインフラストラクチャサービスと同期されます。	エージェントローカルキャッシュを更新できません。

	インフラストラクチャサービスがオンラインの場合	インフラストラクチャサービスがオフラインの場合
エージェントホスト設定の更新	[オンラインの場合でもキャッシュを使用する] オプションが有効になっている場合、エージェントは、インフラストラクチャサービスからではなく、エージェントローカルキャッシュから取得した設定を適用します。この場合、設定を更新する前にキャッシュを更新してください。[オンライン時でもキャッシュを使用する] オプションが有効になっていない場合、エージェントはインフラストラクチャサービスから取得した設定を適用します。	エージェントは、エージェントローカルキャッシュから取得した設定を適用します。
ワークスペースエージェントを更新する	[オンラインでもキャッシュを使用] または [キャッシュを使用してアクション処理を高速化] オプションが有効になっている場合、エージェントは、インフラストラクチャサービスからではなく、エージェントローカルキャッシュから取得した設定を適用します。この場合、設定を更新する前にキャッシュを更新してください。[オンライン時でもキャッシュを使用] および [キャッシュを使用してアクションの処理を高速化] オプションが有効になっていない場合、エージェントはインフラストラクチャサービスから取得した設定を適用します。	[Enable Offline Mode] オプションが有効になっている場合、エージェントは、エージェントローカルキャッシュから取得したユーザー割り当てアクションを適用します。[オフラインモードを有効にする] オプションが有効になっていない場合、エージェントは機能しません。

顧客データ管理

June 20, 2022

この資料では、Workspace Environment Management (WEM) サービスに関連する顧客データについて説明し

まず、関連する顧客データの収集、保管、および保持に関する情報を提供します。

概要

WEM サービスは、インテリジェントなリソース管理と Profile Management テクノロジーを使用して、Citrix DaaS（以前の Citrix Virtual Apps and Desktops サービス）および Citrix Virtual Apps and Desktops 展開で可能な限り最高のパフォーマンス、デスクトップログオン、およびアプリケーション応答時間を提供します。これは、ドライバーを必要としない、ソフトウェアのみのソリューションです。

データの場所

次のデータソースは、WEM サービス UI URL に応じて、米国 (米国) または欧州連合 (EU) にある Microsoft Azure Cloud 環境に集約されます。

- EU ベースのインスタンスを有効にする前に WEM サービスにオンボードしている組織の場合、ストレージ場所は米国にあります。
- EU ベースのインスタンスの有効化後に WEM サービスへのオンボーディングを行う組織の場合、管理者が組織を Citrix Cloud にオンボーディングするときに選択するホームリージョンによって、そのストレージの場所が異なる場合があります。
 - ホームリージョンが EU の場合、その保管場所は EU 内に存在します。
 - ホームリージョンが EU でない場合、その保管場所は米国にあります。

データ収集

WEM サービスには、次の 3 種類の顧客データが含まれます。

- WEM 管理コンソールおよび WEM インフラストラクチャサービスから収集されたログ
- 管理者によって定義された WEM サービスエージェントのアクションとポリシー
- WEM サービスエージェントによって報告されたエンドユーザーのアクティビティに関連する統計

データ制御とストレージ

ログファイル。WEM 管理コンソール ([管理] タブ) を使用して、WEM サービスに関連するログ設定をいつでも制御できます。ログ機能を有効または無効にすることもできます。「Citrix WEM データベース管理ユーティリティのデバッグ Log.log」ログファイルは、WEM インフラストラクチャサービスのインストールディレクトリにあります。

WEM サービスエージェントのアクションとポリシー。設定したすべてのアクションとポリシーは、バックエンドの Azure データベースに保存および保存され、WEM 管理コンソール ([管理] タブ) からのみアクセスできます。

エンドユーザーのアクティビティに関する統計。WEM 管理コンソール ([管理] タブ) で監視するすべての統計は、バックエンドの Azure データベースに保存および保存され、WEM 管理コンソールからのみアクセスできます。

データ保持

WEM サービスに関連する顧客データは、サービス期間全体にわたって識別可能な形式で保持されます。保存期間は、データのタイプによって異なります。

- ログファイルは、デフォルトで 90 日間保持され、その後削除されます。これらのログファイルをカスタム期間保持することはサポートされていません。
- WEM サービスエージェントのアクションとポリシーは長期的に保持されます。
- エンドユーザーのアクティビティに関する統計情報は、デフォルトで 30 日間保持され、その後削除されます。これらの統計情報をカスタム期間内に保持することはサポートされていません。

共通の【コントロールパネル】アプレット

July 31, 2020

Windows では、次のコントロールパネルアプレットが一般的です。

アプレット名	正規名
アクションセンター	Microsoft.ActionCenter
管理ツール	Microsoft.AdministrativeTools
自動再生	Microsoft.AutoPlay
生体認証デバイス	Microsoft.BiometricDevices
BitLocker ドライブ暗号化	Microsoft.BitLockerDriveEncryption
カラーマネジメント	Microsoft.ColorManagement
資格情報マネージャー	Microsoft.CredentialManager
日時	Microsoft.DateAndTime
既定のプログラム	Microsoft.DefaultPrograms
Device Manager	Microsoft.DeviceManager
デバイスとプリンタ	Microsoft.DevicesAndPrinters
表示	Microsoft.Display
簡単操作センター	Microsoft.EaseOfAccessCenter
家族の安全性	Microsoft.ParentalControls

ファイル履歴	Microsoft.FileHistory
フォルダオプション	Microsoft.FolderOptions
フォント	Microsoft.Fonts
ホームグループ	Microsoft.HomeGroup
インデックス作成オプション	Microsoft.IndexingOptions
赤外線	Microsoft.Infrared
インターネット オプション	Microsoft.InternetOptions
iSCSI イニシエータ	Microsoft.iSCSIInitiator
iSNS サーバ	Microsoft.iSNSServer
キーボード	Microsoft.Keyboard
言語	Microsoft.Language
ロケーション設定	Microsoft.LocationSettings
マウス	Microsoft.Mouse
MPIO コンフィギュレーション	Microsoft.MPIOConfiguration
ネットワークと共有センター	Microsoft.NetworkAndSharingCenter
通知領域のアイコン	Microsoft.NotificationAreaIcons
ペンとタッチ	Microsoft.PenAndTouch
個人設定	Microsoft.Personalization
電話とモデム	Microsoft.PhoneAndModem
電源オプション	Microsoft.PowerOptions
プログラムと機能	Microsoft.ProgramsAndFeatures
復旧	Microsoft.Recovery
リージョン	Microsoft.RegionAndLanguage
RemoteApp とデスクトップ接続	Microsoft.RemoteAppAndDesktopConnections
サウンド	Microsoft.Sound
音声認識	Microsoft.SpeechRecognition
記憶域	Microsoft.StorageSpaces
同期センター	Microsoft.SyncCenter
システム	Microsoft.System

タブレット PC の設定	Microsoft.TabletPCSettings
タスクバーとナビゲーション	Microsoft.Taskbar
トラブルシューティング	Microsoft.Troubleshooting
TSAppInstall	Microsoft.TSAppInstall
ユーザーアカウント	Microsoft.UserAccounts
Windows のいつでもアップグレード	Microsoft.WindowsAnytimeUpgrade
Windows Defender	Microsoft.WindowsDefender
Windows ファイアウォール	Microsoft.WindowsFirewall
Windows モビリティセンター	Microsoft.MobilityCenter
Windows To Go	Microsoft.PortableWorkspaceCreator
Windows Update	Microsoft.WindowsUpdate
ワークフォルダ	Microsoft.WorkFolders

動的トークン

July 6, 2023

動的トークンは、Workspace Environment Management の任意のアクションで使用して、より強力にすることができます。

動的トークンは次のフィールドで使用できます。

- グループポリシー設定
 - [アクション] が [値を削除] に設定されている場合: 値
 - [アクション] を [値を設定]、[タイプ] を **REG_SZ** に設定した場合: データ
 - [アクション] を [値を設定]、[タイプ] を **REG_EXPAND_SZ** に設定した場合: データ
 - [アクション] を [値を設定]、[タイプ] を [**REG_MULTI**: データ] に設定した場合

注:

グループポリシー設定には、マシン設定とユーザー設定の 2 種類があります。マシン設定では、一部の動的トークンはサポートされていません。「グループポリシー設定の動的トークンサポート」を参照してください。

グループポリシー設定の動的トークンサポート

グループポリシー設定で動的トークンを使用すると、さまざまな環境でより適応性の高いポリシー構成が可能になり、手動構成が減り、ポリシー管理が簡素化されます。

グループポリシー設定には、次の 2 種類があります。

- マシン設定。これらの設定は、ログオンするユーザーに関係なく、マシンにのみ適用されます。
- ユーザー設定。これらの設定は、ログオンするマシンに関係なく、ユーザーにのみ適用されます。

グループポリシー設定では、すべての動的トークンがサポートされます。次のものはマシン設定ではサポートされていません。

- ハッシュタグ
- ##FullUserName##
- ##UserInitials##
- ##ClientName##
- ##ClientIPAddress##
- ##UserLDAPPath##
- ##ClientRemoteOS##
- 広告属性
 - [広告属性: 属性名]
 - [親ユーザー:1]
- HKCU におけるレジストリ
- アプリケーション
 - アプリケーションタイプとしてインストールアプリケーションを使用する場合: コマンドライン、作業ディレクトリ、およびパラメータ
 - [ファイル/フォルダ] をアプリケーションタイプとして: ターゲット
 - アプリケーションタイプに **URL** を指定した場合: ショートカット **URL**
 - アイコンファイル
- プリンター
 - ターゲットパス
- ネットワークドライブ
 - ** ターゲットパスと表示名 **
- 仮想ドライブ

- ターゲットパス

- レジストリー

- ターゲットパス、ターゲット名、ターゲット値

注:

ターゲット値フィールドは環境変数の展開をサポートしていません。環境変数を使用すると、期待どおりに動作しません。

- 環境変数

- 変数値

- ポート

- ポートターゲット

- INI ファイル

- ターゲットパス、ターゲットセクション、ターゲット値名、ターゲット値

注:

ターゲットセクション、ターゲット値名、ターゲット値フィールドは、環境変数の展開をサポートしていません。環境変数を使用すると、期待どおりに動作しません。

- 外部タスク

- ** パスと引数 **

- ファイルシステムの操作

- ** ソースパスとターゲットパス **

- 特定のフィルター条件

- 例: 条件タイプとして **Active Directory** 属性の一致がある場合: テスト済みの **Active Directory** 属性と照合結果 **

注:

フィルター条件でサポートされるフィールドの一覧については、「フィルター条件のサポートマトリックス」を参照してください。

文字列演算

場合によっては、ドライブのマッピングやアプリケーションを起動するために、スクリプト内の文字列を操作する必要があります。Workspace Environment Management エージェントは、次の文字列操作を受け付けます。

モーダル	説明	例
#Left(string,length)#	左側の指定された文字数を返します。	#Left(abcdef,2)#はabを返す
#Right(string,length)#	右側の指定された文字数を返します。	#Right(abcdef,2)#はefを返す
#Truncate(string,length)#	文字列の長さが指定された長さ以下の場合、文字列全体を返します。文字列の長さが指定された長さより大きい場合は、左側の指定された文字数を返します。	#Truncate(abcdef,3)#はabcを返す
&Trim(string)&	文字列の先頭と末尾の空白をすべて削除します。	&Trim(a b c)&はa b cを返す
&RemoveSpaces(string)&	文字列の空白をすべて削除します。	&RemoveSpaces(a b c)&はabcを返す
&Expand(string)&	文字列に% で囲まれた環境変数が含まれている場合は、変数を展開します。	&Expand(%userprofile%\desktop)&はC:\Users\Jill\desktopを返す
\$Split(string,[splitter],index)\$	[] で囲まれたスプリッターに基づいて文字列を部分文字列に分割し、インデックス付きの部分文字列を返します。	\$Split(abc-def-hij,[-],2)\$はhijを返す
#Mid(string,startindex)#	文字列内の指定されたインデックスから開始し、その後続くすべての文字を返します。	#Mid(abcdef,2)#はcdefを返す
!Mid(string,startindex,length)!	文字列内の指定されたインデックスから開始し、指定された文字数を返します。	!Mid(abcdef,1,2)!はbcを返す
!サブストリング (文字列、開始インデックス、長さ)!	文字列内の指定されたインデックスから開始し、指定された文字数を返します。	!Substring(abcdef,1,2)!はbcを返す
#Mod(string,length)#	文字列を長さで割り、余りを返します。文字列は整数に変換できなければなりません。	#Mod(7,3)#は1を返す

注:

- 文字列操作は、ハッシュタグと Active Directory 属性でもサポートされています。たとえば、`#Left([ADAttribute:NAME],2)` は現在のドメインユーザーの名前属性 Administrator は Ad を返し、`$Split(##ClientIPAddress##,[\.] ,2)` は 157 を返します。
- `!Mid(string,startindex,length)!` および `!Substring(string,startindex,length)!` 操作は常に最後に実行されます。

ハッシュタグ

ハッシュタグは、Workspace Environment Management 項目の処理で広く使用されている置換機能です。次の例は、ハッシュタグの使用方法を示しています。

.ini ファイルに書き込むには、**.ini**** ファイルのパスで **%USERNAME%** を使用すると、Workspace Environment Management によって処理され、最終ディレクトリが展開されます。ただし、**Workspace Environment Management **** が **.ini** 自体に書き込む値の評価は、より複雑です。**%USERName%** を文字通り書き込んだり、拡張された値を書き込んだりすることができます。

柔軟性を高めるために、**##UserName##** はハッシュタグとして存在するため、値として **%USERName%** を使用して文字通り書き込み、**##UserName##** は展開された値を書き込みます。

例については、次の表を参照してください。

モーダル	説明	例
#UserName	展開された環境変数 「%username%」を返します	ジル
#UserProfile	展開された環境変数 「%userprofile%」を返します	C:\Users\Jill
#FullUserName	Active Directory 内のユーザーのフルネームを返します	ジル・チョウ
#UserInitials	Active Directory のユーザー名のイニシャルを返します	JC
#UserAppData	特別フォルダーの実際のパスを返します-RoamingAppData	C:\Users\Jill\AppData\Roaming
#UserPersonal	特殊フォルダーの実際のパスを返す-ドキュメント	C:\Users\Jill\Documents
#UserDocuments	特殊フォルダーの実際のパスを返す-ドキュメント	C:\Users\Jill\Documents

モーダル	説明	例
#UserDesktop	特殊フォルダーの実際のパスを返す-デスクトップ	C:\Users\Jill\Desktop
#UserFavorites	特殊フォルダーの実際のパスを返す-お気に入り	C:\Users\Jill\Favorites
#UserTemplates	特殊フォルダーの実際のパスを返す-テンプレート	C:\Users\Jill\AppData\Roaming\Microsoft\W
#UserStartMenu	特殊フォルダーの実際のパスを返す-StartMenu	C:\Users\Jill\AppData\Roaming\Microsoft\W メニュー
#UserStartMenuPrograms	特殊フォルダーの実際のパスを返す-プログラム	C:\Users\Jill\AppData\Roaming\Microsoft\W メニュー\プログラム
#UserLocalAppData	スペシャルフォルダーの実際のパスを返します-LocalAppData	C:\Users\Jill\AppData\Local
#UserMusic	スペシャルフォルダーの実際のパスを返す-Music	C:\Users\Jill\Music
#UserPictures	特殊フォルダーの実際のパスを返す-写真	C:\Users\Jill\Pictures
#UserVideos	特殊フォルダーの実際のパスを返す-ビデオ	C:\Users\Jill\Videos
#UserDownloads	特殊フォルダーの実際のパスを返す-ダウンロード	C:\Users\Jill\Downloads
#UserLinks	特殊フォルダーの実際のパスを返す-リンク	C:\Users\Jill\Links
#UserContacts	特殊フォルダーの実際のパスを返す-連絡先	C:\Users\Jill\Contacts
#UserSearches	特殊フォルダーの実際のパスを返す-SavedSearches	C:\Users\Jill\Searches
#commonprograms	特殊フォルダーの実際のパスを返す-CommonPrograms	C:\ProgramData\Microsoft\Windows\Start メニュー\プログラム
#ComputerName	マシンの名前を返します	WIN10EN-LR3B66L
#ClientName	クライアントマシンの名前を返す	W2K16ST-5IS28JP

モーダル	説明	例
#ClientIPAddress	クライアントマシンの IP アドレスを返す	153.138
#IpAddress	マシンの IP アドレスを返す	153.213
#ADSite	マシンがメンバーになっている Active Directory サイトを返します。	NKG
#DefaultRegValue	-	常に文字列。空
#UserLDAPPath	現在のユーザーの識別名を返します	CN= ジル・チョウ、OU= ユーザーアカウント、OU= アジア太平洋地域、DC= シトリット、DC= ネット
#VUEMAgentFolder	エージェントフォルダを返します	C:\Program Files (x86)\Citrix\Workspace Environment Management エージェント
#RDSSESSIONID	リモートデスクトップセッション ID を返します	2
#RDSSESSIONNAME	リモートデスクトップセッション名を返します	RDP-Tcp#72
#ClientRemoteOS	仮想デスクトップへの接続に使用されたマシンのオペレーティングシステムを返します	Windows
#ClientOSInfos	マシンの OS 情報を返す	Windows 10 Enterprise 64 ビット

ハッシュタグ **#UserScreenCaptureComment##** は、製品の特定の部分で使用するために実装されています。このタグは、[詳細設定] > [**UI エージェントのパーソナライズ**] > [ヘルプデスクオプション] の [メールテンプレート] に含めることができます。このコメントを含めると、エージェント画面キャプチャユーティリティの画面キャプチャの下にあるコメントフィールドがユーザーに表示されます。コメントは、電子メールテンプレートにタグを配置した場所のサポート電子メールに含まれます。

Active Directory 属性

Active Directory 属性を操作するために、WEM は **[ADAttribute: attrName]** 値に関連する Active Directory 属性に置き換えます。[adAttribute: attrName] は、すべての Active Directory 属性の動的トークンです。指定された属性の値をチェックする関連フィルタがあります。

ユーザーの組織単位 (OU) 構造の場合、WEM は **[userParentOU: Level]** 値を関連する Active Directory の OU 名に置き換えます。Active Directory パスは Active Directory 内の完全なユーザーパス (LDAP) であり、**[userParentOU: level]** はそのサブセットです。

たとえば、ユーザーが属する OU のネットワークドライブを構築するとします。ネットワークドライブパスにある動的トークン **[userParentOU: Level]** を使用すると、ユーザーの OU を動的に解決できます。動的トークンを使用するには、次の 2 つの方法があります。

- **[UserParentOU: Level]** 動的トークンをネットワークドライブパスで直接使用します。たとえば、次のパスを使用できます: `\\Server\Share\[UserParentOU:0]\`。
- OU という名前の環境変数を設定し、その値を **[userParentOU: 0]** に設定します。その後、ドライブを `\\Server\Share\%OU%` としてマッピングできます。

注:

- 数字の「0」を、OU 構造で到達させたいレベルに対応する数字に置き換えることができます。
- パスに変数を追加できます。これを行うには、OU レイアウトに一致するフォルダ構造が正確であることを確認します。

また、Active Directory 属性を使用してフィルタ処理を行うこともできます。[管理] > [フィルタ] > [条件] > [フィルタ条件リスト] タブで、[追加] をクリックした後、[新しいフィルタ条件] ウィンドウを開くことができます。[新しいフィルタ条件] ウィンドウには、Active Directory 属性に関連付けられた次の 4 つのフィルタ条件タイプが表示されます。

- Active Directory 属性の一致
- Active Directory グループの一致
- Active Directory パスの一致
- Active Directory サイトの一致

Active Directory 属性の一致の場合、ダイナミックトークンは **[ADAttribute: attrName]** です。

Active Directory グループ一致に使用できる動的トークンはありません。これは、条件の種類がグループメンバシップの確認に使用されるためです。

Active Directory パス一致の場合、完全な LDAP パスの動的トークンは **##UserLDAPPath##** です。

Active Directory サイト一致の場合、動的トークンは **##ADSite##** です。

例については、次の表を参照してください。

モーダル	説明	例
[広告属性: 属性名]	ドメインユーザーの指定された属性を返します	[ADAttribute:name] は Administrator を返す
[プリンタ属性: プリンタ名 属性名]	指定されたドメインプリンターの指定された属性を返します	[プリンタ属性: プリンタ 1 名前] は プリンタ 1 を返します

モーダル	説明	例
[ユーザーの親ユーザー: レベル]	現在のユーザーの親 OU の指定されたレベルを返します	CN=Jill Chou,OU=User Accounts,OU=APAC,DC=citrite,DC=netの [UserParentOU:1] はAPACを返す

レジストリー

レジストリーを操作するには、WEM は [RegistryValue:<Registry path>] 値を関連するレジストリー値に置き換えます。たとえば、次の値を指定できます。

- [レジストリー値:HKEY_LOCAL_MACHINE\SYSTEM\CurrentControlSet\制御\Norskale\エージェントホスト\AgentLocation]

XML ファイル

XML ファイルを操作するために、WEM は XML ファイル内の特定のタグ値で [GetXmlValue:<XML path> | <tag name>] 値を置き換えます。XML パスには、実際のパスまたはパスに解決される環境変数を指定できます。環境変数は % で囲む必要があります。たとえば、次の値を指定できます。

- [getXMLValue: C:\citrix\test.xml | 要約] または
- [getXMLValue: %xmlpath% | 概要]

INI ファイル

.ini ファイルを操作するには、WEM は [GetIniValue:<INI path> | <section name in the .ini file> | <key name in the .ini file>] をキー値に置き換えます。INI パスには、実際のパスまたはパスに解決される環境変数を指定できます。環境変数は % で囲む必要があります。たとえば、次の値を指定できます。

- [GetIniValue:C:\citrix\test.ini|PLD_POOL_LIC_NODE_0_0|LicExpTime] または
- [GetIniValue:%inipath%|PLD_POOL_LIC_NODE_0_0|LicExpTime]

追加情報

フィルター条件のサポートマトリックス

次の表は、テスト値またはマッチング結果が動的トークンをサポートするすべての条件タイプを示しています。

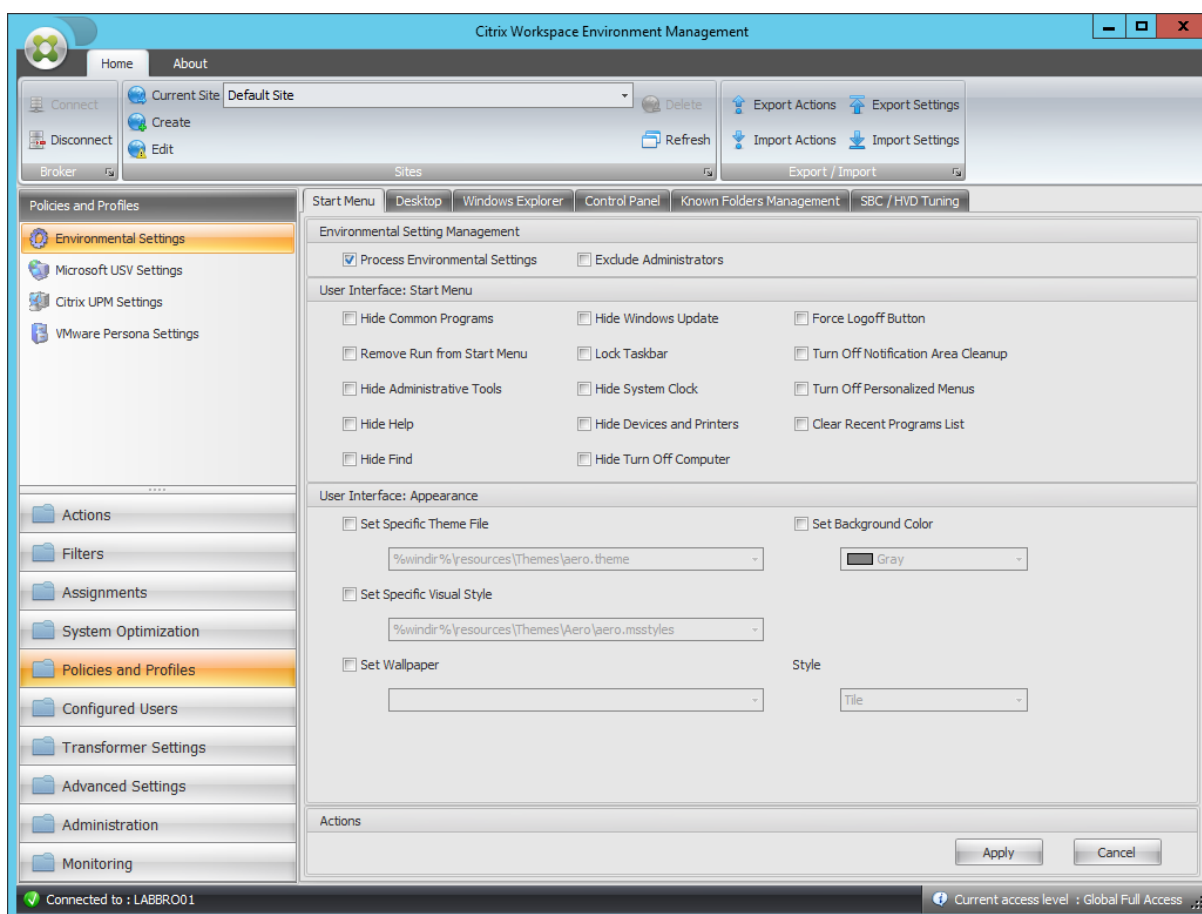
コンディションタイプ	テスト値	マッチング結果
コンピュータ名の一致	-	はい
クライアント名の一致	-	はい
環境変数の一致	いいえ	はい
レジストリ値の一致	はい	はい
WMI クエリ結果マッチ	-	はい
XenApp ファームの名前マッチ	-	はい
XenApp ゾーン名マッチ	-	はい
XenDesktop ファーム名マッチ	-	はい
XenDesktop デスクトップのグループ名マッチ	-	はい
Active Directory 属性の一致	はい	はい
名前または値がリスト内にある	はい	はい
一致するコンピュータ名がありません	-	はい
クライアント名が一致しません	-	はい
環境変数の一致なし	いいえ	はい
一致するレジストリ値がありません	はい	はい
WMI クエリ結果の一致がありません	-	はい
XenApp ファーム名が一致しない	-	はい
XenApp のゾーン名が一致しない	-	はい
XenDesktop ファーム名が一致しない	-	はい
XenDesktop デスクトップのグループ名が一致しない	-	はい
Active Directory 属性が一致しない	はい	はい
名前または値がリストにありません	はい	はい
動的値の一致	はい	はい
動的値の一致なし	はい	はい
ファイルのバージョン一致	はい	はい
一致するファイルバージョンがありません	はい	はい

コンディションタイプ	テスト値	マッチング結果
発行されたリソース名	-	はい
名前がリスト内にある	はい	はい
名前がリストにありません	はい	はい
ファイル/フォルダが存在します	-	はい
ファイル/フォルダが存在しません	-	はい

環境設定のレジストリ値

August 12, 2020

この資料では、Workspace Environment Management サービスの環境設定に関連付けられているレジストリ値について説明します。



一般的なプログラムを非表示にする

親キー	HKCU\ソフトウェア\マイクロソフト\Windows\現在のバージョン\ポリシー\エクスプローラ
値名	NoCommonGroups
値の種類	DWORD
有効な値	1
無効な値	0
処理中	エージェントによって呼び出されたサービス

[スタート] メニューから実行を削除

親キー	HKCU\ソフトウェア\マイクロソフト\Windows\現在のバージョン\ポリシー\エクスプローラ
値名	NoRun
値の種類	DWORD
有効な値	1
無効な値	0
処理中	エージェントによって呼び出されたサービス

管理ツールを非表示

親キー	HKCU\ソフトウェア\マイクロソフト\Windows\現在のバージョン\エクスプローラ\詳細設定
値名	Start_AdminToolsRoot
値の種類	DWORD
有効な値	0
無効な値	1
処理中	エージェントによって呼び出されたサービス

ヘルプを非表示

親キー	HKCU\ソフトウェア\マイクロソフト\Windows\現在のバージョン\ポリシー\エクスプローラ
値名	NoSMHelp
値の種類	DWORD
有効な値	1
無効な値	0
処理中	エージェントによって呼び出されたサービス

検索を非表示

親キー	HKCU\ソフトウェア\マイクロソフト\Windows\現在のバージョン\ポリシー\エクスプローラ
値名	NoFind
値の種類	DWORD
有効な値	1
無効な値	0
処理中	エージェントによって呼び出されたサービス

Windows の更新プログラムを非表示にする

親キー	HKCU\ソフトウェア\マイクロソフト\Windows\現在のバージョン\ポリシー\エクスプローラ
値名	NoWindowsUpdate
値の種類	DWORD
有効な値	1
無効な値	0
処理中	エージェントによって呼び出されたサービス

タスクバーのロック

親キー	HKCU\ソフトウェア\マイクロソフト\Windows\現在のバージョン\ポリシー\エクスプローラ
値名	LockTaskbar
値の種類	DWORD
有効な値	1
無効な値	0
処理中	ログオン時のサービス

システムクロックを隠す

親キー	HKCU\ソフトウェア\マイクロソフト\Windows\現在のバージョン\ポリシー\エクスプローラ
値名	HideClock
値の種類	DWORD
有効な値	1
無効な値	0
処理中	エージェントによって呼び出されたサービス

デバイスとプリンタを非表示にする

親キー	HKCU\ソフトウェア\マイクロソフト\Windows\現在のバージョン\エクスプローラ\詳細設定
値名	Start_ShowPrinters
値の種類	DWORD
有効な値	0
無効な値	1
処理中	エージェントによって呼び出されたサービス

[コンピュータの電源をオフにする] を非表示にする

親キー	HKCU\ソフトウェア\マイクロソフト\Windows\現在のバージョン\ポリシー\エクスプローラ
値名	NoClose
値の種類	DWORD
有効な値	1
無効な値	0
処理中	エージェントによって呼び出されたサービス

[強制ログオフ] ボタン

親キー	HKCU\ソフトウェア\マイクロソフト\Windows\現在のバージョン\ポリシー\エクスプローラ
値名	ForceStartMenuLogoff
値の種類	DWORD
有効な値	1
無効な値	0
処理中	エージェントによって呼び出されたサービス

通知領域のクリーンアップをオフにする

親キー	HKCU\ソフトウェア\マイクロソフト\Windows\現在のバージョン\ポリシー\エクスプローラ
値名	NoAutoTrayNotify
値の種類	DWORD
有効な値	1
無効な値	0
処理中	ログオン時のサービス

パーソナライズされたメニューをオフにする

親キー	HKCU\ソフトウェア\マイクロソフト\Windows\現在のバージョン\ポリシー\エクスプローラ
値名	Intellimenus
値の種類	DWORD
有効な値	0
無効な値	1
処理中	ログオン時のサービス

最近使用したプログラムの一覧をクリア

親キー	HKCU\ソフトウェア\マイクロソフト\Windows\現在のバージョン\ポリシー\エクスプローラ
値名	ClearRecentProgForNewUserInStartMenu
値の種類	DWORD
有効な値	1
無効な値	0
処理中	ログオン時のサービス

特定のテーマファイルを設定

親キー	HKCU\ソフトウェア\ポリシー\マイクロソフト\Windows\パーソナライゼーション
値名	ThemeFile
値の種類	REG_SZ
有効な値	コンソールで指定されたパス
無効な値	値がありません
処理中	ログオン時のサービス

背景色の設定

親キー	HKCU\コントロールパネル\カラー
-----	--------------------

背景色の設定

値名	Background
値の種類	REG_SZ
有効な値	設定カラー (RGB)
無効な値	値が存在しません。以前に設定された値の場合、0000
処理中	エージェントによって呼び出されたサービス

特定の表示スタイルを設定

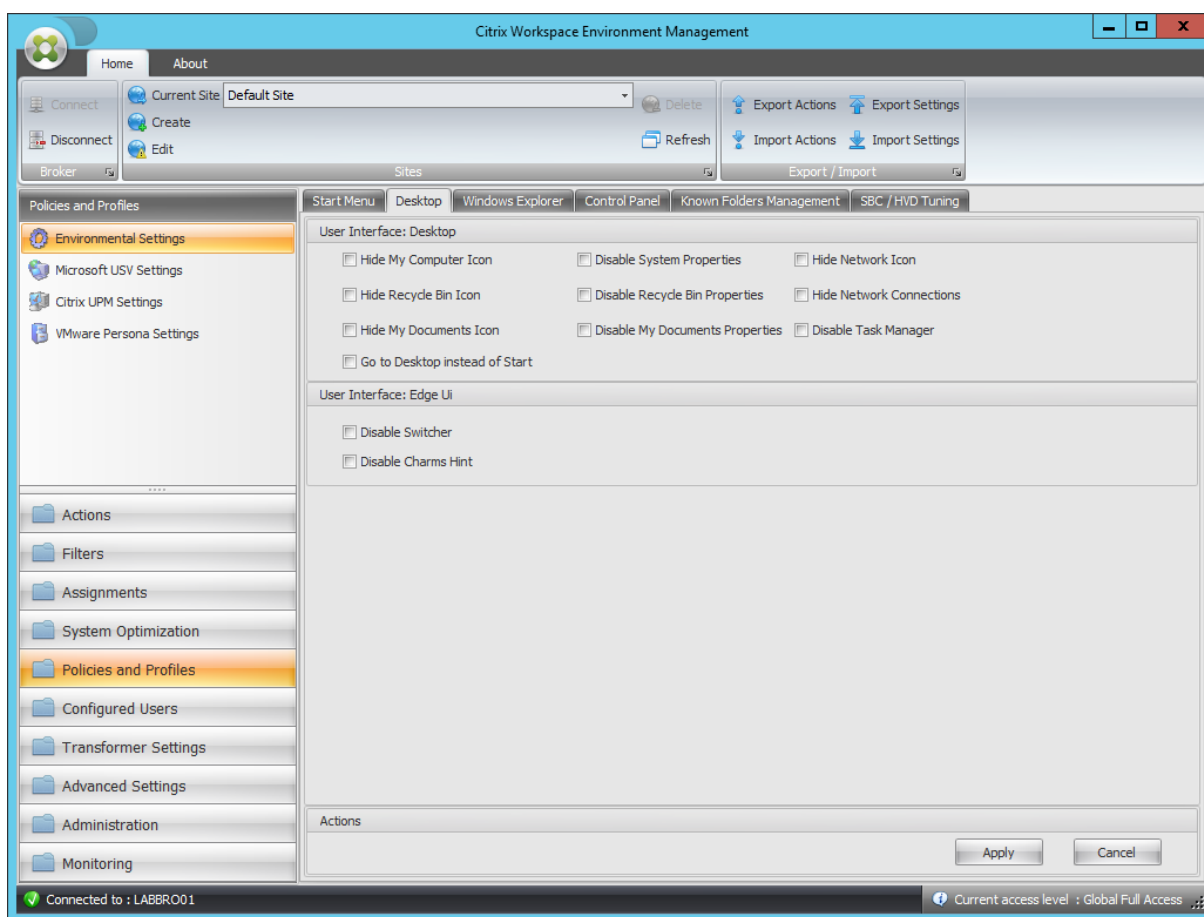
親キー	HKCU\ソフトウェア\ポリシー\マイクロソフト\Windows\パーソナライゼーション
値名	SetVisualStyle
値の種類	REG_SZ
有効な値	コンソールで指定されたパス
無効な値	値がありません
処理中	ログオン時のサービス

壁紙を設定

親キー	HKCU\ソフトウェア\マイクロソフト\Windows\現在のバージョン\ポリシー\システム
値名	Wallpaper
値の種類	REG_SZ
有効な値	コンソールで指定されたパス
無効な値	値がありません
処理中	ログオン時のサービス
親キー	HKCU\ソフトウェア\マイクロソフト\Windows\現在のバージョン\ポリシー\システム
値名	WallpaperStyle
値の種類	REG_SZ
有効な値	スタイルの値に依存
無効な値	値がありません

壁紙を設定

処理中	ログオン時のサービス
親キー	HKCU\ソフトウェア\マイクロソフト\Windows\現在のバージョン\ポリシー\システム
値名	TileWallpaper
値の種類	REG_SZ
有効な値	スタイルの値に依存
無効な値	値がありません
処理中	ログオン時のサービス



[マイコンピュータ] アイコンを非表示にする

親キー	HKCU\ソフトウェア\マイクロソフト\Windows\現在のバージョン\ポリシー\nNenum
-----	--------------------------------------------------

[マイコンピュータ] アイコンを非表示にする

値名	{20D04FE0-3AEA-1069-A2D8-08002B30309D}
値の種類	DWORD
有効な値	1
無効な値	0
処理中	ログオン時のサービス

ごみ箱アイコンを非表示にする

親キー	HKCU\ ソフトウェア\ マイクロソフト\ Windows\ 現在のバージョン\ ポリシー\ nNenum
値名	{645FF040-5081-101B-9F08-00AA002F954E}
値の種類	DWORD
有効な値	1
無効な値	0
処理中	ログオン時のサービス

[マイドキュメントの非表示] アイコン

親キー	HKCU\ ソフトウェア\ マイクロソフト\ Windows\ 現在のバージョン\ ポリシー\ nNenum
値名	{450D8FBA-AD25-11D0-98A8-0800361B1103}
値の種類	DWORD
有効な値	1
無効な値	0
処理中	ログオン時のサービス

[スタート] ボタンではなく [デスクトップ] ボタンに移動

親キー	HKCU\ ソフトウェア\ マイクロソフト\ Windows\ 現在のバージョン\ エクスプローラ\ スタートページ
値名	OpenAtLogon

[スタート] ボタンではなく [デスクトップ] ボタンに移動

値の種類	DWORD
有効な値	0
無効な値	1
処理中	ログオン時のサービス

システムのプロパティを無効にする

親キー	HKCU\ソフトウェア\マイクロソフト\Windows\現在のバージョン\ポリシー\エクスプローラ
値名	NoPropertiesMyComputer
値の種類	DWORD
有効な値	1
無効な値	0
処理中	エージェントによって呼び出されたサービス

ごみ箱のプロパティを無効にする

親キー	HKCU\ソフトウェア\マイクロソフト\Windows\現在のバージョン\ポリシー\エクスプローラ
値名	NoPropertiesRecycleBin
値の種類	DWORD
有効な値	1
無効な値	0
処理中	エージェントによって呼び出されたサービス

マイドキュメントのプロパティを無効にする

親キー	HKCU\ソフトウェア\マイクロソフト\Windows\現在のバージョン\ポリシー\エクスプローラ
値名	NoPropertiesMyDocuments
値の種類	DWORD

Workspace Environment Management サービス

マイドキュメントのプロパティを無効にする

有効な値	1
無効な値	0
処理中	エージェントによって呼び出されたサービス

ネットワークアイコンを非表示

親キー	HKCU\ソフトウェア\マイクロソフト\Windows\現在のバージョン\ポリシー\nNenum
値名	{F02C1A0D-BE21-4350-88B0-7367FC96EF3C}
値の種類	DWORD
有効な値	1
無効な値	0
処理中	ログオン時のサービス

ネットワーク接続を隠す

親キー	HKCU\ソフトウェア\マイクロソフト\Windows\現在のバージョン\ポリシー\エクスプローラ
値名	NoNetworkConnections
値の種類	DWORD
有効な値	1
無効な値	0
処理中	エージェントによって呼び出されたサービス

タスクマネージャを無効にする

親キー	HKCU\ソフトウェア\マイクロソフト\Windows\現在のバージョン\ポリシー\システム
値名	DisableTaskMgr
値の種類	DWORD
有効な値	1

Workspace Environment Management サービス

タスクマネージャを無効にする

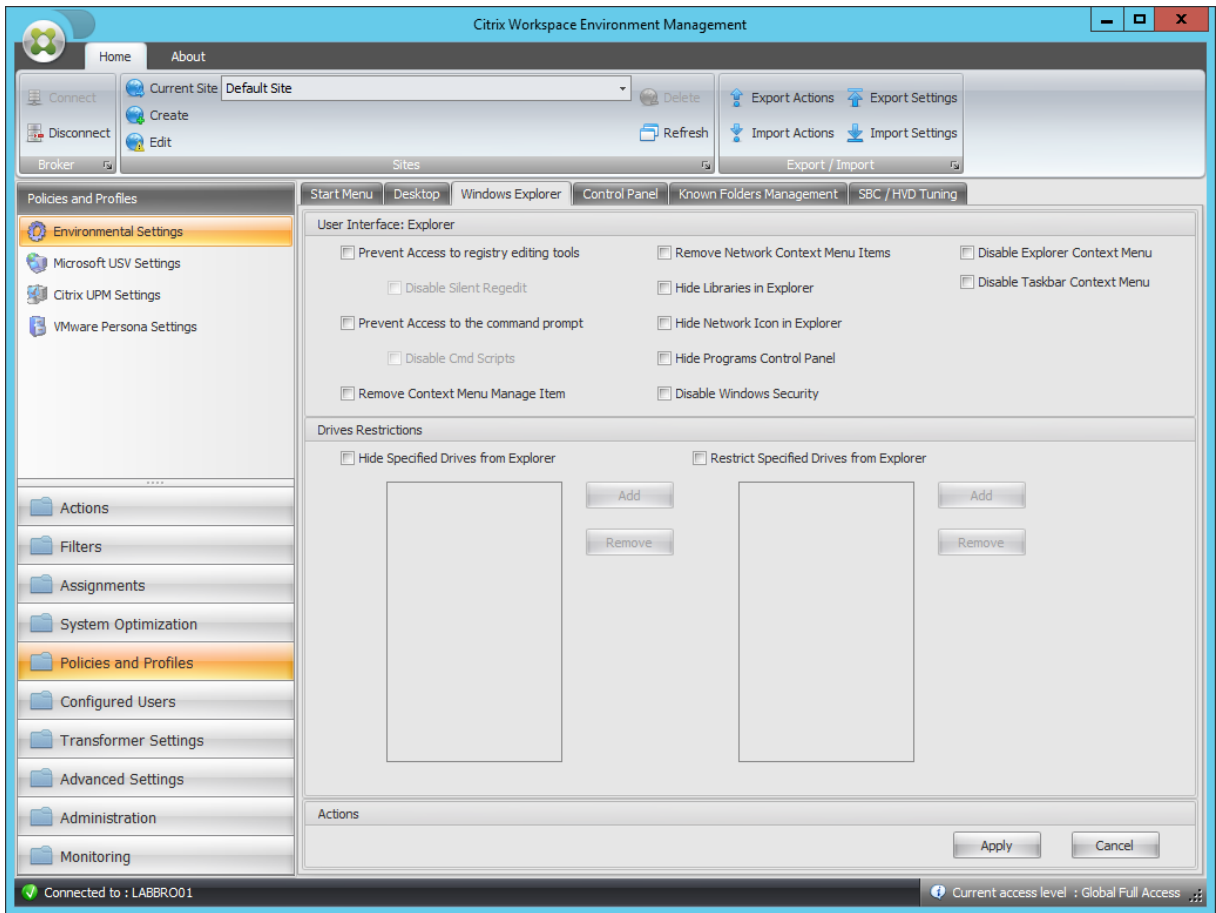
無効な値	0
処理中	エージェントによって呼び出されたサービス

スイッチャーを無効にする

親キー	HKCU\ソフトウェア\Microsoft\Windows\CurrentVersion\ImersiveShell\EdgeUI
値名	DisableTLcorner
値の種類	DWORD
有効な値	1
無効な値	0
処理中	ログオン時のサービス

チャームヒントを無効にする

親キー	HKCU\ソフトウェア\Microsoft\Windows\CurrentVersion\ImersiveShell\EdgeUI
値名	DisableCharmsHint
値の種類	DWORD
有効な値	1
無効な値	0
処理中	ログオン時のサービス



レジストリ編集ツールへのアクセスを禁止する

親キー	HKCU\ソフトウェア\マイクロソフト\Windows\現在のバージョン\ポリシー\システム
値名	DisableRegistryTools
値の種類	DWORD
有効な値	サイレント正規表現を無効にする 2:1
無効な値	0
処理中	エージェントによって呼び出されたサービス

コマンドプロンプトへのアクセスを禁止する

親キー	HKCU\ソフトウェア\ポリシー\システム
値名	DisableCMD
値の種類	DWORD

コマンドプロンプトへのアクセスを禁止する

有効な値	サイレント Cmd スクリプトを無効にする 2:1
無効な値	0
処理中	エージェントによって呼び出されたサービス

コンテキストメニュー [アイテムの管理]

親キー	HKCU\ソフトウェア\マイクロソフト\Windows\現在のバージョン\ポリシー\エクスプローラ
値名	NoManageMyComputerVerb
値の種類	DWORD
有効な値	1
無効な値	0
処理中	エージェントによって呼び出されたサービス

ネットワークコンテキストメニュー項目の削除

親キー	HKCU\ソフトウェア\マイクロソフト\Windows\現在のバージョン\ポリシー\エクスプローラ
値名	NoNetworkConnections
値の種類	DWORD
有効な値	1
無効な値	0
処理中	エージェントによって呼び出されたサービス

エクスプローラでライブラリを非表示にする

親キー	HKCU\ソフトウェア\マイクロソフト\Windows\現在のバージョン\ポリシー\nNenum
値名	{031E4825-7B94-4dc3-B131-E946B44C8DD5}
値の種類	DWORD
有効な値	1

Workspace Environment Management サービス

エクスプローラでライブラリを非表示にする

無効な値	0
処理中	ログオン時のサービス

エクスプローラでネットワークアイコンを非表示にする

親キー	HKCU\ソフトウェア\マイクロソフト\Windows\現在のバージョン\ポリシー\ nNenum
値名	{F02C1A0D-BE21-4350-88B0-7367FC96EF3C}
値の種類	DWORD
有効な値	1
無効な値	0
処理中	ログオン時のサービス

[プログラム] コントロールパネルを非表示にする

親キー	HKCU\ソフトウェア\マイクロソフト\Windows\現在のバージョン\ポリシー\プログラム
値名	NoProgramsCPL
値の種類	DWORD
有効な値	1
無効な値	0
処理中	エージェントによって呼び出されたサービス

Windows セキュリティを無効にする

親キー	HKCU\ソフトウェア\マイクロソフト\Windows\現在のバージョン\ポリシー\エクスプローラ
値名	NoNtSecurity
値の種類	DWORD
有効な値	1
無効な値	0

Windows セキュリティを無効にする

処理中 エージェントによって呼び出されたサービス

エクスプローラのコンテキストメニューを無効にする

親キー HKCU\ソフトウェア\マイクロソフト\Windows\現在のバージョン\ポリシー\エクスプローラ

値名 NoViewContextMenu

値の種類 DWORD

有効な値 1

無効な値 0

処理中 エージェントによって呼び出されたサービス

タスクバーのコンテキストメニューを無効にする

親キー HKCU\ソフトウェア\マイクロソフト\Windows\現在のバージョン\ポリシー\エクスプローラ

値名 NoTrayContextMenu

値の種類 DWORD

有効な値 1

無効な値 0

処理中 エージェントによって呼び出されたサービス

指定したドライブをエクスプローラから非表示にする

親キー HKCU\ソフトウェア\マイクロソフト\Windows\現在のバージョン\ポリシー\エクスプローラ

値名 NoDrives

値の種類 DWORD

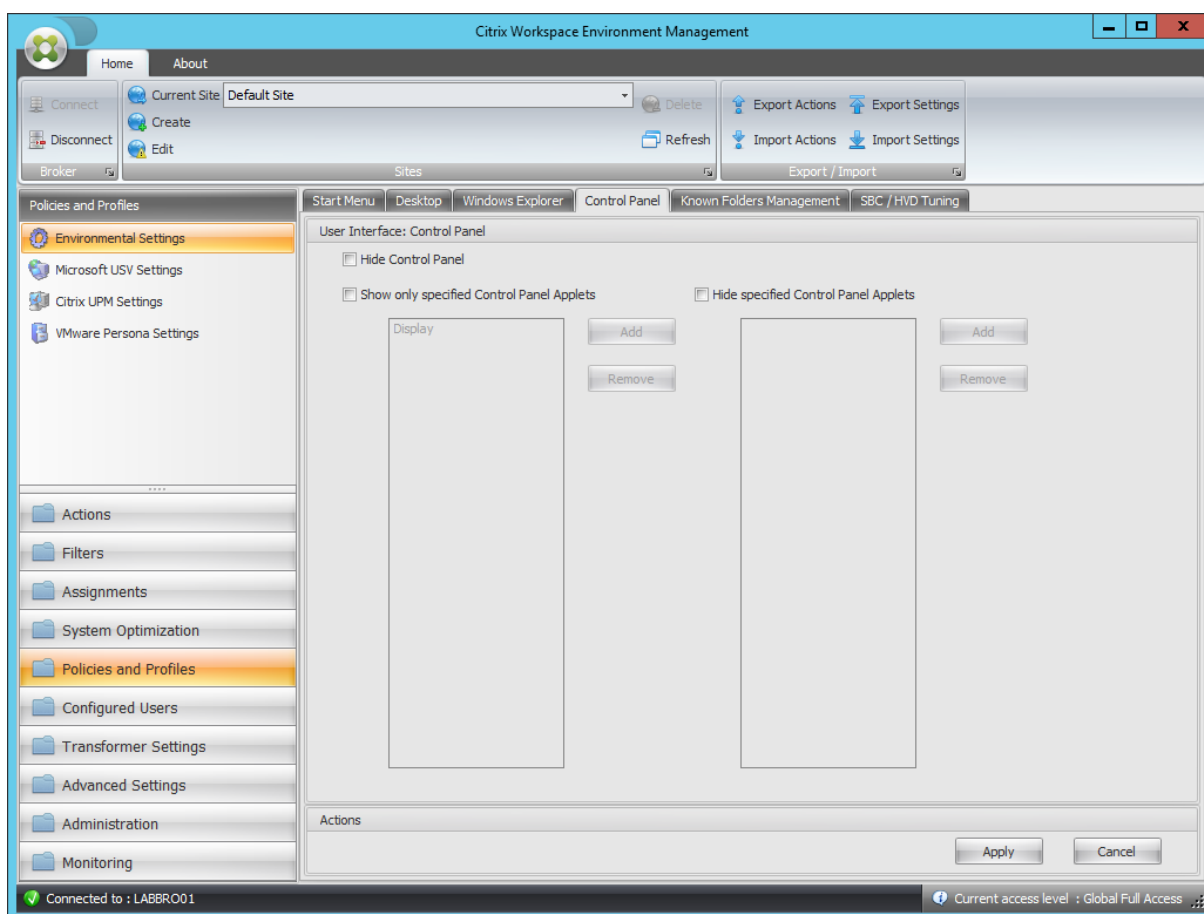
有効な値 値は選択したドライブ文字によって異なります

無効な値 Null (値は削除する必要があります)

処理中 ログオン時のサービス

エクスプローラから指定したドライブを制限する

親キー	HKCU\ソフトウェア\マイクロソフト\Windows\現在のバージョン\ポリシー\エクスプローラ
値名	NoViewOnDrive
値の種類	DWORD
有効な値	値は選択したドライブ文字によって異なります
無効な値	Null (値は削除する必要があります)
処理中	ログオン時のサービス



コントロールパネルを非表示にする

親キー	HKCU\ソフトウェア\マイクロソフト\Windows\現在のバージョン\ポリシー\エクスプローラ
値名	NoControlPanel

コントロールパネルを非表示にする

値の種類	DWORD
有効な値	1
無効な値	0
処理中	エージェントによって呼び出されたサービス

指定したコントロールパネルアプレットのみを表示

親キー	HKCU\ソフトウェア\マイクロソフト\Windows\現在のバージョン\ポリシー\エクスプローラ
値名	RestrictCpl
値の種類	DWORD
有効な値	1
無効な値	0
処理中	エージェントによって呼び出されたサービス

許可された各アプレットについて

親キー	HKCU\ソフトウェア\マイクロソフト\Windows\現在のバージョン\ポリシー\エクスプローラ\RestrictCPL
値名	アプレットインデックス (1 から始まり、自動的にインクリメント)
値の種類	REG_SZ
有効な値	AppletName
無効な値	ヌル/削除
処理中	エージェントによって呼び出されたサービス

指定したコントロールパネルアプレットを非表示にする

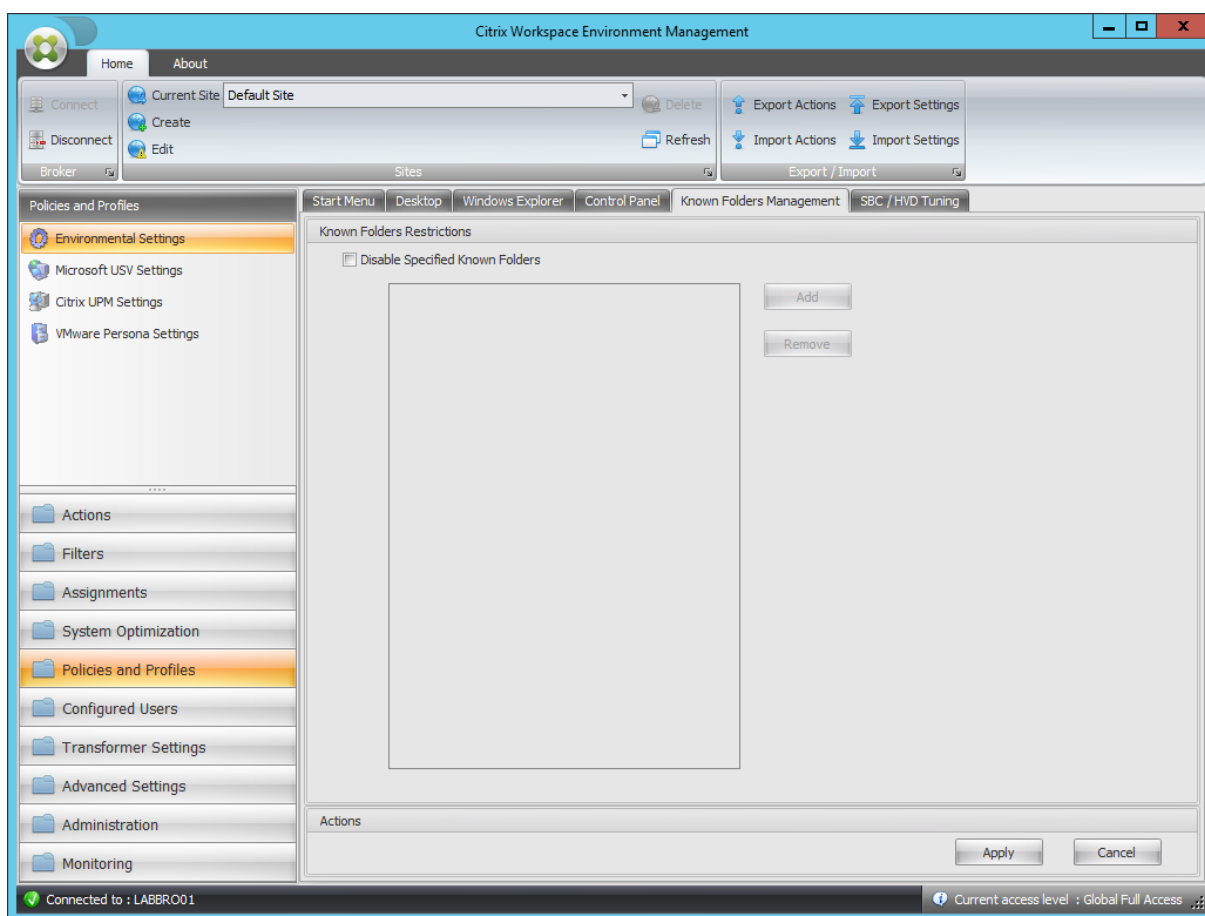
親キー	HKCU\ソフトウェア\マイクロソフト\Windows\現在のバージョン\ポリシー\エクスプローラ
値名	DisallowCpl

指定したコントロールパネルアプレットを非表示にする

値の種類	DWORD
有効な値	1
無効な値	0
処理中	エージェントによって呼び出されたサービス

許可されていない各アプレットについて

親キー	HKCU\ソフトウェア\マイクロソフト\Windows\現在のバージョン\ポリシー\エクスプローラ\DisallowCpl
値名	アプレットインデックス (1 から始まり、自動的にインクリメント)
値の種類	REG_SZ
有効な値	AppletName
無効な値	ヌル/削除
処理中	エージェントによって呼び出されたサービス



指定した既知のフォルダを無効にする

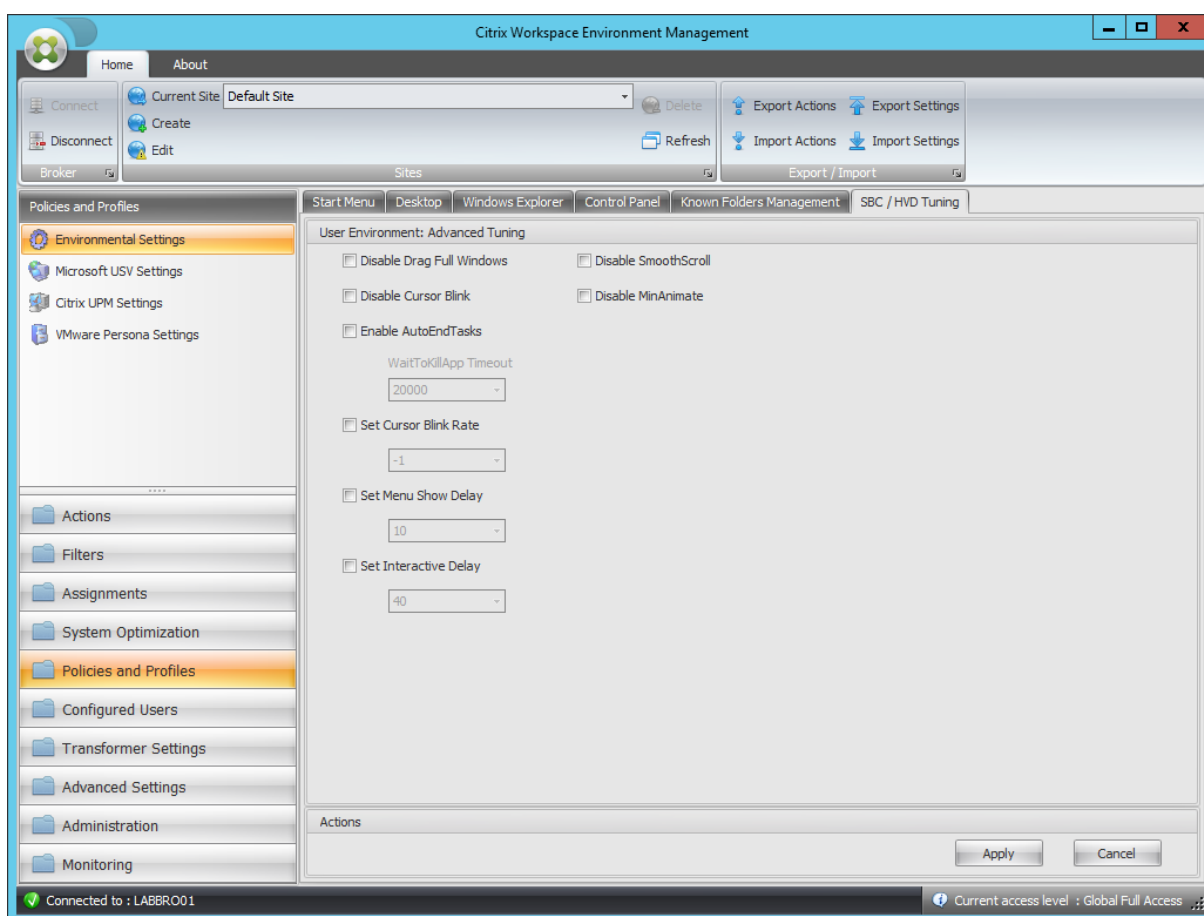
親キー	HKCU\ソフトウェア\ポリシー\マイクロソフト\Windows\エクスプローラ
値名	DisableKnownFolders
値の種類	DWORD
有効な値	値は選択したドライブ文字によって異なります
無効な値	Null (値は削除する必要があります)
処理中	ログオン時のサービス

無効化された各フォルダについて

親キー	HKCU\ソフトウェア\ポリシー\マイクロソフト\Windows\エクスプローラ\無効既知のフォルダ
値名	無効なフォルダ名

無効化された各フォルダについて

値の種類	REG_SZ
有効な値	無効なフォルダ名
無効な値	ヌル/削除
処理中	ログオン時のサービス



ウィンドウ全体のドラッグを無効にする

親キー	HKCU\コントロールパネル\デスクトップ
値名	DragFullWindows
値の種類	REG_SZ
有効な値	0
無効な値	1
処理中	ログオン時のサービス

ウィンドウ全体のドラッグを無効にする

カーソルの点滅を無効にする

親キー	HKCU\コントロールパネル\デスクトップ
値名	DisableCursorBlink
値の種類	DWORD
有効な値	1
無効な値	0
処理中	ログオン時のサービス

自動終了タスクを有効にする

親キー	HKCU\コントロールパネル\デスクトップ
値名	AutoEndTasks
値の種類	DWORD
有効な値	1
無効な値	0
処理中	ログオン時のサービス

WaitToKillApp Timeout

親キー	HKCU\コントロールパネル\デスクトップ
値名	WaitToKillAppTimeout
値の種類	DWORD
有効な値	設定値
無効な値	20000 (10 進数)
処理中	ログオン時のサービス

カーソルの点滅率を設定

親キー	HKCU\コントロールパネル\デスクトップ
値名	CursorBlinkRate
値の種類	DWORD
有効な値	設定値
無効な値	500 (10 進数)
処理中	ログオン時のサービス

[設定] メニュー [表示遅延]

親キー	HKCU\コントロールパネル\デスクトップ
値名	MenuShowDelay
値の種類	DWORD
有効な値	設定値
無効な値	400 (10 進数)
処理中	ログオン時のサービス

インタラクティブ遅延の設定

親キー	HKCU\コントロールパネル\デスクトップ
値名	InteractiveDelay
値の種類	DWORD
有効な値	設定値
無効な値	ヌル/削除
処理中	ログオン時のサービス

スムーズスクロールを無効にする

親キー	HKCU\コントロールパネル\デスクトップ
値名	SmoothScroll

スムーズスクロールを無効にする

値の種類	DWORD
有効な値	0
無効な値	1
処理中	ログオン時のサービス

最小アニメーションを無効にする

親キー	HKCU\コントロールパネル\デスクトップ
値名	MinAnimate
値の種類	DWORD
有効な値	0
無効な値	1
処理中	ログオン時のサービス

フィルター条件

September 6, 2023

Workspace Environment Management には、エージェントがユーザーにリソースを割り当てる状況を構成するために使用する次のフィルタ条件が含まれています。管理コンソールでのこれらの条件の使用については、「[フィルタ](#)」を参照してください。

次のフィルタ条件を使用する場合は、次の 2 つのシナリオに注意してください。

- エージェントがシングルセッション OS またはマルチセッション OS にインストールされている場合は、次の手順を実行します。
 - 「クライアント」とは、エージェントホストに接続しているクライアントデバイスを指します。
 - 「コンピュータ」と「クライアントリモート」は、エージェントホストを指します。
- エージェントが物理エンドポイントにインストールされている場合、条件名に「client」を含む条件は適用されません。

条件名	Always True
期待値のタイプ	-
期待される結果タイプ	-
予想される構文	-
戻り値	True.

条件名	コンピュータ名の一致
期待値のタイプ	-
期待される結果タイプ	[文字列]。
予想される構文	シングルネームテスト: コンピュータ名複数のテスト (OR): Computername1; Computername2 ワイルドカード (倍数でも動作): ComputerName*
戻り値	現在のコンピュータ名がテストされた値と一致する場合は true、そうでない場合は false。

条件名	クライアント名の一致
期待値のタイプ	-
期待値のタイプ	[文字列]。
予想される構文	単一名テスト: クライアント名複数のテスト (OR): クライアント名 1; クライアント名 2 ワイルドカード (複数でも動作): ClientName*
戻り値	現在のクライアント名がテストされた値と一致する場合は true、そうでない場合は false。

条件名	IP アドレスの一致
期待値のタイプ	-
期待される結果タイプ	IP アドレス。
予想される構文	シングルネームテスト: IPaddress 複数のテスト (OR): ipaddress1; ipaddress2 ワイルドカード (倍数でも動作): IPaddress* 範囲 (倍数でも動作): ipaddress1-ipaddress2

条件名	IP アドレスの一致
戻り値	現在のコンピュータの IP アドレスがテストされた値と一致する場合は true、そうでない場合は false。

条件名	クライアント IP アドレスの一致
期待値のタイプ	-
期待される結果タイプ	IP アドレス。
予想される構文	シングルネームテスト:clientIpAddress 複数のテスト (OR): clientIpAddress1; clientIpAddress2 ワイルドカード (倍数でも動作): clientIpAddress* 範囲 (倍数でも動作): ipAddress1-ipaddress2
戻り値	現在のクライアント IP アドレスがテストされた値と一致する場合は true、そうでない場合は false。

条件名	Active Directory サイトの一致
期待値のタイプ	-
期待される結果タイプ	テストする Active Directory サイトの正確な名前。
予想される構文	Active Directory サイト名。
戻り値	指定したサイトが現在のサイトと一致する場合は true、そうでない場合は false。

条件名	スケジュール設定
期待値のタイプ	-
期待される結果タイプ	曜日 (例: 月曜日)。
予想される構文	単一名テスト:DayOfWeek 複数のテスト (OR): DayOfWeek1; DayOfWeek2
戻り値	今日がテストされた値と一致する場合は true、そうでない場合は false。

条件名	環境変数の一致
期待値のタイプ	[文字列]。テストされた変数の名前。
期待される結果タイプ	[文字列]。テストされた変数の期待値。
予想される構文	単一名テスト: 値 NULL ではないテスト:?
戻り値	環境変数が存在し、値が一致する場合は true、そうでない場合は false。

条件名	レジストリ値の一致
期待値のタイプ	[文字列]。テストするレジストリ値の完全なパスと名前。 例: レジストリキー HKCU\ソフトウェア\Citrix\ TestValueName
期待される結果タイプ	[文字列]。テストされたレジストリエントリの期待値。
予想される構文	単一名テスト: 値 NULL ではないテスト:?
戻り値	レジストリ値が存在し、値が一致する場合は true、そうでない場合は false。

条件名	WMI クエリ結果の一致
期待値のタイプ	-
期待される結果タイプ	[文字列]。
予想される構文	有効な WMI クエリです。詳しくは、 https://docs.microsoft.com/en-us/windows/win32/wmisdk/querying-with-wql を参照してください。
戻り値	クエリが成功し、結果がある場合は true、そうでない場合は false。

条件名	ユーザーの国一致
期待値のタイプ	-
期待される結果タイプ	[文字列]。
予想される構文	2 文字の ISO 言語名。
戻り値	ユーザーの ISO 言語名が指定された値と一致する場合は true、そうでない場合は false。

条件名	ユーザー UI 言語の一致
期待値のタイプ	-
期待される結果タイプ	[文字列]。2文字の ISO 言語名。例 FR
予想される構文	2文字の ISO 言語名。例 FR
戻り値	ユーザー UI の ISO 言語名が指定した値に一致する場合は true、一致しない場合は false。

条件名	ユーザ SBC リソースタイプ
期待値のタイプ	-
期待される結果タイプ	リストから選択します。
予想される構文	-
戻り値	ユーザーコンテキスト (公開デスクトップまたはアプリケーション) が選択した値と一致する場合は true、それ以外の場合は false。

条件名	OS プラットフォームのタイプ
期待値のタイプ	-
期待される結果タイプ	ドロップボックスから選択します。
予想される構文	-
戻り値	マシンプラットフォームのタイプ (x64 または x86) が選択された値に一致する場合は true、そうでない場合は false。

条件名	接続状態
期待値のタイプ	-
期待される結果タイプ	ドロップボックスから選択します。
予想される構文	-
戻り値	接続状態 (オンラインまたはオフライン) が選択された値と一致する場合は true、一致しない場合は false。

条件名	Citrix Provisioning イメージモード
期待値のタイプ	-
期待される結果タイプ	ドロップボックスから選択します。
予想される構文	-
戻り値	現在の Citrix Provisioning イメージモードが選択した値と一致する場合は true、一致しない場合は false。

条件名	クライアント OS
期待値のタイプ	-
期待される結果タイプ	ドロップボックスから選択します。
予想される構文	-
戻り値	現在のクライアントオペレーティングシステムが選択した値と一致する場合は true、一致しない場合は false。

条件名	Active Directory パスの一致
期待値のタイプ	-
期待される結果タイプ	[文字列]。テストされた Active Directory パスの名前。
予想される構文	単一名テスト: 厳密な LDAP パス一致ワイルドカードテスト: ou=users* 複数のエン트리: セミコロン (;) で区切ったエン 트리
戻り値	属性が存在し、値が一致する場合は true、そうでない場合は false。

条件名	Active Directory 属性の一致
期待値のタイプ	[文字列]。テストされた Active Directory 属性の名前。
期待される結果タイプ	[文字列]。テストされた Active Directory 属性の期待値。
予想される構文	単一値テスト: 値複数の値エン 트리: セミコロン (;) で区切ったエン 트리를 null でないかどうかをテスト?
戻り値	属性が存在し、値が一致する場合は true、そうでない場合は false。

条件名	名前または値がリスト内にある
期待値のタイプ	[文字列]。インテグリティリストマネージャユーティリティによって生成される XML リストのフルファイルパス。
期待される結果タイプ	[文字列]。リスト内で検索する名前/値の期待値。
予想される構文	文字列
戻り値	指定されたリストの名前と値のペアに入力値が見つかった場合は True、それ以外の場合は false。

条件名	一致するコンピュータ名がありません
負の条件行動	ComputerName Match を実行し、反対の結果を返します (false の場合は true、true の場合は false)。詳細については、「 ComputerName Match 」の条件を参照してください。

条件名	クライアント名が一致しません
負の条件行動	ClientName Match を実行し、反対の結果を返します (false の場合は true、true の場合は false)。詳細については、「クライアント名の一致」の条件を参照してください。

条件名	IP アドレスが一致しない
負の条件行動	IP アドレスマッチを実行し、逆の結果を返します (false の場合は true、true の場合は false)。詳細については、「条件 IP アドレス一致」を参照してください。

条件名	クライアント IP アドレスが一致しない
負の条件行動	クライアント IP アドレスマッチを実行し、逆の結果を返します (false の場合は true、true の場合は false)。詳細については、「クライアント IP アドレス一致」の条件を参照してください。

条件名	一致する Active Directory サイトがありません
負の条件行動	Active Directory サイトの一致を実行し、逆の結果を返します (false の場合は true、true の場合は false)。詳細については、「 Active Directory サイトの一致」を参照してください。

条件名	環境変数の一致なし
負の条件行動	環境変数マッチを実行し、反対の結果を返します (false の場合は true、true の場合は false)。詳細については、条件環境変数の一致を参照してください。

条件名	一致するレジストリ値がありません
負の条件行動	レジストリ値の一致を実行し、逆の結果を返します (false の場合は true、true の場合は false)。詳細については、「条件レジストリ値の一致」を参照してください。

条件名	WMI クエリ結果の一致がありません
負の条件行動	WMI クエリ結果 Match を実行し、反対の結果を返します (false の場合は true、true の場合は false)。詳細については、条件 WMI クエリ結果の一致を参照してください。

条件名	ユーザーの国が一致しません
負の条件行動	ユーザー国一致を実行し、逆の結果を返します (false の場合は true、true の場合は false)。詳細については、条件ユーザーの国一致を参照してください。

条件名	ユーザー UI 言語が一致しません
負の条件行動	ユーザー UI 言語一致を実行し、反対の結果を返します (false の場合は true、true の場合は false)。詳細については、条件「ユーザー UI 言語マッチ」を参照してください。

条件名	Active Directory パスが一致しません
負の条件行動	Active Directory パス一致を実行し、逆の結果を返します (false の場合は true、true の場合は false)。詳細については、「 Active Directory パス一致」の条件を参照してください。

条件名	Active Directory 属性が一致しない
負の条件行動	アクティブ属性パスマッチを実行し、逆の結果を返します (false の場合は true、true の場合は false)。詳細については、条件アクティブ属性パス一致を参照してください。

条件名	名前または値がリストにありません
負の条件行動	名前または値がリストにあり、逆の結果を返します (偽の場合は true、真の場合は false)。詳細については、条件の名前または値がリストにあるを参照してください。

条件名	クライアントのリモート OS の一致
期待値のタイプ	-
期待される結果タイプ	ドロップボックスから選択します。
予想される構文	-
戻り値	現在のリモートクライアントオペレーティングシステムが選択した値と一致する場合は true、一致しない場合は false。

条件名	クライアントのリモート OS の一致なし
負の条件行動	クライアントリモート OS のマッチを実行し、逆の結果を返します (false の場合は true、true の場合は false)。詳細については、「クライアントリモート OS の一致」の条件を参照してください。

条件名	動的値の一致
期待値のタイプ	[文字列]。環境変数または動的トークンを使用する任意の動的式。
期待される結果タイプ	[文字列]。テストされた式の期待値。
予想される構文	単一名テスト: 値 NULL ではないテスト:?
戻り値	動的式の結果値が存在し、値が一致する場合は true、そうでない場合は false。

条件名	動的値の一致なし
負の条件行動	動的値の一致を実行し、反対の結果を返します (false の場合は true、true の場合は false)。詳細については、条件の動的値一致を参照してください。

条件名	トランスモード状態
期待値のタイプ	-
期待される結果タイプ	ドロップボックスから選択します。
予想される構文	-
戻り値	現在のトランスフォーマーの状態が選択値と一致する場合は true、そうでない場合は false。

条件名	クライアント OS の一致なし
負の条件行動	クライアント OS のマッチを実行し、反対の結果を返します (false の場合は true、true の場合は false)。詳細については、条件「クライアント OS マッチ」を参照してください。

条件名	Active Directory グループの一致
期待値のタイプ	-
期待される結果タイプ	[文字列]。
予想される構文	シングルネームテスト: グループ NetBIOS 名 (ドメイン\グループ名) 複数のテスト (OR): グループ名 1; グループ名 2
戻り値	現在のユーザーグループのいずれかがテストされた値と一致する場合は true、そうでない場合は false。

条件名	Active Directory グループの一致がありません
負の条件行動	Active Directory グループマッチを実行し、逆の結果を返しません (false の場合は true、true の場合は false)。詳細については、「 Active Directory グループの一致」の条件を参照してください。

条件名	ファイルのバージョン一致
期待値のタイプ	[文字列]。テストするファイルのフルパスと名前。 例: C:\Test\TestFile.dll
期待される結果タイプ	[文字列]。テストされたファイルの期待されるファイルのバージョン値。
予想される構文	単一名テスト: 値 NULL ではないテスト:?
戻り値	レジストリ値が存在し、値が一致する場合は true、そうでない場合は false。

条件名	一致するファイルバージョンがありません
負の条件行動	ファイルバージョンマッチを実行し、逆の結果を返しません (false の場合は true、true の場合は false)。詳細については、条件ファイルバージョン一致を参照してください。

条件名	ネットワーク接続状態
期待値のタイプ	-
期待される結果タイプ	ドロップボックスから選択します。
予想される構文	-
戻り値	現在のネットワーク接続状態が選択された値と一致する場合は true、そうでない場合は false。

重要:

公開リソース名をフィルタ条件タイプとして使用する前に、次の点に注意してください。公開リソースが公開アプリケーションの場合は、[一致結果] フィールドにアプリケーションのブラウザ名を入力します。公開リソースが公開デスクトップの場合は、[一致結果] フィールドにデスクトップの公開名を入力します。

条件名	発行されたリソース名
期待値のタイプ	-
期待される結果タイプ	[文字列]。公開リソースの名前 (Citrix Virtual Apps/Citrix Virtual Desktops/RDS)。
予想される構文	単一名テスト: 公開リソース名複数のテスト (OR): Name1; Name2 ワイルドカードテスト: 名前 *
戻り値	現在発行されているリソース名がテストされた値と一致する場合は true、それ以外の場合は false。

条件名	名前がリスト内にある
期待値のタイプ	[文字列]。インテグリティリストマネージャユーティリティによって生成される XML リストのフルファイルパス。
期待される結果タイプ	[文字列]。リスト内で検索する名前の期待値。
予想される構文	文字列
戻り値	指定されたリストの名前と値のペアで名前が一致する場合は true、そうでない場合は false。

条件名	名前がリストにありません
負の条件行動	Runs Name はリストにあり、反対の結果を返します (false の場合は true、true の場合は false)。詳細については、条件の名前がリストに載っているを参照してください。

条件名	ファイル/フォルダが存在します
期待値のタイプ	-
期待される結果タイプ	[文字列]。
予想される構文	テストするファイル・システム・エントリ（ファイルまたはフォルダ）のフル・パス。
戻り値	指定されたファイル・システム・エントリが存在する場合は true、存在しない場合は false。

条件名	ファイル/フォルダが存在しません
負の条件行動	ファイル/フォルダが存在し、逆の結果を返します (false の場合は true、true の場合は false)。詳細については、「ファイル/フォルダが存在する」を参照してください。

条件名	日時一致
期待値のタイプ	-
期待される結果タイプ	日付時刻を文字列として指定します。テストする日付/時刻。
予想される構文	単一の日付:2016/01/2016 日付範囲:2016/01/2016-08-01 複数のエントリ:entry1; entry2 範囲と単一の日付を混在させることができます
戻り値	実行日時が指定されたエントリのいずれかに一致する場合は true、そうでない場合は false。

条件名	日時一致なし
負の条件行動	DateTime Match を実行し、反対の結果を返します (false の場合は true、true の場合は false)。詳細については、条件 DateTime Match を参照してください。

Citrix DaaS および Citrix Virtual Apps and Desktops に関連する条件をフィルタリングする

WEM は、Citrix DaaS（以前の Citrix Virtual Apps and Desktops サービス）および Citrix Virtual Apps and Desktops 展開で使用するために、次のフィルター条件をサポートしています。この条件は、現在サポートされているすべてのバージョンに適用されます。バージョン一致条件を使用する場合は、次の考慮事項に注意してください。

- バージョン番号は、さまざまな形式で指定できます。たとえば、7.30、7.30.0、または7.30.0.0と入力します。必要に応じて、アスタリスク (*) をワイルドカードとして使用することもできます。例: 7.30*。アスタリスクは 0 個以上の文字と一致します。
- 指定されたバージョンは、Virtual Delivery Agent のバージョンではなく、Delivery Controller バージョン番号です。バージョン番号を表示するには、インストールメディアで自動選択アプリケーション (AutoSelect.exe ファイル) を探し、[自動選択] を右クリックし、[詳細] タブをクリックします。[製品バージョン] フィールドには、WEM で指定できるバージョン番号が表示されます。

条件名	Citrix Virtual Apps のバージョンの一致
期待値のタイプ	-
期待される結果タイプ	[文字列]。Citrix Virtual Apps バージョン例:7.30
予想される構文	-
戻り値	バージョンが選択した値に一致する場合は true、一致しない場合は false。

条件名	Citrix Virtual Apps ファーム名の一致
期待値のタイプ	-
期待される結果タイプ	[文字列]。Citrix Virtual Apps ファーム名。例: ファーム。
予想される構文	-
戻り値	名前が選択された値と一致する場合は true、そうでない場合は false。

条件名	Citrix Virtual Apps ゾーン名の一致
期待値のタイプ	-
期待される結果タイプ	[文字列]。Citrix Virtual Apps ゾーン名。例: ゾーン
予想される構文	-
戻り値	名前が選択された値と一致する場合は true、そうでない場合は false。

条件名	Citrix Virtual Desktops ファーム名の一致
期待値のタイプ	-
期待される結果タイプ	[文字列]。Citrix Virtual Desktops ファーム名。例: ファーム。
予想される構文	-
戻り値	名前が選択された値と一致する場合は true、そうでない場合は false。

条件名	Citrix Virtual Desktops デスクトップグループ名の一致
期待値のタイプ	-
期待される結果タイプ	[文字列]。Citrix Virtual Desktops デスクトップグループの例: グループ
予想される構文	-
戻り値	名前が選択された値と一致する場合は true、そうでない場合は false。

条件名	Citrix Virtual Apps のバージョンが一致しません
負の条件行動	Citrix Virtual Apps のバージョンマッチを実行し、逆の結果を返します (false の場合は true、true の場合は false)。詳細については、 Citrix Virtual Apps バージョン一致の条件を参照してください。

条件名	Citrix Virtual Apps ファーム名が一致しない
負の条件行動	Citrix Virtual Apps ファーム名の一致を実行し、逆の結果を返します (false の場合は true、true の場合は false)。詳細については、「 Citrix Virtual Apps ファーム名の一致」を参照してください。

条件名	Citrix Virtual Apps ゾーン名が一致しない
負の条件行動	Citrix Virtual Apps ゾーン名の一致を実行し、逆の結果を返します (false の場合は true、true の場合は false)。詳細については、「 Citrix Virtual Apps ゾーン名の一致」を参照してください。

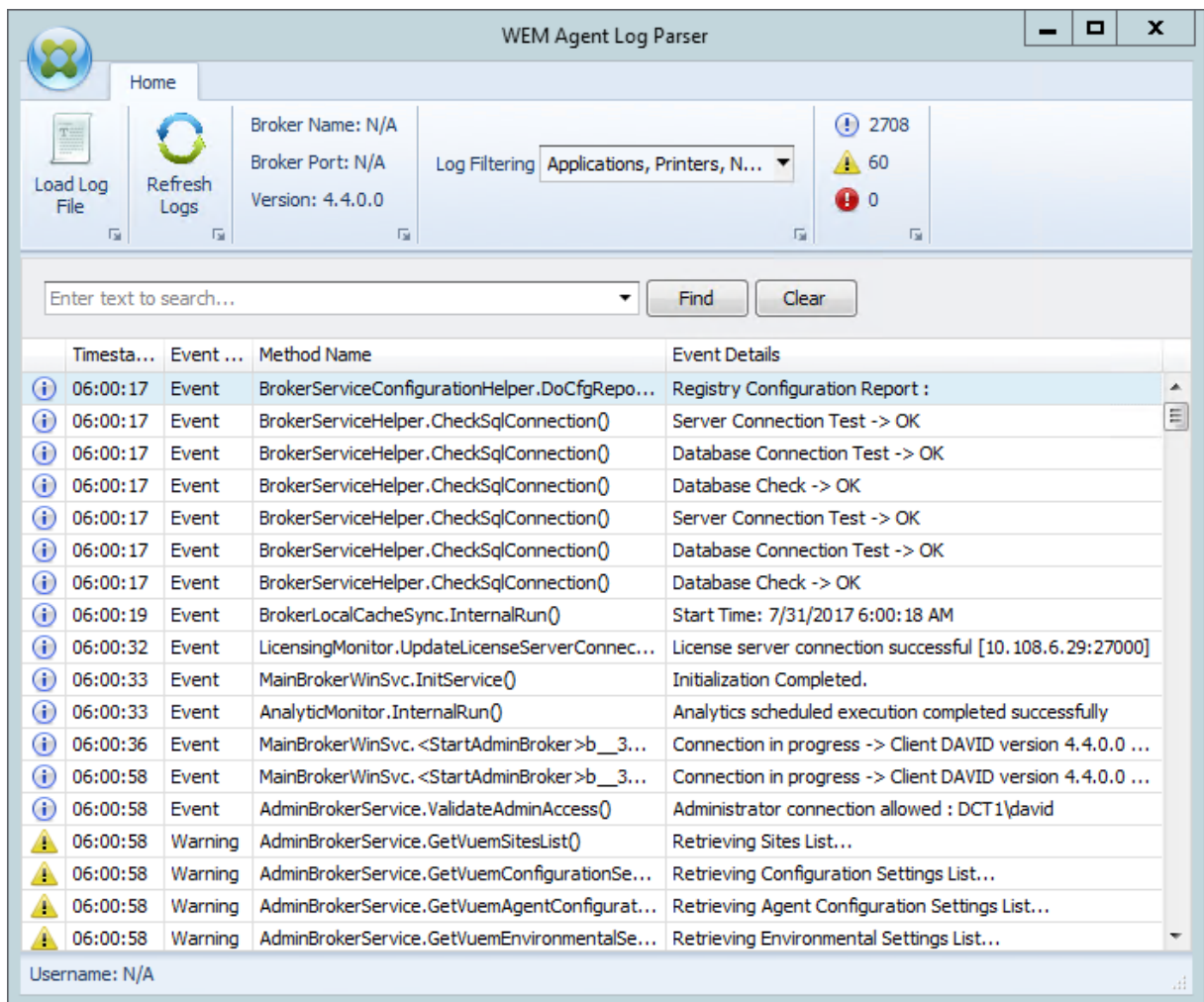
条件名	Citrix Virtual Desktops ファーム名が一致しない
負の条件行動	Citrix Virtual Desktops ファーム名の一致を実行し、逆の結果を返します (false の場合は true、true の場合は false)。詳細については、「 Citrix Virtual Desktops ファームの名前の一致」を参照してください。

条件名	Citrix Virtual Desktops グループ名が一致しない
負の条件行動	Citrix Virtual Desktops デスクトップグループ名の一致を実行し、逆の結果を返します (false の場合は true、true の場合は false)。詳細については、 Citrix Virtual Desktops デスクトップグループ名の一致の条件を参照してください。

ログパーサー

August 12, 2020

Workspace Environment Management には、エージェントのインストール・ディレクトリにあるログパーサーアプリケーションが含まれています。



WEM Agent Log Parser を使用すると、Workspace Environment Management エージェントのログファイルを開き、検索およびフィルタリングを行うことができます。パーサーは、リボンの右上にある、イベント、警告、および例外の合計数を要約します。ログファイルの詳細（最初に接続したインフラストラクチャサービスの名前とポート、エージェントのバージョンとユーザー名）も表示されます。

ポート情報

August 12, 2020

Workspace Environment Management サービスは、次のポートを使用します。

接続元	接続先	種類	ポート	詳細
エージェント	WEM サービス	HTTPS	443	オンプレミスのエージェントが Citrix Cloud の WEM サービスに接続するポート。このポートは、アウトバウンドインターネット接続に使用できます。
エージェント	Cloud Connector	TCP	8080	オンプレミスのエージェントが Cloud Connector に接続するポート。このポートは、アウトバウンド LAN (ローカルエリアネットワーク) 接続に使用できます。ポート経由のメッセージは、Windows 通信基盤 (WCF) のメッセージレベルのセキュリティで保護されます。

接続元	接続先	種類	ポート	詳細
Cloud Connector	エージェントホスト	TCP	49752	「エージェントポート」。Cloud Connector から命令を受信するエージェントホストのリスニング・ポート。Cloud Connector と WEM サービスエージェント間の内部通信を許可するようにファイアウォールが設定されていることを確認します。ポートを介したメッセージは、メッセージレベルのセキュリティで保護されます。

WEM ヘルスチェックツール

April 10, 2024

WEM ヘルスチェックツールは、WEM コンポーネントのステータスをチェックし、WEM 展開の設定上の問題を特定して解決するのに役立つスタンドアロンツールです。Citrix.WEM.Health.Check.Tool は WEM エージェントと WEM インフラストラクチャサービスとともにインストールされます。このツールを起動するには、ローカル管理者権限が必要です。トラブルシューティングのためにログを収集するには、デバッグモードを有効にし、問題が発生した後にログを取得します。

ホームページ

ホームページには次の設定が含まれます：

- WEM エージェントと WEM インフラストラクチャサーバーの両方の構成。[名前]、[エージェントタイプ]、[エージェントバージョン]、[参加タイプ] を選択します。
- 参加タイプ的前提条件は、**AD** 参加タイプでも非ドメイン参加タイプでもかまいません。

- WEM エージェントと WEM インフラストラクチャサーバーの強制デバッグモードまたはデバッグモードをそれぞれ有効にできます。
- 強制デバッグモードを有効にすると、管理コンソールで指定された設定に関係なく、エージェントのデバッグモードがオンになります。
- 変更を WEM エージェントまたは WEM インフラストラクチャサーバにすぐに反映させるには、[Citrix WEM agent Host Service](#)および[VUEMUIAgent.exe](#)または[Citrix WEM Infrastructure Service](#)をそれぞれ再起動できます。
- ログを取得すると、ログを取得して zip フォルダーにパッケージとして保存できます。その後、ローカルマシンに保存されているパッケージを確認できます。

サービスエージェント

WEM エージェントの設定を確認するには、[チェックの開始] ボタンをクリックします。ヘルスチェックレポートの生成には、次のコンポーネントが考慮されます。

- Windows ファイアウォールの構成
- 接続方法
- キャッシュ場所
- ディレクトリサービス接続時間

注:

- エージェントキャッシュが永続的な場所にあることを確認してください。非永続的なキャッシュロケーションを使用すると、キャッシュ同期の問題、ネットワークデータの過剰使用、パフォーマンスの問題などが発生する可能性があります。
- 接続時間に基づいてディレクトリサービスのタイムアウトを設定することをお勧めします。

WEM エージェントが期待どおりに機能するには、次のサービスが必要です。サービスが実行中で、各サービスのスタートアップタイプが[自動]に設定されていることを確認します。

- システムイベント通知サービス
- Citrix WEM エージェントホストサービス
- Citrix WEM ユーザーログオンサービス

WEM ツールハブ

May 28, 2024

WEM Tool Hub は、Workspace Environment Management (WEM) 管理者の構成エクスペリエンスを簡素化することを目的としたツールのコレクションです。ダウンロードするには、[[Citrix Cloud](#)] > [[WEM サービス](#)] > [[ユーティリティ](#)] に移動します。

WEM ツールハブを実行するための前提条件は次のとおりです。

- .NET フレームワーク 4.7.1 またはそれ以降
- Microsoft Edge WebView2 ランタイムバージョン 98 以降
- ローカル管理者権限

現在、次のツールを使用できます：

- アプリケーションアシスタント
- ファイルタイプ関連付けアシスタント
- プリンタアシスタント
- アプリアクセス制御用のルールジェネレーター

注：

- WEM ツールハブはデータを保存しません。ツールを終了すると、データは消去されます。データが失われる可能性を避けるため、必ず作業を保存してください。
- WEM Tool Hub からコピーしたデータを Web コンソールに貼り付けるには、ブラウザでデータのコピーが許可されていることを確認します。例:Microsoft Edge の場合は、必ず [サイト権限] > [クリップボード] > [クリップボードにコピーされたテキストと画像をサイトが表示するタイミングを確認する] オプションが有効になっている必要があります。

アプリケーションアシスタント

このツールを使用して、管理コンソールにアプリケーションを追加するときに使用するアイコンや Citrix Workspace リソースの構成情報を準備します。

ワークスペースリソース

注：

このツールを使用するには、マシンに Citrix Workspace アプリがインストールされている必要があります。

「Citrix Workspace リソース」タイプのアプリケーションを Web コンソールに追加する場合は、リソースを指定する必要があります。リソースの情報を取得するには、次の手順を実行します。

1. ストア URL またはワークスペース URL を入力します。
2. 「リソースを参照」をクリックしてリソースをブラウズします。次に、リソースが列挙され、一覧表示されます。
3. リストから、ターゲットアプリケーションを選択し、その情報をコピーします。

Web コンソールで、[リソース情報を貼り付け] をクリックしてコピーした情報を貼り付けます。「[アプリケーションの追加](#)」を参照してください。

アイコン

Web コンソールでアプリケーションのアイコンを設定するときに、新しいアイコンを追加できます。アイコンのデータを取得するには、次の手順を実行します。

1. 「ブラウズ」をクリックして、アイコンを含むファイルを参照します。その後、ファイル内のアイコンが読み込まれます。対応しているファイルタイプ: `.exe`、`.dll`、`.ico`
2. アイコンを選択し、アイコンデータをコピーします。

Web コンソールで、[アイコンデータを貼り付け]をクリックしてコピーしたアイコンデータを貼り付けます。「[アプリケーションの追加](#)」を参照してください。

Windows ログオン分析

このツールを使用すると、ログオン期間レポートを表示したり、ログオン期間の最適化やトラブルシューティングに関するヒントを入手したりできます。この機能/ツールを WEM エージェントに統合し、ログイン直後にログオン時間を分析することもできます。

完全なレポートを受け取るには、マシン上の関連する Windows イベントログのログ収集を有効にします。

- [**Windows ログオン分析**] > [レポートを取得] をクリックして、[最新のレポートを取得] ウィザードにアクセスします。
- ドロップダウンリストからいずれかのオプションを選択して時間範囲を選択し、[レポートを取得] をクリックします。デフォルトの範囲は「過去 **24** 時間」です。
- フェーズと説明は、次の表に基づいてグラフの形式で表示されます。

次の表は、すべての指標、サブメトリクス、およびヒントを詳細にまとめたものです。

ベースメトリック	基本指標の説明 (UI)	サブメトリック	ヒント	詳細
ログオン前	Windows ログオンまでにかかった時間。	Citrix ログオン前 HDX コネクション		
認証	セッションへの認証が完了するまでにかかった時間。	Windows 認証	Windows Hello	を使用してください。 Windows Hello は、顔や指紋を使用して PC にサインインできる生体認証機能です。

ベースメトリック	基本指標の説明 (UI)	サブメトリック	ヒント	詳細
Citrix RSOP	Citrix RSOP (ポリシーの結果セット) を完了するまでにかった時間。	VDA 認証	<p>ネットワーク/Active Directory 速度。現在のマシンと Active Directory 間のネットワーク通信が良好であることを確認してください。ツール (Dcdiag) を使用して確認できます。</p> <p>ユーザー名とパスワードの効率的な入力。ユーザー名とパスワードの入力が間違っていたり、遅れたりすると、認証時間が全体的に長くなる可能性があります。</p>	
ユーザープロファイルの読み込み	ユーザーがログオンするためのプロファイル設定のロードにかかった時間。	FSLogix のロード・プロファイル (FSLogix プロファイル・コンテナのロードにかかった時間)。	ディスク容量が少なくなっていないか確認し、空き容量を増やしてください。ハードドライブがほぼいっぱいになると、PC のログイン処理が遅くなる可能性があります。ハードドライブに十分な空き容量があることを確認してください。	

ベースメトリック	基本指標の説明 (UI)	サブメトリック	ヒント	詳細
		<p>ユーザープロファイル (Windows ユーザープロファイルファイルと設定のロードにかかった時間)。</p> <p>SMB クライアント (リモート接続用の SMB クライアントの初期化にかかった時間)。</p>	<p>ProcMon ツールを使用してください。詳細を分析するには、ProcMon ツールを使用して、ユーザーログオン時にユーザープロファイル内のファイル I/O をキャプチャします。</p>	<p>Windows プロファイルデータ (プロファイルサイズ、ファイル/フォルダ数)、一時フォルダデータ (プロファイルサイズ、ファイル/フォルダ数)、上位 10 大ファイルリスト (サイズが 50MB 以上)、上位 10 大容量フォルダリスト (サイズが 100MB 以上)</p>

ベースメトリック	基本指標の説明 (UI)	サブメトリック	ヒント	詳細
		Citrix プロファイル 管理者	<p>Citrix Profile Management. Citrix Profile Management を使用している場合、Accelerate Folder Mirroring が有効になっているフォルダーでは、コンテナベースのソリューションを使用するか、プロファイルストリーミングを備えたファイルベースのソリューションを使用して、ログオンプロセスを最適化できます。詳細については、リンクを参照してください。</p>	Profile Managementヘルスチェックレポート
グループポリシー処理	グループポリシー設定の処理にかかった時間。	グループポリシーグループポリシースクリプト (非同期) グループポリシー CSE (非同期) グループポリシースクリプト	<p>GPO キャッシュを無効にします。 <code>gpedit.msc</code> を実行して、[コンピューターの構成] > [管理用テンプレート] > [システム] > [グループポリシー] のパスに移動します。次に、GPO キャッシュを無効にします。</p>	

ベースメトリック	基本指標の説明 (UI)	サブメトリック	ヒント	詳細
		<p>WMI フィルタログ オンスケジュールタ スク (非同期) シング ルログオンスケジュ ールタスクフォルダ リダイレクト</p>	<p>GPO の数を減らし てください。一度に 処理される GPO の 数を減らしてくださ い。グループポリシ ーの処理は並行して 行われますが、同時 に処理できる GPO の数には制限があり ます。一度に処理さ れる GPO の数を減 らすと、グループポ リシーの処理速度を 上げることができま す。</p>	
		<p>CitrixM 合計 Citrix ホストサービスのス テータスの確認 CitrixM 読み取り構 成 Citrix スタートア ップスクリプトタス ク</p>	<p>Citrix WEM を使用 してグループポリシ ーの非同期を処理し ます。Citrix WEM を使用してグループ ポリシーの非同期を 処理すると、ユーザ ーログオン前にグル ープポリシーを処理 し、グループポリシ ーの処理を高速化で きます。詳細につい ては、リンクを参照 してください。</p>	
		<p>CitrixWemCache (Sync) Cit- rixWemJsonFile CitrixWemMa- chineGroupPolicy CitrixWemUser- GroupPolicy</p>		

ベースメトリック	基本指標の説明 (UI)	サブメトリック	ヒント	詳細
		グループポリシーオブジェクト		単一グループポリシーオブジェクトリスト
プレシエル (ユーザー初期化)	<code>userinit.exe</code> から <code>explorer.exe</code> 起動までの時間です。			
ログオンスクリプト処理	ログオンスクリプトの実行にかかった時間。	ユーザーログオンスクリプト	<p>ログオンスクリプトを最適化してください。不要なコマンドを削除してスクリプトのサイズを小さくすることで、ログオンスクリプトを最適化できます。</p> <p>グループポリシー設定を使用してください。グループポリシー設定を使用してログオンスクリプトを置き換えることができます。ログオンスクリプトよりも管理が簡単で、処理も高速です。</p>	

ベースメトリック

基本指標の説明 (UI)

サブメトリック

ヒント

詳細

Citrix WEM の外部タスクを使用してください。外部タスクを使用してログオンスクリプトを設定します。タスクが完了するまで待つかどうか、および待機タイムアウトの期間を指定できます。待機時間を制限すると、ユーザーログオンを高速化できます。外部タスクの詳細については、製品ドキュメントを参照してください。

ベースメトリック	基本指標の説明 (UI)	サブメトリック	ヒント	詳細
シェルスタートアップ	シェルの起動にかかった時間。	アクティブセットアップ FSLogixShellStart (FSLogix プロファイルコンテナをロードしてからシェルを実行するのにかかる時間)。	<p>スタートアッププログラムを無効にします。PC の電源を入れたときに自動的に起動するプログラムを無効にすることができます。</p> <p>Win11/Win10/Win Server 2022 でスタートアッププログラムを無効にするには、次の手順を実行します。</p> <p>Windows+ I ショートカットを押して [設定] を開き、[アプリ]> [スタートアップ] を選択します。起動時に自動的にオンにしてはいけないアプリやプログラムをオフにします。グローバルスタートアップフォルダから不要なプログラムを削除してください: <code>%allusersprofile%\Microsoft\Windows\Start Menu\Programs\Startup</code>。ユーザースタートアップフォルダから不要なプログラムを削除します: <code>%userprofile%\AppData\Roaming\Microsoft\Windows\Start Menu\Programs\Startup</code>。</p>	詳細

ベースメトリック	基本指標の説明 (UI)	サブメトリック	ヒント	詳細
		<p>ShellStart (Windows ユーザープロファイルをロードしてからシェルを実行するのにかかった時間)。</p>	<p>高速起動を有効にします。高速起動機能により、シャットダウン後のコンピュータの起動時間を短縮できます。</p>	
		AppxAssociations	<p>Windows 10 で高速起動を有効にするには、次の手順を実行します。コントロールパネルをアイコン表示で開き、【電源オプション】を選択します。サイドバーの電源ボタンの機能を選択します。使用可能なオプションのリストから、「高速起動を有効にする」チェックボックスを選択します。</p>	

ベースメトリック	基本指標の説明 (UI)	サブメトリック	ヒント	詳細
		AppXLoad パッケージ (ログオン中に AppX パッケージがロードされる) 単一 AppXLoad パッケージ	<p>Windows の外観とパフォーマンスを調整します。</p> <p>Windows の外観とパフォーマンスを調整して、PC のログインプロセスを高速化できます。これを行うには、[マイコンピュータ] を右クリックして [プロパティ] を選択します。[システムの詳細設定] をクリックし、[パフォーマンス] の [設定] ボタンをクリックします。ここで Windows の外観とパフォーマンスを調整できます。</p>	

WEM ログオン期間機能/ツールを WEM エージェントに統合し、ログオン期間を分析するには、次の手順を実行します:

- エージェントマシンから WEM Tool Hub を実行して、ログオン期間を確認します。
- エージェントマシンにログインします。WEM エージェントはログオン時間を分析し、レポートを自動的に生成します。
- WEM ツールハブを更新して最新のレポートを確認してください。
- 現在のログオンセッションのログオン時間レポートの詳細を確認します。先に進むには、まずレポート履歴を確認する必要があります。

ファイルタイプ関連付けアシスタント

このツールを使用して、FTA を設定するために必要な情報を取得し、管理コンソールに割り当て可能なアクションとして追加します。

ファイルタイプ関連付けアシスタントを選択すると、WEM Tool Hub の「ファイルタイプ関連付けアシスタント」ページが表示されます。FTA を設定するには、次の手順を実行します。

- ファイル名拡張子を入力する場合、入力内容から始まる対応するファイル名拡張子オプションから選択できません。
- 入力されたエクステンションに **ProgID** が関連付けられているかどうか、また **ProgID** がレジストリに関連付けられているアクションがあるかどうかを確認します。
- [**Browse**] をクリックすると、入力した **ProgID** が登録されているすべてのアプリケーションが一覧表示されます。
- 関連付けたいアプリケーションを構成します。
- 「カスタマイズ」アクションを選択して、「開く」、「編集」、および「印刷」アクションを実行することもできます。
- [コピー] ボタンをクリックすると、設定した FTA データをコピーできます。

詳細については、「[ファイルタイプの関連付け](#)」を参照してください。

プリンタアシスタント

このツールを使用して印刷サーバーからプリンターのリストを取得し、管理コンソールに割り当て可能なアクションとして追加できるようにします。

ネットワークプリントサーバーからプリンターを追加する場合、そのプリンターを追加するにはプリンター情報が必要です。プリンタ情報を取得するには、次の手順を実行します。

1. プリントサーバーのフルネームを入力します。
2. 特定の認証情報を使用してプリントサーバーに接続するかどうかを指定します。
3. [接続] をクリックすると、プリンタリストが表示されます。
4. リストから 1 つまたは複数のプリンタを選択し、プリンタ情報をコピーします。

Web コンソールで、[プリンタ情報を貼り付け] をクリックしてコピーした情報を貼り付けます。[プリントサーバーからのプリンターの追加を参照してください](#)。

アプリアクセス制御用のルールジェネレーター

このツールを使用して、ファイル、フォルダー、レジストリなどのアイテムへのユーザーアクセスを制御するルールを作成します。ルールは CitrixProfile Management を通じて実装されます。一般的な使用例は、マシンにインストールされたアプリへのユーザーアクセスを制御するルールを適用することです。つまり、アプリを関連ユーザーに見えないようにするかどうかです。

次の操作を実行できます：

- アプリルールを作成
- アプリルールをファイルからインポートする
- ルール用の未加工データを生成

- アプリルールを編集
- アプリルールを削除する

アプリルールを作成するには、次の手順を実行します。

1. アクションバーの [ルールを作成] をクリックします。
2. ターゲットオブジェクトページで、次の設定を行います。
 - アプリルール名。ルールを識別しやすい名前を指定してください。
 - ターゲットオブジェクト。ターゲットオブジェクトを追加します。ターゲットオブジェクトには、非表示にするアプリに関連するファイル、フォルダー、およびレジストリを指定できます。[スキャン] をクリックすると、現在のマシンにインストールされているアプリと各アプリに関連するオブジェクトのリストが表示されます。

注:

- 1 - スキャン後、ツールがフォルダーのパスを取得できない場合があります。パスフィールドには次の警告が表示されます: `No path found`。この問題は、たとえば、アプリのインストールフォルダーがユーザーのプロファイルフォルダーにある場合に発生します。その場合は、インストールフォルダを探し、パスを手動で入力する必要があります。

- 特定の Citrix および Windows サービスが依存するアイテムにはパスを追加できません。そうしないと、それらのサービスが正常に動作しなくなる可能性があります。これらのパスの一覧については、「追加できないパス」を参照してください。

3. 「割り当て」ページで、ルールを割り当てるユーザー、コンピューター (組織単位)、プロセスを追加します。AAD ユーザーまたはグループ、および NDJ マシンを取得する方法の詳細については、「AAD/NDJ オブジェクトセレクター」を参照してください。

注:

- このルールを特定のユーザー、コンピューター、およびプロセスに割り当てると、ユーザーが関連するコンピューターでプロセスを実行しても、ターゲットオブジェクトは表示されません。
- 割り当てが指定されていない場合、このルールは常にターゲットオブジェクトを非表示にします。
- アサインメントには、ユーザー、コンピューター、プロセスの3つのカテゴリがあります。「OR」演算子はカテゴリ内の項目間で使用され、「AND」演算子はカテゴリ間で使用されます。
- ドメインに参加していない、または Azure Active Directory に参加しているマシンでツールを実行する場合、ユーザーやコンピューターを追加することはできません。
- 一括プロセスを追加できます。プロセス名 (.exe 拡張子を含む) を改行で区切って入力します。

4. 終了したら、[完了] をクリックします。

ルールの未加工データを生成するには、次の手順を実行します:

1. 目的のルールを選択するか、[すべて選択]をクリックしてすべてのルールを選択します。
2. アクションバーの「ローデータを生成」をクリックします。次に、選択したルールの未加工データが生成されます。
3. [ローデータを生成] ウィンドウで、ローデータを後で復元できるようにファイルに保存するか、ローデータをクリップボードにコピーします。

注:

- ルールをどのように展開したいかに応じて、WEM 管理コンソールでルールを追加したり、Profile Management ポリシーの「アプリアクセス制御」を設定したりするときに、未加工データを使用します。
- 未加工データをファイルに保存したら、ファイルからルールを復元できます。そのためには、アクションバーの「インポート」を使用してください。

4. 終了したら、[完了]をクリックします。

パスの追加は許可されていません

特定の Citrix および Windows サービスが依存するアイテムには、次のパスとその親パスを追加できません。

Profile Management 関連レジストリ:

- HKEY_LOCAL_MACHINE\SOFTWARE\Policies\Citrix\UserProfileManager
- HKLM:\SOFTWARE\Policies\Citrix\UserProfileManager
- HKEY_LOCAL_MACHINE\SOFTWARE\Citrix\UserProfileManager
- HKLM:\SOFTWARE\Citrix\UserProfileManager

WEM 関連レジストリ:

- HKEY_LOCAL_MACHINE\SOFTWARE\Policies\Norskale
- HKEY_LOCAL_MACHINE\SOFTWARE\Citrix\WEM
- HKEY_LOCAL_MACHINE\SYSTEM\CurrentControlSet\Control\Norskale
- HKLM:\SOFTWARE\Policies\Norskale
- HKLM:\SOFTWARE\Citrix\WEM
- HKLM:\SYSTEM\CurrentControlSet\Control\Norskale

Virtual Delivery Agent (VDA) 関連レジストリ:

- HKEY_LOCAL_MACHINE\SOFTWARE\Citrix\VirtualDesktopAgent
- HKLM:\SOFTWARE\Citrix\VirtualDesktopAgent
- HKEY_LOCAL_MACHINE\SOFTWARE\Microsoft\Windows\CurrentVersion\Uninstall\Citrix Virtual Desktop Agent
- HKLM:\SOFTWARE\Microsoft\Windows\CurrentVersion\Uninstall\Citrix Virtual Desktop Agent

Windows 関連のレジストリ:

- HKCU:
- HKEY_CURRENT_USER
- HKU:
- HKEY_USERS

Windows および Citrix のサービス関連フォルダー:

- c:\windows\system32
- \Citrix\User Profile Manager\
- \Citrix\Workspace Environment Management Agent\
- \Citrix\XenDesktopVdaSetup\
- \\%windir%\%system32

AAD ユーザー/グループと **NDJ** マシンへのアプリアクセスルールの割り当て

アプリアクセスルールを AAD ユーザーまたはグループ、および NDJ マシンに割り当てるには、次の手順を実行します。

1. Web コンソールから **AAD/NDJ** オブジェクトセレクターをクリックします。[管理] > [Web コンソール] に移動します。
2. [構成セット] > [サイト名] > [プロファイル] > [Profile Management 設定] > [アプリケーションアクセス制御] を選択します。
3. [アプリのアクセス制御を有効にする] チェックボックスを選択し、[ルールを追加] をクリックします。
4. ルールページで、**AAD/NDJ** オブジェクトセレクターをクリックして、目的の AAD ユーザーと NDJ マシンを追加します。詳細については、「[アプリのアクセス制御](#)」を参照してください。
5. ユーザーデータまたはマシンデータをコピーします。
6. **WEM Tool Hub** > アプリアクセス制御のルールジェネレーターに移動して、アプリルールを作成します。
7. 課題ページに移動し、データを貼り付けます。
8. 「完了」をクリックして、アプリのアクセス制御ルールを作成します。
9. アプリのアクセス制御ルールをコピーします。
10. Web コンソール > 設定 > **Profile Management** 設定 > アプリアクセス制御に移動し、そこにデータを貼り付けます。

Windows 11 の [スタート] メニューのレイアウトをカスタマイズする

このツールを使用して Windows 11 の [スタート] メニューのレイアウトを構成し、管理コンソールのアクションとして割り当てることができる JSON 形式の構成を生成します。

Windows 11 の [スタート] メニューのレイアウトをカスタマイズするには、次の手順を実行します。

1. WEM ツールハブの [スタート] メニューコンフィギュレーター (**Windows 11** 用) をクリックします。スタートメニューの固定セクションに追加したいアプリケーションを選択し、必要に応じてレイアウトを調整します。
2. [構成を生成] をクリックし、結果をコピーします。
3. Web コンソールで、「新しい **JSON** オブジェクトの追加」をクリックし、「**Windows 11** のスタートメニュー設定」を選択します。「**JSON** オブジェクトの追加」ページに設定を貼り付け、「完了」をクリックします。
4. [割り当ての管理] ページで必要な割り当てターゲットを選択し、[** 保存] をクリックして、JSON ファイル設定をユーザーに割り当てます **。

アプリケーションの追加

WEM Tool Hub を使用してアプリケーションを追加するには、次の手順を実行します。

1. **Windows 11** の [スタート] メニューコンフィギュレーターページで [アプリケーションの追加] をクリックします。
2. [アプリケーションの追加] ページから、[スタート] メニューに追加する必要なアプリケーションを選択し、[追加] をクリックします。
3. 必要に応じて [固定レイアウト] セクションの下にアプリケーションをドラッグして、アプリケーションの順序を変更できます。
4. 「構成を生成」をクリックし、構成が生成されたら、「コピー」をクリックします。設定の生成中に、選択したレイアウトが [スタート] メニューに適用されます。

ユーザーストア作成ツール

このツールを使用すると、現在のマシン、ツールを実行しているマシン、または別のマシンに Citrix Profile Management を使用してユーザーストアを作成できます。フォルダーパスを指定し、ユーザーストアの名前を共有できます。ユーザーストアが作成されると、ユーザーストアへのパスの推奨構成が提供され、**Profile Management** 設定で直接使用できるようになります。

現在のマシンにユーザーストアを作成する

現在のマシンにユーザーストアを作成するには、次の手順を実行します。

1. ユーザーストアの場所として設定するフォルダーパスを指定します。フォルダが作成され、指定したユーザーおよびグループと共有されます。
2. [停止して知らせる] を選択するか、フォルダが既に存在する場合は [既存のフォルダを使用する] を選択します。

3. オプションで、ファイル共有の名前を指定します。デフォルトでは、フォルダの名前が共有名として使用されます。
4. [停止して知らせる] を選択するか、同じ名前の共有が既に存在する場合は [既存のアイテムの共有を停止して名前を取る] を選択します。
5. [追加] をクリックして、このユーザーストアを使用するユーザーとグループを選択します。これにより、ネイティブの AD セレクターが開き、ユーザーとグループを選択できます。
6. 指定された場所から [ユーザー] または [グループ] オブジェクトタイプを選択します。
7. ネイティブ AD セレクターの「選択するオブジェクト名を入力してください」フィールドにオブジェクト名を追加し、「OK」をクリックします。
8. [ユーザーストアを作成] をクリックします。

別のマシンにユーザーストアを作成する

別のマシンにユーザーストアを作成するには、次の手順を実行します。

1. マシン名を指定し、指定されたマシンのローカル管理者権限を持つドメインユーザーの認証情報を入力します。マシンで PowerShell リモート処理が有効になっていることを確認します。
2. ユーザーストアの場所として設定するフォルダパスを指定します。フォルダが作成され、指定したユーザーおよびグループと共有されます。
3. [停止して知らせる] を選択するか、フォルダが既に存在する場合は [既存のフォルダを使用する] を選択します。
4. オプションで、ファイル共有の名前を指定します。デフォルトでは、フォルダの名前が共有名として使用されます。
5. [停止して知らせる] を選択するか、同じ名前の共有が既に存在する場合は [既存のアイテムの共有を停止して名前を取る] を選択します。
6. [追加] をクリックして、このユーザーストアを使用するユーザーとグループを選択します。これにより、ネイティブの AD セレクターが開き、ユーザーとグループを選択できます。
7. 指定された場所から [ユーザー] または [グループ] オブジェクトタイプを選択します。
8. ネイティブ AD セレクターの「選択するオブジェクト名を入力してください」フィールドにオブジェクト名を追加し、「OK」をクリックします。
9. [ユーザーストアを作成] をクリックします。

エラー

次のエラーメッセージが関連セクションに表示されます。

- ユーザー認証情報が正しくありません
- ユーザー権限が不十分
- フォルダは既に存在します
- 使用中の共有名

表示されているもの以外のエラーメッセージを受け取った場合は、ページの下部に「エラーが発生しました」というタイトルのエラー詳細が表示されます。以下の詳細をご覧ください。

別のユーザーストアを作成するには、「別のユーザーストアを作成する」をクリックします。これを選択すると、すべての入力クリアされてリセットされた最初のページにリダイレクトされます。

すばやくアクセスできるようにローカルアプリケーションを追加

この機能により、ローカルアプリケーションを WEM Tool Hub に追加してすばやくアクセスできます。追加されたアプリケーションは、個人データの一部とみなされます。Profile Management 環境の使用中にマシンを切り替えてもデータは保持されます。

アプリケーションを追加するには、WEM Tool Hub の右上隅にあるプラス記号をクリックし、アプリケーションに移動します。複数のアプリケーションを一度に追加できます。

追加されたアプリケーションは WEM Tool Hub にタイルとして表示されます。タイルをクリックすると、アプリケーションをすばやく起動できます。

注:

追加したアプリケーションを削除するには、ゴミ箱アイコンをクリックします。

XML プリンターリストの構成

January 11, 2024

Workspace Environment Management には、XML プリンターリストファイルを通じてユーザープリンタを構成する機能が含まれています。

XML プリンターリストファイルを作成したら、[\[アクションタイプ\] オプションを \[デバイスマッピングプリンタファイルを使用**\]](#) に設定して、管理コンソールでプリンタアクションを作成します **。

注:

特定の Windows 資格情報を必要としないプリンタのみがサポートされます。

XML プリンタリストファイル構造

XML ファイルは UTF-8 でエンコードされ、次の基本的な XML 構造を持ちます。

```

1 <?xml version="1.0" encoding="UTF-8"?>
2
3 <
4     ArrayOfSerializableKeyValuePairOfStringListOfVUEMUserAssignedPrinter
5     xmlns:xsd="http://www.w3.org/2001/XMLSchema" xmlns:xsi="http://
6     www.w3.org/2001/XMLSchema-instance">
7     ...
8 </
9     ArrayOfSerializableKeyValuePairOfStringListOfVUEMUserAssignedPrinter
10 >
11 <!--NeedCopy-->

```

すべてのクライアントおよび関連付けられたデバイスは、次のタイプのオブジェクトによって表されます。

```
1 SerializableKeyValuePair<string, List<VUEMUserAssignedPrinter>>>
```

各デバイスは次のように表されます。

```

1 <SerializableKeyValuePairOfStringListOfVUEMUserAssignedPrinter>
2 <Key>DEVICE1</Key>
3 <Value>
4 <VUEMUserAssignedPrinter>
5 ...
6 </VUEMUserAssignedPrinter>
7 </Value>
8 </SerializableKeyValuePairOfStringListOfVUEMUserAssignedPrinter>
9
10 <!--NeedCopy-->

```

注:

エージェントがシングルセッションまたはマルチセッション OS にインストールされている場合:

- クライアントとは、エージェントホストに接続しているクライアントデバイスを指します。
- コンピュータとクライアントリモートはエージェントホストを指します。

デバイスの各ブロックは、特定のクライアント名またはコンピュータ名に一致する必要があります。**** <Key>** タグには関連する名前が含まれています。**** <Value>** タグには、指定したクライアントに割り当てられたプリンタと一致する **vueMuserAssignedPrinter** オブジェクトのリストが含まれます。

```

1 <?xml version="1.0" encoding="utf-8"?>
2
3 <
4     ArrayOfSerializableKeyValuePairOfStringListOfVUEMUserAssignedPrinter
5     xmlns:xsi="http://www.w3.org/2001/XMLSchema-instance" xmlns:
6     xsd="http://www.w3.org/2001/XMLSchema">
7     <SerializableKeyValuePairOfStringListOfVUEMUserAssignedPrinter>

```

```

5         <Key>DEVICE1</Key>
6         <Value>
7             <VUEMUserAssignedPrinter>
8                 ...
9             </VUEMUserAssignedPrinter>
10        </Value>
11    </SerializableKeyValuePairOfStringListOfVUEMUserAssignedPrinter
12    >
13    </
        ArrayOfSerializableKeyValuePairOfStringListOfVUEMUserAssignedPrinter
        >
13 <!--NeedCopy-->

```

注:

WEM エージェントが XML プリンタリストファイルにアクセスできるようにするには、XML プリンタリストファイルをローカルマシンまたは共有ネットワークリソースに保存する必要があります。

VUEMUserAssignedPrinter タグ構文

構成された各プリンタは、<VUEMUserAssignedPrinter> 次の属性を使用して、** タグで定義する必要があります。

****<IdPrinter>**。これは、構成されたプリンタの **Workspace Environment Management** プリンタ ID です。プリンタごとに異なる ID が必要です。注:** Workspace Environment Management 管理コンソールで構成された XML プリンタリストアクションは、独自の ID を持つプリンタアクションでもあり、XML リストで個別に設定されたプリンタの ID とは異なる必要があります。

****<IdSite>**。関連する Workspace Environment Management サイトのサイト ID が含まれます。このサイトは、既存のサイトの ID と一致する必要があります。

****<State>**。1 がアクティブで、0 が無効になっているプリンタの状態を指定します。

****<ActionType>**。常に 0 である必要があります。

****<UseExtCredentials>**。0 である必要があります。特定の Windows 資格情報の使用は現在サポートされていません。

****<isDefault>**。1 の場合、プリンタはデフォルトの Windows プリンタです。0 の場合、デフォルトとして設定されません。

****<IdFilterRule>**。常に 1 でなければなりません。

****<RevisionId>**。常に 1 でなければなりません。プリンタのプロパティがさらに変更された場合は、この値を 1 ずつ増やしてエージェントホストに通知し、プリンタアクションが再処理されるようにします。

****<Name>**。これは、**Workspace Environment Management** エージェントホストによって認識されるプリンタ名です。** このフィールドを空白のままにすることはできません。

**<Description>。これは、Workspace Environment Management エージェントホストによって認識されるプリンタの説明です。このフィールドは空白にできます。

**<DisplayName>。これは未使用なので、空白のままにしておく必要があります。

**<TargetPath>。このパスはプリンタへの UNC パスです。

**<ExtLogin>。接続用の Windows 資格情報を指定するときに使用される Windows アカウントの名前が含まれます。[現在サポートされていません。このフィールドは空白のままにしておきます]。

**<ExtPassword>。接続用の Windows 資格情報を指定するときに使用される Windows アカウントのパスワードが含まれます。[現在サポートされていません。このフィールドは空白のままにしておきます]。

<Reserved01>。これには、詳細設定が含まれます。いかなる形でも変更しないでください。

```
1 &gt;&lt;VUEMActionAdvancedOption&gt;&lt;Name&gt;SelfHealingEnabled&lt;/Name&gt;&lt;Value&gt;0&lt;/Value&gt;&lt;/VUEMActionAdvancedOption
2 <!--NeedCopy-->
```

特定のプリンタオブジェクトに対して自己修復を有効にするには、上記の内容をコピーして貼り付け、ハイライト **0** の値を **1** に変更します。

プリンタオブジェクトの例

次の例では、クライアントまたはコンピュータ **DEVICE1** に 2 つのアクティブなプリンタを割り当てます。

- **UNC** パス上の **HP LaserJet 2200** シリーズ \\ server.example.net\ HP LaserJet 2200 シリーズ (デフォルトプリンタ)
- **Canon C5531i** シリーズプリンタ UNC パス \\ server.example.net\ Canon C5531i シリーズ **

また、クライアントまたはコンピュータ **DEVICE2** 上のアクティブなプリンタを 1 つ割り当てます。

- **HP LaserJet 2200** シリーズ UNC パス \\ server.example.net\ HP LaserJet 2200 シリーズ

```
1 <?xml version="1.0" encoding="utf-8"?>
2 <
   ArrayOfSerializableKeyValuePairOfStringListOfVUEMUserAssignedPrinter
   xmlns:xsi="http://www.w3.org/2001/XMLSchema-instance" xmlns:
   xsd="http://www.w3.org/2001/XMLSchema">
3 <SerializableKeyValuePairOfStringListOfVUEMUserAssignedPrinter>
4   <Key>DEVICE1</Key>
5   <Value>
6     <VUEMUserAssignedPrinter>
7       <IdPrinter>1</IdPrinter>
8       <IdSite>1</IdSite>
9       <State>1</State>
10      <ActionType>0</ActionType>
11      <UseExtCredentials>0</UseExtCredentials>
12      <isDefault>1</isDefault>
13      <IdFilterRule>1</IdFilterRule>
```

```
14         <RevisionId>1</RevisionId>
15         <Name>HP LaserJet 2200 Series</Name>
16         <Description />
17         <DisplayName />
18         <TargetPath>\server.example.net\HP LaserJet 2200
19             Series</TargetPath>
20         <ExtLogin />
21         <ExtPassword />
22         <Reserved01>&lt;?xml version="1.0" encoding="utf-8"
23             ?&gt;&lt;ArrayOfVUEMActionAdvancedOption xmlns:
24             xsi="http://www.w3.org/2001/XMLSchema-instance"
25             xmlns:xsd="http://www.w3.org/2001/XMLSchema"&gt;
26             &lt;VUEMActionAdvancedOption&gt;&lt;Name&gt;
27             SelfHealingEnabled&lt;/Name&gt;&lt;Value&gt;0&lt;
28             /Value&gt;&lt;/VUEMActionAdvancedOption&gt;&lt;
29             /ArrayOfVUEMActionAdvancedOption&gt;</
30             Reserved01>
31     </VUEMUserAssignedPrinter>
32 </Value>
33 <Value>
34     <VUEMUserAssignedPrinter>
35         <IdPrinter>2</IdPrinter>
36         <IdSite>1</IdSite>
37         <State>1</State>
38         <ActionType>0</ActionType>
39         <UseExtCredentials>0</UseExtCredentials>
40         <isDefault>0</isDefault>
41         <IdFilterRule>1</IdFilterRule>
42         <RevisionId>1</RevisionId>
43         <Name>Canon C5531i Series</Name>
44         <Description />
45         <DisplayName />
46         <TargetPath>\server.example.net\Canon C5531i Series
47             </TargetPath>
48         <ExtLogin />
49         <ExtPassword />
50         <Reserved01>&lt;?xml version="1.0" encoding="utf-8"
51             ?&gt;&lt;ArrayOfVUEMActionAdvancedOption xmlns:
52             xsi="http://www.w3.org/2001/XMLSchema-instance"
53             xmlns:xsd="http://www.w3.org/2001/XMLSchema"&gt;
54             &lt;VUEMActionAdvancedOption&gt;&lt;Name&gt;
55             SelfHealingEnabled&lt;/Name&gt;&lt;Value&gt;0&lt;
56             /Value&gt;&lt;/VUEMActionAdvancedOption&gt;&lt;
57             /ArrayOfVUEMActionAdvancedOption&gt;</
58             Reserved01>
59     </VUEMUserAssignedPrinter>
60 </Value></
61     SerializableKeyValuePairOfStringListOfVUEMUserAssignedPrinter
62     >
63 <
64     SerializableKeyValuePairOfStringListOfVUEMUserAssignedPrinter
65     >
66 <Key>DEVICE2</Key>
```



```
45         <Value>
46             <VUEMUserAssignedPrinter>
47                 <IdPrinter>1</IdPrinter>
48                 <IdSite>1</IdSite>
49                 <State>1</State>
50                 <ActionType>0</ActionType>
51                 <UseExtCredentials>0</UseExtCredentials>
52                 <isDefault>0</isDefault>
53                 <IdFilterRule>1</IdFilterRule>
54                 <RevisionId>1</RevisionId>
55                 <Name>HP LaserJet 2200 Series</Name>
56                 <Description />
57                 <DisplayName />
58                 <TargetPath>\server.example.net\HP LaserJet 2200
59                     Series</TargetPath>
60                 <ExtLogin />
61                 <ExtPassword />
62                 <Reserved01>&lt;?xml version="1.0" encoding="utf-8"
63                     ?&gt;&lt;&lt;ArrayOfVUEMActionAdvancedOption xmlns:
64                         xsi="http://www.w3.org/2001/XMLSchema-instance"
65                         xmlns:xsd="http://www.w3.org/2001/XMLSchema"&gt;
66                             &lt;&lt;VUEMActionAdvancedOption&gt;&lt;&lt;Name&gt;
67                                 SelfHealingEnabled&lt;&/Name&gt;&lt;&lt;Value&gt;0&lt;
68                                 /Value&gt;&lt;&/VUEMActionAdvancedOption&gt;&lt;&lt;
69                                 /ArrayOfVUEMActionAdvancedOption&gt;&lt;&/
70                                 Reserved01>
71             </VUEMUserAssignedPrinter>
72         </Value></
73             SerializableKeyValuePairOfStringListOfVUEMUserAssignedPrinter
74         >
75     </
76         ArrayOfSerializableKeyValuePairOfStringListOfVUEMUserAssignedPrinter
77     >
78 <!--NeedCopy-->
```

用語集

June 20, 2022

この記事には、Workspace Environment Management (WEM) ソフトウェアとドキュメントで使用される用語と定義が含まれています。

[1] オンプレミス期間のみ

[2] Citrix Cloud サービス期間のみ

管理ブローカーポート。「管理ポート」の従来の用語。

管理コンソール。インフラストラクチャサービスに接続するインターフェイス。管理コンソールを使用して、リソースの作成と割り当て、ポリシーの管理、ユーザーの承認を行います。

Citrix Cloud では、Workspace Environment Management サービスの管理コンソールは、Citrix Cloud ベースの Citrix 仮想アプリケーションサーバーでホストされます。管理コンソールを使用して、Web ブラウザを使用してサービスの [管理] タブから **WEM** インストールを管理します。

管理ポート [1]。管理コンソールがインフラストラクチャサービスに接続するポート。ポートはデフォルトで 8284 で、adminPort コマンドライン引数に対応します。

エージェント。Workspace Environment Management エージェントは、エージェントサービスとセッションエージェントの 2 つのコンポーネントで構成されています。これらのコンポーネントはエージェントホストにインストールされます。

エージェントホスト実行可能ファイル。「セッションエージェント」の従来の用語。

エージェントホストマシン。「エージェントホスト」の従来の用語。

エージェントホストサービス。「エージェントサービス」の従来の用語。

エージェントブローカーのポート。「エージェントサービスポート」の従来の用語。

エージェントキャッシュ同期ポート。「キャッシュ同期ポート」の従来の用語。

エージェントホスト。エージェントがインストールされているマシン。

エージェントホスト構成 **GPO**。エージェントのインストール時に ADM または ADMX ファイルとして提供されるグループポリシーオブジェクト (GPO) 管理用テンプレート。管理者はこれらのファイルを Active Directory にインポートし、設定を適切な組織単位に適用します。

エージェントポート [1]。インフラストラクチャ・サービスから命令を受信するエージェントホストのリスニング・ポート。たとえば、管理コンソールからエージェントを強制的に更新するために使用されます。ポートのデフォルトは 49752 です。

エージェントサービス。Transformer のユースケースで VDA または物理 Windows デバイスに展開されるサービス。管理コンソールを使用して構成する設定を適用する役割があります。

エージェントサービスポート [1]。エージェントがインフラストラクチャサーバーに接続するポート。ポートはデフォルトで 8286 で、agentPort コマンドライン引数に対応します。

エージェント同期ブローカーポート。「キャッシュ同期ポート」の従来の用語。

ブローカー。「インフラストラクチャサービス」の従来の用語。

ブローカー口座。「インフラストラクチャサービスアカウント」の従来の用語。

ブローカーサーバー。「インフラストラクチャサーバー」の従来の用語。

ブローカーサービスアカウント。「インフラストラクチャサービスアカウント」の従来の用語。

キャッシュ同期ポート [1]。エージェントキャッシュ同期プロセスがインフラストラクチャサービスに接続して、エージェントキャッシュをインフラストラクチャサーバと同期させるポート。ポートはデフォルトで 8285 で、agentSyncPort コマンドライン引数に対応します。

Citrix ライセンスサーバーのポート [1]。Citrix License Server がリッスンしているポート、およびインフラストラクチャサービスがライセンスを検証するために接続するポート。ポートのデフォルトは 27000 です。

Citrix Cloud Connector [2]。リソースの場所にあるマシンが Citrix Cloud と通信できるようにするソフトウェア。各リソースロケーションの少なくとも 1 台のマシン (クラウドコネクタ) にインストールされます。

構成セット。Workspace Environment Management 構成設定のセット。

接続ブローカー。「インフラストラクチャサーバー」の従来の用語。

データベース。Workspace Environment Management 構成設定を含むデータベース。

Workspace Environment Management オンプレミスバージョンでは、データベースは SQL Server インスタンスに作成されます。Citrix Cloud では、Workspace Environment Management サービスの設定は Microsoft Azure SQL Database サービスに保存されます。

データベースサーバーアカウント [1]。データベース作成ウィザードが SQL インスタンスに接続して Workspace Environment Management データベースを作成するために使用するアカウント。

DSN。データソース名 (DSN) には、データベース名、ディレクトリ、データベースドライバ、ユーザ ID、パスワード、およびその他の情報が含まれます。特定のデータベースの DSN を作成したら、アプリケーションで DSN を使用してデータベースから情報を呼び出すことができます。

インフラストラクチャサーバー [1]。Workspace Environment Management インフラストラクチャサービスがインストールされているコンピューター。

インフラストラクチャサーバー管理ポート。「管理ポート」の従来の用語。

インフラサービス。インフラストラクチャサーバーにインストールされるサービスで、さまざまなバックエンドコンポーネント (SQL Server、Active Directory) をフロントエンドコンポーネント (管理コンソール、エージェントホスト) と同期します。このサービスは以前「ブローカー」と呼ばれていました。

Citrix Cloud では、インフラストラクチャサービスは Citrix Cloud 上でホストされ、Citrix によって管理されます。これらは、さまざまなバックエンドコンポーネント (Azure SQL Database サービス、管理コンソール) をフロントエンドコンポーネント (エージェント、Active Directory) と同期します。

インフラストラクチャサービスアカウント [1]。インフラストラクチャサービスがデータベースに接続するために使用するアカウント。デフォルトでは、このアカウントは vuemUser SQL アカウントですが、データベースの作成時に、インフラストラクチャサービスが使用する他の Windows 認証情報をオプションで指定できます。

インフラストラクチャサービスサーバー。「インフラストラクチャサーバー」の従来の用語。

インフラサービス。インフラストラクチャサービスのインストールプロセスによってインフラストラクチャサーバーにインストールされるサービス。

Citrix Cloud では、インフラストラクチャサービスは Citrix Cloud 上でホストされ、Citrix によって管理されます。これらは、さまざまなバックエンドコンポーネント (Azure SQL Database サービス、管理コンソール) をフロントエンドコンポーネント (エージェント、Active Directory) と同期します。

初期管理者グループ [1]。データベース作成時に選択されるユーザーグループ。このグループのメンバーだけが、管理コンソールのすべての Workspace Environment Management サイトへのフルアクセス権を持ちます。デフォルトでは、このグループはこのアクセス権を持つ唯一のグループです。

統合接続 [1]。SQL アカウントの代わりに現在の Windows アカウントを使用して、データベース作成ウィザードを SQL インスタンスに接続します。

キオスクモード。エージェントがウェブまたはアプリケーションランチャーになり、ユーザーを単一のアプリまたはデスクトップエクスペリエンスにリダイレクトするモード。これにより、管理者はユーザー環境を単一のアプリまたはデスクトップにロックダウンできます。

ブローカーポートを監視しています。「WEM モニタリングポート」の従来用語。

混合モード認証 [1]。SQL Server では、Windows 認証と SQL Server 認証の両方を有効にする認証モードです。これは、インフラストラクチャサービスがデータベースに接続するデフォルトのメカニズムです。

ライセンスサーバーポート。「Citrix ライセンスサーバーポート」の従来用語。

ネットワークドライブ。LAN、サーバ、または NAS デバイス上の物理ストレージデバイス。

リソースの場所 [2]。加入者にサービスを提供するために必要なリソースを含む場所 (パブリッククラウド、プライベートクラウド、ブランチオフィス、データセンターなど)。

SaaS [2]。Software as a Service は、サードパーティプロバイダーがアプリケーションをホストし、インターネット経由で顧客が使用できるようにするソフトウェア配布モデルです。

セルフサービスウィンドウ。エンドユーザーが Workspace Environment Management で構成された機能 (アイコン、デフォルトプリンターなど) を選択できるインターフェイス。このインターフェイスは、セッションエージェントによって「UI モード」で提供されます。

サービスプリンシパル名 (**SPN**)。サービスインスタンスの一意の識別子。SPN は、サービスインスタンスをサービスログオンアカウントに関連付けるために Kerberos 認証で使用されます。

セッションエージェント。ユーザーセッションのアプリショートカットを設定するエージェント。エージェントは「UI モード」と「コマンドライン」モードで動作します。UI モードは、ステータスバーアイコンからアクセスできるセルフサービスインターフェイスを提供し、エンドユーザーはそこから特定の機能 (たとえば、アイコン、デフォルトプリンター) を選択できます。

サイト。「構成セット」の従来用語。

SQL ユーザーアカウント [1]。インストール時に作成された「vuemUser」という名前の SQL ユーザーアカウント。これは、インフラストラクチャサービスがデータベースに接続するために使用する既定のアカウントです。

トランスフォーマー。Workspace Environment Management エージェントが制限付きキオスクモードで接続する機能。

仮想ドライブ。**subst** コマンドまたは **definedosDevice** 関数を使用して作成された **Windows** 仮想ドライブ (**MS-DOS** デバイス名とも呼ばれます)。仮想ドライブは、ローカルファイルパスをドライブ文字にマップします。

仮想 IP アドレス (**VIP**) 実際の物理ネットワークインターフェイス (ポート) に対応しない IP アドレス。

VUEM。仮想ユーザー環境管理。これは、製品の一部の場所に登場するレガシー Norskale 用語です。

vuemUser [1]。Workspace Environment Management データベースの作成中に作成された SQL アカウント。これは、Workspace Environment Management インフラストラクチャサービスがデータベースに接続するために使用する既定のアカウントです。

WEM ブローカー。「インフラストラクチャサービス」の従来用語。

WEM 監視ポート [1]。監視サービスによって使用されるインフラストラクチャサーバーのリスニングポート。ポートのデフォルトは 8287 です。(まだ実装されていません。)

WEM UI エージェント実行可能ファイル。「セッションエージェント」の従来用語。

Windows アカウントのなりすまし。サービスが Windows アカウントの ID で実行される時。

Windows AppLocker。ファイルの一意の ID に基づいて、組織内の特定のアプリケーションを実行できるユーザーまたはグループを指定できる Windows の機能。AppLocker を使用する場合は、アプリケーションの実行を許可または拒否するルールを作成できます。

Windows 認証。SQL Server では、特定の Windows ユーザーアカウントとグループアカウントが SQL Server へのログインを信頼する既定の認証モードです。SQL Server の認証の代替モードは、混合モード認証です。

Windows セキュリティ。「Windows 認証」の従来用語。

Workspace Environment Management (WEM) サービス [2]。WEM 管理コンポーネントを SaaS サービスとして配信する Citrix Cloud サービス。



© 2024 Cloud Software Group, Inc. All rights reserved. Cloud Software Group, the Cloud Software Group logo, and other marks appearing herein are property of Cloud Software Group, Inc. and/or one or more of its subsidiaries, and may be registered with the U.S. Patent and Trademark Office and in other countries. All other marks are the property of their respective owner(s).